

基本計画書

基		本		計		画			
事項	項目	記入欄						備考	
計画の区分		学部の学科の設置							
フリガナ		コクリツダガクホクジン キョウシュウガクホク							
設置者		国立大学法人 九州大学							
フリガナ		キョウシュウガクホク							
大学の名称		九州大学 (Kyushu University)							
大学本部の位置		福岡市西区元岡744							
大学の目的		九州大学は、教育基本法（平成18年法律第120号）の精神に則り、学術の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。							
新設学部等の目的		<p>1. 養成する人材像</p> <p>工学や技術に関する科学的な知識、人間や社会に対する深い洞察そして創造的な芸術的センスを兼ね備えた設計家あるいはデザイナーを養成することを目的としている。</p> <p>前身の九州芸術工科大学(1968～2003)では、「技術の人間化」という進歩的なスローガンをかけ、いかに技術を人間生活に適合させるかを教育してきた。そして今日、IT技術の進歩とそれがもたらす新しい文化の形成、生産や流通の革新、生活様式の多様化、地球規模での環境問題など、設計やデザインを取り巻く状況は日々発展し続けている。デザインの対象は「モノ」だけでなく、ことがらや社会の仕組みにも及んでいる。</p> <p>芸術工学部芸術工学科は、こうした21世紀の状況に的確に対応できる豊かな教養を持ち、国際的にも通用する広い視野と学識を持つ、創造性あふれる人材を育成する。</p> <p>2. 教育研究上の目的</p> <p>大学院に重点をおいた組織編成にともない、学部教育は、「芸術工学」の基本・基礎を十分に修得させ、社会的人材需要に応え、さらに大学院への進学の可能性を開くものとして重要である。幅広く深い教養と総合的な判断力を備えた創造性豊かな人材育成という社会的要請に応えるために、芸術工学の特性を踏まえた全学教育と専攻教育との有機的連携による学部教育を行う。その際、芸術工学の特性である総合性を学部学生の学習過程のなかで、具体的に身に付けさせることを目標とする。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	芸術工学部 (School of Design) 芸術工学科 (Department of Design) 計	年	人	年次人	人	学士 (芸術工学) (Bachelor of Design)	令和2年 4月 第1年次		
		4	187	-	748			福岡市南区塩原4-9-1	
			187	-	748				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		芸術工学部 環境設計学科（廃止） (△35) 工業設計学科（廃止） (△45) 画像設計学科（廃止） (△35) 音響設計学科（廃止） (△35) 芸術情報設計学科（廃止） (△37) ※令和2年4月学生募集停止							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	芸術工学部芸術工学科	425 科目	151 科目	29 科目	605 科目	128 単位			

教	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
新設分			人	人	人	人	人	人	人	
		芸術工学部芸術工学科		14 (20)	36 (37)	2 (2)	20 (20)	72 (79)	0 (0)	268 (268)
	計		14 (20)	36 (37)	2 (2)	20 (20)	72 (79)	0 (0)	- (-)	
員	既	共創学部 共創学科		19 (19)	23 (23)	4 (4)	3 (3)	49 (49)	0 (0)	29 (29)
		文学部 人文学科		26 (26)	21 (21)	7 (7)	0 (0)	54 (54)	0 (0)	92 (92)
		教育学部		12 (12)	13 (13)	1 (1)	2 (2)	28 (28)	0 (0)	64 (64)
		法学部		23 (23)	16 (16)	1 (1)	3 (3)	43 (43)	0 (0)	18 (18)
		経済学部 経済・経営学科		12 (12)	9 (9)	2 (2)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	9 (9)
		経済工学科		9 (9)	7 (7)	1 (1)	3 (3)	20 (20)	0 (0)	6 (6)
		理学部 物理学科		20 (20)	16 (16)	1 (1)	12 (12)	49 (49)	0 (0)	4 (4)
		化学科		14 (14)	16 (16)	3 (3)	11 (11)	44 (44)	0 (0)	5 (5)
		地球惑星科学科		12 (12)	19 (19)	0 (0)	7 (7)	38 (38)	0 (0)	3 (3)
		数学科		29 (29)	22 (22)	0 (0)	15 (15)	66 (66)	0 (0)	30 (30)
		生物学科		11 (11)	8 (8)	2 (2)	14 (14)	35 (35)	0 (0)	3 (3)
		医学部 医学科		41 (41)	42 (42)	56 (56)	238 (238)	377 (377)	0 (0)	177 (177)
		生命科学科		5 (5)	2 (2)	2 (2)	4 (4)	13 (13)	0 (0)	6 (6)
		保健学科		16 (16)	7 (7)	11 (11)	16 (16)	50 (50)	0 (0)	85 (85)
		歯学部 歯学科		19 (19)	15 (15)	14 (14)	50 (50)	98 (98)	0 (0)	107 (107)
		薬学部 創薬科学科		6 (6)	2 (2)	1 (1)	5 (5)	14 (14)	0 (0)	5 (5)
		臨床薬学科		10 (10)	10 (10)	1 (1)	6 (6)	27 (27)	0 (0)	29 (29)
		工学部 建築学科		7 (7)	10 (10)	0 (0)	6 (6)	23 (23)	0 (0)	19 (19)
		電気情報工学科		32 (32)	27 (27)	0 (0)	27 (27)	86 (86)	0 (0)	21 (21)
		物質科学工学科		31 (31)	29 (29)	0 (0)	26 (26)	86 (86)	0 (0)	25 (25)
		地球環境工学科		26 (26)	24 (24)	0 (0)	14 (14)	64 (64)	0 (0)	23 (23)
		エネルギー科学科		19 (19)	18 (18)	0 (0)	19 (19)	56 (56)	0 (0)	19 (19)
		機械航空工学科		37 (37)	29 (29)	0 (0)	24 (24)	90 (90)	0 (0)	29 (29)
の	概									

要	分	農学部 生物資源環境学科	51 (51)	59 (59)	1 (1)	48 (48)	159 (159)	0 (0)	0 (0)		
		計	487 (487)	444 (444)	108 (108)	553 (553)	1,592 (1,592)	0 (0)	- (-)		
		合計	501 (507)	480 (481)	110 (110)	573 (573)	1,664 (1,671)	0 (0)	- (-)		
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計			大学全体	
	事 務 職 員		1,051 (1,051)		0 (0)		1,051 (1,051)				
	技 術 職 員		1,984 (1,984)		0 (0)		1,984 (1,984)				
	図 書 館 専 門 職 員		67 (67)		0 (0)		67 (67)				
	そ の 他 の 職 員		35 (35)		0 (0)		35 (35)				
	計		3,137 (3,137)		0 (0)		3,137 (3,137)				
校地等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計			大学全体	
	校舎敷地	2,226,717㎡	0㎡		0㎡		2,226,717㎡				
	運動場用地	251,169㎡	0㎡		0㎡		251,169㎡				
	小 計	2,477,886㎡	0㎡		0㎡		2,477,886㎡				
	そ の 他	72,886,913㎡	0㎡		0㎡		72,886,913㎡				
	合 計	75,364,799㎡	0㎡		0㎡		75,364,799㎡				
校 舎		専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計			大学全体	
		638,433㎡ (638,433 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)		0㎡ (0 ㎡)		638,433㎡ (638,433 ㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設			大学全体	
	311室	347室	120室		4室 (補助職員 6人)		1室 (補助職員 3人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称 芸術工学部芸術工学科			室 数 83 室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		学部単位での特定不能なため、 大学全体の数	
	芸術工学部 芸術工学科	4,199,828 [1,813,397] (4,199,828 [1,813,397])	83,348 [36,683] (83,348 [36,683])		63,248 [61,736] (63,248 [61,736])	10,507 (10,507)	76 (76)	7,434,882 (7,434,882)			
	計	4,199,828 [1,813,397] (4,199,828 [1,813,397])	83,348 [36,683] (83,348 [36,683])		63,248 [61,736] (63,248 [61,736])	10,507 (10,507)	76 (76)	7,434,882 (7,434,882)			
図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				大学全体	
		46,365㎡		2,956 席		5,510,500 冊					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							大学全体
		11,139㎡		・野球場2面 ・400メートルトラック2面							
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による	
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—		
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—		
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	—		
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—	—		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			—								

既設大学等の状況	大学の名称		九州大学						所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
	【学部】 共創学部 共創学科	年	人	年次 人	人	学士（学術）	1.01 1.01	平成30年度	福岡県福岡市西区 元岡744	
	文学部 人文学科	4	151	-	622	学士（文学） 学士（学術）	1.05 1.05	平成12年度	福岡県福岡市西区 元岡744	平成30年度入学定員減 （△9人）
	教育学部	4	46	-	192	学士（教育学） 学士（学術）	1.07	昭和24年度	福岡県福岡市西区 元岡744	平成30年度入学定員減 （△4人）
	法学部	4	189	-	778	学士（法学） 学士（学術）	1.04	昭和24年度	福岡県福岡市西区 元岡744	平成30年度入学定員減 （△11人）
	経済学部 経済・経営学科	4	141	3年次 10	602	学士（経済学） 学士（学術）	1.04 1.04	平成12年度	福岡県福岡市西区 元岡744	平成30年度入学定員減 （△9人）
	経済工学科	4	85	3年次 10	370		1.05	昭和52年度		（△5人）
	理学部 物理学科	4	55		228	学士（理学） 学士（学術）	1.05 1.04	昭和24年度	福岡県福岡市西区 元岡744	平成30年度入学定員減 （△4人）
	化学科	4	62		258		1.02	昭和24年度		（△5人）
	地球惑星科学科	4	45	3年次	186		1.04	平成2年度		（△3人）
	数学科	4	50	5	218		1.05	昭和24年度		（△4人）
	生物学科	4	46		190		1.10	昭和24年度		（△3人）
	医学部 医学科	6	111	-	666	学士（医学）	1.05 1.00	昭和24年度	福岡県福岡市東区 馬出3丁目1番1号	
	生命科学科	4	12		48	学士（生命医科学）	1.12	平成19年度		
	保健学科	4	134		542	学士（保健学） 学士（学術）	1.03	平成14年度		平成30年度入学定員減 （△3人）
	歯学部 歯学科	6	53	-	318	学士（歯学）	0.99 0.99	昭和42年度	福岡県福岡市東区 馬出3丁目1番1号	
	薬学部 創薬科学科	4	49	-	198	学士（創薬科学）	1.01 1.02	平成18年度	福岡県福岡市東区 馬出3丁目1番1号	平成30年度入学定員減 （△1人）（創薬科学科）
	臨床薬学科	6	30		180	学士（薬学） 学士（学術）	1.01	平成18年度		
	工学部 建築学科	4	58	-	236	学士（工学） 学士（学術）	1.02 1.02	昭和29年度	福岡県福岡市西区 元岡744	平成30年度入学定員減 （△2人）
	電気情報工学科	4	153		622		1.01	平成8年度		（△5人）
	物質科学工学科	4	163		662		1.02	平成9年度		（△5人）
	地球環境工学科	4	145		590		1.04	平成10年度		（△5人）
	エネルギー科学科	4	95		388		1.02	平成10年度		（△4人）
	機械航空工学科	4	164		666		1.03	平成11年度		（△5人）
	芸術工学部 環境設計学科	4	35	-	146	学士（芸術工学） 学士（学術）	1.02 1.03	平成15年度	福岡県福岡市南区 塩原4丁目9番1号	平成30年度入学定員減 （△3人）
	工業設計学科	4	45		186		1.02	平成15年度		（△3人）
	画像設計学科	4	35		146		1.04	平成15年度		（△3人）
	音響設計学科	4	35		146		1.03	平成15年度		（△3人）
	芸術情報設計学科	4	37		154		1.00	平成15年度		（△3人）
	農学部 生物資源環境学科	4	226	-	910	学士（農学） 学士（学術）	1.05 1.05	平成10年度	福岡県福岡市西区 元岡744	平成30年度入学定員減

【大学院】									
人文科学府			-		修士（文学）			福岡県福岡市西区	
人文基礎専攻					博士（文学）		平成12年度	元岡744	
修士課程	2	16		32		0.77			
博士後期課程	3	7		21		0.57			
歴史空間論専攻							平成12年度		
修士課程	2	20		40		0.50			
博士後期課程	3	9		27		0.73			
言語・文学専攻							平成12年度		
修士課程	2	20		40		0.62			
博士後期課程	3	9		27		0.77			
比較社会文化学府			-					福岡県福岡市西区	
日本社会文化専攻							平成12年度	元岡744	平成26年より学生募集停止
修士課程	2	-		-		-			
博士後期課程	3	-		-		-			
国際社会文化専攻							平成12年度		平成26年より学生募集停止
修士課程	2	-		-		-			
博士後期課程	3	-		-		-			
地球社会統合科学府			-					福岡県福岡市西区	
地球社会統合科学専攻					修士（学術）		平成26年度	元岡744	
修士課程	2	60		120	修士（理学）	0.66			
博士後期課程	3	35		105	博士（学術）	0.65			
					博士（理学）				
人間環境学府			-		修士（人間環境学）			福岡県福岡市西区	
都市共生デザイン専攻					修士（文学）		平成12年度	元岡744	
修士課程	2	20		40	修士（教育学）	1.05			
博士後期課程	3	5		15	修士（心理学）	0.46			
人間共生システム専攻					修士（工学）		平成12年度		
修士課程	2	11		22	博士（人間環境学）	0.72			
博士後期課程	3	9		27	博士（文学）	1.07			
行動システム専攻					博士（教育学）		平成12年度		
修士課程	2	17		34	博士（心理学）	1.08			
博士後期課程	3	10		30	博士（工学）	0.93			
教育システム専攻							平成17年度		
修士課程	2	19		38		0.65			
博士後期課程	3	9		27		0.66			
空間システム専攻							平成12年度		
修士課程	2	28		56		1.65			
博士後期課程	3	7		21		0.56			
実践臨床心理学専攻							平成17年度		
専門職学位課程	2	30		60		1.03			
法学府			-		修士（法学）			福岡県福岡市西区	
法政理論専攻					博士（法学）		平成22年度	元岡744	
修士課程	2	72		134		0.44			
博士後期課程	3	17		51		0.33			
法務学府			-		法務博士（専門職）			福岡県福岡市西区	
実務法学専攻							平成16年度	元岡744	
専門職学位課程	3	45		135		0.86			

経済学府			-		修士（経済学） 博士（経済学） 経営修士（専門職）		福岡県福岡市西区 元岡744
経済工学専攻						平成12年度	
修士課程	2	20		40	0.87		
博士後期課程	3	10		30	0.43		
経済システム専攻						平成15年度	
修士課程	2	27		54	0.99		
博士後期課程	3	14		42	0.49		
産業マネジメント専攻						平成15年度	
専門職学位課程	2	45		90	0.97		
理学府			-		修士（理学） 博士（理学）		福岡県福岡市西区 元岡744
物理学専攻						平成20年度	
修士課程	2	41		82	1.00		
博士後期課程	3	14		42	0.54		
化学専攻						平成20年度	
修士課程	2	62		124	1.04		
博士後期課程	3	19		57	0.53		
地球惑星科学専攻						平成12年度	
修士課程	2	41		82	1.01		
博士後期課程	3	14		42	0.71		
数理学府			-		修士（数理学） 修士（技術数理学） 博士（数理学） 博士（機能数理学）		福岡県福岡市西区 元岡744
数理学専攻						平成12年度	
修士課程	2	54		108	0.93		
博士後期課程	3	20		60	0.50		
システム生命科学府			-		修士 （システム生命科学） 修士（理学） 修士（工学） 修士（情報科学） 博士 （システム生命科学） 博士（理学） 博士（工学） 博士（情報科学）		福岡県福岡市西区 元岡744
システム生命科学専攻						平成15年度	
博士課程	5	54		270	1.37		
医学系学府			-		修士（医科学） 修士（看護学） 修士（保健学） 博士（医学） 博士（看護学） 博士（保健学） 医療経営・管理学 修士（専門職）		福岡県福岡市東区 馬出3丁目1番1号
医学専攻						平成20年度	
博士課程	4	107		428	1.21		
医科学専攻						平成15年度	
修士課程	2	20		40	0.77		
保健学専攻						平成19年度	
修士課程	2	27		54	1.16		
博士後期課程	3	10		30	0.86	平成21年度	
臓器機能医学専攻							
博士課程	4	-		-	-		
医療経営・管理学専攻						平成13年度	
専門職学位課程	2	20		40	1.00		
歯学府			-		博士（歯学） 博士（臨床歯学） 博士（学術）		福岡県福岡市東区 馬出3丁目1番1号
歯学専攻						平成12年度	
博士課程	4	43		172	0.83		
薬学府			-		修士（創薬科学） 博士（創薬科学） 博士（臨床薬学）		福岡県福岡市東区 馬出3丁目1番1号
創薬科学専攻							
修士課程	2	55		110	0.90	平成22年度	
博士後期課程	3	12		36	1.69	平成24年度	
臨床薬学専攻							
博士課程	4	5		20	1.15	平成24年度	

平成18年より学生募集停止

工学府			-		修士 (工学)		福岡県福岡市西区	
物質創造工学専攻					博士 (工学)	平成12年度	元岡744	
修士課程	2	38		76				
博士後期課程	3	10		30				
物質プロセス工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	30		60				
博士後期課程	3	9		27				
材料物性工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	33		66				
博士後期課程	3	7		21				
化学システム工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	35		70				
博士後期課程	3	10		30				
建設システム工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	24		48				
博士後期課程	3	8		24				
都市環境システム工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	28		56				
博士後期課程	3	8		24				
海洋システム工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	21		42				
博士後期課程	3	8		24				
地球資源システム工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	20		40				
博士後期課程	3	8		24				
共同資源工学専攻						平成29年度		
修士課程	2	10		20				
エネルギー量子工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	28		56				
博士後期課程	3	10		30				平成29年度入学定員減 (△2人) (博士後期課程)
機械工学専攻						平成22年度		
修士課程	2	62		124				
博士後期課程	3	16		48				平成29年度入学定員減 (△3人) (博士後期課程)
水素エネルギーシステム専攻						平成22年度		
修士課程	2	30		60				
博士後期課程	3	9		27				
航空宇宙工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	30		60				
博士後期課程	3	12		36				
知能機械システム専攻								平成22年より学生募集停止
修士課程	2	-		-				
博士後期課程	3	-		-				
芸術工学府			-		修士 (芸術工学)		福岡県福岡市南区	
芸術工学専攻					修士 (デザイン・イラスト)	平成15年度	塩原4丁目9番1号	
修士課程	2	92		184				
博士後期課程	3	25		75	博士 (芸術工学)			
デザイン・ストラテジー専攻					博士 (工学)			
修士課程	2	28		56		平成18年度		
博士後期課程	3	5		15		平成20年度		
システム情報科学府			-		修士 (情報科学)		福岡県福岡市西区	
情報学専攻					修士 (理学)	平成21年度	元岡744	
修士課程	2	40		80	修士 (工学)			
博士後期課程	3	14		42	修士 (学術)			
情報知能工学専攻					博士 (情報科学)	平成21年度		
修士課程	2	45		90	博士 (理学)			
博士後期課程	3	15		45	博士 (工学)			
電気電子工学専攻					博士 (学術)	平成21年度		
修士課程	2	55		110				

博士後期課程	3	16		48		0.66			
総合理工学府			-		修士(理学)			福岡県春日市春日	
量子プロセス理工学専攻					修士(工学)		平成12年度	公園6丁目1番地	
修士課程	2	37		74	修士(学術)	1.65			
博士後期課程	3	14		42	博士(理学)	0.95			
物質理工学専攻					博士(工学)		平成12年度		
修士課程	2	37		74	博士(学術)	1.45			
博士後期課程	3	14		42		1.04			
先端エネルギー理工学専攻							平成12年度		
修士課程	2	34		68		1.21			
博士後期課程	3	12		36		0.61			
環境エネルギー工学専攻							平成12年度		
修士課程	2	26		52		1.11			
博士後期課程	3	9		27		1.17			
大気海洋環境システム学専攻							平成12年度		
修士課程	2	30		60		1.24			
博士後期課程	3	11		33		0.36			
生物資源環境科学府			-		修士(農学)			福岡県福岡市西区	
資源生物科学専攻					博士(農学)		平成22年度	元岡744	平成30年度入学定員増 (16人)
修士課程	2	66		132		1.02			(7人)
博士後期課程	3	26		71		0.57			平成30年度入学定員減 (△9人)
環境農学専攻							平成22年度		(△6人)
修士課程	2	66		132		0.93			
博士後期課程	3	21		69		0.56			
農業資源経済学専攻							平成22年度		
修士課程	2	13		26		0.38			
博士後期課程	3	5		15		0.93			
生命機能科学専攻							平成22年度		平成30年度入学定員減 (△9人)(修士課程)
修士課程	2	99		198		0.91			平成30年度入学定員増 (13人)(博士後期課程)
博士後期課程	3	25		62		0.70			
生物産業創成専攻							平成22年度		平成30年より学生募集停止
博士後期課程	3	-		-		-			
統合新領域学府			-		修士(感性学)			福岡県福岡市西区	
ユーザー感性学専攻					修士(芸術工学)			元岡744	
修士課程	2	30		60	修士(工学)	0.63	平成21年度		
博士後期課程	3	4		12	修士 (オートモーティブサイエンス)	0.50	平成23年度		
オートモーティブサイエンス専攻					修士 (ライヴライブラリーサイエンス)		平成21年度		
修士課程	2	21		42	修士(学術)	1.02			
博士後期課程	3	7		21	博士(感性学)	0.42			
ライブラリーサイエンス専攻					博士(芸術工学)				
修士課程	2	10		20	博士(工学)	0.85	平成23年度		
博士後期課程	3	3		9	博士 (オートモーティブサイエンス)	0.88	平成25年度		
					博士 (ライヴライブラリーサイエンス)				
					博士(学術)				
附属施設の概要	該当なし								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校は収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人九州大学 設置申請に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
九州大学				九州大学				
共創学部				共創学部				
共創学科	105	—	420	共創学科	105	—	420	
文学部				文学部				
人文学科	151	—	604	人文学科	151	—	604	
教育学部	46	—	184	教育学部	46	—	184	
法学部	189		756	法学部	189		756	
経済学部		3年次		経済学部		3年次		
経済・経営学科	141	10	584	経済・経営学科	141	10	584	
経済工学科	85	10	360	経済工学科	85	10	360	
理学部				理学部				
物理学科	55	—	220	物理学科	55	—	220	
化学科	62	—	248	化学科	62	—	248	
地球惑星科学科	45	3年次	180	地球惑星科学科	45	3年次	180	
数学科	50	5	210	数学科	50	5	210	
生物科学科	46	—	184	生物科学科	46	—	184	
医学部				医学部				
医学科	111	—	666	医学科	111	—	666	
生命科学科	12	—	48	生命科学科	12	—	48	
保健学科	134	—	536	保健学科	134	—	536	
歯学部				歯学部				
歯学科	53	—	318	歯学科	53	—	318	
薬学部				薬学部				
創薬科学科	49	—	196	創薬科学科	49	—	196	
臨床薬学科	30	—	180	臨床薬学科	30	—	180	
工学部				工学部				
建築学科	58	—	232	建築学科	58	—	232	
電気情報工学科	153	—	612	電気情報工学科	153	—	612	
物質科学工学科	163	—	652	物質科学工学科	163	—	652	
地球環境工学科	145	—	580	地球環境工学科	145	—	580	
エネルギー科学科	95	—	380	エネルギー科学科	95	—	380	
機械航空工学科	164	—	656	機械航空工学科	164	—	656	
芸術工学部				芸術工学部				
環境設計学科	35	—	140	環境設計学科	0	—	0	令和2年4月学生募集停止
工業設計学科	45	—	180	工業設計学科	0	—	0	令和2年4月学生募集停止
画像設計学科	35	—	140	画像設計学科	0	—	0	令和2年4月学生募集停止
音響設計学科	35	—	140	音響設計学科	0	—	0	令和2年4月学生募集停止
芸術情報設計学科	37	—	148	芸術情報設計学科	0	—	0	令和2年4月学生募集停止
農学部				農学部				
生物資源環境学科	226	—	904	生物資源環境学科	187	—	748	学科の設置(事前伺い)
計				計				
	2,555	25	10,658		2,555	25	10,658	

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況					新設了学部等における学年進行状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
芸術工学部 環境設計学科 (廃止)	学士 (芸術工学) 学士 (学術)	工学関係 文学関係、 理学関係、 社会学・社会福祉学関係、 法学関係	芸術工学部芸術工学科	16	4	芸術工学部 芸術工学科	学士 (芸術工学)	工学関係	芸術工学部環境設計学科	16	4
			退職	4	4				芸術工学部工業設計学科	17	4
									芸術工学部画像設計学科	12	2
			計	20	8				芸術工学部音響設計学科	13	2
芸術工学部 工業設計学科 (廃止)	学士 (芸術工学) 学士 (学術)	工学関係 文学関係、 理学関係、 社会学・社会福祉学関係、 法学関係	芸術工学部芸術工学科	17	4	芸術工学部 芸術工学科	学士 (芸術工学)	工学関係	芸術工学部芸術情報設計学科	13	2
			退職	1	1				芸術工学部	1	0
									計	72	14
			計	18	5				/		
芸術工学部 画像設計学科 (廃止)	学士 (芸術工学) 学士 (学術)	工学関係 文学関係、 理学関係、 社会学・社会福祉学関係、 法学関係	芸術工学部芸術工学科	12	2						
			退職	3	1						
			計	15	3						
芸術工学部 音響設計学科 (廃止)	学士 (芸術工学) 学士 (学術)	工学関係 文学関係、 理学関係、 社会学・社会福祉学関係、 法学関係	芸術工学部芸術工学科	13	2						
			退職	3	3						
			計	16	5						
芸術工学部 芸術情報設計学科 (廃止)	学士 (芸術工学) 学士 (学術)	工学関係 文学関係、 理学関係、 社会学・社会福祉学関係、 法学関係	芸術工学部芸術工学科	13	2						
			退職	2	2						
			計	15	4						
芸術工学部	-	-	芸術工学部芸術工学科	1	0						
			計	1	0						

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
平成15年10月	芸術工学部 設置	工学関係	—

教 育 課 程 等 の 概 要															
(芸術工学部芸術工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	1前②	1					○					1		兼52
	小計 (1科目)	-	1	0	0			-	0	0	0	1	0		兼52
課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5					○							兼17
	小計 (1科目)	-	2.5	0	0			-	0	0	0	0	0		兼17
言語文化科目	言語文化基礎科目 学術英語A・リセプション	1前①～②	1					○					1		兼4
	学術英語A・プロダクション	1前①～②	1					○		1					兼7
	学術英語B・インテグレート	1後③～④	2					○				2			兼12
	学術英語AB・再履修	1・2後③～④ 2前①～②		1				○							兼1
	学術英語A・CALL	1前①～②	1					○							兼1
	学術英語B・CALL	1後③～④	1					○							兼1
	学術英語C・テーマベース	2前①・② ・後③・④		1				○							兼2
	学術英語C・スキルベース	2前①・② ・後③・④		1				○		1					兼3
	専門英語	2前①・② ・後③・④		2				○		2		2			
	ドイツ語I	1前①～②		2				○							兼1
	ドイツ語II	1後③～④		2				○							兼1
	ドイツ語III	2前①～②		1				○							兼1
	ドイツ語プラクティクムI	1後③～④		1				○							兼2
	ドイツ語プラクティクムII	2前①～②		1				○							兼1
	フランス語I	1前①～②		2				○							兼2
	フランス語II	1後③～④		2				○							兼2
	フランス語III	2前①～②		1				○							兼2
中国語I	1前①～②		2				○							兼2	
中国語II	1後③～④		2				○							兼2	
中国語III	2前①～②		1				○							兼1	
中国語実践I	1後③～④		1				○							兼2	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	中国語実践Ⅱ	2前①～②		1		○									兼2
	ロシア語Ⅰ	1前①～②		2		○									兼1
	ロシア語Ⅱ	1後③～④		2		○									兼1
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○									兼1
	ロシア語フォーラム	1後③～④		1		○									兼1
	韓国語Ⅰ	1前①～②		2		○									兼2
	韓国語Ⅱ	1後③～④		2		○									兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○									兼2
	韓国語フォーラム	1後③～④		1		○									兼1
	スペイン語Ⅰ	1前①～②		2		○									兼1
	スペイン語Ⅱ	1後③～④		2		○									兼1
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○									兼1
	スペイン語フォーラム	1後③～④		1		○									兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○									兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○									兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○									兼1
	日本語Ⅴ	2前①		1		○									兼1
	日本語Ⅵ	2前②		1		○									兼1
	日本語Ⅶ	2前①		1		○									兼1
言語文化 自由選択科目	入門ドイツ語Ⅰ	2前①～②		2		○									兼1
	入門ドイツ語Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	入門中国語Ⅰ	2前①～②		2		○									兼2
	入門中国語Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○									兼1
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	中国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	入門ロシア語Ⅰ	2前①～②		2		○									兼1
	入門ロシア語Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	入門韓国語Ⅰ	2前①～②		2		○									兼1
	入門韓国語Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	韓国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○									兼1
	韓国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	小計 (53科目)		-	6	74	0	-			0	2	0	2	0	兼37

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
文系 ディシプリン 科目	先史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼2
	歴史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼2
	文学・言語学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3
	芸術学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼2
	地理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼4
	社会学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼2
	心理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼4
	現代教育学入門	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	教育基礎学入門	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	法学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	政治学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3
	経済学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	経済史入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○									兼1
小計 (14科目)	-		0	26	0	-			0	0	0	0	0	兼31	
理系 ディシプリン 科目	社会と数理科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼3
	微分積分学	1後③～④		1.5		○									兼3
	微分積分学・同演習A	1前①～②		1.5			○								兼1
	微分積分学・同演習B	1後③～④		1.5			○								兼1
	微分積分学・同演習I	1前①～②		1.5			○								兼4
	微分積分学・同演習II	1後③・ 後③～④		1.5			○								兼4
	微分積分学・同演習III	1後④・ 2前①～②		1.5			○								兼4
	線形代数	1前①～②		1.5		○									兼2
	線形代数学・同演習A	1前①～②		1.5			○								兼2
	線形代数学・同演習B	1後③～④		1.5			○								兼2
	数学演習I A	1前①～②		1			○								兼2
	数学演習I B	1後③～④		1			○								兼2
	数学演習II	2前①～②		1			○								兼4
	数理統計学	2前①～② ・後③～④	1.5			○						1			兼1
	身の回りの物理学A	1前①・② ・後③・④		1		○									兼2
	物理学概論A	1前①～②		1.5		○									兼1
	物理学概論B	1後③～④		1.5		○									兼1
	物理学概論A演習	1前①～②		1			○								兼1
物理学概論B演習	1後③～④		1			○								兼1	
基幹物理学I A	1前①～②		1.5		○									兼2	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	基幹物理学 I B	1後③～④		1.5		○									兼2
	基幹物理学 I A 演習	1前①～②		1			○								兼1
	基幹物理学 I B 演習	1後③～④		1			○								兼1
	力学演習	1後③～④		1			○								兼2
	物理学の進展	2前①～②		1.5		○									兼1
	基幹物理学 II	2前①～②		1.5		○									兼1
	電気電子工学入門	2前①～②		2		○									兼1
	原子核物理学	2後③～④		2		○									兼1
	身の回りの化学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	基礎化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	無機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	有機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	基礎化学結合論	1前①～② ・後③～④		1.5		○				1					兼1
	基礎化学熱力学	1後③～④		1.5		○									兼1
	現代化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生物有機化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	機器分析学	2後④		2		○									兼1
	生命の科学A	1前①・② ・後③・④		1		○									兼4
	生命の科学B	1前①・② ・後③・④		1		○									兼6
	基礎生物学概要	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	細胞生物学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	集団生物学	1後③～④		1.5		○									兼1
	分子生物学	2前①～②		1.5		○									兼2
	生態系の科学	2前①～②		1.5		○									兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○									兼2
	最先端地球科学	2前②・後③		1		○									兼2
	デザイン思考	1前①・② ・後③・④		1		○				5		1			オムニバス
	図形科学	1前①～② ・後③～④		1.5		○				2					
	空間表現実習 I	1前①～② ・後③～④		2			○			2					
	空間表現実習 II	1後③～④		2			○			2					
	世界建築史	2前①		2		○									兼1
	日本建築史	2前②		2		○									兼1
	デザイン史	2後③～④	2			○				1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	情報科学	1前①～② ・後③～④	1.5			○									兼2
	プログラミング演習	1前①～② ・後③～④		1			○								兼2
	コンピュータープログラミング入門	2後③		1		○									兼1
	自然科学総合実験（基礎）	1前①・後③	1					○							兼12
	自然科学総合実験（発展）	1前②・後④	1					○							兼12
	小計（60科目）	-	7	76.5	0			-	0	10	1	2	0		兼88
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○									兼3
	小計（1科目）	-	1	0	0			-	0	0	0	0	0		兼3
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○								兼5
	身体運動科学実習Ⅰ	1後③～④		1				○							兼5
	身体運動科学実習Ⅱ	2前①～②		1				○	1						兼3
	身体運動科学実習Ⅲ	2後③～④ ・3前①～②		1				○							兼2
	身体運動科学実習Ⅳ	2後③～④ ・3前①～②		1				○							兼2
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③		1		○									兼1
	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	2前①～②		2		○									兼1
小計（7科目）	-	1	7	0			-	1	0	0	0	0		兼6	
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○									兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○									兼1
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○									兼1
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○									兼1
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○									兼1
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○									兼1
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○									兼1
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○									兼1
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○									兼1
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○									兼1
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○									兼1
アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○									兼1	

集中

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1		○								兼1	集中
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○								兼1	
	コミュニケーション入門	1前①		1		○								兼1	
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○						兼1	
	フィールドに学ぶB	1後④		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○								兼1	集中
	ことばの科学	1前①		1		○								兼1	
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	農業と微生物	1後④		1		○									兼1
	企業から見たサイバーセキュリティ	1前②・後④		1		○									兼1
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○								兼2 集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (サーバー構築編)	1前①～②		1			○								兼1 集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (ハードウェア設計編)	1前①～②		1			○								兼1 集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (IoTセキュリティ編)	1後③～④		1			○								兼1 集中
	分子の科学	1後③～④		2		○									兼1 集中
	「留学」考	1後③～④		1		○									兼1 集中
	Contemporary American Society:A Sociological Introduction	1後④		1		○									兼1
	アイデア・ラボ I	1前②		2		○									兼1
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○									兼1
	伊都キャンパスを科学する I (軌跡 編)	1前①		1		○									兼1
	伊都キャンパスを科学する II (現在 編)	1前②		1		○									兼1
	伊都キャンパスを科学する III (展望 編)	1後③		1		○									兼1
	少人数セミナー	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	小計 (65科目)	-	0	72	0	-			0	0	0	0	0		兼46
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	科学の歴史A	2前①		1		○									兼1
	科学の歴史B	2前②		1		○									兼1
	脳情報科学入門	3前①		1		○									兼1
	認知心理学	2後④		1		○									兼1
	Brain and Mind	2後③		1		○									兼1
	機械学習と人工知能	2後③		1		○									兼1
	現代社会 I	2前①～②		2		○									兼1
	現代社会 II	2後③～④		2		○									兼1
	現代社会 III	2後③～④		2		○									兼1 隔年
	現代史 I	2前①～②		2		○									兼1
	現代史 II	2後③～④		2		○									兼1
	現代史 III	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	現代史 IV	2後③～④		2		○									兼1 隔年
	EU論基礎—制度と経済—	2前①～②		2		○									兼1
	技術と産業・企業	3前①～②		2		○									兼1 隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○									兼1
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○				1					
	芸術学概論	3後③～④		1		○									兼1 集中
	音楽・音響論	2後③～④		2		○				1					
	デザインと観察	2前①～②		2		○				1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○								兼1	
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○								兼1	
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○								兼1	
	自然災害と防災	2後③～④		2		○								兼1	
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③		1		○								兼1	隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後④		1		○								兼1	隔年
	男女共同参画	2後③～④		2		○								兼1	
	ボランティア活動Ⅰ	2通		1				○						兼1	集中
	ボランティア活動Ⅱ	2通		1				○						兼1	集中
	インターンシップⅠ	2通		1				○						兼1	集中
	インターンシップⅡ	2通		1				○						兼1	集中
	漢方医薬学	3前①～②		1		○								兼1	集中
	チーム医療演習	3後③～④		1			○							兼1	集中
	臨床イメージング	2後③		1		○								兼1	
	社会と健康	3前①～②		2		○								兼1	
	国際保健と医療	2後③～④		2		○								兼1	
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○								兼1	集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○								兼1	
	生物多様性と人間文化A	2前①		1		○								兼1	
	生物多様性と人間文化B	2前②		1		○								兼1	
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○								兼1	
	バイオテクノロジー詳論	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	平和と安全の構築学	2後④		1		○								兼1	
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○								兼1	
	東アジアと日本ーその歴史と現在ー	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○								兼1	
	東アジアの政治と社会	2後③～④		2		○								兼1	
	プレゼンテーション基礎	2前①～②		1			○							兼1	集中
	レトリック基礎	2前①～②		1			○							兼1	集中
	共創発想法	2後③		2			○							兼1	
	データマイニングと情報可視化	2後④		1			○							兼1	
	技術と倫理	2後④		1		○								兼1	
	医療における倫理	2前①～②		2		○								兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	研究と倫理	2後③		1		○									兼1	
	社会と倫理	2後④		1		○									兼1	
	インフォームドコンセント	3前①～②		1		○									兼1	
	臨床倫理	3後③～④		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・会計/ ファイナンス基礎	2後④		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ 戦略論基礎	2前②		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ 組織論基礎	2前①		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ マーケティング基礎	2後③		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論 I	2前①		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論 II	2前②		1		○									兼1	集中
	社会統計学 A	3後③		1				○							兼1	
	社会統計学 B	3後④		1				○							兼1	
	社会調査法 I A	2前①		1				○							兼1	
	社会調査法 I B	2前②		1				○							兼1	
	社会調査法 II A	2後③		1				○							兼1	隔年
	社会調査法 II B	2後④		1				○							兼1	隔年
	教育学特論	2前①～② ・後③～④		2		○									兼1	
	教育心理学特論 (教育・学校心理学)	2後③～④		2		○									兼1	
	日本国憲法	3前①～② ・後③～④		2		○									兼2	
	小計 (74科目)	-	0	109	0	-			0	3	0	0	0		兼57	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専攻教育科目	デザインリテラシー基礎	デザインリテラシー基礎	1前①	1			○			1						
		基礎造形	基礎造形Ⅰ	2前①	1			○			1					
			基礎造形Ⅱ	2前②	1			○			1					
			基礎造形Ⅲ	2後③		1		○			1					
	基礎造形Ⅳ		2後④		1		○			1						
	人間とデザイン	文化とデザイン	2前①		1		○			1						
		社会とデザイン	2前②		1		○			1						
		人間科学とデザイン	2前①		1		○			1						
		科学技術とデザイン	2前②		1		○			1						
	デザイン論	デザイン論Ⅰ	3後③		1		○			1						
		デザイン論Ⅱ	3後④		1		○			1						
		デザイン・ケーススタディⅠ	1前②		1		○			1						
		デザイン・ケーススタディⅡ	3後③		1		○			1						
小計(13科目)		-	3	10	0				2	6	0	0	0			
コース基礎科目	環境設計基礎Ⅰ	1後③		1		○			2					オムニバス		
	環境設計基礎Ⅱ	1後④		1		○			1							
	空間デザイン実習	2前①		2		○			2					共同		
	環境設計プロジェクトA	2前①		2		○			1	1		1		共同		
	環境設計プロジェクトB	2前②		2		○			1			2		共同		
	空間情報分析実習Ⅰ	2後③		1		○			1							
	空間情報分析実習Ⅱ	2後④		1		○			1							
	インダストリアルデザイン基礎Ⅰ	1後③		1		○			1	6		2		オムニバス		
	インダストリアルデザイン基礎Ⅱ	1後④		1		○			3			2		オムニバス		
	プロダクトデザイン概論	2前①		1		○			1	2		1		オムニバス		
	ライフスケープデザイン概論	2前②		1		○			2			1		オムニバス		
	サービスデザイン概論	2前②		1		○			2					オムニバス		
	人間工学概論	2前①		2		○			3			3		オムニバス		
	未来構想デザイン概論	1後③		1		○			2	6		4		オムニバス		
視覚芸術基礎	2前①		1			○		1								
コンセプト論	2後③		1			○		1								
デザインスケッチ	2前②		1			○		1					※講義			
社会と多様性	1後④		1			○		1			1		オムニバス			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	環境と持続可能性	2後③		1		○			1							
	クリティカルシンキング	2前①		1		○			1			1				共同
	プログラミング基礎	2前②		1		○			1							
	情報科学 I	2前①		1		○			1							
	生命科学入門 I	2前②		1			○					1				
	メディアデザイン概論 I	1後③		1		○			2	3		2				オムニバス・ ※演習
	メディアデザイン概論 II	1後④		1		○			1	6						オムニバス・ 共同 (一部)
	メディアデザイン概論 III	2前①		1		○			1	3		3				オムニバス・ 共同 (一部)
	メディア表現基礎	2前①		2			○		2	3		2				オムニバス 共同 (一部) ※講義
	メディアプログラミング	2前①		2		○				3						オムニバス ※演習
	聴覚生理学	2前①		2		○			2			1				オムニバス
	聴覚心理学	2後③		2		○			2							オムニバス
	音文化論	2前①		2		○			1							
	音響理論演習 I	2前①		2		○			1							※演習
	音響理論演習 II	2後③		2		○			1							※演習
	音響信号処理	2前①		2		○			1							
	デジタル信号処理	2後③		2		○			1							
	小計 (35科目)	-	0	48	0	-			13	33	0	16	0			
コース 専門科目	環境設計コース 専門科目															
	構造理論 I	2前①		1		○			1							
	構造理論 II	2前②		1		○			1							
	環境材料論 I	2前①		1		○					1					
	環境材料論 II	2前②		1		○					1					
	環境調整システム論	2前①		2		○						1				
	建築デザイン計画論	2後③		2		○			1							
	環境構法論	2後④		2		○			1							
	建築法規	2後④		1		○			1							
	構法設計論	3前①		2		○			1							
	建築空間設計論	3前②		2		○			1							
	環境情報論 I	3後③		1		○			1							
	環境情報論 II	3後④		1		○			1							
	構造システム論 I	3後③		1		○			1							
	構造システム論 II	3後④		1		○			1							
	設備計画論	3後③		2		○						1				

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	建築生産	3後③		2		○				1					
	環境テクノロジー実習A	3前①		1			○			1					
	環境テクノロジー実習B	3前②		1			○					1			
	西洋建築史	3前①		1		○				1					
	近代建築史	3前②		1		○						1			
	環境文化財論	3前②		2		○						1			
	日本建築史	3後③		2		○				1					
	歴史環境実習	3後④		1			○			1		1			共同
	都市環境設計論	2前②		2		○			1						
	環境保全論	2後③		2		○				1					
	緑地環境設計論	2後④		2		○				1					
	ランドスケープデザイン論	3前①		2		○				1					
	緑地環境実習	2前①		1				○		1					
	環境社会デザイン論	2前②		1		○			1						
	データ解析	2後③		1		○						1			
	物質文化論	2後④		1		○			1						
	ファシリテーション	3前①		1			○			1					
	環境倫理学	3前①		1		○			1						
	芸術コミュニケーション論	3前①		1		○				1					
	アーツマネジメント論	3後③		1		○						1			
	Design Pitching Skills	2後③		1			○			1		2			共同
	Start-ups and Global Disruptors	2前②		1			○						2		オムニバス ※講義
	Intellectual Property Rights : Global Perspective	2後④		1			○						2		オムニバス ※講義
	Global Design Innovations	2前②		1			○						2		オムニバス 共同(一部) ※講義
	国際環境デザインA I	3前①		1		○				1					※演習
	国際環境デザインAII	3前②		1		○				1					※演習
	国際環境デザインAIII	3後③		1		○				1					※演習
	国際環境デザインAIV	3後④		1		○				1					※演習
	国際環境デザインB I	3前①		2		○				1					※演習
	国際環境デザインBII	3前②		2		○				1					※演習
	国際環境デザインBIII	3後③		2		○				1					※演習
	国際環境デザインBIV	3後④		2		○				1					※演習
	インターンシップ(学部) I	3・4通		1				○		1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	インターンシップ(学部)Ⅱ	3・4通		1				○	1							
	小計(49科目)	-	0	66	0			-	4	7	1	7	0			
インダストリアルデザインインコース専門科目	プロダクトデザイン実践論	2前②		1				○	1	2		1			オムニバス	
	ライフスケープデザイン実践論	2後③		1				○		2		1			オムニバス	
	サービスデザイン実践論	2後④		1				○		2					オムニバス	
	イノベーションデザイン論・演習Ⅰ	3前①		2				○	1	2		1			オムニバス・共同 ※講義	
	イノベーションデザイン論・演習Ⅱ	3前②		2				○	1	2		1			オムニバス・共同 ※講義	
	ライフスケープデザイン実践論・演習Ⅰ	3前①		2				○		2		1			共同 ※講義	
	ライフスケープデザイン実践論・演習Ⅱ	3前②		2				○		2		1			共同 ※講義	
	ソーシャルデザイン論・演習Ⅰ	3前①		2				○		2					オムニバス ※講義	
	ソーシャルデザイン論・演習Ⅱ	3前②		2				○		2					オムニバス ※講義	
	クリエイティブデザイン演習	3後③～④		2					○	1	6		2			
	福祉人間工学	2前②		1					○	1						
	データ解析	2後③		1					○				1			
	環境人間工学	2後④		1					○	1						
	環境生理学	2後③		1					○	1						
	感性科学	2前②		1					○	1						
	行動生理学	2後④		1					○	1						
	生活機能支援科学	3後③		1					○				1			
	データマイニングⅠ	3前①		1					○				1			
	データマイニングⅡ	3前②		1					○				1			
	生理人類学	3前②		1					○	1						
	生体情報処理論	3前①		1					○				1			
	人間工学先端セミナー	3後③		1					○	3			3			共同
	リサーチリテラシー	3後③		1					○	1	2					オムニバス
	Design Pitching Skills	2後③		1					○		1		2			共同
	Start-ups and Global Disruptors	2前②		1					○				2			オムニバス ※講義
	Intellectual Property Rights : Global Perspective	2後④		1					○				2			オムニバス ※講義
Global Design Innovations	2前②		1					○				2			オムニバス 共同(一部) ※講義	
国際インダストリアルデザインAⅠ	3前①		1					○	1						※演習	
国際インダストリアルデザインAⅡ	3前②		1					○	1						※演習	
国際インダストリアルデザインAⅢ	3後③		1					○	1						※演習	
国際インダストリアルデザインAⅣ	3後④		1					○	1						※演習	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	国際インダストリアルデザインBI	3前①		2		○			1						※演習
	国際インダストリアルデザインBII	3前②		2		○			1						※演習
	国際インダストリアルデザインBIII	3後③		2		○			1						※演習
	国際インダストリアルデザインBIV	3後④		2		○			1						※演習
	インターンシップ(学部)I	3・4通		1				○	1						
	インターンシップ(学部)II	3・4通		1				○	1						
	小計(37科目)	-	0	48	0			-	4	7	0	7	0		
未来構想デザインコース専門科目	芸術表現論	2後③		1				○		1					
	西洋美術史	2前①		1		○			1						
	芸術文化論	2後④		1		○			1						※演習
	芸術環境論	3前①		1		○			1						※演習
	身体表現演習I	2前①		1			○				1				
	身体表現演習II	2前②		1			○					1			
	応用音楽表現演習I	2後③		1			○			1		2			共同
	応用音楽表現演習II	2後④		1			○			1		2			共同
	先端芸術表現論	3前②		1		○				1					
	デザイン哲学	2前②		1		○			1						
	デザイン美学	2後④		1		○			1						
	デザイン編集論・演習	2後③		1			○			1					※講義
	デザイン材料論・演習	2後④		1			○					1			※講義
	バイオアート&デザイン論・演習	3後④		1			○					1			※講義
	未来デザイン方法論	2前①		1		○				1					
	デザイン要素論・演習	2後③		1			○			1					※講義
	デザイン設計論・演習	3前①		1			○			1					※講義
	デザイン実装論・演習	3前②		1			○			1					※講義
	環境倫理学	3前①		1		○			1						
	物質文化論	2後④		1		○			1						
	グローバル化と伝統的社会	3後③		1		○			1						
	環境社会デザイン論	2前②		1		○			1						
	価値と政策	3後④		1		○				1					
	表象文化論	2後④		1		○				1					
	芸術コミュニケーション論	3前①		1		○				1					
	アーツマネジメント論	3後③		1		○						1			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	教育における多様性	3後④		1			○						1		※講義
	質的社会調査法	2後③		1		○							1		※演習
	ファシリテーション	3前①		1			○			1					
	アート・デザイン・ライティング演習	2後④		1			○			1					
	主観評価法	3前①～②		2		○			1	2					オムニバス ※演習
	フィジカルコンピューティングとIoT	3前①		1		○				1					※演習
	ウェブサービスデザイン	3前②		2		○				1					※演習
	データ解析	2後③		1		○							1		
	プログラミング設計	2後③		1			○			1					
	シミュレーション数理	3前①		1		○				1					
	シミュレーション演習	3前①		1			○			1					
	情報科学Ⅱ	2後④		1		○				1					
	情報科学Ⅲ	3前①		1		○				1					
	データマイニングⅠ	3前①		1		○							1		
	データマイニングⅡ	3前②		1		○							1		
	先端情報生命科学Ⅰ	2後③		1		○				1					
	先端情報生命科学Ⅱ	2後④		1		○				1					
	生命科学入門Ⅱ	3前①		1		○							1		
	生命科学実習	3後③		1				○					1		
	知覚心理学	2前②		2		○			1	2			1		オムニバス
	Design Pitching Skills	2後③		1			○			1			2		共同
	Start-ups and Global Disruptors	2前②		1			○						2		オムニバス ※講義
	Intellectual Property Rights : Global Perspective	2後④		1			○						2		オムニバス ※講義
	Global Design Innovations	2前②		1			○						2		オムニバス 共同(一部) ※講義
	国際未来構想デザインAⅠ	3前①		1		○				1					※演習
	国際未来構想デザインAⅡ	3前②		1		○				1					※演習
	国際未来構想デザインAⅢ	3後③		1		○				1					※演習
	国際未来構想デザインAⅣ	3後④		1		○				1					※演習
	国際未来構想デザインBⅠ	3前①		2		○				1					※演習
	国際未来構想デザインBⅡ	3前②		2		○				1					※演習
	国際未来構想デザインBⅢ	3後③		2		○				1					※演習
	国際未来構想デザインBⅣ	3後④		2		○				1					※演習
	インターンシップ(学部)Ⅰ	3・4通		1				○		1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	インターンシップ（学部）Ⅱ	3・4通		1				○	1						
	小計（60科目）	-	0	67	0			-	3	10	0	6	0		
メディアデザインコース専門科目	ゲームデザイン	2後③		2				○		1					※演習
	映像表現	2前①		2				○		1					※演習
	アニメーション表現	2前②		2				○		1					※演習
	芸術論	2前①		2				○		1					※演習
	数理造形	3前①		2				○				1			※演習
	タイポグラフィックデザイン	2前②		1					○	1					※講義
	グラフィックデザイン	2後④		1				○		1					※演習
	広告クリエイティブデザイン	3後③		1				○		1	1		1		オムニバス ※演習
	情報デザイン	2後③		2				○					1		※演習
	インタラクティブデザイン	2後③		2				○		1					
	メカニクスデザイン	2前①		2				○		1					※演習
	バーチャルリアリティ	3前①		2				○		1					
	コンピュータグラフィックス	2後③		2				○		1					
	ウェブサービスデザイン	2前②		2				○		1					※演習
	コンピュータビジョン	3後③		2				○		1					
	メディア情報処理	2前①		2				○		1					
	コンテンツ工学	2前②		2				○		1					
	フィジカルコンピューティングとIoT	3前①		1				○		1					※演習
	視覚心理学	2前①		2				○		1					
	色彩学	2前②		2				○		1					
	心理学的思考法	3後③		2				○		1					※演習
	言葉とコミュニケーション	2後③		2				○					2		オムニバス
	演劇文化論	2後④		2				○		1					
	知的財産法	3前②		2				○					1		
	知覚心理学	2前②		2				○		1	2		1		オムニバス
	主観評価法	3前①～②		2				○		1	2				オムニバス ※演習
	Design Pitching Skills	2後③		1				○		1			2		共同
	Start-ups and Global Disruptors	2前②		1				○					2		オムニバス ※講義
	Intellectual Property Rights : Global Perspective	2後④		1				○					2		オムニバス ※講義
	Global Design Innovations	2前②		1				○					2		オムニバス 共同（一部） ※講義
	国際メディアデザインA I	3前①		1				○		1					※演習

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	国際メディアデザインAII	3前②		1		○			1						※演習
	国際メディアデザインAIII	3後③		1		○			1						※演習
	国際メディアデザインAIV	3後④		1		○			1						※演習
	国際メディアデザインBI	3前①		2		○			1						※演習
	国際メディアデザインBII	3前②		2		○			1						※演習
	国際メディアデザインBIII	3後③		2		○			1						※演習
	国際メディアデザインBIV	3後④		2		○			1						※演習
	インターンシップ(学部)I	3・4通		1				○	1						
	インターンシップ(学部)II	3・4通		1				○	1						
	小計(40科目)	-	0	66	0	-			4	16	0	8	0		
	音響設計コース専門科目														
	知覚心理学	2前②		2		○			1	2		1			オムニバス
	主観評価法	3前①～②		2		○			1	2					オムニバス ※演習
	電気工学	2前①～②		2		○						1			
	電子工学	2後③～④		2		○						1			
	情報理論	3前①～②		2		○						1			
	データ解析	2後③		1		○						1			
	データマイニングI	3前①		1		○						1			
	データマイニングII	3前②		1		○						1			
	質的社会調査法	2後③		1		○						1			※演習
	比較音楽理論	2前②		2		○						1			
	西洋音楽史	2後③		2		○						1			
	音文化論演習	2後④		2			○			1					※講義
	芸術コミュニケーション論	3前①		1		○				1					
	音楽学	3前①		2		○						1			オムニバス
	聴覚認知論	3前①～②		2		○				1					
	音声情報学	2後④		2		○			1			1			オムニバス
	デジタル信号処理演習	2後④		2			○			1					※講義
	音響メディア工学	3前②		2		○			1						
	音響メディア工学演習	3後③		2			○		1						※講義
	応用音響理論	2後④		2		○				1					
	音響機器論	2後④		2		○						1			
	騒音環境学	3前①		2		○			1	2					オムニバス
	非線形理論	3前②		2		○			1	2					オムニバス

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	楽器音響学	3後③		2		○			1	1					○ムニハス
	室内音響学	3後④		2		○			1						
	Design Pitching Skills	2後③		1			○			1			2		共同
	Start-ups and Global Disruptors	2前②		1			○						2		○ムニハス ※講義
	Intellectual Property Rights : Global Perspective	2後④		1			○						2		○ムニハス ※講義
	Global Design Innovations	2前②		1			○						2		○ムニハス 共同(一部) ※講義
	国際音響デザインA I	3前①		1		○			1						※演習
	国際音響デザインAII	3前②		1		○			1						※演習
	国際音響デザインAIII	3後③		1		○			1						※演習
	国際音響デザインAIV	3後④		1		○			1						※演習
	国際音響デザインB I	3前①		2		○			1						※演習
	国際音響デザインBII	3前②		2		○			1						※演習
	国際音響デザインBIII	3後③		2		○			1						※演習
	国際音響デザインBIV	3後④		2		○			1						※演習
	インターンシップ(学部) I	3・4通		1				○	1						
	インターンシップ(学部) II	3・4通		1				○	1						
	小計(39科目)	-	0	63	0			-	3	10	0	8	0		
コース 演習科目 (PBL)	環境設計プロジェクトC	2後③		2			○			1					共同
	環境設計プロジェクトD	2後④		2			○		1	1					共同
	環境設計プロジェクトE	3前①		2			○		1	1					共同
	環境設計プロジェクトF	3前②		2			○			1					共同
	環境設計プロジェクトG	3後③		2			○		1						
	環境設計プロジェクトH	3後④		2			○			1					
	環境総合プロジェクトA	4前①		2			○		2	5	2	3			
	環境総合プロジェクトB	4前②		2			○		2	5	2	3			
	小計(8科目)	-	0	16	0			-	2	5	2	3	0		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
(PBL) インスタリアルデザインコース 演習科目	プロダクトデザイン実践論・演習Ⅰ	2前①		2			○		1	2		1		オムニバス・共同 ※講義
	プロダクトデザイン実践論・演習Ⅱ	2前②		2			○		1	2		1		オムニバス・共同 ※講義
	ライフスケープデザイン論・演習Ⅰ	2後③		2			○			2		1		共同 ※講義
	ライフスケープデザイン論・演習Ⅱ	2後④		2			○			2		1		共同 ※講義
	ビジネスデザイン論・演習Ⅰ	2前②		2			○		1	2				オムニバス ※講義
	ビジネスデザイン論・演習Ⅱ	2後③		2			○			2		1		オムニバス ※講義
	人間工学演習Ⅰ	2前①～②		4			○		3			3		共同
	人間工学演習Ⅱ	3前①～②		4			○		3			3		共同
	人間工学プロジェクト演習	3後③～④		4			○		3			3		共同
	フィールド調査論・演習	2後③～④		4			○		1	2		1		オムニバス・ 共同(一部) ※講義
小計(10科目)	-		0	28	0		-		4	6	0	5	0	
未来構 想デザ インコ ース 演習科 目(PBL)	共通課題PBL演習A	2前①		4			○		2	6		4		
	共通課題PBL演習B	3前①		4			○		2	6		4		
	プラットフォーム演習 A	2後③		4			○		2	6		4		
	プラットフォーム演習 B	3後③		4			○		2	6		4		
	プラットフォーム演習 C	2後③		4			○		2	6		4		
	プラットフォーム演習 D	3後③		4			○		2	6		4		
小計(6科目)	-		0	24	0		-		2	6	0	4	0	
メ ディ ア デザ イン コ ース 演習科 目(PBL)	メディアデザイン 総合プロジェクトⅠ	3前①		2			○		4	12		5		
	メディアデザイン 総合プロジェクトⅡ	3後④		2			○		4	12		5		
	コンテンツデザイン演習Ⅰ	2後③		2			○		1	1				共同
	コンテンツデザイン演習Ⅱ	2後④		2			○			1				
	造形表現演習	2前②		2			○			1		1		
	数理造形と表現演習	3前②		2			○			1		1		
	コミュニケーションデザイン演習Ⅰ	2後④		2			○		1			1		
	コミュニケーションデザイン演習Ⅱ	3前①		2			○		1			1		
	コンテンツインタラクション演習	3前①		2			○		1	4				オムニバス 共同(一部)
	実世界インタラクション演習	3前②		2			○			2				オムニバス
	クリエイティブ発想演習	3後③		2			○		1	6				共同
	クリエイティブ プロトタイピング演習	3後④		2			○		1	6				共同
メディアサイエンス演習Ⅰ	2後④		2			○		1	1				オムニバス 共同(一部)	
メディアサイエンス演習Ⅱ	3前②		2			○			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
音響設計コース演習科目(PBL)	比較演劇・メディア文化演習	3前②		2				○			1		2		ホームベース
	知的財産マネジメント演習	3後③		2				○					1		
	小計(16科目)	-	0	32	0			-		4	12	0	5	0	
	聴能形成Ⅰ	1後③～④		1					○		1		1		共同 ※講義
	聴能形成Ⅱ	2前①～②		1					○		1		1		共同 ※講義
	音響プログラミング演習	2前②		2				○		1			1		ホームベース
	電気実験	3前①～②		2					○		1		1		共同
	音楽理論表現演習	2前①～②		2					○				2		共同 ※講義
	応用音楽表現演習Ⅰ	2後③		1					○		1		2		共同
	応用音楽表現演習Ⅱ	2後④		1					○		1		2		共同
	音響生成演習	3前②		2					○		1				
	收音音響構成	2前②		2						○	1				※講義
	環境音響構成	2後④		2						○	1				※講義
	音響実験Ⅰ	3前①		2					○		2	4		3	
	音響実験Ⅱ	3後③～④		3					○		2	7		3	
小計(12科目)	-	0	21	0			-		2	7	0	4	0		
融合プロジェクト・プロジェクト	コース融合プロジェクトA	2・3・4前②・後③		4					○		14	36	2	20	
	コース融合プロジェクトB	2・3・4前②・後③		4					○		14	36	2	20	
	小計(2科目)	-	0	8	0			-		14	36	2	20	0	
卒業研究・設計	卒業研究Ⅰ	4前①～② ・後③～④	4						○		14	36	2	20	
	卒業研究Ⅱ	4前①～② ・後③～④	4						○		14	36	2	20	
	小計(2科目)	-	8	0	0			-		14	36	2	20	0	
合計(605科目)		-	29.5	861.5	0			-		14	36	2	20	0	兼268

学位又は称号	学士(芸術工学)	学位又は学科の分野	工学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
基幹教育科目から48単位以上、専攻教育科目から80単位以上を修得し、128単位以上修得すること (履修科目の登録上限 24単位(1学期))			1学年の学期区分	4学期
1. 基幹教育科目 48単位以上 (全コース共通) <ul style="list-style-type: none"> (a) 基幹教育セミナー (1単位修得) <必修科目> 基幹教育セミナー (1単位) (b) 課題協学科目 (2.5単位修得) <必修科目> 課題協学科目 (2.5単位) (c) 言語文化科目 (12単位修得) <必修科目> 学術英語A・リセプション (1単位) 学術英語A・プロダクション (1単位) 学術英語B・インテグレート (2単位) 学術英語A・CALL (1単位) 学術英語B・CALL (1単位) (d) 文系ディシプリン科目 (4単位修得) (e) 理系ディシプリン科目 (18単位修得) <必修科目> 情報科学 (1.5単位) 自然科学総合実験(基礎) (1単位) 自然科学総合実験(発展) (1単位) 数理統計学 (1.5単位) デザイン史 (2単位) 空間表現実習Ⅱ (2単位) ※インダストリアルデザインコースのみ (f) サイバーセキュリティ科目 (1単位修得) <必修科目> サイバーセキュリティ基礎論 (1単位) (g) 健康・スポーツ科目 (1単位修得) <必修科目> 健康・スポーツ科学演習 (1単位) (h) 総合科目 (1単位修得) (i) 高年次基幹教育科目 (2単位修得) (j) その他 (5.5単位修得) 基幹教育科目として開講される言語文化科目、文系ディシプリン科目、 理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目、 高年次基幹教育科目の中から選択 			1学期の授業期間	8週
			1時限の授業時間	90分
2. 専攻教育科目 80単位以上 <ul style="list-style-type: none"> (1) 環境設計コース <ul style="list-style-type: none"> (a) デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目> デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び 「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択 (b) コース基礎科目 (10単位修得) (c) 環境設計コース専門科目 (30単位修得) (d) 環境設計コース演習科目 (PBL) 及び 融合プロジェクト・プラットフォーム (12単位修得) (e) 深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、 他コース科目4単位以上を含む12単位以上修得 (f) 卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目> 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ (2) インダストリアルデザインコース <ul style="list-style-type: none"> (a) デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目> デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び 「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択 (b) コース基礎科目 (7単位修得) (c) インダストリアルデザインコース専門科目 (21単位修得) (d) インダストリアルデザインコース演習科目 (PBL) 及び 融合プロジェクト・プラットフォーム (24単位修得) (e) 深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、 他コース科目8単位以上を含む12単位以上修得 (f) 卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目> 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ (3) 未来構想デザインコース <ul style="list-style-type: none"> (a) デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目> デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び 「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択 (b) コース基礎科目 (10単位修得) (c) 未来構想デザインコース専門科目 (30単位修得) (d) 未来構想デザインコース演習科目 (PBL) (8単位修得) (e) 融合プロジェクト・プラットフォーム (4単位修得) (f) 深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、 他コース科目8単位以上を含む12単位以上修得 (g) 卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目> 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ 				

卒業要件及び履修方法	授業期間等
<p>(4)メディアデザインコース</p> <p>(a)デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目>デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択</p> <p>(b)コース基礎科目 (7単位修得)</p> <p>(c)メディアデザインコース専門科目 (25単位修得)</p> <p>(d)メディアデザインコース演習科目 (PBL) 及び 融合プロジェクト・プラットフォーム (20単位修得) <必修科目>メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ</p> <p>(f)深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、 他コース科目4単位以上を含む12単位以上修得</p> <p>(g)卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目>卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ</p>	
<p>(5)音響設計コース</p> <p>(a)デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目>デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択</p> <p>(b)コース基礎科目 (14単位修得)</p> <p>(c)音響設計コース専門科目 (22単位修得)</p> <p>(d)音響設計コース演習科目 (PBL) 及び 融合プロジェクト・プラットフォーム (16単位修得) <必修科目>音楽理論表現演習、音響実験Ⅰ、音響実験Ⅱ</p> <p>(e)深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、 他コース科目4単位以上を含む12単位以上修得</p> <p>(f)卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目>卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ</p>	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(芸術工学部芸術工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	1前②	1					○					1		兼52
	小計 (1科目)	-	1	0	0			-		0	0	0	1	0	兼52
課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5					○							兼17
	小計 (1科目)	-	2.5	0	0			-		0	0	0	0	0	兼17
言語文化科目	言語文化基礎科目 学術英語A・リセプション	1前①～②	1					○					1		兼4
	学術英語A・プロダクション	1前①～②	1					○			1				兼7
	学術英語B・インテグレート	1後③～④	2					○				2			兼12
	学術英語AB・再履修	1・2後③～④ 2前①～②		1				○							兼1
	学術英語A・CALL	1前①～②	1					○							兼1
	学術英語B・CALL	1後③～④	1					○							兼1
	学術英語C・テーマベース	2前①・② ・後③・④		1				○							兼2
	学術英語C・スキルベース	2前①・② ・後③・④		1				○			1				兼3
	ドイツ語I	1前①～②		2				○							兼1
	ドイツ語II	1後③～④		2				○							兼1
	ドイツ語III	2前①～②		1				○							兼1
	ドイツ語プラクティクムI	1後③～④		1				○							兼2
	ドイツ語プラクティクムII	2前①～②		1				○							兼1
	フランス語I	1前①～②		2				○							兼2
	フランス語II	1後③～④		2				○							兼2
	フランス語III	2前①～②		1				○							兼2
	中国語I	1前①～②		2				○							兼2
中国語II	1後③～④		2				○							兼2	
中国語III	2前①～②		1				○							兼1	
中国語実践I	1後③～④		1				○							兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	中国語実践Ⅱ	2前①～②		1		○									兼2
	ロシア語Ⅰ	1前①～②		2		○									兼1
	ロシア語Ⅱ	1後③～④		2		○									兼1
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○									兼1
	ロシア語フォーラム	1後③～④		1		○									兼1
	韓国語Ⅰ	1前①～②		2		○									兼2
	韓国語Ⅱ	1後③～④		2		○									兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○									兼2
	韓国語フォーラム	1後③～④		1		○									兼1
	スペイン語Ⅰ	1前①～②		2		○									兼1
	スペイン語Ⅱ	1後③～④		2		○									兼1
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○									兼1
	スペイン語フォーラム	1後③～④		1		○									兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○									兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○									兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○									兼1
	日本語Ⅴ	2前①		1		○									兼1
	日本語Ⅵ	2前②		1		○									兼1
	日本語Ⅶ	2前①		1		○									兼1
	言語文化自由選択科目														
	入門ドイツ語Ⅰ	2前①～②		2		○									兼1
	入門ドイツ語Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	入門中国語Ⅰ	2前①～②		2		○									兼2
	入門中国語Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○									兼1
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	中国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	入門ロシア語Ⅰ	2前①～②		2		○									兼1
	入門ロシア語Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	入門韓国語Ⅰ	2前①～②		2		○									兼1
	入門韓国語Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	韓国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○									兼1
	韓国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	小計 (52科目)	-	6	72	0	-			0	1	0	2	0		兼37
文系 ディ シ プ リ	先史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼2
	歴史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼2
	文学・言語学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
リ ン 科 目	芸術学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼2
	地理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼4
	社会学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼2
	心理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼4
	現代教育学入門	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	教育基礎学入門	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	法学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	政治学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3
	経済学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	経済史入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○									兼1
	小計 (14科目)	-	0	26	0	-				0	0	0	0	0	兼31
理 系 デ ィ シ プ リ ン 科 目	社会と数理科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼3
	微分積分学	1後③～④		1.5		○									兼3
	微分積分学・同演習A	1前①～②		1.5			○								兼1
	微分積分学・同演習B	1後③～④		1.5			○								兼1
	微分積分学・同演習I	1前①～②		1.5			○								兼4
	微分積分学・同演習II	1後③・ 後③～④		1.5			○								兼4
	微分積分学・同演習III	1後④・ 2前①～②		1.5			○								兼4
	線形代数	1前①～②		1.5		○									兼2
	線形代数学・同演習A	1前①～②		1.5			○								兼2
	線形代数学・同演習B	1後③～④		1.5			○								兼2
	数学演習 I A	1前①～②		1			○								兼2
	数学演習 I B	1後③～④		1			○								兼2
	数学演習 II	2前①～②		1			○								兼4
	数理統計学	2前①～② ・後③～④	1.5				○								兼1
	身の回りの物理学 A	1前①・② ・後③・④		1			○								兼2
	物理学概論A	1前①～②		1.5			○								兼1
	物理学概論B	1後③～④		1.5			○								兼1
	物理学概論A演習	1前①～②		1			○								兼1
	物理学概論B演習	1後③～④		1			○								兼1
	基幹物理学 I A	1前①～②		1.5			○								兼2
基幹物理学 I B	1後③～④		1.5			○								兼2	
基幹物理学 I A演習	1前①～②		1			○								兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	基幹物理学 I B 演習	1後③～④		1			○							兼1
	力学演習	1後③～④		1			○							兼2
	物理学の進展	2前①～②		1.5		○								兼1
	基幹物理学 II	2前①～②		1.5		○								兼1
	電気電子工学入門	2前①～②		2		○								兼1
	原子核物理学	2後③～④		2		○								兼1
	身の回りの化学	1前①・② ・後③・④		1		○								兼5
	基礎化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○								兼2
	無機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○								兼2
	有機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○								兼1
	基礎化学結合論	1前①～② ・後③～④		1.5		○				1				兼1
	基礎化学熱力学	1後③～④		1.5		○								兼1
	現代化学	2前①～②		1.5		○								兼1
	基礎生物有機化学	2前①～②		1.5		○								兼1
	基礎生化学	2前①～②		1.5		○								兼1
	機器分析学	2後④		2		○								兼1
	生命の科学A	1前①・② ・後③・④		1		○								兼4
	生命の科学B	1前①・② ・後③・④		1		○								兼6
	基礎生物学概要	1前①～② ・後③～④		1.5		○								兼2
	細胞生物学	1前①～② ・後③～④		1.5		○								兼1
	集団生物学	1後③～④		1.5		○								兼1
	分子生物学	2前①～②		1.5		○								兼2
	生態系の科学	2前①～②		1.5		○								兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・② ・後③・④		1		○								兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○								兼2
	最先端地球科学	2前②・後③		1		○								兼2
	デザイン思考	1前①・② ・後③・④		1		○				5		1		オムニバス
	図形科学	1前①～② ・後③～④		1.5		○				2				
	空間表現実習 I	1前①～② ・後③～④		2			○			2				
	空間表現実習 II	1後③～④		2			○			1				
	世界建築史	2前①		2		○								兼1
	日本建築史	2前②		2		○								兼1
	情報科学	1前①～② ・後③～④	1.5			○								兼2
	プログラミング演習	1前①～② ・後③～④		1			○							兼2
	コンピュータープログラミング入門	2後③		1		○								兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	自然科学総合実験（基礎）	1前①・後③	1					○							兼12
	自然科学総合実験（発展）	1前②・後④	1					○							兼12
	小計（59科目）	-	5	76.5	0			-	0	9	1	1	0		兼88
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1					○							兼3
	小計（1科目）	-	1	0	0			-	0	0	0	0	0		兼3
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1					○							兼5
	身体運動科学実習Ⅰ	1後③～④		1											兼5
	身体運動科学実習Ⅱ	2前①～②		1											兼3
	身体運動科学実習Ⅲ	2後③～④ ・3前①～②		1											兼2
	身体運動科学実習Ⅳ	2後③～④ ・3前①～②		1											兼2
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③		1				○							兼1
	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	2前①～②		2				○							兼1
小計（7科目）	-	1	7	0			-	0	0	0	0	0		兼6	
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1				○							兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1				○							兼1
	大学とは何かⅡ	1前②		1				○							兼1
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1				○							兼1
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1				○							兼1
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1				○							兼1
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1				○							兼1
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1				○							兼1
	Law in Everyday Life A	1後③		1				○							兼1
	Law in Everyday Life B	1後④		1				○							兼1
	バリアフリー支援入門	1前①		1				○							兼1
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1				○							兼1
	アクセシビリティ入門	1前②		1				○							兼1
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1				○							兼1 集中
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1				○							兼1 集中
人と人をつなぐ技法	1後③		1				○							兼1	
コミュニケーション入門	1前①		1				○							兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○						兼1	
	フィールドに学ぶB	1後④		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○								兼1	集中
	ことばの科学	1前①		1		○								兼1	
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティ	1前②・後④		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○								兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (サーバー構築編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (ハードウェア設計編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (IoTセキュリティ編)	1後③～④		1			○								兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○									兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○									兼1	集中
	Contemporary American Society:A Sociological Introduction	1後④		1		○									兼1	
	アイデア・ラボ I	1前②		2		○									兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する I (軌跡 編)	1前①		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する II (現在 編)	1前②		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する III (展望 編)	1後③		1		○									兼1	
	少人数セミナー	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5	
	小計 (65科目)	-	0	72	0	-			0	0	0	0	0	0	兼46	
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	科学の歴史A	2前①		1		○									兼1	
	科学の歴史B	2前②		1		○									兼1	
	脳情報科学入門	3前①		1		○									兼1	
	認知心理学	2後④		1		○									兼1	
	Brain and Mind	2後③		1		○									兼1	
	機械学習と人工知能	2後③		1		○									兼1	
	現代社会 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代社会 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代社会 III	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代史 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代史 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代史 III	2前①～②		2		○									兼1	隔年
	現代史 IV	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	EU論基礎—制度と経済—	2前①～②		2		○									兼1	
	技術と産業・企業	3前①～②		2		○									兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○									兼1	
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○									兼1	
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○									兼1	
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○									兼1	
	自然災害と防災	2後③～④		2		○									兼1	
	生態系の構造と機能 I	2後③		1		○									兼1	隔年
	生態系の構造と機能 II	2後④		1		○									兼1	隔年

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	男女共同参画	2後③～④		2		○								兼1	
	ボランティア活動Ⅰ	2通		1				○						兼1	集中
	ボランティア活動Ⅱ	2通		1				○						兼1	集中
	インターンシップⅠ	2通		1				○						兼1	集中
	インターンシップⅡ	2通		1				○						兼1	集中
	漢方医薬学	3前①～②		1		○								兼1	集中
	チーム医療演習	3後③～④		1			○							兼1	集中
	臨床イメージング	2後③		1		○								兼1	
	社会と健康	3前①～②		2		○								兼1	
	国際保健と医療	2後③～④		2		○								兼1	
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○								兼1	集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○								兼1	
	生物多様性と人間文化A	2前①		1		○								兼1	
	生物多様性と人間文化B	2前②		1		○								兼1	
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○								兼1	
	バイオテクノロジー詳論	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	平和と安全の構築学	2後④		1		○								兼1	
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○								兼1	
	東アジアと日本ーその歴史と現在ー	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○								兼1	
	東アジアの政治と社会	2後③～④		2		○								兼1	
	プレゼンテーション基礎	2前①～②		1			○							兼1	集中
	レトリック基礎	2前①～②		1			○							兼1	集中
	共創発想法	2後③		2			○							兼1	
	データマイニングと情報可視化	2後④		1			○							兼1	
	技術と倫理	2後④		1		○								兼1	
	医療における倫理	2前①～②		2		○								兼1	
	研究と倫理	2後③		1		○								兼1	
	社会と倫理	2後④		1		○								兼1	
	インフォームドコンセント	3前①～②		1		○								兼1	
	臨床倫理	3後③～④		1		○								兼1	
	アントレプレナーシップ・会計/ ファイナンス基礎	2後④		1		○								兼1	
	アントレプレナーシップ・ 戦略論基礎	2前②		1		○								兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	2後③		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論Ⅱ	2前②		1		○									兼1	集中
	社会統計学A	3後③		1			○								兼1	
	社会統計学B	3後④		1			○								兼1	
	社会調査法ⅠA	2前①		1			○								兼1	
	社会調査法ⅠB	2前②		1			○								兼1	
	社会調査法ⅡA	2後③		1			○								兼1	隔年
	社会調査法ⅡB	2後④		1			○								兼1	隔年
	教育学特論	2前①～② ・後③～④		2		○									兼1	
	教育心理学特論（教育・学校心理学）	2後③～④		2		○									兼1	
	日本国憲法	3前①～② ・後③～④		2		○									兼2	
	小計（70科目）	-	0	102	0	-			0	0	0	0	0	0	兼56	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻教育科目	デザインリテラシー基礎	1前①	1			○				1					
	デザイン・ケーススタディ I	1前②		1		○				1					
	小計 (2科目)	-	1	1	0	-			0	2	0	0	0		
コース基礎科目	環境設計基礎 I	1後③		1		○				2					オムニバス
	環境設計基礎 II	1後④		1		○				1					
	インダストリアルデザイン基礎 I	1後③		1		○			1	6		2			オムニバス
	インダストリアルデザイン基礎 II	1後④		1		○			3			2			オムニバス
	未来構想デザイン概論	1後③		1		○			2	6		4			オムニバス
	社会と多様性	1後④		1		○				1		1			オムニバス
	メディアデザイン概論 I	1後③		1		○			2	3		2			オムニバス・ 共同 (一部) ※演習
	メディアデザイン概論 II	1後④		1		○			1	6					オムニバス・ 共同 (一部)
小計 (8科目)	-	0	8	0	-			9	24	0	10	0			
(PBL) 演習科目	音響設計コース 聴能形成 I	1後③~④		1				○		1		1			共同 ※講義
小計 (1科目)	-	0	1	0	-			0	1	0	1	0			
合計 (281科目)	-	17.5	365.5	0	-			9	35	1	15	0	兼267		

学位又は称号	学士(芸術工学)	学位又は学科の分野	工学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
基幹教育科目から48単位以上、専攻教育科目から80単位以上を修得し、128単位以上修得すること (履修科目の登録上限 24単位(1学期))			1学年の学期区分	4学期
1. 基幹教育科目 48単位以上 (全コース共通) <ul style="list-style-type: none"> (a) 基幹教育セミナー (1単位修得) <必修科目>基幹教育セミナー (1単位) (b) 課題協学科目 (2.5単位修得) <必修科目>課題協学科目 (2.5単位) (c) 言語文化科目 (12単位修得) <必修科目>学術英語A・リセプション (1単位) 学術英語A・プロダクション (1単位) 学術英語B・インテグレート (2単位) 学術英語A・CALL (1単位) 学術英語B・CALL (1単位) (d) 文系ディシプリン科目 (4単位修得) (e) 理系ディシプリン科目 (18単位修得) <必修科目>情報科学 (1.5単位) 自然科学総合実験(基礎) (1単位) 自然科学総合実験(発展) (1単位) 数理統計学 (1.5単位) デザイン史 (2単位) 空間表現実習Ⅱ (2単位) ※インダストリアルデザインコースのみ (f) サイバーセキュリティ科目 (1単位修得) <必修科目>サイバーセキュリティ基礎論 (1単位) (g) 健康・スポーツ科目 (1単位修得) <必修科目>健康・スポーツ科学演習 (1単位) (h) 総合科目 (1単位修得) (i) 高年次基幹教育科目 (2単位修得) (j) その他 (5.5単位修得) 基幹教育科目として開講される言語文化科目、文系ディシプリン科目、 理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目、 高年次基幹教育科目の中から選択 			1学期の授業期間	8週
			1時限の授業時間	90分
2. 専攻教育科目 80単位以上 <ul style="list-style-type: none"> (1) 環境設計コース <ul style="list-style-type: none"> (a) デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目>デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び 「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択 (b) コース基礎科目 (10単位修得) (c) 環境設計コース専門科目 (30単位修得) (d) 環境設計コース演習科目 (PBL) 及び 融合プロジェクト・プラットフォーム (12単位修得) (e) 深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、 他コース科目4単位以上を含む12単位以上修得 (f) 卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目>卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ (2) インダストリアルデザインコース <ul style="list-style-type: none"> (a) デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目>デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び 「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択 (b) コース基礎科目 (7単位修得) (c) インダストリアルデザインコース専門科目 (21単位修得) (d) インダストリアルデザインコース演習科目 (PBL) 及び 融合プロジェクト・プラットフォーム (24単位修得) (e) 深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、 他コース科目8単位以上を含む12単位以上修得 (f) 卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目>卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ (3) 未来構想デザインコース <ul style="list-style-type: none"> (a) デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目>デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び 「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択 (b) コース基礎科目 (10単位修得) (c) 未来構想デザインコース専門科目 (30単位修得) (d) 未来構想デザインコース演習科目 (PBL) (8単位修得) (e) 融合プロジェクト・プラットフォーム (4単位修得) (f) 深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、 他コース科目8単位以上を含む12単位以上修得 (g) 卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目>卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ 				

卒業要件及び履修方法	授業期間等
<p>(4) メディアデザインコース</p> <p>(a) デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目> デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択</p> <p>(b) コース基礎科目 (7単位修得)</p> <p>(c) メディアデザインコース専門科目 (25単位修得)</p> <p>(d) メディアデザインコース演習科目 (PBL) 及び 融合プロジェクト・プラットフォーム (20単位修得) <必修科目> メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ</p> <p>(f) 深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、 他コース科目4単位以上を含む12単位以上修得</p> <p>(g) 卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目> 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ</p>	
<p>(5) 音響設計コース</p> <p>(a) デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目> デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択</p> <p>(b) コース基礎科目 (14単位修得)</p> <p>(c) 音響設計コース専門科目 (22単位修得)</p> <p>(d) 音響設計コース演習科目 (PBL) 及び 融合プロジェクト・プラットフォーム (16単位修得) <必修科目> 音楽理論表現演習、音響実験Ⅰ、音響実験Ⅱ</p> <p>(e) 深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、 他コース科目4単位以上を含む12単位以上修得</p> <p>(f) 卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目> 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ</p>	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(芸術工学部芸術工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基幹教育科目	言語文化基礎科目 専門英語	2前①・② ・後③・④		2			○				2		2		
	小計 (1科目)	-	0	2	0		-		0	2	0	2	0		
理系ディシプリン科目	数理統計学	2前①～② ・後③～④	1.5				○						1		
	空間表現実習Ⅱ	1後③～④		2				○		1					
	デザイン史	2後③～④	2				○			1					
	小計 (3科目)	-	3.5	2	0		-		0	2	0	1	0		
健康・スポーツ科目	身体運動科学実習Ⅱ	2前①～②		1					○	1					
	小計 (1科目)	-	0	1	0		-		1	0	0	0	0		
高年次基幹教育科目	サイバー空間デザイン	2前①～②		2			○				1				
	芸術学概論	3後③～④		1			○							兼1 集中	
	音楽・音響論	2後③～④		2			○			1					
	デザインと観察	2前①～②		2			○			1					
	日本国憲法	3前①～② ・後③～④		2			○							兼1	
	小計 (5科目)	-	0	9	0		-		0	3	0	0	0	兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専攻教育科目	基礎造形	基礎造形Ⅰ	2前①	1				○			1					
		基礎造形Ⅱ	2前②	1				○			1					
		基礎造形Ⅲ	2後③		1				○		1					
		基礎造形Ⅳ	2後④		1				○		1					
	人間とデザイン	文化とデザイン	2前①		1				○		1					
		社会とデザイン	2前②		1				○		1					
		人間科学とデザイン	2前①		1				○		1					
		科学技術とデザイン	2前②		1				○		1					
	デザイン論	デザイン論Ⅰ	3後③		1				○		1					
		デザイン論Ⅱ	3後④		1				○		1					
		デザイン・ケーススタディⅡ	3後③		1				○		1					
	小計(11科目)		-	2	9	0			-		2	5	0	0	0	
	コース基礎科目	空間デザイン実習	2前①		2				○			2				共同
		環境設計プロジェクトA	2前①		2				○		1	1		1		共同
		環境設計プロジェクトB	2前②		2				○			1		2		共同
空間情報分析実習Ⅰ		2後③		1				○			1					
空間情報分析実習Ⅱ		2後④		1				○			1					
プロダクトデザイン概論		2前①		1				○		1	2		1		オムニバス	
ライフスケープデザイン概論		2前②		1				○			2		1		オムニバス	
サービスデザイン概論		2前②		1				○			2				オムニバス	
人間工学概論		2前①		2				○		3			3		オムニバス	
視覚芸術基礎		2前①		1				○			1					
コンセプト論		2後③		1				○			1					
デザインスケッチ		2前②		1				○			1				※講義	
環境と持続可能性		2後③		1				○		1						
クリティカルシンキング		2前①		1				○		1			1		共同	
プログラミング基礎		2前②		1				○			1					
情報科学Ⅰ		2前①		1				○			1					
生命科学入門Ⅰ		2前②		1				○					1			
メディアデザイン概論Ⅲ		2前①		1				○		1	3		3		オムニバス・共同(一部)	
メディア表現基礎		2前①		2				○		2	3		2		オムニバス・共同(一部)※講義	
メディアプログラミング	2前①		2				○			3				オムニバス※演習		
聴覚生理学	2前①		2				○			2		1		オムニバス		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	聴覚心理学	2後③		2		○				2					オムニバス
	音文化論	2前①		2		○				1					
	音響理論演習Ⅰ	2前①		2		○				1					※演習
	音響理論演習Ⅱ	2後③		2		○			1						※演習
	音響信号処理	2前①		2		○			1						
	デジタル信号処理	2後③		2		○				1					
	小計 (27科目)	-	0	40	0		-		12	28	0	14	0		
コース 専門科目	環境設計コース 専門科目														
	構造理論Ⅰ	2前①		1		○				1					
	構造理論Ⅱ	2前②		1		○				1					
	環境材料論Ⅰ	2前①		1		○					1				
	環境材料論Ⅱ	2前②		1		○					1				
	環境調整システム論	2前①		2		○						1			
	建築デザイン計画論	2後③		2		○			1						
	環境構法論	2後④		2		○				1					
	建築法規	2後④		1		○			1						
	構法設計論	3前①		2		○				1					
	建築空間設計論	3前②		2		○				1					
	環境情報論Ⅰ	3後③		1		○			1						
	環境情報論Ⅱ	3後④		1		○			1						
	構造システム論Ⅰ	3後③		1		○				1					
	構造システム論Ⅱ	3後④		1		○				1					
	設備計画論	3後③		2		○						1			
	建築生産	3後③		2		○				1					
	環境テクノロジー実習A	3前①		1			○			1					
	環境テクノロジー実習B	3前②		1			○					1			
	西洋建築史	3前①		1			○			1					
	近代建築史	3前②		1			○					1			
	環境文化財論	3前②		2			○					1			
	日本建築史	3後③		2			○			1					
歴史環境実習	3後④		1				○		1		1			共同	
都市環境設計論	2前②		2			○			1						
環境保全論	2後③		2			○				1					
緑地環境設計論	2後④		2			○				1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	ランドスケープデザイン論	3前①		2		○				1					
	緑地環境実習	2前①		1				○		1					
	環境社会デザイン論	2前②		1		○			1						
	データ解析	2後③		1		○						1			
	物質文化論	2後④		1		○			1						
	ファシリテーション	3前①		1			○			1					
	環境倫理学	3前①		1		○			1						
	芸術コミュニケーション論	3前①		1		○				1					
	アーツマネジメント論	3後③		1		○						1			
	Design Pitching Skills	2後③		1			○			1		2			共同
	Start-ups and Global Disruptors	2前②		1			○					2			オムニバス ※講義
	Intellectual Property Rights : Global Perspective	2後④		1			○					2			オムニバス ※講義
	Global Design Innovations	2前②		1			○					2			オムニバス 共同(一部) ※講義
	国際環境デザインA I	3前①		1		○			1						※演習
	国際環境デザインAII	3前②		1		○			1						※演習
	国際環境デザインAIII	3後③		1		○			1						※演習
	国際環境デザインAIV	3後④		1		○			1						※演習
	国際環境デザインB I	3前①		2		○			1						※演習
	国際環境デザインBII	3前②		2		○			1						※演習
	国際環境デザインBIII	3後③		2		○			1						※演習
	国際環境デザインBIV	3後④		2		○			1						※演習
	インターンシップ(学部) I	3・4通		1				○	1						
	インターンシップ(学部) II	3・4通		1				○	1						
	小計(49科目)	-	0	66	0	-	-	-	4	7	1	7	0		
イン ダ ス ト リ ア ル デ ザ イ ン コ ー ス 専 門 科 目	プロダクトデザイン実践論	2前②		1		○			1	2		1			オムニバス
	ライフスケープデザイン実践論	2後③		1		○				2		1			オムニバス
	サービスデザイン実践論	2後④		1		○				2					オムニバス
	イノベーションデザイン論・演習 I	3前①		2			○		1	2		1			オムニバス・共同 ※講義
	イノベーションデザイン論・演習 II	3前②		2			○		1	2		1			オムニバス・共同 ※講義
	ライフスケープデザイン 実践論・演習 I	3前①		2			○			2		1			共同 ※講義
	ライフスケープデザイン 実践論・演習 II	3前②		2			○			2		1			共同 ※講義
	ソーシャルデザイン論・演習 I	3前①		2			○			2					オムニバス ※講義
	ソーシャルデザイン論・演習 II	3前②		2			○			2					オムニバス ※講義

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	クリエイティブデザイン演習	3後③～④		2			○		1	6		2		
	福祉人間工学	2前②		1		○			1					
	データ解析	2後③		1		○					1			
	環境人間工学	2後④		1		○			1					
	環境生理学	2後③		1		○			1					
	感性科学	2前②		1		○			1					
	行動生理学	2後④		1		○			1					
	生活機能支援科学	3後③		1		○					1			
	データマイニング I	3前①		1		○					1			
	データマイニング II	3前②		1		○					1			
	生理人類学	3前②		1		○			1					
	生体情報処理論	3前①		1		○					1			
	人間工学先端セミナー	3後③		1		○			3		3			共同
	リサーチリテラシー	3後③		1		○			1	2				オムニバス
	Design Pitching Skills	2後③		1			○			1		2		共同
	Start-ups and Global Disruptors	2前②		1			○					2		オムニバス ※講義
	Intellectual Property Rights : Global Perspective	2後④		1			○					2		オムニバス ※講義
	Global Design Innovations	2前②		1			○					2		オムニバス 共同(一部) ※講義
	国際インダストリアルデザインA I	3前①		1		○			1					※演習
	国際インダストリアルデザインA II	3前②		1		○			1					※演習
	国際インダストリアルデザインA III	3後③		1		○			1					※演習
	国際インダストリアルデザインA IV	3後④		1		○			1					※演習
	国際インダストリアルデザインB I	3前①		2		○			1					※演習
	国際インダストリアルデザインB II	3前②		2		○			1					※演習
	国際インダストリアルデザインB III	3後③		2		○			1					※演習
	国際インダストリアルデザインB IV	3後④		2		○			1					※演習
	インターンシップ (学部) I	3・4通		1				○	1					
	インターンシップ (学部) II	3・4通		1				○	1					
	小計 (37科目)	-	0	48	0			-	4	7	0	7	0	
未 来 構 想 専 門 科 目 ゼ ン	芸術表現論	2後③		1			○			1				
	西洋美術史	2前①		1		○			1					
	芸術文化論	2後④		1		○			1					※演習
	芸術環境論	3前①		1		○			1					※演習

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	身体表現演習Ⅰ	2前①		1			○						1		
	身体表現演習Ⅱ	2前②		1			○						1		
	応用音楽表現演習Ⅰ	2後③		1			○			1			2		共同
	応用音楽表現演習Ⅱ	2後④		1			○			1			2		共同
	先端芸術表現論	3前②		1			○			1					
	デザイン哲学	2前②		1			○		1						
	デザイン美学	2後④		1			○		1						
	デザイン編集論・演習	2後③		1				○		1					※講義
	デザイン材料論・演習	2後④		1				○					1		※講義
	バイオアート&デザイン論・演習	3後④		1				○					1		※講義
	未来デザイン方法論	2前①		1			○			1					
	デザイン要素論・演習	2後③		1				○		1					※講義
	デザイン設計論・演習	3前①		1				○		1					※講義
	デザイン実装論・演習	3前②		1				○		1					※講義
	環境倫理学	3前①		1			○		1						
	物質文化論	2後④		1			○		1						
	グローバル化と伝統的社会	3後③		1			○		1						
	環境社会デザイン論	2前②		1			○		1						
	価値と政策	3後④		1			○			1					
	表象文化論	2後④		1			○			1					
	芸術コミュニケーション論	3前①		1			○			1					
	アーツマネジメント論	3後③		1			○						1		
	教育における多様性	3後④		1				○					1		※講義
	質的社会調査法	2後③		1			○						1		※演習
	ファシリテーション	3前①		1				○		1					
	アート・デザイン・ライティング演習	2後④		1				○				1			
	主観評価法	3前①～②		2			○		1	2					オムニバス ※演習
	フィジカルコンピューティングとIoT	3前①		1			○			1					※演習
	ウェブサービスデザイン	3前②		2			○			1					※演習
	データ解析	2後③		1			○						1		
	プログラミング設計	2後③		1				○		1					
	シミュレーション数理	3前①		1			○			1					
	シミュレーション演習	3前①		1				○		1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	情報科学Ⅱ	2後④		1		○				1					
	情報科学Ⅲ	3前①		1		○				1					
	データマイニングⅠ	3前①		1		○						1			
	データマイニングⅡ	3前②		1		○						1			
	先端情報生命科学Ⅰ	2後③		1		○				1					
	先端情報生命科学Ⅱ	2後④		1		○				1					
	生命科学入門Ⅱ	3前①		1		○						1			
	生命科学実習	3後③		1				○				1			
	知覚心理学	2前②		2		○			1	2		1			オムニバス
	Design Pitching Skills	2後③		1			○			1		2			共同
	Start-ups and Global Disruptors	2前②		1			○					2			オムニバス ※講義
	Intellectual Property Rights : Global Perspective	2後④		1			○					2			オムニバス ※講義
	Global Design Innovations	2前②		1			○					2			オムニバス 共同(一部) ※講義
	国際未来構想デザインAⅠ	3前①		1		○			1						※演習
	国際未来構想デザインAⅡ	3前②		1		○			1						※演習
	国際未来構想デザインAⅢ	3後③		1		○			1						※演習
	国際未来構想デザインAⅣ	3後④		1		○			1						※演習
	国際未来構想デザインBⅠ	3前①		2		○			1						※演習
	国際未来構想デザインBⅡ	3前②		2		○			1						※演習
	国際未来構想デザインBⅢ	3後③		2		○			1						※演習
	国際未来構想デザインBⅣ	3後④		2		○			1						※演習
	インターンシップ(学部)Ⅰ	3・4通		1				○	1						
	インターンシップ(学部)Ⅱ	3・4通		1				○	1						
	小計(60科目)	-	0	67	0			-	3	10	0	6	0		
メ デ ィ ア デ ザ ィ ン コ ー ス 専 門 科 目	ゲームデザイン	2後③		2		○				1					※演習
	映像表現	2前①		2		○			1						※演習
	アニメーション表現	2前②		2		○				1					※演習
	芸術論	2前①		2		○				1					※演習
	数理造形	3前①		2		○						1			※演習
	タイポグラフィックデザイン	2前②		1			○		1						※講義
	グラフィックデザイン	2後④		1		○			1						※演習
	広告クリエイティブデザイン	3後③		1		○			1	1		1			オムニバス ※演習
	情報デザイン	2後③		2		○						1			※演習

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	インタラクショナルデザイン	2後③		2		○				1						
	メカニクスデザイン	2前①		2		○				1						※演習
	バーチャルリアリティ	3前①		2		○				1						
	コンピュータグラフィックス	2後③		2		○			1							
	ウェブサービスデザイン	2前②		2		○				1						※演習
	コンピュータビジョン	3後③		2		○				1						
	メディア情報処理	2前①		2		○				1						
	コンテンツ工学	2前②		2		○				1						
	フィジカルコンピューティングとIoT	3前①		1		○				1						※演習
	視覚心理学	2前①		2		○			1							
	色彩学	2前②		2		○				1						
	心理学的思考法	3後③		2		○				1						※演習
	言葉とコミュニケーション	2後③		2		○							2			オムニバス
	演劇文化論	2後④		2		○				1						
	知的財産法	3前②		2		○							1			
	知覚心理学	2前②		2		○			1	2			1			オムニバス
	主観評価法	3前①～②		2		○			1	2						オムニバス ※演習
	Design Pitching Skills	2後③		1			○			1			2			共同
	Start-ups and Global Disruptors	2前②		1			○						2			オムニバス ※講義
	Intellectual Property Rights : Global Perspective	2後④		1			○						2			オムニバス ※講義
	Global Design Innovations	2前②		1			○						2			オムニバス 共同(一部) ※講義
	国際メディアデザインA I	3前①		1		○			1							※演習
	国際メディアデザインA II	3前②		1		○			1							※演習
	国際メディアデザインA III	3後③		1		○			1							※演習
	国際メディアデザインA IV	3後④		1		○			1							※演習
	国際メディアデザインB I	3前①		2		○			1							※演習
	国際メディアデザインB II	3前②		2		○			1							※演習
	国際メディアデザインB III	3後③		2		○			1							※演習
	国際メディアデザインB IV	3後④		2		○			1							※演習
	インターンシップ(学部) I	3・4通		1				○	1							
	インターンシップ(学部) II	3・4通		1				○	1							
	小計(40科目)	-	0	66	0	-	-	-	4	16	0	8	0			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
音響設計コース専門科目	知覚心理学	2前②		2		○			1	2			1		オムニバス	
	主観評価法	3前①～②		2		○			1	2					オムニバス ※演習	
	電気工学	2前①～②		2		○							1			
	電子工学	2後③～④		2		○								1		
	情報理論	3前①～②		2		○								1		
	データ解析	2後③		1		○								1		
	データマイニング I	3前①		1		○								1		
	データマイニング II	3前②		1		○								1		
	質的社会調査法	2後③		1		○								1		※演習
	比較音楽理論	2前②		2		○								1		
	西洋音楽史	2後③		2		○								1		
	音文化論演習	2後④		2			○				1					※講義
	芸術コミュニケーション論	3前①		1		○					1					
	音楽学	3前①		2		○								1		オムニバス
	聴覚認知論	3前①～②		2		○					1					
	音声情報学	2後④		2		○				1				1		オムニバス
	デジタル信号処理演習	2後④		2			○				1					※講義
	音響メディア工学	3前②		2		○				1						
	音響メディア工学演習	3後③		2			○			1						※講義
	応用音響理論	2後④		2		○					1					
	音響機器論	2後④		2		○								1		
	騒音環境学	3前①		2		○				1	2					オムニバス
	非線形理論	3前②		2		○				1	2					オムニバス
	楽器音響学	3後③		2		○				1	1					オムニバス
	室内音響学	3後④		2		○				1						
	Design Pitching Skills	2後③		1			○				1			2		共同
	Start-ups and Global Disruptors	2前②		1				○						2		オムニバス ※講義
	Intellectual Property Rights : Global Perspective	2後④		1				○						2		オムニバス ※講義
	Global Design Innovations	2前②		1				○						2		オムニバス 共同(一部) ※講義
	国際音響デザインA I	3前①		1			○			1						※演習
	国際音響デザインA II	3前②		1			○			1						※演習
	国際音響デザインA III	3後③		1			○			1						※演習
国際音響デザインA IV	3後④		1			○			1						※演習	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	国際音響デザインBI	3前①		2		○			1						※演習
	国際音響デザインBII	3前②		2		○			1						※演習
	国際音響デザインBIII	3後③		2		○			1						※演習
	国際音響デザインBIV	3後④		2		○			1						※演習
	インターンシップ(学部)I	3・4通		1				○	1						
	インターンシップ(学部)II	3・4通		1				○	1						
	小計(39科目)	-	0	63	0			-	3	10	0	8	0		
コース 演習科目 (PBL)	環境設計 コース 演習科目 (PBL)	環境設計プロジェクトC	2後③	2			○			1					共同
		環境設計プロジェクトD	2後④	2			○		1	1					共同
		環境設計プロジェクトE	3前①	2			○		1	1					共同
		環境設計プロジェクトF	3前②	2			○			1					共同
		環境設計プロジェクトG	3後③	2			○		1						
		環境設計プロジェクトH	3後④	2			○			1					
		環境総合プロジェクトA	4前①	2			○		2	5	2	3			
		環境総合プロジェクトB	4前②	2			○		2	5	2	3			
		小計(8科目)	-	0	16	0			-	2	5	2	3	0	
(PBL) インダ ストリアル デザイン コース 演習科目	プロダクトデザイン実践論・演習I	2前①		2			○		1	2		1			オムニス・共同 ※講義
	プロダクトデザイン実践論・演習II	2前②		2			○		1	2		1			オムニス・共同 ※講義
	ライフスケープデザイン論・演習I	2後③		2			○			2		1			共同 ※講義
	ライフスケープデザイン論・演習II	2後④		2			○			2		1			共同 ※講義
	ビジネスデザイン論・演習I	2前②		2			○		1	2					オムニス ※講義
	ビジネスデザイン論・演習II	2後③		2			○			2		1			オムニス ※講義
	人間工学演習I	2前①～②		4			○		3			3			共同
	人間工学演習II	3前①～②		4			○		3			3			共同
	人間工学プロジェクト演習	3後③～④		4			○		3			3			共同
	フィールド調査論・演習	2後③～④		4			○		1	2		1			オムニス・ 共同(一部) ※講義
小計(10科目)	-	0	28	0			-	4	6	0	5	0			
未来 構想 デザイン コース 演習科目 (PBL)	共通課題PBL演習A	2前①		4			○		2	6		4			
	共通課題PBL演習B	3前①		4			○		2	6		4			
	プラットフォーム演習A	2後③		4			○		2	6		4			
	プラットフォーム演習B	3後③		4			○		2	6		4			
	プラットフォーム演習C	2後③		4			○		2	6		4			
	プラットフォーム演習D	3後③		4			○		2	6		4			
小計(6科目)	-	0	24	0			-	2	6	0	4	0			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
メディア デザイン イン コース 演習 科目 (P B L)	メディアデザイン 総合プロジェクトⅠ	3前①		2			○		4	12		5		共同	
	メディアデザイン 総合プロジェクトⅡ	3後④		2			○		4	12		5			
	コンテンツデザイン演習Ⅰ	2後③		2			○		1	1					
	コンテンツデザイン演習Ⅱ	2後④		2			○			1					
	造形表現演習	2前②		2			○			1		1			
	数理造形と表現演習	3前②		2			○			1		1			
	コミュニケーションデザイン演習 Ⅰ	2後④		2			○		1			1			
	コミュニケーションデザイン演習 Ⅱ	3前①		2			○		1			1			
	コンテンツインタラクション演習	3前①		2			○		1	4					オムニバス 共同(一部)
	実世界インタラクション演習	3前②		2			○			2					オムニバス
	クリエイティブ発想演習	3後③		2			○		1	6					共同
	クリエイティブ プロトタイピング演習	3後④		2			○		1	6					共同
	メディアサイエンス演習Ⅰ	2後④		2			○		1	1					オムニバス 共同(一部)
	メディアサイエンス演習Ⅱ	3前②		2			○			1					
	比較演劇・メディア文化演習	3前②		2			○			1		2			オムニバス
	知的財産マネジメント演習	3後③		2			○						1		
小計(16科目)	-	-	0	32	0		-		4	12	0	5	0		
音響 設計 コース 演習 科目 (P B L)	聴能形成Ⅱ	2前①～②		1				○		1		1		共同 ※講義	
	音響プログラミング演習	2前②		2			○			1		1		オムニバス	
	電気実験	3前①～②		2				○		1		1		共同	
	音楽理論表現演習	2前①～②		2			○					2		共同 ※講義	
	応用音楽表現演習Ⅰ	2後③		1			○			1		2		共同	
	応用音楽表現演習Ⅱ	2後④		1			○			1		2		共同	
	音響生成演習	3前②		2			○			1					
	收音音響構成	2前②		2				○			1				※講義
	環境音響構成	2後④		2				○			1				※講義
	音響実験Ⅰ	3前①		2			○		2	4		3			
音響実験Ⅱ	3後③～④		3			○		2	7		3				
小計(11科目)	-	-	0	20	0		-		2	7	0	4	0		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
ラ融合 プロジェクト フォー ム ト ・ プ	コース融合プロジェクトA	2・3・4前②・後③		4				○		14	36	2	20		
	コース融合プロジェクトB	2・3・4前②・後③		4				○		14	36	2	20		
	小計 (2科目)	-	0	8	0			-		14	36	2	20	0	
卒業 研究 ・ 設計	卒業研究 I	4前①～② ・後③～④	4					○		14	36	2	20		
	卒業研究 II	4前①～② ・後③～④	4					○		14	36	2	20		
	小計 (2科目)	-	8	0	0			-		14	36	2	20	0	
合計 (328科目)		-	13.5	501	0			-		14	36	2	20	0	兼2

学位又は称号	学士(芸術工学)	学位又は学科の分野	工学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
基幹教育科目から48単位以上、専攻教育科目から80単位以上を修得し、128単位以上修得すること (履修科目の登録上限 24単位(1学期))			1学年の学期区分	4学期
1. 基幹教育科目 48単位以上 (全コース共通) <ul style="list-style-type: none"> (a) 基幹教育セミナー (1単位修得) <必修科目> 基幹教育セミナー (1単位) (b) 課題協学科目 (2.5単位修得) <必修科目> 課題協学科目 (2.5単位) (c) 言語文化科目 (12単位修得) <必修科目> 学術英語A・リセプション (1単位) 学術英語A・プロダクション (1単位) 学術英語B・インテグレート (2単位) 学術英語A・CALL (1単位) 学術英語B・CALL (1単位) (d) 文系ディシプリン科目 (4単位修得) (e) 理系ディシプリン科目 (18単位修得) <必修科目> 情報科学 (1.5単位) 自然科学総合実験(基礎) (1単位) 自然科学総合実験(発展) (1単位) 数理統計学 (1.5単位) デザイン史 (2単位) 空間表現実習Ⅱ (2単位) ※インダストリアルデザインコースのみ (f) サイバーセキュリティ科目 (1単位修得) <必修科目> サイバーセキュリティ基礎論 (1単位) (g) 健康・スポーツ科目 (1単位修得) <必修科目> 健康・スポーツ科学演習 (1単位) (h) 総合科目 (1単位修得) (i) 高年次基幹教育科目 (2単位修得) (j) その他 (5.5単位修得) 基幹教育科目として開講される言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目、高年次基幹教育科目の中から選択 			1学期の授業期間	8週
			1時限の授業時間	90分
2. 専攻教育科目 80単位以上 <ul style="list-style-type: none"> (1) 環境設計コース <ul style="list-style-type: none"> (a) デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目> デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択 (b) コース基礎科目 (10単位修得) (c) 環境設計コース専門科目 (30単位修得) (d) 環境設計コース演習科目 (PBL) 及び 融合プロジェクト・プラットフォーム (12単位修得) (e) 深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、他コース科目4単位以上を含む12単位以上修得 (f) 卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目> 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ (2) インダストリアルデザインコース <ul style="list-style-type: none"> (a) デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目> デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択 (b) コース基礎科目 (7単位修得) (c) インダストリアルデザインコース専門科目 (21単位修得) (d) インダストリアルデザインコース演習科目 (PBL) 及び 融合プロジェクト・プラットフォーム (24単位修得) (e) 深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、他コース科目8単位以上を含む12単位以上修得 (f) 卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目> 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ (3) 未来構想デザインコース <ul style="list-style-type: none"> (a) デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目> デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択 (b) コース基礎科目 (10単位修得) (c) 未来構想デザインコース専門科目 (30単位修得) (d) 未来構想デザインコース演習科目 (PBL) (8単位修得) (e) 融合プロジェクト・プラットフォーム (4単位修得) (f) 深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、他コース科目8単位以上を含む12単位以上修得 (g) 卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目> 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ 				

卒業要件及び履修方法	授業期間等
<p>(4)メディアデザインコース</p> <p>(a)デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目>デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び 「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択</p> <p>(b)コース基礎科目 (7単位修得)</p> <p>(c)メディアデザインコース専門科目 (25単位修得)</p> <p>(d)メディアデザインコース演習科目 (PBL) 及び 融合プロジェクト・プラットフォーム (20単位修得) <必修科目>メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ</p> <p>(f)深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、 他コース科目4単位以上を含む12単位以上修得</p> <p>(g)卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目>卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ</p>	
<p>(5)音響設計コース</p> <p>(a)デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目>デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び 「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択</p> <p>(b)コース基礎科目 (14単位修得)</p> <p>(c)音響設計コース専門科目 (22単位修得)</p> <p>(d)音響設計コース演習科目 (PBL) 及び 融合プロジェクト・プラットフォーム (16単位修得) <必修科目>音楽理論表現演習、音響実験Ⅰ、音響実験Ⅱ</p> <p>(e)深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、 他コース科目4単位以上を含む12単位以上修得</p> <p>(f)卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目>卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ</p>	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(芸術工学部環境設計学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	1前②	1				○						1		兼52
	小計(1科目)	-	1	0	0		-		0	0	0	1	0		兼52
課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5				○								兼17
	小計(1科目)	-	2.5	0	0		-		0	0	0	0	0		兼17
言語文化科目	言語文化基礎科目 学術英語A・リセプション	1前①～②	1				○						1		兼4
	学術英語A・プロダクション	1前①～②	1				○			1					兼7
	学術英語B・インテグレート	1後③～④	2				○					2			兼12
	学術英語AB・再履修	1・2後③～④ 2前①～②		1			○								兼1
	学術英語A・CALL	1前①～②	1				○								兼1
	学術英語B・CALL	1後③～④	1				○								兼1
	学術英語C・テーマベース	2前①・② ・後③・④		1			○								兼2
	学術英語C・スキルベース	2前①・② ・後③・④		1			○			1					兼3
	専門英語	2前①・② ・後③・④		2			○			2		2			
	学術英語C・集中演習	1・2後③～④ ・2前①～②		2			○								兼2
	ドイツ語I	1前①～②		2			○								兼1
	ドイツ語II	1後③～④		2			○								兼1
	ドイツ語III	2前①～②		1			○								兼1
	ドイツ語プラクティクムI	1後③～④		1			○								兼2
	ドイツ語プラクティクムII	2前①～②		1			○								兼1
	フランス語I	1前①～②		2			○								兼2
	フランス語II	1後③～④		2			○								兼2
	フランス語III	2前①～②		1			○								兼2
フランス語プラクティクI	1後③～④		1			○								兼1	
フランス語プラクティクII	2前①～②		1			○								兼1	
中国語I	1前①～②		2			○								兼2	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
	中国語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼2
	中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	中国語実践Ⅰ	1後③～④		1		○								兼2
	中国語実践Ⅱ	2前①～②		1		○								兼2
	ロシア語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼1
	ロシア語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼1
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	ロシア語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1
	韓国語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼2
	韓国語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	韓国語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1
	スペイン語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼1
	スペイン語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼1
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	スペイン語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①		1		○								兼1
言語文化 自由選択科目	入門ドイツ語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1
	入門ドイツ語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1
	ドイツ語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1
	ドイツ語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1
	ドイツ語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1
	ドイツ語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1
	入門フランス語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1
	入門フランス語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1
	フランス語実用会話	2前①～②		2		○								兼1
	フランス語読解・作文コース	2前①～②		2		○								兼1
	フランス語圏の言語と文化	2後③～④		2		○								兼1
	入門中国語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼2
	入門中国語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	中国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	中国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門ロシア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門ロシア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門韓国語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門韓国語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	韓国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	韓国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門スペイン語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門スペイン語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	総合スペイン語演習	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	表現スペイン語	2後③～④		2		○								兼1	
	スペイン語圏の言語と文化	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	入門インドネシア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門インドネシア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門イタリア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門イタリア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	速習オランダ語	1前①～②		2		○								兼1	
	速習エスペラント	1前①～②		2		○								兼1	
	古典ギリシア語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1	
	古典ギリシア語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1	
	ラテン語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1	
	ラテン語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1	
	小計(82科目)	-	6	125	0	-			0	2	0	2	0	兼55	
文系 ディ シ プ リ ン 科 目	哲学・思想入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼1	
	社会思想史	1前①～② ・後③～④		2		○								兼1	
	先史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	歴史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	文学・言語学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼3	
	芸術学入門	1前①～② ・後③～④		2		○			1					兼2	
	文化人類学入門	1前①～② 1後③～④		2		○								兼3	
	地理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼4	
	社会学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	心理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼4	
	現代教育学入門	1前①・② ・後③・④		1		○								兼5	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	教育基礎学入門	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	法学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	政治学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3
	経済学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	経済史入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○									兼1
	小計 (17科目)	-	0	32	0	-			0	1	0	0	0		兼36
理系 ディ シ プ リ ン 科 目	社会と数理科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼3
	微分積分学	1後③～④	1.5			○									兼3
	微分積分学・同演習A	1前①～②		1.5			○								兼1
	微分積分学・同演習B	1後③～④		1.5			○								兼1
	微分積分学・同演習I	1前①～②		1.5			○								兼4
	微分積分学・同演習II	1後③・ 後③～④		1.5			○								兼4
	微分積分学・同演習III	1後④・ 2前①～②		1.5			○								兼4
	線形代数	1前①～②	1.5			○									兼2
	線形代数学・同演習A	1前①～②		1.5			○								兼2
	線形代数学・同演習B	1後③～④		1.5			○								兼2
	数学演習I A	1前①～②		1			○								兼2
	数学演習I B	1後③～④		1			○								兼2
	数学演習II	2前①～②		1			○								兼4
	数理統計学	2前①～② ・後③～④	1.5			○						1			兼1
	身の回りの物理学A	1前①・② ・後③・④		1		○									兼2
	身の回りの物理学B	1前①・② ・後③・④		1		○									兼1
	物理学概論A	1前①～②		1.5		○									兼1
	物理学概論B	1後③～④		1.5		○									兼1
	物理学概論A演習	1前①～②		1			○								兼1
	物理学概論B演習	1後③～④		1			○								兼1
	基幹物理学I A	1前①～②	1.5			○									兼2
	基幹物理学I B	1後③～④		1.5		○									兼2
	基幹物理学I A演習	1前①～②		1			○								兼1
	基幹物理学I B演習	1後③～④		1			○								兼1
	力学演習	1後③～④		1			○								兼2
	物理学の進展	2前①～②		1.5		○									兼1
	基幹物理学II	2前①～②		1.5		○									兼1
	電気電子工学入門	2前①～②		2		○									兼1
	原子核物理学	2後③～④		2		○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	身の回りの化学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	基礎化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	無機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	有機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	基礎化学結合論	1前①～② ・後③～④		1.5		○				1					兼1
	基礎化学熱力学	1後③～④		1.5		○									兼1
	現代化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生物有機化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	機器分析学	2後④		2		○									兼1
	生命の科学A	1前①・② ・後③・④		1		○									兼4
	生命の科学B	1前①・② ・後③・④		1		○									兼6
	基礎生物学概要	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	細胞生物学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	集団生物学	1後③～④		1.5		○									兼1
	分子生物学	2前①～②		1.5		○									兼2
	生態系の科学	2前①～②		1.5		○									兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○									兼2
	最先端地球科学	2前②・後③		1		○									兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		1.5		○									兼1
	デザイン思考	1前①・② ・後③・④		1		○				5		1			オムニバス
	図形科学	1前①～② ・後③～④	1.5			○				2					
	空間表現実習Ⅰ	1前①～② ・後③～④	2				○			2					
	空間表現実習Ⅱ	1後③～④	2				○			2					
	世界建築史	2前①		2		○									兼1
	日本建築史	2前②		2		○									兼1
	近・現代建築史	2後③・④		2		○									兼1
	デザイン史	2後③～④	2			○				1					
	情報科学	1前①～② ・後③～④	1.5			○									兼2
	プログラミング演習	1前①～② ・後③～④	1				○								兼2
	コンピュータープログラミング入門	2後③	1			○									兼1
	自然科学総合実験（基礎）	1前①・後③	1					○							兼12
	自然科学総合実験（発展）	1前②・後④	1					○							兼12
	小計（63科目）	-	17	71	0	-			0	10	1	2	0	兼90	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○									兼3
	小計 (1科目)	-	1	0	0	-			0	0	0	0	0		兼3
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○								兼5
	身体運動科学実習Ⅰ	1後③～④		1				○							兼5
	身体運動科学実習Ⅱ	2前①～②		1					1						兼3
	身体運動科学実習Ⅲ	2後③～④ ・3前①～②		1											兼2
	身体運動科学実習Ⅳ	2後③～④ ・3前①～②		1											兼2
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③		1		○									兼1
	健康・スポーツ科学講義ⅠB	1後④		1		○									兼1
	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	2前①～②		2		○									兼1
小計 (8科目)	-	1	8	0	-			1	0	0	0	0		兼6	
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○									兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○									兼1
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○									兼1
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○									兼1
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○									兼1
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○									兼1
	日本事情	1前①～②		2		○									兼1
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○									兼1
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○									兼1
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○									兼1
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○									兼1
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○									兼1
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○									兼1
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○									兼1
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○									兼1
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1		○									兼1
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○									兼1
	コミュニケーション入門	1前①		1		○									兼1
体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○									兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○									兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○									兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○									兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○									兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○									兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○							兼1	
	フィールドに学ぶB	1後④		1				○							兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○									兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○									兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○									兼1	集中
	ことばの科学	1前①		1		○									兼1	
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○									兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○									兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○									兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	1前②		1		○									兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○									兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○									兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○									兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	体験的農業生産学入門	1前③～④		1				○							兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○									兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○									兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○									兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○									兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○									兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	企業から見たサイバーセキュリティ	1前②・後④		1		○									兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○								兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (サーバー構築編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (ハードウェア設計編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (IoTセキュリティ編)	1後③～④		1			○								兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○									兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○									兼1	集中
	Contemporary American Society:A Sociological Introduction	1後④		1		○									兼1	
	アイデア・ラボ I	1前②		2		○									兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する I (軌跡 編)	1前①		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する II (現在 編)	1前②		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する III (展望 編)	1後③		1		○									兼1	
	少人数セミナー	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5	
	小計 (71科目)	-	0	79	0	-			0	0	0	0	0		兼50	
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	科学の歴史A	2前①		1		○									兼1	
	科学の歴史B	2前②		1		○									兼1	
	科学の基礎 (哲学的考察)	2後③		1		○									兼1	
	脳情報科学入門	3前①		1		○									兼1	
	認知心理学	2後④		1		○									兼1	
	Brain and Mind	2後③		1		○									兼1	
	機械学習と人工知能	2後③		1		○									兼1	
	現代社会 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代社会 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代社会 III	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代社会 IV	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代史 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代史 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代史 III	2前①～②		2		○									兼1	隔年
	現代史 IV	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	EU論基礎—制度と経済—	2前①～②		2		○									兼1	
	技術と産業・企業	3前①～②		2		○									兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①～②		2		○									兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○									兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○				1						
	芸術学概論	3後③～④		1		○									兼1	集中
	音楽・音響論	2後③～④		2		○				1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	デザインと観察	2前①～②		2		○				1					
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○									兼1
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○									兼1
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○									兼1
	自然災害と防災	2後③～④		2		○									兼1
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③		1		○									兼1 隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後④		1		○									兼1 隔年
	男女共同参画	2後③～④		2		○									兼1
	ボランティア活動Ⅰ	2通		1				○							兼1 集中
	ボランティア活動Ⅱ	2通		1				○							兼1 集中
	インターンシップⅠ	2通		1				○							兼1 集中
	インターンシップⅡ	2通		1				○							兼1 集中
	漢方医薬学	3前①～②		1		○									兼1 集中
	チーム医療演習	3後③～④		1			○								兼1 集中
	バイオインフォマティクス	3後③～④		2		○									兼1 集中
	臨床イメージング	2後③		1		○									兼1
	社会と健康	3前①～②		2		○									兼1
	国際保健と医療	2後③～④		2		○									兼1
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○									兼1 集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○									兼1
	生物多様性と人間文化A	2前①		1		○									兼1
	生物多様性と人間文化B	2前②		1		○									兼1
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○									兼1
	バイオテクノロジー詳論	2後③～④		2		○									兼1 隔年
	平和と安全の構築学	2後④		1		○									兼1
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○									兼1
	東アジアと日本—その歴史と現在—	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○									兼1
	東アジアの政治と社会	2後③～④		2		○									兼1
	プレゼンテーション基礎	2前①～②		1			○								兼1 集中
	レトリック基礎	2前①～②		1			○								兼1 集中
	共創発想法	2後③		2			○								兼1
	動的現象の科学	3前①		2		○									兼1
	誘導現象の科学	3前②		2		○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
	データマイニングと情報可視化	2後④		1			○								兼1	
	技術と倫理	2後④		1		○									兼1	
	医療における倫理	2前①～②		2		○									兼1	
	研究と倫理	2後③		1		○									兼1	
	社会と倫理	2後④		1		○									兼1	
	インフォームドコンセント	3前①～②		1		○									兼1	
	葉害	3後③～④		1		○									兼1	
	臨床倫理	3後③～④		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・会計/ ファイナンス基礎	2後④		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ 戦略論基礎	2前②		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ 組織論基礎	2前①		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ マーケティング基礎	2後③		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論 I	2前①		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論 II	2前②		1		○									兼1	集中
	リスクマネジメント	2後③～④		2		○									兼1	
	ビジネス統計学	2前②		1			○								兼1	隔年
	社会統計学 A	3後③		1			○								兼1	
	社会統計学 B	3後④		1			○								兼1	
	社会調査法 I A	2前①		1			○								兼1	
	社会調査法 I B	2前②		1			○								兼1	
	社会調査法 II A	2後③		1			○								兼1	隔年
	社会調査法 II B	2後④		1			○								兼1	隔年
	教育学特論	2前①～② ・後③～④		2		○									兼1	
	教育心理学特論 (教育・学校心理 学)	2後③～④		2		○									兼1	
	日本国憲法	3前①～② ・後③～④		2		○									兼2	
	小計 (83科目)	-	0	124	0	-	-	-	0	3	0	0	0		兼65	
専攻 教育 科目	環境設計基礎 I	1前①～②	2			○			4	1						オムニバース
	環境設計基礎 II	1後③～④	2			○			4	1	1					オムニバース
	構造理論	2前①～②	2			○				1						
	空間デザイン実習	2前①～②	2				○		2	2				兼1	オムニバース・ 共同 (一部)	
	空間プロジェクト	2前①～②	4				○		1	1		1		兼4	オムニバース・ 共同 (一部)	
	空間情報分析実習	2後③～④	2				○			1		2			オムニバース・ 共同 (一部)	
	建築プロジェクト	2後③～④	4				○			1				兼3	オムニバース	
	ランドスケーププロジェクト	3前①～②	4				○		1	1				兼2	オムニバース	
	都市プロジェクト	3後③～④	4				○		1	1				兼1	オムニバース	
	卒業研究 I	4前①～② ・後③～④	2				○		8	6	2	4				

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	卒業研究Ⅱ	4前①～② ・後③～④	4				○		8	6	2	4		
	基礎造形	2後③～④		2			○		1					兼1 オムニバス
	知覚心理学	2前①～②		2		○				3		1		兼1 オムニバス
	主観評価法	3前①～②		2		○				3				オムニバス
	デザインストラテジー基礎	4前①～②		2		○			2	2				オムニバス ※演習
	インターンシップ(学部)	3・4通		2			○			1				
	環境材料論	2前①～②		2		○					1			
	環境調整システム論	2前①		2		○						1		
	環境保全論	2後③		2		○				1				
	建築デザイン計画論	2後③～④		2		○			1					
	緑地環境設計論	2後③～④		2		○			1					
	環境構法論	2後④		2		○				1				
	環境人類学	2後③		2		○			1					
	歴史環境設計論	3後③		2		○				1				
	環境文化財論	3後③～④		2		○						1		
	都市環境設計論	2後③～④		2		○				1				
	環境社会経済デザイン論	2後④		2		○			1					
	環境倫理学	3後③～④		2		○			1					
	環境情報論	3後③～④		2		○			1					
	構造システム論	3後③～④		2		○				1				
	環境形成史	3前①		2		○			1					
	建築空間設計論	3前②		2		○				1				
	ポートフォリオマネジメント	3後③～④		2		○			1					※演習
	構法設計論	3前①～②		2		○				1				兼5 集中
	設備計画論	3後③～④		2		○						1		
	建築生産	3後③～④		2		○				1				兼5 集中
	建築法規	2後③～④		1		○			1					兼1 オムニバス
	環境総合プロジェクト	4前①～②		4			○		8	6	2	4		オムニバス
	緑地環境実習	2前①～②		1			○			1				集中
	歴史環境実習	3後③～④		1			○		1	1		1		共同 集中
	環境設計文献購読	3前①～②		2			○		2	1		1		オムニバス
	環境テクノロジー実習	3前①～②		2			○			1		1		共同
	芸術文化環境論	3前①～②		2		○			1					兼2 オムニバス
	統計・データ科学	3前①～②		2		○			1					
	小計(44科目)	-	32	65	0	-	-	-	10	11	2	5	0	兼24

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部内 自由科目	芸術工学特別演習 1	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 2	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 3	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 4	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 5	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 6	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 7	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 8	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 9	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 10	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 11	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 12	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 13	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 14	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 15	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 16	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 17	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 18	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 19	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 20	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
小計 (20科目)		-	0	30	0	-			1	0	0	0	0		
合計 (391科目)		-	60.5	534	0	-			11	22	2	9	0	兼398	

学位又は称号	学士（芸術工学） 学士（学術）	学位又は学科の分野	工学関係、文学関係、理学関係、 社会学・社会福祉学関係、法学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
基幹教育科目から48単位以上、専攻教育科目から80単位以上を修得し、128単位以上修得すること ①基幹教育科目（48単位以上修得） (a)基幹教育セミナー（1単位修得） <必修科目> （1単位科目）基幹教育セミナー (b)課題協学科目（2.5単位修得） <必修科目> （2.5単位科目）課題協学科目 (c)言語文化科目（12単位修得） 第1外国語（英語）（8単位修得） 第2外国語（1カ国語選択）（4単位修得） (d)文系ディシプリン科目（4単位修得） <選択必修科目>（4単位修得） （2単位科目） 哲学・思想入門、社会思想史、先史学入門、歴史学入門、文学・言語学入門、 芸術学入門、文化人類学入門、地理学入門、社会学入門、心理学入門、 法学入門、政治学入門、経済学入門、経済史入門、 The Law and Politics of International Society （1単位科目） 現代教育学入門、教育基礎学入門 (e)理系ディシプリン科目（18.5単位修得） <必修科目>（17単位修得） （2単位科目） 空間表現実習Ⅰ、空間表現実習Ⅱ、デザイン史 （1.5単位科目） 微分積分学、線形代数、数理統計学、基幹物理学ⅠA、図形科学、情報科学 （1単位科目） 自然科学総合実験（基礎）、自然科学総合実験（発展） <選択必修科目>（1.5単位修得） （1.5単位科目） 基幹物理学ⅠB、基礎化学、基礎生物学概要 （1単位科目） 地球科学 (f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） <必修科目> （1単位科目）サイバーセキュリティ基礎論 (g)健康・スポーツ科目（1単位修得） <必修科目> （1単位科目）健康・スポーツ科学演習 (h)総合科目（1.5単位修得） (i)高年次基幹教育科目（2単位修得） (j)その他（4.5単位修得） 基幹教育科目の授業科目のうち、最低修得単位数を超えて修得する授業科目、 専攻教育科目（在籍学科の科目を除く）のうち、最低修得単位数を超えて 修得する授業科目又は他学部の専攻教育科目から選択			1学年の学期区分	4学期
			1学期の授業期間	8週
			1時限の授業時間	90分
②専攻教育科目（80単位以上修得） <必修科目>（32単位修得） （4単位科目） 空間プロジェクト、建築プロジェクト、ランドスケーププロジェクト、 都市プロジェクト、卒業研究Ⅱ （2単位科目） 環境設計基礎Ⅰ、環境設計基礎Ⅱ、構造理論、空間デザイン実習、 空間情報分析実習、卒業研究Ⅰ <選択必修科目>（27単位修得） 以下の科目から選択（24単位修得） （2単位科目） 環境材料論、環境調整システム論、環境保全論、建築デザイン計画論、 緑地環境設計論、環境構法論、環境人類学、都市環境設計論、 環境社会経済デザイン論、環境形成史、建築空間設計論、歴史環境設計論、 環境文化財論、環境倫理学、環境情報論、構造システム論、 ポートフォリオマネジメント 以下の科目から選択（3単位修得） （2単位科目） 環境設計文献購読、環境テクノロジー実習 （1単位科目） 緑地環境実習、歴史環境実習 <学部内自由科目>（6単位修得） 芸術工学特別演習1～20の他、本学科又は芸術工学部の他学科の専攻教育科目 のうち、本学科の専攻教育科目の必修単位として修得する科目以外の授業科目 からも選択可能				

教 育 課 程 等 の 概 要															
(芸術工学部工業設計学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	1前②	1					○					1		兼52
	小計(1科目)	-	1	0	0			-		0	0	0	1	0	兼52
課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5					○							兼17
	小計(1科目)	-	2.5	0	0			-		0	0	0	0	0	兼17
言語文化科目	言語文化基礎科目 学術英語A・リセプション	1前①～②	1					○					1		兼4
	学術英語A・プロダクション	1前①～②	1					○		1					兼7
	学術英語B・インテグレート	1後③～④	2					○				2			兼12
	学術英語AB・再履修	1・2後③～④ 2前①～②		1				○							兼1
	学術英語A・CALL	1前①～②	1					○							兼1
	学術英語B・CALL	1後③～④	1					○							兼1
	学術英語C・テーマベース	2前①・② ・後③・④	1					○							兼2
	学術英語C・スキルベース	2前①・② ・後③・④	1					○		1					兼3
	専門英語	2前①・② ・後③・④	2					○		2		2			
	学術英語C・集中演習	1・2後③～④ ・2前①～②	2					○							兼2
	ドイツ語I	1前①～②	2					○							兼1
	ドイツ語II	1後③～④	2					○							兼1
	ドイツ語III	2前①～②	1					○							兼1
	ドイツ語プラクティクムI	1後③～④	1					○							兼2
	ドイツ語プラクティクムII	2前①～②	1					○							兼1
	フランス語I	1前①～②	2					○							兼2
	フランス語II	1後③～④	2					○							兼2
	フランス語III	2前①～②	1					○							兼2
	フランス語プラクティクI	1後③～④	1					○							兼1
	フランス語プラクティクII	2前①～②	1					○							兼1
中国語I	1前①～②	2					○							兼2	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
	中国語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼2
	中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	中国語実践Ⅰ	1後③～④		1		○								兼2
	中国語実践Ⅱ	2前①～②		1		○								兼2
	ロシア語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼1
	ロシア語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼1
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	ロシア語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1
	韓国語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼2
	韓国語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	韓国語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1
	スペイン語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼1
	スペイン語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼1
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	スペイン語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①		1		○								兼1
言語文化 自由選択科目	入門ドイツ語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1
	入門ドイツ語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1
	ドイツ語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1
	ドイツ語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1
	ドイツ語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1
	ドイツ語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1
	入門フランス語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1
	入門フランス語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1
	フランス語実用会話	2前①～②		2		○								兼1
	フランス語読解・作文コース	2前①～②		2		○								兼1
	フランス語圏の言語と文化	2後③～④		2		○								兼1
	入門中国語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼2
	入門中国語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	中国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	中国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門ロシア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門ロシア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門韓国語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門韓国語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	韓国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	韓国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門スペイン語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門スペイン語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	総合スペイン語演習	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	表現スペイン語	2後③～④		2		○								兼1	
	スペイン語圏の言語と文化	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	入門インドネシア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門インドネシア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門イタリア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門イタリア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	速習オランダ語	1前①～②		2		○								兼1	
	速習エスペラント	1前①～②		2		○								兼1	
	古典ギリシア語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1	
	古典ギリシア語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1	
	ラテン語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1	
	ラテン語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1	
	小計(82科目)	-	6	125	0	-			0	2	0	2	0	兼55	
文系 ディ シ プ リ ン 科 目	哲学・思想入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼1	
	社会思想史	1前①～② ・後③～④		2		○								兼1	
	先史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	歴史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	文学・言語学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼3	
	芸術学入門	1前①～② ・後③～④		2		○			1					兼2	
	文化人類学入門	1前①～② 1後③～④		2		○								兼3	
	地理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼4	
	社会学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	心理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼4	
	現代教育学入門	1前①・② ・後③・④		1		○								兼5	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	教育基礎学入門	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	法学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	政治学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3
	経済学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	経済史入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○									兼1
	小計 (17科目)	-	0	32	0	-			0	1	0	0	0		兼36
理系 ディ シ プ リ ン 科 目	社会と数理科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼3
	微分積分学	1後③～④		1.5		○									兼3
	微分積分学・同演習A	1前①～②	1.5				○								兼1
	微分積分学・同演習B	1後③～④	1.5				○								兼1
	微分積分学・同演習I	1前①～②		1.5			○								兼4
	微分積分学・同演習II	1後③・ 後③～④		1.5			○								兼4
	微分積分学・同演習III	1後④・ 2前①～②		1.5			○								兼4
	線形代数	1前①～②		1.5		○									兼2
	線形代数学・同演習A	1前①～②	1.5				○								兼2
	線形代数学・同演習B	1後③～④	1.5				○								兼2
	数学演習I A	1前①～②		1			○								兼2
	数学演習I B	1後③～④		1			○								兼2
	数学演習II	2前①～②		1			○								兼4
	数理統計学	2前①～② ・後③～④	1.5			○					1				兼1
	身の回りの物理学A	1前①・② ・後③・④		1		○									兼2
	身の回りの物理学B	1前①・② ・後③・④		1		○									兼1
	物理学概論A	1前①～②		1.5		○									兼1
	物理学概論B	1後③～④		1.5		○									兼1
	物理学概論A演習	1前①～②		1			○								兼1
	物理学概論B演習	1後③～④		1			○								兼1
	基幹物理学I A	1前①～②		1.5		○									兼2
	基幹物理学I B	1後③～④		1.5		○									兼2
	基幹物理学I A演習	1前①～②		1			○								兼1
	基幹物理学I B演習	1後③～④		1			○								兼1
	力学演習	1後③～④		1			○								兼2
	物理学の進展	2前①～②		1.5		○									兼1
	基幹物理学II	2前①～②		1.5		○									兼1
	電気電子工学入門	2前①～②		2		○									兼1
	原子核物理学	2後③～④		2		○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	身の回りの化学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	基礎化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	無機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	有機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	基礎化学結合論	1前①～② ・後③～④		1.5		○				1					兼1
	基礎化学熱力学	1後③～④		1.5		○									兼1
	現代化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生物有機化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	機器分析学	2後④		2		○									兼1
	生命の科学A	1前①・② ・後③・④		1		○									兼4
	生命の科学B	1前①・② ・後③・④		1		○									兼6
	基礎生物学概要	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	細胞生物学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	集団生物学	1後③～④		1.5		○									兼1
	分子生物学	2前①～②		1.5		○									兼2
	生態系の科学	2前①～②		1.5		○									兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○									兼2
	最先端地球科学	2前②・後③		1		○									兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		1.5		○									兼1
	デザイン思考	1前①・② ・後③・④		1		○				5		1			オムニバス
	図形科学	1前①～② ・後③～④	1.5			○				2					
	空間表現実習Ⅰ	1前①～② ・後③～④	2				○			2					
	空間表現実習Ⅱ	1後③～④	2				○			2					
	世界建築史	2前①		2		○									兼1
	日本建築史	2前②		2		○									兼1
	近・現代建築史	2後③・④		2		○									兼1
	デザイン史	2後③～④	2			○				1					
	情報科学	1前①～② ・後③～④	1.5			○									兼2
	プログラミング演習	1前①～② ・後③～④		1			○								兼2
	コンピュータープログラミング入門	2後③		1		○									兼1
	自然科学総合実験（基礎）	1前①・後③	1					○							兼12
	自然科学総合実験（発展）	1前②・後④	1					○							兼12
	小計（63科目）	-	18.5	69.5	0	-			0	10	1	2	0	兼90	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○									兼3
	小計(1科目)	-	1	0	0	-			0	0	0	0	0		兼3
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○								兼5
	身体運動科学実習Ⅰ	1後③～④		1				○							兼5
	身体運動科学実習Ⅱ	2前①～②		1					1						兼3
	身体運動科学実習Ⅲ	2後③～④ ・3前①～②		1											兼2
	身体運動科学実習Ⅳ	2後③～④ ・3前①～②		1											兼2
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③		1		○									兼1
	健康・スポーツ科学講義ⅠB	1後④		1		○									兼1
	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	2前①～②		2		○									兼1
小計(8科目)	-	1	8	0	-			1	0	0	0	0		兼6	
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○									兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○									兼1
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○									兼1
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○									兼1
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○									兼1
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○									兼1
	日本事情	1前①～②		2		○									兼1
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○									兼1
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○									兼1
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○									兼1
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○									兼1
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○									兼1
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○									兼1
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○									兼1
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○									兼1
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1		○									兼1
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○									兼1
	コミュニケーション入門	1前①		1		○									兼1
体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○									兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○									兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○									兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○									兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○									兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○									兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○							兼1	
	フィールドに学ぶB	1後④		1				○							兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○									兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○									兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○									兼1	集中
	ことばの科学	1前①		1		○									兼1	
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○									兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○									兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○									兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	1前②		1		○									兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○									兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○									兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○									兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	体験的農業生産学入門	1前③～④		1				○							兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○									兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○									兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○									兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○									兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○									兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	企業から見たサイバーセキュリティ	1前②・後④		1		○									兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○								兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (サーバー構築編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (ハードウェア設計編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (IoTセキュリティ編)	1後③～④		1			○								兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○									兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○									兼1	集中
	Contemporary American Society:A Sociological Introduction	1後④		1		○									兼1	
	アイデア・ラボ I	1前②		2		○									兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する I (軌跡 編)	1前①		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する II (現在 編)	1前②		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する III (展望 編)	1後③		1		○									兼1	
	少人数セミナー	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5	
	小計 (71科目)	-	0	79	0	-			0	0	0	0	0		兼50	
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	科学の歴史A	2前①		1		○									兼1	
	科学の歴史B	2前②		1		○									兼1	
	科学の基礎 (哲学的考察)	2後③		1		○									兼1	
	脳情報科学入門	3前①		1		○									兼1	
	認知心理学	2後④		1		○									兼1	
	Brain and Mind	2後③		1		○									兼1	
	機械学習と人工知能	2後③		1		○									兼1	
	現代社会 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代社会 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代社会 III	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代社会 IV	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代史 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代史 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代史 III	2前①～②		2		○									兼1	隔年
	現代史 IV	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	EU論基礎—制度と経済—	2前①～②		2		○									兼1	
	技術と産業・企業	3前①～②		2		○									兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①～②		2		○									兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○									兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○				1						
	芸術学概論	3後③～④		1		○									兼1	集中
	音楽・音響論	2後③～④		2		○				1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	デザインと観察	2前①～②		2		○				1					
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○									兼1
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○									兼1
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○									兼1
	自然災害と防災	2後③～④		2		○									兼1
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③		1		○									兼1 隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後④		1		○									兼1 隔年
	男女共同参画	2後③～④		2		○									兼1
	ボランティア活動Ⅰ	2通		1				○							兼1 集中
	ボランティア活動Ⅱ	2通		1				○							兼1 集中
	インターンシップⅠ	2通		1				○							兼1 集中
	インターンシップⅡ	2通		1				○							兼1 集中
	漢方医薬学	3前①～②		1		○									兼1 集中
	チーム医療演習	3後③～④		1			○								兼1 集中
	バイオインフォマティクス	3後③～④		2		○									兼1 集中
	臨床イメージング	2後③		1		○									兼1
	社会と健康	3前①～②		2		○									兼1
	国際保健と医療	2後③～④		2		○									兼1
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○									兼1 集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○									兼1
	生物多様性と人間文化A	2前①		1		○									兼1
	生物多様性と人間文化B	2前②		1		○									兼1
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○									兼1
	バイオテクノロジー詳論	2後③～④		2		○									兼1 隔年
	平和と安全の構築学	2後④		1		○									兼1
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○									兼1
	東アジアと日本—その歴史と現在—	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○									兼1
	東アジアの政治と社会	2後③～④		2		○									兼1
	プレゼンテーション基礎	2前①～②		1			○								兼1 集中
	レトリック基礎	2前①～②		1			○								兼1 集中
	共創発想法	2後③		2			○								兼1
	動的現象の科学	3前①		2		○									兼1
	誘導現象の科学	3前②		2		○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
	データマイニングと情報可視化	2後④		1			○								兼1	
	技術と倫理	2後④		1		○									兼1	
	医療における倫理	2前①～②		2		○									兼1	
	研究と倫理	2後③		1		○									兼1	
	社会と倫理	2後④		1		○									兼1	
	インフォームドコンセント	3前①～②		1		○									兼1	
	葉害	3後③～④		1		○									兼1	
	臨床倫理	3後③～④		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・会計/ ファイナンス基礎	2後④		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ 戦略論基礎	2前②		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ 組織論基礎	2前①		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ マーケティング基礎	2後③		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論 I	2前①		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論 II	2前②		1		○									兼1	集中
	リスクマネジメント	2後③～④		2		○									兼1	
	ビジネス統計学	2前②		1			○								兼1	隔年
	社会統計学 A	3後③		1			○								兼1	
	社会統計学 B	3後④		1			○								兼1	
	社会調査法 I A	2前①		1			○								兼1	
	社会調査法 I B	2前②		1			○								兼1	
	社会調査法 II A	2後③		1			○								兼1	隔年
	社会調査法 II B	2後④		1			○								兼1	隔年
	教育学特論	2前①～② ・後③～④		2		○									兼1	
	教育心理学特論 (教育・学校心理 学)	2後③～④		2		○									兼1	
	日本国憲法	3前①～② ・後③～④		2		○									兼2	
	小計 (83科目)	-	0	124	0	-	-	-	0	3	0	0	0		兼65	
専 攻 教 育 科 目	人間工学概論	2前①～②	2			○			4				3			オムニバース
	人間工学設計法	3前①～②	2			○			4				3	兼1		オムニバース
	デザイン理論	2前①～②	2			○				2						オムニバース
	生活機器デザイン論	2前①～②	2			○				2			1			オムニバース
	生活空間デザイン論	2前①～②	2			○				1			1			オムニバース
	工業設計基礎演習 I	1前①～②	1				○		4	2			2			オムニバース
	工業設計基礎演習 II	1後③～④	1				○			1						
	卒業研究 I	4前①～② ・後③～④	2				○		5	8			5			
	卒業研究 II	4前①～② ・後③～④	4				○		5	8			5			
	工業設計モデリング演習	2前①～②		1			○			2						オムニバース

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	知覚心理学	2前①～②		2		○				3		1		兼1	オムニバス
	主観評価法	3前①～②		2		○				3					オムニバス ※演習
	デザインストラテジー基礎	4前①～②		2		○			2	2					※演習
	インターンシップ(学部)	3・4通		2				○		1					
	統計・データ科学	3前		2		○			1						
	電子工学	2後③～④		2		○						1		兼1	オムニバス ※演習
	知的財産論	3前①～②		2		○						1			
	情報理論	3前①～②		2		○						1		兼1	オムニバス ※演習
	感性科学	3前①～②		2		○			1						
	福祉人間工学	2前①～②		2		○			1						
	行動生理学	2後③～④		2		○			1						
	生理人類学	2後③～④		2		○			1					兼2	オムニバス 集中
	環境人間工学	3前①～②		2		○			1						
	聴覚生理学	2前①～②		2		○				2		1			オムニバス
	人間工学研究法	3後③～④		2		○			4			2		兼1	オムニバス
	人間工学測定演習	2前①～②		2			○		4			2			オムニバス
	フィールド調査演習	2後③～④		2			○		4			2		兼1	オムニバス・共同 (一部)※講義
	生体情報処理演習	3前①～②		2			○		4			2		兼1	オムニバス
	人間工学設計演習	3後③～④		2			○		4			2			オムニバス
	現代生活デザイン論・演習	3前①～②		3		○				1					※演習
	生活機器設計論・演習	2後③～④		3		○				2		1			オムニバス ※演習
	生活空間設計論・演習	2後③～④		3		○			1	1		1		兼2	オムニバス ※演習
	生活機器造形論・演習	3前①～②		3		○				2		1			オムニバス ※演習
	生活空間造形論・演習	3前①～②		3		○				1		1		兼1	オムニバス ※演習
	デザインシステム論・演習	3後③～④		3		○				2					オムニバス ※演習
	インタラクションデザイン	2後③～④		2		○						1		兼1	オムニバス
	デザイン思考法	2・3・4通		2		○			1						集中
	インダストリアルデザイン基礎演習A	2前①～②		2			○			2		1			オムニバス
	インダストリアルデザイン基礎演習B	2後③～④		2			○			3					オムニバス
	計画設計プロジェクト演習	3後③～④		2			○		1	6		2			オムニバス
	工業設計力学Ⅰ	2前①～②		2		○				1					
	工業設計力学Ⅱ	2後③～④		2		○				1					
	設計多変量解析	2後③～④		2		○						1			
	機能工学基礎	3前①～②		2		○				1					
	機能デザイン論	3後③～④		2		○				1					
	応用時系列解析	3後③～④		2		○						1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	構造理論	2前①～②		2		○				1					
	機械学習	3後③～④		2		○			1						
	デジタルモデリング演習	3前①～②		2			○			1		1			オムニバス
	機能工学デザイン演習	3後③～④		2			○			1					
	工業設計プロジェクト研究	4前①～②		2			○		1	1		1			オムニバス
	小計 (51科目)	-	18	89	0	-	-	-	7	13	0	10	0	兼12	
学部内自由科目	芸術工学特別演習 1	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 2	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 3	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 4	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 5	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 6	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 7	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 8	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 9	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 10	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 11	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 12	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 13	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 14	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 15	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 16	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 17	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 18	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 19	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 20	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
		小計 (20科目)	-	0	30	0	-	-	-	1	0	0	0	0	
	合計 (398科目)	-	48	556.5	0	-	-	-	8	21	1	13	0	兼386	

学位又は称号	学士 (芸術工学) 学士 (学術)	学位又は学科の分野	工学関係、文学関係、理学関係、 社会学・社会福祉学関係、法学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
基幹教育科目から48単位以上、専攻教育科目から80単位以上を修得し、128単位以上修得すること				
①基幹教育科目 (48単位以上修得) (a)基幹教育セミナー (1単位修得) <必修科目> (1単位科目) 基幹教育セミナー (b)課題協学科目 (2.5単位修得) <必修科目> (2.5単位科目) 課題協学科目			1 学年の学期区分	4 学期
(c)言語文化科目 (12単位修得) 第1外国語 (英語) (8単位修得) 第2外国語 (1カ国語選択) (4単位修得) (d)文系ディシプリン科目 (4単位修得) <選択必修科目> (2単位科目) 哲学・思想入門、社会思想史、先史学入門、歴史学入門、文学・言語学入門、 芸術学入門、文化人類学入門、地理学入門、社会学入門、心理学入門、 法学入門、政治学入門、経済学入門、経済史入門、 The Law and Politics of International Society (1単位科目) 現代教育学入門、教育基礎学入門			1 学期の授業期間	8 週
(e)理系ディシプリン科目 (21単位修得) <必修科目> (18.5単位修得) (2単位科目) 空間表現実習 I、空間表現実習 II、デザイン史 (1.5単位科目) 微分積分学・同演習 A、微分積分学・同演習 B、線形代数学・同演習 A、 線形代数学・同演習 B、数理統計学、図形科学、情報科学 (1単位科目) 自然科学総合実験 (基礎)、自然科学総合実験 (発展) <選択必修科目> (2.5単位修得) (1.5単位科目) 基幹物理学 I A、基幹物理学 I B、基礎生物学概要、集団生物学 (1単位科目) 基幹物理学 I A 演習、基幹物理学 I B 演習			1 時限の授業時間	90 分
(f)サイバーセキュリティ科目 (1単位修得) <必修科目> (1単位科目) サイバーセキュリティ基礎論 (g)健康・スポーツ科目 (1単位修得) <必修科目> (1単位科目) 健康・スポーツ科学演習 (h)総合科目 (1.5単位修得) (i)高年次基幹教育科目 (2単位修得) (j)その他 (2単位修得) 基幹教育科目の授業科目のうち、最低修得単位数を超えて修得する授業科目、 専攻教育科目 (在籍学科の科目を除く) のうち、最低修得単位数を超えて 修得する授業科目又は他学部の専攻教育科目から選択				
②専攻教育科目 (80単位以上修得) <必修科目> (18単位修得) (4単位科目) 卒業研究 II (2単位科目) 人間工学概論、人間工学設計法、デザイン理論、生活機器デザイン論、 生活空間デザイン論、卒業研究 I (1単位科目) 工業設計基礎演習 I、工業設計基礎演習 II <選択必修科目> 以下の科目から選択 (6単位修得) (2単位科目) 感性科学、福祉人間工学、行動生理学、生理人類学、環境人間工学、 以下の科目から選択 (9単位修得) (3単位科目) 現代生活デザイン論・演習、生活機器設計論・演習、 生活空間設計論・演習、生活機器造形論・演習 生活空間造形論・演習、デザインシステム論・演習 以下の科目から選択 (8単位修得) (2単位科目) 工業設計力学 I、工業設計力学 II、設計多変量解析、機能工学基礎、 機能デザイン論、応用時系列解析 <学部内自由科目> (6単位修得) 芸術工学特別演習 1～20 の他、本学科又は芸術工学部の他学科の専攻教育科目 のうち、本学科の専攻教育科目の必修単位として修得する科目以外の授業科目 からも選択可能				

教 育 課 程 等 の 概 要															
(芸術工学部画像設計学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	1前②	1					○					1		兼52
	小計(1科目)	-	1	0	0			-		0	0	0	1	0	兼52
課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5					○							兼17
	小計(1科目)	-	2.5	0	0			-		0	0	0	0	0	兼17
言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語A・リセプション	1前①～②	1				○					1		兼4
		学術英語A・プロダクション	1前①～②	1				○			1				兼7
		学術英語B・インテグレート	1後③～④	2				○					2		兼12
		学術英語AB・再履修	1・2後③～④ 2前①～②		1			○							兼1
		学術英語A・CALL	1前①～②	1				○							兼1
		学術英語B・CALL	1後③～④	1				○							兼1
		学術英語C・テーマベース	2前①・② ・後③・④		1			○							兼2
		学術英語C・スキルベース	2前①・② ・後③・④		1			○			1				兼3
		専門英語	2前①・② ・後③・④		2			○			2		2		
		学術英語C・集中演習	1・2後③～④ ・2前①～②		2			○							兼2
		ドイツ語I	1前①～②		2			○							兼1
		ドイツ語II	1後③～④		2			○							兼1
		ドイツ語III	2前①～②		1			○							兼1
		ドイツ語プラクティクムI	1後③～④		1			○							兼2
		ドイツ語プラクティクムII	2前①～②		1			○							兼1
		フランス語I	1前①～②		2			○							兼2
		フランス語II	1後③～④		2			○							兼2
		フランス語III	2前①～②		1			○							兼2
		フランス語プラクティク I	1後③～④		1			○							兼1
	フランス語プラクティク II	2前①～②		1			○							兼1	
	中国語I	1前①～②		2			○							兼2	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
	中国語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼2
	中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	中国語実践Ⅰ	1後③～④		1		○								兼2
	中国語実践Ⅱ	2前①～②		1		○								兼2
	ロシア語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼1
	ロシア語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼1
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	ロシア語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1
	韓国語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼2
	韓国語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	韓国語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1
	スペイン語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼1
	スペイン語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼1
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	スペイン語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①		1		○								兼1
言語文化 自由選択科目	入門ドイツ語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1
	入門ドイツ語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1
	ドイツ語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1
	ドイツ語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1
	ドイツ語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1
	ドイツ語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1
	入門フランス語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1
	入門フランス語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1
	フランス語実用会話	2前①～②		2		○								兼1
	フランス語読解・作文コース	2前①～②		2		○								兼1
	フランス語圏の言語と文化	2後③～④		2		○								兼1
	入門中国語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼2
	入門中国語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	中国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	中国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門ロシア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門ロシア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門韓国語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門韓国語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	韓国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	韓国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門スペイン語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門スペイン語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	総合スペイン語演習	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	表現スペイン語	2後③～④		2		○								兼1	
	スペイン語圏の言語と文化	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	入門インドネシア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門インドネシア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門イタリア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門イタリア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	速習オランダ語	1前①～②		2		○								兼1	
	速習エスペラント	1前①～②		2		○								兼1	
	古典ギリシア語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1	
	古典ギリシア語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1	
	ラテン語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1	
	ラテン語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1	
	小計(82科目)	-	6	125	0	-			0	2	0	2	0	兼55	
文系 ディ シ プ リ ン 科 目	哲学・思想入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼1	
	社会思想史	1前①～② ・後③～④		2		○								兼1	
	先史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	歴史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	文学・言語学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼3	
	芸術学入門	1前①～② ・後③～④		2		○			1					兼2	
	文化人類学入門	1前①～② 1後③～④		2		○								兼3	
	地理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼4	
	社会学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	心理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼4	
	現代教育学入門	1前①・② ・後③・④		1		○								兼5	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	教育基礎学入門	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	法学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	政治学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3
	経済学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	経済史入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○									兼1
	小計 (17科目)	-	0	32	0	-			0	1	0	0	0		兼36
理 系 デ ィ シ プ リ ン 科 目	社会と数理科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼3
	微分積分学	1後③～④		1.5		○									兼3
	微分積分学・同演習A	1前①～②	1.5				○								兼1
	微分積分学・同演習B	1後③～④	1.5				○								兼1
	微分積分学・同演習I	1前①～②		1.5			○								兼4
	微分積分学・同演習II	1後③・ 後③～④		1.5			○								兼4
	微分積分学・同演習III	1後④・ 2前①～②		1.5			○								兼4
	線形代数	1前①～②		1.5		○									兼2
	線形代数学・同演習A	1前①～②	1.5				○								兼2
	線形代数学・同演習B	1後③～④	1.5				○								兼2
	数学演習I A	1前①～②		1			○								兼2
	数学演習I B	1後③～④		1			○								兼2
	数学演習II	2前①～②		1			○								兼4
	数理統計学	2前①～② ・後③～④	1.5			○					1				兼1
	身の回りの物理学A	1前①・② ・後③・④		1		○									兼2
	身の回りの物理学B	1前①・② ・後③・④		1		○									兼1
	物理学概論A	1前①～②		1.5		○									兼1
	物理学概論B	1後③～④		1.5		○									兼1
	物理学概論A演習	1前①～②		1			○								兼1
	物理学概論B演習	1後③～④		1			○								兼1
	基幹物理学I A	1前①～②		1.5		○									兼2
	基幹物理学I B	1後③～④		1.5		○									兼2
	基幹物理学I A演習	1前①～②		1			○								兼1
	基幹物理学I B演習	1後③～④		1			○								兼1
	力学演習	1後③～④		1			○								兼2
	物理学の進展	2前①～②		1.5		○									兼1
	基幹物理学II	2前①～②		1.5		○									兼1
	電気電子工学入門	2前①～②		2		○									兼1
	原子核物理学	2後③～④		2		○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	身の回りの化学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	基礎化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	無機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	有機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	基礎化学結合論	1前①～② ・後③～④		1.5		○				1					兼1
	基礎化学熱力学	1後③～④		1.5		○									兼1
	現代化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生物有機化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	機器分析学	2後④		2		○									兼1
	生命の科学A	1前①・② ・後③・④		1		○									兼4
	生命の科学B	1前①・② ・後③・④		1		○									兼6
	基礎生物学概要	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	細胞生物学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	集団生物学	1後③～④		1.5		○									兼1
	分子生物学	2前①～②		1.5		○									兼2
	生態系の科学	2前①～②		1.5		○									兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○									兼2
	最先端地球科学	2前②・後③		1		○									兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		1.5		○									兼1
	デザイン思考	1前①・② ・後③・④		1		○				5		1			オムニバス
	図形科学	1前①～② ・後③～④		1.5		○				2					
	空間表現実習Ⅰ	1前①～② ・後③～④		2			○			2					
	空間表現実習Ⅱ	1後③～④		2			○			2					
	世界建築史	2前①		2		○									兼1
	日本建築史	2前②		2		○									兼1
	近・現代建築史	2後③・④		2		○									兼1
	デザイン史	2後③～④		2		○				1					
	情報科学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	プログラミング演習	1前①～② ・後③～④		1			○								兼2
	コンピュータープログラミング入門	2後③		1		○									兼1
	自然科学総合実験（基礎）	1前①・後③		1				○							兼12
	自然科学総合実験（発展）	1前②・後④		1				○							兼12
	小計（63科目）	-		13	75	0	-		0	10	1	2	0		兼90

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○									兼3
	小計(1科目)	-	1	0	0	-			0	0	0	0	0		兼3
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○								兼5
	身体運動科学実習Ⅰ	1後③～④		1				○							兼5
	身体運動科学実習Ⅱ	2前①～②		1					1						兼3
	身体運動科学実習Ⅲ	2後③～④ ・3前①～②		1											兼2
	身体運動科学実習Ⅳ	2後③～④ ・3前①～②		1											兼2
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③		1		○									兼1
	健康・スポーツ科学講義ⅠB	1後④		1		○									兼1
	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	2前①～②		2		○									兼1
小計(8科目)	-	1	8	0	-			1	0	0	0	0		兼6	
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○									兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○									兼1
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○									兼1
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○									兼1
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○									兼1
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○									兼1
	日本事情	1前①～②		2		○									兼1
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○									兼1
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○									兼1
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○									兼1
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○									兼1
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○									兼1
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○									兼1
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○									兼1
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○									兼1
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1		○									兼1
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○									兼1
	コミュニケーション入門	1前①		1		○									兼1
体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○									兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○									兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○									兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○									兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○									兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○									兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○							兼1	
	フィールドに学ぶB	1後④		1				○							兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○									兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○									兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○									兼1	集中
	ことばの科学	1前①		1		○									兼1	
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○									兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○									兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○									兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	1前②		1		○									兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○									兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○									兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○									兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	体験的農業生産学入門	1前③～④		1				○							兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○									兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○									兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○									兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○									兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○									兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	企業から見たサイバーセキュリティ	1前②・後④		1		○									兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○								兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (サーバー構築編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (ハードウェア設計編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (IoTセキュリティ編)	1後③～④		1			○								兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○									兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○									兼1	集中
	Contemporary American Society:A Sociological Introduction	1後④		1		○									兼1	
	アイデア・ラボ I	1前②		2		○									兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する I (軌跡 編)	1前①		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する II (現在 編)	1前②		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する III (展望 編)	1後③		1		○									兼1	
	少人数セミナー	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5	
	小計 (71科目)	-	0	79	0	-			0	0	0	0	0		兼50	
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	科学の歴史A	2前①		1		○									兼1	
	科学の歴史B	2前②		1		○									兼1	
	科学の基礎 (哲学的考察)	2後③		1		○									兼1	
	脳情報科学入門	3前①		1		○									兼1	
	認知心理学	2後④		1		○									兼1	
	Brain and Mind	2後③		1		○									兼1	
	機械学習と人工知能	2後③		1		○									兼1	
	現代社会 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代社会 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代社会 III	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代社会 IV	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代史 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代史 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代史 III	2前①～②		2		○									兼1	隔年
	現代史 IV	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	EU論基礎—制度と経済—	2前①～②		2		○									兼1	
	技術と産業・企業	3前①～②		2		○									兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①～②		2		○									兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○									兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○				1						
	芸術学概論	3後③～④		1		○									兼1	集中
	音楽・音響論	2後③～④		2		○				1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	デザインと観察	2前①～②		2		○				1					
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○									兼1
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○									兼1
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○									兼1
	自然災害と防災	2後③～④		2		○									兼1
	生態系の構造と機能 I	2後③		1		○									兼1 隔年
	生態系の構造と機能 II	2後④		1		○									兼1 隔年
	男女共同参画	2後③～④		2		○									兼1
	ボランティア活動 I	2通		1				○							兼1 集中
	ボランティア活動 II	2通		1				○							兼1 集中
	インターンシップ I	2通		1				○							兼1 集中
	インターンシップ II	2通		1				○							兼1 集中
	漢方医薬学	3前①～②		1		○									兼1 集中
	チーム医療演習	3後③～④		1			○								兼1 集中
	バイオインフォマティクス	3後③～④		2		○									兼1 集中
	臨床イメージング	2後③		1		○									兼1
	社会と健康	3前①～②		2		○									兼1
	国際保健と医療	2後③～④		2		○									兼1
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○									兼1 集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○									兼1
	生物多様性と人間文化 A	2前①		1		○									兼1
	生物多様性と人間文化 B	2前②		1		○									兼1
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○									兼1
	バイオテクノロジー詳論	2後③～④		2		○									兼1 隔年
	平和と安全の構築学	2後④		1		○									兼1
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○									兼1
	東アジアと日本ーその歴史と現在ー	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○									兼1
	東アジアの政治と社会	2後③～④		2		○									兼1
	プレゼンテーション基礎	2前①～②		1			○								兼1 集中
	レトリック基礎	2前①～②		1			○								兼1 集中
	共創発想法	2後③		2			○								兼1
	動的現象の科学	3前①		2		○									兼1
	誘導現象の科学	3前②		2		○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
	データマイニングと情報可視化	2後④		1			○								兼1	
	技術と倫理	2後④		1		○									兼1	
	医療における倫理	2前①～②		2		○									兼1	
	研究と倫理	2後③		1		○									兼1	
	社会と倫理	2後④		1		○									兼1	
	インフォームドコンセント	3前①～②		1		○									兼1	
	葉害	3後③～④		1		○									兼1	
	臨床倫理	3後③～④		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・会計/ ファイナンス基礎	2後④		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ 戦略論基礎	2前②		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ 組織論基礎	2前①		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ マーケティング基礎	2後③		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論 I	2前①		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論 II	2前②		1		○									兼1	集中
	リスクマネジメント	2後③～④		2		○									兼1	
	ビジネス統計学	2前②		1			○								兼1	隔年
	社会統計学 A	3後③		1			○								兼1	
	社会統計学 B	3後④		1			○								兼1	
	社会調査法 I A	2前①		1			○								兼1	
	社会調査法 I B	2前②		1			○								兼1	
	社会調査法 II A	2後③		1			○								兼1	隔年
	社会調査法 II B	2後④		1			○								兼1	隔年
	教育学特論	2前①～② ・後③～④		2			○								兼1	
	教育心理学特論 (教育・学校心理 学)	2後③～④		2			○								兼1	
	日本国憲法	3前①～② ・後③～④		2			○								兼2	
	小計 (83科目)	-	0	124	0	-	-	-	0	3	0	0	0		兼65	
専 攻 教 育 科 目	視覚学	2前②	2			○			1	3		1				オムニバス
	色彩学	2後③～④	2			○				1						
	視覚芸術基礎 I	1前①～②	2				○		1	1		1				オムニバス ※講義
	視覚芸術基礎 II	1後③～④	2				○			2		1				オムニバス ※講義
	視覚芸術基礎 III	2前①～②	2				○		2	3		2				オムニバス ※講義
	画像工学基礎	2前①～②	2			○				3						オムニバス
	画像工学プログラミング	2前①～②	2				○			2						オムニバス
	卒業研究 I	4前①～② ・後③～④	2				○		3	9		3				
	卒業研究 II	4前①～② ・後③～④	4				○		3	9		3				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	知覚心理学	2前①～②		2		○				3		1		兼1	オムニバス
	主観評価法	3前①～②		2		○				3					オムニバス ※演習
	デザインストラテジー基礎	4前①～②		2		○			2	2					※演習
	インターンシップ(学部)	3・4通		2			○					1			
	統計・データ科学	3前①～②		2		○			1						
	機械学習	3後③～④		2		○			1						
	設計多変量解析	2後③～④		2		○						1			
	応用時系列解析	3後③～④		2		○						1			
	コンピュータグラフィックス	2前①～②		2		○			1						
	知的財産論	3前①～②		2		○						1			
	銀塩写真演習	2前①～②		2			○			1					集中
	視覚心理学	3前①		2		○			1						
	視覚心理学演習	3前②		2			○		1						
	視覚生理システム学	2後③～④		2		○						1			
	色彩学演習	3前①		2			○			1					
	心理学的思考法演習	3後③		2			○			1					
	画像論	2後③～④		2		○				1					
	画像論演習	3後③～④		2			○			1					
	視覚伝達論	3後③～④		2		○				1				兼1	オムニバス 集中
	映像表現プロデュース論	2前①～②		2		○				1					
	拡張映像表現スタジオ演習	3前①～②		2			○			1					
	デジタルイメージ クリエイション論	2後③～④		2		○				1					
	コンピュータアニメーション演習	3後③～④		2			○					1			
	グラフィック コミュニケーション論	2後③～④		2		○			1						
	グラフィックデザイン演習	3前①～②		2			○		1						
	メディアコミュニケーション論	2前①～②		2		○						1			
	メディア環境計画	3後③～④		2		○						1			
	芸術表現論	2後③		2		○				1					
	現代芸術とコミュニケーション 演習	3後③		2			○			1					
	視覚芸術学プロジェクト	3後③～④		2			○		1	3		2		兼4	オムニバス 集中
	画像メディア工学	2前①～②		2		○				1					
	画像メディア工学演習	3前①～②		2			○			1					
	画像処理	2前①～②		2		○				1					
	画像処理演習	3前①		2			○			1					
	グラフィックスアルゴリズム	2前①～②		2		○				1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	グラフィックスアルゴリズム演習	3前②		2			○			1					
	小計 (45科目)	-	20	72	0		-		4	12	0	5	0		兼6
学部内自由科目	芸術工学特別演習 1	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1			○		1						※演習
	芸術工学特別演習 2	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1			○		1						※演習
	芸術工学特別演習 3	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1			○		1						※演習
	芸術工学特別演習 4	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1			○		1						※演習
	芸術工学特別演習 5	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1			○		1						※演習
	芸術工学特別演習 6	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1			○		1						※演習
	芸術工学特別演習 7	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1			○		1						※演習
	芸術工学特別演習 8	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1			○		1						※演習
	芸術工学特別演習 9	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1			○		1						※演習
	芸術工学特別演習 10	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1			○		1						※演習
	芸術工学特別演習 11	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2			○		1						※演習
	芸術工学特別演習 12	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2			○		1						※演習
	芸術工学特別演習 13	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2			○		1						※演習
	芸術工学特別演習 14	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2			○		1						※演習
	芸術工学特別演習 15	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2			○		1						※演習
	芸術工学特別演習 16	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2			○		1						※演習
	芸術工学特別演習 17	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2			○		1						※演習
	芸術工学特別演習 18	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2			○		1						※演習
	芸術工学特別演習 19	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2			○		1						※演習
	芸術工学特別演習 20	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2			○		1						※演習
		小計 (20科目)	-	0	30	0		-		1	0	0	0	0	
	合計 (392科目)	-	44.5	545	0		-		6	24	1	9	0		兼380

学位又は称号	学士（芸術工学） 学士（学術）	学位又は学科の分野	工学関係、文学関係、理学関係、 社会学・社会福祉学関係、法学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
① 基幹教育科目から48単位以上、専攻教育科目から80単位以上を修得し、128単位以上修得すること (a) 基幹教育セミナー（1単位修得） <必修科目> （1単位科目）基幹教育セミナー (b) 課題協学科目（2.5単位修得） <必修科目> （2.5単位科目）課題協学科目 (c) 言語文化科目（12単位修得） 第1外国語（英語）（8単位修得） 第2外国語（1カ国語選択）（4単位修得） (d) 文系ディシプリン科目（4単位修得） <選択必修科目> （2単位科目） 哲学・思想入門、社会思想史、先史学入門、歴史学入門、文学・言語学入門、 芸術学入門、文化人類学入門、地理学入門、社会学入門、心理学入門、 法学入門、政治学入門、経済学入門、経済史入門、 The Law and Politics of International Society （1単位科目） 現代教育学入門、教育基礎学入門 (e) 理系ディシプリン科目（17.5単位修得） <必修科目>（13単位修得） （2単位科目） デザイン史 （1.5単位科目） 微分積分学・同演習A、微分積分学・同演習B、線形代数学・同演習A、 線形代数学・同演習B、数理統計学、情報科学 （1単位科目） 自然科学総合実験（基礎）、自然科学総合実験（発展） <選択必修科目>（4.5単位修得） （1.5単位科目） 基幹物理学I A、基幹物理学I B、基礎化学熱力学、細胞生物学、集団生物学 （1単位科目） 基幹物理学I A演習、基幹物理学I B演習、地球と宇宙の科学、地球科学 (f) サイバーセキュリティ科目（1単位修得） <必修科目> （1単位科目）サイバーセキュリティ基礎論 (g) 健康・スポーツ科目（1単位修得） <必修科目> （1単位科目）健康・スポーツ科学演習 (h) 総合科目（1.5単位修得） (i) 高年次基幹教育科目（2単位修得） (j) その他（5.5単位修得） 基幹教育科目の授業科目のうち、最低修得単位数を超えて修得する授業科目、 専攻教育科目（在籍学科の科目を除く）のうち、最低修得単位数を超えて 修得する授業科目又は他学部の専攻教育科目から選択			1学年の学期区分	4学期
			1学期の授業期間	8週
			1時限の授業時間	90分
② 専攻教育科目（80単位以上修得） <必修科目>（20単位修得） （4単位科目） 卒業研究Ⅱ （2単位科目） 視覚学、色彩学、視覚芸術基礎Ⅰ、視覚芸術基礎Ⅱ、視覚芸術基礎Ⅲ、 画像工学基礎、画像工学プログラミング、卒業研究Ⅰ <選択必修科目> 以下の科目から選択（4単位修得） （2単位科目） 視覚心理学、視覚生理システム学、画像論 以下の科目から選択（4単位修得） （2単位科目） 映像表現プロデュース論、デジタルイメージクリエーション論、 グラフィックコミュニケーション論、メディアコミュニケーション論、 芸術表現論 以下の科目から選択（4単位修得） （2単位科目） 画像メディア工学、画像処理、グラフィックスアルゴリズム <学部内自由科目>（6単位修得） 芸術工学特別演習1～20の他、本学科又は芸術工学部の他学科の専攻教育科目 のうち、本学科の専攻教育科目の必修単位として修得する科目以外の授業科目 からも選択可能				

教 育 課 程 等 の 概 要															
(芸術工学部音響設計学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基幹 教育 科目	基幹教育セミナー	1前②	1					○					1		兼52
	小計(1科目)	-	1	0	0			-		0	0	0	1	0	兼52
課 題 協 学 科 目	課題協学科目	1後③～④	2.5					○							兼17
	小計(1科目)	-	2.5	0	0			-		0	0	0	0	0	兼17
言 語 文 化 科 目	言語文化基礎科目 学術英語A・リセプション	1前①～②	1					○					1		兼4
	学術英語A・プロダクション	1前①～②	1					○		1					兼7
	学術英語B・インテグレート	1後③～④	2					○				2			兼12
	学術英語AB・再履修	1・2後③～④ 2前①～②		1				○							兼1
	学術英語A・CALL	1前①～②	1					○							兼1
	学術英語B・CALL	1後③～④	1					○							兼1
	学術英語C・テーマベース	2前①・② ・後③・④		1				○							兼2
	学術英語C・スキルベース	2前①・② ・後③・④		1				○		1					兼3
	専門英語	2前①・② ・後③・④		2				○		2		2			
	学術英語C・集中演習	1・2後③～④ ・2前①～②		2				○							兼2
	ドイツ語I	1前①～②		2				○							兼1
	ドイツ語II	1後③～④		2				○							兼1
	ドイツ語III	2前①～②		1				○							兼1
	ドイツ語プラクティクムI	1後③～④		1				○							兼2
	ドイツ語プラクティクムII	2前①～②		1				○							兼1
	フランス語I	1前①～②		2				○							兼2
	フランス語II	1後③～④		2				○							兼2
	フランス語III	2前①～②		1				○							兼2
	フランス語プラクティクI	1後③～④		1				○							兼1
	フランス語プラクティクII	2前①～②		1				○							兼1
中国語I	1前①～②		2				○							兼2	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	中国語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼2	
	中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
	中国語実践Ⅰ	1後③～④		1		○								兼2	
	中国語実践Ⅱ	2前①～②		1		○								兼2	
	ロシア語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼1	
	ロシア語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼1	
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
	ロシア語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1	
	韓国語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼2	
	韓国語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼2	
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2	
	韓国語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1	
	スペイン語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼1	
	スペイン語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼1	
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
	スペイン語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1	
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1	
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1	
	日本語Ⅴ	2前①		1		○								兼1	
	日本語Ⅵ	2前②		1		○								兼1	
	日本語Ⅶ	2前①		1		○								兼1	
言語文化 自由選択科目	入門ドイツ語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門ドイツ語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	ドイツ語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	ドイツ語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	ドイツ語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	ドイツ語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門フランス語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門フランス語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	フランス語実用会話	2前①～②		2		○									兼1
	フランス語読解・作文コース	2前①～②		2		○									兼1
	フランス語圏の言語と文化	2後③～④		2		○									兼1
	入門中国語Ⅰ	2前①～②		2		○									兼2
	入門中国語Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	中国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	中国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門ロシア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門ロシア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門韓国語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門韓国語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	韓国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	韓国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門スペイン語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門スペイン語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	総合スペイン語演習	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	表現スペイン語	2後③～④		2		○								兼1	
	スペイン語圏の言語と文化	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	入門インドネシア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門インドネシア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門イタリア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門イタリア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	速習オランダ語	1前①～②		2		○								兼1	
	速習エスペラント	1前①～②		2		○								兼1	
	古典ギリシア語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1	
	古典ギリシア語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1	
	ラテン語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1	
	ラテン語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1	
	小計(82科目)	-	6	125	0	-			0	2	0	2	0	兼55	
文系 ディ シ プ リ ン 科 目	哲学・思想入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼1	
	社会思想史	1前①～② ・後③～④		2		○								兼1	
	先史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	歴史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	文学・言語学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼3	
	芸術学入門	1前①～② ・後③～④		2		○			1					兼2	
	文化人類学入門	1前①～② 1後③～④		2		○								兼3	
	地理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼4	
	社会学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	心理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼4	
	現代教育学入門	1前①・② ・後③・④		1		○								兼5	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	教育基礎学入門	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	法学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	政治学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3
	経済学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	経済史入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○									兼1
	小計 (17科目)	-	0	32	0	-			0	1	0	0	0		兼36
理系 ディ シ プ リ ン 科 目	社会と数理科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼3
	微分積分学	1後③～④		1.5		○									兼3
	微分積分学・同演習A	1前①～②	1.5				○								兼1
	微分積分学・同演習B	1後③～④	1.5				○								兼1
	微分積分学・同演習I	1前①～②	1.5				○								兼4
	微分積分学・同演習II	1後③・ 後③～④	1.5				○								兼4
	微分積分学・同演習III	1後④・ 2前①～②	1.5				○								兼4
	線形代数	1前①～②	1.5			○									兼2
	線形代数学・同演習A	1前①～②	1.5				○								兼2
	線形代数学・同演習B	1後③～④	1.5				○								兼2
	数学演習I A	1前①～②	1				○								兼2
	数学演習I B	1後③～④	1				○								兼2
	数学演習II	2前①～②	1				○								兼4
	数理統計学	2前①～② ・後③～④	1.5			○					1				兼1
	身の回りの物理学A	1前①・② ・後③・④	1			○									兼2
	身の回りの物理学B	1前①・② ・後③・④	1			○									兼1
	物理学概論A	1前①～②	1.5			○									兼1
	物理学概論B	1後③～④	1.5			○									兼1
	物理学概論A演習	1前①～②	1				○								兼1
	物理学概論B演習	1後③～④	1				○								兼1
	基幹物理学I A	1前①～②	1.5			○									兼2
	基幹物理学I B	1後③～④	1.5			○									兼2
	基幹物理学I A演習	1前①～②	1				○								兼1
	基幹物理学I B演習	1後③～④	1				○								兼1
	力学演習	1後③～④	1				○								兼2
	物理学の進展	2前①～②	1.5			○									兼1
	基幹物理学II	2前①～②	1.5			○									兼1
	電気電子工学入門	2前①～②	2			○									兼1
	原子核物理学	2後③～④	2			○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	身の回りの化学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	基礎化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	無機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	有機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	基礎化学結合論	1前①～② ・後③～④		1.5		○				1					兼1
	基礎化学熱力学	1後③～④		1.5		○									兼1
	現代化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生物有機化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	機器分析学	2後④		2		○									兼1
	生命の科学A	1前①・② ・後③・④		1		○									兼4
	生命の科学B	1前①・② ・後③・④		1		○									兼6
	基礎生物学概要	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	細胞生物学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	集団生物学	1後③～④		1.5		○									兼1
	分子生物学	2前①～②		1.5		○									兼2
	生態系の科学	2前①～②		1.5		○									兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○									兼2
	最先端地球科学	2前②・後③		1		○									兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		1.5		○									兼1
	デザイン思考	1前①・② ・後③・④		1		○				5		1			オムニバス
	図形科学	1前①～② ・後③～④		1.5		○				2					
	空間表現実習Ⅰ	1前①～② ・後③～④		2			○			2					
	空間表現実習Ⅱ	1後③～④		2			○			2					
	世界建築史	2前①		2		○									兼1
	日本建築史	2前②		2		○									兼1
	近・現代建築史	2後③・④		2		○									兼1
	デザイン史	2後③～④		2		○				1					
	情報科学	1前①～② ・後③～④	1.5			○									兼2
	プログラミング演習	1前①～② ・後③～④		1			○								兼2
	コンピュータープログラミング入門	2後③		1		○									兼1
	自然科学総合実験（基礎）	1前①・後③	1					○							兼12
	自然科学総合実験（発展）	1前②・後④	1					○							兼12
	小計（63科目）	-	16	72	0	-			0	10	1	2	0		兼90

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○									兼3
	小計 (1科目)	-	1	0	0	-			0	0	0	0	0		兼3
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○								兼5
	身体運動科学実習Ⅰ	1後③～④		1				○							兼5
	身体運動科学実習Ⅱ	2前①～②		1					1						兼3
	身体運動科学実習Ⅲ	2後③～④ ・3前①～②		1											兼2
	身体運動科学実習Ⅳ	2後③～④ ・3前①～②		1											兼2
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③		1		○									兼1
	健康・スポーツ科学講義ⅠB	1後④		1		○									兼1
	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	2前①～②		2		○									兼1
小計 (8科目)	-	1	8	0	-			1	0	0	0	0		兼6	
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○									兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○									兼1
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○									兼1
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○									兼1
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○									兼1
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○									兼1
	日本事情	1前①～②		2		○									兼1
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○									兼1
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○									兼1
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○									兼1
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○									兼1
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○									兼1
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○									兼1
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○									兼1
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○									兼1
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1		○									兼1
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○									兼1
	コミュニケーション入門	1前①		1		○									兼1
体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○									兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○									兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○									兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○									兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○									兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○									兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○							兼1	
	フィールドに学ぶB	1後④		1				○							兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○									兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○									兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○									兼1	集中
	ことばの科学	1前①		1		○									兼1	
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○									兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○									兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○									兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	1前②		1		○									兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○									兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○									兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○									兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	体験的農業生産学入門	1前③～④		1				○							兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○									兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○									兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○									兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○									兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○									兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	企業から見たサイバーセキュリティ	1前②・後④		1		○									兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○								兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (サーバー構築編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (ハードウェア設計編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (IoTセキュリティ編)	1後③～④		1			○								兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○									兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○									兼1	集中
	Contemporary American Society:A Sociological Introduction	1後④		1		○									兼1	
	アイデア・ラボ I	1前②		2		○									兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する I (軌跡 編)	1前①		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する II (現在 編)	1前②		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する III (展望 編)	1後③		1		○									兼1	
	少人数セミナー	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5	
	小計 (71科目)	-	0	79	0	-			0	0	0	0	0		兼50	
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	科学の歴史A	2前①		1		○									兼1	
	科学の歴史B	2前②		1		○									兼1	
	科学の基礎 (哲学的考察)	2後③		1		○									兼1	
	脳情報科学入門	3前①		1		○									兼1	
	認知心理学	2後④		1		○									兼1	
	Brain and Mind	2後③		1		○									兼1	
	機械学習と人工知能	2後③		1		○									兼1	
	現代社会 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代社会 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代社会 III	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代社会 IV	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代史 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代史 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代史 III	2前①～②		2		○									兼1	隔年
	現代史 IV	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	EU論基礎—制度と経済—	2前①～②		2		○									兼1	
	技術と産業・企業	3前①～②		2		○									兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①～②		2		○									兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○									兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○				1						
	芸術学概論	3後③～④		1		○									兼1	集中
	音楽・音響論	2後③～④		2		○				1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	デザインと観察	2前①～②		2		○				1					
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○									兼1
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○									兼1
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○									兼1
	自然災害と防災	2後③～④		2		○									兼1
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③		1		○									兼1 隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後④		1		○									兼1 隔年
	男女共同参画	2後③～④		2		○									兼1
	ボランティア活動Ⅰ	2通		1				○							兼1 集中
	ボランティア活動Ⅱ	2通		1				○							兼1 集中
	インターンシップⅠ	2通		1				○							兼1 集中
	インターンシップⅡ	2通		1				○							兼1 集中
	漢方医薬学	3前①～②		1		○									兼1 集中
	チーム医療演習	3後③～④		1			○								兼1 集中
	バイオインフォマティクス	3後③～④		2		○									兼1 集中
	臨床イメージング	2後③		1		○									兼1
	社会と健康	3前①～②		2		○									兼1
	国際保健と医療	2後③～④		2		○									兼1
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○									兼1 集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○									兼1
	生物多様性と人間文化A	2前①		1		○									兼1
	生物多様性と人間文化B	2前②		1		○									兼1
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○									兼1
	バイオテクノロジー詳論	2後③～④		2		○									兼1 隔年
	平和と安全の構築学	2後④		1		○									兼1
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○									兼1
	東アジアと日本—その歴史と現在—	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○									兼1
	東アジアの政治と社会	2後③～④		2		○									兼1
	プレゼンテーション基礎	2前①～②		1			○								兼1 集中
	レトリック基礎	2前①～②		1			○								兼1 集中
	共創発想法	2後③		2			○								兼1
	動的現象の科学	3前①		2		○									兼1
	誘導現象の科学	3前②		2		○									兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	データマイニングと情報可視化	2後④		1			○								兼1	
	技術と倫理	2後④		1		○									兼1	
	医療における倫理	2前①～②		2		○									兼1	
	研究と倫理	2後③		1		○									兼1	
	社会と倫理	2後④		1		○									兼1	
	インフォームドコンセント	3前①～②		1		○									兼1	
	薬害	3後③～④		1		○									兼1	
	臨床倫理	3後③～④		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・会計/ ファイナンス基礎	2後④		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ 戦略論基礎	2前②		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ 組織論基礎	2前①		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ マーケティング基礎	2後③		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論 I	2前①		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論 II	2前②		1		○									兼1	集中
	リスクマネジメント	2後③～④		2		○									兼1	
	ビジネス統計学	2前②		1			○								兼1	隔年
	社会統計学 A	3後③		1			○								兼1	
	社会統計学 B	3後④		1			○								兼1	
	社会調査法 I A	2前①		1			○								兼1	
	社会調査法 I B	2前②		1			○								兼1	
	社会調査法 II A	2後③		1			○								兼1	隔年
	社会調査法 II B	2後④		1			○								兼1	隔年
	教育学特論	2前①～② ・後③～④		2		○									兼1	
	教育心理学特論 (教育・学校心理学)	2後③～④		2		○									兼1	
	日本国憲法	3前①～② ・後③～④		2		○									兼2	
	小計 (83科目)	-	0	124	0	-	-	-	0	3	0	0	0		兼65	
専攻教育科目	主観評価法	3前①～②	2			○				3						オムニバス ※演習
	音楽社会学	2前①	2			○				1		1				オムニバス
	西洋音楽史	2後③	2			○						1				
	音文化論演習	1後③～④	2				○		1							
	聴覚生理学	2前①～②	2			○				2		1				オムニバス
	聴覚心理学	2後④	2			○			1	2						オムニバス
	音響信号処理演習	2前①～②	2			○			1							※演習
	デジタル信号処理	2後③～④	2			○						1		兼1	オムニバス	
	電気工学	2前①～②	2			○						1		兼1	オムニバス ※演習	
	電気実験	3前①～②	1					○	1			2		兼1	共同	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	音響理論演習Ⅰ	2前①～②	3			○			1						※演習
	音響理論演習Ⅱ	2後③～④	3			○			1	1					オムニバス ※演習
	音楽理論表現演習	2前①～②	2				○		2			2		兼2	オムニバス・共同 (一部)※講義
	音楽構造基礎演習	2後③～④	2				○		2	1		2		兼2	オムニバス ※講義
	音響実験Ⅰ	3前①～②	3					○	3	5		4			オムニバス
	音響実験Ⅱ	3後③～④	3					○	5	7		4			オムニバス
	輪講	4前①～②	2				○		5	7		4			オムニバス
	電子工学	2後③～④	2			○						1		兼1	オムニバス ※演習
	卒業研究Ⅰ	4前①～② ・後③～④	2				○		5	7		4			
	卒業研究Ⅱ	4前①～② ・後③～④	4				○		5	7		4			
	知覚心理学	2前①～②		2		○				3		1		兼1	オムニバス
	デザインストラテジー基礎	4前①～②		2		○			2	2					オムニバス ※演習
	インターンシップ(学部)	3・4通		2				○		1					
	推測統計学	3前①～②		2		○				1				兼1	オムニバス
	システム工学	3後③～④		2		○				1				兼1	※演習
	設計多変量解析	2後③～④		2		○						1			
	情報理論	3前①～②		2		○						1		兼1	オムニバス ※演習
	音楽学	3前①		2		○			1			1			オムニバス
	応用音楽学	3後③		2		○			1	1				兼1	オムニバス
	音声学	2後③～④		2		○			1			1		兼1	オムニバス
	サウンド・パフォーマンス	2後③～④		2			○		1					兼2	オムニバス
	比較音楽理論	2後④		2		○			1						
	室内音響学	3前②		2		○			1						
	騒音環境学	3後④		2		○			1	2					オムニバス
	非線形振動論	3後③～④		2		○			1	2					オムニバス
	応用音響理論	3前①～②		2		○				1					
	音響構成	4前①～②		4						1				兼5	オムニバス ※実習
	聴覚認知論	3前①～②		2		○				1				兼1	オムニバス 集中
	楽器・音響機器論	3前①～②		2		○				1		1			オムニバス
	デジタル信号処理演習	3前①～②		2			○					1			
	音響情報工学	3前①～②		2		○			1						
	音響情報工学演習	3後③～④		2			○		1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	応用時系列解析	3後③～④		2		○						1				
	聴能形成 I	1前①～②		1				○		1		1				共同
	聴能形成 II	2前①～②		1				○		1		1				共同
	プログラミング言語	2後③～④		2			○			1						
	小計 (46科目)	-	45	52	0	-	-	-	7	12	0	6				兼19
学部内自由科目	芸術工学特別演習 1	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 2	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 3	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 4	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 5	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 6	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 7	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 8	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 9	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 10	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 11	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 12	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 13	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 14	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 15	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 16	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 17	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 18	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 19	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 20	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1							※演習
	小計 (20科目)	-	0	30	0	-	-	-	1	0	0	0	0			
合計 (393科目)		-	72.5	522	0	-	-	-	9	23	1	10	0			兼393

学位又は称号	学士（芸術工学） 学士（学術）	学位又は学科の分野	工学関係、文学関係、理学関係、 社会学・社会福祉学関係、法学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
基幹教育科目から48単位以上、専攻教育科目から80単位以上を修得し、128単位以上修得すること				
①基幹教育科目（48単位以上修得）				
(a)基幹教育セミナー（1単位修得）			1学年の学期区分	
<必修科目>			4学期	
(1単位科目) 基幹教育セミナー				
(b)課題協学科目（2.5単位修得）			1学期の授業期間	
<必修科目>			8週	
(2.5単位科目) 課題協学科目				
(c)言語文化科目（12単位修得）			1時限の授業時間	
第1外国語（英語）（8単位修得）			90分	
第2外国語（1カ国語選択）（4単位修得）				
(d)文系ディシプリン科目（4単位修得）				
<選択必修科目>				
(2単位科目)				
哲学・思想入門、社会思想史、先史学入門、歴史学入門、文学・言語学入門、				
芸術学入門、文化人類学入門、地理学入門、社会学入門、心理学入門、				
法学入門、政治学入門、経済学入門、経済史入門、				
The Law and Politics of International Society				
(1単位科目)				
現代教育学入門、教育基礎学入門				
(e)理系ディシプリン科目（17単位修得）				
<必修科目>（16単位修得）				
(1.5単位科目)				
微分積分学・同演習A、微分積分学・同演習B、線形代数学・同演習A、				
線形代数学・同演習B、基幹物理学I A、基幹物理学I B、情報科学、				
数理統計学				
(1単位科目)				
基幹物理学I A演習、基幹物理学I B演習、自然科学総合実験（基礎）、				
自然科学総合実験（発展）				
<選択必修科目>（1単位修得）				
(1.5単位科目)				
無機物質化学、有機物質化学、基礎化学結合論、基礎化学熱力学、				
細胞生物学、集団生物学				
(1単位科目)				
地球と宇宙の科学、地球科学、プログラミング演習				
(f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得）				
<必修科目>				
(1単位科目) サイバーセキュリティ基礎論				
(g)健康・スポーツ科目（1単位修得）				
<必修科目>				
(1単位科目) 健康・スポーツ科学演習				
(h)総合科目（1.5単位修得）				
(i)高年次基幹教育科目（2単位修得）				
(j)その他（6単位修得）				
基幹教育科目の授業科目のうち、最低修得単位数を超えて修得する授業科目、				
専攻教育科目（在籍学科の科目を除く）のうち、最低修得単位数を超えて				
修得する授業科目又は他学部の専攻教育科目から選択				
②専攻教育科目（80単位以上修得）				
<必修科目>（45単位修得）				
(4単位科目)				
卒業研究Ⅱ				
(3単位科目)				
音響理論演習Ⅰ、音響理論演習Ⅱ、音響実験Ⅰ、音響実験Ⅱ				
(2単位科目)				
主観評価法、音楽社会学、西洋音楽史、音文化論演習、聴覚生理学、聴覚心理学、				
音響信号処理演習、デジタル信号処理、電気工学、音楽理論表現演習、				
音楽構造基礎演習、輪講、電子工学、卒業研究Ⅰ				
(1単位科目)				
電気実験				
<学部内自由科目>（6単位修得）				
芸術工学特別演習1～20の他、本学科又は芸術工学部の他学科の専攻教育科目				
のうち、本学科の専攻教育科目の必修単位として修得する科目以外の授業科目				
からも選択可能				

教 育 課 程 等 の 概 要															
(芸術工学部芸術情報設計学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	1前②	1					○					1		兼52
	小計 (1科目)	-	1	0	0			-		0	0	0	1	0	兼52
課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5					○							兼17
	小計 (1科目)	-	2.5	0	0			-		0	0	0	0	0	兼17
言語文化科目	言語文化基礎科目 学術英語A・リセプション	1前①～②	1					○					1		兼4
	学術英語A・プロダクション	1前①～②	1					○		1					兼7
	学術英語B・インテグレート	1後③～④	2					○				2			兼12
	学術英語AB・再履修	1・2後③～④ 2前①～②		1				○							兼1
	学術英語A・CALL	1前①～②	1					○							兼1
	学術英語B・CALL	1後③～④	1					○							兼1
	学術英語C・テーマベース	2前①・② ・後③・④		1				○							兼2
	学術英語C・スキルベース	2前①・② ・後③・④		1				○		1					兼3
	専門英語	2前①・② ・後③・④		2				○		2		2			
	学術英語C・集中演習	1・2後③～④ ・2前①～②		2				○							兼2
	ドイツ語I	1前①～②		2				○							兼1
	ドイツ語II	1後③～④		2				○							兼1
	ドイツ語III	2前①～②		1				○							兼1
	ドイツ語プラクティクムI	1後③～④		1				○							兼2
	ドイツ語プラクティクムII	2前①～②		1				○							兼1
	フランス語I	1前①～②		2				○							兼2
	フランス語II	1後③～④		2				○							兼2
	フランス語III	2前①～②		1				○							兼2
	フランス語プラクティクI	1後③～④		1				○							兼1
	フランス語プラクティクII	2前①～②		1				○							兼1
中国語I	1前①～②		2				○							兼2	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
	中国語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼2
	中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	中国語実践Ⅰ	1後③～④		1		○								兼2
	中国語実践Ⅱ	2前①～②		1		○								兼2
	ロシア語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼1
	ロシア語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼1
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	ロシア語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1
	韓国語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼2
	韓国語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	韓国語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1
	スペイン語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼1
	スペイン語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼1
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	スペイン語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼2
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①		1		○								兼1
言語文化 自由選択科目	入門ドイツ語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1
	入門ドイツ語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1
	ドイツ語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1
	ドイツ語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1
	ドイツ語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1
	ドイツ語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1
	入門フランス語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1
	入門フランス語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1
	フランス語実用会話	2前①～②		2		○								兼1
	フランス語読解・作文コース	2前①～②		2		○								兼1
	フランス語圏の言語と文化	2後③～④		2		○								兼1
	入門中国語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼2
	入門中国語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	中国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	中国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門ロシア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門ロシア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門韓国語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門韓国語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	韓国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	韓国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門スペイン語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門スペイン語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	総合スペイン語演習	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	表現スペイン語	2後③～④		2		○								兼1	
	スペイン語圏の言語と文化	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	入門インドネシア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門インドネシア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門イタリア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門イタリア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	速習オランダ語	1前①～②		2		○								兼1	
	速習エスペラント	1前①～②		2		○								兼1	
	古典ギリシア語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1	
	古典ギリシア語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1	
	ラテン語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1	
	ラテン語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1	
	小計(82科目)	-	6	125	0	-			0	2	0	2	0	兼55	
文系 ディ シ プ リ ン 科 目	哲学・思想入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼1	
	社会思想史	1前①～② ・後③～④		2		○								兼1	
	先史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	歴史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	文学・言語学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼3	
	芸術学入門	1前①～② ・後③～④		2		○			1					兼2	
	文化人類学入門	1前①～② 1後③～④		2		○								兼3	
	地理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼4	
	社会学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	心理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼4	
	現代教育学入門	1前①・② ・後③・④		1		○								兼5	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	教育基礎学入門	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	法学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	政治学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3
	経済学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	経済史入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○									兼1
	小計 (17科目)	-	0	32	0	-			0	1	0	0	0		兼36
理 系 デ ィ シ プ リ ン 科 目	社会と数理科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼3
	微分積分学	1後③～④		1.5		○									兼3
	微分積分学・同演習A	1前①～②	1.5				○								兼1
	微分積分学・同演習B	1後③～④	1.5				○								兼1
	微分積分学・同演習I	1前①～②		1.5			○								兼4
	微分積分学・同演習II	1後③・ 後③～④		1.5			○								兼4
	微分積分学・同演習III	1後④・ 2前①～②		1.5			○								兼4
	線形代数	1前①～②		1.5		○									兼2
	線形代数学・同演習A	1前①～②	1.5				○								兼2
	線形代数学・同演習B	1後③～④	1.5				○								兼2
	数学演習I A	1前①～②		1			○								兼2
	数学演習I B	1後③～④		1			○								兼2
	数学演習II	2前①～②		1			○								兼4
	数理統計学	2前①～② ・後③～④	1.5			○					1				兼1
	身の回りの物理学A	1前①・② ・後③・④		1		○									兼2
	身の回りの物理学B	1前①・② ・後③・④		1		○									兼1
	物理学概論A	1前①～②		1.5		○									兼1
	物理学概論B	1後③～④		1.5		○									兼1
	物理学概論A演習	1前①～②		1			○								兼1
	物理学概論B演習	1後③～④		1			○								兼1
	基幹物理学I A	1前①～②		1.5		○									兼2
	基幹物理学I B	1後③～④		1.5		○									兼2
	基幹物理学I A演習	1前①～②		1			○								兼1
	基幹物理学I B演習	1後③～④		1			○								兼1
	力学演習	1後③～④		1			○								兼2
	物理学の進展	2前①～②		1.5		○									兼1
	基幹物理学II	2前①～②		1.5		○									兼1
	電気電子工学入門	2前①～②		2		○									兼1
	原子核物理学	2後③～④		2		○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	身の回りの化学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	基礎化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	無機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	有機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	基礎化学結合論	1前①～② ・後③～④		1.5		○				1					兼1
	基礎化学熱力学	1後③～④		1.5		○									兼1
	現代化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生物有機化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	機器分析学	2後④		2		○									兼1
	生命の科学A	1前①・② ・後③・④		1		○									兼4
	生命の科学B	1前①・② ・後③・④		1		○									兼6
	基礎生物学概要	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	細胞生物学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	集団生物学	1後③～④		1.5		○									兼1
	分子生物学	2前①～②		1.5		○									兼2
	生態系の科学	2前①～②		1.5		○									兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○									兼2
	最先端地球科学	2前②・後③		1		○									兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		1.5		○									兼1
	デザイン思考	1前①・② ・後③・④		1		○				5		1			オムニバス
	図形科学	1前①～② ・後③～④		1.5		○				2					
	空間表現実習Ⅰ	1前①～② ・後③～④		2			○			2					
	空間表現実習Ⅱ	1後③～④		2			○			2					
	世界建築史	2前①		2		○									兼1
	日本建築史	2前②		2		○									兼1
	近・現代建築史	2後③・④		2		○									兼1
	デザイン史	2後③～④		2		○				1					
	情報科学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	プログラミング演習	1前①～② ・後③～④		1			○								兼2
	コンピュータープログラミング入門	2後③		1		○									兼1
	自然科学総合実験（基礎）	1前①・後③		1				○							兼12
	自然科学総合実験（発展）	1前②・後④		1				○							兼12
	小計（63科目）	-		13	75	0	-		0	10	1	2	0		兼90

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○									兼3
	小計(1科目)	-	1	0	0	-			0	0	0	0	0		兼3
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○								兼5
	身体運動科学実習Ⅰ	1後③～④		1				○							兼5
	身体運動科学実習Ⅱ	2前①～②		1					1						兼3
	身体運動科学実習Ⅲ	2後③～④ ・3前①～②		1											兼2
	身体運動科学実習Ⅳ	2後③～④ ・3前①～②		1											兼2
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③		1		○									兼1
	健康・スポーツ科学講義ⅠB	1後④		1		○									兼1
	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	2前①～②		2		○									兼1
小計(8科目)	-	1	8	0	-			1	0	0	0	0		兼6	
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○									兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○									兼1
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○									兼1
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○									兼1
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○									兼1
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○									兼1
	日本事情	1前①～②		2		○									兼1
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○									兼1
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○									兼1
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○									兼1
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○									兼1
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○									兼1
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○									兼1
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○									兼1
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○									兼1
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1		○									兼1
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○									兼1
	コミュニケーション入門	1前①		1		○									兼1
体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○									兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○									兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○									兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○									兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○									兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○									兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○							兼1	
	フィールドに学ぶB	1後④		1				○							兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○									兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○									兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○									兼1	集中
	ことばの科学	1前①		1		○									兼1	
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○									兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○									兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○									兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	1前②		1		○									兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○									兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○									兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○									兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	体験的農業生産学入門	1前③～④		1				○							兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○									兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○									兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○									兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○									兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○									兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
	企業から見たサイバーセキュリティ	1前②・後④		1		○									兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○								兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (サーバー構築編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (ハードウェア設計編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (IoTセキュリティ編)	1後③～④		1			○								兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○									兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○									兼1	集中
	Contemporary American Society:A Sociological Introduction	1後④		1		○									兼1	
	アイデア・ラボ I	1前②		2		○									兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する I (軌跡 編)	1前①		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する II (現在 編)	1前②		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する III (展望 編)	1後③		1		○									兼1	
	少人数セミナー	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5	
	小計 (71科目)	-	0	79	0	-			0	0	0	0	0		兼50	
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	科学の歴史A	2前①		1		○									兼1	
	科学の歴史B	2前②		1		○									兼1	
	科学の基礎 (哲学的考察)	2後③		1		○									兼1	
	脳情報科学入門	3前①		1		○									兼1	
	認知心理学	2後④		1		○									兼1	
	Brain and Mind	2後③		1		○									兼1	
	機械学習と人工知能	2後③		1		○									兼1	
	現代社会 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代社会 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代社会 III	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代社会 IV	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代史 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代史 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代史 III	2前①～②		2		○									兼1	隔年
	現代史 IV	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	EU論基礎—制度と経済—	2前①～②		2		○									兼1	
	技術と産業・企業	3前①～②		2		○									兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①～②		2		○									兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○									兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○				1						
	芸術学概論	3後③～④		1		○									兼1	集中
	音楽・音響論	2後③～④		2		○				1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	デザインと観察	2前①～②		2		○				1					
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○									兼1
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○									兼1
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○									兼1
	自然災害と防災	2後③～④		2		○									兼1
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③		1		○									兼1 隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後④		1		○									兼1 隔年
	男女共同参画	2後③～④		2		○									兼1
	ボランティア活動Ⅰ	2通		1				○							兼1 集中
	ボランティア活動Ⅱ	2通		1				○							兼1 集中
	インターンシップⅠ	2通		1				○							兼1 集中
	インターンシップⅡ	2通		1				○							兼1 集中
	漢方医薬学	3前①～②		1		○									兼1 集中
	チーム医療演習	3後③～④		1			○								兼1 集中
	バイオインフォマティクス	3後③～④		2		○									兼1 集中
	臨床イメージング	2後③		1		○									兼1
	社会と健康	3前①～②		2		○									兼1
	国際保健と医療	2後③～④		2		○									兼1
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○									兼1 集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○									兼1
	生物多様性と人間文化A	2前①		1		○									兼1
	生物多様性と人間文化B	2前②		1		○									兼1
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○									兼1
	バイオテクノロジー詳論	2後③～④		2		○									兼1 隔年
	平和と安全の構築学	2後④		1		○									兼1
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○									兼1
	東アジアと日本—その歴史と現在—	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○									兼1
	東アジアの政治と社会	2後③～④		2		○									兼1
	プレゼンテーション基礎	2前①～②		1			○								兼1 集中
	レトリック基礎	2前①～②		1			○								兼1 集中
	共創発想法	2後③		2			○								兼1
	動的現象の科学	3前①		2		○									兼1
	誘導現象の科学	3前②		2		○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
	データマイニングと情報可視化	2後④		1			○								兼1	
	技術と倫理	2後④		1			○								兼1	
	医療における倫理	2前①～②		2			○								兼1	
	研究と倫理	2後③		1			○								兼1	
	社会と倫理	2後④		1			○								兼1	
	インフォームドコンセント	3前①～②		1			○								兼1	
	薬害	3後③～④		1			○								兼1	
	臨床倫理	3後③～④		1			○								兼1	
	アントレプレナーシップ・会計/ ファイナンス基礎	2後④		1			○								兼1	
	アントレプレナーシップ・ 戦略論基礎	2前②		1			○								兼1	
	アントレプレナーシップ・ 組織論基礎	2前①		1			○								兼1	
	アントレプレナーシップ・ マーケティング基礎	2後③		1			○								兼1	
	事業創造デザイン特論 I	2前①		1			○								兼1	
	事業創造デザイン特論 II	2前②		1			○								兼1	集中
	リスクマネジメント	2後③～④		2			○								兼1	
	ビジネス統計学	2前②		1				○							兼1	隔年
	社会統計学 A	3後③		1				○							兼1	
	社会統計学 B	3後④		1				○							兼1	
	社会調査法 I A	2前①		1				○							兼1	
	社会調査法 I B	2前②		1				○							兼1	
	社会調査法 II A	2後③		1				○							兼1	隔年
	社会調査法 II B	2後④		1				○							兼1	隔年
	教育学特論	2前①～② ・後③～④		2				○							兼1	
	教育心理学特論 (教育・学校心理 学)	2後③～④		2				○							兼1	
	日本国憲法	3前①～② ・後③～④		2				○							兼2	
	小計 (83科目)	-	0	124	0		-		0	3	0	0	0		兼65	
専 攻 教 育 科 目	基礎造形 (平面)	2前①～②	2					○		1					兼1	オムニバス
	基礎造形 (立体)	2後③～④	2					○		1						
	芸術情報設計概論	1前①～②	2					○	4	7		4				オムニバス ※演習
	コンピュータ概論	1後③～④	2					○		1						
	プログラミング基礎	2前①～②	2					○		1						※演習
	芸術情報総合演習	3後③～④	2					○	4	7		4				オムニバス
	卒業研究 I	4前①～②・後③～ ④	2					○	4	7		4				
	卒業研究 II	4前①～②・後③～ ④	4					○	4	7		4				
	知覚心理学	2前①～②		2				○		3		1			兼1	オムニバス
	主観評価法	3前①～②		2				○		3						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	デザインストラテジー基礎	4前①～②		2		○			2	2					オムニバス ※演習
	インターンシップ（学部）	3・4通		2			○					2			
	設計多変量解析	2後③～④		2		○						1			
	応用時系列解析	3後③～④		2		○						1			
	芸術学概論	2前①～②		2		○				1				兼1	オムニバス 集中
	文化比較論	2前①～②		2		○						2			オムニバス
	演劇文化論	2後③～④		2		○				1					
	芸術文化環境論	2前①～②		2		○			1					兼2	オムニバス
	造形論	3後③～④		2		○				1					※演習
	知的財産論	3前①～②		2		○						1			
	芸術文化施設論	3後③～④		2		○			1			2		兼1	オムニバス
	色彩学	3後③～④		2		○				1					
	画像論	3後③～④		2		○				1					
	比較映画・演劇文化演習	3前①～②		2		○				1		2		兼1	オムニバス ※演習
	フィールドワーク演習	3後③～④		2		○			1						※演習
	デジタルコンテンツデザイン	2前①～②		2		○			1						※演習
	コンピュータグラフィックス	2前①～②		2		○			1						
	コンテンツ環境デザイン	2後③～④		2		○				1					
	インタラクションデザイン	2後③～④		2		○						1		兼1	オムニバス
	コンピュータグラフィックス演習	2後③～④		2			○		1						
	デジタルコンテンツデザイン演習	2後③～④		2			○		1					兼1	オムニバス
	インタラクティブインターフェース演習	3前①～②		2			○			1				兼1	オムニバス
	webコンテンツデザイン演習	3後③～④		2			○			1					
	バーチャルリアリティ	3前①～②		2		○				1					
	ソフトウェアアーキテクチャ	2後③～④		2		○			1						
	メディア情報処理	3前①		2		○			1						
	人工生命デザイン	3前①		2		○				1				兼1	オムニバス
	知覚情報処理工学	3後③～④		2		○				1					
	統計・データ科学	3前		2		○			1						
	機械学習	3後		2		○			1						
	メディアアート表現ワークショップ	2後③～④		2			○			1				兼3	オムニバス
	芸術情報先端特別講義	2後③～④		2		○			1					兼3	オムニバス
	芸術情報プロジェクト演習	3前①～②		2			○		4	7		4			オムニバス
	小計（43科目）	-	18	70	0	-	-	-	6	14	0	6		兼16	
学部+	芸術工学特別演習 1	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
内 自由 科目	芸術工学特別演習 2	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 3	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 4	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 5	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 6	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 7	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 8	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 9	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 10	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 11	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 12	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 13	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 14	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 15	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 16	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 17	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 18	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 19	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 20	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	小計 (20科目)		-	0	30	0	-			1	0	0	0	0	
合計 (390科目)		-	42.5	543	0	-			8	25	1	8	0	兼390	

学位又は称号	学士（芸術工学） 学士（学術）	学位又は学科の分野	工学関係、文学関係、理学関係、 社会学・社会福祉学関係、法学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
基幹教育科目から48単位以上、専攻教育科目から80単位以上を修得し、128単位以上修得すること				
①基幹教育科目（48単位以上修得）			1学年の学期区分	4学期
(a)基幹教育セミナー（1単位修得） <必修科目> （1単位科目）基幹教育セミナー				
(b)課題協学科目（2.5単位修得） <必修科目> （2.5単位科目）課題協学科目 (c)言語文化科目（12単位修得） 第1外国語（英語）（8単位修得） 第2外国語（1カ国語選択）（4単位修得） (d)文系ディシプリン科目（4単位修得） <選択必修科目> （2単位科目） 哲学・思想入門、社会思想史、先史学入門、歴史学入門、文学・言語学入門、 芸術学入門、文化人類学入門、地理学入門、社会学入門、心理学入門、 法学入門、政治学入門、経済学入門、経済史入門、 The Law and Politics of International Society （1単位科目） 現代教育学入門、教育基礎学入門				
(e)理系ディシプリン科目（17.5単位修得） <必修科目>（13単位修得） （2単位科目） デザイン史 （1.5単位科目） 微分積分学・同演習A、微分積分学・同演習B、線形代数学・同演習A、 線形代数学・同演習B、情報科学、数理統計学 （1単位科目） 自然科学総合実験（基礎）、自然科学総合実験（発展） <選択必修科目>（4.5単位取得） （1.5単位科目） 基幹物理学I A、基幹物理学I B、基礎化学熱力学、基礎生物学概要、 集団生物学 （1単位科目） 基幹物理学I A演習、基幹物理学I B演習			1学期の授業期間	8週
(f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） <必修科目> （1単位科目）サイバーセキュリティ基礎論				
(g)健康・スポーツ科目（1単位修得） <必修科目> （1単位科目）健康・スポーツ科学演習				
(h)総合科目（1.5単位修得） (i)高年次基幹教育科目（2単位修得） (j)その他（5.5単位修得） 基幹教育科目の授業科目のうち、最低修得単位数を超えて修得する授業科目、 専攻教育科目（在籍学科の科目を除く）のうち、最低修得単位数を超えて 修得する授業科目又は他学部の専攻教育科目から選択			1時限の授業時間	90分
(f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） <必修科目> （1単位科目）サイバーセキュリティ基礎論				
(g)健康・スポーツ科目（1単位修得） <必修科目> （1単位科目）健康・スポーツ科学演習				
(h)総合科目（1.5単位修得） (i)高年次基幹教育科目（2単位修得） (j)その他（5.5単位修得） 基幹教育科目の授業科目のうち、最低修得単位数を超えて修得する授業科目、 専攻教育科目（在籍学科の科目を除く）のうち、最低修得単位数を超えて 修得する授業科目又は他学部の専攻教育科目から選択				
②専攻教育科目（80単位以上修得） <必修科目>（18単位修得） （4単位科目） 卒業研究Ⅱ （2単位科目） 基礎造形（平面）、基礎造形（立体）、芸術情報設計概論、コンピュータ概論、 プログラミング基礎、芸術情報総合演習、卒業研究Ⅰ <選択必修科目>（20単位修得） （2単位科目） 芸術学概論、文化比較論、演劇文化論、芸術文化環境論、造形論、知的財産論、 芸術文化施設論、デジタルコンテンツデザイン、コンピュータグラフィックス、 コンテンツ環境デザイン、インタラクションデザイン、バーチャルリアリティ、 ソフトウェアアーキテクチャ、メディア情報処理、人工生命デザイン、 知覚情報処理工学、統計・データ科学、機械学習				
<学部内自由科目>（6単位修得） 芸術工学特別演習1～20の他、本学科又は芸術工学部の他学科の専攻教育科目 のうち、本学科の専攻教育科目の必修単位として修得する科目以外の授業科目 からも選択可能				

授 業 科 目 の 概 要					
(芸術工学部芸術工学科)					
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考	
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー	科学技術が急速に進歩しグローバル化が進展する現代では、一人ひとりが変化や多様性と“しなやか”に付き合い、柔軟に適応していくことが求められる。このことを可能にするのは、私たちの生涯にわたる自律的な成長を支える<学びの基幹>である。すなわち、社会の諸課題や自己について多様な観点からの知識・情報を受けとめて批判的に考察しつつ、自ら問題を発見し、絶えず主体的に学び続ける態度である。本授業は、異なる専門分野を目指す学生および教員との対話や、それを踏まえた自己省察を通じて、一人ひとりが「学びの基幹」を育むことを目的とする。		
基幹教育科目	課題協学科目	課題協学科目	この科目では文理混合した学生によってクラスを編成し、クラス毎にテーマ(教室テーマ)を設定する。専門分野の異なる3名の教員が一つのクラスを担当し、各々異なった視点から、教室テーマに沿い、かつ、グループ学習に適した題材(協学課題)を提供する。授業では学生が協学課題を考えるために必要となる講義を実施し、講義形式の学びだけでなく、個人演習による自らの学び、そしてグループ作業等による学生同士の学びを重視する。グループ作業や個人演習を通して、幅広い視野をもって問題を発見する姿勢、問題の解決を目指して学び続ける態度と技能、専門を異にする他者と協働できる能力を養うことを目的とする。		
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語A・リセプション	英語による受信能力を高めるためのリーディング及びリスニング活動を中心とする科目である。英語の学術文献や講義の内容を正確に理解するための基本的なスキルを養成する。さらに、それらを批判的に検討する態度や能力を身につける。そのために、情報を受信した後、その情報について学生同士で検証・討論するなど、リーディングとリスニングを思考・分析活動と組み合わせ、英語受信能力の基礎を育成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語A・プロダクション	英語による発信能力を高めるためのライティング及びスピーキング活動を中心とする科目である。パラグラフやエッセイの構造、主張とそれを支える根拠の提示の仕方を学習し、読み手に伝わる論理的な英文作成方法の基礎を養成する。その基礎的理解に基づき、自分で設定した課題に沿ってリサーチを行い、エッセイを作成する。学生同士で書いたものを読み合い、批評、提案を行ったり、書いたものを口頭発表するなど、ライティングに重心を置きつつ、スピーキングの活動を組み合わせ、英語発信能力の基礎を育成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語B・インテグレート	学術英語A・リセプション、学術英語A・プロダクションでの学習成果をもとに、複数技能を組み合わせる活動を行う科目である。様々なジャンルのテキストを読み、また、講義やニュースなどを聞き、その内容について要約や意見を英文で書いたり、英語でディスカッションを行うことなどが考えられる。学部、学科の特性等に応じて、演習対象の技能や組み合わせ、教科書などを教員が選択するが、個人やグループによる口頭発表など、プロダクションの要素を取り込む。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語AB・再履修	学術英語の基礎を復習するための科目である。「学術英語A・リセプション」、「学術英語A・プロダクション」及び「学術英語B・インテグレート」の単位取得ができなかった学生は、この科目によって再履修を行う。学習はウェブベースで行い、読解、聴解、文法その他の3コースに取り組み、大学における英語学習の最低線のレベルとして必要な基礎的英語のスキルを身につける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語A・CALL	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目(基礎)である。1年前期半年を通じて学習を継続し、英語による「受信・発信能力」の基盤を強化する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目 学術英語B・CALL	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（上級）である。1年後期半年を通じて学習を継続し、英語による受信・発信能力の基盤をさらに強化する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目 学術英語C・テーマベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。コンテンツを重視したテーマ別科目であり、時事英語、異文化理解、科学英語、文芸、言語などのテーマを扱う。クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目 学術英語C・スキルベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。個別のスキルを重視したスキル別科目であり、30名程度の少人数クラスで行う。ディベート、ディスカッション、オーラル・コミュニケーション、プレゼンテーション、ライティングなどのスキルを養成するクラスを開講する。クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目 専門英語	学術英語に関連する課外活動に参加することにより単位が認定される科目である。ケンブリッジ大学英語・学術研修、ディベート集中講義等の内容に基づいて単位の認定を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目 ドイツ語Ⅰ	アルファベットの発音、綴り字の読み方の第一歩から始め、基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」、初歩的な運用能力を身につけることを目標とする。また、ドイツ語圏の社会や文化についても学習し、その理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目 ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅰで培った基礎知識、初歩的な運用能力をもとに、一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」、やや高度な運用能力を身につけることを目標とする。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目 ドイツ語Ⅲ	ドイツ語Ⅰ、ドイツ語Ⅱで培った基礎知識、初歩的な運用能力をもとに、さらに一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。さまざまな方法や教材を用いてドイツ語の総合的な運用能力を高める。教材の中にはドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものも含む。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目 ドイツ語プラクティクムⅠ	基礎的な項目をもう一度確認しながら知識を定着させ、ドイツ語の基礎的な能力を身につけることを目指す。ドイツ語Ⅰを学習した学生が、さらに高度なドイツ語を学ぶことを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅡ	ドイツ語Ⅰ、ドイツ語Ⅱで学習した基礎的なドイツ語運用能力を確実にものにするために、さまざまな方法や教材でドイツ語の運用能力を高めることを目的とする。ドイツ語を「聞く」、「話す」、「書く」、「読む」活動を多く取り入れ、ドイツ語の運用能力を確実にすることを旨とする。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	フランス語Ⅰ	基礎的な日常的フランス語を「読み、聞き、話し、書く」ための能力の習得を目指す。フランス語の音体系を理解し、発音ならびに綴り字の読み方に習熟すると同時に、基礎的な単文の構成と文意の理解、基礎的な対話の理解を行えることを目標とする。動詞としては、直説法現在、近接未来、近接過去、命令法そして複合過去を学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	フランス語Ⅱ	フランス語Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、文法体系の学習を完了し、比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」ための能力の習得を目指す。また、正しい発音方法を身につけて語彙や表現力の幅を広げ、さらにフランス語圏の社会や文化、歴史についての知識を深める。動詞としては、フランス語Ⅰで学習した時制に加えて、直説法の他の時制を学習する。条件法と接続法等も学ぶ。全体として、フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、日常使用される会話表現をおおむね理解し運用することを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	フランス語Ⅲ	フランス語Ⅰ・フランス語Ⅱで修得したフランス語の基礎的な運用能力をさらに発展させて、比較的高度な作文能力、幅広い読解能力、実用的会話能力を身につけ、総合的なコミュニケーション能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	中国語Ⅰ	中国語の発音を習得することを目指す。この段階での学習のポイントは、声調とピンイン（ローマ字による中国語表記法）であり、あわせて基本的な表現と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	中国語Ⅱ	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話す能力を身に付ける。中国語Ⅰに引き続き、発音練習を重点的に学ぶ。中国語の基本文法を学習すると同時に、簡単な会話ができることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	中国語Ⅲ	初級中国語を習得した者を対象とし、すでに学んできた発音、語彙、文法を復習しながら、中級レベルの表現や文法を覚え、特に実用会話能力を身につけることを目指す。「中国語Ⅰ、Ⅱ」で学んだことをふまえて、具体的な場面で、中国語を「読み・書き・話し・聞く」ことができるように、語彙や表現を増やしていく。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	中国語実践Ⅰ	「中国語Ⅱ」と同等のレベルで、とくに「話す・聞く」ことに重点をおきながら、基本文法の定着をはかる。この授業では中国語のコミュニケーション能力を伸ばすことを目指す。初級レベルの語彙、文法事項を学ぶとともに、四技能を総合的に高めることにより、高度なコミュニケーション能力を身につける。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	中国語実践Ⅱ	「中国語Ⅲ」と同等のレベルで、「読み・書き・話し・聞く」の4技能の向上、とりわけ「話し・聞く」コミュニケーション力の習得を目指す。初級段階で学んできた語彙、文法を再確認しながら、新しい語彙を増やし、さまざまな中国語の言い回しを学び、中国語応用能力を高めていく。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	ロシア語Ⅰ	ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象としたロシア語入門の授業であり、ロシア語の文字の読み方・書き方からはじめて、文法の基礎を学ぶ。また、簡単な会話の表現を勉強し、音声教材を用いた聞き取り、発音練習を繰り返す。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	ロシア語Ⅱ	ロシア語Ⅰに引き続いてロシア語の基礎的な文法を学ぶとともに、読解・作文・会話の基礎的な力を身につける。基本的な文法を修得するとともに、より本格的な会話表現の聞き取り、発音練習を行う。また簡単なテキストの読解を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	ロシア語Ⅲ	初級文法の学習を終えた学生を対象とし、本格的なテキストの読解、音声教材の聴きとり、会話表現の口頭練習、ロシア語作文などに取り組むことで、ロシア語の総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）を高め、同時により高度な文法事項を修得することを旨とする。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	ロシア語フォーラム	ロシア語と不可分の関係にあるロシアの文化についての理解を深めるために、ロシアの歴史、宗教、思想、文学、芸術、音楽、映画など、ロシア文化の持つさまざまな側面を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	韓国語Ⅰ	この授業は、文字とその発音、語彙などを覚えて、韓国語の文の構造を学び、入門段階の基礎を固める。それを踏まえて、韓国語で簡単なコミュニケーションが出来ることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	韓国語Ⅱ	韓国語Ⅰで培った韓国語の基礎知識を利用して様々な文型を学習しながら基礎会話をマスターする。より高度な運用能力を身につけるために多様な文型を集中的に学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	韓国語Ⅲ	韓国語ⅠとⅡで培った初級韓国語能力をより高度な言語レベルまで引き上げることを目標とする。具体的には「①使用頻度の高い慣用句だけでなく単語のコロケーションについても理解できる、②依頼や誘い、指示・命令、依頼や誘いの受諾や拒否、許可の授受などを自由自在に表現できる」を目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語フォーラム	本講義の目的は、〈ことば〉と〈文化〉を核とし、隣国たる〈韓国朝鮮〉に対する受講生の理解を涵養するところにある。社会言語学や比較文化論等の最新の知見に基づき、〈韓国朝鮮〉の言語文化に深く肉迫する。平均的な大学生にとってあまり馴染みのなさそうな伝統文化などを講ずる形ではなく、少しでも〈韓国朝鮮〉に触れたことのある者なら抱きそうな、身近で素朴な疑問を、〈日本〉と較べながら共に考え、〈韓国朝鮮〉についての知識や理解深めることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅰ	本科目ではスペイン語の基本的文法の習得を目指す。この科目を履修することにより、①スペイン語を正しく発音する、②直説法現在形を用いながら簡単な自己紹介をする、③簡単なスペイン語文を辞書を頼りに読むことができる能力を身に付ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅱ	本科目は「文法」のクラスと「スペイン語表現」のクラスに分かれ、「文法」クラスでは、「スペイン語Ⅰ」で学んだ内容を発展させたスペイン語のより深い文法知識を学び、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語Ⅰ」で学習した内容を応用したスペイン語の実践的な表現を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅲ	本科目には「作文」「講読」「会話」の3種類のクラスに分かれ、「作文」のクラスでは、「スペイン語Ⅰ・Ⅱ」で学習した文法知識を利用してスペイン語による自己紹介文、メール等が作成できるようになることを目指す。「講読」のクラスでは、「スペイン語Ⅰ・Ⅱ」で学習した文法知識を利用してスペイン語圏の社会・文化について書かれたテキスト等を教材にしなが、スペイン語を正確に読む能力を身につけることを目指す。また、「会話」のクラスではスペイン語を母語とする教員の指導のもと、スペイン語の実践能力の向上を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語フォーラム	「スペイン語Ⅰ・Ⅱ」の学習内容と併せて、広くスペイン語圏の文化・社会を多角的に学習する。授業の前半ではスペイン語基礎動詞のコロケーションを学び語彙を増やし、自然な表現力の習得を目指す。その後、スペイン諸都市の地理・文化を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅱ	週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅲ	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅳ	日本語Ⅲ終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語V	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の4技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語VI	日本語V終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語VII	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化自由選択科目	入門ドイツ語 I	第3外国語等として初めてドイツ語を学習する人を対象にした科目であり、発音および基本的な文法、易しい文章を学ぶ。ドイツ語を第1、第2外国語として選択していない全学生を対象とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化自由選択科目	入門ドイツ語 II	入門ドイツ語 I の内容をさらに発展させ、引き続きドイツ語の基礎を学習する。原則として入門ドイツ語 I をすでに受講していることが履修の条件となる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化自由選択科目	入門中国語 I	初めて中国語を学習する人を対象にした科目である。発音および基本的な文法を初歩から学ぶ。中国語を第1、第2外国語として選択していない全学生を対象とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化自由選択科目	入門中国語 II	「入門中国語 I」の内容をさらに発展させ、引き続き中国語の基礎を学習する。中国語の発音とピンインをすでに学習しているものとして授業を進める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化自由選択科目	中国語オーラル・リスニング演習 I	この授業はスピーキングとリスニングの力を伸ばすことを目指す。中級レベルの文法や語彙を学び、「読む、書く、聞く、話す」能力を総合的に高め、特に「聞く、話す」ことに重点を置き、多様な口頭・聴解練習を通じて、中国語コミュニケーション能力を養っていく。授業を通して、中国の文化・習慣、現在の社会事情への理解を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化自由選択科目	中国語オーラル・リスニング演習Ⅱ	この授業はリスニングとスピーキングの能力を伸ばすことを目指す。中級レベルの語彙、文法事項を学ぶとともに、4技能を総合的に高め、特に「聞くこと」と「話すこと」を集中的に練習することにより、高度なコミュニケーション能力を身につける。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化自由選択科目	中国語表現・読解演習Ⅱ	この科目では、一年程度の中国語既習者から、中国語を数年間学習している中・上級者までを対象に、初・中級の語彙と文法事項を再確認しながら、確かな中国語の読解力と表現力を身につけることを目標とする。授業では様々な話題について、実際に話したり聞いたりする練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化自由選択科目	入門ロシア語Ⅰ	ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象としたロシア語初級の授業である。ロシア語の初級文法を学ぶとともに、読解・作文・会話の基礎的な力を身につける。やさしい教科書を用いて、ロシア語の文字と発音、文法の基本、簡単な会話表現を学ぶ。ロシア語を第1、第2外国語として選択していないことが履修条件となる。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化自由選択科目	入門ロシア語Ⅱ	「入門ロシア語Ⅰ」に引き続いて、ロシア語の初級文法と簡単な会話表現を学ぶ。「入門ロシア語Ⅰ」を履修済であることが履修条件となる。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化自由選択科目	入門韓国語Ⅰ	この科目では、入門者を対象にして、韓国語の基礎をマスターすることを目指す。正確な発音と基本的な文法を学ぶ。原則として韓国語を初めて学習する学生を対象とする。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化自由選択科目	入門韓国語Ⅱ	入門韓国語Ⅰの内容をさらに発展させた科目であり、原則として入門韓国語Ⅰをすでに受講していることが履修の条件となる。韓国語＝朝鮮語を半年ほど学んだ者を対象に、韓国語の基礎を講義する。日本語と韓国語の間を対照言語学的な視座から自由自在に遊弋し、総合的な韓国語力の涵養を企図する。言語のみならず、可能な限り韓国社会・文化についても言及する。基礎的な韓国語の力量の獲得に留まらず、なぜ言語を学ぶのか、言語とは何か、言語学習にとって文化とは何かなどといった、根源的な問いを考える契機を与えることも本講義の目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化自由選択科目	韓国語表現・読解演習Ⅰ	韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した学生を対象とする。多様な韓国語表現を学習し、様々なジャンルのテキストを用いて内容を正確に理解することを目指す。中級（以上）の韓国語力と非母語学習の拠り所である十分な母語（日本語）力、基本的知性、そして強い学習意欲が求められる。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化自由選択科目	韓国語表現・読解演習Ⅱ	上級レベルの韓国語力を有する非母語話者を対象とし、多様なジャンル・文体の韓国語テキストの講読を通して、韓国語の読解力、語彙力、表現力の涵養を企図する。日本語など、他の言語とも対照しつつ、韓国語のみならず、日本語や言語一般への関心をも喚起するような授業とする。また、方言や言語行動など、韓国朝鮮の様々な言語文化にも肉迫する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系 ディシプリン 科目	先史学入門	この科目では、ヒト祖先の起源から現在の人類までの歴史をさかのぼり、ヒト集団内の遺伝的な多様性を進化的視点で考察する。(1)進化論の進展、(2)細胞生物学とそれに関連する変異性、(3)小進化のしくみ、(4)ヒト集団内・間の違いとその多様性を生んだ環境要因について探求する。そして最後に、(5)ヒトの多様性を表すには不十分で生物学的には無効な「人種」概念が構築された背景やその問題点について検討する。	
基幹教育科目	文系 ディシプリン 科目	歴史学入門	この授業では、歴史学的思考力を身に付けることを目的とする。具体的なテーマは、城割の歴史である。城割とは城を壊す行為をいう。戦国時代から戦争のない近世社会に移行する際に、城割は重要な政策だった。城割には作法があり、その作法も時代とともに推移し、政治的・社会的意義も変化した。その歴史を読み解くことで、どのようにして200年以上も国内戦争をほとんど経験しない平和な近世社会を成立せしめたのか、という近世社会成立の本質について考察する。	
基幹教育科目	文系 ディシプリン 科目	文学・言語学入門	日本近代文学を研究する上で学習しておくべき基本的な知識と方法を身に付ける。検討事項は、読むという行為、読みの審級、読みの方法、受容の様相、読解の具体例になる。上記について日本近代文学の短編小説を用いて検討する。	
基幹教育科目	文系 ディシプリン 科目	芸術学入門	この授業は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員が、それぞれの専門領域に基づいて、その研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かす、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を得ることになる。	
基幹教育科目	文系 ディシプリン 科目	地理学入門	人類は、複雑な生業技術の開発を通じて、世界の多様な自然環境に対応し、独自の地域文化を発達させてきた。また、それと同時に各地域で営まれる経済、政治、文化、社会の諸活動は、交通・通信技術の発達など、世界規模に拡大した空間関係の動態のなかに組み込まれてきた。地理学とは、以上のような人間集団と自然環境、地域、空間、場所のかかわりに着目して、地球上の諸現象を探究する学問といえる。本講義では、さまざまな地域研究を事例としながら、地理学の基本概念や視点、方法を紹介し、地球上の人間と社会の多様性と普遍性を理解する方法や、人間と自然との関わりを理解する方法を学ぶ。	
基幹教育科目	文系 ディシプリン 科目	社会学入門	社会学(sociology)は、社会の(socio-)論理(-logy)を解き明かそうとする学問である。その研究主題は、具体的な社会集団や社会的場面であることもあれば、様々な社会現象であることもある。あるいは、社会を分析する方法や視角であることもある。家族、近隣コミュニティ、農村、都市、階層、階級、市民社会、近代化、情報化、管理社会、格差社会、大衆文化・メディア、逸脱、福祉、社会統計・社会調査、数理モデル構築、権力論、社会哲学的考察など、多様な課題が研究主題となる。人が複数集まる時、そこには個人の思惑を超えた、“社会”の動きが発生する。講義では、担当教員が取り上げた主題において、どのような社会の論理(法則)が働いているのかを考えて行くことによって、社会学的なものの方を見方を学んで行く。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	心理学入門	この授業では、私たちの日常の行為や思考に関わる心理学の研究について、担当教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。誰しも人の心がどのように働くかについては関心を有するであろう。これを単なる趣味的な段階からとき放ち、本格的な研究として開花させてゆくために、順序だてた講義を行う。心理学の成りたちを、その根源にたち返って考えることで、文系・理系の区別を超えた、人間とは何かを考え続けてゆく力を身に付ける。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	現代教育学入門	社会科学としての教育学は今日、多様な広がりや深化を見せてきている。それぞれに専門化してきた諸領域は、その射程によって実践から理論までを大きく包み込み、目的や対象を多彩にずらしながら学問研究を多様化させてきたと言える。いまやその広がりや学際的な人間諸科学の様相をなしていると言えよう。本講義では、このような今日の教育学が研究対象とする社会システムや制度、メディア、地域、思想、文化、歴史などの多様なテーマを取り上げることで、その広がりや深化を学問の言葉と視線をもって経験することを目指す。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	教育基礎学入門	教育は真空のなかで行われる無機質な営為ではない。それは歴史的・文化的・社会的空間で営まれると同時に、極めて複雑で歴史的な存在としての「人間」の生のなかに深く織り込まれ、かつ、「人間」そのものを歴史的・文化的・社会的存在として形成していくものである。この意味で教育学とは、様々に生起する教育という事象を巡りながら、「人間とは何か」という問いそのものを陰に陽に問い続ける学問だと言えるだろう。本講義では、こうした教育と教育学とを基礎的視点から描き出すことを目指す。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	法学入門	法学の基本的な能力を身に付ける。(1)法学の基礎概念、法的思考方法、法解釈の基本技能その他法学の基本的内容の理解。(2)法学部の基本科目の教科書を自学で読み進めることができるようになる。(3)法解釈の基本技能を活用して、法的な紛争事例に関して適切な解釈を行える。(4)事前課題等に対して、的確に、かつ積極的に答えることができる。不明事項について自身で一定程度調べたのちなお不明な事項を積極的に問うことができる。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	政治学入門	本講義では、政治学や政治史、国際政治学、国際関係論を学ぶ上で基礎となる基本的な概念や問題を、主に19世紀以降のアジアが直面した諸問題を世界の他地域の事例と比較検討することを通じて学ぶ。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済学入門	私たちは、衣食住のすべてを自分の力だけで満たすことはできない。しかし、市場を通じた交換によって、必要なものを国内ばかりか外国からも手に入れることができる。この一見当たり前に見える現象を効率的に行う市場メカニズムとは、どのような原理で動いているのか、また、それを経済社会全体としてどのように把握し理解すればよいかなど、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学の基本概念を学びながら経済学の大枠について理解を深める。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済史入門	21世紀となった現在の世界は、20世紀後半に見られた東西対立といった問題から、それを完全には解決しないまま、南北問題という新たな課題に直面するようになった。豊かな国や地域がある一方で、貧しいまま発展から取り残されたような国や地域がある。しかもその「南北格差」は、今や一つの先進国の中にも持ち込まれるようになってきている。そのことも無視することはできない。なぜこのようなことが起こったのだろうか。実は答えは簡単ではない。経済史入門というこの授業では、西洋経済史を中心とした講義と、日本経済史を中心とした講義とに分けて開講されるが、いずれも、「歴史＝暗記科目」という高校までの勉強で作りに上げられたかも知れない固定観念を相対化することを目標としつつ、我々が抱える様々な現代的問題を、経済の歴史的歩みを辿ることで考察していく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系 ディシプリン 科目	The Law and Politics of International Society	環境問題、消費者保護問題、欧州連合、子の奪取、国際結婚、国際犯罪、人道的干渉、核兵器問題など、グローバル社会の様々な問題を法及び政治の観点から英語で学ぶ。 【キーワード】 グローバル社会、国際社会、法と政治	
基幹教育科目	理系 ディシプリン 科目	社会と数理科学	数学的な考え方と素養を現実社会の話題にも触れながら学ぶ。演習を通じて実際に応用方法にも触れる。 【キーワード】 グラフ・組み合わせ、確率の考え方、最適化問題、統計学初歩、現象数理初歩（微分方程式、初等整数論）、行列初歩、数学史、力学史など	
基幹教育科目	理系 ディシプリン 科目	微分積分学	高校で学んだ微積分学はその初歩段階であり、大学における様々な学問の基礎としては不十分である。この講義では、高校段階では習熟していない事柄を中心にして、大学で学ぶ学問の基礎となる微分積分学、すなわち、1変数および2変数の微分積分学の基礎事項を学ぶ。 【キーワード】 極限とその性質（数列の極限、等比級数、関数の極限）、微分の定義と計算、積分法（微分積分学の基本定理、部分積分、置換積分、有理・無理関数の積分）、2変数の偏微分、2重積分と累次積分	
基幹教育科目	理系 ディシプリン 科目	微分積分学・同演習A	微分積分学・同演習AとBを通して学習することにより、1変数および多変数の関数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学・同演習Aでは、主に1変数関数の微積分を扱う。 【キーワード】 極限操作（数列、級数）、関数と連続性、微分の定義、連鎖律、高階導関数、テイラー展開、積分の定義と微分積分学の基本定理、積分の計算（部分積分、変数変換、広義積分）、初等的常微分方程式（変数分離型）	
基幹教育科目	理系 ディシプリン 科目	微分積分学・同演習B	微分積分学・同演習AとBを通して学習することにより、1変数および多変数の関数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学・同演習Bでは、多変数関数（主に2変数関数）の微分積分学を扱う。 【キーワード】 多変数関数の連続性と微分（偏微分、全微分、連鎖律）、多変数関数のテイラー展開と極値問題、陰関数定理、逆関数定理とその応用、多重積分の定義、多重積分の計算（累次積分、変数変換）	
基幹教育科目	理系 ディシプリン 科目	微分積分学・同演習I	微分積分学・同演習I、II、IIIを通して学習することにより、1変数および多変数の関数の微積分学を体系的に深く理解し使えるようになる。 微分積分学・同演習Iでは主に1変数関数の微積分学を体系的に学ぶ。 【キーワード】 極限操作（数列、級数）、関数と連続性、微分の定義、連鎖律、高階導関数、テイラー展開、積分の定義と微分積分学の基本定理、積分の計算（部分積分、変数変換、広義積分）、初等的常微分方程式（変数分離型）	
基幹教育科目	理系 ディシプリン 科目	微分積分学・同演習II	微分積分学・同演習I、II、IIIを通して学習することにより、1変数および多変数の関数の微積分学を体系的に深く理解し使えるようになる。 微分積分学・同演習IIでは主に多変数関数の微分と関連する話題を学ぶ。 【キーワード】 多変数関数の連続性と微分（偏微分、全微分、連鎖律）、多変数合成関数の微分法、多変数関数テイラー展開と極値問題、陰関数定理、逆関数定理と応用	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学・同演習Ⅲ	微分積分学・同演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して学習することにより、1変数および多変数の関数の微積分学を体系的に深く理解し使えるようになる。 微分積分学・同演習Ⅲでは主に多変数関数の重積分と関連する話題を学ぶ。 【キーワード】 多重積分の定義と性質、多重積分の累次積分による計算法、多重積分の変数変換、多重積分の応用（体積、曲面積）、線積分と面積分、グリーンの定理、ガウスの定理	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数	文系、理系を問わず、データ処理、数値計算、線形最適化問題など現実社会で有用な手法の基礎には、線形代数の考え方が必須となる。本講義では、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。 【キーワード】 3次元空間、平面の方程式、複素平面、連立一次方程式と行列の演算、行列と線形写像、逆行列、行列式、固有値と固有ベクトル	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学・同演習A	線形代数学・同演習AとBを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学・同演習Aでは、主に行列、行列式の計算手法、およびベクトルの独立・従属などの概念を学習する。 【キーワード】 3次元空間、平面の方程式、複素平面、行列と線形写像（具体例による）、連立一次方程式と行列の演算（掃き出し法、基本変形）、ベクトルの一次独立と一次従属、行列式、逆行列・余因子行列	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学・同演習B	線形代数学・同演習AとBを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学・同演習Bでは、主に線形空間、線形写像の概念を修得する。また、行列の対角化が使えるようになる。 【キーワード】 線形空間、線形部分空間の次元と基底 線形写像の定義、性質、核と像 固有値と固有ベクトル 行列の対角化 内積をもつベクトル空間、正規直交基底 エルミート行列（実対称行列）の対角化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ⅠA	将来、数学のより高度な知識とより深い理解を必要とする学生を対象に、線形代数・微積分の演習を通して、数学の基礎力・応用力をつけることをめざす。 【キーワード】 集合と論理、数列・級数の収束、関数の連続、微分法及びその応用（テーラー展開、極値等）、行列に関する基本事項、行列式の基本事項、各種行列式の計算	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ⅠB	将来、数学のより高度な知識とより深い理解を必要とする学生を対象に、線形代数・微積分の演習を通して、数学の基礎力・応用力をつけることを目指す。 【キーワード】 積分法とその応用、関数列とその極限、多変数の微分法とその応用、線形性（線形空間、線形写像）の具体例による理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、行列の対角化等）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習Ⅱ	将来必要とされる高度な数学知識と深い理解の基礎となる能力を、微積分・線形代数の演習を通じて修得する。 内容は履修するクラスの習熟度、必要度に応じて調整する。 【キーワード】 （以下は一例で、必要に応じて取捨選択、追加する） 集合と論理、極限の厳密な取り扱い（epsilon-delta論法）、数列・級数の収束、関数列とその極限、1変数及び多変数関数の微分法及びその応用、1変数及び多変数関数の積分法とその応用、線形性（線形空間、線形写像）の（具体例を用いた）深い理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、対角化）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数理統計学	統計的推測の基本的考え方を身に付け、データ構造を解析する手法について学修する。 【キーワード】 確率（離散型確率変数、連続型確率変数）、モデル（母集団、母平均、母分散）、統計的推定（標本平均、標本分散、点推定、区間推定、最尤推定）、統計的仮説検定（平均の検定、分散の検定、比率の検定）、分散分析、回帰分析	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学A	主に文系学生を対象とし、身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。主に力学、気体、熱力学を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学概論A	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、物理学概論A、Bの両者を一緒に選択することを強く推奨する。 物理学概論A演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 基幹物理学I Aの内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な力学を理解する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学概論B	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、物理学概論A、Bの両者を一緒に選択することを強く推奨する。 物理学概論B演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 基幹物理学I Bの内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。電磁気学と熱力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な電磁気学と熱力学を理解する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学概論A演習	物理学概論Aに対応した演習科目。 簡単な現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解くのに必要な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則も活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学概論B演習	物理学概論Bに対応した演習科目。 電場と磁場および熱力学の概念を理解し、簡単な電気・磁気現象および熱力学に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基幹物理学I A	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、基幹物理学I A、I Bの両者を一緒に選択することを強く推奨する。 基幹物理学I A演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを一貫した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその1例としての古典力学を対象として、ニュートンの運動の3法則を基本法則として力学現象を論理的に整理し、運動を記述すること、運動方程式を解くこと、エネルギー・運動量・角運動量の保存則などの物理的概念を身につけることを目標に、質点、質点系、および剛体に関する力学の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基幹物理学ⅠB	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、基幹物理学ⅠA、ⅠBの両者を一緒に選択することを強く推奨する。 基幹物理学ⅠB演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその具体例としての電磁気学と熱力学を学ぶ。前半では、場という考え方を中心に電気・磁気現象の基本的事項を学ぶ。後半では、熱現象や熱力学の基礎を学ぶ。それらの基本概念や基本法則を、具体的な現象に応用して理解する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基幹物理学ⅠA演習	基幹物理学ⅠAに対応した演習科目。 力学の法則をより深く理解し、現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解ける十分な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則を十分に活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基幹物理学ⅠB演習	基幹物理学ⅠBに対応した演習科目。 電場と磁場の概念および熱力学の概念をより深く理解し、電気・磁気現象および熱力学に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学演習	相対運動を理解し、質点系および剛体に関する基本的事項を習得し、質点系および剛体の運動方程式をたて、それを解くことができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「基幹物理学Ⅰ」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。講学生が、講義内容の各テーマに関して、その基礎知識を吸収し、その分野へのさらなる興味を持つこと、自ら文献や参考資料を調べるなどの自発的態度を養うことを目的とする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基幹物理学Ⅱ	「基幹物理学Ⅰ」では古典物理学の基礎を学ぶが、ミクロな世界は古典物理学とは異なる量子力学の法則に従っている。また、時空概念の変革をもたらした相対性理論は現代物理学の基礎となっている。この科目では、現代物理学への入門として、量子力学の基礎と特殊相対性理論について講義し、量子力学の基礎と特殊相対性理論を学ぶことで、ミクロな世界の物理法則と時空の概念を知ること、量子力学と特殊相対性理論が現代物理学の基礎となっていることを理解すること、学んだ基礎的な内容に基づいて、系統的な方法を用いて新しい問題にアプローチできるようになることを目的とする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電気電子工学入門	本講義では電気電子機器類の動作原理を理解するために、電気工学の基礎的事項を習得する。 【キーワード】 直流電気回路 交流電気回路 電気回路の過渡現象	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	原子核物理学	原子核物理学では、放射線による診断・治療に必要な物理関連の事項を取り扱う。特に原子核から放出される核放射線(α 線、 β 線、 γ 線、中性子線)および原子核反応についての理解を深めることに重点を置く。その為に、原子核の基本的な性質について学び、放射性壊変(α 壊変、 β 壊変)、核の殻構造(shell model)、原子核反応の理論、原子核の統計的性質などについて理解を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの化学	化学に関する新聞記事や報道番組の内容を化学の基本的な考え方で理解できるようになるために必要な化学の基本概念を高校レベルから学ぶ。その後、身の回りの化学製品、化学的事象や環境問題を取り上げ、それらに対する化学的な理解の方法を身に付ける。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学	化学の基本概念に基づいて、物質の構造、性質や反応をどのように理解するかを講義する。化学の基礎を高校レベルから復習し、大学での専門教育を理解するのに必要な知識や理解力を鍛える。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学	無機物質化学では、まず元素の周期表に基づき原子の電子構造と周期律との関係を理解、次に原子同士を結びつける化学結合についての基礎を学び、代表的な無機化合物の性質との関係を修得する。さらに、現代社会を支える重要な無機化合物を紹介し、構造や物性について概観する。この科目を修得後、有機物質化学を履修することで化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学	この科目では、有機化合物の構造と反応性について系統的に理解するための基礎知識の修得を目的とする。はじめに身の回りの有機化合物の特徴について概観した後、有機化合物の官能基別の分類法と基本的な化合物命名法について説明する。次に、異性体の分類法や表示法の概要と、分子構造を立体的に考えることの重要性について学ぶ。そして、いくつかの代表的な反応について、電子移動の方向とその起こりやすさがどのような要因に基づいているのかを考え、反応の基本的な原理を理解する。最後に、それぞれの官能基に特徴的な反応と合成法について代表的な例を見ていく。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論	化学の基本概念の1つである量子化学的なもの見方・考え方の定量的理解（数学を用いる）を目的とする。すべての物質の化学的性質は、その物質の構成単位である微視的な粒子（原子・分子）の性質によって決まる。そこで、原子の電子構造、元素の周期的性質、分子の生成と化学結合の種類、分子の形等について、電子軌道、分子軌道を基盤として学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学	物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが可能である。この講義では熱力学の基本法則に基づき、分子の集合状態やその変化、化学反応などの現象を自由エネルギー変化の観点から捉え、平衡状態の考え方や変化の方向がどのように決まるかを、演習を交えながら学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代化学	無機化学、有機化学、生物化学、物理化学、分析化学や理論化学などの中から21世紀の社会を支えるさまざまな分野の化学を、化学の基本原則に基づいて概観する。また、最先端の研究事例を大学、企業の研究者から学び、化学研究の未来、社会と化学の関わりを学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学	生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義し、次の能力を身に付けることを目標とする。(1)有機化合物の種類と命名法および代表的な官能基の性質を理解する。(2)分子の構造と反応性について立体化学や電子移動の概念で理解する。(3)天然物質や生体機能物質について農学・生命科学の視座で理解する。講義内容を情報として記憶するだけでなく、知識として活用できる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学	タンパク質、糖、脂質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である生体分子の構造と機能に対する理解を深めることを目的とする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	機器分析学	薬学領域を含めたライフサイエンスにおける分析対象は実に広く、生体物質、医薬品、毒劇物など多くの物質が関連する。これら微量な物質を正確に検出、定量する分析技術として様々な機器分析法が開発されてきた。本授業では、代表的ないくつかの機器分析法の基礎と実際の分析応用例について学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学A	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴を理解できるようになることを目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 <ul style="list-style-type: none"> ・生物に共通した特徴：代謝（呼吸・光合成、恒常性など） ・自己複製（DNA複製、細胞分裂、生殖、遺伝など） ・生物の複雑な構造と機能（生体を構成する分子、細胞の構造と機能、組織・器官・個体の構造と機能、各種生理現象、免疫現象など） 	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学B	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して個体レベル以上で示される生物の多様性、生物と環境との関係などを中心とした特徴を理解できるようになること、生物多様性の保全や生態系サービスの持続的な利用に関して考察できるようになること等を目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 <ul style="list-style-type: none"> ・生物の多様性と生物相互の関係・生物と環境との関係 ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環 ・生物の進化 ・生物多様性の保全と生態系サービスの持続的な利用 	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物学概要	細胞生物学と集団生物学の内容をコンパクトにしたものとする。高校時に生物学未履修の学生も対象にし、生物に対する基礎的な理解を得ることを目的とする。具体的には、生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴と生物の多様性について、以下のような項目に関連した講義を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・生物に共通する特徴と生物の示す多様性 ・生物の最小単位としての細胞の構造と機能 ・生体分子の特徴（生体低分子、生体高分子） ・生物のエネルギー代謝（呼吸） ・生物のエネルギー代謝（光合成） ・遺伝情報の発現と伝達（DNAの構造と複製） ・遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の発現） ・遺伝（減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・多細胞生物（動物・植物）の成り立ち（個体発生） ・生物の環境への応答と適応（個体レベルの生理学、感覚・神経生理） ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環など ・生物の進化 	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	細胞生物学	生物に共通した特徴（自己複製・代謝・複雑な構造と機能）を示す基本単位である細胞の構造と機能についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・細胞の微細構造とその機能（生体膜、細胞内小器官、細胞骨格など） ・細胞を構成する生体分子（タンパク質、核酸、脂質、糖など） ・細胞によるエネルギーの獲得とその利用（呼吸、光合成、物質輸送、運動） ・細胞レベルでの遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の複製と発現、体細胞分裂・減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・細胞による情報処理（細胞間の情報伝達、細胞内情報伝達系） ・細胞の多様性（細胞分化と形態形成） 	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	集団生物学	主として個体以上のレベルにおいて、生物相互・生物と環境の関係性、生物の多様性についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・地球上の多様な生物の概観 ・種・遺伝子プール・遺伝的多様性 ・個体の行動と生物の適応 ・種間の相互作用・生物集団の動態・生態系 ・生物の進化 ・生態系における物質循環 	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	分子生物学	遺伝子の実体であるDNA、ゲノムを中心とした分子生物学の基礎を理解し、遺伝子工学・バイオテクノロジーと言った言葉に表されるようなその応用面での基礎も理解することを目指す。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子・ゲノムの概念とその実体 ・遺伝子の構造と機能（DNA、RNAの構造、DNA複製、転写・翻訳） ・遺伝子発現の調節（転写調節、翻訳調節） ・遺伝子操作の基礎（PCR法の原理、遺伝子クローニング・遺伝子組換え技術の基礎） 	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生態系の科学	人類の未来にとって、増加し続ける世界の人口に対応できる、効率的で安定した食糧生産技術の確立は非常に重要である。その一方で、食糧生産をも含めた、地球上における生物資源利用技術を、いかに環境保全型で持続可能なものに変えていくかという問題も、現代人類に課せられた大きな課題である。これらの諸問題を総合的に解決していくためには、地球上の生命現象に対する、生態学的理解が不可欠である。しかし、生態学の全体像を理解するには、個体レベル、個体群レベル、群集レベル、生態系レベルさらには生物圏レベルでの、生物と環境との相互関係を理解することが必要である。本講義では、個体レベルから生物圏レベルまでの様々なレベルで、実際に生物生産に関連した生態学の研究を行っている講師が、具体的な事例も交えながら、現代生態学の現状について解説することで、生物と環境の相互作用、動物個体群動態の法則、植物群落の生産構造、生物群集の法則性、生態系の構造と機能、生態系における物質循環・エネルギー循環について理解することを学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球と宇宙の科学	現在の太陽系では、地球だけが、表面に液体の水を安定的に保持し、生命をはぐくんでいる惑星である。この授業では、まず、太陽系の惑星・衛星の特徴をみていきながら、地球の特徴を認識し、その上で、地球がどのようにして現在見られるような惑星になったかを学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球科学	現在の地球を構成する物質と環境は、個体地球と大気・海洋および生命の46億年にわたる相互作用によって形成されてきた。地球科学では、地球の表層、地球の実質、化石等による生命起源の探索という3つの主要なテーマを通して、私たちが生まれ生活している惑星「地球」の進化と実態について学び、理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	最先端地球科学	地球惑星科学における最先端分野を照会し、それらの基礎的事項や研究手法など（具体的には、結晶成長と溶解、新生代の気候変動、年代測定、地球を構成する岩石、地球の内部構造と同位体）について学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目 理系 ディシプリン 科目	デザイン思考	<p>デザイン思考は、多様な専門性を持つ参加者が、これまでデザイン学の世界で培われてきた可視化やプロトタイプなどのデザイン手法を用いながら協同して課題発見と解決を行う考え方で、デザイナーの発想法やデザインメソッドを「未知の課題を発見し解決する」ために用いるものである。本授業ではこの考え方を広義にとらえ、必ずしもデザイン分野に限らない複数の専門家によって、それぞれの分野での問題や課題の発見、方法の探索、解決までのプロセスを実際の例を紹介し解説していく。数分野でのデザインの思考法やデザイン方法を理解し、それぞれの専門分野での問題発見・問題解決の方法の一つとして取得することを目指す。</p> <p>《春学期》（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（32 尾方義人／1回） ガイダンス及び導入。デザイン思考の概説。 （23 石井達郎／2回） 画像設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （37 城 一裕／2回） 音響設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （62 稲村徳州／2回） 芸術情報設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （32 尾方義人／1回） まとめと評価。</p> <p>《夏学期》（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（37 城 一裕／2回） ガイダンス及び導入。デザイン思考の概説。 音響設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （23 石井達郎／2回） 画像設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （62 稲村徳州／2回） 芸術情報設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （41 曾我部春香／2回） 工業設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 まとめと評価。</p> <p>《秋学期》（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（32 尾方義人／1回） ガイダンス及び導入。デザイン思考の概説。 （23 石井達郎／2回） 画像設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （53 山内勝也／2回） 音響設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （62 稲村徳州／2回） 芸術情報設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （32 尾方義人／1回） まとめと評価。</p> <p>《冬学期》（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（41 曾我部春香／2回） ガイダンス及び導入。デザイン思考の概説。 工業設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （53 山内勝也／2回） 音響設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （62 稲村徳州／2回） 芸術情報設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （23 石井達郎／2回） 画像設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 まとめと評価。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系デザインシブリン科目 図形科学	私たちを取り巻く大きささまざまな三次元の対象物（例えば機械や建物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。また、ディスプレイやスライドをはじめとする表示メディアには、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。本科目を学ぶ目的は、講義と演習を通じて、これらの能力を身につける事にある。学期の前半は、図形の表現・解析の基礎である投影の概念と正投影法の規則を、点や直線・平面・立体を例に修得する。後半では、立体の切断や相貫・展開など前半の応用に加え、正投影法以外の投影法（軸測投影・斜投影・標高投影・透視投影・陰影）の中から、必要と考えられる投影法を併せて修得する。	
基幹教育科目	理系デザインシブリン科目 空間表現実習Ⅰ	図形科学を履修することにより、機械装置やその部品、土木構造物やイメージした建築空間とその付随施設などを、二次元平面上の図形として表現可能となるが、これらを実際につくるには、この図形に対象物のサイズや配置、用いる材料や加工方法・表面性状などの情報を付加し、設計者と製作者の間の情報伝達手段として活用できる「図面」を作成する必要がある。 この授業では、図面を理解し作成するために必要な基礎知識を、講義と実習と通じて修得する。具体的には、図面に関する国際的な取り決め事項（ISO・JIS製図関連規格）や図面に特有の慣用的表現法・作図技法などを中心とした講義を行う。そして、講義内容を確実に身につけるため、文字・線の練習、ねじや継手などの機械要素部品の写図・スケッチ・製図を、主に製図機を用いて行う。	
基幹教育科目	理系デザインシブリン科目 空間表現実習Ⅱ	図形を読むことは、建物や都市空間に関わるものにとっては、必ずやらなければならないことである。図面を読み、建築物の内部空間、外観、都市空間などを具体的に把握することが必要である。 建築系空間表現実習では、スケッチや透視図による建築空間の表現技法を学び、続いて、家具の実測、作図、模型製作、写真撮影、プレゼンテーションを行って生活空間における造形デザインについて学ぶ。 環境系空間表現実習では、基礎的な建築とランドスケープの知識や空間の読み取り、またその表現技法について学ぶ。 工業系空間表現実習では、透視図法および製図の基礎技能を学んだ上で、インテリア空間と空間を構成する要素（家具など）相互の関係の表現方法を養う。	
基幹教育科目	理系デザインシブリン科目 世界建築史	世界の建築の歴史的な成り立ちを、社会、文化、芸術の様相、また技術の進歩と関連付けて理解し、建築の歴史・意匠に対する認識を深めることを目的とする。	
基幹教育科目	理系デザインシブリン科目 日本建築史	日本建築・都市の構造・技術・意匠の創出とその変遷を、大陸の建築文化を加味しながら当時の社会構造（権力、政治、経済、軍事、文化など）との関係で捉え、概説する。建築・都市の技術・構造・意匠を理解するうえで必要な知識のを身につける。	
基幹教育科目	理系デザインシブリン科目 デザイン史	デザインの歴史は、物の創造と技術の歴史に深くかかわっている。この授業では、デザインの歴史を概観し、様々な実践を支える理論的・技術的・思想的・社会的背景を学ぶ。時代とともに変遷するデザインの多様な側面を知ることで、デザインをめぐる過去と現在、ひいては未来を考える力を身につけることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	情報科学	現代社会における情報通信機器の浸透は著しく、人々は好むと好まざるとに関わらず、社会インフラとしての情報通信技術に強く依存している。したがって、複雑化する社会情報基盤を支える情報通信技術の基本原則について正しい理解を得ることは、次世代情報化社会を生きる大学生諸君にとって極めて重要である。この授業では、情報科学の基本的な事項について講義することにより、普段はブラックボックスとして使っている身の回りの情報通信機器の動作原理に関心をもち、科学的に理解することを目指す。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	プログラミング演習	主として、プログラミング演習を行う。「計算機の動作原理」「情報の効率的表現」「効率的な計算手順」といった、情報科学の基本的概念についても簡単に講義する。この演習は、特定のプログラミング言語の修得が目的ではなく、自ら作成したプログラムにより計算機にデータを処理させる体験等を通じて、情報処理の基本原則について理解を深めることを目的とする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	コンピュータープログラミング入門	放射線医学関係の医療技術者（診療放射線技師、医学物理士など）は、最先端の医用画像処理技術に基づく医療機器を操作する必要がある。そのためには医用画像処理技術の基礎となるソフトウェアを知る必要がある。そこで、この講義では、医用画像処理のプログラミングに必要なコンピュータプログラミング（C言語）の基礎を演習する。主に、C言語の基本、数値演算のアルゴリズムとプログラミングを学習する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	自然科学総合実験（基礎）	人間は、自然の事物・現象の中に様々な法則を見いだしてきた。その営為である自然科学の進展には実証という過程が必然的に要求されてきた。基幹教育における自然科学総合実験の目的は、理系学生全員に人間が自然の事物・現象を基礎的な実験・観察を通してどのように理解しようとしてきたのかについて総合的に理解してもらうことである。その過程で、受講生が様々な実験・観察の手法の基礎を学び、物事を合理的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を身につけることも目的の一つである。自然科学総合実験（基礎）におけるテーマは下記のとおりである。 【物理学実験_基礎】重力加速度の測定、光の測定 【地球科学実験_基礎】地球の形成と構成物質 【化学実験_基礎】①炎色反応と原子スペクトル ②金属イオンの系統分離 【生物学実験_基礎】①顕微鏡の使用法と動物組織の観察 ②植物細胞と気孔の開閉運動の観察	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	自然科学総合実験（発展）	人間は、自然の事物・現象の中に様々な法則を見いだしてきた。その営為である自然科学の進展には実証という過程が必然的に要求されてきた。基幹教育における自然科学総合実験の目的は、理系学生全員に人間が自然の事物・現象を実験・観察を通してどのように理解しようとしてきたのかについて総合的に理解してもらうことにある。その過程で、受講生が様々な実験・観察の手法の基礎を学び、物事を合理的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を身につけることも目的の一つである。自然科学総合実験（発展）におけるテーマは下記のとおりである。 自然科学総合実験（基礎）の受講を済ませていることが望ましい。 【物理学実験_発展】①斜面を転がる球の力学実験 ②磁束密度の測定 【化学実験_発展】①アセチルサリチル酸の合成 ②ダニエル電池の起電力 【生物学実験_発展】①アルコール代謝関連遺伝子の多型検出 ②植物からのDNAの抽出とPCRを用いた特定遺伝子領域の増幅	
基幹教育科目	サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	インターネットや ICT 技術の普及によって、サイバーセキュリティに対する重要性が日に日に高まっている。また、考慮すべき領域は、コンピュータをインターネットに接続している空間だけに留まらず、パソコンを持ち運んでいる時、あるいは銀行オンラインシステムを利用している時などを含めた、サイバー空間全体に広がっている。このような状況で我が国ではサイバーセキュリティ基本法が施行され、大学におけるセキュリティの教育に加え、国民個人のセキュリティへの対応能力の向上が求められている。本講義では、学年、理系・文系を問わず、今後 ICT 国際社会で生き抜くためのサイバーセキュリティ力を向上させることを目的として、セキュリティに関する基礎的な技術から法律、倫理まで幅広く学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	健康・スポーツ科学演習では、身体運動やスポーツが心身の健康に及ぼす効果を身体的、心理的、社会的な観点から理解するとともに、健康的で充実した学生生活および社会生活を送るために必要な身体的および心理社会的能力の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、学修活動・社会活動の基盤となる健康・体力を向上させるための身体運動あるいは心身トレーニングの原理と実践方法を学習するとともに、自律的セルフケアスキルであるライフスキル（ストレス対処スキル、目標設定スキル、リーダーシップスキル、コミュニケーションスキルなど）の習得を目指す。 *アダプテッドコース 病気やけが、障害などの理由により、通常健康・スポーツ科学演習の授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
	健康・スポーツ科目	身体運動科学演習Ⅰ	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で習得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定する。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化する。 *アダプテッドコース 病気やけが、障害などの理由により、通常身体運動科学実習Ⅰの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学演習Ⅱ	ライフスキルの更なる向上を目指すとともに、運動処方の実践、運動スキルの向上、あるいはスポーツの文化的享受および理解を目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学演習Ⅲ	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために必要な態度を身につけるとともに、運動スキル・ライフスキルを高度化させることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学習する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学演習Ⅳ	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために、運動スキルおよびライフスキルの一層の高度化を目指すとともに、生涯学習社会においてスポーツ学習が有する意味あるいは意義などについて、理解を深める。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義ⅠA	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義Ⅰ（A）では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について理解する。 主として自然科学的観点（生理学、栄養学、トレーニング科学、身体的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	心身の健康、身体活動・運動、スポーツ、およびそれらの関係性に関する内容について講義する。本講義では、生理・生化学、医学、心理学、社会学あるいは文化学的な観点から、健康問題や運動・スポーツに関する多様なテーマを取り上げ、健康科学・スポーツ科学における研究知見や諸課題、心身トレーニングの方法と効果、競技パフォーマンスに及ぼす心理的要因、運動によるメンタルヘルスの向上、身体運動・スポーツの社会・文化的意味などについて、それぞれの専門分野から深く学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について講義する。 (参考) 2019年度取扱いテーマ：「認知症の疫学調査」、「光ファイバ伝送容量理論限界に挑む ーモード多重伝送技術」、「九州大学の昆虫科学研究」、「大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌」、「光エネルギーの高効率利用を目指した材料開発」、「口腔の健康から全身の健康に貢献する」	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅡ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について講義する。 (参考) 2019年度取扱いテーマ：「バイオテクノロジーとグリーンケミストリー」、「楽しい情報科学／情報工学の世界」、「人として育つこと・幸せに生きること」、「天然物化学と生体膜」、「局部時間反転音声の知覚および記憶課題におよぼす効果」、「アカデミア発創薬開発への挑戦」	
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅡ	この科目では、九州大学を中心に、大学と地域社会・国際社会の関係の歴史や現状がどのようなものであるか、今後の関係はどのようにあるべきかを考察する。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅱ	第2次世界大戦の敗戦後、日本の教育制度は大きく変更され、九州大学も1949（昭和24）年に新制大学となった。その後の日本の経済発展とともに九州大学も拡張され、大学紛争とその後大学改革、2003（平成15）年の九州芸術工科大学との統合や2004年の国立大学法人化、そしてキャンパス移転という大きな変化を経て現在に至っている。この科目では、こうした大きな変化を中心として、新制大学の発足から現在までの九州大学の歴史を概説する。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅰ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。福祉や労働、子育てなど生活の場における性差をめぐる問題から、文化や表現における性差、また、それら性による差異の論拠とされてきた性に関する科学そのものの政治性やその歴史、イエ制度を含む家族についての政治や歴史など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅰでは、家族社会史、イエ制度、メディアや歴史における女性、社会学からみるジェンダー等について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅱ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。福祉や労働、子育てなど生活の場における性差をめぐる問題から、文化や表現における性差、また、それら性による差異の論拠とされてきた性に関する科学そのものの政治性やその歴史、イエ制度を含む家族についての政治や歴史など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅱでは、女性労働の現状と歴史、男女共同参画社会、ジェンダー問題、自然人類学からみたセックス・ジェンダー・セクシュアリティ、LGBT：性とアイデンティティをめぐる科学と政治等について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：ボランティア	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではボランティアを取りあげる。近年、広い範囲にわたり多様なボランティアが行われており、本講義では、どのような背景の下、この広がりが生まれてきたのか、さらに企業や行政と異なり、どういった役割を担っているか等を学ぶ。同時に、グループディスカッションに加え、ゲストスピーカーを招へいし、ボランティアの実践例や取り組み観点を紹介してもらい、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことを狙いとする。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：インターンシップ	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではインターンシップを取りあげる。インターンシップは平成9年以降に本格的に取り組み始めた新しい活動であり、企業の現場で共に働くことで職業経験を積み、働くことの意義や自身の今後の生き方を展望する機会を提供する活動である。そこで、授業では講義だけではなくグループディスカッションに加え、ゲストスピーカーを招へいし、インターンシップの実践例や取り組み際の注意点等を紹介してもらい、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことを狙いとする。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life A	In this class students will learn why it is important to understand some basics of law. We will discover how law and life interact. In addition, we will take a look at laws in different countries. この授業では、なぜ法の基礎を理解することが重要なのか学習する。また、法と生活の関わりについて理解を図る。さらには各国の法についても検討する。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life B	In this class, based on the topics learned in "Law in Everyday Life A", students will deepen their understandings on how law and life interact, and will focus on additional countries' laws. 「Law in Everyday Life A」で学んだことを踏まえて、さらに、法と生活の関わりについて理解を深め、各国の法について検討を行う。	
基幹教育科目	総合科目	バリアフリー支援入門	本講義では、社会参加や活動が制限されている、様々な障害を持つ人への理解を深めるために疑似体験（体験機器、グループワーク）や、自伝（本・映画）の鑑賞を行う。その後、自分たちの理解をもとに、障害のある人の体験を他の人たちに伝える企画（ショートフィルム制作、展示会企画など）、大学内のバリア（社会的障壁）を軽減するための取り組み（バリアフリーマップ作成など）を行う。これらの実習を通し、障害学生とサポートスタッフがお互い理解し合い学び合える自律的成長をし、この場で得た成果をコミュニティに還元させる態度を養う。	
基幹教育科目	総合科目	ユニバーサルデザイン研究	本講義は、アクセシビリティ研究やバリアフリーに関連する様々な分野の専門家（医学、教育学、心理学、脳科学、建築学、社会福祉学、法学、リハビリテーション学、障害者スポーツ学など）を学内外から招き、ユニバーサルデザイン社会の構築に必要な知識的理解と体験的理解の両方を深めることを目的とする。授業を通して、障害の有無等に関わらず多様な人々の社会参加を進めるための理解を深め、柔軟な知識と発想を背景としたグローバルな視野を持つことを目指す。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ）を推進できる人材の育成を目的とする。前半では支援技術の習得（テキストデータ作成、ノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）、社会資源見学（支援機器の企業、就労移行支援事業所等）を行い、後半では現場での実習に臨む。これらの実習を通して、誰もが学びやすい修学環境の構築に貢献するとともに、支援活動に関する経験を積み重ねながら、支援ニーズや支援方法への理解を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ支援入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ、わかりやすさ）を推進することのできる支援技術を有する人材の育成を目的とする。そのために支援技術の習得（手話、テキストデータ作成、PCノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）に向けて学習を行う。支援活動に関する基礎的技術の学習経験を通して、多様性に拓かれた修学環境の構築に貢献するとともに、アクセシビリティの観点から多様な支援ニーズへの理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ基礎	本授業では、アクセシビリティを推進できる人材を育成するために、アクセシビリティリーダー育成協議会（本学は平成26年に会員校となり、本協議会がアクセシビリティリーダー1級2級資格を認定している。）のオンライン講座の受講を通し、アクセシビリティについて基礎的な理解を得ることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	人と人をつなぐ技法	この授業は、人々をつなぎチームで動くときに必要とされる観点や能力について、ファシリテーションという技法を踏まえながら学ぶことを目的とする。講義形式、ワークショップ、ゲームなど多様な手法を使いながら、ファシリテーションの技法を身につけ、柔軟なコミュニケーション能力と、チーム活動を円滑に進めるための技法の習得を目指す。	
基幹教育科目	総合科目	コミュニケーション入門	コミュニケーションを様々な角度から見つめ直すことで、相手を意識したコミュニケーションとは何かを考える。(1)多様なコミュニケーションについての講義内容を理解する、(2)講義内容を自分にとってのものの方、考え方に活かす、(3)自分で考えたこと、調べたことをわかりやすく伝えることができることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	体験してわかる自然科学	実験を通して身近な現象の科学を体験的に学ぶ。「自然科学総合実験」を履修していない学生を対象として開講する。自然科学は「理系」のひとだけのものではない。苦手意識を捨てて、自分の体験を通して自然の仕組みを理解すれば、楽しく学ぶことができる。実験テーマは科学の広い分野から選ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	大学生は入学後の生活環境がそれまでと激変して、その対応の不備によっては心身の健康問題を抱えることがある。加えて大学時代は社会人になってからの健康生活を確立するための重要な時期でもある。本科目では主に内科学や身体運動疫学の観点から健康という概念を概説し、健康科学を日常生活に取り入れて健全な大学生活をサポートするための具体的な行動指針を説明する。	
基幹教育科目	総合科目	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	学生期は、多様な経験を通じて心理的に変化・成長する時期だが、それに伴って悩みや葛藤を抱えることも少なくない。本講義では、キャンパスライフ・健康支援センターに所属する学生相談カウンセラーおよび精神科医が、学生期における心理的な課題や心の危機について講義を行う。受講学生が自分自身の大学生活について振り返る時間も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学A	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と地球科学に関連した講義を行う。アジア埋蔵文化財学Aでは、アジア埋蔵文化財学、考古学、考古学を理解するための地球科学、文化財調査研究開発について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学B	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と地球科学に関連した講義を行う。アジア埋蔵文化財学Bでは、精密分析、年代測定、発掘調査社会連携、歴史情報分析、融合研究について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線 I	九州大学に学ぶ学生諸君が、その所属学部・専攻分野の如何を問わず、知っておくべき隣邦に関する学術的な営為・研究動向について、最新の情報を伝えるとともに、それが現在の日韓関係でどのような意味を有するのかについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線 II	「韓国・朝鮮研究の最前線I」に引き続き、「韓国・朝鮮研究の最前線II」はさらに自らも取材した韓国・朝鮮研究の実情についてプレゼンテーションを行うとともに、その内容を受講者全員で討議する。	
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きる I	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル社会の成り立ちやその影響をみる多角的な視点から論じ、その理解に必要な理論と方法に関する基礎知識を学ぶ。それをふまえて、グローバル社会の意味を生活に結びつく形で考える。「グローバル社会を生きるII」を合わせて履修することで、諸問題の把握と分析を進めることを推奨する。	
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きる II	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル化が生み出す多様な問題を論じ、その問題の分析に必要な理論と方法を学ぶ。それをふまえて、問題解決の方法を受講者と一緒に考察する。「グローバル社会を生きる I」を履修し、グローバル社会への基礎的な視点を習得していることが望まれる。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育 I	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語母語話者、日本語学習者双方の観点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会的・文化的な観点から現実の日本語コミュニケーション、社会への参画、自己実現といった課題を捉え直すことを重視する。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育 II	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語指導が必要な児童生徒、生活者としての外国人の視点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会文化的な規範や価値観といった観点から「聞く」「話す」「読む」「書く」といった日本語コミュニケーションを捉え直すことを重視する。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶA	この講義は、一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それを踏まえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うので、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶB」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶAでは、生物学（特に昆虫学）を中心に講義を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶB	この講義は、一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それを踏まえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うので、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶA」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶBでは、自然人類学を足場にした講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	教育テスト論	【テストを「受験」する側から「科学」する側へ】が本講義のテーマである。入学試験・就職試験・資格試験・昇格（昇任）試験等々、人生において幾度も直面する「テスト」でありながら、「テスト」に関する科学的な知識に接する機会は殆どない。そこで、本講義では、今まで当たり前のように受けてきた「テスト」を哲学・歴史学・法学・社会学・心理学・数学・統計学といった大学諸学問の観点から分析し、更に、「テスト理論」(test theory)と呼ばれる「テスト評価測定技術」についての導入的な解説を行う。「テスト」を単に「害悪」と捉えるのではなく、「テストの結果が、個人の処遇や人生を大きく左右するものであるが故に、その実施にあたっては、細心の注意を払うべき類のものである」との認識に立って、よりよい「テスト」を実施していくための「基礎教養」の修得を目指す。	
基幹教育科目	総合科目	現代企業分析	本講義では、投資家の立場にたち、財務・株価データを用いた企業の分析方法について学習する。具体的には、企業の収益性や安全性(倒産可能性)をどのように測定・評価するのか、さらには投資対象として魅力的な株式とはどのような属性を有するのか、などについて教員による講義と学生によるグループワークを通じて学習する。	
基幹教育科目	総合科目	現代経済事情	本講義では、財政・社会福祉・金融・企業など現代経済の諸側面の一つに焦点を当て、直近の動向や問題を紹介するとともに、関連する研究成果を分かりやすく解説する。本講義により、次の能力を身に付けることを目標とする。(1)国際ビジネスに関する重要な知識や理論、(2)現在おきている経済やビジネスの情勢のロジカルな分析、(3)経済学、経営学的にものごとを考え、分析する力、(4)様々な異なるオピニオンのある中で、相手の意見を尊重しながら、自分の考えをロジカルに伝える、また、人前で自分の考えや提案を分かりやすくコミュニケーションできる能力、(5)さまざまな国際経済やビジネスの現象について自発的に疑問やパターンを見つける感性・センスを磨き、提起された問題について論理的に考え、さらに分析するようにする習慣。	
基幹教育科目	総合科目	ことばの科学	ことばの音韻・語彙・文法の構造やそれらの歴史的発達のあり方、意味伝達・メッセージ理解のメカニズム、言語習得のプロセスなどのさまざまな観点について、英語、日本語を始めとするアジアやヨーロッパの言語の具体例を検討しながら多面的に分析する。一連の講義を通じて、「ことば」という私たちにとってごく身近な事象に対し、科学的にアプローチする視点を身につける。	
基幹教育科目	総合科目	外国語プレゼンテーション	本科目では、クリティカル・シンキングおよび外国語コミュニケーション能力の向上を目的として、英語および初修外国語（日本語を除く）によるプレゼンテーションの技能を実践的に学び、プレゼンテーション・コンテストで成果を発表する。自由なテーマを論じるオリジナル部門に加えて、一部の初修外国語では暗誦部門も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	水の科学	異なる専門分野の教員がそれぞれの立場から「水」についての科学的な話題を提供し、「水」というありふれた物質に対して、多面的な観点から理解することを目指す。本講義のテーマとして、(1)太陽系における水、(2)地球表層での水の挙動、(3)身近な水環境と資源としての水、(4)水の基礎化学と生物との関わり、などがある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅰ	バイオエシックスという言葉は、単に倫理学と生命科学が交差する人間的探求の特定の分野というだけではなく、学問上の一領域、つまり医学、生物学そして環境研究における政治的権力、さらにその結果に対する文化的な見方をも指す。狭義に理解すれば、生命倫理は重大な科学的そして技術的变化に直面して生じた一分野とも言える。生命倫理学における歴史、基本原理・原則を学び、医療を取り巻くさまざまな倫理問題やグローバルな視点から環境倫理問題について考究する。医療倫理学Ⅰは、医療倫理学Ⅱ（応用編）の基礎学習となる。	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅱ	米国で発祥した患者の権利を基盤に既成の価値観への懐疑や先端科学技術への批判について、医療倫理という観点のみならず、生命倫理の観点から広く学習する。脳死・体外受精・臓器移植・ターミナルケア等、先端医療技術を背景とした生命観の変容と受容について理解し、問い直されている生命の意味を考察する。また、多様な価値観と患者・被験者の自己決定権を尊重するようになった過程とその概念について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	バイオエシックス入門	バイオエシックスとは、ギリシャ語の bios (life、生命、生活) とラテン語 ethica (倫理)、ギリシャ語 (習性的、習俗的) を結びつけた合成語である。1960年以降、米国における分子生物学の進展による生命科学の急激な発展に伴い重視されるようになった。本講義では、学問の歴史と共に、教育・研究・臨床倫理における基本を学習し、生命の意味・価値を問い、先端医療の現状と課題について、討論を通して学習する。	
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅰ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかについて学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅰ」では、物資源環境に関わる基礎的な内容を取扱う。	
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅱ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかについて学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅱ」では、物資源環境に関わる応用的な内容を取扱う。	
基幹教育科目	総合科目	命のあり方・尊さと食の連関	授業前半では、地産地消につながる世界的社会問題や風土の文化的背景について学び、命のあり方に向き合っ、未来につづく社会デザインを共に探るため、「農と命」に関する講義やアート・ワークショップ「未来につづく道」を行う。後半では、家畜と人間の関わりを学び、加工・調理を実践して、人間が家畜の命をいただくことによって得ている食料と食文化を考える。命のあり方・尊さと食の連関を根源から学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	食肉加工の理論と実践	食肉の加工に関する理論を学び、さらに農学部附属農場（糟屋郡粕屋町）の加工設備を使って燻煙製品であるベーコンやソーセージ作りを行う。冷蔵設備のない時代に培われた「乾燥・塩漬・燻煙」による肉の保存技術など、日本の「農耕社会」にはなかった食肉の文化を学び、現在の我々の食に対する理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅰ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、農業に関する知識と技術だけでなく様々な領域の学術情報と産業技術を加味し、植物の栽培条件を人為的にコントロールして高品質・高付加価値の農産物を得ようとするものである。授業では、生物環境利用推進センターの研究成果を踏まえ、植物工場基盤技術の開発について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅱ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、産業技術として改善され、発展することにより、その普及・拡大が進んでいる。授業では、その波及効果について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	農のための植物-環境系輸送現象論	人類は「農の営み」として、生物学的一次生産者である植物とその環境への働きかけを持続・発展させてきた。本授業では、農作物の生産性と品質を支える基礎となる植物と環境間のエネルギーと物質の輸送現象（光合成、蒸散、根の養水分吸収、光合成産物の転流、呼吸、熱収支等）に関して、輸送の場、メカニズム、環境応答、および調節法の概要について講義し、「農の営み」の基本的事項への理解を促す。	
基幹教育科目	総合科目	農のための最適環境制御	持続的な農業や食料生産のために必要な環境と、そのための適切な維持・管理技術に関して学ぶ。温暖化、豪雨、干ばつなど、近年の気候変動によって脅かされている食料生産環境の危機と、それを乗り越え、食料を安定供給するためのレジリエンス技術を中心に、特に農業・食料生産基盤で必須で、基礎的な土壌、水、大気観点から、直面する様々な問題や現状とそれらを緩和するための対策技術を学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	食科学の新展開	健康長寿における食の重要性への認識が深まる中で、総合科学としての「食科学」の新しい展開を、具体的なトピックスを取り上げて平易に解説する。食品の「もの」と「こと」に係る最新の多彩かつ意外な事実を学ぶことで、学部学生に食への認識を転換させ、学生自らの健康と食の関係に新たな「気づき」を駆り立てることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	作物生産とフロンティア研究	本科目では、作物生産について総合的、俯瞰的に学んだ後、作物におけるゲノム編集などの最先端技術を解説する。それらを踏まえ、地球環境と作物生産との関係についてフィールド（群落）・個体・細胞分子レベルでの最新の研究成果をわかりやすく紹介し、現代社会が直面している農業問題や将来的に予想される食糧問題等に対する解決策について議論する。	
基幹教育科目	総合科目	持続可能な農業生産・食糧流通システム	地球規模での食料不足、農業の衰退による食料自給率の低下、農産物流通のグローバル化や食の安全への消費者意識の高まりなど、「食」を取り巻く環境は大きく変化している。本講義では、これらの現状や起因する諸問題を学ぶとともに、これらの問題の解決のために、持続的かつ安定的な農業生産を実現する農業機械や情報通信技術、安全・安心な農産物を消費者に届けるための調製・加工・流通技術に関する先端の研究について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	農業と微生物	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。本講義により、農業関連微生物の基礎知識を習得するとともに、農業生態系における作物・微生物・昆虫の関わりについて多面的な観点から理解する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティ	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉でYahoo! JAPANの社員が解説する。実社会ではもちろん自分の身近でも役立つ大切な情報やプライバシーを守るための仕組みや心構えを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	サイバーセキュリティ演習	サイバー演習装置を用いたハンズオン形式でサイバーセキュリティについて学ぶ。サイバー演習では、典型的なサイバー攻撃についてeラーニングによる座学により技術的な用語や概念を学び、仮想環境によって実機と同じ感覚で学習、体験を行う。さらに、テクニカルチャレンジという機能を用いて、サーバやネットワークのサイバー攻撃を受けやすい脆弱性を自らで探し出し、本演習でえられたセキュリティ対策のための知識、技術の確認を行う。本サイバー演習によって、ネットワークやサーバの実際の管理に携わらなくても、サイバー攻撃を体験し、それを防ぐ技術を習得することができる。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習（サーバー構築編）	本講義では、セキュリティを考慮したネットワークやサーバーサイドのエンジニアリングを行うための知識と技術を演習形式で学習する。各講義は、座学と演習で構成される。座学では、初めにウェブアプリケーションの構成やネットワークの構築の方法などを学ぶ。システムの構成や動作原理を学習したのちに、サイバー攻撃の具体的な手法を学び、システムのどのような場所が攻撃されて、どのように防御策を施して行けば良いのかを学ぶ。演習では、システムにサイバー攻撃を行い対策の重要性を体験した上で、防御策を施す手法を学ぶ。最終的な課題として、セキュリティを考慮したウェブサービスを開発する。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習（ハードウェア設計編）	本講義では、セキュリティを考慮したハードウェアの設計や製作などのエンジニアリングを行うための知識と技術を演習形式で学習する。各講義は、座学と演習で構成される。座学では、初めに電子デバイスで使用する電子部品の役割などの知識を学びながら、電子回路を設計する手法を学ぶ。電子回路の基礎的な知識を学習したのちに、ハードウェアに対するサイバー攻撃の具体的な手法を学び、ハードウェアのどのような場所が攻撃されて、どのように防御策を施していけば良いのかを学ぶ。演習では、ハードウェアに対するサイバー攻撃を行い、対策の重要性を経験した上で、防御策を施す手法を体験する。最終課題として、セキュリティ対策を行ったハードウェア作品を提出する。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習（IoTセキュリティ編）	セキュリティを考慮したIoT機器のエンジニアリングを行うための知識と技術を演習形式で学習する。各講義は、座学と演習で構成される。座学では、初めにIoT機器の構成や知識を学びながら、IoTサービスを設計する手法を学ぶ。IoTに関する基礎的な知識を学習したのちに、ネットワークやウェブサービスやハードウェア等に対するサイバー攻撃の具体的な手法を学び、IoTサービスのどのような場所が攻撃されて、どのように防御策を施していけば良いのかを学ぶ。演習では、IoTサービスに対するサイバー攻撃を行い、対策の重要性を経験した上で、防御策を施す手法を体験する。最終課題として、セキュリティ対策を行ったIoTサービスを開発して提出する。	
基幹教育科目	総合科目	分子の科学	物質の究極の構成要素である分子の性質・化学反応性や合成法など分子科学の研究の現状を、3日間の集中講義形式で紹介する。1日目は、二人の講師が分子科学の最先端の研究成果をそれぞれ90分ずつ分かりやすく講義する。2日目と3日目は、受講した学生が実際に研究室に入り、先端設備に触れて動かし、先端分子科学の発展の内容を体験的に学ぶ。本講義では、無機化学から有機化学まで様々な専門を有する先導物質化学研究所の9研究室から一つの研究室を選び実験を行う。	
基幹教育科目	総合科目	「留学」考	本講義では、異文化間コミュニケーション、多文化教育、グローバルゼーション、留学と就職といった様々な角度から留学を捉えその意義を考えるとともに、日本人論や海外から見た日本なども紹介することで、自分の国を見つめなおし多様な文化や価値観を客観的に考える視点を養う。また、授業では留学生活の実際や問題解決の方法などについて積極的に話し合う。この授業を通して、日本人学生には「外」に飛び出していくことについて考えるきっかけを作ることを目的とする。留学生には、海外で学ぶことを客観的に見つめなおし自分の立ち位置を再確認するきっかけを作ることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目 Contemporary American Society: A Sociological Introduction	この講義では、現代アメリカ社会の主要な問題を社会学的観点から紹介する。主要テーマには、社会学における現代的な視点と重要な概念、社会階層化、貧困、ジェンダー、民族、家族、社会化プロセス、公式組織、その他いくつかの社会制度に関する問題を含む。このコースを修了すると、社会学の基本原則とともに、今日のアメリカ社会生活の様々な側面について基本的な理解を得ることができる。国境を越えた比較の視点からアメリカの社会の現在の課題と将来の展望を検討するために重要な批評的視点を涵養し、さらに強化することを目的としている。社会学や現代アメリカを学んだことのない学生が受講することを推奨する。	
基幹教育科目	総合科目 アイデア・ラボ I	多くのアイデアの中から、精査、選択の過程を経て実際に実行できるものは1つだけ。そうであれば、最初に出来るだけ多くを創出できなければ成果は得られない。本講義では身近な材料を用いながら、発散的技法を使い短時間で多くのアイデアを創出した上で、収束手法により最適なアイデアを選択する演習を行う。アイデア創出をグループ単位で行うことで、より良い解決策を発案するために、どのようにグループを刺激し活性化するかグループ・ダイナミクスのスキル向上の機会を合わせて提供する。一部の講義ではゲストによる講義も計画している。	
基幹教育科目	総合科目 アントレプレナーシップ入門	本講義では、アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。アントレプレナーシップとは「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである(Drucker, 1993)。起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。	
基幹教育科目	総合科目 伊都キャンパスを科学する I (軌跡編)	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。I (軌跡編)では、世界のキャンパスと九州大学の歴史、構想に伴う調査と文化財を巡る課題と解決方法を学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目 伊都キャンパスを科学する II (現在編)	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。II (現在編)では、生態系と水循環を巡る課題と解決手法および施設のマネジメント手法について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目 伊都キャンパスを科学する III (展望編)	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。III (展望編)では、学術研究都市構想とライフスタイル、水素エネルギー利用などの新技術の社会実装について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目 少人数セミナー	大学における学習への適応促進、学習意欲の向上及び人間的な交流の場をつくることによる人格形成の育成を行うことを目的として、九州大学の教員が、自己の専門分野に基づき、自主的に開講する。 (参考) 2019年度取扱いテーマ: 「厚く薄い本を読んで考える」、「グローバル化とイスラーム」、「グローバル社会における北極圏: 持続可能な社会への挑戦」、「乱流物理概論」	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史A	科学技術の成果は今や日常的にあふれかえっているが、無論のこと、人類の誕生時からこのような状況だったわけではなく、科学や技術は順を追って発達・展開してきた。本授業では、そもそも科学技術が人間の本質にとって持つ意味を検討することから始まり、先史時代から20世紀に至るまでの各時代・各地域の技術発展をみると同時に、それが社会・文化とどのような相互関係を持ってきたのかを考えていく。すなわち、単にあれこれの技術的成果物の生まれたいきさつを知るだけでなく、それが人間の思想や文化に及ぼした影響や、技術発展を支えた社会状況にまで目を配ることができるようになることを目指す。科学の歴史Aでは、先史時代から中世までを扱う。科学の歴史Bと併せて受講することが望ましい。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史B	科学技術の成果は今や日常的にあふれかえっているが、無論のこと、人類の誕生時からこのような状況だったわけではなく、科学や技術は順を追って発達・展開してきた。本授業では、そもそも科学技術が人間の本質にとって持つ意味を検討することから始まり、先史時代から20世紀に至るまでの各時代・各地域の技術発展をみると同時に、それが社会・文化とどのような相互関係を持ってきたのかを考えていく。すなわち、単にあれこれの技術的成果物の生れたいきさつを知るだけでなく、それが人間の思想や文化に及ぼした影響や、技術発展を支えた社会状況にまで目を配ることができるようになることを目指す。科学の歴史Aでは、近代以降を扱う。科学の歴史Aと併せて受講することが望ましい。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	脳情報科学入門	本科目では、脳の情報表現や情報処理について理解するために基礎となる事項について講義、議論、演習を行う。①脳神経生理の基礎。②神経細胞および神経ネットワークの情報表現、数理モデル。③脳機能イメージングの計測法と解析法。④脳波の解析プログラムの作成、など。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	認知心理学	本科目では、人間の内部でどのような処理が行われているのかという問題について学ぶ。知覚、意識、記憶、感情、推論、意思決定、注意、ならびに時間と空間の認識などのトピックについて、従来の理論とともに最新の知見を知り、そしてそれらをどのように利用して未解決の問題に取り組むのかを考える。授業は講義と演習を織り交ぜた形式にて行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	Brain and Mind	意識とは何だろうか？知覚、記憶などを脳はどのように情報を処理しているのだろうか？これらの疑問は、心理学、哲学、神経科学、医学など、様々な角度から見ることができる。本科目の目的は、科学的な方法を用いて、オープン且つ創造的な方法でこれらの問題に取り組むことである。授業では、脳の構造と機能の基本原則、研究の現状、そして社会と福祉のためのこの分野の重要性に焦点を当てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	機械学習と人工知能	本講義では、何らかの方法で収集・蓄積されたデータに潜むパターンや構造を見つけ出す手法を与える機械学習を学習する。まず、機械学習と人工知能の全体像を概観する。そして、機械学習手法で解く回帰問題や分類問題などの問題を定式化したうえで、代表的な手法である決定木やサポート・ベクター・マシン、ニューラル・ネットワーク等を1つ1つ取り上げ、これらの基本的仕組み（アルゴリズム）を理解し、その応用例を概観する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文社会科学の理論と認識方法を用いて、現代社会の仕組み、文化の交流と摩擦、日本や国際社会が直面する社会問題等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の社会科学の理論と認識方法を用いて、現代政治の問題、国民国家のあり方、グローバル社会における国際関係等について講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会・文化・市民の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文社会科学の理論と方法を用いて、現代社会の仕組み、市民的公共性にもとづく社会制度のあり方、多文化共生社会を生きる技法等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、歴史学や思想史研究による資料の分析をふまえて、近代化と社会変容、異文化交流の歴史、社会思想の歴史的展開等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、社会科学による資料の分析をふまえて、政治思想と国家体制の歴史的展開、国際紛争と国際協調の歴史等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも法と政治の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、憲政史及び司法制度史研究による資料の分析をふまえて、立憲主義や法治国家の歴史的展開と意義、近現代における「不法国家」の歴史等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。「現代史」とは、今日、「現在」の歴史ということに留まらない意味を含みつつある。近代以降、「歴史」とは「国民国家」を単位として世界を捉える方法として、また「国民形成」の手段として位置づけられてきた。しかし20世紀末より、「グローバルヒストリー」や「地域史」が提唱されるようになり、「歴史」の位置づけ自体が変容しつつある。そこで本講義では、冷戦期の東北アジア地域を対象として、そのような変化がどのように生じてきたのかを検討する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	EU論基礎—制度と経済—	EU(欧州連合)は、1951年のECSC設立条約調印以降60余年の歴史の中で、域内市場や単一通貨を実現し、構成国数も当初の6カ国から28カ国になるなど、いまや世界の中で際立った存在となっている。この講義では、EUの基本的なことがらについて、政治学・経済学の視点から総合的に学ぶ。制度編では、EU発展の歴史、組織と制度の展開、加盟国との関係、主要な政策分野などを、また経済編では、EU経済統合の展開やEU経済の現状などを、それぞれ学ぶ。講義を通じて受講生は、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と産業・企業	スマホやネットの急速な普及からも実感できるように、技術進歩は私たちの日常生活や経済活動に大きな影響を与える。こうした技術進歩は、例えば18世紀の産業革命など世界の経済史が示すように、いつの時代も経済システムを大きく変貌させる原動力となってきた。この授業では、技術変化が産業や企業に及ぼす影響の事例や現象を具体的にひも解きながら、経済システムの基本メカニズムを解説し、イノベーションの渦中にある現代社会を読み解く手がかりを学んでいく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	金融と経済	我々は、金融に関するビッグニュースを頻りに耳にする。このことは、金融が円滑に機能しないと、実物経済や日常生活も円滑に機能しないことを意味している。本講義では、金融は経済においてどのような役割を担っているのか、どのような金融取引が行われているのか、金融政策や規制のあり方、日本の金融の特徴と変化等のテーマについて、基本的な仕組みと考え方を理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	サイバー空間デザイン	近年、Webとスマートデバイスの発展と普及により、サイバー空間は社会のインフラストラクチャとして重要な役割を果たすようになった。この授業では、サイバー空間の歴史とそこで利用されている基礎的な技術について説明する。また、最新のサイバー空間に於ける様々なサービスと、それに関連する先端技術の動向を紹介し、これからのサイバー空間をデザインしていくための方向性について考えていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	芸術学概論	芸術の歴史は、常にそれを語る言葉とともにあった。あるモノや現象を前に、それを豊かに感受し、批判的に分析することは、それにふさわしい記述によってはじめてかたちを成す。本講義では、芸術学や美術批評など、芸術や美、創造力をめぐる多様な言説のあり方について具体的テキストを参照しつつ学んでゆく。それによって、自分なりの考察を育み表現する術を身に付ける。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	音楽・音響論	この授業では、19世紀から現代に至るまでの音楽と音響の歴史を、音を記録・再生するメディアの成立という観点から、具体的な事例を確認し通覧する。音の文化と技術との密接な関わりを、実演と音源の視聴を通じて確認すると共に、グループでのディスカッションにより考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	デザインと観察	デザインと観察は、問題を発見する方法として、観察を理系文系双方の観点から取得する。それは問題解決の方法や未来の創造へつなげるものである。観察は対象を知るために、それを注意深く見て、その状況や様子や変化を記述することである。そして新たな事柄を発見することでもある。これは科学の基本であり、芸術の手法でもあり、事実を確認したというその発見と知見は広く深いクリエイティビティに確実につながる。また、主観や客観の混在する観察をとりまとめ、新たな事柄を導くことは科学・ものづくり・芸術工学の真髄でもある。講義だけでなく毎回様々な観察しながら様々な方法を体験し、学際的な知見とアプローチを取得することも目的とする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境問題と自然科学	我々の周りを見まわしてみると、実に多くの物質が存在する。それらは、天然のものばかりでなく、人工的に創り出されたものもたくさんある。これらのほとんどは、我々の生活を豊かにするために大きく貢献したが、その反面、環境問題を引き起こしたのも起こしつつあるものもある。ここでは、科学の発展に伴って生じた環境問題に焦点をあて、環境問題に対する科学的な捉え方、その定量的計測法、問題解決にむけたさまざまな取り組みを紹介する。環境問題に対する科学的な捉え方、その定量的計測法、問題解決に向けた様々な取り組みを理解し、得られた知識から、21世紀において人類と科学技術およびそれから発生する地球環境問題について自ら意見を発する態度を養う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境調和型社会の構築	エネルギーや物質を大量に消費することにより高度成長を遂げてきた現代社会が、地球環境保全やエネルギー資源問題で最大の難局に直面していることは現在広く認識されている。地球環境を破壊すること無く現代社会を維持して行くための科学技術や社会システムは如何なるものだろうか。本講義ではこれらの問題についての現状把握と将来展望について解説する。本講義により以下の能力を養う。 <ul style="list-style-type: none"> ・公害・環境問題の歴史、そこから得られる教訓を説明できる。 ・環境容量や自浄作用を説明できる。 ・汚染の機構と汚染が人間や生物、生態系、その他の事物へ及ぼす影響を説明できる。 ・環境政策の手法を説明できる。 ・環境調和型社会の構築のために必要な技術やシステムを説明できる。 ・汚染を減ずるため、あるいは、循環資源化のための技術およびシステムを適用できる。 ・良好な環境や持続可能な社会、環境と調和した社会を創造するための方法を提案できる。 ・問いや課題の主旨を理解し、自身の考えを、論理的に、かつ、ポイントを絞って簡潔に文章で表現できる能力を涵養する。 ・他者が理解しやすい発表資料を作成し、発表する能力を涵養する。 ・環境倫理観を涵養し、その重要性を説明できるようになる。 ・環境調和型社会の重要性を理解し、その構築に向けての社会的責任を自覚する。 	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グリーンケミストリー	現代の社会では、膨大なエネルギー消費と資源消費によって、エネルギー不足や資源枯渇が、深刻な問題となっている。グリーンケミストリーは、従来のエネルギー消費型の工業プロセスに対して、環境への負荷がより小さな化学技術であり、今後の持続社会の構築にとって、不可欠な化学技術である。本講義では、このような最新のグリーンケミストリーを理解するために、ナノテクノロジーやバイオテクノロジー等の最先端化学技術について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	自然災害と防災	私たちが住んでいる日本は、地震、火山活動が活発な環太平洋変動帯に位置し、地理的、地形的、気象的諸条件から、台風、豪雨、豪雪等の自然災害が発生しやすい国土となっている。自然災害を未然に防ぎ、災害による被害を最小限に抑えるための法・組織体系、国や県による防災計画、災害・防災情報の収集・伝達システム、住民および企業ができる防災活動など私たちが安心・安全な暮らしをするのに不可欠な防災・減災に関する総合的な社会システムについて学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能 I	本講義では、生態系（エコシステム）を理解する上で必要な基礎事項を学ぶ。生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、まずこのことを理解する。続いて、生態系レベルで見た場合のその基本構造と機能について解説しながら、陸上と海洋生態系の共通点と違いについて講義する。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能 II	生態系を理解する上で必要な基礎事項を講義する。生態系の構造と機能 I では、主に生態系レベルでの構造と機能に注目するが、本講義ではよりミクロなレベルでの生物間の繋がりと相互作用について焦点を当てる。まず生物間の繋がりはそれぞれの立場から見た場合の利害関係によって簡単に記述できることを学習する。そして具体的な例を多数提示することで、多様な生物間相互作用を概観していく。さらに、生物多様性についても講義し、生物間の相互作用が生物多様性を決定することについても解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	男女共同参画	私たちは性とそれによる差異をいろいろな形で受けとめながら社会をつくっている。性を組み込んだ制度や文化は常に身近にあり、しかもそれらは時として抑圧的にまた差別的に、私たちに迫る。この問題はジェンダーとして議論されてきた。この科目では、文芸、メディア、社会制度などを通じてジェンダーが形成されてきた歴史や、職業や家族などの諸領域におけるジェンダーの現状を分析しながら、よりよい性と社会のつきあい方、その中でのよりよい職業・社会生活を探る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	ボランティア活動 I	社会における市民としての社会連携活動の意義を理解し、社会への関心を高め自己の社会的位置づけを認識することにより、大学における修学活動の重要性を再認識するとともに、学問と社会との関わりについての知見を深め、学生であることの目的意識を確立することを目標とする。このために、教育的要素と教育的効果が認められるボランティア活動を学外における学修活動の成果として単位認定する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	ボランティア活動 II	社会における市民としての社会連携活動の意義を理解し、社会への関心を高め自己の社会的位置づけを認識することにより、大学における修学活動の重要性を再認識するとともに、学問と社会との関わりについての知見を深め、学生であることの目的意識を確立することを目標とする。このために、教育的要素と教育的効果が認められるボランティア活動を学外における学修活動の成果として単位認定する。ボランティア活動 I の履修が前提となる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	インターンシップ I	社会における市民としての社会連携活動の意義を理解し、社会への関心を高め自己の社会的位置づけを認識することにより、大学における修学活動の重要性を再認識するとともに、学問と社会との関わりについての知見を深め、学生であることの目的意識を確立することを目標とする。このために、教育的要素と教育的効果が認められるインターンシップを学外における学修活動の成果として単位認定する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	インターンシップⅡ	社会における市民としての社会連携活動の意義を理解し、社会への関心を高め自己の社会的位置づけを認識することにより、大学における修学活動の重要性を再認識するとともに、学問と社会との関わりについての知見を深め、学生であることの目的意識を確立することを目標とする。このために、教育的要素と教育的効果が認められるインターンシップを学外における学修活動の成果として単位認定する。インターンシップⅠの履修が前提となる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	漢方医薬学	西洋医学とは異なった医学体系を持つ漢方医学に関する基本的な理論、診察方法を理解する。さらには代表的な方剤の適正使用や副作用、現代医療における漢方医学の位置づけについての理解を深める。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	チーム医療演習	医療従事者間の連携を主題とし、それぞれの職種を目指す学生が、将来、より効果的なチーム医療を実施できるようになるために、互いの役割と特性を理解し合い、活かすことを学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床イメージング	MRI検査および超音波検査の画像の成り立ちを原理から学び、アーチファクトの成因やその改善法を習得する。MRI検査に関しては、検査の安全性や注意点などを概説し、検査目的と各種撮像法と対象臓器・疾患との関係を理解する。またアーチファクトの成因とその改善法を習得する。超音波検査に関しては、その特性を理解し、検査対象となる臓器とその基本的な走査法での画像を理解する。また、超音波検査が特に有用な代表的疾患に関しては、その病態を理解し、画像的特徴を説明できるようになる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会と健康	保健統計の基本的指標と我が国における動向、疫学の基本、および主な疾患の現状と推移、並びにそれらに対する予防的対策について理解する。後半の講義では、化学物質による事故や犯罪を究明するための領域である「裁判化学」の基礎を修得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	国際保健と医療	本授業では、広い視野に基づいた人々の健康と生活に対する関心を高めることを目指し、保健学部が取りくんでいるアジア地域を中心とした各国との連携を基盤として、国際社会における保健と医療に関する現状と課題を探究する。国際保健の観点からは、災害を含めて、人々の健康に影響を与える地域社会・環境や文化を、日本の現状との比較を通して理解を深める。また、急激に変化する社会のなかで生活する人々の身体的・心理社会的側面から、医療における安全と安心に向けた課題を国際的な観点や基準などを踏まえて検討する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アクセシビリティマネジメント研究	本講義では、平成28年度からの大学における合理的配慮の義務化を念頭において、学生の相互援助力を高める支援マネジメント力を身につけた人材を養成することを目的とする。具体的には、大学で求められるコーディネート業務や支援学生の養成等について学ぶ。また、障害のある人の権利を尊重し、これを侵害するバリア（社会的障壁）を除去し、その個性と能力が発揮できる環境整備のあり方について考える。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	地球の進化と環境	地球史を通じた物質循環・表層環境・生物進化を理解するための、基礎的知識と具体的研究例を解説した上で、様々な時間スケールで起こる気候変動のプロセスと地球史での重要なイベントについて具体的に講義する。また、現代社会が直面する地球温暖化やエネルギー問題の実態と背景について、考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化A	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じるが、特にAでは生物多様性のうち昆虫と、環境にかかわる諸問題のうち持続可能な発展について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化B	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じる。特にBでは主として生態系サービスの概念に着目して、人間による植物や昆虫などの資源利用、生物多様性と人間活動との関わりの事例を紹介する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	遺伝子組換え生物の利用と制御	様々な生物の遺伝子を組み替える分子基盤と基本的な技術を、その発展の歴史を含めて概説する。さらに、様々な微生物、植物、動物における遺伝子組換え体の具体的作製法とその産業利用の可能性を紹介し、遺伝子組換え生物に関する俯瞰的な知識を身につける。また、医食の安全性および環境問題等と遺伝子組換え生物との関連にも触れ、遺伝子組換え生物を人類の福祉に適正に応用する方策に関する理解を深める。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオテクノロジー詳論	今日のバイオテクノロジーの基礎である分子生物学やバイオサイエンスを背景とした最新の生命操作技術や実験手法を解説する。特に、酵素利用技術、バイオリアクター、分離工学などの分野からヒトゲノム計画やポストゲノム時代の研究の基礎と応用などの最新分野にわたる幅広い研究の現状を紹介し、バイオテクノロジーが人間社会に与えるインパクトについて多面的な理解を促す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	平和と安全の構築学	自由で民主的かつ公正な政治秩序のあり方、平和構築や国家建設支援のあり方、リスク社会の安全管理、地域経済のあり方を軸にした国際協調と安全構築の学際探求を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	文化と社会の理論	文化と社会の変容や動態を説明する理論、それらの問題を実証的に論じる社会科学方法論について、文化と社会の理論の構築に大きな役割を果たした理論家とその基本概念に重点を置きながら講義する。それにより社会共生の学際探求を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	東アジアと日本ーその歴史と現在ー	考古学を中心とした人類史研究、広域東アジアとして歴史過程を探求する歴史学、現代アジアの広域秩序のダイナミズムをとらえる人文社会科学を軸にした東アジアと日本の学際探求を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法文化学入門	いわゆる法律学・法解釈学とは異なる手法を用いて、現代法システムを理論的に分析する方法論＝アプローチには、さまざまなタイプのものが存在する。本科目は社会システム理論に軸足を置きながら、そうした多様な法理論／現代社会理論の諸潮流を概観し、それらが現代社会を生きる私たちにとって現実にかいなる意味を持ちうるのかを、具体的事例を手掛かりにしつつ考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法史学入門	法の歴史に関する認識を深めることは、法や社会を正しく理解するために極めて重要である。本科目は、法の歴史に関する基礎的な知見を広げるとともに、世界の代表的な法文化における法の歴史的特質に関する理解を深めること等を目的としている。この目的を達成するため、日本法制史・東洋法制史・ローマ法・西洋法制史の観点から、法の歴史の重要ポイントに関する入門的講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	ローマ法史	ローマ法は西洋にとっては所与であった。彼らの理想とする政体は共和政であり、彼らが裁判で用いる法はローマ法そのもの、あるいはその影響を受けた法であった。古代ギリシア人が政治の天才とするなら、ローマ人は法の天才であったと言えよう。そのようなローマ法がいかになりて成立し、展開して行ったのか、どのような統治制度を有していたのか、刑事法は、ローマ法の中心である私法から、どのように分離して行ったのかを考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	東アジアの政治と社会	本講義では、「政治」と「社会」という二つの領域から、21世紀において最も成長と発展の著しい地域となると期待されている東アジアについての理解を深めていく。「政治」の領域として東アジアの地域統合・地域主義の形成を、「社会」の領域として東アジア各国の市民社会の形成をそれぞれ考察する。これらの考察を通じて、東アジア地域の中で政治と社会のそれぞれの領域がどのような役割を担い、そこにはどのような相互作用があるのかを検討していく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	プレゼンテーション基礎	本講義では、基礎的・汎用的能力の一つとしてプレゼンテーション能力を捉え、講師が開発した並行反復学習法によるプレゼンテーション教育を行う。並行反復学習法では、A「知識領域」（テーマ）においてB「発表技術」とC「マネジメント」を並行して学習し、AからCを1セットとして2セット反復することで、様々な場面で応用可能なスキルを確実に身に付ける。プレゼンテーションの活動の中で、自己理解、グループディスカッション、リフレクションについても学びを深める。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	レトリック基礎	レトリックは修辞技法ともいわれ、弁論や文章の表現技法を指す。この「レトリック基礎」では、文章表現に焦点を絞り、言語を用いていかに学術分野にふさわしく効果的な表現をするかを学ぶ。授業は集中講義形式で、前半では日本語、後半では英語による文章の書き方を学ぶ。前半の和文の技法では、卒論を含む学術論文の論理展開や、研究予算の申請書を作成する際のポイントなどを扱う。また後半の英文の技法では、英語論文を書く際の即戦力になるように、英語論文の基礎以外に、日本人に多い英語表現の誤りや文法のミスなども扱う。まだ英語論文を書いたことのない学部生はもちろん、実際に執筆中の大学院生にも役立つような講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	共創発想法	デザイン思考（Design Thinking）とは、これまでデザイナーが培ってきたスキル（人間中心デザインに基づいた製品開発手法）を、より幅広い問題に適用して、イノベーションを起こすために、主として経営者やエンジニアなど非デザイナーを対象として用いる発想法である。非デザイン系の多くの人々は、文字で考える思考法に慣れており、スケッチを描くことをしない。しかし、「描きながら考える」ことで、文字だけで考えていたのでは思いつかなかったアイデアが生まれる。この講義では、企業が商品開発の際に使用している具体的な課題や、自治体や地域コミュニティが市民参加型デザインによる地域づくりの課題をデザイン思考により解決する発想法を学ぶ。課題の発見のための観察調査、立場や専門分野の異なる人との課題解決のためのワークショップ、そしてスケッチによる解決策の提示とその検証方法をグループで実施する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	データマイニングと情報可視化	本講義では、大量のデータから、有用なパターンや知識を発見する、データマイニングの手法や、データを視覚に分かりやすく表示する、情報可視化の手法を習得する。近年、コンピュータやインターネットの発達により、インターネット上の商取引や購買履歴、銀行口座の管理などで、大量のデータを利用することが可能となっている。データマイニングでは、これらの膨大なデータを解析し、特徴的なパターンや傾向を抽出することで、マーケティングや経営戦略に役立つ予測を行う。膨大なデータを扱ううえで、直感的に解析結果を理解する手法の開発は欠かせない。情報可視化では、解析結果を効果的に可視化し、その有用性を伝達する手法を学ぶ。また、データ間の関連性をネットワーク構造で捉えて分析を行う、社会ネットワーク分析や、データを地図上に表示する、地理情報システムなどについて学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と倫理	私たちの社会における人間と技術の関係が、現在どうなっているか、これからどうあるべきかについて考察する。大規模事故のリスク評価、医療における生命倫理、サイバー法・知的財産権とイノベーションの関係、等の具体的事例も手がかりにしながら、「技術とは何か」を哲学・倫理的に捉え直すことを目指す。毎回参加者からの意見を取り入れながら授業を進めていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	医療における倫理	「生命とは?」「医療倫理とは?」「薬とは何か?」「将来何をを目指すのか?」等々、本講義は、医療人としてあるべき姿を、体や薬にまつわる様々な話題を提供して、討議していく。幅広い倫理観を醸成するために、現代医学、東洋医学の概論についても講義し、現代医学の問題点、東洋医学との相違点についても討議する。また、倫理にとどまらず、広く薬学・薬剤師についても講義する。誕生に関わる倫理的問題、死に関わる倫理的問題、薬とは何か、医療人としての倫理観、医療人・薬剤師の職能や倫理的問題、医療人としてあるべき姿や現代医学の問題点、東洋医学との相違点について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	研究と倫理	現代社会の様々な問題に関して、各受講者が学びつつある専門分野での知見をいかに活用して、その問題をより正確に捉え解決の方策を探れるのか議論する。異なる専門同士の受講生が文理問わず各自の知見を持ち寄り、互いの視野を広める機会とするとともに、自分の研究が社会とどのような関係を持ちうるのかを改めて考え直す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会と倫理	倫理学者と言えば、アリストテレス、カント、ミルなどのような西洋の哲学者の名前が思い浮かぶだろう。しかし、近年の欧米で、日本哲学もグローバルな哲学として論じるようになってきた。和辻哲郎は日本近代倫理学者で、「日本的」な考え方の持ち主だが、彼の諸アイデアは世界中の様々な課題に応用できる。「個人と社会がどう関わるべきか。倫理に関する異文化の衝突をどうすればよいのか。国際関係とグローバル化をどう考えればいいのか。」和辻の倫理学は、このような問題に対する示唆に富んでいる。この授業は「グローバルな哲学としての日本哲学」というアプローチをとりながら、和辻哲郎の倫理学を学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	インフォームドコンセント	日常医療および臨床研究におけるインフォームド・コンセント（以下IC）について、患者側、医療者側からの視点や法的な側面に関する講義、ICの場面のロールプレイ、個人または学部学科の枠を超えたグループによる考察や討論などを通して、ICを得ることの大切さ、難しさを実感し、今後の医療活動に役立てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床倫理	ロールプレイ主体の授業を実施し、実地医療における倫理的課題について、事例を題材にした学部混成の小グループ学習を行うことにより、医療者としての対応の難しさを実感するとともに、チーム医療の基盤について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	会計とファイナンスの基礎を学ぶ。企業やNPOが事業を営むうえで、収益とコスト、資産状況を適切に管理し、健全な経営状態を保つための手法としての会計の基礎が主な学習対象となる。具体的には、財務諸表と呼ばれる「損益計算書」「貸借対照表」「キャッシュフロー計算書」の読み方を、様々な実例と会計クイズを通して学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	企業経営だけではなく、NPO等も含む幅広い組織における戦略論の基礎を学ぶ。「戦略」とは、使える資源と時間が限られたなかで目的を達成するための手段である。組織を取り巻く外部環境を踏まえたうえで、持続的に競争優位をつくりだし、組織を成功に導くために戦略がいかに有効なものとなりうるかを理論と実例（ケース）を通して学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・組織論基礎	経営学の4分野の1つ。本講座では組織論の基礎を学ぶ。組織論は、社会科学上の組織の研究分野である。組織は外的・内的な混乱や緊張に絶えず直面しており、それを解決するための新しい考え方や行動様式を選択し採用していくことで創造的に進化していると捉えられており、本講座では組織論の各論を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、組織運営の応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	経営学の4分野の1つ。本講座ではマーケティングの基礎を学ぶ。マーケティングとは、企業などの組織が行うあらゆる活動のうち「顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその価値を効果的に得られるようにする」ための概念である。顧客のニーズを解明し、顧客価値を生み出すための経営哲学、戦略、仕組み、プロセスが含まれる。本講座ではマーケティングの基礎を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、マーケティングの応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅰ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの二部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。事業創造デザイン特論Ⅰの前半においては、事業創造する上で必須となる特許、契約、ファイナンス及び事業マネジメントに関する基礎を学ぶことができる。後半では、地域活性化の取組事例の紹介を通じて事業創造に必要なフィールドワーク及びプレゼンテーションの基礎知識を得ることができる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅱ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの二部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。組織における業務（特に、課題への対応）は他者と協働して進めることが一般的である。また、課題解決にあたっては課題周辺の観察・調査が不可欠である。事業創造デザイン特論Ⅱにおいては、課題現場（唐津市）の見学及び自治体職員へのヒアリング、課題の分析をグループ単位で実施し、纏めた内容を発表する。本講義の履修を通じて、グループワークの方法、課題調査の方法及びプレゼン方法の基本を学ぶことができる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学A	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、クロス表の統計量、相関係数、偏相関係数、重回帰分析の基礎などを講義し、重回帰分析、分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方を解説を行う。社会統計学Aでは、相関係数、主成分分析、判別分析について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学B	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、クロス表の統計量、相関係数、偏相関係数、重回帰分析の基礎などを講義し、重回帰分析、分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方を解説を行う。社会統計学Bでは、重回帰分析、因子分析について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅠA	質問紙調査の際、統計的データをまとめたり分析したりするのに必要な、基礎的な統計学的知識を教授する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、クロス表の統計量、相関係数、偏相関係数、重回帰分析の基礎などを講義し、統計ソフトRを用い、実際に計算をする演習を行う。量的調査として、社会調査法や心理測定法を中心に、これらの歴史的背景、知識、意義、問題点等について講義する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。具体的には、分布に関する記述、2変数間の関連について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅠB	社会調査法や心理測定法の知識に基づいて、調査票を設計・作成し、その調査票を実施する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。具体的には、統計的検定の理論、2群の平均値に関する分析、多群の平均値に関する分析について講義を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡA	質的データの収集と分析について講義と演習でもって修得する。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法(フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析、ライフストーリー分析など)を紹介し、実際に演習を行う。社会学における「社会」のとらえ方と、質的/量的社会調査法について概説する。社会調査法ⅡAでは、社会学における「社会」のとらえ方、質的調査の意義と目的、2つの社会調査の特徴と差異の解説、質的調査における問題設定と調査計画、フィールドワークとその歴史、フィールドワークの内容と特徴、エスノグラフィーやインタビュー、アンケート調査などとの比較について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡB	質的データの収集と分析について習得する。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法(フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ライフストーリー分析など)を紹介する。質的調査に関する知識を身につけ、その内容・特徴などについて正しく理解する。社会調査法ⅡBでは、参与観察の手法と特徴、聞き取り調査の種類と内容、ライフストーリー分析、テキストマイニングなど質的調査におけるデータ分析、フィールドワークにおけるマナーと調査地被害、国内と海外における調査事例について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育学特論	本講義では、近現代の日本における教育を対象とした教育学ならびに関連分野の研究成果をテーマごとに解説する。ここで教育の歴史を中心とした内容を取り上げるのは、今日の教育活動を形成してきた歴史的、社会的条件を明らかにすることが、現行の教育システムの在り方を捉えなおす手助けになると考えるからである。そのためにも、ここでは制度上の変化だけでなく、メディアに現れた教育言説や、学校における教育方法の変化もふまえて、日本の教育の変遷を複眼的に捉えていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育心理学特論 (教育・学校心理学)	本講義では、人間の成長や発達を教育心理と学校教育の立場から考える。今、学校で起きている問題を中心に、発達段階ごとにいじめや、不登校、虐待、貧困などの理解を深めると同時に新たな学習の在り方について、事例をとおして具体的に学ぶ。また、教師の熟達化や学習科学の最新知見も加え、学校現場における子どもの課題や問題解決に必要な知識の習得並びにより有効な教授・学習方法について理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	日本国憲法	日本国憲法についての基本的な知識を講義する。「憲法」という法は、誰に宛てられた法であり、何を定めている法なのかを、近代立憲主義思想を手がかりに検討する。具体的事例を参照しつつ、日本国憲法と現実社会との関わりについて扱う。憲法の基礎的概念・原理の意味や、基本条文の内容を理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン基礎	デザインリテラシー基礎	芸術工学の共通基盤として、芸術工学がいかなる価値を実現しているかを学び、デザイン応用力を支える基礎的なリテラシーを形成する。まずはじめに、芸術工学部の理念、歴史、学科構成等について解説し、次に、デザインリテラシーの基礎について、各5コースの専門領域に沿った形で講義・簡易演習形式で学ぶ。講義内容については各コースの概要等を解説し、簡易演習については各コースの専門性を含め、座学中心にならないように留意する。	
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン基礎	基礎造形 I	多様な認識のあり方を獲得するためにデッサンの基礎を学ぶ。また、美術に必要な発想法と、絵画における表現方法を学ぶ。基礎的な美術理論と美術史、技法、素材の特徴を分析し、自らの表現コンセプトを構築する。点・線・面および明度・彩度・色相に対する理解を基に、芸術作品におけるこれらの役割について考察し、作品に展開し解説する能力を養う。制作実践を通じて自らと他者の感性を客観的に認識し、表現の多様性と、自身の手によって生み出される作品価値を再認識する（平面）。	
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン基礎	基礎造形 II	工作工房設備の活用法を理解すると共に、デジタルファブリケーションと従来の伝統的技法の双方の特性を体験的に学ぶ。各種設備に対する安全教育を前提に、従来の木工、金工、溶接などの伝統的技法とデジタル機器を融合した新たなモノづくりの実践として、平面及び立体を対象とした、プログラミングによるデータの生成、デジタル機器によるデータの物理化、さらにその形状の手による再現を行い、計算論的思考と実践による体現との組み合わせによる創造のプロセスを習得する。	
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン基礎	基礎造形 III	創造性をさらに発展的に育むために、基礎造形 I、II の履修者を対象に、その応用的展開として、造形的能力を発展させ、造形美術を創造するための技術を学ぶ。基礎造形 III では、形の抽象化、量感、質感、構成を理解し、造形美術を制作する。造形美術を創造するための彫刻表現技法や、素材（木、石、金属等）への知識、立体的思考力を習得する。自然の美しさを観察し、形の美への意識や、3次元空間および身体性に対する感性を養う（立体）。	
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン基礎	基礎造形 IV	基礎造形 I、II の履修者を対象に、その応用的展開として、大型木工用CNCやウォータージェットカッターなどを活用した複合的な制作を行う。パーソナル・ファブリケーションやメーカームーブメントといった、新たなモノづくりと、木工、金工、溶接といった従来のモノづくりの技法、双方への理解を踏まえ、新たな知や技術だけを取り入れる、又は伝統的な手法に固執するという新旧の断絶ではなく、両者の滑らかな行き来を実践を通じて習得する。	
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン	文化とデザイン	芸術工学の理念やアイデンティティに関わるデザインリテラシーを育成するために、人文学・社会科学・人間科学・科学技術のそれぞれの観点から、デザインと学知の関わりに関して包括的な講義を行う。「人文学とデザイン」の観点については、デザインに関連する古典的・現代的著作に基づき、文化のうちにある人間について、その行為の意味を解釈する人文学の多様な視点から、人間をとりまくデザインの現状やその可能性について多面的・融合的に学ぶ。	
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン	人間とデザイン	芸術工学の理念やアイデンティティに関わるデザインリテラシーを育成するために、人文学・社会科学・人間科学・科学技術のそれぞれの観点から、デザインに関わる学知の関わりに関して包括的な講義を行う。とりわけ「社会科学とデザイン」の観点については、デザインに関連する古典的・現代的著作に基づき、他者と関わりあう人間のありかたについて、その関係の法則性を解明する社会科学の視点から、人間をとりまくデザインの現状やその可能性について多面的・融合的に学ぶ。	
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン	人間科学とデザイン	芸術工学の理念やアイデンティティに関わるデザインリテラシーを育成するために、人文学・社会科学・人間科学・科学技術のそれぞれの観点から、デザインと学知の関わりに関して包括的な講義を行う。「人間科学とデザイン」の観点については、生物としての人間理解がモノ・社会・環境などのデザインに果たす役割を理解する。最新の人間科学（ヒューマンサイエンス）によって明らかにされるヒトの生理的、行動的、心理的な特徴がデザインの根拠となる様々な過程を実例などを通して融合的に学ぶ。	
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン	科学技術とデザイン	芸術工学の理念やアイデンティティに関わるデザインリテラシーを育成するために、人文学・社会科学・人間科学・科学技術のそれぞれの観点から、デザインと学知の関わりに関して包括的な講義を行う。生物としての人間について、それを数量的・工学的にとらえる視点、たとえばAIやIoT、生命情報技術などの先端技術の視座を軸として、技術の進化やその変容を取り込みながら、人間をとりまくデザインの現状やその可能性について融合的に学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン論	デザイン論Ⅰ	芸術工学の理念やアイデンティティに関わるデザインリテラシーを育成するために、デザインを根底的・概念的・理論的に思考する基礎デザイン学のための素養を育む。とりわけ、「アフォーダンス」、「ブロックセミクス」、「パタン・ランゲージ」、「グリッド」、「セマンティクス」、「アブダクション」、「スペキュラティブ」といったデザインの基礎概念に関する講義受講し、指定された定形のフォーマットで自己の資料として利用可能なノートを作成させる。こうした作業を通じて、基礎デザイン学の基盤的、あるいは先端的な概念を学習し習得する。	
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン論	デザイン論Ⅱ	芸術工学の理念やアイデンティティに関わるデザインリテラシーを育成するために、デザインを根底的・概念的・理論的に思考する基礎デザイン学のための素養を育む。「美」、「福祉」、「人類」、「言語」、「印象」、「生物」、「プロトコル」、「配置」といった現代のデザインの基軸となる主要なテーマについて複数の観点から論じる講義を受講し、指定された定形のフォーマットで自己の資料として利用可能なノートを作成させる。こうした作業を通じて、現在のデザインのありかたを理解し、他者とコミュニケーションをとる共通概念の土台形成を目指す。	
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン論	デザイン・ケーススタディⅠ	芸術工学の理念やアイデンティティに関わるデザインリテラシーを育成するために、具体的なデザイン実践事例をとりあげ、それを様々な視点から分析/論評することを通じて、デザイン制作の現場とその実際について実践的に学ぶ。デザイン・ケーススタディⅠにおいては、各コース卒業後の進路についてイメージしてもらい、芸工での学習へのモチベーションを高めるために、各コースの卒業生が、実社会でどのような仕事や研究を行なっているか、その年の旬な取り組みを具体的な事例を挙げながら紹介する。	
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン論	デザイン・ケーススタディⅡ	芸術工学の理念やアイデンティティに関わるデザインリテラシーを育成するために、具体的なデザイン実践事例をとりあげ、それを様々な視点から分析/論評することを通じて、デザイン制作の現場とその実際について実践的に学ぶ。デザイン・ケーススタディⅡにおいては、世の中や業界の動向を知り自分の進路についてイメージを持たせるために、実社会の最前線で活躍しているデザイナーや研究者が、それぞれの分野の現在の状況や未来の展望についてどのような考えを持っているか、具体的な事例を挙げながら幅広く紹介する。	
専攻教育科目	コース基礎科目	環境設計基礎Ⅰ	建築およびランドスケープの実測・スケッチ・観察等を通じて、建築・ランドスケープを含む環境をさまざまな観点から読み解き、表現する手法を学ぶ。前半は建築の外構・景観や、植物や緑地環境をテーマに、手元のスケールから広域スケールの観察にもとづいて、小スケール図面やスケッチ、建築景観図を作成する。後半は教室・廊下等の実測や、図面と実際の建物との対比等を通して、建築の内部空間・外部空間のスケールや使用されている素材について学ぶ。 (オムニバス方式 全8回) (21 朝廣和夫/4回) 建物周辺の身近な緑地環境を対象に、観察、記録(スケッチ)、景観図の作成を行う。 (34 加藤悠希/4回) 授業を行う教室、廊下等の身近な建築空間を対象に、実測、記録、図面との対比等を通し、建築のスケールや素材を実感させる。	オムニバス方式
専攻教育科目	基礎科目 コース	環境設計基礎Ⅱ	優れた建築作品・ランドスケープ作品や基礎的な文献、あるいは身近な都市空間・環境等を素材として、「建築・環境の基礎概念」および「建築・環境計画・設計のアプローチ」について、講義とディスカッションを行う。環境設計という学問分野・領域の概要と基礎を理解すると共に、教員および学生同士のコミュニケーションを通して環境設計の魅力を伝え、これから始まる環境設計の学習に対するモチベーションを高めることを目標とする。	
専攻教育科目	基礎科目 コース	空間デザイン実習	建築とランドスケープの設計に必要な基礎的な技術として、器具を用いた測量およびコンピューターによる作図・デジタル画像を学ぶ。測量を通して環境設計の具体的な側面にまず触れて、スケールを体感しながら空間や場所を実体として理解する力をつける。それとともに、設計プロセスの中で用いられるCAD/CGの表現技術を学ぶことで、検討やプレゼンテーションのためのツールとして使いこなし、他者に空間を提示・説明できるようになることを目標とする。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	基礎科目	環境設計プロジェクトA	設計教育のはじめに当たり、前半では優れた建築作品・ランドスケープ作品を通して空間構成・表現のさまざまな手法を紹介する。学生はそれぞれ優れた作品の模型製作を行って空間を分析し、あわせて模型表現の手法も学ぶ。さらに後半ではその成果をふまえて独立住宅の設計を行う。自ら空間をデザインし、それを模型・図面等で表現する能力を養うとともに、学生間あるいは教員とのディスカッションを通じて自らの設計を展開させていく手順を学ぶことを目標とする。	共同
専攻教育科目	基礎科目	環境設計プロジェクトB	与えられた敷地において、商業施設等の設計を行う。空間プロジェクトAで習得した基本的な設計・計画手法をさらに展開し、敷地の条件や社会的状況なども読み解いたうえで最適と思われる建築の規模・プログラム等を自ら考え、それにふさわしい空間構成・形態を具体的に検討する能力を養う。また、建物に続いて外構についても設計を行い、建築とランドスケープを、周囲の都市の文脈まで念頭に置きつつ、一体的に計画・設計する能力を養う。	共同
専攻教育科目	基礎科目	空間情報分析実習 I	この授業では、環境設計のための地理空間情報の基礎的知識の習得、地理空間データを用いたGIS(地理情報システム)による地域分析、時空間解析を行う技術の習得のため、国内外の動きや法律や制度の習得、GISの導入・利活用に関する知識の習得、地理空間情報解析ソフトの基本的操作スキルの習得を行う。利用ソフトウェアはフリーのQ-GISを主とするが、学年進行と共にArc GISの利用を行う学生もいるため、基本的なベクタデータ作成を行う。	
専攻教育科目	基礎科目	空間情報分析実習 II	環境設計のための空間情報の応用知識の習得、空間情報データを用いた地域分析、時空間解析を行う技術の習得のため、国内外の動きや法律や制度の習得、BIMの導入・利活用に関する知識の習得、空間情報解析ソフトの応用操作スキルの習得を行う。ラスタ画像データの利用について、ランドサットなどの基礎的な衛星画像を用いNDVIの作成などを修得する。また、BIMで作成したデータをAdobeソフトと組み合わせ、より効果的な表現手法の習得を行う。	
専攻教育科目	コース基礎科目	インダストリアルデザイン基礎 I	インダストリアルデザインコースの中で、プロダクトデザイン、ライフスケープデザイン、ソーシャルデザイン科目群から構成されるクリエイティブデザイン領域に関して、デザインの考え方や発想法・デザイン及び企画・プレゼンテーション・論理化などデザインを行う上での基礎知識や方法、それぞれの科目群の今後の展望等について理解を深め、クリエイティブデザイン領域の立場からインダストリアルデザインと人間生活について考える。 (オムニバス方式 全8回) (17 平井康之、48 藤智亮、67 迫坪知広、38 杉本美貴/3回) (共同) プロダクトデザイン科目群の基礎知識及び今後の展望 (35 齋藤俊文、41 曾我部春香、60 秋田直繁/3回) (共同) ライフスケープデザイン科目群の基礎知識及び今後の展望 (44 田村良一、51 松前あかね/2回) (共同) ソーシャルデザイン科目群の基礎知識及び今後の展望	オムニバス方式・共同
専攻教育科目	コース基礎科目	インダストリアルデザイン基礎 II	インダストリアルデザインコースの中の人間工学(エルゴノミクス)デザイン、生活環境デザイン、感性科学デザインについて、それぞれの歴史、基礎的知識、成功事例や社会における役割について学び、人間工学を学ぶ必要性について理解を深める。また、インダストリアルデザインコースの中の人間工学に関する教育プログラムの趣旨を理解する。さらに、日常生活の中で人間工学が取り入れられている事例を探し、人間工学とは何かを具体例を挙げながら説明できる能力を養う。 (オムニバス方式 全8回) (19 村木里志/1回) インダストリアルデザインにおける人間工学の役割 (16 樋口重和/1回) 人間工学の歴史 (18 前田享史/2回) 生活環境デザインとその実践例の紹介 (74 元村祐貴/2回) 感性科学デザインとその実践例の紹介 (77 Loh Ping Yeap/2回) エルゴノミクスデザインとその実践例の紹介	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース基礎科目	プロダクトデザイン概論	<p>プロダクトデザインを実践して行く上で必要となる、プロダクトデザインの背景やデザインプロセスなどの基礎知識、ユニバーサルデザイン・インクルーシブデザイン・アフォーダンス・デザインドリブンなどのデザイン概念、材料や加工法・生産性や安全性などの基礎知識、機能や構造と造形の関わり、プロダクトデザインと人間生活や科学との関係性など、プロダクトデザインの概要についてデザイン及び科学・工学の視点から多面的に理解する。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(67 迫坪知広/2回) プロダクトデザインの背景、歴史、SDGs</p> <p>(38 杉本美貴/2回) デザインプロセス、手法、プロダクトデザインと人間生活や科学との関係性</p> <p>(48 藤智亮/2回) 材料や加工法の基礎知識、表面処理と加飾、生産性、安全性</p> <p>(17 平井康之/2回) デザインドリブン、UD、インクルーシブデザイン</p>	オムニバス方式
	コース基礎科目	ライフスケープデザイン概論	<p>ライフスケープとは「生活風景」や「生活情景」という意味合いで、単なる環境デザインではなく、主観的な生活者の視点を重視し生活者と文化、情報、モノ、空間のあるべき関係を探求、それらをさまざまな媒体を通して具体的に表現するデザインであることから、本講義では、まずライフスケープデザイン領域が示すデザインの基本的な考え方や方法論を修得する。具体的事例を通して、デザイン対象となる領域(インテリアデザイン、パブリックデザイン、コミュニケーションデザイン(関係のデザイン))を知り、その広がりや各種領域におけるデザイン活用の在り方を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(9 清須美匡洋/2回) インテリアデザイン(流通、金融、文化施設等)、パブリックデザイン(港湾、駅舎、博覧会等)、コミュニケーションデザイン(広告、広報、ブランド、情報等)、についての全般的な基礎演習</p> <p>(35 齋藤俊文/2回) コミュニケーションのデザインとは、広告コミュニケーションについて、文化とサブカルチャーについて、メディア論とオーディエンスについて</p> <p>(41 曾我部春香/2回) パブリックデザインとは、パブリックデザインにおけるインフォメーションデザイン、色彩について、空間と空間構成要素との関係について</p> <p>(60 秋田直繁/2回) インテリアデザインの歴史、人間の空間認知と思考・推論の連鎖過程、インテリアプロダクトデザインに関する素材特性・加工方法・構造・造形・デザインプロセス</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース基礎科目	サービスデザイン概論	<p>サービスデザインとは、ユーザーニーズや経験価値を重視して、製品や産業などのビジネス領域及び医療・福祉や行政などのソーシャル領域における事業の仕組みを設計するプロセスを指す。本科目では、それらのプロセスに関するデザインの起点、現状、展開を概観し、その背景や課題、今後の展望を考察する。具体的には、ビジネス領域においては、近代デザインの起り、企業戦略、マーケティング、ブランディング、サービスなどとデザインとの関係、及び基礎理論や手法などについて理解する。また、ソーシャル領域においては、それらの軸としてサービスデザインの基本的構造を理解し、時間軸に沿ったインタラクティブな関係性を理解する。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(15 都甲康至/3回) サービスデザインの概念と沿革、サービスの事業化とデザインのマネジメント、事業戦略と組織のデザイン</p> <p>(44 田村良一/3回) マーケティングとデザイン、ブランドとデザイン、サービスとデザイン</p> <p>(51 松前あかね/2回) 社会的課題とウェルビーイング概念 (well-being)、リーガルデザイン (含：政策デザイン)、場のデザイン (含：イノベーションエコシステム)</p>	オムニバス方式
	コース基礎科目	人間工学概論	<p>人間にとってのデザインを行ううえでの人間工学の必要性和実用性、人間工学を学ぶ上で基礎となる思考法を学ぶ。さらに、基礎的知識として人間の形態学的・生理学的な基礎と心理学的・行動学的な特徴を学び、実生活への応用例として、ヒトの生活機能と人間工学、睡眠・生体リズムと人間工学、労働現場における人間工学、生活環境における人間工学について学ぶことで、デザインの基礎であり芸術工学の理念である“技術の人間化”を実践するための人間工学に関する素養を身につける。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(18 前田享史/5回) 人間工学の必要性和実用性、「技術の人間化」における人間工学の位置づけと思考法、労働現場における人間工学、生活環境における人間工学</p> <p>(16 樋口重和/3回) ヒトの感覚、ヒトの内分泌機能・免疫機能、ヒトの睡眠と生体リズム</p> <p>(19 村木里志/2回) ヒトの運動と人間工学Ⅰ、ヒトの運動と人間工学Ⅱ</p> <p>(74 元村祐貴/2回) ヒトの中枢神経機能、ヒトの末梢神経機能</p> <p>(77 Loh Ping Yeap/2回) ヒトのつくりとその特徴、ヒトの生活機能と人間工学</p> <p>(64 大草孝介/1回) ヒトの行動と人間工学</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース基礎科目	未来構想デザイン概論	<p>未来構想デザインとはいかなるものかについて概論的に学習する。 (1) いま世界では、人類の生存に関わるいかなる切実な問題が生じているか。(2) 従来のデザイン分野の枠にとどまらない課題の出現に対して、現在のデザインがどのような活動をなし、いかなる価値を生み出しているか。(3) 歴史的にこれまでのデザインやデザイナーがどのような未来像を描いて来たか。(4) これからのデザインを展望するどのような考え方が世界で提起されているか。以上の4つの論点にしたがって、本コースの課題と使命について学習する。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(10 古賀 徹, 11 近藤加代子, 46 中村美亜/2回) (共同) 人類の生存に関わるいかなる切実な問題についての様々な社会背景について講義する。</p> <p>(24 伊藤浩史, 52 丸山 修, 71 平松千尋/2回) (共同) 情報科学や生命科学からの人類や環境に関わる問題について講義する。</p> <p>(22 池田美奈子, 32 尾方義人, 69 長津結一郎/2回) (共同) デザインやアートの立場からの社会構想の構築の方法について講義する。</p> <p>(49 Hall Michael, 62 稲村徳州, 78 Loh Wei Leong/2回) (共同) デザインにおける国際的な動向や今後の動きについて講義する。</p>	オムニバス方式・共同
専攻教育科目	基礎科目	視覚芸術基礎	<p>人物、人体デッサンを中心に描くことを通して得られる観察力、集中力、表現力を身につける実習授業である。観察力とは対象がどのような要素で構成され、どのように構築されているかを、自らの目を通して導く力である。集中力は一つの表現や思考に対して、妥協することなく突き詰めぬく力である。表現力は考えや思いと他者に伝え理解してもらうための力である。集中力、表現力テーマに沿った課題解釈、表現能力とグループワーク、コミュニケーションスキルを養う。</p>	
専攻教育科目	基礎科目	コンセプト論	<p>デザインにおけるコンセプトとは何かを考え、またそれを自らの道具とするためのための授業である。コンセプトの役割と考え方、展開、活用、アイデアとの関係をふまえ、実現までのプロセスを、歴史的な事例から現代の事例までを概観しながら統合的な理解を目指す。そのうえで、練習課題を行いながら、この授業で学んだことをプロジェクト授業を通して、共通課題PBLやプラットフォーム演習、コース融合プロジェクトで実践する。</p>	
専攻教育科目	基礎科目	デザインスケッチ	<p>絵を描くということは、重要なコミュニケーションメソッドである。しかし、美術表現的な高度の技術が必要なわけではない。またこの表現経験がないことを前提に、記号表現・概念図・製品表現・空間表現・図面・グラフィックレコード・小説など伝達の基礎となる様々な方法やその修練方法を練習する。また修練の仕方を経験する。さらにプロダクトデザイナー・カーデザイナー・インテリアデザイナー・グラフィックデザイナーなどへのアプローチも示す。</p>	講義4時間 演習12時間
専攻教育科目	コース基礎科目	社会と多様性	<p>環境の持続可能性は多様な観点から評価され、さまざまな評価ツールが存在する。それら評価ツールの意味や利用方法、それにより顕在化される課題など、ツールの活用方法だけではなくそのツールの論理的背景や社会的背景の理解を進める。それらを使って私たちの暮らしと社会のありようを多面的に様々な側面から複合的あるいは統合的に見直し、モノとコトのデザインと環境の持続性とそれらの関係性を理解することで、未来社会の構想方法を考える。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(46 中村美亜/4回) 生活や暮らしと社会のありようを多面的に様々な側面での理解について講義する。</p> <p>(69 長津結一郎/4回) モノとコトのデザインと環境の持続性とそれらの関係性を理解について講義する。</p>	オムニバス方式
専攻教育科目	コース基礎科目	環境と持続可能性	<p>環境の持続可能性は多様な観点から評価され、さまざまな評価ツールが存在する。それら評価ツールの意味や利用方法、それにより顕在化される課題など、ツールの活用方法だけではなくそのツールの論理的背景や社会的背景の理解を進める。それらを使って私たちの暮らしと社会のありようを多面的に様々な側面から複合的あるいは統合的に見直し、モノとコトのデザインと環境の持続性とそれらの関係性を理解することで、未来社会の構想方法を考える。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース基礎科目	クリティカルシンキング	<p>現代社会の様々な問題に関して、自由主義や功利主義、ダイバーシティ論、共同体論、動植物の権利、脱植民地化論など、ポリティカルコレクトネスに関わるさまざまな社会的原則をもとに、自説を論理的に論述する訓練をする。原則が変われば問題の見方や評価が変わることを学び、相対立する原則に対してどのような配慮をもって自説を展開すべきかについて学習する。異なる意見を持つ他者を理解し、なお自らの立場をいかに説得的に伝えることができるか、そのコミュニケーションの技法を習得する。</p> <p>(10 古賀 徹) 社会的原則についての基本的講義と日本語による論述・表現について指導する。</p> <p>(78 Loh Wei Leong) 具体的事例に関する基本的講義と英語による論述・表現について指導する。</p>	共同
専攻教育科目	コース基礎科目	プログラミング基礎	<p>プログラミングの基礎知識を具体的な実践演習を通し、身につける。繰り返し、条件分岐、配列、関数、ポインタなどの知識と考え方を学び、多くの演習問題のコーディングを通して、その課題や問題を解決する経験を積み重ねる。それにより、対象を問わない幅広いどの分野にも役に立つプログラミング能力を培う。それら実践によるプログラミングの考え方や方法の取得から、社会の問題を発見し、問題構造を見抜き、解決する力を身につける。</p>	
専攻教育科目	コース基礎科目	情報科学 I	<p>アルゴリズムは社会のあらゆるところに存在し、社会の様々な仕組みの構成の根幹となっている。効率の良いコンピュータ・プログラムを作成するには、具体的な計算の手続きであるアルゴリズムを作る必要がある。また、これらが処理する情報の入れ物としてデータ構造の概念が大切である。以上を踏まえ、本科目では、アルゴリズムやデータ構造の基本的な考え方とその具体的な設計法、そして情報科学における重要な概念についても学ぶ。</p>	
専攻教育科目	コース基礎科目	生命科学入門 I	<p>生命現象の共通性と多様性について、DNA、自然選択のしくみ、進化の道筋の探索など生きているということ、変化するということが、生物がなぜ共通性と多様性をもつかの理解、生物の共通性を具体的に説明できる、「進化」の視点を持って生物や生命現象を考察しようとする態度を持つ観察や実験を通して学ぶ。また、それらは生態系の中で環境や他の生命との相互作用によって変化していくことを理解する。生命科学の視座を持って未来社会を構築する力を培う。</p>	
専攻教育科目	コース基礎科目	メディアデザイン概論 I	<p>メディアデザインにおいて、メディアによる表現とコミュニケーションデザインに関する基本的な知識と、それを使いこなすスキルを習得することは不可欠である。メディアデザインに関する導入として、メディア表現の領域における構成要素と基礎知識を学ぶ。具体的には、造形芸術におけるメディアの捉え方、コンピュータを用いたメディア表現、映像メディアによる表現、アニメーション表現、ゲームデザインとメディア、ウェブデザインにおけるメディアの特性、グラフィックデザインの観点から見た印刷メディアの概要について学ぶ。</p> <p>(オムニバス形式 全8回)</p> <p>第1回 (3 伊原久裕, 8 金大雄, 50 松隈浩之, 45 知足美加子, 23 石井達郎, 68 藤紀里子, 75 森本有紀 / 1回) (共同) 本講義の目的、概要について、全担当教員が10分程度のショート講義を行う。</p> <p>第2回 (3 伊原久裕 / 1回) グラフィックデザインの観点から、文字や記号などを用いたメディア表現の基礎について講義と演習を行う。</p> <p>第3回 (68 藤紀里子 / 1回) 情報デザインの観点からウェブデザインなどのメディア表現の基礎概念について講義を行う。</p> <p>第4回 (8 金大雄 / 1回) 映像表現の観点から、メディア表現の基礎について講義を行う。</p> <p>第5回 (23 石井達郎 / 1回) アニメーションと映像の観点からメディア表現の基礎について講義を行う。</p> <p>第6回 (50 松隈浩之 / 1回) ゲームデザインの観点からメディア表現の基礎について講義を行う。</p> <p>第7回 (45 知足美加子 / 1回) 造形芸術の観点からメディア表現の基礎について講義を行う。</p> <p>第8回 (75 森本有紀 / 1回) コンピュータグラフィックスおよびその周辺事例の観点から、メディア表現の基礎について講義を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部) 講義8時間 演習8時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース基礎科目 メディアデザイン概論Ⅱ	<p>メディアデザインに関する導入として、メディアインタラクションの領域における構成要素と基礎知識について学ぶ。メディアインタラクションとは、様々なメディア表現と人間との相互作用を表す。メディアインタラクションは様々な観点から捉えることができるが、本講義では、バーチャルリアリティ、メカニクスデザイン、画像処理、コンピュータグラフィックス、ノンフォトリアリスティックレンダリング、コンテンツ環境デザインという観点から、それぞれの領域の基礎的な概念を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>第1回(担当教員 27 上岡玲子、43 竹之内和樹、33 小野直樹、47 原健二、14 鶴野玲治、25 井上光平、30 牛尼剛聡/1回)(共同) 本講義の目的、概要に関して、オリエンテーションを行う。</p> <p>第2回(27 上岡玲子/1回) 実空間とコンピュータで生成された空間をシームレスにつなげ没入させる技術であるバーチャルリアリティについての総説を行う。</p> <p>第3回(43 竹之内和樹/1回) メカニズムとその動きについて、運動学・力学の視点から基礎を与える講義を行う。</p> <p>第4回(33 小野直樹/1回) 画像処理の目的、必要とされる場面およびその効果について概説する。</p> <p>第5回(47 原健二/1回) コンピュータビジョンの基本的な考え方、関連分野との関係性、および現在までの成果に関する講義を行う。</p> <p>第6回(14 鶴野玲治/1回) コンピュータグラフィックスの観点からメディアインタラクションの基礎に関する講義を行う。</p> <p>第7回(25 井上光平/1回) 写真を絵画風に変えるノンフォトリアリスティックレンダリングの実例を紹介し、そこで使われるアルゴリズムを概説する。</p> <p>第8回(30 牛尼剛聡/1回) コンテンツ環境デザインの観点からメディアインタラクションの基礎に関する講義を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
専攻教育科目	コース基礎科目 メディアデザイン概論Ⅲ	<p>メディアデザインにおいて、人間とメディアとの関係に関する知識や社会におけるメディアの位置付けなどを習得することは不可欠である。本講義では、メディアデザインに関する導入として、メディアコミュニケーション学の領域における構成要素と基礎知識(メディアと人間の視知覚特性との関係、メディアにおける色彩科学の貢献、メディアと心理学との関係、メディアと文化論の関係、メディアにおける言語を介したコミュニケーション、メディアにおける知的財産の扱い方)を様々な視点から学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>第1回(2 伊藤裕之、39 須長正治、40 妹尾武司、31 大島久雄、73 冬野美晴、61 麻生 典、76 吉村理一)(共同) 本講義の目的、概要について、全担当教員が10分程度のショート講義を行う。</p> <p>第2回(2 伊藤裕之/1回) メディアと人間の視知覚特性との関係について講義を行う。</p> <p>第3回(39 須長正治/1回) メディアにおける色彩科学の貢献について講義を行う。</p> <p>第4回(40 妹尾武司/1回) メディアと心理学との関係について講義を行う。</p> <p>第5回(31 大島久雄/1回) メディアと文化の関係について講義を行う。</p> <p>第6回(73 冬野美晴/1回) メディアにおける言語を介したコミュニケーションについて講義を行う。</p> <p>第7回(61 麻生 典/1回) メディアにおける知的財産について講義を行う。</p> <p>第8回(76 吉村理一/1回) メディアにおける修辞技法やコミュニケーション手法について講義を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース基礎科目 メディア表現基礎	<p>メディアデザイン概論Iでの講義をベースとして、本授業では、メディア表現に関する基礎的スキルの習得を目的として、コミュニケーションデザイン、コンテンツデザイン、芸術表現の三つの領域それぞれにおける基礎的演習を行う。具体的には三つの領域ごとにそれらの基礎となる課題を設定する。課題として挙げられるのは、記号の意味と形態、色彩を用いた構成、写真や動画像などの映像・アニメーションの基礎、CGの基礎としての立体像の構成などである。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>第1回：全体説明 (3 伊原久裕, 8 金大雄, 50 松隈浩之, 45 知足美加子, 23 石井達郎, 68 藤紀里子, 75 森本有紀/1回) (共同) 本演習の目的と概要について、講義を行う。</p> <p>第2回～3回 (3 伊原久裕, 68 藤紀里子/2回) コミュニケーションデザインの観点から、文字や記号などを用いたメディア表現の基礎に関する演習を行う。</p> <p>第4回～6回 (8 金大雄, 23 石井達郎, 50 松隈浩之/3回) 映像表現、アニメーション表現、ゲームデザインなど、コンテンツデザインの観点からメディア表現の基礎についての演習を行う。</p> <p>第7回 (45 知足美加子, 75 森本有紀/1回) (共同) 造形表現、ならびに数理造形の観点から、メディア表現の基礎について演習を行う。</p> <p>第8回 (3 伊原久裕, 8 金大雄, 50 松隈浩之, 45 知足美加子, 23 石井達郎, 68 藤紀里子, 75 森本有紀/1回) (共同) 演習において制作した制作物を対象に、全体講評を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部) 講義4時間 演習26時間
専攻教育科目	コース基礎科目 メディアプログラミング	<p>コンピュータを利用して、様々なメディアを利用したプログラムを開発するために必要なコンピュータに関する知識およびプログラミングの基本について演習を交えながら習得する。この授業では、近年一般的に利用されている手続き型プログラミング言語の一つであるPythonを対象として、プログラミングの基礎として、データ型、条件分岐、繰り返し、関数などについて学ぶ。それをふまえてメディアプログラミングの基礎として、画像処理及びテキスト (記号) 処理の基礎を学習する。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>第1回～第3回 (25 井上光平/3回) ○プログラミング基礎 プログラミング言語Pythonの基礎として、データ型、条件分岐、繰り返し、関数などについて学び、基本的なアルゴリズムを自らコーディングする力を養う。</p> <p>第4回～第6回 (47 原健二/3回) ○画像処理基礎 基本的かつ汎用性の高い画像処理アルゴリズムを選定して数学的原理や内部処理を解説したうえで、画像処理ライブラリを用いたプログラミングの基本について 演習を交えながら修得する。</p> <p>第7回～第8回 (30 牛尼剛聡/2回) ○テキスト処理基礎 テキストデータを処理するための基本的な手法について、演習を交えながら習得する。</p>	オムニバス方式 講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース基礎科目 聴覚生理学	<p>聴覚生理学の基礎について学ぶ。音の物理と性質 (音とは何か、波形、スペクトル、デシベル尺度、音圧レベル、フィルター、純音、複合音、雑音、調波、線形性、非線形性、振幅変調、周波数変調)、神経学 (神経細胞、軸索、神経発火の仕組み、活動電位、神経伝達物質)、聴覚器官の構造 (外耳、中耳、内耳、基底膜)、聴覚末梢系の生理学 (進行波、蝸牛における周波数分析、発火率、位相同期、場所情報、時間情報)、聴覚伝導路 (蝸牛神経核、上オリーブ核、側毛帯、下丘、内側膝状体、聴覚皮質)、周波数分析 (聴覚フィルター、臨界帯域)、両耳聴の機構 (両耳間時間差、両耳間音圧差、頭部伝達関数)、聴覚皮質、聴覚と脳の関係について解説する。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(28 上田和夫/6回) 音の物理と性質、聴覚器官の構造、聴覚末梢系の生理学、聴覚伝導路について解説する。</p> <p>(71 平松千尋/2回) 神経学の基礎について解説する。</p> <p>(57 Remijn Gerard Bastiaan/7回) 周波数分析、両耳聴の機構、聴覚皮質、聴覚と脳の関係について解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース基礎科目	聴覚心理学	<p>「音が聴こえる」という体験を、知覚心理学の立場から分析し、人間と音との関わりに対する科学的な理解を深める。音の物理的な性質と主観的な性質とがどのように関係づけられるのかを、生理学的な知見をも踏まえて概観し、我々がたくさんの音の中から必要な音だけを聴きとったり、音と音との関係を即座に把握したりするのは、どのような仕組みによっているのかを考察する。聴覚末梢および中枢における周波数選択性（外有毛細胞の能動性、最良周波数、特徴周波数、神経同調曲線、精神物理学同調曲線、臨界帯域、聴覚フィルター、等価矩形帯域幅、同時マスキング、時間マスキング）、音の大きさ（音の大きさのレベル、音の大きさの等感曲線、ソーン尺度）、音の高さ（欠落した基本音の高さ、音の高さの支配領域、音の高さの二面性）、聴覚と時間、聴覚体制化（聴覚情景分析、音事象、音脈、ゲンタルト原理）、空間知覚、音声知覚について解説する。</p> <p>（オムニバス方式 全15回）</p> <p>（28 上田和夫／8回） 聴覚末梢および中枢における周波数選択性、音の高さ、空間知覚、音声知覚について解説する。</p> <p>（57 Remijn Gerard Bastiaan／7回） 音の大きさ、聴覚と時間、聴覚体制化について解説する。</p>	オムニバス方式
専攻教育科目	コース基礎科目	音文化論	音楽を物理的な現象として理解するための基礎知識と、音楽を文化的営みとして理解するための考え方を学ぶ。前半は諸地域の音律・音高組織・旋律・和声・リズム・楽式について学ぶ。とくに、西洋の音律の歴史、協和音程と不協和音程の歴史については詳しく解説し、西洋の音楽がその他の音楽から分離し独自の展開をたどるプロセスと背景を知る。後半は非西洋の音楽や20世紀以後の音楽のありかたを解説し、今日の音楽を正しく実践し研究するための知識と考え方を身につける。	
専攻教育科目	コース基礎科目	音響理論演習Ⅰ	振動・音響現象の基礎的な理論を説明する。すべての振動・音響システムの基本となる、1自由度振動系の振動方程式、減衰振動方程式、強制振動方程式の導出過程と一般解を説明する。さらに、自由度の多い振動系の振動方程式、強制振動方程式の導出過程と一般解、基準モードについて説明する。振動・音響理論が2年次以降の音響理論、音響設計に関する授業を学ぶうえで、いかに重要であり、不可欠であるかを示すため、基礎概念の物理的内容の理解と共に、一般化に力点を置く。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース基礎科目	音響理論演習Ⅱ	音響理論演習Ⅰで学んだ音波、および連続体の振動に関する理論の、より一般的な取り扱いについて講義する。音波に関して、1次元の波動方程式に関して復習し、続いて3次元の波動方程式を導く。同時に速度ポテンシャルという概念を導入することで、音圧、粒子速度を同じ形の方程式で記述できることを認識する。また波動方程式の解としての平面波・球面波を定義し、その性質を概説する。更に、音波を放射する音源に関して、点音源、二重音源、呼吸球に関してそれぞれの性質を解説し、放射インピーダンスという概念を導入する。音波が伝搬する過程では、通常様々な障害物による散乱、回折が生じる。これらの現象についての概説を行う。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース基礎科目	音響信号処理	種々の音を扱う音響設計においては、音響信号の時間波形だけでなく、その周波数分析を通して音の特性を理解することが非常に重要である。ここでは、音響信号のスペクトル分析の概念を理解するため、信号を周波数成分に分解表現するフーリエ解析の諸理論（フーリエ級数、フーリエ積分、重畳積分定理）について学ぶ。さらに、これらの基礎理論を基に、音響信号のデジタル処理に必須のサンプリング定理や線形システム理論について学び、演習を通して理解を深める。	
専攻教育科目	コース基礎科目	デジタル信号処理	近年、インターネット、DVDなどのAV機器、携帯電話、スマートフォンのようなモバイル端末などの通信機器で、音声、画像、動画などの、いわゆるマルチメディア・データを対象とした多様な処理機能が提供されるようになってきた。これらのデータは、本来アナログ信号であるが、システム内部ではデジタル信号に変換して各種処理が行われる。これによりアナログ信号処理では実現が困難であったような高度な処理が可能となっている。本科目では、Z変換などのデジタル信号の解析手法やたたみ込みなどの各種処理手法、およびフィルタの設計法について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称		講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計	構造理論Ⅰ	この授業では、建築物や土木構造物の設計において、安全性を確認する際に不可欠な構造力学、材料力学を学ぶ。それらを用いた演習を通じて、建築物や土木構造物の設計に必要な力学的な感覚を養う。構造理論Ⅰでは、建築物等のモデル化に必要な知識（構造部材の種類と役割、線材への置換、節点と支点の種類、設計用荷重、集中荷重と分布荷重、応力と変形）を学び、力の釣合条件を用いた静定梁（単純梁、片持ち梁）の応力計算、節点法を用いた静定トラスの軸力計算を行うための手法を習得する。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計	構造理論Ⅱ	この授業では、建築物や土木構造物の設計において、安全性を確認する際に不可欠な構造力学、材料力学を学ぶ。それらを用いた演習を通じて、建築物や土木構造物の設計に必要な力学的な感覚を養う。構造理論Ⅱでは、応力度、ひずみ度、フックの法則、弾性係数の概念を学び、平面保持仮定に基づく梁の基礎微分方程式の導出、梁の断面性能（図心と断面1次モーメント、断面2次モーメントと断面係数）の算定法、静定梁や静定トラスの変位を単位仮想荷重法により計算する手法を習得する。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計	環境材料論Ⅰ	建築物の設計において、建築材料選定の良否は建築物のデザインのみで無く、居住性、耐久性、安全性などに大きな影響を及ぼす。建築物の各部位の「要求性能」を把握し、各建築材料の「保有性能」に照らし合わせ、適切な材料を選択することが必要である。この授業では、建築材料として、鉄、非鉄金属、左官材料、仕上塗材・塗料・接着剤、建築用セラミック・ガラス・コンクリート製品、建築ボード類、防水材料・ゴム・プラティックの種類・性能と適用部位及び、それら建築材料の実施の使用例について学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計	環境材料論Ⅱ	建築物の設計において、建築材料選定の良否は建築物のデザインのみで無く、居住性、耐久性、安全性などに大きな影響を及ぼす。建築物の各部位の「要求性能」を把握し、各建築材料の「保有性能」に照らし合わせ、適切な材料を選択することが必要である。この授業では、「要求性能」として、建築物に必要な防・耐火性能、評価方法、防・耐火性能を満足する材料の組合せ、風の作用と風圧力に対する建築材料の性能、雨水浸入のメカニズムと要求性能、耐久性低下に及ぼす劣化因子、構造材料の劣化、及び仕上材料の劣化・剥落のメカニズムについて学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計	環境調整システム論	建築環境はそこに在住する人間の安全性、健康、快適性等を左右するものである。室内環境の形成機構を理解し、合理的な建築設計を行うことにより省エネルギーも期待できる。本講義では、良好な居住環境を形成するための熱環境、温熱環境、光環境、空気環境、湿気環境の制御手法及びその原理について学ぶと共に、それらの設計目標や環境計画全般についても各種事例を通じて理解する。併せて、建築分野が関わるエネルギー消費の実態と省エネルギーの必要性を理解する。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計	建築デザイン計画論	この授業では、建築計画、建築デザインの基礎理論、およびビルディングタイプ毎の各論について学ぶ。特に各論では、ビルディングタイプとして住居系建築、文教系建築、医療福祉系建築、コミュニティ施設系建築及びそれらを複合した建築を対象として、その建築計画手法と建築計画技術を習得する。さらに、それら建築の歴史的・社会的・文化的背景を理解し、配置・機能・空間・プログラムとその関連性・運動性に関する基礎的知識を習得する。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計	環境構法論	私たちの身の回りの建築は数多くの「もの」で構成されている。建築の「もの」としてのしくみについて学ぶのが環境構法論である。つまり、建築の「ありよう」、構法の原理を理解した上で、木造の構法・鉄筋コンクリート造の構法・鉄筋コンクリート造の構法、煉瓦造や石造などの組積造の構法といった構造材料ごとの構法、間仕切り壁・天井・床などの内装や外壁・サッシなどの開口部・カーテンウォールなどの外装のディテールといった各部構法など、建築構法の基礎的な部分を習得する。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計	建築法規	この授業では、建築基準法、建築士法、都市計画法、消防法など、建築を成立させるための「決まりごと」を学ぶ。主に、建築基準法上の都市計画に関わる決まりごと（集団規定）と建築物の安全性を確保するための様々な決まりごと（単体規定）を中心として、関連法令およびその基礎的な実践例を理解する。さらに、建築基準法を中心に、どのような決まりごとがあるのか、なぜそのような決まりごとがあるのかを、関連する法律と併せて大局的に理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 構法設計論	建築の「ありよう」を、その歴史的な展開から理解し、建築の「もの」としての構成の面白さ、建築の「もの」としてのしくみについてより深く学ぶのが、構法設計論である。建築をつくるしくみである「やりよう」を理解した上で、木造の構法・鉄筋コンクリート造の構法・鉄筋コンクリート造の構法といった構造材料ごと、建築の構成方法としての構法の諸側面およびそれに対応する建築構法計画の手法を具体的な設計事例、開発事例、施工事例を通じて、建築構法の応用的な部分を習得する。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 建築空間設計論	建築設計を学ぶ上での意匠的な概念、思想、理論、実践を学ぶ授業。毎回、具体的な建築物の事例を挙げながら、空間、部屋、スケール、表現、論理、ルール、部分と全体、断面、都市のイメージ、空間の秩序、空間的言説、建築と都市などについて解説してゆく。さらに、建築とそれを取り巻く社会的、文化的な背景などについても学ぶ。この授業では、空間を思考する能力、空間を把握する能力、および空間を表現する能力を習得することを目指している。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 環境情報論Ⅰ	人の生活する環境をよりよく知り、人間主体の環境デザインを行なうために人間環境学、環境心理学について講義を行う。環境情報論Ⅰではまず環境の概念および環境デザインのプロセスについて学ぶ。続いて人間による環境の知覚とそれに基づく環境の設計について感覚要素別に視環境、音環境、熱環境、空気環境についてそれぞれ学び、最後にこれらを複合的に扱う際の知見について学ぶ。これらを修得することで、さまざまな知見を、人間を主体とする環境の設計・計画へ応用できるようになることを目標とする。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 環境情報論Ⅱ	人の生活する環境をよりよく知り、人間主体の環境デザインを行なうために人間環境学、環境心理学について講義を行う。環境情報論Ⅱではまず環境心理学の基礎的な理論として姿勢、アフォーダンスと対人距離の心理（パーソナルスペース、プロクセミクス）、場所の認知と記憶（認知地図、都市のイメージを構成するエレメント、イメージのゆがみ）などを学ぶ。さらに、住環境・教育環境・オフィス環境・療養環境等における事例において基礎的な理論がどのように応用されてきたかについて学び、人間を主体とする環境の設計・計画へ応用できるようになることを目標とする。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 構造システム論Ⅰ	この授業では、構造骨組の力学的挙動をシミュレートする解析手法を学び、それをを用いた演習を通じて建築物や土木構造物の構造設計に不可欠な計算法を習得する。構造システム論Ⅰではマトリックス変位法の力学的数理解を理解し、計算手順(部材の剛性マトリックスの算定とその座標変換、架構全体の剛性方程式の誘導、変位の境界条件を考慮した上で未知変位の計算、節点変位から部材端荷重の計算)を把握した上で、不静定骨組の構造解析を行う能力を習得する。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 構造システム論Ⅱ	この授業では、構造骨組の力学的挙動をシミュレートする解析手法を学び、それをを用いた演習を通じて建築物や土木構造物の構造設計に不可欠な計算法を習得する。構造システム論Ⅱでは地震動、地震応答(自由振動、減衰自由振動、強制振動)の基本的な特性を理解し、地震応答の直接積分法を用いた数値解析手法を学び、それらを用いた地震応答スペクトルの作成法、等価線形化法による弾塑性応答解析法を把握した上で、単純な振動モデルの時刻歴応答解析を行う能力を習得する。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 設備計画論	建築の機能性や快適性を確保する上で必要な、空気調和設備、給排水衛生設備、消火設備、電気設備等の基本に関する原理を修得し、それらの設計の基本的考え方を学ぶ。また最新の建築設備技術の実例を通して、環境と共生する建築設備のデザインができることを目指す。 1) 建築設備の総合計画の概要について理解する。 2) 装置の使用原理および実施設計の要点について理解する。 3) 地球環境および省エネルギーの問題と建築設備の関係を考える。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 建築生産	設計開始から竣工・引き渡しまでと、その前段階にあたる事業企画、各種の発注をも対象とし、建築をつくるしくみについて、つまり、建築の「やりよう」について学ぶのが建築生産である。竣工・引き渡し後の、維持管理、需要が低くなった建築の再生といった、持続可能な社会に不可欠である建築を活用するしくみについて、さらには、解体、廃棄といった建築を終わらせるしくみについても含めて、建築のライフサイクルを通して、建築生産の基礎的な部分を習得する。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 環境テクノロジー実習A	安全、安心な都市・建築を設計するためには、それらを支える構造物に使用する構造材料の特性を把握し、適切に選択し利用する必要がある。この授業では、代表的な構造材料を対象に、各種強度試験(木材の曲げ試験、鋼材の引張試験、コンクリートの圧縮試験、鉄筋コンクリート梁縮小模型試験体の曲げ破壊試験)について、標準試験法に則り正しく計画し、忠実かつ安全に実施し、得られた実験データを科学的に分析できる能力を身に付けることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	環境テクノロジー実習B	快適な都市環境、建築環境を設計する為には、環境を構成する要素を把握し、それらに関して起こりうる事象を予測する事が必要となる。本実習で対象とする建築環境工学実験では、1) 環境の計測に用いる測定器の原理を理解した上で建築環境を正しく測定し環境を把握できること、2) 建築環境のシミュレーションにより環境を予測できること、を目的とする。1) では測定器を実際に作成する事で、その測定原理を理解する。また測定に際して生じる誤差についても理解する。2) では室内の温熱環境、風環境等のシミュレーションを実際に行い、設計条件の変更が室内環境に及ぼす影響を理解する。	
専攻教育科目	コース専門科目	西洋建築史	ヨーロッパ・アメリカを中心に、世界の各地域の風土や社会に応じて、建築・都市などの構築環境を人がどのように作っていったか、具体的な建築作品や都市・景観などを通して学ぶ。ある地域が作りあげてきた建築・都市の文化として、個々の様式・技法やその変遷等について理解を深めるのみならず、現在一般に理解されるような建築や都市という概念を作り上げてきた西洋文明のあり方についても考察を加え、現代建築・都市を読解する基礎となることを目的とする。	
専攻教育科目	コース専門科目	近代建築史	今現在に直結する近過去としての近代における建築・都市を概観する。ただし、近代といっても一様ではない。代表的な建築作品・都市計画などを紹介しつつ、優れた点を学ぶとともに、それに対する評価軸を相対化し、西洋・日本・アジアほか、各地域における建築・都市の「近代」のあり方を多様な観点から考えること、また、その延長線上に現代、さらには将来を位置付け、時間軸・空間軸の双方から、近代の成果と課題を検討することを目標とする。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境文化財論	制度や学問としての「文化財学」は欧州の近代保存運動に端を発する。そこで、欧州古代から近代にかけて、「文化財」や「保存」、「修復」という概念がどのように形成されたきたか、また、国際的な文化財保存の試みがどのように始まり展開していったかについて学ぶ。またそれに加えて、現代における制度・運営上の課題や実情やさまざまな取り組みなどについても解説することで、文化財のあり方について理解を深めることを目標とする。	
専攻教育科目	コース専門科目	日本建築史	日本列島において、人々がどのような建築・都市を形成してきたか、歴史的に概観する。その際、建築・都市をつくる技術・意匠のみならず、その背景となる社会・文化・経済、東アジアにおける位置づけなどもあわせて説明する。現代の日本の建築・都市はこれまでの歴史と経過の到達点として存在するものであることから、その過程を理解し、この地域に過去に存在した、あるいは今ある建築・都市を正しく評価し、将来を想像する手がかりを得ることを目的とする。	
専攻教育科目	コース専門科目	歴史環境実習	西洋建築史・近代建築史・環境文化財論・日本建築史等の授業において建築史・都市史の基礎を学んだことを前提として、各地に残る歴史的建造物・町並みや近現代の建築・都市の見学を行い、それを通して建築や都市、空間を歴史的観点から読解する能力を習得する。事前の情報収集と実地での見学を通して、図面や先行研究等を理解すること、実際に自ら見学して学ぶこととの相乗効果を体感することを目標とする。なお、実習は1泊2日程度とする。	共同
専攻教育科目	コース専門科目	都市環境設計論	近代以降の都市計画に焦点を当て、近代都市計画と現代都市計画の思想と手法、それらが実現しようとした空間像を対比させることによって、現代都市計画の意味と発展段階、課題や展望について概説する。前半では、近代都市計画思潮の誕生と展開を、欧米や日本の諸都市の歴史や制度史の中で学ぶ。後半では、人口減少、コンパクトシティ、環境共生、生物多様性といった現代的な問題や関心事項を踏まえた都市計画やまちづくりの概念を学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境保全論	環境保全、特に森林、原野、河川・湖沼、海浜・干潟、農地、都市等における自然環境、生活環境の保全を実現するための、人々の資源の賢明な利用(wise use)、計画制度、基本用語の定義、事例等について議論を通して学ぶ。保全のコンテキストを理解するために、特に日本の植生、里山の保全、日英の環境保全運動、土壌の保全、庭園史を中心に行う。より能動的な学びを深めるため、図書を用いたレポート、グループワークショップ、生態的環境計画に関する課題を行う。	
専攻教育科目	コース専門科目	緑地環境設計論	緑地環境設計論では、人々が実感できる環境の質的改善に関わる緑地や人間行動などに関する基礎知識の習得、緑地環境設計に求められる景観形成の理念や考え方や手法の理解、緑地環境設計の考え方や手法の組み立て方を身に付けることを目標とする。特に、公園の計画に関する計画論の考え方、立法の経緯、計画から設計にいたる公園計画の具体的なプロセス、そして、優良な公園の計画設計事例について論じ、緑地環境設計の基礎を修得する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 ランドスケープデザイン論	本授業では、ランドスケープデザインと、ランドスケープエコロジー（景観生態学）の視点より、「景観」という空間の諸特性を、様々なスケール、様々な視点から論じる。特に、ランドスケープ（景観）に関する歴史を紐解き、各国で形成された考え方や、景観を創造、制御する手法について、各時代の都市計画や公園・緑地の事例を紹介しながら、そのエッセンスを学ぶ。また、スケールに応じた景観生態学の考え方について、保全・活用に資する生態系ネットワークなどについても学習を行う。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 緑地環境実習	都市の公園・緑地の特徴と課題の把握を行う方法論、現地の植物を観察し同定を行う手法、環境管理活動におけるマネジメントなど、ランドスケープのフィールド実習を通し、緑地を観察しマネジメントできる素養を身につけることを目標とする。福岡市内の優良な公園、緑地を実際に訪ね、教員や管理者の現地レクチャーにより、空間の構成、植物、維持管理状況、利用者の利用状況について学ぶ。また、大橋キャンパスの植物を30種同定できるようになる。さらに、農山村に2泊3日の実習を行い、緑地管理手法について学びを深める。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 環境社会デザイン論	未来社会のデザインを考えるためには、過去において先人たちが獲得してきたさまざまな理念を知り、それを未来の社会において実質化しゆく構想力が必要となる。そのため本講義では、人間の自由とそれを実現する社会のありかたについて、これまで蓄積されてきた思想を振り返り、未来社会のデザインを考える基本的な姿勢と論点を学ぶ。その延長線上に、持続可能な未来社会のさまざまなモデルを提示し、そこへ至るプロセスと行動パターンを検討して、持続可能な社会のありかた、そのために必要となる人間行動、それを実現する政策のデザインについて学ぶ。	コース間共通科目 (環境設計・未来構 想デザイン)
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 データ解析	企業活動や研究における実験などで得られたデータに対して、統計解析を行う際に最も基本な解析法となる回帰分析や統計的仮説検定について講義演習を交えて解説する。また、実際のデータは欠損などを多く含むことから、解析法だけでなくデータのハンドリング法、いわゆるデータクレンジングや、データの基本的な作図法とそこから見えてくる傾向など、様々な側面からデータ解析の基本を学習することで、研究や企業などで実データに挑む際にもフレキシブルに対応できる能力を身に付ける。	コース間共通科目 (環境設計・インダ ストリアルデザイ ン・未来構想デザイ ン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 物質文化論	原人の川原石を打ち欠いただけの簡単な石器に始まる人類の物質文化は、現生人類の段階になって飛躍的に発展し、加速度的にその種類と量を増やしている。人間の文化的適応に中心的な役割を果たす物質文化は衣・食・住という基本的な必要を満たすだけでなく、大規模な通信・交通などを可能にし、ステータスシンボルなど象徴的な機能も果たすなど、その機能は非常に多岐にわたり、現在では、物質文化のない生活というのは想像することも難しい。人間がどのように人工物（もの）を作り、交換し、消費するか。また、そのような「もの」で構成される世界は「人間」であることを構成する中心であり、人工物が重要な社会的効果を持っていることを論じる。	コース間共通科目 (環境設計・未来構 想デザイン)
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 ファシリテーション	教育、行政、地域、企業とあらゆる組織や集団において、協働という名の知的な相互作用を活性化し、集団による問題解決、アイデア創造、合意形成、学習、変革、自己表現・成長という知識創造プロセスを支援し促進していく働きであるファシリテーションの重要性が増している。ファシリテーションの理論、意義、必要性、スキル（場づくり、対人関係、論点の構造化、分かちあい）、効果などについて学び、演習を通してファシリテーションの醍醐味を体験・体得する。	コース間共通科目 (環境設計・未来構 想デザイン)
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 環境倫理学	デザインが生物や人間の「幸福」を目指すとしたら、その幸福とは何か。デザインにおける〈善さ〉は、実用目的を機械的に充足する程度によって測られるのではなく、人間や自然生命がそれによっていかに解放され、その生命力を取り戻しうるかにかかっている。人間の内的自然／有機的な自然観についての基礎的な概念や考え方を学び、自己の内的自然＝いのちと調和した生き方をいかにして実現しうるかについて思考する。西洋の源流思想、反近代主義の諸潮流、フロイト/ラカンの精神分析、最新の環境思想などについて学ぶ。	コース間共通科目 (環境設計・未来構 想デザイン)
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 芸術コミュニケーション論	国際社会を生き抜く異文化コミュニケーション能力、世代間コミュニケーションの問題を克服する能力、人間関係を形成していく能力の獲得を芸術表現を通じたコミュニケーションにより獲得する。そのために芸術における表現手法を用いた計画的・継続的なワークショップ等を実施することにより、芸術を理解する気持ちを育み、豊かな情操を養うとともに、コミュニケーション能力の育成を図る。非言語コミュニケーションを可能とする方法、芸術におけるコミュニケーションの仕組みを学際的な方法を用いて理解する。	コース間共通科目 (環境設計・未来構 想デザイン・音響設 計)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 アーツマネジメント論	日本のアーツ・マネジメントは、全国に林立した公立文化施設の運営や芸術文化団体の経営と深く結びついている。加えて近年は、社会のさまざまな課題にアプローチする手段として芸術が用いられている。芸術と社会の「つなぎ手」としてのアーツ・マネジメントの立場について学ぶ。更に、芸術の価値や有用性を社会の中で展開方法をアートの意味や歴史的系譜を理解し、パブリックアートやアートプロジェクトなどまちづくりなどを通じ、市民との協働や地域文化振興なども考える。	コース間共通科目 (環境設計・未来構想デザイン)
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 Design Pitching Skills	この授業は履修者が外国に行つて、自らのデザインのアイディアを売り込む状況を想定したものである。履修者が英語を使って自分のアイデアを説明したり、その良さを売り込んだりするためスキルを向上させることを目標とする。授業は対話的なワークショップ形式の一連のセッションを通して、履修者が実際に自分のアイデアの説明し、教員はプレゼンテーションのやり方、コミュニケーションの取り方などを適切に英語で行うための方法を具体的にコーチすることで進め、履修者のスキルを向上させる。	共同 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 Start-ups and Global Disruptors	この授業はデザイン提案を社会実装するための一つのルートとしての起業をテーマとする。その目的は起業家として事業を始めるときに理解しておくべきこと、また、事業を起こすために必要な基本的な理論や知識・方法などについて、ケーススタディなどを通じ、より実践に即した形で、英語により学ぶ。授業では、初期費用のための投資、「死の谷」、買収、新規公開株 (IPO) など、スタートアップ企業が直面する様々な場面について、事例を使って説明する。 (オムニバス方式全8回) (78 Loh Wei Leong / 3回) 起業に関する障害と起業される企業の発展段階について事例研究の英語による講義を行う。 (62 稲村徳州 / 5回) デザイン提案をスタートアップ企業で実装するプロジェクトに関する演習を英語で指導する。	オムニバス方式 講義6時間 演習10時間 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 Intellectual Property Rights : Global Perspective	知的財産権に係る規定や法律は国によって大きく異なり、国際的なデザイン活動をするためには、デザインによって生み出された価値の保護について広く理解する必要がある。そのため、この授業では日本及び諸外国における知的財産の概念、知的財産にかかわる基本的な事柄について英語による講義を行い、演習形式で様々な文化的脈絡の具体的な事例を挙げながら、知的財産を守るための方策について、履修者が実践に役立つような形で英語により学ぶ。 (オムニバス方式全8回) (78 Loh Wei Leong / 4回) 国際的な知的財産の基本概念と国際的な商標や特許に関する英語による講義を行う。 (62 稲村徳州 / 4回) 知的財産権の抵触を防ぐための方法や考え方について具体例を使い英語による演習を行う。	オムニバス方式 講義8時間 演習8時間 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 Global Design Innovations	この授業の目的は現在デザインの世界でどのようなイノベーション事例があり、それがどのように生み出されているかを履修者が知ることにある。そのため、まず、具体的なケーススタディを通して、海外の社会デザインのイノベーションの先進的事例を紹介する。この事例研究で得たアイデアをもとに、演習では、実際にデザインプロジェクトに参加し、社会的な課題に対してプロトタイプを制作し、解決のための提案を英語で行う能力を身に付ける。 (オムニバス方式全8回) (62 稲村徳州 / 2回) 九州大学と海外連携大学とのデザインプロジェクトの事例について英語による講義を行う (62 稲村徳州・78 Loh Wei Leong / 6回) (共同) 現在・近い将来の国際的なデザイン課題を取り上げ、海外連携大学と共同演習を行う。	オムニバス方式・共同 (一部) 講義4時間 演習12時間 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 国際環境デザインA I	環境設計において、(1)地域的、国家的、地球的課題を理解し、主体的に深くかかわる能力、(2)国内外の喫緊の課題を把握し、国際的な専門家コミュニティから将来への見通し、解決への示唆を得る能力、(3)異なる政治、社会、文化、歴史的背景を持つ他者と協働し、合意形成を図り課題を解決する能力、及びそのための言語能力、コミュニケーション能力は不可欠である。この授業では、環境設計に関する国際的な感覚を養うための知識を学び、学生の国際的なデザイン活動の基盤を作ることを目指す。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 国際環境デザインA II	環境設計において、(1)地域的、国家的、地球的課題を理解し、主体的に深くかかわる能力、(2)国内外の喫緊の課題を把握し、国際的な専門家コミュニティから将来への見通し、解決への示唆を得る能力、(3)異なる政治、社会、文化、歴史的背景を持つ他者と協働し、合意形成を図り課題を解決する能力、及びそのための言語能力、コミュニケーション能力は不可欠である。この授業では、国際的な環境設計に関する基本概念を学びながら環境設計の大枠について理解を深める。社会の状況に的確に対応できる豊かな教養を持ち、国際的にも通用する広い視野と学識を身に付ける。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 国際環境デザインA III	環境設計において、(1)地域的、国家的、地球的課題を理解し、主体的に深くかかわる能力、(2)国内外の喫緊の課題を把握し、国際的な専門家コミュニティから将来への見通し、解決への示唆を得る能力、(3)異なる政治、社会、文化、歴史的背景を持つ他者と協働し、合意形成を図り課題を解決する能力、及びそのための言語能力、コミュニケーション能力は不可欠である。この授業では、環境設計に関する日々進展する諸外国の分析手法や研究事例及び最新の研究成果を紹介する。建築、都市・地域、景観に関するデザインの展開を概観し、その背景や今後の展望を考察する	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 国際環境デザインA IV	環境設計において、(1)地域的、国家的、地球的課題を理解し、主体的に深くかかわる能力、(2)国内外の喫緊の課題を把握し、国際的な専門家コミュニティから将来への見通し、解決への示唆を得る能力、(3)異なる政治、社会、文化、歴史的背景を持つ他者と協働し、合意形成を図り課題を解決する能力、及びそのための言語能力、コミュニケーション能力は不可欠である。この授業では、広い視点に立つて建築、都市・地域、景観を自主的に設計・計画できる能力を身につける。自分のアイデアの説明を英語でプレゼンテーションすることを目標とする。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 国際環境デザインB I	環境設計において、(1)地域的、国家的、地球的課題を理解し、主体的に深くかかわる能力、(2)国内外の喫緊の課題を把握し、国際的な専門家コミュニティから将来への見通し、解決への示唆を得る能力、(3)異なる政治、社会、文化、歴史的背景を持つ他者と協働し合意形成を図り課題を解決する能力、及びそのための言語能力、コミュニケーション能力は不可欠である。この授業では、環境設計に関する講義、演習を通じて、国際社会における建築、都市・地域、ランドスケープにおける諸課題に対する解決手法を学ぶ。また、将来のあり得る、また、そうありたい社会のビジョンを模索する。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 国際環境デザインB II	環境設計において、(1)地域的、国家的、地球的課題を理解し、主体的かつ深くかかわる能力、(2)国内外の喫緊の課題を把握し、国際的な専門家コミュニティから専門知識や将来への見通し、示唆を得る能力、(3)異なる政治、社会、文化、歴史的背景を持つ他者と協働し合意形成を図り課題を解決する能力、及びそのための言語能力、コミュニケーション能力は不可欠である。この授業では、諸外国の環境設計の理論と方法を通じて建築、都市・地域、ランドスケープにおける諸課題及び対応事例を学ぶ。社会的な変化に伴いデザインの領域は拡大し、デザイナーの役割も大きく変化している。このような現状を見据えつつ、人々を取り巻くより良い環境をいかに構築するかという課題に挑む。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 国際環境デザインB III	環境設計において、(1)地域的、国家的、地球的課題を理解し、主体的に深くかかわる能力、(2)国内外の喫緊の課題を把握し、国際的な専門家コミュニティから将来への見通し、解決への示唆を得る能力、(3)異なる政治、社会、文化、歴史的背景を持つ他者と協働し合意形成を図り課題を解決する能力、及びそのための言語能力、コミュニケーション能力は不可欠である。この授業では、国際社会が抱えるエコロジー、持続可能性、資源、文化遺産、グローバル化、地域再生、景観といった課題をテーマに、デザイン思考で解決する演習を実施する。それら諸問題についての事例を学び、国際的な視点から問題解決のための取組や社会実装について検討する。	講義15時間 演習15時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 国際環境デザインBIV	環境設計において、(1)地域的、国家的、地球的課題を理解し、主体的に深くかかわる能力、(2)国内外の喫緊の課題を把握し、国際的な専門家コミュニティから将来への見通し、解決への示唆を得る能力、(3)異なる政治、社会、文化、歴史的背景を持つ他者と協働し、合意形成を図り課題を解決する能力、及びそのための言語能力、コミュニケーション能力は不可欠である。この授業では、環境設計に関する課題を広い視野から分析することを通して、従来のデザインの枠を超えた新しい枠組み、アプローチ、解決策について考察する。本授業の講義、演習、ディスカッション、発表は英語により実施する。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 インターンシップ(学部) I	企業、行政機関、公益法人等において、1週間程度(30時間以上)の就業体験を行う。 事前講義ののち、履修者ごとに研修受入れ先の選定、手続きを行い、各コース担当教員との相談の上で、研修申請手続きを行う。所定研修後に互いの経験・成果を履修者同士で共有することを目的としたプレゼンテーション等を各コースで開催する。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 インターンシップ(学部) II	企業、行政機関、公益法人等において、2週間程度(60時間以上)の就業体験を行う。 事前講義ののち、履修者ごとに研修受入れ先の選定、手続きを行い、各コース担当教員との相談の上で、研修申請手続きを行う。所定研修後に互いの経験・成果を履修者同士で共有することを目的としたプレゼンテーション等を各コースで開催する。インターンシップIの履修を前提とする。	
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン プロダクトデザイン 実践論	時代と共に変化・拡大しているプロダクトデザインの概念やプロダクトデザイナーの役割、今後のプロダクトデザインの展望について、デザイン課題や具体的なデザイン実務におけるデザイン事例を通じて、デザインとアイデア及びコンセプトとの関係性や、技術やものづくりの進化によるプロダクトデザインの変化、製造・生産性を考慮したデザイン、安全性への配慮、プロダクトデザインと社会・環境・文化との関わり、ユーザーエクスペリエンスデザインなど幅広いデザインプロセスを学び、プロダクトデザインを実践的に適用させるための方法を理解する。 (オムニバス方式 全8回) (67 迫坪知広/2回) トランスポーターデザイン、フリーランスデザイン実務におけるデザイン事例 (38 杉本美貴/2回) 商品企画とデザイン、インハウスデザイン実務におけるデザイン事例 (48 藤智亮/2回) 技術とデザイン、製造・生産性とコスト、安全性 (17 平井康之/2回) ユーザーエクスペリエンスデザイン (UI/UX)、プロダクトデザインの展望	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	ライフスケープデザインの標榜する生活者自身と生活者をとりまく文化、情報、モノ、空間の関係を考慮し、それらを私たちの生活に実際に還元するための実践的な考え方や方法論を習得する。具体的な事例（インテリアデザイン、パブリックデザイン、コミュニケーションデザイン（関係のデザイン））を知ることにより、多様な生活者や複雑化する社会の様相を俯瞰して捉えながら、デザイン対象の発見や着想ポイントのを見つけ方を学び、自己知識として理解する。 (オムニバス方式 全8回) (9 清須美匡洋/2回) インテリアデザイン（流通、金融、文化施設等）、パブリックデザイン（港湾、駅舎、博覧会等）、コミュニケーションデザイン（広告、広報、ブランド、情報等）におけるケーススタディによる実践ポイント解説 (35 齋藤俊文/2回) コミュニケーションのデザイン実務、クリエイティブディレクションについて、広告表現、ミュージアム、映像/映画、文化プロジェクト、ことば、音 (41 曾我部春香/2回) パブリックデザイン事例を中心としたデザイン視点について、デザインの捉え方とその解決とは (60 秋田直繁/2回) デザインエンジニアリング、アフェクティブデザインの実務におけるデザイン事例	オムニバス方式
		インダストリアルデザイン	サービスデザイン実践論 本科目では、サービスデザイン概論で修得した理論や方法論などを基盤に、今日、価値の源泉がモノを含むサービスに変化・展開していることや、これまでの所有価値（交換価値）に加えて経験価値・共有価値などに変化・展開していることについて、具体的な事例を通じて理解する。また、科学的、工学的な観点からみたサービスの捉え方、サービスデザインに関連するさまざまな手法について理解し、実践的に適用する考え方や方法を修得する。また、サービスを対象としたマーケティングの考え方について理解する。 (オムニバス方式 全8回) (15 都甲康至/2回) サービスデザインの実践的理論と方法論（グッツ・ドミナント・ロジック：GDL、サービス・ドミナント・ロジック：SDLなど）、先進企業・団体などにおける事例研究 (44 田村良一/3回) コアサービスと補完的サービス、具体的なサービス事例に基づくコアサービスと補完的サービスの理解、カスタマージャーニーマップ (51 松前あかね/3回) 具体的な事例に基づくカスタマージャーニーマップの理解、顧客満足度（CSI）とサービス、具体的な事例に基づくCSIの理解と提案	オムニバス方式
		インダストリアルデザイン	イノベーションデザイン論・演習 I プロダクトデザイン領域で取り扱うデザイン対象が製品という有形なモノのデザインから、製品に関わるサービスやシステムなど無形なモノ・コトへと拡大していることを踏まえ、Society5.0やSDGsなどの社会的な課題や先端科学技術の応用などを見据えた実践的なテーマを通じ、プロダクトデザインの思考法や手法、人から社会、個別最適から全体最適など多面的なアプローチによって、社会の複雑な課題を解決できるデザイン開発能力を修得する。 (オムニバス方式 全8回) (38 杉本美貴、67 迫坪知広/4回)（共同） SDGsなどの社会的課題の解決、個から公のデザイン (17 平井康之、48 藤智亮/4回)（共同） Society5.0などの社会的課題の解決、先端技術を応用したデザイン	オムニバス方式・共同 講義15時間 演習15時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン イノベーション デザイン論・演習Ⅱ	今後ますます複雑化し、不確実性が高まる世界の中で、人々の価値観や社会の変化、科学・技術の進化を捉え、次代の暮らしや未来社会の起こりうる可能性について探求し、そこで求められる新たなプロダクトのあり方を、ストーリー及びコンセプトの立案、企画開発、構想設計から、具体的な形やサービスの提案に落とし込み、それらを立体物やUI、映像など様々な媒体によって視覚化することで、人々や社会に対して課題提起できるデザイン開発能力を修得する。 (オムニバス方式 全8回) (48 藤智亮、67 迫坪知広／4回) (共同) 科学・技術の進化に基づくストーリー及びコンセプトの立案、企画開発、構想設計 (17 平井康之、38 杉本美貴／4回) (共同) 人々の価値観や社会の変化に基づくストーリー及びコンセプトの立案、企画開発、構想設計	オムニバス方式・共同 講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン ライフスケープ デザイン実践論・演習Ⅰ	既成概念に捉われないことと広い視点から生活を俯瞰してとらえ、生活を構成する身の回りの「モノ」や「コト」、「ヒト」と生活者を取り巻く様々な状況を整理し、何をデザインすべきかのデザイン検討を行う。与えられたテーマ(テーマは適宜指示する)に基づいて、私たちの現在の生活においてデザインにより改善・転換できることには、どのようなことがあるかを探求し、独自の着想点を見出し、他者に自分の言葉で説明できるよう整理し、独自の視点による課題を生活に即した具体的なデザイン提案として発表する。	共同 講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン ライフスケープ デザイン実践論・演習Ⅱ	自分で設定した独自の着想点による課題に基づいて、生活者とモノ、空間、情報、文化などの関係を考慮しながら、さまざまな媒体を通して我々の生活に具体的に表現されるデザインの検討を行う。検討の際には、実際の社会や各人の生活において、有益に成立し存在するための価値創造(概念構築、再構成、再定義)を行い、自分のデザイン提案の実現可能性についての検証も行い、自分のデザインに対する精査を行う。これらの活動において創出されるモノやコトを誰もが理解できるかたちに具現化し、デザイン提案として発表する。	共同 講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン ソーシャルデザイン論 ・演習Ⅰ	昨今、我々を取り巻く社会環境は、少子高齢化、情報化、国際化など、ダイナミックに変化しており、このような多面的・複合的に多様化する外的条件のもと問題を発見し、公益性、協働性、持続性の観点から踏まえたデザイン解となるソリューションを導出することが求められる。まず、社会環境の変化や現状のありようを理解するとともに、それらの関係性を定性的・定量的に整理・把握する手法の考え方や方法を修得する。さらに、それらの手法を用いた調査・分析の結果をもとに、問題の発見、解決策となるソリューションの提案を行う。 (オムニバス方式 全8回) (44 田村良一／5回) 問題の発見と決定、問題に関係する項目の抽出、定性的・定量的手法の講義と演習、ソーシャルデザイン概念と沿革、ソーシャルデザインの基礎理論と手法(PEST分析、SWOT分析など) (51 松前あかね／3回) ソリューションの検討、ソリューションの表現、プレゼンテーション	オムニバス方式 講義15時間 演習15時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン ソーシャルデザイン論・演習Ⅱ	<p>ウェルビーイング (well-being) を志向するビジネスデザインないしソーシャルデザインの考え方や事業デザイン手法を、講義および演習を通じて理解し、現場起点のアプローチで実践的に修得する。具体的には、講義と演習を関連づけながら、価値循環としてのCVCA (Customer Value Chain Analysis) の検討を経て、フィールドから抽出した提案価値を実現するビジネスモデルをデザインする。特に、社会的・環境的価値と経済的価値の均衡、事業主体と顧客および他の事業主体との関係性に着目した事業戦略を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(44 田村良一/5回)</p> <p>CVCAについての講義と演習、ビジネスモデルデザイン (要素) についての講義と演習、ビジネスモデルデザイン (構造・戦略) についての講義と演習、現代社会の課題と社会的要請 (QOL: 生活の質の向上や身体的・精神的・社会的に良好な状態としてのウェルビーイングの概念など)、ソーシャルデザインの実践的理論と方法論、生活者視点の地域デザイン (健康都市デザインなど) と先端事例研究</p> <p>(51 松前あかね/3回)</p> <p>フィールド起点での事業デザイン、プレゼンテーション・講評</p>	オムニバス方式 講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン クリエイティブデザイン演習	2年次および3年次前学期で体得したプロダクトデザイン、ライフスケープデザイン、ソーシャルデザインのデザインアプローチを融合し、さらに幅広い視野から総合的に取り組むためのデザインプロセスを身につけることが目的である。各教員が単独もしくはグループで実践的なテーマを設定し、テーマ別に別れた少人数の学生に対して集中的な指導を行う演習を通じ、プランナーやデザイナーとして社会へ参加するための総合力を修得する。	
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン 福祉人間工学	老化や障害などにより日常生活や労働が不便になるが、それらの不便はモノや環境の工夫により解消できることが多い。本科目では老化や障害が生じるメカニズムやそれらが日常生活に及ぼす影響についての基礎知識を学ぶ。そしてこれらの知識に基づいて、高齢者や障害者、さらには介護者の身の回りのモノや環境を設計するための手法を学ぶ。具体的には高齢者向け用品、福祉用具、ユニバーサルデザイン、移動円滑化 (バリアフリー) を人間工学的な視点から提案できる能力を養う。	
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン データ解析	企業活動や研究における実験などで得られたデータに対して、統計解析を行う際に最も基本な解析法となる回帰分析や統計的仮説検定について講義演習を交えて解説する。また、実際のデータは欠損などを多く含むことから、解析法だけでなくデータのハンドリング法、いわゆるデータクレンジングや、データの基本的な作図法とそこから見えてくる傾向など、様々な側面からデータ解析の基本を学習することで、研究や企業などで実データに挑む際にもフレキシブルに対応できる能力を身に付ける。	コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン・未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン 環境人間工学	人間を取り巻く環境は、科学技術の発展に伴い変化し、快適かつ安全となる一方で、様々な健康問題を引き起こしている。気温・湿度・気流などの温熱環境、照明の明るさや色などの光環境、室内の酸素濃度や二酸化炭素濃度などの室内空気質環境といった人間を取り巻く環境要因とヒトの生理心理反応特性、作業パフォーマンス、快適性、適応能との関係、環境要因の基準値・推奨値についての解説を通して、人間の生理機能に適合した環境を設計するための人間工学的知識を学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン 環境生理学	ヒトに適した環境を構築するための生理学的基礎知識として、感覚器系、中枢神経系、末梢神経系、内分泌系、循環、呼吸、代謝、発汗、体温調節、生体リズムなどの生理機能について学ぶ。具体的には、気温・湿度・気流と関連する感覚受容系として温度受容機構と脳の体性感覚野、調節中枢系として視床下部の体温調節中枢、調節制御系としての自律神経系・体性神経系・内分泌系、効果器反応として循環系・代謝系・骨格筋・汗腺とその調節機構について、光に関連する視覚系と脳の視覚野、非視覚系の光受容と生体リズムおよび光の非視覚的生理作用について、空気質と関連する呼吸器系とその調節機構について学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	感性科学	感性科学を学ぶ必要性、諸感覚器官の進化、脳内神経伝達物質（特にセロトニンとノルアドレナリン）、感覚刺激の伝達経路（例えば嗅覚の扁桃体までの経路の特徴、扁桃体から中脳中心灰白質を經由しての情動行動発現の特徴）、人間行動（例えば嗜好性や教育・創造性）に重要な報酬系と罰系、ヒトの性格特性（例えば共感性や誠実性）について学ぶ。さらにそれらを基盤として、ヒトの特徴である印象や創造性等の高次脳機能と生理反応（脳活動と自律神経や内分泌・免疫系）、遺伝要因と性格要因と脳について最新の成果を学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	行動生理学	ヒトの行動は生物に共通する生理的な行動（睡眠、食、生殖など）とヒト特有の社会的な行動（模倣、共感、創作など）によって成り立っている。これらの行動は脳によって調整されているが、個人差が多いのも特徴である。本講義では、ヒトの多様な行動と脳機能の関係について学ぶ。また、ヒトの行動が科学的にどのような研究方法によって明らかにされているのかも学ぶ。さらに、ヒトの行動や脳の特徴を理解することが、どのようにデザインと関係してくるのかについて考える能力を身に着ける。	
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	生活機能支援科学	人間の生活機能に関する基礎知識から、現代社会における人の生活を理解し、人間工学領域における生活機能の重要性について理解することを目標とする。人間の生活機能を運動学、生理学および健康科学の側面から解説する。そして、生活機能を支援するためのテクノロジーについて、様々な事例から解説し、それらが調和するための条件を考察する。また、生活機能とウェルネスと生活の質（QOL）の相互関係が踏まえて、emerging topicsおよび実践例を紹介する。	
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	データマイニングⅠ	「データ解析」で学んだ内容をもとに、その知識を多変量解析・時系列解析へ発展させ、研究などで得られる多種多様なデータに対して適切に対応できるように講義でその手法の数理的な理解を、演習でダミーデータや実際のデータを使った解析のやり方を学んでいく。データマイニングⅠでは「データ解析」の発展として、通常の実験モデルでは対応できない一般化線形モデル、教師あり学習の1手法としての決定木、教師なし学習の1手法としてのクラスタ分析、アンケートデータなどで使用可能な主成分分析などを学んでいく。	コース間共通科目 (インダストリアルデザイン・未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	データマイニングⅡ	「データ解析」および「データマイニングⅠ」で学んだ内容をもとに、その知識をより深く発展させ、研究や実社会で遭遇するより複雑なデータに対して適切に対応できるように講義でその手法の数理的な理解を、演習でダミーデータや実際のデータを使った解析のやり方を学んでいく。データマイニングⅡでは「データ解析」「データマイニングⅠ」の発展として、アンケートデータなどで使用可能な因子分析、多次元尺度構成法、時系列データの予測などが可能なARモデル、より高度な時系列データの構造が解釈可能な状態空間モデルなどについて学んでいく。	コース間共通科目 (インダストリアルデザイン・未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	生理人類学	人にとって望ましい生活環境とは何かを理解するために、生理人類学とは何かを学ぶ必要性、人類の進化に関する脳の肥大化、直立二足歩行、ネオテニー、環境に対する人類の適応の手段としての遺伝的・生理的・文化的要素、生理学的適応の基礎としてホメオスタシス、全身的な生理機能の連関、生理機能の潜在性と顕在化、”生物学的なヒト”と”文化に生きる人”の資質について学び、より深く人を理解する。さらにその人の理解から人にとって真に望ましい生活環境のあり方を考察する能力を身につける。	
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	生体情報処理論	人間工学的な研究において、取得した生体情報を適切かつ迅速に解析する技術は必須である。生体情報は多くの場合デジタルサンプリングされた波形データであり、コンピュータ上でそれらのデータを適切に処理する能力が求められる。本講義ではデータサンプリングの基礎から周波数解析や統計処理など、生体情報の取得・解析における基礎的な知識を学ぶとともに、プログラミングによるコンピュータを用いた生体情報の測定・解析技術を実践的に身に着ける。	
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	人間工学先端セミナー	人間工学は人々の安全・安心・快適・健康の保持・向上に貢献する実践科学であり、その対象は製品、生活、作業、労働、環境、管理と幅広い。人間工学に関する先端の科学的研究を中心に取り上げ、その背景、方法、結果の解釈、考察、応用例に触れながら、今後取り組むべき人間工学の課題を考察する。尚、本科目は学生が人間工学の最先端の研究に対して積極的に意見が述べられ、そして教員とディスカッションできるようにセミナー形式にて実施する。	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	リサーチリテラシー	<p>リサーチとは正しいこと（真理）を明らかにすることであり、その主な手法には実験、分析、予測がある。本科目では主にインダストリアルデザイン分野における実験などのリサーチを対象とし、リサーチを実践するために必要な一連のプロセス（テーマ設定、文献調査、実態調査、方法の計画、倫理的配慮、心構え、統計処理の選択、データ解析・解釈の仕方・表現の仕方、論理的な考察、口頭・ポスター発表、論文執筆など）の基礎スキルについて学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式 全8回）</p> <p>（19 村木里志／4回） インダストリアルデザインとリサーチ、リサーチテーマの決め方、実験デザインの考え方</p> <p>（48 藤 智亮／1回） 工学的リサーチの考え方</p> <p>（44 田村良一／3回） インダストリアルデザイン領域のデータ処理</p>	オムニバス方式
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	Design Pitching Skills	<p>この授業は履修者が外国に行って、自らのデザインのアイデアを売り込む状況を想定したものである。履修者が英語を使って自分のアイデアを説明したり、その良さを売り込んだりするためスキルを向上させることを目標とする。授業は対話的なワークショップ形式の一連のセッションを通して、履修者が実際に自分のアイデアの説明し、教員はプレゼンテーションのやり方、コミュニケーションの取り方などを適切に英語で行うための方法を具体的にコーチすることで進め、履修者のスキルを向上させる。</p>	共同 コース間共通科目 （環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計）
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	Start-ups and Global Disruptors	<p>この授業はデザイン提案を社会実装するための一つのルートとしての起業をテーマとする。その目的は起業家として事業を始めるときに理解しておくべきこと、また、事業を起こすために必要な基本的な理論や知識・方法などについて、ケーススタディなどを通じ、より実践に即した形で、英語により学ぶ。授業では、初期費用のための投資、「死の谷」、買収、新規公開株（IPO）など、スタートアップ企業が直面する様々な場面について、事例を使って説明する。</p> <p>（オムニバス方式全8回）</p> <p>（78 Loh Wei Leong／3回） 起業に関する障害と起業される企業の発展段階について事例研究の英語による講義を行う。</p> <p>（62 稲村徳州／5回） デザイン提案をスタートアップ企業で実装するプロジェクトに関する演習を英語で指導する。</p>	オムニバス方式 講義6時間 演習10時間 コース間共通科目 （環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計）
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	Intellectual Property Rights : Global Perspective	<p>知的財産権に係る規定や法律は国によって大きく異なり、国際的なデザイン活動をするためには、デザインによって生み出された価値の保護について広く理解する必要がある。そのため、この授業では日本及び諸外国における知的財産の概念、知的財産にかかわる基本的な事柄について英語による講義を行い、演習形式で様々な文化的脈絡の具体的な事例を挙げながら、知的財産を守るための方策について、履修者が実践に役立つような形で英語により学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式全8回）</p> <p>（78 Loh Wei Leong／4回） 国際的な知的財産の基本概念と国際的な商標や特許に関する英語による講義を行う。</p> <p>（62 稲村徳州／4回） 知的財産権の抵触を防ぐための方法や考え方について具体例を使い英語による演習を行う。</p>	オムニバス方式 講義8時間 演習8時間 コース間共通科目 （環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	<p>この授業の目的は現在デザインの世界でどのようなイノベーション事例があり、それがどのように生み出されているかを履修者が知ることにある。そのため、まず、具体的なケーススタディを通して、海外の社会デザインのイノベーションの先進的事例を紹介する。この事例研究で得たアイデアをもとに、演習では、実際にデザインプロジェクトに参加し、社会的な課題に対してプロトタイプを制作し、解決のための提案を英語で行う能力を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式全8回)</p> <p>(62 稲村徳州 / 2回) 九州大学と海外連携大学とのデザインプロジェクトの事例について英語による講義を行う</p> <p>(62 稲村徳州・78 Loh Wei Leong / 6回) (共同) 現在・近い将来の国際的なデザイン課題を取り上げ、海外連携大学と共同演習を行う。</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p> <p>講義4時間 演習12時間</p> <p>コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)</p>
専攻教育科目	専門科目	国際インダストリアルデザインA I	<p>インダストリアルデザインに関する国際的な感覚を養うため、国内外のインダストリアルデザインに関する文献や資料などをもとに、インダストリアルデザイン事例を収集し、調査、比較考察などを通じて、慣習、文化、歴史など、インダストリアルデザインの提供者である生活者に焦点を当てて、日本と諸外国のインダストリアルデザインのあり方や考え方の類似点、相違点などについて、学生相互に議論し、学生の国際的なデザイン活動に向けた基盤を作ることを目指す。</p>	<p>講義8時間 演習8時間</p>
専攻教育科目	専門科目	国際インダストリアルデザインA II	<p>国内外のインダストリアルデザインに関する文献、資料などをもとに、それらに取り上げられているインダストリアルデザインの事例の比較考察を通じて、日本および諸外国におけるインダストリアルデザインの位置づけや役割などをもとに、国際的なインダストリアルデザインに関する基本概念を学びながらインダストリアルデザインの大枠について理解を深める。社会の状況に的確に対応できる豊かな教養を持ち、国際的にも通用する広い視野と学識を身に付ける。</p>	<p>講義8時間 演習8時間</p>
専攻教育科目	専門科目	国際インダストリアルデザインA III	<p>クリエイティブデザイン領域や人間工学領域に関連する国際学会誌の論文や、国際学会での口頭発表などをもとに、インダストリアルデザインに関する日々進展する国内外の研究事例および最新の研究成果を通じて、研究課題として取り上げられた内容やその背景・理由、既存の研究手法との対比からみた新規性などを紹介する。これらの内容を通じて、クリエイティブデザイン領域及び人間工学領域におけるデザインの展開を概観し、その背景や今後の展望を考察する。</p>	<p>講義8時間 演習8時間</p>
専攻教育科目	専門科目	国際インダストリアルデザインA IV	<p>国際インダストリアルデザインA / I ~ IIIの取り纏めとして、国際的な視点からの、インダストリアルデザインに求められる生活、文化、歴史などの観点、経済、地域、社会など観点、研究などの広い視点のもと、課題発見をするとともに、それを解決するためのソリューションとなるインダストリアルデザインを自主的に設計・計画できる能力を身につける。また、自分が提案するアイデアの説明を英語でプレゼンテーションすることを目標とする。</p>	<p>講義8時間 演習8時間</p>
専攻教育科目	専門科目	国際インダストリアルデザインB I	<p>インダストリアルデザインに関連する感性、科学、工学に関する講義、演習、さらに人文・社会に関連する講義、演習を通じて、国内外の国際社会における様々な課題を発見する能力や、それらに対するソリューションを提案するための手法を学ぶ。また、将来のあり得る、また、望ましい社会のビジョンを模索するため、バックキャストデザイン、スペキュラティブデザインなどの考え方や方法について、講義、演習を通じて修得する。</p>	<p>講義15時間 演習15時間</p>
専攻教育科目	コース専門科目	国際インダストリアルデザインB II	<p>今日、経済状況、社会状況、技術状況などの外的環境の変化に伴い、デザインの領域は拡大し、デザイナーの役割も大きく変化している。このような状況を踏まえ、日本および諸外国のインダストリアルデザインの理論と方法を通じて、国内外のデザインプロセスを比較・融合・発展させながら、インダストリアルデザインの課題及び対応事例を学び、これからのインダストリアルデザイナーに求められる能力およびインダストリアルデザインに求められる役割を導出する能力を涵養する。</p>	<p>講義15時間 演習15時間</p>
専攻教育科目	コース専門科目	国際インダストリアルデザインB III	<p>既存資料を通じて、国際社会が抱えている多様な課題を抽出、学生や教員とのディベートなどを通じて、整理、把握する。その後、主題として取り上げるテーマを選択し、類似する先行事例などを参考資料として、ソリューションを導出したプロセスを学ぶ。また、それらのプロセスと、デザインに関わる様々な手法や考え方をを用いて、選択したテーマに対する具体的なソリューションを提案するとともに、社会実装に向けた検討を含めた演習を実施する。</p>	<p>講義15時間 演習15時間</p>

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	国際インダストリアルデザインBIV	国際インダストリアルデザインB/I～IIIの取り纏めとして、過去、現在、将来の時間軸の観点から、インダストリアルデザイナーやインダストリアルデザインの過去のありよう、現在のありよう、さらに将来に求められるありようについて洞察することで、広い視野から課題を把握する能力を養うとともに、従来のデザインの枠を超えた新しい枠組み、アプローチ、解決策について考察する。本授業の講義、演習、ディスカッション、発表は英語により実施する。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	インターンシップ(学部) I	企業、行政機関、公益法人等において、1週間程度(30時間以上)の就業体験を行う。 事前講義ののち、履修者ごとに研修受入れ先の選定、手続きを行い、各コース担当教員との相談の上で、研修申請手続きを行う。所定研修後に互いの経験・成果を履修者同士で共有することを目的としたプレゼンテーション等を各コースで開催する。	
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	インターンシップ(学部) II	企業、行政機関、公益法人等において、2週間程度(60時間以上)の就業体験を行う。 事前講義ののち、履修者ごとに研修受入れ先の選定、手続きを行い、各コース担当教員との相談の上で、研修申請手続きを行う。所定研修後に互いの経験・成果を履修者同士で共有することを目的としたプレゼンテーション等を各コースで開催する。インターンシップIの履修を前提とする。	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	芸術表現論	美術館、ギャラリー、アートスペース、芸術祭など具体的な実践的な対象を通して様々な作品やその背景を学ぶ。歴史上のさまざまな作品や現代作品を観察し、作品のコンセプト、コンセプト背景、表現手法、表現技法、方法論等を総合的に学ぶ。また、それらを造形演習課題を通して実践的に経験し学ぶ。またその作品のコンセプトや技法から表現とは何かを考え、社会の中でどう位置づけられていったかも考え、芸術表現価値の社会性も思索する。	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	西洋美術史	ルネサンスから20世紀中頃までの西洋美術の流れ、および重要な画家と作品について学ぶことにより、西洋美術を理解するための前提として必要な知識を獲得する。新たな芸術の運動の覚醒と「切断の意識」につらぬかれた前衛-未来派、ダダ、シュルレアリストなど未来派など文学、美術、建築、音楽にかかわらず、広範囲の分野で展開された思想主義を通じ、未来を考えることの意味や意義を、歴史を通じて芸術の歴史と社会の構成要因として考える。	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	芸術文化論	私たちの使う道具・日用品とはなにかから始まり、日用品から美術品まで様々な事物のコレクションの方法、個々の事物を結び繋がりについて分析し、収集と展示を巡るコレクション論へと考察を発展させる。その考察に基づき、指定されたキー概念に関連する画像のコレクションを各自提示する発表を行い、収集のコンセプトの視覚化を実践的に考察する。 更に具体的な視覚化・展示の演習を通して、展示の学術的価値や社会的価値を社会実装として考えていく。	講義12時間 演習4時間
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	芸術環境論	例えば、私的コレクションを公開のための空間から、均質空間にとしてのホワイトキューブやインスタレーションに対応できる空間など、芸術作品の展示空間の成立と変遷を歴史的にたどり、近代以降の代表的な展覧会をいくつか事例として取り上げて講義形式で検討する。この講義に基づき、受講者は仮想の展覧会を企画して発表する。発表では、美術館や展覧会場は中立的空間ではなく、作品という概念すらも時代や地域や文化に影響を受けていることを認識し、芸術作品の展示環境のデザインを考える。	講義12時間 演習4時間
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	身体表現演習 I	演劇のノウハウを用いた作品やアートプロジェクトの制作を通じ、対象に対して身体的に出会い交流するための方法論について、学外の専門家を招聘し実践的に学ぶ。ことばと感性に関わる様々な表現活動を体験し身体性を培う。それにより他者との関係を育み、それを表現として創造する方法を得ることで、身体感覚や環境・社会とのつながりを意識しその身体性を探求する。既成観念の除去により、繋がりを感じ直すことで日常生活での身体表現の可能性を考える。	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	身体表現演習 II	ダンス等のパフォーマンス・アーツのノウハウを用いた作品やアートプロジェクトの制作を通じ、対象に対して身体的に出会い交流するための方法論について、学外の専門家を招聘し実践的に学ぶ。身体表現演習 Iと同様に、感性に関わる様々な表現活動を体験し身体性を培う。それにより他者との関係を育み、それを表現として創造する方法を得ることで、身体感覚や環境・社会とのつながりを意識しその身体性を探求する。既成観念の除去により、繋がりを感じ直すことでより多くの人と関わる力を養う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	応用音楽表現演習 I	<p>「ピアノ実技」「集団創作ワークショップ」「エレクトロニクスでの演奏」の3要素から構成され、ピアノ実技ではピアノを用いた高度な技術と表現力を養い、集団創作ワークショップでは即興演奏等のノウハウを用い音楽の場を共にすることについて考え、エレクトロニクスでの演奏ではコンピュータや電子楽器を用いた演奏について、その音楽的な背景を踏まえ、実践を通じて学ぶ。</p> <p>(20 矢向正人, 70 西田絢子) ピアノ実技を担当する。</p> <p>(69 長津結一郎) 集団創作ワークショップを担当する。</p> <p>(37 城一裕) エレクトロニクスでの演奏を担当する。</p>	<p>共同</p> <p>コース間共通科目 (未来構想デザイン・音響設計)</p>
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	応用音楽表現演習 II	<p>「ピアノ実技」「集団創作ワークショップ」「エレクトロニクスでの演奏」の3要素から構成され、ピアノ実技ではピアノを用いた高度な技術と表現力を養い、集団創作ワークショップでは即興演奏等のノウハウを用い音楽の場を共にすることについて考え、エレクトロニクスでの演奏ではコンピュータや電子楽器を用いた演奏について、その音楽的な背景を踏まえ、実践を通じて学ぶ。最後に発表会を行い、応用音楽表現演習 I と II を通じた、パフォーマンスの多様なあり方を修得する。</p> <p>(20 矢向正人, 70 西田絢子) ピアノ実技を担当する。</p> <p>(69 長津結一郎) 集団創作ワークショップを担当する。</p> <p>(37 城一裕) エレクトロニクスでの演奏を担当する。</p>	<p>共同</p> <p>コース間共通科目 (未来構想デザイン・音響設計)</p>
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	先端芸術表現論	<p>先端とは、技術の進展や発展に伴う道具としての先端性や先進性のことだけではなく、その時代の社会の考え方や歴史性に基づくものもある。文学・音楽・彫刻・ファッション・デジタルアート・ゲーム・演劇・陶芸・工芸・AI・ロボティクス等その時の最先端の芸術や表現や技術そのものとその背景にある概念や文化も包括し講義を行い、先端芸術表現に関する知識を習得する。その上でその先の技術的表現や新たな概念や方法を導き出す。</p>	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	デザイン哲学	<p>デザインはたんなる改良や美的粉飾ではなく、環境と人間の関係に関する真理の追求でもある。近代デザインを構成する様々な考え方の認識論的基礎 (1. イギリスやドイツのロマン主義、2. 論理実証主義、3. プラグマティズム、4. 批判理論、5. メディア論) について、デザイン理論と哲学理論を往復するかたちで考察する。デザインを語るにあたって、インターナショナルに通用する普遍的言語を習得し、またその言語をもとにしてデザインをあらたに構想する基礎論的リテラシーを修得する。</p>	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	デザイン美学	<p>デザインの美とは、たんに対象を美しく仕上げることではない。それは現状の惰性を乗り越え、新しい生のありかたを指し示すものでもある。その点で美は、宗教や思想と深い関係を持つ。近代デザインの美学は地域文化から独立したユニバーサルな機能主義によって代表されてきたが、近年では多文化主義や地域主義の台頭によって文化の固有性に注目が集まっている。本講義では、とりわけ日本上代文学、世阿弥、本居宣長、柳宗悦、九鬼周造、西田幾多郎、和辻哲郎などを取り上げ、東洋・日本の美学を、その背後にある、儒教、仏教、日本思想との関連において学習する。</p>	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	デザイン編集論・演習	<p>新しいデザインや未来構築のためには、同じ事象や対象を様々な側面から見る必要がある。そのような総合的なデザインを行うためには、様々な専門分野の知見や散在する多様な情報を収集し、課題に沿った文脈を構成し表現する編集力が必要である。様々な知見や情報を複数のアプローチから読み解き、あるいはアプローチそのものをデザイン・設計・編集し、新たな情報を導出する力を培う。多くの複合的で広範囲の情報を対象とした演習を通じて広義の編集の概念と方法を学ぶ。</p>	<p>講義6時間 演習10時間</p>

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	デザイン材料論・演習	様々な材料に対し、量的特性、質的特性、物理性、化学性、生物性、ライフサイクル、文化、地勢、歴史、産業性から包括的かつ具体的に学ぶ。基本的な材料の知識を取得するとともに、既成概念にとらわれずそれら材料に関わる様々な情報から発想し、これまでにないような対象物を設計する能力が重要である。材料から創造的な発想をえながら、ライフサイクル全体を見渡し、社会や環境の持続可能性を考慮した設計を行う能力を実践的に培う。	講義6時間 演習10時間
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	バイオアート&デザイン論・演習	生命をデザインの視点から見つめ、生命と設計との関係を学ぶ。具体的な設計課題（課題説明、課題、プレゼン）を行いながら適宜講義を行う。バイオメディクスやバイオインスパイアードデザインなどの生命からヒントを得たモノ、コト、仕組みの設計を事例を通じて触れる。さらにバイオアート、クリティカルデザイン、デザインフィクションなどの視点から生命に関わる議論と設計の関係を学ぶ。以上を通じて生命と関わる設計に対してクリティカルな視点で価値を問う能力、その上で具体的な設計を行う能力を身につける。	講義6時間 演習10時間
専攻教育科目	専門科目	未来構想	未来デザイン方法論	過去の社会・エンジニアやデザイナー・建築家・小説家・漫画家などのような未来を想定しどのような方法で設計・提案してきたかを、設計工学の手法及び産業デザイン及びアドバンストデザインの過去の具体的な事例を通し、考える。また合わせて、具体的なデザインの実現のテクニックや方法について、製品デザイン・空間デザイン・情報デザインのアプローチから、未来設計の基盤となっている基盤的・基礎的なデザインの方法や考え方を取得する。	
専攻教育科目	専門科目	未来構想	デザイン要素論・演習	「スピード感」「軽快感」「透明感」「精密感」「信頼感」等の言葉は印象を作り、また印象を伝えるための言葉として多用されてきた。またコミュニケーションとして、共通のデザイン言語となる場合も多い。これら印象がどのような形状や色やディテールで構成されているかを考え、対応する具体的なカタチの抽出方法・造形方法・構成方法・設計方法を取得する。それにより、未来を具体的に表現する能力や伝達する方法を身につける。	講義6時間 演習10時間
専攻教育科目	専門科目	未来構想	デザイン設計論・演習	アドバンストデザイン・スペキュラティブデザインとしての製品や形状の提案や設計を行う。未来のものづくりとして例えば「医療機器のデザイン→人工臓器のデザイン」「新聞のデザイン→AIによる情報デザイン」「自動車のデザイン→移動のデザイン」など、それらの設計の具体的な課題から、将来に対しての具体的な解決方法を作り、具体的な対象物を設計する。それにより制作や表現の方法を取得し、具体的に未来を設計していく力を身につける。	講義6時間 演習10時間
専攻教育科目	専門科目	未来構想	デザイン実装論・演習	構想を実証・実行・実装するための方法取得する。企業や行政と連携した具体的なテーマに対し、プロジェクトや具体的な方法を通して、設計・実装していく能力を実践的に獲得する。具体的な実装方法を通して、何を問題とすべきか、何が問題となりうるか、それらの設計方法や実装方法に基づいた調査の方法や設計の方法など具体的に獲得していく。またそれに基づき、その方法を自ら展開し、次に何をすべきか次の課題を自ら設定することを最終成果とする。	講義4時間 演習12時間
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	環境倫理学	デザインが生物や人間の「幸福」を目指すとしたら、その幸福とは何か。デザインにおける〈善さ〉は、実用目的を機械的に充足する程度によって測られるのではなく、人間や自然生命がそれによっていかに解放され、その生命力を取り戻しうるかにかかっている。人間の内的自然/有機的な自然観についての基礎的な概念や考え方を学び、自己の内的自然=いのちと調和した生き方をいかにして実現しうるかについて思考する。西洋の源流思想、反近代主義の諸潮流、フロイト/ラカンの精神分析、最新の環境思想などについて学ぶ。	コース間共通科目 (環境設計・未来構想デザイン)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	物質文化論	原人の川原石を打ち欠いただけの簡単な石器に始まる人類の物質文化は、現生人類の段階になって飛躍的に発展し、加速度的にその種類と量を増やしている。人間の文化的適応に中心的な役割を果たす物質文化は衣・食・住という基本的な必要を満たすだけでなく、大規模な通信・交通などを可能にし、ステイタスシンボルなど象徴的な機能も果たすなど、その機能は非常に多岐にわたり、現在では、物質文化のない生活というのは想像することも難しい。人間がどのように人工物(もの)を作り、交換し、消費するか。また、そのような「もの」で構成される世界は「人間」であることを構成する中心であり、人工物が重要な社会的効果を持っていることを論じる。	コース間共通科目 (環境設計・未来構想デザイン)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	グローバル化と伝統的社会	環境人類学は19世紀以来の人類学による環境と文化の研究の概念・知見を核として、現代的な(自然)環境と人間集団・共同体の関係を体系付け、理解しようとする分野である。近年のグローバル化に伴って集団間の相互影響が急速に拡大している現在、世界的な政治経済体制を考慮することなしには、一見隔絶された環境にある集団の適応が何故困難になっているのかを理解することはできない状況が生まれている。途上国の狩猟・採集、農業、漁業、牧畜などの生業に従事する集団の事例を通じて、それが周辺環境とともに、グローバルな政治経済体制から直接的に大きな影響を受けている状況について学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	環境社会デザイン論	未来社会のデザインを考えるためには、過去において先人たちが獲得してきたさまざまな理念を知り、それを未来の社会において実質化しゆく構想力が必要となる。そのため本講義では、人間の自由とそれを実現する社会のありかたについて、これまで蓄積されてきた思想を振り返り、未来社会のデザインを考える基本的な姿勢と論点を学ぶ。その延長線上に、持続可能な未来社会のさまざまなモデルを提示し、そこへ至るプロセスと行動パターンを検討して、持続可能な社会のありかた、そのために必要となる人間行動、それを実現する政策のデザインについて学ぶ。	コース間共通科目 (環境設計・未来構想デザイン)
専攻教育科目	専門科目	未来構想デザイン	価値と政策	価値とは何か、価値の相対性や絶対性、また誰のための価値を誰がどのような方法で考えるどのようにして検討されるのか、どのように決まるかを理解し、芸術やデザインに関する政策のあり方を考える。特に文化庁における文化政策・芸術政策・デザイン政策などを具体的な事例を通じ、議論し実践的に検討し、現状の問題・将来の問題を考え改善案も検討する。また、文化庁だけでなく経済産業省や国土交通省のデザイン政策などとも比較しながら考えていく。	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	表象文化論	哲学、心理学、精神分析、美術史、芸術学、マンガ論、記号論、写真論、映画論（映画研究）、その他さまざまな方法を用いて、絵画、マンガ、写真、映画、広告などといった視覚的なものがいかなる作用を果たしているのかについて分析する。あるイメージを「見ること」のうちすでに、さまざまな力の作用やそれに伴う問題が含まれている。そうした問題に関してこれまで蓄積されてきた議論などを通じて、ビジュアル・カルチャー・スタディーズ〔視覚文化研究〕と呼ばれる新たな研究方法について学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	芸術コミュニケーション論	国際社会を生き抜く異文化コミュニケーション能力、世代間コミュニケーションの問題を克服する能力、人間関係を形成していく能力の獲得を芸術表現を通じたコミュニケーションにより獲得する。そのために芸術における表現手法を用いた計画的・継続的なワークショップ等を実施することにより、芸術を理解する気持ちを育み、豊かな情操を養うとともに、コミュニケーション能力の育成を図る。非言語コミュニケーションを可能とする方法、芸術におけるコミュニケーションの仕組みを学際的な方法を用いて理解する。	コース間共通科目 (環境設計・未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	アーツマネジメント論	日本のアーツ・マネジメントは、全国に林立した公立文化施設の運営や芸術文化団体の経営と深く結びついている。加えて近年は、社会のさまざまな課題にアプローチする手段として芸術が用いられている。芸術と社会の「つなぎ手」としてのアーツ・マネジメントの立場について学ぶ。更に、芸術の価値や有用性を社会の中で展開方法をアートの意味や歴史的系譜を理解し、パブリックアートやアートプロジェクトなどまちづくりなどを通じ、市民との協働や地域文化振興なども考える。	コース間共通科目 (環境設計・未来構想デザイン)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	教育における多様性	教育や学びについて、必要な知識の習得するとともに、教育環境の課題を考え、またあわせて、教育問題を把握する。今日の教育の現状と課題を考え、教育の営み自体を家庭教育や地域社会教育、国際教育など、教育を一義的に捉えず様々な段階からなる幅広い視座から捉える。そのために教育理論の基礎知識と学習のプロセスの理解により教育理論を実装する方法を学ぶ。設計実践の理論と実際のケーススタディに基づき教育と学習の現状の問題と解決方法を探求する。	講義4時間 演習12時間
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	質的社会調査法	社会や未来の構想のためには量的な調査の他に質的な調査も重要となる。数量で表現できないような現象の質的理解や解釈・説明が必要となる。調査のプロセスや現象が発生する文脈を重視する。また研究対象の発言や態度・行為を尊重し行う。質的研究法の基礎として、フィールドワーク・参与観察・半構造化インタビュー・フォーカスグループインタビュー・グランディッドセオリー、質的データの分析法等について、実践を交えながら方法を獲得する。	講義8時間 演習8時間 コース間共通科目 (未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	ファシリテーション	教育、行政、地域、企業とあらゆる組織や集団において、協働という名の知的な相互作用を活性化し、集団による問題解決、アイデア創造、合意形成、学習、変革、自己表現・成長という知識創造プロセスを支援し促進していく働きであるファシリテーションの重要性が増している。ファシリテーションの理論、意義、必要性、スキル（場づくり、対人関係、論点の構造化、分かちあい）、効果などについて学び、演習を通してファシリテーションの醍醐味を体験・体得する。	コース間共通科目 (環境設計・未来構想デザイン)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	アート・デザイン・ライティング演習	アートやデザインを言葉にすることは、それに一定の光を当て、新しい対象のありかたを意識にもたらず優れて創造的な行為である。この授業では、そのための文章表現スキルを身につける。文章表現は理性的に相手を説得する論理的な側面だけではなく、相手の感情に訴え、効果的な印象を与えて、場合によっては行動のきっかけとなりうる情動的で修辭的な側面をもつ。説明や記事、評論などアートやデザインを言葉で表現する状況において、論文とは異なり、様々な読者を想定しながら書き分ける実践的なライティング技法について演習形式で学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	主観評価法	主観評価法は、心理実験に基礎を置く分野全体の基盤をなす科目の一つと位置づけることができる。知覚に関する現象観察および精神物理学の測定法から多変量解析の導入までに焦点をあてて考察する。因果関係と相関関係との違い、検証可能性、信頼性と妥当性と操作的定義、理論と仮説、オッカムの剃刀、独立変数と従属変数、実験条件と対照条件（統制条件）、交絡変数、二重盲検法、統計的有意性、自然観察、調査、実験、事例研究、精神物理学、調整法、極限法、恒常法、上下法、一対比較法、尺度水準など、実験に必要な概念や方法を学び、「明るさの対比」の現象観察、錯視量の測定、サーストンの方法による心理尺度構成、大きさの恒常性の測定、クラスター分析の実習を通じて、実験レポートの作成方法も学ぶ。 (オムニバス方式 全15回) (2 伊藤裕之/4回) 「明るさの対比」の現象観察、精神物理学の測定法、錯視量の測定、尺度水準について解説、実習する。 (28 上田和夫/8回) 導入、観察および実験の基礎的概念、サーストンの方法による心理尺度構成、大きさの恒常性の測定、クラスター分析について解説、実習する。 (57 Remijn Gerard Bastiaan/3回) 現象観察、精神物理学、実験の定義について解説、実習する。	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間 コース間共通科目 (未来構想デザイン・メディアデザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	フィジカルコンピューティングとIoT	フィジカルコンピューティングとは、様々なセンサやアクチュエータを利用して人とコンピュータをつなぐ手法である。IoTとは実世界の様々なモノがインターネットに接続されている状況を表す。この授業では、フィジカルコンピューティングを簡単に実現できるマイクロコンピュータの一つであるArduinoを利用して、様々なセンサを利用してデータを取得したり、サーボモータなどを制御する方法を学ぶ。また、それらをインターネットと接続し、データを収集したり他のデバイスと協調して動作させる方法を学習する。	講義8時間 演習8時間 コース間共通科目 (未来構想デザイン・メディアデザイン)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	ウェブサービスデザイン	インターネット上のハイパーテキストシステムであるワールド・ワイド・ウェブ（WWW）は情報の社会基盤として重要な役割を果たしている。WWWは単にユーザに情報を提示するだけでなく、様々なサービスを提供するプラットフォームとしての役割も果たしている。この授業では、ウェブ及びウェブ上の様々なサービスを実現するための基本的な仕組みを理解して、簡単な実習を通じてウェブサービスを実現するための知識と能力を身につけることを目的とする。	講義15時間 演習15時間 コース間共通科目 (未来構想デザイン・メディアデザイン)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	データ解析	企業活動や研究における実験などで得られたデータに対して、統計解析を行う際に最も基本な解析法となる回帰分析や統計的仮説検定について講義演習を交えて解説する。また、実際のデータは欠損などを多く含むことから、解析法だけでなくデータのハンドリング法、いわゆるデータクレンジングや、データの基本的な作図法とそこから見えてくる傾向など、様々な側面からデータ解析の基本を学習することで、研究や企業などで実データに挑む際にもフレキシブルに対応できる能力を身に付ける。	コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン・未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	プログラミング設計	システム開発とは、業務を最適化して管理するため技術を用いプログラムされたシステムを作ることである。そのシステム開発に必要な知識を学ぶ。ウォーターフォールモデルやプロトタイプモデル、スパイラルモデルなどシステム開発のモデル、オブジェクト指向など概念とその利用方法、確認・評価・負荷などの様々な段階でのテストの方法、データやプログラムの構造化設計構造など、システム開発の計画・各段階設計・プログラミング・テストの各段階での必要な技術を取得する。	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	シミュレーション数理	生命現象である、脳や神経の働き、様々な内臓器官の仕組み、さらには、それらを行っている生理現象の解明は重要課題である。また社会全体あるいは特定の集団で見られる 経済や宗教や芸術などの現象を明らかにしていくことは未来社会構想において大変重要である。シミュレーション数理では生命現象・社会現象を分析・理解するために、微分方程式を用いて、モデリングするための数理を学ぶ。またそれを計算機上でシミュレーションするための数値計算法を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称		講義等の内容	備考
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来 構想	シミュレーション演習	生命現象である、脳や神経の働き、様々な内臓器官の仕組み、さらには、それらを行っている生理現象の解明は重要課題である。また社会全体あるいは特定の集団で見られる 経済や宗教や芸術などの現象を明らかにしていくことは未来社会構想において大変重要である。シミュレーション演習では数値シミュレーションを実際に行い、現象をどのようにモデル化し表現するかを学習する。また解析的なアプローチとの違いや利点などについても学ぶ。	
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来 構想	情報科学Ⅱ	機械学習は、人間が持つ学習に相当するシステムをコンピュータで実現するための技術や方法のことであり、現代社会・未来社会においては、必須のこととされており、構想デザインにおいては最重要手法とも言える。 機械学習の様々なモデルとその学習方法を学ぶ。分類問題、回帰問題、教師付き学習、教師無し学習、強化学習、交叉検定等の概念を学習した後、決定木、ニューラルネットワーク、k平均法、適応共鳴理論、Q学習等の具体的モデルを考察する。	
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来 構想	情報科学Ⅲ	情報科学的に生物学の諸問題に取り組む分野は、バイオインフォマティクスやComputational biologyとよばれバイオ(生物学)とインテリジェントデータサイエンス(情報学)という2つの領域の結節点となっている。急速に進化する現代社会において、更に未来社会構想においては重要な手法の一つである。本科目では、そのような分野の可能性と具体的な事例について講義する。加えて、実戦的技術の体得を目指し、実装や計算機実験等の演習も行う。	
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来 構想	データマイニングⅠ	「データ解析」で学んだ内容をもとに、その知識を多変量解析・時系列解析へ発展させ、研究などで得られる多種多様なデータに対して適切に対応できるように講義でその手法の数理的な理解を、演習でデータマイニングⅠでは「データ解析」の発展として、通常の回帰モデルでは対応できない一般化線形モデル、教師あり学習の1手法としての決定木、教師なし学習の1手法としてのクラスタ分析、アンケートデータなどで使用可能な主成分分析などを学んでいく。	コース間共通科目 (インダストリアルデザイン・未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来 構想	データマイニングⅡ	「データ解析」および「データマイニングⅠ」で学んだ内容をもとに、その知識をより深く発展させ、研究や実社会で遭遇するより複雑なデータに対して適切に対応できるように講義でその手法の数理的な理解を、演習でデータマイニングⅡでは「データ解析」「データマイニングⅠ」の発展として、アンケートデータなどで使用可能な因子分析、多次元尺度構成法、時系列データの予測などが可能なARモデル、より高度な時系列データの構造が解釈可能な状態空間モデルなどについて学んでいく。	コース間共通科目 (インダストリアルデザイン・未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来 構想	先端情報生命科学Ⅰ	自然界や生物にヒントを得た、(1) 複雑系・人工生命(複雑系: 経済や交通・消費動向などの人間社会や生命・気候に至るまであらゆるデザイン対象に対しての理解、人工生命: シミュレーションや機械学習や構想デザインとも強く結節する方法)、(2) 進化計算(最適化問題、人工知能、推論、自動合成などあらゆる構想方法に適用される)、(3) 感性に基づく最適化(主観的な判断や質的評価との連携など)に関する話題・技術を中心に学習する。	
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来 構想	先端情報生命科学Ⅱ	自然界や生物にヒントを得た(4) ファジィシステム(未来社会構築やバックキャスト・POCと関連した構想デザイン手法や概念との関連)、(5) ニューラルネットワーク(社会デザインに関連する脳科学や感性科学・人間工学・生理人類学との連携)、(6) 融合化技術(未来の経済・社会的な問題の解決における、多様な分野及び技術が結合されたイノベーション手法や方法論にも資する)に関する話題・技術を中心に学習する。	
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来 構想	生命科学入門Ⅱ	生命の基本単位である細胞、その内部でのDNAやタンパク質の働き、他個体や環境との相互作用がつくる生態系、それらが変化していく進化について理解する。生命科学における細胞・DNAやタンパク質・相互作用の理解は今後重要になってくる生命倫理に関わるデザイン、例えば今後未来社会において、思索せざるを得ない人工臓器や医療機器など生命や排泄・倫理などを対象にしたスペキュラティブデザインなどへの大きな展開が見込まれる。	
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来 構想	生命科学実習	基礎的な遺伝子実験、微生物の培養実験等を通して、バイオテクノロジーがどのように役立っているかを学ぶ。同時に、データの科学的解釈方法を習得し、生命倫理についても考える。この実習による方法を取得することで人間工学や生理人類学などをふまえた脳科学・感性科学・遺伝子工学などとの連携が可能になり、人間行動のデザインや人間心理そのもののデザインなどへのより深い展開の可能性が生まれ、新たなデザイン領域の創出が期待できる。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	知覚心理学	<p>「形や色が見える、音が聴こえる、物を触って感じる、匂いや味がする」というような体験を、科学的な態度で分析し、人間が環境への適応に必要な情報をどのように得ているのかを考察する。視覚と聴覚に関する話題を中心として、様々な実験、デモンストレーションなどを紹介し、全体を貫く知覚の法則について考察する。感覚・知覚心理学の位置づけ、感覚・知覚の生物学的基礎、感覚知覚の一般的性質、物理量と心理量の違い、順応や閾の概念、感覚器官と脳の役割、視覚特性、奥行き知覚、光の強度と明るさの関係、味覚、嗅覚、触覚、音と聴覚、知覚と注意、知覚と記憶、対象の再認、知覚と脳科学、感覚間の相互作用について解説する。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(2 伊藤裕之/1回) 感覚・知覚心理学の位置づけ、感覚知覚の一般的性質、物理量と心理量の違い、順応や閾の概念、感覚器官と脳の役割について解説する。</p> <p>(71 平松千尋/1回) 感覚・知覚の生物学的基礎について解説する。</p> <p>(2 伊藤裕之/5回) 視覚特性、奥行き知覚、光の強度と明るさの関係、味覚、嗅覚、触覚、感覚間の相互作用について解説する。</p> <p>(28 上田和夫/5回) 音と聴覚、知覚と注意、知覚と記憶、対象の再認について解説する。</p> <p>(57 Remijn Gerard Bastiaan/2回) 知覚と脳科学について解説する。</p> <p>(28 上田和夫/1回) 総括</p>	オムニバス方式 コース間共通科目 (未来構想デザイン・メディアデザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	Design Pitching Skills	<p>この授業は履修者が外国に行き、自らのデザインのアイディアを売り込む状況を想定したものである。履修者が英語を使って自分のアイディアを説明したり、その良さを売り込んだりするためスキルを向上させることを目標とする。授業は対話的なワークショップ形式の一連のセッションを通して、履修者が実際に自分のアイディアの説明し、教員はプレゼンテーションのやり方、コミュニケーションの取り方などを適切に英語で行うための方法を具体的にコーチすることで進め、履修者のスキルを向上させる。</p>	共同 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	Start-ups and Global Disruptors	<p>この授業はデザイン提案を社会実装するための一つのルートとしての起業をテーマとする。その目的は起業家として事業を始めるときに理解しておくべきこと、また、事業を起こすために必要な基本的な理論や知識・方法などについて、ケーススタディなどを通じ、より実践に即した形で、英語により学ぶ。授業では、初期費用のための投資、「死の谷」、買収、新規公開株 (IPO) など、スタートアップ企業が直面する様々な場面について、事例を使って説明する。</p> <p>(オムニバス方式全8回)</p> <p>(78 Loh Wei Leong/3回) 起業に関する障害と起業される企業の発展段階について事例研究の英語による講義を行う。</p> <p>(62 稲村徳州/5回) デザイン提案をスタートアップ企業で実装するプロジェクトに関する演習を英語で指導する。</p>	オムニバス方式 講義6時間 演習10時間 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	Intellectual Property Rights : Global Perspective	<p>知的財産権に係る規定や法律は国によって大きく異なり、国際的なデザイン活動をするためには、デザインによって生み出された価値の保護について広く理解する必要がある。そのため、この授業では日本及び諸外国における知的財産の概念、知的財産にかかわる基本的な事柄について英語による講義を行い、演習形式で様々な文化的脈絡の具体的な事例を挙げながら、知的財産を守るための方策について、履修者が実践に役立つような形で英語により学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式全8回)</p> <p>(78 Loh Wei Leong/4回) 国際的な知的財産の基本概念と国際的な商標や特許に関する英語による講義を行う。</p> <p>(62 稲村徳州/4回) 知的財産権の抵触を防ぐための方法や考え方について具体例を使い英語による演習を行う。</p>	オムニバス方式 講義8時間 演習8時間 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	Global Design Innovations この授業の目的は現在デザインの世界でどのようなイノベーション事例があり、それがどのように生み出されているかを履修者が知ることにある。そのため、まず、具体的なケーススタディを通して、海外の社会デザインのイノベーションの先進的事例を紹介する。この事例研究で得たアイデアをもとに、演習では、実際にデザインプロジェクトに参加し、社会的な課題に対してプロトタイプを制作し、解決のための提案を英語で行う能力を身に付ける。 (オムニバス方式全8回) (62 稲村徳州 / 2回) 九州大学と海外連携大学とのデザインプロジェクトの事例について英語による講義を行う (62 稲村徳州・78 Loh Wei Leong / 6回) (共同) 現在・近い将来の国際的なデザイン課題を取り上げ、海外連携大学と共同演習を行う。	オムニバス方式・共同 (一部) 講義4時間 演習12時間 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)	
専攻教育科目	専門科目	未来構想デザイン	国際未来構想デザインA I	異なる文化的背景や歴史的背景・社会的背景に対する理解に基づいた上で、多様性を捉えながら、英語または他言語による異文化間のコミュニケーション能力や理解力・伝達能力身につけ、さらに、デザインやアート・人類学・社会・環境・哲学・美学・情報工学・生命科学など様々なアプローチから未来を構想するために必要なデザインの知識やスキルや方法を学ぶ。それら内容を講義や演習を通じて、要素還元的に理解しそれら能力を培っていく。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	専門科目	未来構想デザイン	国際未来構想デザインA II	異なる文化的背景や歴史的背景・社会的背景に対する理解に基づいた上で、多様性を捉えながら、英語または他言語による異文化間のコミュニケーション能力や理解力・伝達能力身につけ、さらに、デザインやアート・人類学・社会・環境・哲学・美学・情報工学・生命科学など様々なアプローチから未来を構想するために必要なデザインの知識やスキルや方法を学ぶ。それら内容を講義や演習を通じて、統合的に理解しそれら能力を培っていく。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	専門科目	未来構想デザイン	国際未来構想デザインA III	異なる文化的背景や歴史的背景・社会的背景に対する理解に基づいた上で、多様性を捉えながら、英語または他言語による異文化間のコミュニケーション能力や理解力・伝達能力身につけ、さらに、デザインやアート・人類学・社会・環境・哲学・美学・情報工学・生命科学など様々なアプローチから未来を構想するために必要なデザインの知識やスキルや方法を学ぶ。それら内容を講義や演習を通じて、理解しそれら能力を培っていくために有効なデザインの知識やスキルの効果的な活用方法を身につける。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	専門科目	未来構想デザイン	国際未来構想デザインA IV	異なる文化的背景や歴史的背景・社会的背景に対する理解に基づいた上で、多様性を捉えながら、英語または他言語による異文化間のコミュニケーション能力や理解力・伝達能力身につけ、さらに、デザインやアート・人類学・社会・環境・哲学・美学・情報工学・生命科学など様々なアプローチから未来を構想するために必要なデザインの知識やスキルや方法を学ぶ。それら内容を講義や演習を通じて、自由に活用できる応用力を身につける。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	専門科目	未来構想デザイン	国際未来構想デザインB I	国際的な環境のなかで身につける知識や経験、異なる文化的背景や歴史的背景に対する理解に基づいた上で、多様性を捉えながら、英語または他言語による異文化間のコミュニケーション能力や理解力・伝達能力身につけ、さらに、デザインやアート・人類学・社会・環境・哲学・美学・情報工学・生命科学など様々なアプローチから未来を構想するために必要なデザインの知識やスキルや方法を学ぶ。それら内容を講義や演習を通じて、要素還元的に理解しそれら能力を培っていく。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	専門科目	未来構想デザイン	国際未来構想デザインB II	国際的な環境のなかで身につける知識や経験、異なる文化的背景や歴史的背景に対する理解に基づいた上で、多様性を捉えながら、英語または他言語による異文化間のコミュニケーション能力や理解力・伝達能力身につけ、さらに、デザインやアート・人類学・社会・環境・哲学・美学・情報工学・生命科学など様々なアプローチから未来を構想するために必要なデザインの知識やスキルや方法を学ぶ。それら内容を講義や演習を通じて、統合的に理解しそれら能力を培っていく	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	専門科目	未来構想デザイン	国際未来構想デザインB III	国際的な環境のなかで身につける知識や経験、異なる文化的背景や歴史的背景に対する理解に基づいた上で、多様性を捉えながら、英語または他言語による異文化間のコミュニケーション能力や理解力・伝達能力身につけ、さらに、デザインやアート・人類学・社会・環境・哲学・美学・情報工学・生命科学など様々なアプローチから未来を構想するために必要なデザインの知識やスキルや方法を学ぶ。それら内容を講義や演習を通じて、理解しそれら能力を培っていくために有効なデザインの知識やスキルの効果的な活用方法を身につける。	講義15時間 演習15時間

科目区分		授業科目の名称		講義等の内容	備考
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来構想	国際未来構想デザインBIV	国際的な環境のなかで身につける知識や経験、異なる文化的背景や歴史的背景に対する理解に基づいた上で、多様性を捉えながら、英語または他言語による異文化間のコミュニケーション能力や理解力・伝達能力身につけ、さらに、デザインやアート・人類学・社会・環境・哲学・美学・情報工学・生命科学など様々なアプローチから未来を構想するために必要なデザインの知識やスキルや方法を学ぶ。それら内容を講義や演習を通じて、自由に活用できる応用力を身につける。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来構想	インターンシップ(学部) I	企業、行政機関、公益法人等において、1週間程度(30時間以上)の就業体験を行う。 事前講義ののち、履修者ごとに研修受入れ先の選定、手続きを行い、各コース担当教員との相談の上で、研修申請手続きを行う。所定研修後に互いの経験・成果を履修者同士で共有することを目的としたプレゼンテーション等を各コースで開催する。	
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来構想	インターンシップ(学部) II	企業、行政機関、公益法人等において、2週間程度(60時間以上)の就業体験を行う。 事前講義ののち、履修者ごとに研修受入れ先の選定、手続きを行い、各コース担当教員との相談の上で、研修申請手続きを行う。所定研修後に互いの経験・成果を履修者同士で共有することを目的としたプレゼンテーション等を各コースで開催する。インターンシップIの履修を前提とする。	
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン メディア	ゲームデザイン	前半にゲームに関する歴史や分類、制作に必要な要素、社会との関わり方、知的所有権等の基礎的講義を行う。後半にカードやダイス等を用いたゲームデザイン演習をおこない、ゲームメカニクスについて観察、分析、考察、仮説、実行、評価の工程について実践的に学ぶ。全体を通して、ゲーム制作に必要なコンセプトワークとアイデア発想法、ディレクションとプロデュース、プロジェクト開発と運営等に関する知識、スキルを身につける。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン メディア	映像表現	デジタル技術の進展による撮影機器の加速的普及によって、「一億総カメラマン時代」と呼ばれる近年、映像表現はより身近なものとなっている。本講義演習では、映像表現の基礎知識を学び、実践としての制作演習を通して映像制作技術を習得することを目指す。講義では、100年を超える映像の歴史を俯瞰し、その中で進展してきた映像表現について解説する。さらに、撮影技法、編集技法の基礎を学び、映像作品の制作を通じて映像表現に対する理解を深めていく。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	コース デザイン メディア	アニメーション表現	映像メディアの基礎的な技術、知識を習得するうえで、「アニメーション」は非常に重要な役割を担っている。静止画の連続によって動きを表現するアニメーションは、いわゆるアニメだけでなく、実写のコマドリ、3DCGなどあらゆる動画において用いられている。前半においてはアニメーションの構成要素である静止画に関連する、写真やアニメにおける技術や表現技法から、実写やアニメなど動画がもたらした映像表現について考察し、後半では受講者個別でのアニメーション作品制作を行い、アニメーション表現に関する理解を深めていく。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	コース デザイン メディア	芸術論	2000年以降の現代美術は、ひとつの理論や法則では統合できない。今日の現代美術は現代社会の現実を解説し、その影響に対して身体的・感情的・実践的に反応するもの、つまり社会と個人の関係を考える様々な形態として存在している。現代美術の動向、造形美術の歴史、創造と脳の関係、身体性やマイノリティーへの視座などを、「造形」を軸に概観する。さらに身体性への知識を造形的に発展させるためのワークショップを行い、創造する立場から芸術作品を理解し、社会や人間への意識を深め、新しい価値観を創造する力を養う。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン メディア	数理造形	プログラムの基礎を学習して、グラフィックス、アニメーション、シミュレーション、インタラクション、画像処理などの実装を通して、数理造形について学ぶ。本講義は「数理造形と表現演習」の講義とセットであり、その基礎的な内容となる。講義内では、コンピュータグラフィックスのアルゴリズムを基礎とした内容について知識を深めながら、そのプログラミング実装を行う。また、近年のコンピュータグラフィックスやその周辺事例について知識を共有する。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン メディア	タイポグラフィックデザイン	タイポグラフィとは、文字記号を中心としたグラフィック図形のシステムや形態をデザインしたり、またそうして作られた文字記号を、目的に応じて適切に選定し、配置することで効果的かつ美的な視覚情報を構成するデザインである。文字記号は、約500年の歴史のある伝統的デザインであると同時に、現代においてもモバイルメディアなどで生活空間に横溢しているメディアである。この授業では、書体を中心とするタイポグラフィの歴史、印刷技術の種類などの基礎的な知識に合わせて、ソフトウェアを用いた組版のスキルを学ぶ。	講義6時間 演習10時間

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	専門科目	メディアデザイン	グラフィックデザイン	<p>広告や書籍、ポスターのデザインなど、特に印刷メディアを中心の対象として20世紀に興隆したデザインであるグラフィックデザインは、これまでに数多くの手法や考え方、様式など、豊富なデザイン資源を有するデザインである。この授業では、そうしたデザイン資源についての基礎的な理解とともに、その活用についての経験的知識を深めるために、グラフィックデザインの歴史的、理論的、実践的見地からの講義を行い、合わせて基礎的な演習を通して、デザインの経験を深める。</p>	講義12時間 演習4時間
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	広告クリエイティブデザイン	<p>この授業では、20世紀に興隆した広告デザインの新しい方向を見据えつつ、広告の概要、広告のアイデアや展開を発想するクリエイティブデザイン、広告を具体化するための基礎となる造形とグラフィックデザインの三部から構成される。概要では、今日の広告業界全般の状況と広告企画のポイントに関する概論、クリエイティブデザインにおけるコンセプトの作り方、表現手法、アートディレクション等についての事例を学び、グラフィックデザインと造形においては、それらの基礎となるグラフィック手法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(3 伊原久裕/2回) 広告の表現に関する創造的技法としてのタイポグラフィ、グラフィックデザインについて講義と演習を学ぶ。</p> <p>(68 藤紀里子/2回) WEB広告の技法について講義と演習を学ぶ。</p> <p>(35 齋藤俊文/4回) 広告の概要として、広告業における現状と課題について講義する。また広告企画のポイントとクリエイティブデザインにおけるコンセプトの作り方、表現手法、アートディレクションについて事例を交えて講義を行う。</p>	オムニバス方式 講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	専門科目	メディアデザイン	情報デザイン	<p>円滑な伝達を促すための情報設計 (IA) と効果的な視覚化の手法について学び、演習および課題制作を通して体得する。具体的には、紙媒体でのパンフレット・冊子を制作し、それをWebに展開するという課題によって、スタイルシート概念からWebデザインの表現技術およびユーザビリティおよびアクセシビリティ等の求められる要件についての理解を深め、さらには、アプリ等を含むUI/UX設計という視点でのデザイン開発方法の習得を目指す。</p>	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	専門科目	メディアデザイン	インタラクションデザイン	<p>インタラクションデザインとは、ヒトとモノの相互作用のデザインを表す。特に、ヒトが生活する環境にコンピュータを埋め込むことにより、ユーザの振る舞いに応じて従来では考えられない多様な反応を実現することができる。また、様々なセンサを利用することにより、ユーザの様々な振る舞いを利用したインタラクションが実現可能である。この授業では、インタラクションデザインに関する歴史、構成要素、評価の方法、方法論などについて学習する。</p>	
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	メカニクスデザイン	<p>インタラクションにおいて、形が創成する運動や力覚を伴う応答を利用するには、メカニズムを利用することが多い。そのメカニズムを、平面リンク・空間リンク、閉リンク・開リンクなどに分類し、それぞれの運動の特徴・特性を知ることから始め、必要な運動と応答を与えるメカニズムの選定や構築の方法について学ぶ。メカニズムの構築と製作に関連して、デジタルモデリング、デジタルファブリケーションおよびメカトロニクスについても解説する。また、インタラクションに関する物理的知識として、流体と熱の関与についても概説する。</p>	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	専門科目	メディアデザイン	バーチャルリアリティ	<p>バーチャルリアリティとは、人工的に作られた空間が、我々の住んでいる実空間とシームレスに繋がっているようにコンピュータを駆使して没入させる技術である。このためには、人間の視覚や聴覚、触覚などの感覚系の仕組みを生理的、心理的に把握し、これらのマルチモーダルな感覚を仮想空間内で提示する方法を検討し、さらに空間内で人間の感覚器官に情報が提示されることから起こる反応について計測ができるように工夫する必要がある。このような人工的な空間が生成されると、その空間内でリハビリ、遠隔操作、エンターテイメントなど社会の様々な分野で応用が可能になる。本授業ではバーチャルリアリティが誕生するに至った歴史から今日までの研究の歩みを紹介し、今後どのような展開になるか学習する。</p>	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	専門科目	メディアデザイン	コンピュータグラフィックス	さまざまな物体、現象、事象を数理モデルとして表現し、光を計算して二次元画像/映像として視覚化するのがコンピュータグラフィックスの本質である。形や色はどのような構造をしていて、これに光がどう関わるのか、光はどのように伝搬し、どのように眼に届くのか、人やカメラはどのように視界を認識するのか、何が実現可能で何か困難なのかなどを考える。形や動きをとらえた対象の本質や人の心象まで含めて「見える」という現象を情報科学的に分析し、コンピュータの内部処理の問題に展開し、アルゴリズムとプログラムとして実装するための考え方を学ぶ。	
専攻教育科目	専門科目	メディアデザイン	ウェブサービスデザイン	インターネット上のハイパーテキストシステムであるワールド・ワイド・ウェブ(WWW)は情報の社会基盤として重要な役割を果たしている。WWWは単にユーザに情報を提示するだけでなく、様々なサービスを提供するプラットフォームとしての役割も果たしている。この授業では、ウェブ及びウェブ上の様々なサービスを実現するための基本的な仕組みを理解して、簡単な実習を通じてウェブサービスを実現するための知識と能力を身につけることを目的とする。	講義15時間 演習15時間 コース間共通科目 (未来構想デザイン・メディアデザイン)
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	コンピュータビジョン	人間は目の前の世界を瞬時に認識して判断して行動している。この機能をコンピュータや機械にもたせることはできないかという課題に対し、カメラやビデオという人工的な目を用いて、その実現に一步近づけることができる。カメラを通してコンピュータが見る世界は、実際の世界とはかけ離れたものであるが、状況を認識するための手がかりを与えてくれる。現在、そのような情報をもとに自分で状況判断して行動するロボットや自動車の研究開発が進んでいる。本科目では、その基礎として、二次元の画像から元の3次元の現実世界を再現する技術や方法論について学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	メディア情報処理	メディア情報の中でも画像に関わる情報は大きなウェイトを占める。本科目では、画像情報を取り扱う上で不可欠な画像処理および特徴情報の抽出方法等について解説する。画像情報を信号としてとらえたときの周波数表現や、形状として見たときに必要となる幾何学処理について説明する。また、画像の特徴抽出や画質の改善に必要な種々のフィルタリングについても取り上げる。この授業を通して、種々の画像処理の基礎となる数学的な理論とそれに基づくコンピュータを用いた処理方法を理解する。そして、それらの処理をもとにした画像情報の抽出方法や解析方法及びその利用について学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	コンテンツ工学	コンテンツの制作、検索、処理、保護等についての基礎的な事柄を学ぶとともに、エンタテインメントコンピューティング、ジェネラティブアート、ノンフォトリグラフィックレンダリングなど、娯楽や創作活動へのコンピュータの利用について、工学的な視点からアプローチする。特に、そこで使われるアルゴリズムについての理解を深め、新たなコンテンツを創造するための技術や、コンテンツを扱う際に生じる様々な問題を解決するための技術の習得を目指す。	
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	フィジカルコンピューティングとIoT	フィジカルコンピューティングとは、様々なセンサやアクチュエータを利用して人とコンピュータをつなぐ手法である。IoTとは実世界の様々なモノがインターネットに接続されている状況を表す。この授業では、フィジカルコンピューティングを簡単に実現できるマイクロコンピュータの一つであるArduinoを利用して、様々なセンサを利用してデータを取得したり、サーボモータなどを制御する方法を学ぶ。また、それらをインターネットと接続し、データを収集したり他のデバイスと協調して動作させる方法を学習する。	講義8時間 演習8時間 コース間共通科目 (未来構想デザイン・メディアデザイン)
専攻教育科目	専門科目	メディアデザイン	視覚心理学	人間の視覚は能動的なプロセスで、一種の行為である。我々の脳が、眼から取り入れた情報をもとにどのように視覚的世界を構築するのか、その機能的側面を学ぶ。実験心理学的観点から、明るさ、形、動き、奥行き、知覚や、眼球運動、それらの錯視や相互作用を中心にデモンストレーションを交えて講義を行う。人間の視覚の特性と限界を知ることによって、それらの現象と視覚メディアのあり方について考察し、視覚デザインへの応用について考える。	
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	色彩学	われわれの周りには様々な色が溢れているが、「光線には色は付いていない」というニュートンの有名な言葉で表わされるように、色は光線が眼に入り、大腦にその信号が伝えられて初めて生じる感覚である。すなわち、色彩の知覚は、光源からの光線とそれを反射・透過・吸収する物体および眼(脳を含む)の3者の相互作用によって作られる。色彩や明るさの知覚、色の混色や演算、表色系の概念や構成、色の見えなどの色彩学の基礎的事柄を、色彩知覚の性質を基礎とする観点からの講義を通じて、色彩や色彩知覚を総合的に学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	心理学的思考法	実験心理学の中から、知覚心理学、視覚心理学、VR心理学、認知心理学、行動科学、脳科学の実験を通して、各実験の統制条件の設定の、巧みさ、アイデアの面白さ、実験の実施のための工夫を学ぶ。一人ずつのワークで、学生自身が実験計画を考案、計画発表し、より洗練するにはどうすれば良いか、演習形式で考察する。演習形式で行うため、授業は少人数制とし、議論を充実させる。最終的には自分一人で心理実験を行うことが出来る力を身につける。議論や発表など、心理学に止まらない、実践的な力を育む。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	言葉とコミュニケーション	マルチモーダル分析を中心とした談話研究の基礎を学ぶ。メディアを音声・映像・トラッキング情報・生体情報などマルチモーダルなインプットを用いて分析することで、さまざまな場面における言語・非言語コミュニケーションの特徴を抽出し考察する。 (オムニバス方式 全15回) (73 冬野美晴／8回) ヒトとヒトの1対1のコミュニケーション、1対多数のコミュニケーション、ヒトとロボットのコミュニケーションなどのケーススタディを通じて、マルチモーダル分析の目的や方法を理解する。 (76 吉村理一／7回) 言語学の諸側面(音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論)を学ぶ。ヒトがどのように語や文を生成し、どのような過程を経てそれらが理解されるのかを探り、言語における規則性、法則について掘り下げる。加えて、言語間の普遍性と多様性についても日英語を基軸に考察する。	オムニバス方式
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	演劇文化論	演劇のルーツから古代ギリシア・ローマ演劇、中世演劇、ルネサンス演劇・シェイクスピアを経て近現代演劇に至る西洋演劇史を主軸とし、能・狂言・歌舞伎などの日本の伝統芸能や明治以降の演劇運動も視野に入れながら、演劇メディアの社会的機能・役割を中心に演劇形態・演劇理論・演出方法・観客反応の変遷を通じて、演劇芸術作品の古典化と受容のプロセスを時代性・地域性について理解する。視聴覚教材により多様な演劇形態を紹介し、演劇文化の現状について理解するために、観劇体験の機会を紹介するとともに、文化的地域性の観点から演劇による社会貢献の可能性についても検討する。	
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	知的財産法	デザインに関わる知的財産権の基礎を理解するとともに、その現代的問題についても関心を高めることを目的とする。 授業の前半は知的財産法の基礎を扱う。デザイン保護の中心的役割を果たす意匠法・著作権法だけでなく、デザインを間接的に保護する特許法・商標法・不正競争防止法なども併せて解説する。 授業の後半は、デザインを取り巻く環境についての先端的問題を扱う。創作および創作環境は常に変化しており、知的財産権との関係で様々な問題が生じている。これらの問題について、授業の前半で扱った知的財産法の基礎知識を前提に理解を深める。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	知覚心理学	<p>「形や色が見える、音が聞こえる、物を触って感じる、匂いや味がする」というような体験を、科学的な態度で分析し、人間が環境への適応に必要な情報をどのように得ているのかを考察する。視覚と聴覚に関する話題を中心として、様々な実験、デモンストレーションなどを紹介し、全体を貫く知覚の法則について考察する。感覚・知覚心理学の位置づけ、感覚・知覚の生物学的基礎、感覚知覚の一般的性質、物理量と心理量の違い、順応や閾の概念、感覚器官と脳の役割、視覚特性、奥行き知覚、光の強度と明るさの関係、味覚、嗅覚、触覚、音と聴覚、知覚と注意、知覚と記憶、対象の再認、知覚と脳科学、感覚間の相互作用について解説する。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(2 伊藤裕之/1回) 感覚・知覚心理学の位置づけ、感覚知覚の一般的性質、物理量と心理量の違い、順応や閾の概念、感覚器官と脳の役割について解説する。</p> <p>(71 平松千尋/1回) 感覚・知覚の生物学的基礎について解説する。</p> <p>(2 伊藤裕之/5回) 視覚特性、奥行き知覚、光の強度と明るさの関係、味覚、嗅覚、触覚、感覚間の相互作用について解説する。</p> <p>(28 上田和夫/5回) 音と聴覚、知覚と注意、知覚と記憶、対象の再認について解説する。</p> <p>(57 Remijn Gerard Bastiaan/2回) 知覚と脳科学について解説する。</p> <p>(28 上田和夫/1回) 総括</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>コース間共通科目 (未来構想デザイン・メディアデザイン・音響設計)</p>
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	主観評価法	<p>主観評価法は、心理実験に基礎を置く分野全体の基盤をなす科目の一つと位置づけることができる。知覚に関する現象観察および精神物理学的測定法から多変量解析の導入までに焦点をあてて考察する。因果関係と相関関係との違い、検証可能性、信頼性と妥当性、操作的定義、理論と仮説、オッカムの剃刀、独立変数と従属変数、実験条件と対照条件(統制条件)、交絡変数、二重盲検法、統計的有意性、自然観察、調査、実験、事例研究、精神物理学、調整法、極限法、恒常法、上下法、一対比較法、尺度水準など、実験に必要な概念や方法を学び、「明るさの対比」の現象観察、錯視量の測定、サーストンの方法による心理尺度構成、大きさの恒常性の測定、クラスター分析の実習を通じて、実験レポートの作成方法も学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(伊藤裕之/4回) 「明るさの対比」の現象観察、精神物理学的測定法、錯視量の測定、尺度水準について解説、実習する。</p> <p>(上田和夫/8回) 導入、観察および実験の基礎的概念、サーストンの方法による心理尺度構成、大きさの恒常性の測定、クラスター分析について解説、実習する。</p> <p>(Remijn Gerard Bastiaan/3回) 現象観察、精神物理学、実験の定義について解説、実習する。</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>講義20時間 演習10時間</p> <p>コース間共通科目 (未来構想デザイン・メディアデザイン・音響設計)</p>
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	Design Pitching Skills	<p>この授業は履修者が外国に行って、自らのデザインのアイデアを売り込む状況を想定したものである。履修者が英語を使って自分のアイデアを説明したり、その良さを売り込んだりするためスキルを向上させることを目標とする。授業は対話的なワークショップ形式の一連のセッションを通して、履修者が実際に自分のアイデアの説明し、教員はプレゼンテーションのやり方、コミュニケーションの取り方などを適切に英語で行うための方法を具体的にコーチすることで進め、履修者のスキルを向上させる。</p>	<p>共同</p> <p>コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)</p>

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目 メディアデザイン	Start-ups and Global Disruptors	この授業はデザイン提案を社会実装するための一つのルートとしての起業をテーマとする。その目的は起業家として事業を始めるときに理解しておくべきこと、また、事業を起こすために必要な基本的な理論や知識・方法などについて、ケーススタディなどを通じ、より実践に即した形で、英語により学ぶ。授業では、初期費用のための投資、「死の谷」、買収、新規公開株（IPO）など、スタートアップ企業が直面する様々な場面について、事例を使って説明する。 (オムニバス方式全8回) (78 Loh Wei Leong / 3回) 起業に関する障害と起業される企業の発展段階について事例研究の英語による講義を行う。 (62 稲村徳州 / 5回) デザイン提案をスタートアップ企業で実装するプロジェクトに関する演習を英語で指導する。	オムニバス方式 講義6時間 演習10時間 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目 メディアデザイン	Intellectual Property Rights : Global Perspective	知的財産権に係る規定や法律は国によって大きく異なり、国際的なデザイン活動をするためには、デザインによって生み出された価値の保護について広く理解する必要がある。そのため、この授業では日本及び諸外国における知的財産の概念、知的財産にかかわる基本的な事柄について英語による講義を行い、演習形式で様々な文化的脈絡の具体的な事例を挙げながら、知的財産を守るための方策について、履修者が実践に役立つような形で英語により学ぶ。 (オムニバス方式全8回) (78 Loh Wei Leong / 4回) 国際的な知的財産の基本概念と国際的な商標や特許に関する英語による講義を行う。 (62 稲村徳州 / 4回) 知的財産権の抵触を防ぐための方法や考え方について具体例を使い英語による演習を行う。	オムニバス方式 講義8時間 演習8時間 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目 メディアデザイン	Global Design Innovations	この授業の目的は現在デザインの世界でどのようなイノベーション事例があり、それがどのように生み出されているかを履修者が知ることにある。そのため、まず、具体的なケーススタディを通して、海外の社会デザインのイノベーションの先進的事例を紹介する。この事例研究で得たアイデアをもとに、演習では、実際にデザインプロジェクトに参加し、社会的な課題に対してプロトタイプを制作し、解決のための提案を英語で行う能力を身に付ける。 (オムニバス方式全8回) (62 稲村徳州 / 2回) 九州大学と海外連携大学とのデザインプロジェクトの事例について英語による講義を行う (62 稲村徳州・78 Loh Wei Leong / 6回) (共同) 現在・近い将来の国際的なデザイン課題を取り上げ、海外連携大学と共同演習を行う。	オムニバス方式・共同 (一部) 講義4時間 演習12時間 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目 メディアデザイン	国際メディアデザインA I	メディアデザインは、世界的規模で常に発展しているメディアテクノロジーの将来とともに、それに対応した社会の変動を見据えて展開する必要のあるデザインである。したがって、メディアデザインの理解を深めるには、国際的な視野が不可欠であり、また表現やコミュニケーションの面からは、たんなる技術的知識にとどまらず、その社会的文化的背景についての豊かな知識も求められる。本授業では、外国人も含めた授業として、メディアとコミュニケーションのデザインに関する国際的な感覚を養うための知識を学ぶ。それによって学生の国際的なデザイン活動の基盤を作ることを目指す。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	コース専門科目 メディアデザイン	国際メディアデザインA II	メディアデザインは、世界的規模で常に発達しているメディアテクノロジーの将来とともに、それに対応した社会の変動を見据えて展開する必要のあるデザインである。そのためには、国際的な視野が不可欠であり、また表現やコミュニケーションの面からは、技術的な知識はもとより、その社会的文化的背景についての豊かな知識も求められる。この授業では、国際的な視野からデザインに関する基本概念を学びつつ、メディアとコミュニケーションを対象としたデザインの大枠についての理解を深める。	講義8時間 演習8時間

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	国際メディアデザインAIII	メディアデザインは、世界的規模で常に発達しているメディアテクノロジーの将来とともに、それに対応した社会の変動を見据えて展開する必要のあるデザインである。したがって、メディアデザインの理解を深めるには、国際的な視野が不可欠であり、また表現やコミュニケーションの面からは、技術的知識はもとより、その社会的文化的背景についての豊かな知識も求められる。この授業では、諸外国のメディアとコミュニケーションを対象としたデザインに関係する表現の最新動向や最新の研究成果にふれ、特に関心のあるデザイン対象領域の展開を概観し、その背景や今後の展望を考察する	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	国際メディアデザインAIV	メディアデザインは、世界的規模で常に発達しているメディアテクノロジーの将来とともに、それに対応した社会の変動を見据えて展開する必要のあるデザインである。したがって、メディアデザインの理解を深めるには、国際的な視野が不可欠であり、また表現やコミュニケーションにおける国際的スキルも求められる。この授業では、国際的視点からメディアとコミュニケーションに関するデザインを自主的に実践できる能力を身につけることを目標とする。自分のアイデアの説明を英語でプレゼンテーションすることを目標とする。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	国際メディアデザインBI	メディアデザインは、世界的規模で常に発達しているメディアテクノロジーの将来とともに、それに対応した社会の変動を見据えて展開する必要のあるデザインである。したがって、メディアデザインの実践力を高めるには、国際的な視野が不可欠であり、また表現やコミュニケーションの面からは、最新の技術的知識について、その社会的文化的背景を踏まえたより目的志向型の知識も求められる。そのために、この授業では、国際的枠組みでのメディアならびにコミュニケーションに関係するデザインの先端的な表現や最新の技術的方法を、講義と実践を通して理解する。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	国際メディアデザインBII	メディアデザインは、世界的規模で常に発達しているメディアテクノロジーの将来とともに、それに対応した社会の変動を見据えて展開する必要のあるデザインである。したがって、メディアデザインの実践力を高めるには、国際的な視野が不可欠であり、また表現やコミュニケーションの面からは、たんなる技術的知識にとどまらず、その社会的文化的背景についての豊かな知識も求められる。この授業では、メディアとコミュニケーションのデザインに関する講義、演習を通じて、国際的な視野から、社会問題や文化的多様性など現代の課題を見出し、そのために有効なデザインによる解決手法を学ぶ。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	国際メディアデザインBIII	メディアデザインは、世界的規模で常に発達しているメディアテクノロジーの将来とともに、それに対応した社会の変動を見据えて展開する必要のあるデザインである。したがって、メディアデザインの実践力を高めるには、国際的な視野が不可欠であり、また表現やコミュニケーションの面からは、技術的知識はもとより、その社会的文化的背景についての豊かな知識も求められる。この授業では、メディアとコミュニケーションに関するデザインの創造性や批評性を理解するために、従来のデザインの枠を超えた新しい枠組み、概念、表現方法について考察する。本授業の講義、演習、ディスカッション、発表は英語により実施する。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	国際メディアデザインBIV	メディアデザインは、世界的規模で常に発達しているメディアテクノロジーの将来とともに、それに対応した社会の変動を見据えて展開する必要のあるデザインである。したがって、メディアデザインの実践力を高めるには、国際的な視野が不可欠であり、また表現やコミュニケーションの面からは、たんなる技術的知識にとどまらず、問題解決のための総合的な能力が求められる。特にメディアとコミュニケーションに関するデザインは、さまざまな分野の課題解決にかかわることから、本授業では、広い視野からの分析を通して、従来のデザインの枠を超えた新しい枠組み、アプローチ、解決策について考察し、理解を深める。本授業の講義、演習、ディスカッション、発表は英語により実施する。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	インターンシップ(学部) I	企業、行政機関、公益法人等において、1週間程度(30時間以上)の就業体験を行う。 事前講義ののち、履修者ごとに研修受入れ先の選定、手続きを行い、各コース担当教員との相談の上で、研修申請手続きを行う。所定研修後に互いの経験・成果を履修者同士で共有することを目的としたプレゼンテーション等を各コースで開催する。	
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	インターンシップ(学部) II	企業、行政機関、公益法人等において、2週間程度(60時間以上)の就業体験を行う。 事前講義ののち、履修者ごとに研修受入れ先の選定、手続きを行い、各コース担当教員との相談の上で、研修申請手続きを行う。所定研修後に互いの経験・成果を履修者同士で共有することを目的としたプレゼンテーション等を各コースで開催する。インターンシップIの履修を前提とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 知覚心理学	<p>「形や色が見える、音が聴こえる、物を触って感じる、匂いや味がする」というような体験を、科学的な態度で分析し、人間が環境への適応に必要な情報をどのように得ているのかを考察する。視覚と聴覚に関する話題を中心として、様々な実験、デモンストレーションなどを紹介し、全体を貫く知覚の法則について考察する。感覚・知覚心理学の位置づけ、感覚・知覚の生物学的基礎、感覚知覚の一般的性質、物理量と心理量の違い、順応や閾の概念、感覚器官と脳の役割、視覚特性、奥行き知覚、光の強度と明るさの関係、味覚、嗅覚、触覚、音と聴覚、知覚と注意、知覚と記憶、対象の再認、知覚と脳科学、感覚間の相互作用について解説する。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(2 伊藤裕之/1回) 感覚・知覚心理学の位置づけ、感覚知覚の一般的性質、物理量と心理量の違い、順応や閾の概念、感覚器官と脳の役割について解説する。</p> <p>(71 平松千尋/1回) 感覚・知覚の生物学的基礎について解説する。</p> <p>(2 伊藤裕之/5回) 視覚特性、奥行き知覚、光の強度と明るさの関係、味覚、嗅覚、触覚、感覚間の相互作用について解説する。</p> <p>(28 上田和夫/5回) 音と聴覚、知覚と注意、知覚と記憶、対象の再認について解説する。</p> <p>(57 Remijn Gerard Bastiaan/2回) 知覚と脳科学について解説する。</p> <p>(28 上田和夫/1回) 総括</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>コース間共通科目 (未来構想デザイン・メディアデザイン・音響設計)</p>
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 主観評価法	<p>主観評価法は、心理実験に基礎を置く分野全体の基盤をなす科目の一つと位置づけることができる。知覚に関する現象観察および精神物理学的測定法から多変量解析の導入までに焦点をあてて考察する。因果関係と相関関係との違い、検証可能性、信頼性と妥当性、操作的定義、理論と仮説、オッカムの剃刀、独立変数と従属変数、実験条件と対照条件(統制条件)、交絡変数、二重盲検法、統計的有意性、自然観察、調査、実験、事例研究、精神物理学、調整法、極限法、恒常法、上下法、一対比較法、尺度水準など、実験に必要な概念や方法を学び、「明るさの対比」の現象観察、錯視量の測定、サーストンの方法による心理尺度構成、大きさの恒常性の測定、クラスター分析の実習を通じて、実験レポートの作成方法も学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(2 伊藤裕之/4回) 「明るさの対比」の現象観察、精神物理学的測定法、錯視量の測定、尺度水準について解説、実習する。</p> <p>(28 上田和夫/8回) 導入、観察および実験の基礎的概念、サーストンの方法による心理尺度構成、大きさの恒常性の測定、クラスター分析について解説、実習する。</p> <p>(57 Remijn Gerard Bastiaan/3回) 現象観察、精神物理学、実験の定義について解説、実習する。</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>講義20時間 演習10時間</p> <p>コース間共通科目 (未来構想デザイン・メディアデザイン・音響設計)</p>
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 電気工学	<p>電気回路及び関連する電磁気学の各種概念、それらの量の時間的変化としての定常状態応答、過渡状態応答を理解し、音、光、電磁波などの諸現象への応用力を養う。電気回路を構成する素子である抵抗、インダクタンス、キャパシタンスなどについて学び、これらの素子からなる複雑な電気回路の各部の電流、電圧を求めるため、オームの法則、キルヒホッフの法則およびテブナンの定理についても学ぶ。定常応答、過渡応答の求め方、ならびに必要な数学、特に複素数を用いた交流信号表現についても学ぶ。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 電子工学	音響機器をはじめとする電子機器は、さまざまなアナログ信号をデジタル信号に変換し、その信号を増幅等加工して機能的に動作している。この機能の中心的な役割を担っているのがダイオードやトランジスタなどの半導体デバイスである。本講義では、半導体デバイスを用いた電子機器を設計し、動作を解析するための基礎知識を修得することを目的とする。半導体の性質を学び、半導体デバイスの基本特性を学ぶ。次に、その応用回路である増幅回路、演算増幅器およびデジタル回路について学ぶ。さらに、デジタル信号の処理を実現するための基本となる論理回路について学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 情報理論	情報の伝達と蓄積を取り扱う体系としての情報理論についての講義を通じて、情報を数学的に扱うために必要な情報量の定義、情報源符号化定理、通信路符号化定理について学ぶ。情報源符号化定理は、いかに効率よく情報を伝送するか、通信路符号化定理は、雑音のある通信路を通して、いかに誤りなく伝送するかということに関する限界を示した定理であり、その応用として、最適符号、高能率符号化、誤り検出・誤り訂正符号などについても学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 データ解析	企業活動や研究における実験などで得られたデータに対して、統計解析を行う際に最も基本的な解析法となる回帰分析や統計的仮説検定について講義演習を交えて解説する。また、実際のデータは欠損などを多く含むことから、解析法だけでなくデータのハンドリング法、いわゆるデータクレンジングや、データの基本的な作図法とそこから見えてくる傾向など、様々な側面からデータ解析の基本を学習することで、研究や企業などで実データに挑む際にもフレキシブルに対応できる能力を身に付ける。	コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン・未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 データマイニング I	「データ解析」で学んだ内容をもとに、その知識を多変量解析・時系列解析へ発展させ、研究などで得られる多種多様なデータに対して適切に対応できるように講義でその手法の数理的な理解を、演習でデータマイニングIでは「データ解析」の発展として、通常回帰モデルでは対応できない一般化線形モデル、教師あり学習の1手法としての決定木、教師なし学習の1手法としてのクラスタ分析、アンケートデータなどで使用可能な主成分分析などを学んでいく。	コース間共通科目 (インダストリアルデザイン・未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 データマイニング II	「データ解析」および「データマイニングI」で学んだ内容をもとに、その知識をより深く発展させ、研究や実社会で遭遇するより複雑なデータに対して適切に対応できるように講義でその手法の数理的な理解を、演習でデータマイニングIIでは「データ解析」「データマイニングI」の発展として、アンケートデータなどで使用可能な因子分析、多次元尺度構成法、時系列データの予測などが可能なARモデル、より高度な時系列データの構造が解釈可能な状態空間モデルなどについて学んでいく。	コース間共通科目 (インダストリアルデザイン・未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 質的社会調査法	社会や未来の構想のためには量的な調査の他に質的な調査も重要となる。数量で表現できないような現象の質的理解や解釈・説明が必要となる。調査のプロセスや現象が発生する文脈を重視する。また研究対象の発言や態度・行為を尊重し行う。質的研究法の基礎として、フィールドワーク・参与観察・半構造化インタビュー・フォーカスグループインタビュー・グラウンディドセオリー、質的データの分析法等について実践を交えながら方法を獲得する。	講義8時間 演習8時間 コース間共通科目 (未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 比較音楽理論	国際化・情報化社会を生きる日本人にとって、自国の伝統音楽を知るとともに、アジア各国の音楽に理解を示すことは不可欠である。この授業は、日本およびアジアの音楽の歴史・理論・伝承形態について学び、さらにその担い手である人々の価値観、音楽観を知ることによって、具体的には、日本の伝統音楽について、古代から近世まで種目ごとに解説したあと、アジア各国の伝統音楽について基礎知識を学ぶ。さらに、音楽の東西交流史、東西の音楽を巨視的に比較した諸学説を学んでいく。	
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 西洋音楽史	音響設計を志す者にとって、音楽を文化的・社会的なものに関連づけて体験し、音楽の変遷を知ることは必要不可欠である。学ぶ対象は、西洋音楽とその歴史とする。なぜなら、現代におけるさまざまな音楽活動の源流となっており、現在の音楽語法に幅広い影響力を有しているためである。他方、キリスト教文化の学習を通して、他者と自己の差異を理解するきっかけとする。授業では、テーマに沿ってさまざまな時代の音楽を視聴しながら鍵となる概念や時代背景、価値観を知り、論述できるようにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 音文化論演習	19世紀から現代に至るまでの音楽と音響の歴史を、音を記録・再生するメディアに関わる音の文化という観点から、具体的な事例を通じて考察する。ある時代における音楽というものは、その時点に存在している技術により何らかの規定を受けている。一方で、その時代の人々による音楽の作り方・聴き方が技術の変化を促すことにもなる。この音の文化と技術との密接な関わりを、インターネット上の映像資料を中心に確認すると共に、適宜レポートとディスカッションにより考察する。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 芸術コミュニケーション論	国際社会を生き抜く異文化コミュニケーション能力、世代間コミュニケーションの問題を克服する能力、人間関係を形成していく能力の獲得を芸術表現を通じたコミュニケーションにより獲得する。そのために芸術における表現手法を用いた計画的・継続的なワークショップ等を実施することにより、芸術を理解する気持ちを育み、豊かな情操を養うとともに、コミュニケーション能力の育成を図る。非言語コミュニケーションを可能とする方法、芸術におけるコミュニケーションの仕組みを学際的な方法を用いて理解する。	コース間共通科目 (環境設計・未来構 想デザイン・音響設 計)
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 音楽学	今日の音楽研究では、音楽データベースと音楽情報科学の進歩に呼応して、数理的な方法が模索されているが、他方、文化多元主義の浸潤に伴い、非西洋音楽やポピュラー音楽の研究も増えている。音楽データベース構成法、記譜法の歴史、音律と協和性の理論、演奏研究にみる統計学を用いた分析法、作曲のための数学的音楽理論など、音楽のさまざまな研究方法を講義と実習を通して学ぶ。さらに、民族音楽学と音楽美学の新しい方法と考え方についても学ぶ。 (オムニバス方式 全15回) (20 矢向正人/14回) 記譜法やデータベース、旋律パターン、生成文法等に関する講義を行う。 (70 西田紘子/1回) シェンカー理論およびシェンカー分析に関する講義と簡単な実習を行う。	オムニバス方式
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 聴覚認知論	動物およびヒトにおける、(1)聴覚系の構造と機能、(2)聴覚系の特徴抽出機構、(3)聴覚皮質の応答、(4)その他、最近の話題について、聴覚心理学、神経生理学、神経解剖学、動物行動学、脳科学のそれぞれの立場から考察する。神経発火の仕組み、視覚神経系と聴覚神経系との違い、中枢神経系の仕組みと働き、神経回路網モデル、聴覚神経系の過渡応答、周波数の部位的構成、内毛細胞の位相同期、聴覚神経系の時間周波数応答、音響定位、神経発火の時間構造、視聴覚の時間応答特性と同期処理、適応、進化について解説する。	
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 音声情報学	音声では、音という物理的形態によって、言語的内容をはじめとする種々の情報が相手に伝達される。本講義では、このように音響信号の形で行われる人のコミュニケーションに焦点をあて、情報の担い手としての音の役割について理解する。ここではまず、音声の生成・受容に関与する人の生理学的機構や、それらの音響学的役割について理解する。さらに、音響信号処理の知識を基として、種々の情報が音響信号のどのような特徴に基づいて伝えられるかについて学ぶ。 (オムニバス方式 全15回) (7 鏑木時彦/5回) 音声の生成・受容に関与する人の生理学的機構と音響学的役割 (79 若宮幸平/10回) 音声の音響分析と各種の母音・子音の音響的特徴	オムニバス方式
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 デジタル信号処理演習	デジタル信号処理で学んだ基礎理論の応用のための講義並びに演習を実施する。前半は基礎事項への理解を深め、応用力を身につけさせるための講義を行い、演習問題にも取り組ませる。後半は信号処理ソフトウェアMatlabを使用して、自分の声の周波数特性を求めたり、線形システムの特性を解析したりするプログラムを、コンピュータ上で対話的に作成、計算結果を表示する演習を実施することで、信号処理への理解をさらに深めさせる。	講義15時間 演習15時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目 音響設計	音響メディア工学	現代の情報処理や情報通信において、音声や音楽など各種の音響信号は、デジタル信号の形でコンピュータ処理される。ここでは、そのような音響メディアのデジタル処理における実践的な基礎手続きについて理解するため、離散信号のフーリエ解析を骨格としたノンパラメトリックな手法と、信号源のモデルを仮定するパラメトリックな手法とについて解説する。さらに、信号の音響的特徴を表すパラメータを用いて、信号を分析・合成できることを示す。	
専攻教育科目	コース専門科目 音響設計	音響メディア工学演習	音声や音楽などの各種の音響メディアのデジタル処理に関する基礎知識をさらに深めるため、統計的手法によって音響信号を分析・合成する方法や、音響システムの特徴を推定する方法について学ぶ。ここでは特に、プログラミング言語のMATLABを用いた計算機実習を行うことで、音響信号の波形やスペクトルなどを具体的に確認しながら、それらの関連性や処理結果などを実際に体験することで、計算機を用いた音響メディアの取り扱いに習熟することを目標とする。	講義12時間 演習18時間
専攻教育科目	コース専門科目 音響設計	応用音響理論	大きさのある連続物体の弾性体の振動について学ぶ。まず、波動方程式とその解き方の復習も兼ねて、1次元振動物体としての弦の振動について、その解析方法を考察する。つぎに、振動物体の次元を2次元に広げ、膜の振動について、その解析方法を考察する。その後1次元振動物体としての棒の振動を扱うが、棒については固体であり、曲げに対する抵抗があるので、そのような固体中での振動の種類についても考察する。さらに、固体中での振動に関して、次元を2次元に広げ、板の振動を取り上げ、その解析方法を考察する。	
専攻教育科目	コース専門科目 音響設計	音響機器論	音響機器とは音響現象を正確に計測したり、記録・再現したりするための装置であり、音響信号を電気信号に変換するパッシブ系と電気信号を音響信号に変換するアクティブ系とからなる。このような電気音響変換器の動作原理を体系的に理解するとともに、様々な音響現象を把握するにはどのような物理量を、どのように計測したら良いのか、また音声や音楽の伝送・再生は音響的にどうあるべきかなどの議論に重点を置く。具体例としてスピーカやマイクロホンを取り上げ、その音響機器としての構成や性能などについて学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目 音響設計	騒音環境学	人を取り巻く騒音環境は現在社会の急速な発展に伴って大きな社会問題を引き起こしている。本講義では、騒音の規制に関する法律の概略と共に、騒音発生メカニズム、人への影響、人の反応について学ぶ。また、騒音環境の予測・評価・推計を行うための予測手法として、道路交通騒音や建設騒音を対象とした予測法の概要を学ぶ。さらに騒音を制御する技術、評価する技術の基礎を習得し、騒音問題を総合的に取り扱うための基礎知識を幅広く身につける。 (オムニバス方式 全15回) (42 高田正幸/6回) 騒音の規制に関する法律、人への影響、人の反応 (53 山内勝也/6回) 道路交通騒音および建設騒音の予測方法、騒音制御技術 (5 尾本章/3回) 騒音環境学の全般知識、波動的な騒音制御理論	オムニバス方式
専攻教育科目	コース専門科目 音響設計	非線形理論	これまでに学習済みの線形振動の復習から始め、それから非線形振動の内容について学んでいく。1自由度振動系の振動方程式に非線形性を導入した支配方程式として、自励振動の方程式、パラメータ振動の方程式、マッシュウーの方程式、ヒルの方程式、ダフィングの方程式、レイリーの方程式、ファンデルポールの方程式を取り上げて、これらの導出過程と解析手法を学ぶ。つぎに、音波に関する非線形現象について、最後に非線形振動に関わる諸現象について学ぶ。 (オムニバス方式 全15回) (36 鮫島俊哉/9回) 非線形振動現象の基礎的な事項について、特にその支配方程式に焦点を当てて説明する。 (5 尾本章/3回) 音波に関する非線形現象について説明する。特に、波動方程式に関して、線形の場合との相違点を明確にする。 (24 伊藤浩史/3回) 非線形振動に関わる諸現象について説明する。具体的には、リミットサイクル、分岐現象、引き込み現象について説明する。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 楽器音響学	<p>「楽器の物理学」の観点から、いくつかの楽器について、その振動場と放射音場を解析する方法を通じて、発音メカニズムを理解し、演奏音の特徴について考察する。打弦楽器としてのピアノについては、その発音メカニズムと演奏音の特徴、擦弦楽器としてのヴァイオリン、およびチェロについては、その発音メカニズムと演奏音の特徴、膜鳴楽器としてのティンパニ、ドラム、インドの伝統打楽器タブラについては、その発音メカニズムと演奏音の特徴、体鳴楽器としてのシンバル、スティールパンについては、その発音メカニズムと演奏音の特徴、気鳴楽器としての篠笛については、その発音メカニズムと演奏音の特徴を考察する。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(36 鮫島俊哉/12回) 打弦楽器、擦弦楽器、膜鳴打楽器、体鳴楽器を対象とした講義を担当する。</p> <p>(7 鏑木時彦/3回) 気鳴楽器を対象とした講義を担当する。</p>	オムニバス方式
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 室内音響学	<p>室内で人が音を聴くという行為は極めて日常的であるが、人は室の境界のあり方と音の聴こえの関係についてあまり注意しない。この授業では室の境界がその中で聴く音の質にどのような影響を与えるのか、また境界をどのようにすれば質の良い音を聴くことができるのかを講義し、室内音響設計・制御に関する技術を習得する。具体的には、対象としての音場を、幾何的、統計的、波動的に取り扱う方法について学び、さらに音場の物理的状態を測定する技術についても学んでいく。また、あわせて具体的に室内音場を制御するための音響材料についても講義する。あわせて、解析によって得られた物理的な指標と心理的な評価との対応関係を考察する。</p>	
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 Design Pitching Skills	<p>この授業は履修者が外国に行って、自らのデザインのアイデアを売り込む状況を想定したものである。履修者が英語を使って自分のアイデアを説明したり、その良さを売り込んだりするためスキルを向上させることを目標とする。授業は対話的なワークショップ形式の一連のセッションを通して、履修者が実際に自分のアイデアの説明し、教員はプレゼンテーションのやり方、コミュニケーションの取り方などを適切に英語で行うための方法を具体的にコーチすることで進め、履修者のスキルを向上させる。</p>	<p>共同</p> <p>コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)</p>
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 Start-ups and Global Disruptors	<p>この授業はデザイン提案を社会実装するための一つのルートとしての起業をテーマとする。その目的は起業家として事業を始めるときに理解しておくべきこと、また、事業を起こすために必要な基本的な理論や知識・方法などについて、ケーススタディなどを通じ、より実践に即した形で、英語により学ぶ。授業では、初期費用のための投資、「死の谷」、買収、新規公開株 (IPO) など、スタートアップ企業が直面する様々な場面について、事例を使って説明する。</p> <p>(オムニバス方式全8回)</p> <p>(78 Loh Wei Leong/3回) 起業に関する障害と起業される企業の発展段階について事例研究の英語による講義を行う。</p> <p>(62 稲村徳州/5回) デザイン提案をスタートアップ企業で実装するプロジェクトに関する演習を英語で指導する。</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>講義6時間 演習10時間</p> <p>コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)</p>
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 Intellectual Property Rights : Global Perspective	<p>知的財産権に係る規定や法律は国によって大きく異なり、国際的なデザイン活動をするためには、デザインによって生み出された価値の保護について広く理解する必要がある。そのため、この授業では日本及び諸外国における知的財産の概念、知的財産にかかわる基本的な事柄について英語による講義を行い、演習形式で様々な文化的脈絡の具体的な事例を挙げながら、知的財産を守るための方策について、履修者が実践に役立つような形で英語により学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式全8回)</p> <p>(78 Loh Wei Leong/4回) 国際的な知的財産の基本概念と国際的な商標や特許に関する英語による講義を行う。</p> <p>(62 稲村徳州/4回) 知的財産権の抵触を防ぐための方法や考え方について具体例を使い英語による演習を行う。</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>講義8時間 演習8時間</p> <p>コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)</p>

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 Global Design Innovations	この授業の目的は現在デザインの世界でどのようなイノベーション事例があり、それがどのように生み出されているかを履修者が知ることにある。そのため、まず、具体的なケーススタディを通して、海外の社会デザインのイノベーションの先進的事例を紹介する。この事例研究で得たアイデアをもとに、演習では、実際にデザインプロジェクトに参加し、社会的な課題に対してプロトタイプを制作し、解決ための提案を英語で行う能力を身に付ける。 (オムニバス方式全8回) (62 稲村徳州 / 2回) 九州大学と海外連携大学とのデザインプロジェクトの事例について英語による講義を行う (62 稲村徳州・78 Loh Wei Leong / 6回) (共同) 現在・近い将来の国際的なデザイン課題を取り上げ、海外連携大学と共同演習を行う。	オムニバス方式・共同 (一部) 講義4時間 演習12時間 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 国際音響デザインA I	音文化、音響環境、音響情報の各分野は、国内だけでなく海外においても共通する高い学術性や国際性を有しており、音響設計が目指す高次のデザイン教育を国際的な展望のもとに実施し、グローバル人材を育成することは非常に重要である。そのために、海外での学習を通じた国際音響デザインの知見習得を目的とした教育科目を提供する。本講義では、音響設計に関する国際的な感覚を養うための知識を学び、学生の国際的なデザイン活動の基盤を作る。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 国際音響デザインA II	音文化、音響環境、音響情報の各分野は、国内だけでなく海外においても共通する高い学術性や国際性を有しており、音響設計が目指す高次のデザイン教育を国際的な展望のもとに実施し、グローバル人材を育成することは非常に重要である。そのために、海外での学習を通じた国際音響デザインの知見習得を目的とした教育科目を提供する。本講義では、音響設計に関する基本概念や国際的な諸課題を学ぶ。国際的に通用する広い視野と学識を身に付ける。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 国際音響デザインA III	音文化、音響環境、音響情報の各分野は、国内だけでなく海外においても共通する高い学術性や国際性を有しており、音響設計が目指す高次のデザイン教育を国際的な展望のもとに実施し、グローバル人材を育成することは非常に重要である。そのために、海外での学習を通じた国際音響デザインの知見習得を目的とした教育科目を提供する。本講義では、音響設計に関する専門知識および国際的な諸課題について理解を深める。社会の状況や科学技術の発展に的確に対応できる豊かな教養と、国際的に通用する広い視野と学識を身に付ける。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 国際音響デザインA IV	音文化、音響環境、音響情報の各分野は、国内だけでなく海外においても共通する高い学術性や国際性を有しており、音響設計が目指す高次のデザイン教育を国際的な展望のもとに実施し、グローバル人材を育成することは非常に重要である。そのために、海外での学習を通じた国際音響デザインの知見習得を目的とした教育科目を提供する。本講義では、音響設計に関する海外の分析手法や研究事例及び最新の研究成果を調査する。社会の状況や科学技術の発展に的確に対応できる豊かな教養と、国際的に通用する専門的な学識を身につける。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 国際音響デザインB I	音文化、音響環境、音響情報の各分野は、国内だけでなく海外においても共通する高い学術性や国際性を有しており、音響設計が目指す高次のデザイン教育を国際的な展望のもとに実施し、グローバル人材を育成することは非常に重要である。そのために、海外での学習を通じた国際音響デザインの知見習得を目的とした教育科目を提供する。本講義では、国際的な視点に立って音響に関連する設計・計画を遂行できる能力を学ぶ。本授業の講義、演習、ディスカッション、発表は外国語により実施する。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 国際音響デザインB II	音文化、音響環境、音響情報の各分野は、国内だけでなく海外においても共通する高い学術性や国際性を有しており、音響設計が目指す高次のデザイン教育を国際的な展望のもとに実施し、グローバル人材を育成することは非常に重要である。そのために、海外での学習を通じた国際音響デザインの知見習得を目的とした教育科目を提供する。本講義では、国際的な視点に立って音響に関連する高度な設計・計画を自主的に遂行できる能力を身につける。本授業の講義、演習、ディスカッション、発表は外国語により実施する。	講義15時間 演習15時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目 音響設計	国際音響デザインBIII	音文化、音響環境、音響情報の各分野は、国内だけでなく海外においても共通する高い学術性や国際性を有しており、音響設計が目指す高次のデザイン教育を国際的な展望のもとに実施し、グローバル人材を育成することは非常に重要である。そのために、海外での学習を通じた国際音響デザインの知見習得を目的とした教育科目を提供する。本講義では、音響設計に関する講義、演習を通じて、国際社会における音文化、音環境、音情報に関連する設計・計画の手法を学ぶ。本授業の講義、演習、ディスカッション、発表は外国語により実施する。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目 音響設計	国際音響デザインBIV	音文化、音響環境、音響情報の各分野は、国内だけでなく海外においても共通する高い学術性や国際性を有しており、音響設計が目指す高次のデザイン教育を国際的な展望のもとに実施し、グローバル人材を育成することは非常に重要である。そのために、海外での学習を通じた国際音響デザインの知見習得を目的とした教育科目を提供する。本講義では、音響設計に関する講義、演習を通じて、国際社会における音文化、音環境、音情報に関連する専門的な手法を身につける。本授業の講義、演習、ディスカッション、発表は外国語により実施する。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目 音響設計	インターンシップ(学部) I	企業、行政機関、公益法人等において、1週間程度(30時間以上)の就業体験を行う。 事前講義ののち、履修者ごとに研修受入れ先の選定、手続きを行い、各コース担当教員との相談の上で、研修申請手続きを行う。所定研修後に互いの経験・成果を履修者同士で共有することを目的としたプレゼンテーション等を各コースで開催する。	
専攻教育科目	コース専門科目 音響設計	インターンシップ(学部) II	企業、行政機関、公益法人等において、2週間程度(60時間以上)の就業体験を行う。 事前講義ののち、履修者ごとに研修受入れ先の選定、手続きを行い、各コース担当教員との相談の上で、研修申請手続きを行う。所定研修後に互いの経験・成果を履修者同士で共有することを目的としたプレゼンテーション等を各コースで開催する。インターンシップIの履修を前提とする。	
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	環境設計プロジェクトC	ランドスケープの基礎的設計手法の習得を目的として、具体的なフィールドを定め、自然・都市的な環境における緑地のリサーチおよび計画を行う。地域環境の自然的、社会的、空間的、時間的特性と人々の利用行動との関係を基調としたランドスケープの形成プロセスを適切に理解し、建築を主体とするものはまた異なる視点から、緑地計画を作成する能力を養い、その意図や内容を的確にプレゼンテーションできるようにすることを目標とする。	共同
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	環境設計プロジェクトD	与えられた敷地において公共建築等を設計するという課題に、以下の二点に注視しつつ取り組む。第一には、建築の空間構成の原理について学び、それを応用すること、そして第二には具体的な都市空間における敷地や現代社会におけるさまざまな課題や可能性を読み解いて、現代において人が集まる空間をつくることの意味を考えることである。それらをふまえたうえで、新たな公共性や魅力をもつ空間・プログラムとしての建築等を提案することを、目標とする。	共同
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	環境設計プロジェクトE	与えられたエリアから敷地を自ら選定し、集合住宅等の設計を行う。敷地および周辺に関するフィールド調査・文献調査等を行って、その歴史的・都市的・空間的な文脈を分析し、それに適合しつつ未来志向的な建築の設計に取り組む。自ら敷地を選ばせることで課題となるエリアを含む都市・地域から当該敷地までをより高い精度で分析できるようになり、それをベースに、その価値をより高めるような設計提案をまとめることを目標とする。	共同
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	環境設計プロジェクトF	文化施設なども含めた公園の総合的な計画・設計を行う。まず、フィールド調査・文献調査や関係者へのヒアリング等を通して地域・社会の特性を把握する。続いて、保全・創造・活用などさまざまな視点を念頭に置きつつ、プログラムの計画立案およびランドスケープの設計を行い、それを図面等で適切に表現し、建築・ランドスケープの関係者だけではなくさまざまな立場の人々に対してプレゼンテーションできるようにすることを目標とする。	共同
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	環境設計プロジェクトG	都市におけるホール・図書館・学校等の施設の設計を行う。フィールドリサーチ等により、地理的環境、都市構造、空間構造、文化的コンテクスト、経済的バックグラウンド、コミュニティの特質などを深く読解し、都市的スケールから敷地周辺まで、さまざまなスケールで自らが設計する施設の意義を考え、それにふさわしい設計提案をするともに、図面・ダイアグラムや文章・口頭発表などにおいて、設計意図と魅力を的確に説明できるようにすることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	環境設計 環境設計プロジェクトH	都市のさまざまな文脈や社会・経済・文化的状況等を読み解いてプログラムを立案し、建築およびランドスケープを統合した街区もしくは都市スケールの設計計画を行う。個々の建築や緑地等とは異なって、空間的にも、おそらくは時間的にもより大きなスケールを対象とすることの意味を考えつつ、都市の将来を見据えた計画立案や設計を行い、図面や口頭発表等を通してその意図を的確にプレゼンテーションできるようにすることを目標とする。	
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	環境設計 環境総合プロジェクトA	建築、ランドスケープなど複数のスタジオから一つを選択し、その課題に取り組む。テーマはスタジオごとに設定されるが、基礎的な調査能力・設計能力は修得済みであることを前提として、より高度な読解および提案が要求されるような、現代および将来のさまざまな問題に向き合った複合的かつ応用的な課題に取り組むものとする。(環境総合プロジェクトBを履修した学生は、同じスタジオ、同じ課題の選択は不可とする。)	
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	環境設計 環境総合プロジェクトB	都市、歴史など複数のスタジオから一つを選択し、その課題に取り組む。テーマはスタジオごとに設定されるが、基礎的な調査能力・設計能力は修得済みであることを前提として、より高度な読解および提案が要求されるような、現代および将来のさまざまな問題に向き合った複合的かつ応用的な課題に取り組むものとする。(環境総合プロジェクトAを履修した学生は、同じスタジオ、同じ課題の選択は不可とする。)	
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	インダストリアルデザイン プロダクトデザイン 実践論・演習 I	身近な単機能製品をテーマに設定した演習と講義を織り交ぜながら行う毎回の授業課題を通じ、プロダクトデザイン実践のための基盤となるスケッチ・作図・モデリングなどの基礎的な表現技法、紙、粘土、スチレンボード、スタイロフォーム、木、金属などの材料を用いた様々な加工法の体験、材料の理解および部材の強度などの設計力基礎、使いやすさや機能向上のための設計、素材やものづくりを考慮したデザイン、バランス・プロポーション・コントラストなど美しさの表現、イメージ表現、機能表現、コンセプト表現などの造形基礎力を修得する。 (オムニバス方式 全8回) (48 藤智亮、67 迫坪知広 / 4回) (共同) 表現技法(スケッチ・作図・モデリング)、機能表現(カップホルダー、スイッチ、LEDライトなど単機能製品)、材料加工の体験、設計力基礎(材料理解、材料力学) (17 平井康之、38 杉本美貴 / 4回) (共同) 素材やものづくり(材料、加工、強度)を考慮したデザイン 美しさ及びイメージ表現(皿、コップ、花瓶など単機能製品)、	オムニバス方式・共同 講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	インダストリアルデザイン プロダクトデザイン 実践論・演習 II	プロダクトデザインの実践編として、複数の機能を持つ製品や製品群のシリーズ展開など、複合的な要素を有する具体的なプロダクトを対象に一連のデザイン開発プロセスを実践し、フォルムの発想法、コンセプトを端的に表現する造形力、プロダクトグラフィックスやユーザーインターフェース、デザインアイデンティティの表現、新たな価値を創造する能力、インクルーシブデザインやサステイナブルデザインなど多様なアプローチなど総合的なプロダクトデザイン力を修得する。 (オムニバス方式 全8回) (38 杉本美貴、67 迫坪知広 / 4回) (共同) コンセプトデザイン(文具、テーブルウェアなどのシリーズ)、同一コンセプトで違うアイテムをデザイン、デザインアイデンティティ (17 平井康之、48 藤智亮 / 4回) (共同) デザインアプローチ発展(行為や経験を形にする)、インクルーシブデザインやサステイナブルデザインなど多様な視点で製品をデザイン	オムニバス方式・共同 講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	インダストリアルデザイン ライフスケープ デザイン論・演習 I	インテリアやパブリックなどの生活を構成する身の回りの「空間」やその空間構成要素である「モノ」との関係性を理解しながら、デザインの具体化を行う。与えられたテーマ(テーマは適宜指示する)に基づいて空間と空間構成要素との関係性を考慮しながら、どのように考えるかでライフスケープ領域におけるデザインが具体的に成立するのかを考える。また、その思考およびそこから創出されるものを誰もが理解できるかたちに具現化し、デザイン提案として発表する。	共同 講義15時間 演習15時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	インダストリアルデザイン ライフスケープデザイン論・演習Ⅱ	コミュニケーション、感性、関係などのキーワードを基軸に空間や空間を構成するモノ要素といった理解しやすいものだけでなく、それらを取りまくコト要素をも含めた総合的な検討を行いデザインの具体化を行う。与えられたテーマ（テーマは適宜指示する）に基づいてコト要素を含めた総合的なデザインがライフスケープ領域においてどのように成立させることができるかを考える。また、その思考およびそこから創出されるモノやコトを誰もが理解できるかたちに具現化し、デザイン提案として発表する。	共同 講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	インダストリアルデザイン ビジネスデザイン論・演習Ⅰ	製品やサービスを開発・改善するときには、競合製品・サービスとの差異化が重要で、そのためには自社と他社製品の機能や価格、売上高や市場シェア、広告やキャンペーンなどのビジネス要素の関係を、直感的に理解できるマップ（ポジショニング・マップ）を作成して比較することが非常に有効である。そこで本科目では、その基礎となるセグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングの理論や手法について、講義、演習を通じて修得する。 (オムニバス方式 全8回) (15 都甲康至/2回) ビジネスデザインの基本と沿革、情報の収集と整理手法（講義・演習） (17 平井康之/2回) ユーザグループの検討、ユーザセグメンテーションとターゲティングの講義と演習 (44 田村良一/2回) 評価スケールの検討、セマンティックプロファイルの講義と演習、ポジショニングマップの作成、ポジショニング分析の講義と演習 (51 松前あかね/2回) アイデアの展開、プレゼンテーションの準備、プレゼンテーション	オムニバス方式 講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	インダストリアルデザイン ビジネスデザイン論・演習Ⅱ	本科目では、人を起点としたアプローチにより、提案価値・価値循環システム・社会的関係性をデザインする方法論を概観した後、顕在化されていない提案価値を探索し、それら探索された提案価値を評価するプロセスを学ぶ。具体的には、講義と演習を関連付けながら、行動観察およびインタビューの技法（半構造化インタビュー・非構造化インタビュー・グループインタビュー）を通じてJTBD (Jobs To Be Done) を導出し、事業的観点からアセスメントを行う方法を習得する。 (オムニバス方式 全8回) (15 都甲康至/2回) 生活者視点のビジネスデザインの基礎理論と手法（行動観察とインタビュー技法など）、インタビュー調査計画とインタビュー技法（半構造化・非構造化など）についての講義と演習 (44 田村良一/2回) グループインタビューについての講義と演習、JTBD概念についての講義と演習 (51 松前あかね/2回) 行動観察・インタビューからの提案価値の探索の演習、提案価値のアセスメントについての講義と演習 (67 迫坪知広/2回) プレゼンテーションの準備、プレゼンテーション・講評・総括	オムニバス方式 講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	インダストリアル 人間工学演習Ⅰ	人間工学領域の基礎的測定・評価手法を習得する。人間工学にて用いられることが多い6つ項目「人間の形態（各種身体寸法）」、「精神活動（脳波）」、「筋活動（表面筋電図）」、「循環調節（心拍数、血圧）」、「エネルギー代謝（酸素摂取量）」、「パフォーマンス（反応時間、フリッカー）」の測定手法を習得し、人間の特性を客観的に調べる能力を身につける。そして得られたデータを解析し、それをレポートにまとめる方法を学ぶ。	共同
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	インダストリアル 人間工学演習Ⅱ	人間工学領域のより発展的な生体情報データ計測・解析を習得することを目的とする。本演習においては、脳波事象関連電位（脳内情報処理過程）、モーションキャプチャを用いた三次元動作（身体の主要部位の座標、関節の角度や身体重心の変化など）、体温調節反応（核心温、皮膚温など）に関わる測定手法とそのデータの読み方を習得する。また、複数の対象者からデータを収集し、それらのデータを解析する方法や結果の解釈の仕方などを学ぶ。	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	イン ダ ス ト リ ア ル デ ザ イ ン	人間工学 プロジェクト演習	本演習では人間工学関連講義科目にて学んだ知識や、人間工学演習Ⅰ～Ⅱで身に着けた脳波、心電図、筋電図、動作解析、エネルギー代謝、皮膚温・核心温などの生体情報の測定解析技術を生かし、実社会における問題提起から人間工学的な解決方法の提案、生体情報の測定、解析、データの考察まで、人間工学的研究の一連の流れを実践する。これらの成果は発表させ、受講者および教員とのディスカッションを通し、人間工学研究の奥深さを知る。	共同
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	イン ダ ス ト リ ア ル デ ザ イ ン	フィールド 調査論・演習	人間の生活、製品、環境等に対する評価、ニーズ・課題抽出等をフィールドで調査するための基礎知識とスキルを講義と演習を通して習得する。講義では主にフィールド調査の必要性、役割、実例を学ぶ。演習ではアンケート調査を中心に、一連の調査プロセス（テーマ設定・文献調査、アンケートの組み立て・回答形式、プライバシー配慮、依頼の仕方、データ収集、データ入力、統計解析、報告書作成、結果の応用）をグループにて取り組み、基礎スキルを高める。 (オムニバス方式 全15回) (44 田村良一、48 藤智亮／4回) インダストリアルデザインにおけるフィールド調査の必要性とその実例 フィールド調査のテーマ設定、データの解析の基礎（基礎統計量、クロス集計） (19 村木里志、77 Loh Ping Yeap／8回) アンケート、インタビューを用いた調査の実践（質問項目の検討、調査用紙の作成、データ収集の方法・注意事項、データ入力の基本等） (19 村木里志、44 田村良一、48 藤智亮、77 Loh Ping Yeap／3回) (共同) 学生による発表（調査背景・目的、中間進捗報告、最終発表）と講評	オムニバス方式・共同（一部） 講義15時間 演習45時間
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	デ ザ イ ン 未 来 構 想	共通課題PBL演習A	プラットフォーム演習・コース融合プロジェクトの基礎あるいは基盤となる授業で、複数の教員により、それぞれのテーマに並列的に取り組む。デザインの演習の基本となる表現スキルや方法などを実践的に取得する。特に共通課題PBL演習Aでは、社会構想や未来構想など社会や環境及び倫理や哲学とアートとデザインの関係性を重視した課題を設定し、その解決のための方法や概念の取得を目指す。また同時にその解決のための新たな問題設定を行う訓練ともなる。	
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	デ ザ イ ン 未 来 構 想	共通課題PBL演習B	プラットフォーム演習・コース融合プロジェクトの基礎あるいは基盤となる授業で、複数の教員により、それぞれのテーマに並列的に取り組む。デザインの演習の基本となる表現スキルや方法などを実践的に取得する。特に共通課題PBL演習Bでは、社会構想や未来構想など情報工学や生命科学その他先端の科学や工学とアートとデザインの関係性を重視した課題を設定し、その解決のための方法や概念の取得を目指す。また同時にその解決のための新たな問題設定を行う訓練ともなる。	
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	デ ザ イ ン 未 来 構 想	プラットフォーム 演習 A	複数の教員が複数の「プラットフォーム」を並列的に提供し、学生が履修することによって、それぞれの専門性を生かしつつ、従来のデザイン領域の枠を超えた広範なデザインスキルや知識の習得を図る。それぞれの「プラットフォーム」のテーマは可変であり、その時のデザイン領域の先端性のあるテーマを設定することにより、常に芸工のデザイン教育が社会の趨勢に沿ったものにする。プラットフォーム演習 Aでは、主として表現やアートなどのアプローチで演習課題に取り組む。	
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	デ ザ イ ン 未 来 構 想	プラットフォーム 演習 B	複数の教員が複数の「プラットフォーム」を並列的に提供し、学生が履修することによって、それぞれの専門性を生かしつつ、従来のデザイン領域の枠を超えた広範なデザインスキルや知識の習得を図る。それぞれの「プラットフォーム」のテーマは可変であり、その時のデザイン領域の先端性のあるテーマを設定することにより、常に芸工のデザイン教育が社会の趨勢に沿ったものにする。プラットフォーム演習Bでは、主として社会構想などのアプローチで演習課題に取り組む。	
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	デ ザ イ ン 未 来 構 想	プラットフォーム 演習 C	複数の教員が複数の「プラットフォーム」を並列的に提供し、学生が履修することによって、それぞれの専門性を生かしつつ、従来のデザイン領域の枠を超えた広範なデザインスキルや知識の習得を図る。それぞれの「プラットフォーム」のテーマは可変であり、その時のデザイン領域の先端性のあるテーマを設定することにより、常に芸工のデザイン教育が社会の趨勢に沿ったものにする。プラットフォーム演習Cでは、主として情報・生命のアプローチで演習課題に取り組む。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	未来構想 プラットフォーム 演習 D	複数の教員が複数の「プラットフォーム」を並列的に提供し、学生が履修することによって、それぞれの専門性を生かしつつ、従来のデザイン領域の枠を超えた広範なデザインスキルや知識の習得を図る。それぞれの「プラットフォーム」のテーマは可変であり、その時のデザイン領域の先端性のあるテーマを設定することにより、常に芸工のデザイン教育が社会の趨勢に沿ったものにする。プラットフォーム演習Dでは、主として国際性のアプローチで演習課題に取り組む。	
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	メディアデザイン 総合プロジェクト I	このプロジェクトでは、原則として専門の異なる複数の教員がグループを組んで、それぞれのグループ毎にプロジェクト課題を提示し、学生はそれらのいずれかを選択する。プロジェクトは、各科目群の特色を活かした総合的な内容とし、学生は、調査からプレゼンテーションまでの経験を通して、それまでに学んだ知識、スキル、経験を活かしたより実践的な問題解決のためのプロジェクトに取り組むことで、総合的なプロジェクト能力を身に付ける。	
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	メディアデザイン 総合プロジェクト II	PBLとして、メディアデザインコースの全教員が単独もしくは複数で、より専門的プロジェクト課題を選択する。本プロジェクトは、卒業研究の前段階にあたるプロジェクトと位置づけられ、学生は3年半学んだ内容をふまえて、それぞれの関心のある専門領域を中心に、プロジェクト課題を選択する。プロジェクト課題の実施においては、高年次の学生との共同作業も含み、メディアデザインに関するより専門的な領域におけるプロジェクトの遂行能力を身に付ける。	
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	メディアデザイン コンテンツ デザイン演習 I	講義「映像表現」および「アニメーション表現」において習得した、映像制作に関する技術や知識を、本講義においては「映像コンテンツ制作演習」として実践的に活用することで、映像コンテンツ制作に関する技術をさらに高め、映像表現に関する知見を一層深める。本講義では、グループ制作を通して、グループ内のコミュニケーション能力、ひとつの作品制作に向けて円滑に作業できる能力、映像作品の構成、目的を第三者に伝える能力を養う。講義終盤で作品発表、合評会を行う。	共同
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	メディアデザイン コンテンツ デザイン演習 II	デジタルゲームを始めとするインタラクティブコンテンツ制作を演習形式で行う。6～7名のグループに分かれ、調査、企画、制作、評価の過程を経て、最終的に試遊も兼ねた展示会を行う。グループ内ではプロデューサー、ディレクター、デザイナー、プログラマーに役割を分担し、これまでに習得したCG制作やゲームオーサリングソフト等のスキルを活用しながら、実際にインタラクティブに動作する完成度の高いコンテンツを制作し、インタラクティブコンテンツに関する知見を一層深める。	
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	メディアデザイン 造形表現演習	美術の動向、造形美術の歴史、創造と脳の関係、身体性やマイノリティへの視座などを、「造形」を軸に概観する。さらに身体性への知識を造形的に発展させるためのワークショップを行い、創造する立場から芸術作品を理解し、社会や人間への意識を深める。コ・クリエーション、クラウドソーシングなど、アートと社会の関わり方を学び、新しい価値観を創造する力を養う。さらにストーリーテリングの能力を深め、新たなクリエイティビティの発見を目指す。	
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	メディアデザイン 数理造形と表現演習	プログラミングによる、グラフィックス、アニメーション、シミュレーション、インタラクション、画像処理、数理造形、その他を行う。テクノロジーを用いた表現を行う手段について学ぶ。基本的には本講義を受講する前に、前提知識となる「数理造形」の講義を受講すること。講義内では、コンピュータグラフィックスのアルゴリズムを基礎とした内容について知識を深める他、各自の興味のある最近のテクノロジーを用いた演習を自ら設定し、表現を学習することも可能である。	
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	メディアデザイン コミュニケーション デザイン演習 I	視覚メディアにおけるコミュニケーション要素としての色・形・テキストチャー、素材としての図像・文字についての基礎知識および表現手法、そして、それらを組み合わせた画面構成について学習する。具体的には、写真撮影およびPCでの作図技法を学び、ポスター、パッケージ、WEB等の課題に取り組むことで、デザインの行程およびメディア特性について理解し習得する。また、その中で発想法や観察・分類・分析に基づく思考法についても学習する。	
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	メディアデザイン コミュニケーション デザイン演習 II	個人による価値判断が求められる現代社会では、コミュニケーションデザインのなかでも、数量や空間的位置、時間に関するデータ、物語など、さまざまな関係性の「視覚化」に関するデザインが果たす役割は今後ますます重要になる。この演習では、そうした視覚化のデザインに必要な視覚的ツールとして、ダイアグラム、地図表現、チャートなどのいわゆる「インフォグラフィクス」、写真や文字記号などを効果的に扱う方法を学ぶ。あわせて視覚化が有効な役割を果たす社会的課題に対する問題解決の能力も養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	メディアデザイン コンテンツ インタラクティブ演習	<p>プログラミングによって様々な種類のコンテンツの処理・生成を行うための工学的技術を、演習を通じて習得する。具体的には、3次元コンピュータグラフィックス(3DCG)、画像処理、自然言語処理の3つのトピックに関して演習を通じて学習する。3DCGでは、3DCGの基礎を習得した後、フォトリアリスティックレンダリングおよびノンフォトリアリスティックなレンダリングについて学習する。画像処理では、基本的な画像処理を実際にプログラミングして画像に適用し、それぞれの処理の使い方やその効果を確認する。自然言語処理では、形態素解析等の自然言語処理の基本的な概念とそれを用いたプログラミングの方法を簡単な例を用いながら習得する。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>第1回～第3回 (14 鶴野玲治、25 井上光平 / 3回) (共同) ノンフォトリアリスティックレンダリングのアルゴリズムを実装して、イラスト風、スタンドグラス風、貼り絵風、ノンフォトリアリスティックハーフトーニングなどのCGアート作品の作成に取り組む。</p> <p>第4回～第6回 (47 原健二、33 小野直樹 / 3回) (共同) プログラミングを通してコンピュータによる画像処理の理解を深めるとともにその利用方法を習得する。演習では、いくつかの基本的な画像処理を取り上げ、それらを実際にプログラミングして画像に適用し、それぞれの処理の使い方やその効果を確認する。</p> <p>第7回～第8回 (30 牛尼剛聡 / 2回) nグラム、形態素解析等の自然言語処理の基本的な概念とアルゴリズムを演習を通じて習得する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	メディアデザイン 実世界 インタラクティブ演習	<p>実世界とのインタラクティブを行うために必要な基礎的な技術を、演習を通じて習得する。この授業は主として、メカニクスデザイン及びインタラクティブインタフェースのトピックを扱う。メカニクスデザインでは、インタラクティブに利用する運動を生成するためのメカニズムの選定、さらにはその構築、およびメカニズムとアクチュエータとの協調動作に必要なメカトロニクス調整について、演習課題を通して理解を深める。インタラクティブインタフェースに関しては、実世界の環境情報を取得しデジタル化するセンサー、実世界で動くアクチュエータの動作を演習形式で学習し、インタラクティブインタフェース設計の指針とする。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>第1回～第4回 (43 竹之内和樹 / 4回) インタラクティブに利用する運動を生成するためのメカニズムの選定、さらにはその構築、およびメカニズムとアクチュエータとの協調動作に必要なメカトロニクス調整について、演習課題を通して理解を深める。</p> <p>第5回～第8回 (27 上岡玲子 / 4回) 実世界の環境情報を取得しデジタル化するセンサー、実世界で動くアクチュエータの動作を演習形式で学習しインタラクティブインタフェース設計の指針とする。</p>	オムニバス方式
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	メディアデザイン クリエイティブ 発想演習	<p>自らのアイデアを具現化するためのアイデア発想とそれを実現するための要素抽出、構造化について習得する。まず、クリエイティブな制作対象に対して、アイデアを具現化するための一連の方法を、制作対象の形状や動き・応答に対する要求と特性とを抽出して対応付け、ハードウェアやプログラムの構築につなげる基本的方法を学ぶ。アイデア創出法も体験する。具体的には、アイデア発想支援のワークショップの実施などを通し、実践的にアイデアを形にするプロセスを学習する。</p>	共同
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	メディアデザイン クリエイティブ プロトタイピング演習	<p>自らのアイデアを具現化するためのプログラミングとハードウェアによる表現力を学習する。具体的にはグループによるプロジェクトベースの学習法で、アイデアを考え、プロトタイピングを行い最後に各グループで発表、デモンストレーションを行うことでアイデアの具現化と体験によるアイデア共有について修養する。教員はそれぞれのグループの提案に対して各自の専門分野の観点からアドバイスをし、アイデアをプロトタイプとして実現する手法を習得する。</p>	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	メディアデザイン メディアサイエンス演習 I	<p>メディアと人間科学に関する研究について調査し、簡単な実験を行うことにより、人間の特性についての理解を深める。主に視覚メディアにおいて人間が情報を受容する過程とその特性について、実験心理学的観点から学ぶ。さまざまな視覚現象において、視覚刺激の操作と被験者の反応との対応関係からその要因を実験的に調べる方法論や、バーチャルリアリティ等の最新メディアにおける人間科学の応用的側面について学び、人間とメディアの関わり方を考える。2名の教員によるオムニバス形式で実施する。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(2 伊藤裕之、40 妹尾武治 / 1回) (共同) オリエンテーション</p> <p>(2 伊藤裕之 / 7回) 主に視覚メディアにおける錯覚を利用して、人間の視覚の特性とその限界を調べ、実験心理学的に視覚現象のメカニズムを推定する方法を学ぶ。</p> <p>(40 妹尾武治 / 7回) バーチャルリアリティ等のメディアにおける人間要因について、視覚を中心とした簡単な実験を行いながら、人間科学とメディアへの応用について考える。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	メディアデザイン メディアサイエンス演習 II	<p>様々な画像メディア (映像、写真、印刷など)は、多くの科学技術が用いられて構築されている。本演習では、以下の2つのトピックスを取り上げ、演習を通してメディアにおける科学技術の貢献や役割について考察を行う。1) 色情報は人間の主観的体験を情報化したものである。このような色情報がメディア間画像にてどのようにやりとりされているのか、さらに、人間がどのように色を見ているのかなどの色の見えについて体験を通して考察する。2) 現在の画像記録および表示は、電子的な方法が主となっている。一方、写真やコピーなどでは、化学的なプロセスで画像が形成記録されている。このような形成記録プロセスが異なる画像形成記録を実際に体験する。</p>	
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	メディアデザイン 比較演劇・メディア文化演習	<p>演劇学、文化比較論、映画論、応用言語学、メディア論、理論言語学、通訳・翻訳学などの学際的な観点から演劇・映画・TVドラマ等を取り上げ、これらのメディアが生み出す芸術文化とその特性に関して理解を深める。特に地域性と受容と演出と異文化コミュニケーションに注目しながら演劇・映画・TVドラマ等に関する具体的な事例研究を行い、関連する芸術文化施設 (劇場・博物館・美術館・資料館等)での実地見学研修を実施し、その研修をもとに受講者に調査・分析・発表してもらうことにより実践的な比較演劇・メディア文化演習を行う。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(31 大島久雄 / 3回) 佐渡や筑豊等、特定の地域の芸術文化を取り上げて、関連する学外演習を実施することにより、メディア論や比較演劇学の観点から芸術文化の地域性に関する実践的な理解を深める。</p> <p>(73 冬野美晴 / 3回) 映画・TVドラマのメディア的特性を応用言語学の観点から取り上げ、異文化コミュニケーションや比較文化論の観点から芸術文化に関する実践的な理解を深める。</p> <p>(76 吉村理一 / 2回) 言語学や通訳・翻訳学の見地から映像コンテンツを分析し、作品に巧みに織り交ぜられる修辞技法や背景に潜む歴史、文化、社会情勢への理解を深める。</p>	オムニバス方式
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	メディアデザイン 知的財産マネジメント演習	<p>知的創作を行った場合の権利 (知的財産権) の発生、保護、活用について具体的な事例を通じて検討する。対象は限定せず、美術品、書籍、音楽、映像 (アニメ・映画)、デザイン (プロダクト・画像・空間)等を対象とする。</p> <p>毎回一つの事例を取り上げ、そのプロジェクトの資金調達・制作管理・宣伝手法・資金回収などについて、知的財産権の活用・他者の知的財産権との抵触などを含めて製作マネジメント全体を分析・検討し、知的財産権の具体的な活用方法について理解する。</p>	

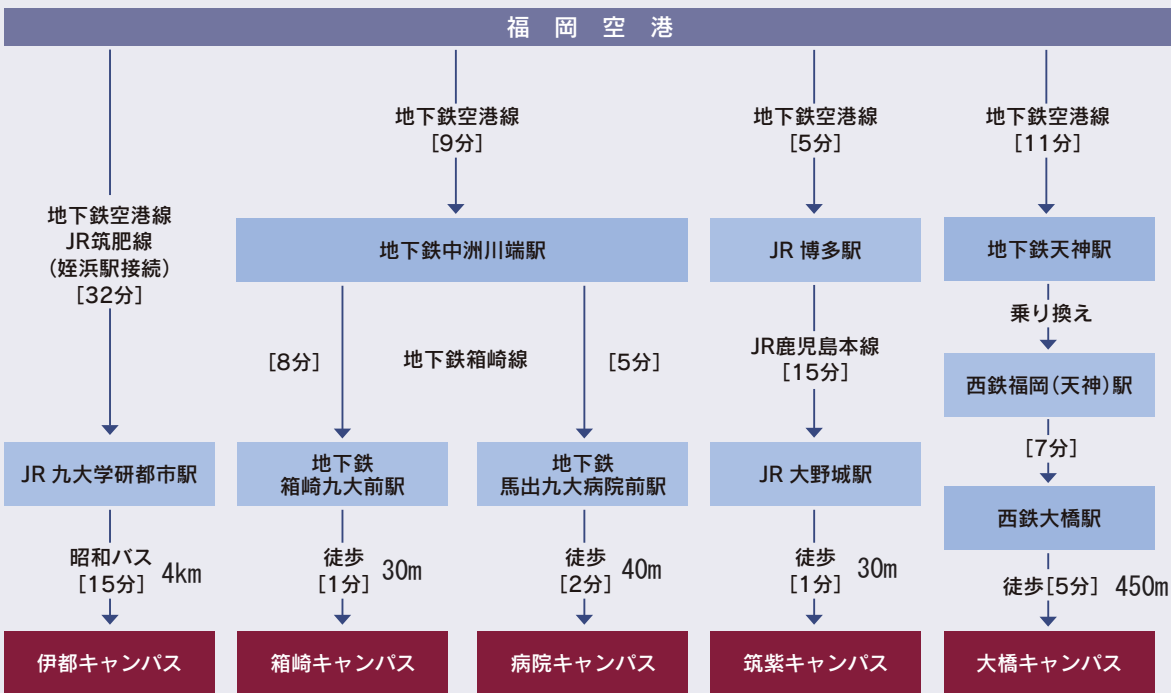
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース演習科目（PBL）	音響設計 聴能形成 I	音響設計技術者は、音に関する幅広い知識と深い理解、さらには音に対する鋭い感性、すなわち、音の違いに気づくだけでなく、その音の違いを生じさせる音響特性の違いまでを正確に認識し、適切に表現できる能力、設計された音や音環境を明確にイメージできる能力、これらすべてを兼ね備える必要がある。このような音に対する感性を高め、音響特性の違いを聞き分ける能力、音を明確にイメージできる能力を養うことを目的として、音の大きさ、高さ、音色の弁別、音の周波数や音圧レベルの判別、さまざまな音源におけるイコライジング周波数の判別等の基礎的な訓練を行う。 (65 河原一彦) 講義や訓練時の説明等を担当 (42 高田正幸) 訓練システムの準備や操作等を担当	共同 講義10時間 実習20時間
専攻教育科目	コース演習科目（PBL）	音響設計 聴能形成 II	聴能形成Iを基礎とし、より実際の音の感性の形成を目指した訓練を行う。具体的には、音色、シャープネス、ラフネス、変動強度、協和性理論といった音響心理学に関連した項目、騒音の周波数特性変化や残響時間、量子化ビット数といった音響工学や情報科学に関連した項目を扱い、詳しい解説を交えながら、聴取時の感覚と音響特性に関連付ける訓練を行う。さらに、身の回りの音環境を意識してもらうために、サウンドスープの概念を説明するとともに、サウンド・エデュケーションを実施する。 (42 高田正幸) 講義や訓練時の説明等を担当 (65 河原一彦) 訓練システムの準備や操作等を担当	共同 講義10時間 実習20時間
専攻教育科目	コース演習科目（PBL）	音響設計 音響プログラミング演習	計算機を用いて音響設計に関わりのある高度な計算処理をプログラミングにより実現するための基礎的な内容についての講義並びに演習を実施する。そのために、C言語の文法やアルゴリズムについての講義と、計算機上で動作するプログラムを作成する演習を通してプログラミング能力を養う。さらにグラフィカルプログラミング環境での演習を通じて、振動や音響信号を取り扱うプログラムの作成について学ぶ。 (オムニバス方式 全15回) (79 若宮幸平/7回) C言語の文法やアルゴリズムの基礎に関する講義と演習を行う。 (53 山内勝也/8回) ProcessingやPureData等のグラフィカルプログラミング環境で、振動や音響信号を取り扱ったプログラミング演習を行う。	オムニバス方式
専攻教育科目	コース演習科目（PBL）	音響設計 電気実験	電気工学および電子工学における技術や問題についての理解を深めることのできる内容に関する実験を実施する。初回に実験で用いる基本的な計測機器であるテスター、マルチメータ、オシロスコープの利用方法について解説を行う。2回目以降は、各自で実験指導書を熟読し共振回路、トランジスタ、マルチバイブレータ回路、論理回路などの電気工学および電子工学に関する実験内容を理解するとともに、実験を通して得られた結果及びその考察を行う能力を養う。	共同
専攻教育科目	コース演習科目（PBL）	音響設計 音楽理論表現演習	授業は「ピアノ実技」と「ソルフェージュ/音楽理論」に分かれており、基礎的な音楽理論および音楽表現の実践を通して、音響設計者として必要とされる、音楽の基礎的思考力・表現力を習得する。「ピアノ実技」では履修者の状況に応じて課題曲を決め、技術や表現への能力や関心を身につける。最終試験はコンサート形式で行う。「ソルフェージュ/音楽理論」では西洋に源流をもつ調性音楽に関する基本知識や、楽譜を基盤にした音の組織法について実践的・主体的に学ぶ。 (69 長津結一郎) ピアノ実技を担当する。 (20 矢向正人, 70 西田絢子) ソルフェージュ/音楽理論を担当する。	共同 講義15時間 演習30時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	音響設計 応用音楽表現演習 I	「ピアノ実技」「集団創作ワークショップ」「エレクトロニクスでの演奏」の3要素から構成され、ピアノ実技ではピアノを用いた高度な技術と表現力を養い、集団創作ワークショップでは即興演奏等のノウハウを用い音楽の場を共にすることについて考え、エレクトロニクスでの演奏ではコンピュータや電子楽器を用いた演奏について、その音楽的な背景を踏まえ、実践を通じて学ぶ。 (20 矢向正人, 70 西田絢子) ピアノ実技を担当する。 (69 長津結一郎) 集団創作ワークショップを担当する。 (37 城一裕) エレクトロニクスでの演奏を担当する。	共同 コース間共通科目 (未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	音響設計 応用音楽表現演習 II	「ピアノ実技」「集団創作ワークショップ」「エレクトロニクスでの演奏」の3要素から構成され、ピアノ実技ではピアノを用いた高度な技術と表現力を養い、集団創作ワークショップでは即興演奏等のノウハウを用い音楽の場を共にすることについて考え、エレクトロニクスでの演奏ではコンピュータや電子楽器を用いた演奏について、その音楽的な背景を踏まえ、実践を通じて学ぶ。最後に発表会を行い、応用音楽表現演習 I と II を通じた、パフォーマンスの多様なあり方を修得する。 (20 矢向正人, 70 西田絢子) ピアノ実技を担当する。 (69 長津結一郎) 集団創作ワークショップを担当する。 (37 城一裕) エレクトロニクスでの演奏を担当する。	共同 コース間共通科目 (未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	音響設計 音響生成演習	音響を生成することの意味を実践を通じて考察する。ポストデジタル以降の音を生み出す構造に関する研究や、音楽家の手を離れて自動的に奏でられる音楽としての生成音楽からの知見に基づき、それら研究成果の実証や古典的作品の再現を通じて、音を発する装置の構造や、作品をめぐる活動の諸相、作品が置かれた芸術的・文化的文脈についての理解を深める。音を生み出す構造を、実際にさまざまな要素から組み立て、作動させ、観察することで、非西洋・20世紀以降を含む音楽の多様なありかたを体験を通じて学ぶ。	
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	音響設計 收音音響構成	音の記録・再生・計測・評価のために、音を正しく取り込み、送り出す技術は不可欠である。收音音響構成では、放送やレコーディングにおけるマイクロホンアレンジメント、ミキシングの実習を通して、音響構成のための感性と技術を学ぶ。ラジオ番組の製作、ピアノ、ヴァイオリン、邦楽など、さまざまな音楽演奏のステレオ録音実習を通して、録音とミキシングの技術を習得する。また、放送施設の見学や劇場音響に関する講義を通して、さまざまな音響構成の現場での音響技術を学ぶ。	講義15時間 実習35時間
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	音響設計 環境音響構成	收音音響構成で学んだ技術を基礎とし、音響環境の記録や評価、映像作品における音響環境の構成・デザイン手法について詳しく学ぶ。前半では、サウンドスケープの概念やサウンドスケープデザイン事例、および環境音の記録や評価の手法に関する基礎的な知識を学ぶ。フィールドレコーディングや環境騒音測定を通して音響環境の構成・デザインに関する理解と感性を深める。後半では、映像作品における音の役割とデザイン手法について基礎知識を学び、映像作品への音の編集実習 (MA実習) を通じて理解を深める。	講義15時間 実習30時間
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	音響設計 音響実験 I	音響実験Iでは、音文化、音響環境、音響情報の各分野における講義形式の授業科目を受講することで得てきた基礎知識をもとに、音響設計のさまざまな分野を網羅する実験課題を通して種々の音響現象を実際に体験することで、音響設計学への理解を深め知識を定着させることを目的とする。さらに、実験課題を通して得られる実験 (観察) データをまとめ、得られた結果について考察し、レポートを作成する過程を通じて、科学的思考能力および表現力を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL) 音響設計	音響実験Ⅱ	音響実験Ⅱでは、音響実験Ⅰと同様に、音響設計の各分野の講義科目によって得られた基礎知識をもとに、実験課題を通して種々の音響現象を実際に体験し、音響設計学への理解を深め知識を定着させることを目的とする。さらに、音響実験Ⅰで学んだ基礎の上に立って、より進んだ内容の実験を行う。実験項目ごとのレポート作成に加えて、本授業の最後に、3年次までに開設されている必修科目で学習する内容についての総まとめをおこなう。	
専攻教育科目	融合プロジェクト フォーラム	コース融合 プロジェクトA	複数の分野（コース）の教員が複合的要素からなる、10程度の「プラットフォーム（課題）」を提示し、学年や所属コースの異なる学生が共同でその課題に取り組む。学生は、これまで身に付けた専門分野の知識やスキルを用いて問題解決に取り組む方法を学ぶと共に、別の専門分野の知識やスキルを経験することで、従来のデザイン領域の枠を超えた広範なデザインスキルや知識の習得を図る。それぞれの「プラットフォーム」のテーマはテクノロジーをベースに発想するような可変のテーマとし、また、その時のデザイン領域の先端性のあるテーマを設定することにより、常に芸工のデザイン教育が社会の趨勢に沿ったものにする。	
専攻教育科目	融合プロジェクト フォーラム	コース融合 プロジェクトB	複数の分野（コース）の教員が複合的要素からなる、10程度の「プラットフォーム（課題）」を提示し、学年や所属コースの異なる学生が共同でその課題に取り組む。学生は、これまで身に付けた専門分野の知識やスキルを用いて問題解決に取り組む方法を学ぶと共に、別の専門分野の知識やスキルを経験することで、従来のデザイン領域の枠を超えた広範なデザインスキルや知識の習得を図る。それぞれの「プラットフォーム」のテーマはアートをベースに発想するような可変のテーマとし、また、その時のデザイン領域の先端性のあるテーマを設定することにより、常に芸工のデザイン教育が社会の趨勢に沿ったものにする。	
専攻教育科目	卒業研究 設計	卒業研究Ⅰ	特定の研究テーマを設定する。関連する先行研究や文献資料、フィールドワーク等の調査を行い、研究方法を構築する。研究目的、調査内容、研究方法・計画等をまとめ、中間発表会で発表する。	
専攻教育科目	卒業研究 設計	卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅰで行った指導を基礎として、研究を進展させ、研究室における活動を続けるとともに、卒業論文の執筆および提出、卒業研究発表会における発表および討論につながるよう、指導、教育する。	



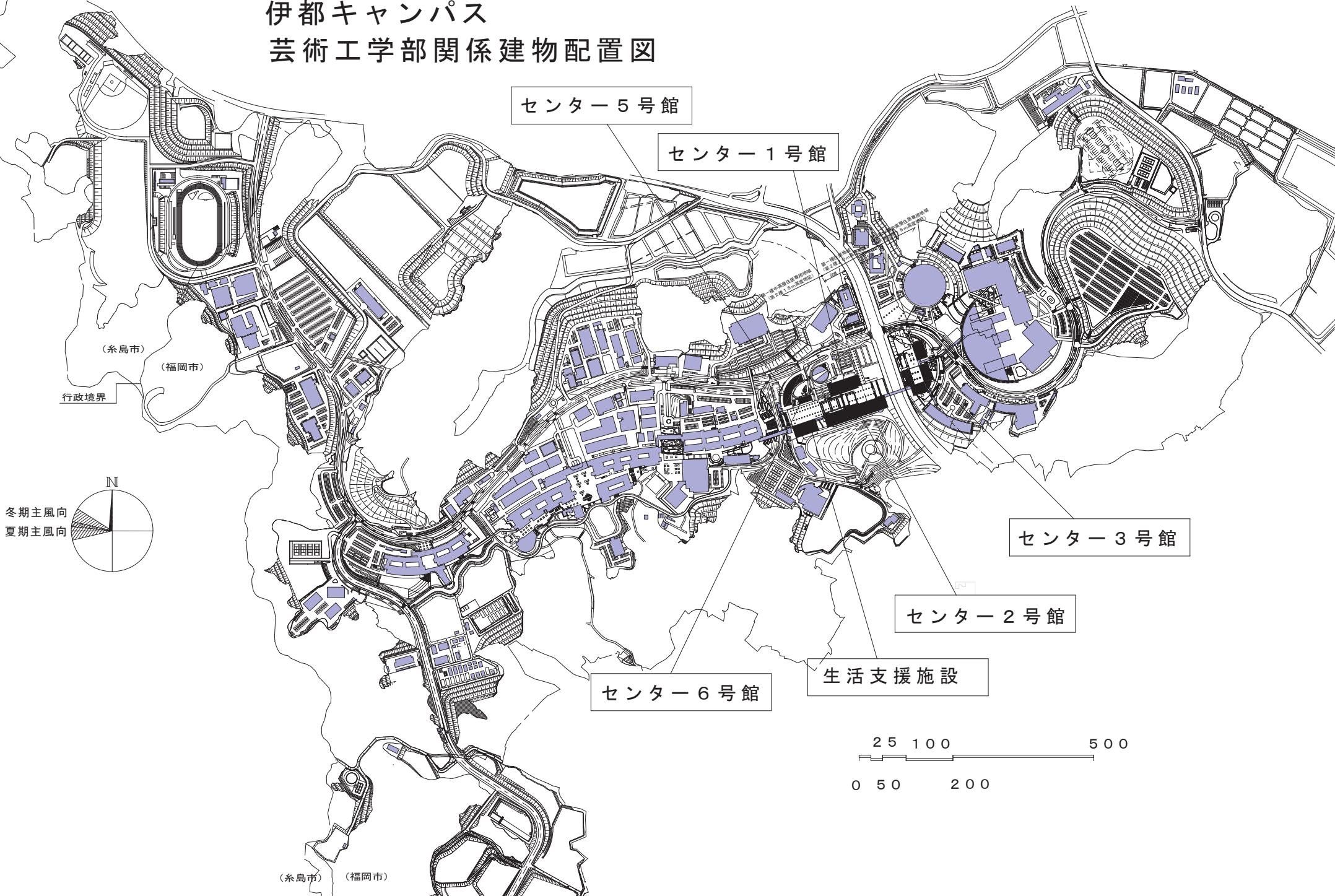
交通アクセス



※所要時間はおおよその時間。
 ※伊都キャンパスへは、博多、天神からの直行バスも運行。
 ※その他のアクセス方法は <http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/campus/access/ito/> でご確認ください。

- 歴代総長 / 運営組織
- 役員等 / 経営協議会委員
- 教育研究 評議会評議員
- 沿革
- 伊都キャンパス への移転
- 学府・研究院 制度について
- 大学の組織
- 部局長等
- 教育研究組織
- 学生定員及び 在籍学生数
- 入学状況
- 学位取得者数等
- 学部卒業・ 大学院修了後 の進路状況
- 教職員数等
- 社会との連携
- 国際交流
- 収入・支出
- 研究プログラム 及び教育プログラ ムの採択状況
- キャンパスマップ
- その他の地区
- 土地・建物・ 諸施設
- 案内図

伊都キャンパス 芸術工学部関係建物配置図



九州大学学則（案）

平成16年度九大規則第1号
制定：平成16年4月1日
最終改正：令和2年 月 日
（令和元年度九大規則第 号）

目次

- 第1章 総則（第1条～第2条の2）
- 第2章 組織等（第3条～第17条）
- 第3章 役員、職員等（第18条～第26条）
- 第4章 役員会、経営協議会、教育研究評議会及び総長選考会議（第27条～第30条）
- 第5章 部局長会議（第31条～第37条）
- 第6章 教授会（第38条）
- 第7章 雑則（第39条）

附則

- 第1章 総則
（目的等）

第1条 九州大学（以下「本学」という。）は、教育基本法（平成18年法律第120号）の精神に則り、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。【学教法第83条】

2 本学は、前項の目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

（自己評価等）

第2条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。【学教法第109条】

2 本学は、前項の自己点検・評価及び第三者評価等多様な評価の結果を本学の目標・計画に反映させ、不断の改革に努めるものとする。

（教育研究活動状況の公表）

第2条の2 本学は、教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、その教育研究活動の状況を公表するものとする。【学教法第113条】

- 第2章 組織等
（学部）

第3条 本学に、次の表に掲げるとおり、学部及び学科を置く。

【学教法第85条】【大学設置基準第4条】

学 部	学 科
共創学部	共創学科
文学部	人文学科
教育学部	
法学部	
経済学部	経済・経営学科、経済工学科
理学部	物理学科、化学科、地球惑星科学科、数学科、生物学科

医学部	医学科、生命科学科、保健学科
歯学部	歯学科
薬学部	創薬科学科、臨床薬学科
工学部	建築学科、電気情報工学科、物質科学工学科、地球環境工学科、エネルギー科学科、機械航空工学科
芸術工学部	芸術工学科
農学部	生物資源環境学科

2 学部又は学科ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、別に規則で定める。**【大学設置基準第2条】**

3 学部又は学科ごとの卒業認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針並びに入学者の受入れに関する方針は、別に定める。

4 各学部の教員組織の編制その他必要な事項は、別に規則で定める。

5 学部の修業年限、教育課程、学生の入学、退学、卒業その他の学生の修学上必要な事項は、九州大学学部通則（平成16年度九大規則第2号）で定める。

（大学院）

第4条 本学に、九州大学大学院（以下「本大学院」という。）を置く。**【学教法第97条】**

2 本大学院は、本学の目的に則り、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。**【学教法第99条】**

3 本大学院のうち、学術の理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とするものは、専門職大学院とする。**【学教法第99条】**

第5条 本大学院に、学校教育法（昭和22年法律第26号）第100条ただし書に規定する研究科以外の教育研究上の基本となる組織として、教育上の目的に応じて組織する学府及び研究上の目的に応じ、かつ、教育上の必要性を考慮して組織する研究院を置く。

【学教法第100条】

第6条 前条の本大学院に置く学府は、次の表の左欄に掲げるとおりとし、当該学府にそれぞれ同表の右欄に掲げる専攻を置く。**【大学院設置基準第6条】**

学 府	専 攻
人文科学府	人文基礎専攻、歴史空間論専攻、言語・文学専攻
地球社会統合科学府	地球社会統合科学専攻
人間環境学府	都市共生デザイン専攻、人間共生システム専攻、行動システム専攻、教育システム専攻、空間システム専攻、実践臨床心理学専攻
法学府	法政理論専攻
法務学府	実務法学専攻
経済学府	経済工学専攻、経済システム専攻、産業マネジメント専攻

理学府	物理学専攻、化学専攻、地球惑星科学専攻
数理学府	数理学専攻
システム生命科学府	システム生命科学専攻
医学系学府	医学専攻、医科学専攻、保健学専攻、医療経営・管理学専攻
歯学府	歯学専攻
薬学府	創薬科学専攻、臨床薬学専攻
工学府	物質創造工学専攻、物質プロセス工学専攻、材料物性工学専攻、化学システム工学専攻、建設システム工学専攻、都市環境システム工学専攻、海洋システム工学専攻、地球資源システム工学専攻、共同資源工学専攻、エネルギー量子工学専攻、機械工学専攻、水素エネルギーシステム専攻、航空宇宙工学専攻
芸術工学府	芸術工学専攻、デザインストラテジー専攻
システム情報科学府	情報学専攻、情報知能工学専攻、電気電子工学専攻
総合理工学府	量子プロセス理工学専攻、物質理工学専攻、先端エネルギー理工学専攻、環境エネルギー工学専攻、大気海洋環境システム学専攻
生物資源環境科学府	資源生物科学専攻、環境農学専攻、農業資源経済学専攻、生命機能科学専攻
統合新領域学府	ユーザー感性学専攻、オートモーティブサイエンス専攻、ライブラリーサイエンス専攻
備考	<p>各学府は、博士課程とする。ただし、医学系学府医科学専攻は修士課程、人間環境学府実践臨床心理学専攻、法務学府実務法学専攻、経済学府産業マネジメント専攻及び医学系学府医療経営・管理学専攻は専門職学位課程（第4条第3項の専門職大学院の課程をいう。以下同じ。）とし、そのうち法務学府実務法学専攻は法科大学院とする。</p>

- 2 学府又は専攻ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、別に規則で定める。
【大学院設置基準第1条の2】
- 3 学府又は専攻ごとの修了認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針並びに入学者の受入れに関する方針は、別に定める。
- 4 博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。
【大学院設置基準第4条第1項】
- 5 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。
【大学院設置基準第3条第1項】
- 6 専門職学位課程は、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力

を培うことを目的とし、そのうち法科大学院にあつては、専ら法曹養成のための教育を行うことをその目的とする。

【専門職大学院設置基準第2条第1項、第18条】

7 各学府の教員組織の編制その他必要な事項は、別に規則で定める。

8 学府の修業年限、教育方法、学生の入学、退学、修了その他の学生の修学上必要な事項は、九州大学大学院通則（平成16年度九大規則第3号）で定める。

第7条 第5条の本大学院に置く研究院は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 人文科学研究院
- (2) 比較社会文化研究院
- (3) 人間環境学研究院
- (4) 法学研究院
- (5) 経済学研究院
- (6) 言語文化研究院
- (7) 理学研究院
- (8) 数理学研究院
- (9) 医学研究院
- (10) 歯学研究院
- (11) 薬学研究院
- (12) 工学研究院
- (13) 芸術工学研究院
- (14) システム情報科学研究院
- (15) 総合理工学研究院
- (16) 農学研究院

(基幹教育院)

第7条の2 本学に、本学の学生として共通に期待される学びの基幹を育成するための全学組織として、基幹教育院を置く。

2 基幹教育院の内部組織その他必要な事項は、別に定める。

(高等研究院)

第7条の3 本学に、高度な研究活動を推進するための全学的組織として、高等研究院を置く。

2 高等研究院は、本学が世界的研究教育拠点として、学界をリードする卓越した研究成果を上げるために、分野を問わず、本学の誇る優れた研究者のうち、その専門分野において極めて高い研究業績を有する者、ポスト・プロフェッサー及び本学の次世代を担う若手研究者が実質的かつ高度な研究活動を展開する場として、全学的な協力体制のもとに設置するとともに、これらの活動を通じて人材を育成し、その研究成果を広く社会に還元することを目的とする。

3 高等研究院の内部組織その他必要な事項は、別に定める。

(附置研究所)

第8条 本学に、研究所を附置する。

2 前項の研究所（以下「附置研究所」という。）は、次の表の左欄に掲げるとおりとし、当該附置研究所の目的は、それぞれ同表の右欄に定めるとおりとする。

【学教法第96条】

附置研究所	目的
生体防御医学研究所	生体防御医学に関する学理及びその応用の研究
応用力学研究所	力学に関する学理及びその応用の研究
先導物質化学研究所	物質化学に関する先導的な総合研究
マス・フォア・インダストリ研究所	数学の産業応用及びその学理研究

3 各附置研究所の内部組織その他必要な事項は、別に規則で定める。
(国際研究所)

第8条の2 本学に、カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所を置く。

2 カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所は、カーボンニュートラル・エネルギー研究に関する基礎科学を創出するとともに、環境調和型で持続可能な社会の実現に向けた課題の解決に貢献することを目的とする。

3 カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所の内部組織その他必要な事項は、別に規則で定める。
(病院)

第9条 医学部及び歯学部に、これらに附属する共用の教育研究施設として、医学部・歯学部附属病院を置き、九州大学病院（以下「病院」という。）と称する。 【大学設置基準第39条】

2 病院の内部組織その他必要な事項は、別に規則で定める。
(附属図書館)

第10条 本学に、附属図書館を置く。 【大学設置基準第36条】

2 附属図書館の内部組織その他必要な事項は、別に規則で定める。

第11条 削除

(情報基盤研究開発センター)

第12条 本学に、研究、教育等に係る情報化を推進するための実践的調査研究、基盤となる設備等の整備及び提供その他専門的業務を行う全国共同利用施設として、情報基盤研究開発センターを置く。

2 情報基盤研究開発センターは、前項の業務のほか、本学における情報基盤に係るシステム開発を行う。

3 情報基盤研究開発センターの内部組織その他必要な事項は、別に規則で定める。
(教育関係共同利用拠点)

第12条の2 第7条の2に規定する基幹教育院は、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号。以下「学教法施行規則」という。）第143条の2第2項の規定により、文部科学大臣の認定を受けた教育関係共同利用拠点として他大学の利用に供するものとする。

(共同利用・共同研究拠点)

第12条の3 次の表に掲げる附置研究所等は、学教法施行規則第143条の3第2項の規定により、文部科学大臣の認定を受けた共同利用・共同研究拠点としてそれぞれ学術研究の発展に資するものとする。

附置研究所等	共同利用・共同研究拠点
生体防御医学研究所	多階層生体防御システム研究拠点
応用力学研究所	応用力学共同研究拠点
先導物質化学研究所	物質・デバイス領域共同研究拠点
マス・フォア・インダストリ研究所	産業数学の先進的・基礎的共同研究拠点
情報基盤研究開発センター	学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点

(エネルギー研究教育機構)

第12条の4 本学に、エネルギー分野における高度な研究及び教育活動を推進するための全学的組織として、エネルギー研究教育機構を置く。

2 エネルギー研究教育機構の内部組織その他必要な事項は、別に定める。

(アジア・オセアニア研究教育機構)

第12条の5 本学に、アジア・オセアニア地域における社会的課題の解決、課題の発掘及び提示に向けた研究教育活動を推進するための全学的組織として、アジア・オセアニア研究教育機構を置く。

2 アジア・オセアニア研究教育機構の内部組織その他必要な事項は、別に定める。
(学内共同教育研究センター)

第13条 本学に、次に掲げるいずれかの機能を担い、本学の教員その他の者が共同して教育研究活動を行う組織として、学内共同教育研究センターを置く。【学教法第96条】

- (1) 主に教育又は研究活動を支援すること。
- (2) 主に教育又は研究を推進すること。
- (3) その他全学業務を推進すること。

2 学内共同教育研究センターは、次の表の左欄に掲げるとおりとし、そのうち設置期間を定める学内共同教育研究センターの当該設置期間の満了する日は、それぞれ同表右欄のとおりとする。

学内共同教育研究センター	設置期間の満了する日
生物環境利用推進センター	
熱帯農学研究センター	
アイソトープ統合安全管理センター	
中央分析センター	
留学生センター	
総合研究博物館	
システムL S I 研究センター	平成33年3月31日
国際宇宙天気科学・教育センター	平成34年3月31日
韓国研究センター	
医療系統合教育研究センター	
超伝導システム科学研究センター	平成35年3月31日
未来デザイン学センター	
グローバルイノベーションセンター	
超顕微解析研究センター	
環境安全センター	
西部地区自然災害資料センター	

大学文書館	
ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センター	
アドミッションセンター	
水素エネルギー国際研究センター	
未来化学創造センター	平成32年3月31日
鉄鋼リサーチセンター	平成32年3月31日
低温センター	
加速器・ビーム応用科学センター	
稲盛フロンティア研究センター	平成32年9月30日
グリーンテクノロジー研究教育センター	平成35年3月31日
シンクロトロン光利用研究センター	
先端融合医療創成センター	平成34年3月31日
極限プラズマ研究連携センター	平成36年3月31日
有体物管理センター	
分子システム科学センター	平成35年3月31日
日本エジプト科学技術連携センター	平成36年3月31日
プラズマナノ界面工学センター	平成36年3月31日
先端医療イノベーションセンター	平成32年3月31日
EUセンター	平成33年5月31日
環境発達医学研究センター	平成33年3月31日
ユヌス&椎木ソーシャル・ビジネス研究センター	平成33年9月30日
バイオメカニクス研究センター	平成33年3月31日
次世代燃料電池産学連携研究センター	平成34年3月31日
科学技術イノベーション政策教育研究センター	平成38年3月31日

先端素粒子物理研究センター	平成35年3月31日
分子システムデバイス産学連携教育研究センター	平成36年3月31日
水素材料先端科学研究センター	平成35年3月31日
アジア埋蔵文化財研究センター	平成35年3月31日
キャンパスライフ・健康支援センター	
五感応用デバイス研究開発センター	平成35年10月31日
持続可能な社会のための決断科学センター	
サイバーセキュリティセンター	
数理・データサイエンス教育研究センター	平成34年3月31日
植物フロンティア研究センター	平成35年3月31日
最先端有機光エレクトロニクス研究センター	平成36年3月31日
都市研究センター	平成36年3月31日

3 各学内共同教育研究センターの内部組織その他必要な事項は、別に規則で定める。

(先導的研究センター)

第13条の2 本学に、先導的に研究を行う拠点として、先導的研究センターを置く。

2 先導的研究センターは、次の表の左欄に掲げるとおりとし、各先導的研究センターの設置期間の満了する日は、それぞれ同表右欄のとおりとする。

先導的研究センター	設置期間の満了する日
免疫機構研究センター	平成32年3月31日
ヒトプロテオーム研究センター	平成35年3月31日
次世代蓄電デバイス研究センター	平成33年3月31日
次世代経皮吸収研究センター	平成33年3月31日
量子ナノスピン物性研究センター	平成32年3月31日
第三段階教育研究センター	平成32年3月31日
スマートモビリティ研究開発センター	平成32年3月31日
惑星微量有機化合物研究センター	平成32年3月31日
浅海底フロンティア研究センター	平成33年3月31日

確率解析研究センター	平成33年3月31日
多重ゼータ研究センター	平成33年3月31日
がん幹細胞研究センター	平成33年3月31日
大気物理統合解析センター	平成34年3月31日

3 各先導的研究センターの内部組織その他必要な事項は、別に規則で定める。
(学部等の附属施設)

第14条 次の表の左欄に掲げる学部、学府、研究院、附置研究所等に、それぞれ同表の右欄に掲げる附属の教育施設又は研究施設を置く。 **【大学設置基準第39条】**

学 部 等	附 属 施 設
理学部	天草臨海実験所
農学部	農場、演習林
人間環境学府	総合臨床心理センター
工学府	ものづくり工学教育研究センター
システム情報科学府	電気エネルギーシステム教育研究センター、高度ICT人材教育開発センター
薬学府	薬用植物園
生物資源環境科学府	水産実験所
理学研究院	地震火山観測研究センター
医学研究院	胸部疾患研究施設、心臓血管研究施設、脳神経病研究施設、ヒト疾患モデル研究センター、総合コホートセンター、プレジジョンメディシン研究センター
歯学研究院	オーラルヘルス・ブレインヘルス・トータルヘルス研究センター
薬学研究院	産学官連携創薬育薬センター
工学研究院	環境工学研究教育センター、アジア防災研究センター、国際教育支援センター、小分子エネルギーセンター
芸術工学研究院	応用知覚科学研究センター、応用生理人類学研究センター、ソーシャルアートラボ、環境設計グローバル・ハブ
システム情報科学研究院	先進電気推進飛行体研究センター

農学研究院	生物的防除研究施設、遺伝子資源開発研究センター、国際農業教育・研究推進センター、イノベティブバイオアーキテクチャーセンター、昆虫科学・新産業創生研究センター
生体防御医学研究所	トランスオミクス医学研究センター、システム免疫学統合研究センター
応用力学研究所	大気海洋環境研究センター、高温プラズマ理工学研究センター、自然エネルギー統合利用センター
カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所	次世代冷媒物性評価研究センター
情報基盤研究開発センター	汎オミクス計測・計算科学センター

2 各附属施設の内部組織その他必要な事項は、当該学部等の長が、別に定める。
(国際交流推進機構)

第15条 本学に、次に掲げる特定の重要事項に関し、企画、実施又は推進する組織として、国際交流推進機構を置く。

- (1) 学術の国際交流の推進
- (2) 学生の海外留学及び外国人留学生受入れ等の推進
- (3) アジアの総合研究等の推進

2 国際交流推進機構の構成その他必要な事項は、別に規則で定める。
(情報統括本部)

第15条の2 本学に、全学的な情報支援を行うための組織として、情報統括本部を置く。

2 情報統括本部の目的は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 全学的な情報基盤の整備
- (2) 情報技術を用いた教育研究及び大学運営に関わる業務の総合的な支援

3 情報統括本部の構成その他必要な事項は、別に規則で定める。
(統合移転推進本部)

第15条の3 本学に、統合移転事業及び伊都キャンパスの整備計画を推進するための組織として、統合移転推進本部を置く。

2 統合移転推進本部の構成その他必要な事項は、別に規則で定める。
(基金本部)

第15条の4 本学に、九州大学基金による支援助成事業及び基金強化事業（以下「基金事業」という。）を推進するための組織として、基金本部を置く。

2 基金本部の構成その他必要な事項は、別に規則で定める。
(広報本部)

第15条の5 本学に、広報戦略の策定及び広報活動の推進を図るための組織として、広報本部を置く。

2 広報本部の構成その他必要な事項は、別に規則で定める。
(グローバル化推進本部)

第15条の6 本学に、全学的なグローバル化を推進するための組織として、グローバル化推進本部を置く。

2 グローバル化推進本部の構成その他必要な事項は、別に規則で定める。
(学術研究・産学官連携本部)

第15条の7 本学に、全学の学術研究及び産学官連携を推進するための組織として、学術研究・産学官連携本部を置く。

2 学術研究・産学官連携本部の構成その他必要な事項は、別に定める。

(教育改革推進本部)

第15条の8 本学に、教育課程及び教育方法等の改善、高大接続・入試改革等の教育改革並びにキャリア教育の開発等を推進するための組織として、教育改革推進本部を置く。

2 教育改革推進本部の構成その他必要な事項は、別に定める。

(推進室等)

第16条 本学に、特定の重要事項を企画、推進又は支援する組織として、推進室等を置く。

2 前項の推進室等は、次の表の左欄に掲げるとおりとし、当該推進室等の目的は、それぞれ同表の右欄に定めるとおりとする。

推進室等	目的
社会連携推進室	社会連携（産学官連携を除く。）の推進を支援すること。
国際交流推進室	国際交流の推進を支援すること。
SHAREオフィス	全学的なグローバル化の推進を支援すること。
インスティテューショナル・リサーチ室	大学運営の基礎となる情報の調査・収集・分析及び提供により、大学の意思決定を支援すること。
キャンパス計画室	キャンパス計画の推進を支援すること。
環境安全衛生推進室	安全衛生の推進を支援すること。
男女共同参画推進室	男女共同参画の推進を支援すること。
情報環境整備推進室	情報環境整備の推進を支援すること。
統合移転事業推進室	統合移転事業及び伊都キャンパスの整備計画に係る企画・立案を行うこと。
法務統括室	法務機能の強化に係る企画・立案を行うこと。
基金事業推進室	基金事業の実施に係る企画・立案を行うこと。
同窓生連携推進室	同窓生との連携に関すること。
広報戦略推進室	広報戦略に基づく広報活動の推進を支援すること。
跡地処分統括室	移転跡地処分のリスクマネジメントに係る企画・立案等を行うこと。

3 前項の各推進室等の内部組織その他必要な事項は、別に定める。

(伊都診療所)

第16条の2 本学に、伊都診療所（以下「診療所」という。）を置く。

2 診療所の内部組織その他必要な事項は、別に定める。

(事務組織)

第17条 本学に、庶務、会計、施設及び学生の厚生補導等に関する事務を処理させるため事務局を置く。

2 本学の学部、学府等に、その事務を処理させるため事務部を置く。ただし、必要がある場合は、数個の学部等の事務を併せて処理する事務部を置く。

3 前2項に規定する事務組織のほか、本学に、内部監査を実施させるとともに、監事監査の事務を補助させるため監査室を置く。

4 前3項の事務組織の内部組織その他必要な事項は、別に規則で定める。

【大学設置基準第41条、第42条】

(技術部)

第17条の2 本学の学部、学府、研究院、基幹教育院、附置研究所等に、教育研究に関する技術的な支援を行わせるため、技術部を置くことができる。

2 前項の技術部の内部組織その他必要な事項は、別に定める。

第3章 役員、職員等

(役員)

第18条 国立大学法人法（平成15年法律第112号。以下「法人法」という。）第10条の規定に基づき、本学に、役員として、学長（「総長」と称する。）、理事8人以内及び監事2人を置く。

【法人法第10条】

第19条 総長は、校務をつかさどり、所属職員を統督するとともに、本学を代表し、その業務を総理する。

【学教法第92条】【法人法第11条】

2 総長は、この規則その他の総長が定める規則等において理事又は職員に委任する業務について報告を求め、必要な措置を命じ、又はその措置を自ら行うことができる。

第20条 理事は、総長の定めるところにより、総長を補佐して本学の業務を掌理し、総長に事故があるときはその職務を代理し、総長が欠員のときはその職務を行う。

【法人法第11条】

第21条 監事は、本学の業務を監査する。この場合において、監事は、監査報告を作成しなければならない。

2 監事は、いつでも、役員（監事を除く。）及び職員に対して事務及び事業の報告を求め、又は本学の業務及び財産の状況を調査することができる。

【法人法第11条】

(職員)

第22条 本学に、教員、事務職員、技術職員、高度専門職員その他必要な職員を置く。

2 前項の教員は、教授、准教授、講師、助教、准助教及び助手（「教務助手」と称する。）とする。

3 教授、准教授、講師、助教及び教務助手の職務は学校教育法（昭和22年法律第26号）第92条の定めるところによるものとし、准助教の職務は教授及び准教授の職務を助けることとする。

【学教法第92条】

(副学長)

第23条 本学に、総長の定めるところにより、総長を助け、命を受けて校務をつかさどるため、副学長若干人を置く。

2 副学長は、理事のうちから総長が指名する者が兼ねる。

3 前項の規定にかかわらず、総長が特に必要と認めた場合は、職員のうちから総長が指名する者が副学長を兼ねることができるものとする。

【学教法第92条】

(副理事)

第24条 本学に、総長の定めるところにより、理事の職務を助けるため、副理事若干人を置く。

1 副理事は、教授その他の職員のうちから総長が指名する。

(総長補佐)

第24条の2 本学に、総長の定めるところにより、総長が命ずる特定の事項を担当し、総長を助けるため、総長補佐若干人を置くことができる。

2 総長補佐は、教授その他の職員のうちから総長が指名する。

(部局長等)

第25条 学部、学府、研究院、基幹教育院、附置研究所、カーボンニュートラル・エネルギー

国際研究所、病院、附属図書館及び情報基盤研究開発センター（以下「部局」という。）に長（以下「部局長」という。）を置く。

- 2 部局長は、当該部局の業務を掌理する。
- 3 各部局に、副部局長を置くことができる。
- 4 副部局長は、部局長の定めるところにより、部局長を補佐して部局の業務を処理し、部局長に事故があるときはその職務を代理し、部局長が欠員のときはその職務を行う。
- 5 部局長及び副部局長の任命手続その他必要な事項は、別に規則で定める。
- 6 学科及び専攻に、それぞれ学科長又は専攻長を置くことができる。
- 7 学科長及び専攻長の任命手続その他必要な事項は、別に定めるものとする。

（センター長等）

第26条 学内共同教育研究センターに長（以下「センター長」という。）を置く。

- 2 センター長は、当該学内共同教育研究センターの業務を掌理する。
- 3 各学内共同教育研究センターに、副センター長を置くことができる。
- 4 副センター長は、センター長の定めるところにより、センター長を補佐して当該学内共同教育研究センターの業務を処理し、センター長に事故があるときはその職務を代理し、センター長が欠員のときはその職務を行う。
- 5 センター長及び副センター長の任命手続その他必要な事項は、別に規則で定める。

第26条の2 先導的研究センターに長（以下「センター長」という。）を置く。

- 2 センター長は、当該先導的研究センターの業務を掌理する。
- 3 各先導的研究センターに、副センター長を置くことができる。
- 4 副センター長は、センター長の定めるところにより、センター長を補佐して当該先導的研究センターの業務を処理し、センター長に事故があるときはその職務を代理する。
- 5 センター長及び副センター長の任命手続その他必要な事項は、別に規則で定める。

（所長）

第26条の3 診療所に、所長を置く。

- 2 所長は、診療所の業務を掌理する。
 - 3 所長は、本学の教員のうちから総長が指名する。
- 第4章 役員会、経営協議会、教育研究評議会及び総長選考会議
（役員会）

第27条 本学に、法人法第11条第2項各号に規定する事項を審議するため、総長及び理事で構成する役員会を置く。 【法人法第11条】

- 2 役員会の議事の手続その他必要な事項は、別に規則で定める。
- （経営協議会）

第28条 本学に、法人法第20条の規定に基づき、本学の経営に関する重要事項を審議する機関として、経営協議会を置く。 【法人法第20条】

- 2 経営協議会の議事の手続その他必要な事項は、別に規則で定める。
- （教育研究評議会）

第29条 本学に、法人法第21条の規定に基づき、本学の教育研究に関する重要事項を審議する機関として、教育研究評議会を置く。 【法人法第21条】

- 2 教育研究評議会の議事の手続その他必要な事項は、別に規則で定める。
- （総長選考会議）

第30条 本学に、法人法第12条第2項から第6項までの規定に基づき、総長選考会議（以下「選考会議」という。）を置く。 【法人法第12条】

- 2 選考会議の組織に関し必要な事項は、別に規則で定める。
- 第5章 部局長会議
（部局長会議）

第31条 本学に、今後の総合計画の企画立案等に関する基本的事項について審議するため、将来計画委員会を置く。

第32条 本学に、予算管理に関する重要事項を審議するため、財務委員会を置く。

第33条 本学に、大学評価に関する重要事項を審議するため、大学評価委員会を置く。

第34条 本学に、ハラスメントの防止に関する事項を審議するため、ハラスメント委員会を置く。

第35条 本学に、男女共同参画の推進に関する事項を審議するために、男女共同参画推進委員会を置く。

第36条 本学に、大学運営上の課題に係る総合的な人事制度、人員管理及び人件費計画等に関する重要事項を審議するために、人事委員会を置く。

第36条の2 本学に、基金事業に関する事項を審議するために、基金委員会を置く。

第36条の3 本学に、障害者差別の解消の推進に関する事項を審議するために、障害者支援推進委員会を置く。

第37条 第31条から前条までに規定する委員会（「部局長会議」と総称する。）の組織、議事の手続その他必要な事項は、別に規則で定める。

第6章 教授会

第38条 部局（病院及び附属図書館を除く。）に、教授会を置く。 **【学教法第93条】**

2 教授会の組織、審議事項、議事の手続その他必要な事項は、九州大学教授会通則（平成16年度九大規則第8号）で定める。

第7章 雑則

（雑則）

第39条 この規則に定めるもののほか、本学の目的を達成するために必要な事項は、別に規則で定める。

附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 法人法附則第16条第1項の規定に基づき本学に置かれる九州大学医療技術短期大学部（以下「短期大学部」という。）は、平成16年4月1日に短期大学部に在学する学生が短期大学部に在学しなくなる日において、廃止する。
- 3 前項の短期大学部に在学する学生の教育課程の履修その他当該学生の教育に必要な事項については、九州大学医療技術短期大学部学則（昭和46年4月8日施行）等の規定によるものとする。
- 4 法人法附則第17条の規定に基づき、平成15年9月30日に当該大学に在学する者が在学しなくなる日までの間存続するものとされた九州芸術工科大学に在学する者（以下「在学者」という。）の卒業又は大学院の課程修了のため必要となる教育は、九州大学芸術工学部（以下「芸術工学部」という。）又は九州大学大学院芸術工学府（以下「芸術工学府」という。）において行うものとする。
- 5 前項の在学者の教育課程の履修その他当該学生の教育に必要な事項については、九州芸術工科大学学則（平成5年4月1日施行）等の規定によるものとする。ただし、これによることができない事項については、総長又は芸術工学部若しくは芸術工学府の教授会が定めるところによる。
- 6 第12条の3に規定する附置研究所等は、文部科学大臣の認定期間である平成34年3月31日までの間存続するものとする。
- 7 第13条第1項に規定する宙空環境研究センターは、平成24年3月31日まで存続するものとする。
- 8 第14条第1項に規定する工学研究院附属の環境システム科学研究センターは平成20年3月31日まで、生体防御医学研究所附属の感染防御研究センターは平成23年3月31日まで、応用力学研究所附属の力学シミュレーション研究センター及び炉心理工学研究センターは平成19年3月31日まで存続するものとする。
- 9 法人法等関係法令又はこの学則等に基づき定める諸規則等のほか、承継的、定型的又は簡易な事項で総長が必要と認めるものについては、当分の間、総長が定めるところにより、廃止前の国立学校設置法（昭和24年法律第150号）に基づき設置された九州大学の諸規則等の規定を適用又は準用するものとする。

附 則（平成16年度九大規則第193号）

- 1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 人間環境学府発達・社会システム専攻は、改正後の第6条第1項の規定にかかわらず、平成17年3月31日に当該専攻に在学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則（平成17年度九大規則第4号）

- 1 この規則は、平成17年7月15日から施行し、平成17年7月1日から適用する。
- 2 改正後の第13条第1項に規定するデジタルメディシン・イニシアティブ及びアジア総合政策センターは、平成22年6月30日まで存続するものとする。

附 則（平成17年度九大規則第23号）

この規則は、平成17年11月7日から施行する。

附 則（平成17年度九大規則第30号）

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 薬学部総合薬学科は、改正後の第3条第1項の規定にかかわらず、平成18年3月31日に当該学科に在学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則（平成18年度九大規則第2号）

この規則は、平成18年6月1日から施行する。

附 則（平成18年度九大規則第25号）

この規則は、平成18年10月1日から施行する。

附 則（平成18年度九大規則第37号）

- 1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第14条第1項に規定する応用力学研究所附属の東アジア海洋大気環境研究センター及び高温プラズマ力学研究センターは、平成29年3月31日まで存続するものとする。
- 3 改正後の第22条第2項に規定する准助教の職種は、平成19年4月1日に当該職に在職する者が在職しなくなる日において、廃止する。

附 則（平成19年度九大規則第27号）

この規則は、平成19年11月1日から施行する。

附 則（平成19年度九大規則第31号）

この規則は、平成19年12月26日から施行する。

附 則（平成19年度九大規則第58号）

- 1 この規則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 理学府基礎粒子系科学専攻、分子科学専攻、凝縮系科学専攻及び生物科学専攻並びに医学系学府機能制御医学専攻、生殖発達医学専攻、病態医学専攻、臓器機能医学専攻、分子常態医学専攻及び環境社会医学専攻は、改正後の九州大学学則（以下「新規則」という。）第6条第1項の規定にかかわらず、平成20年3月31日に当該専攻に在学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

- 3 新規則第14条第1項に規定する工学研究院附属の循環型社会システム工学研究センターは、平成30年3月31日まで存続するものとする。

附 則（平成20年度九大規則第1号）

この規則は、平成20年4月17日から施行し、平成20年4月1日から適用する。

附 則（平成20年度九大規則第9号）

この規則は、平成20年10月1日から施行する。

附 則（平成20年度九大規則第37号）

- 1 この規則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 システム情報科学府情報理学専攻、知能システム学専攻、情報工学専攻、電気電子システム工学専攻及び電子デバイス工学専攻は、この規則による改正後の九州大学学則（以下「新学則」という。）第6条第1項の規定にかかわらず、平成21年3月31日に当該専攻に在学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則（平成21年度九大規則第1号）

この規則は、平成21年5月1日から施行する。

附 則（平成21年度九大規則第5号）

この規則は、平成21年6月1日から施行する。

附 則（平成21年度九大規則第12号）

この規則は、平成21年8月1日から施行し、第13条第1項にシンクロトン光利用研究センターを加える改正規定は、平成21年7月1日から適用する。

附 則（平成21年度九大規則第20号）

1 この規則は、平成21年10月1日から施行する。

2 この規則による改正後の九州大学学則第36条の6の規定は、平成21年9月1日から適用する。

附 則（平成21年度九大規則第33号）

この規則は、平成21年11月1日から施行する。

附 則（平成21年度九大規則第49号）

1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。

2 法学府基礎法学専攻、公法・社会法学専攻、民刑事法学専攻、国際関係法学専攻及び政治学専攻並びに薬学府医療薬科学専攻（修士課程）及び創薬科学専攻（修士課程）並びに工学府機械科学専攻及び知能機械システム専攻並びに生物資源環境科学府生物資源開発管理学専攻、植物資源科学専攻、生物機能科学専攻、動物資源科学専攻、農業資源経済学専攻、生産環境科学専攻、森林資源科学専攻及び遺伝子資源工学専攻は、この規則による改正後の九州大学学則（以下「新規則」という。）第6条第1項の規定にかかわらず、平成22年3月31日に当該専攻に在学する者が在学なくなる日までの間、存続するものとする。

3 九州大学学則（平成16年度九大規則第1号）附則第6項の規定にかかわらず、生体防御医学研究所附属の感染防御研究センターは、廃止する。

附 則（平成22年度九大規則第1号）

この規則は、平成22年4月28日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則（平成22年度九大規則第6号）

この規則は、平成22年7月1日から施行する。

附 則（平成22年度九大規則第12号）

1 この規則は、平成22年8月1日から施行する。ただし、第13条第1項に応用知覚研究センターを加える改正規定は同年9月1日から施行する。

2 この規則による改正後の九州大学学則第13条第1項に規定する応用知覚研究センターは、平成24年3月31日まで存続するものとする。

附 則（平成22年度九大規則第30号）

この規則は、平成22年10月1日から施行する。

附 則（平成22年度九大規則第45号）

この規則は、平成22年12月1日から施行する。

附 則（平成22年度九大規則第47号）

この規則は、平成22年12月1日から施行する。

附 則（平成22年度九大規則第74号）

この規則は、平成23年1月1日から施行する。

附 則（平成22年度九大規則第78号）

この規則は、平成23年2月1日から施行する。

附 則（平成22年度九大規則第81号）

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成23年度九大規則第1号）

この規則は、平成23年5月1日から施行する。

附 則（平成23年度九大規則第4号）

この規則は、平成23年6月1日から施行する。

附 則（平成23年度九大規則第8号）

1 この規則は、平成23年7月1日から施行する。

2 この規則による改正後の九州大学学則第14条第1項に規定するシステム情報科学府附属の高度ICT人材教育開発センターは、平成32年3月31日まで存続するものとする。

附 則（平成23年度九大規則第10号）

この規則は、平成23年8月1日から施行する。

附 則（平成23年度九大規則第12号）

この規則は、平成23年10月1日から施行する。

附 則（平成23年度九大規則第68号）

この規則は、平成23年11月1日から施行する。

附 則（平成23年度九大規則第72号）

この規則は、平成24年1月1日から施行する。

附 則（平成23年度九大規則第80号）

1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。

2 この規則の施行前に設置された薬学府医療薬科学専攻（博士後期課程）及び創薬科学専攻（博士後期課程）は、この規則による改正後の九州大学学則第6条第1項の規定にかかわらず、平成24年3月31日に当該専攻に在学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則（平成24年度九大規則第11号）

この規則は、平成24年10月1日から施行する。

附 則（平成24年度九大規則第29号）

この規則は、平成24年12月1日から施行する。ただし、第25条に係る改正規定は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成24年度九大規則第36号）

この規則は、平成25年1月1日から施行する。

附 則（平成24年度九大規則第37号）

この規則は、平成25年2月1日から施行する。

附 則（平成24年度九大規則第42号）

この規則は、平成25年3月1日から施行する。

附 則（平成24年度九大規則第45号）

1 この規則は、平成25年4月1日から施行する。

2 この規則による改正後の九州大学学則第14条第1項に規定する自然エネルギー統合利用センターは、平成35年3月31日まで存続するものとする。

附 則（平成25年度九大規則第2号）

この規則は、平成25年5月1日から施行する。

附 則（平成25年度九大規則第8号）

この規則は、平成25年6月3日から施行し、平成25年4月1日から適用する。

附 則（平成25年度九大規則第10号）

この規則は、平成25年7月1日から施行する。

附 則（平成25年度九大規則第16号）

この規則は、平成25年8月1日から施行する。ただし、知的財産本部の名称及び目的に係る改正規定は、平成25年9月1日から施行する。

附 則（平成25年度九大規則第40号）

この規則は、平成25年11月1日から施行する。

附 則（平成25年度九大規則第47号）

この規則は、平成25年12月1日から施行する。ただし、第14条第1項の表に薬学研究院の項を加える改正規定は、平成26年1月1日から施行する。

附 則（平成25年度九大規則第51号）

この規則は、平成26年1月1日から施行する。

附 則（平成25年度九大規則第76号）

この規則は、平成26年1月27日から施行する。

附 則（平成25年度九大規則第78号）

この規則は、平成26年3月1日から施行する。

附 則（平成25年度九大規則第83号）

1 この規則は、平成26年4月1日から施行する。

2 比較社会文化学府は、この規則による改正後の九州大学学則第6条第1項の規定にかかわらず、平成26年3月31日に当該学府に在学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則（平成26年度九大規則第2号）

この規則は、平成26年4月30日から施行し、この規則による改正後の九州大学学則の規定は、平成26年4月1日から適用する。

附 則（平成26年度九大規則第6号）

この規則は、平成26年8月1日から施行する。

附 則（平成26年度九大規則第11号）

この規則は、平成26年10月1日から施行する。ただし、第13条第1項の表に係る改正規定は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成26年度九大規則第60号）

この規則は、平成26年12月1日から施行する。

附 則（平成26年度九大規則第70号）

この規則は、平成27年1月22日から施行する。

附 則（平成26年度九大規則第76号）

1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。

2 九州大学高等教育機構規則（平成18年度九大規則第3号）は、廃止する。

附 則（平成26年度九大規則第77号）

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成26年度九大規則第120号）

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成27年度九大規則第2号）

この規則は、平成27年6月1日から施行する。

附 則（平成27年度九大規則第9号）

この規則は、平成27年10月1日から施行する。

附 則（平成27年度九大規則第21号）

この規則は、平成27年12月1日から施行する。

附 則（平成27年度九大規則第23号）

この規則は、平成28年1月1日から施行する。

附 則（平成27年度九大規則第26号）

この規則は、平成28年2月1日から施行する。

附 則（平成27年度九大規則第31号）

この規則は、平成28年3月1日から施行する。

附 則（平成27年度九大規則第34号）

1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。

2 この規則による改正後の九州大学学則第14条第1項に規定する次世代冷媒物性評価研究センターは、平成33年3月31日まで存続するものとする。

附 則（平成28年度九大規則第3号）

この規則は、平成28年6月1日から施行する。

附 則（平成28年度九大規則第8号）

この規則は、平成28年7月1日から施行する。

附 則（平成28年度九大規則第14号）

この規則は、平成28年7月29日から施行する。

附 則（平成28年度九大規則第20号）

この規則は、平成28年10月1日から施行する。

附 則 (平成28年度九大規則第65号)

この規則は、平成28年12月1日から施行する。

附 則 (平成28年度九大規則第69号)

この規則は、平成29年1月1日から施行する。

附 則 (平成28年度九大規則第76号)

この規則は、平成29年2月1日から施行する。

附 則 (平成28年度九大規則第81号)

この規則は、平成29年3月1日から施行する。

附 則 (平成28年度九大規則第85号)

この規則は、平成29年4月1日から施行する。ただし、第14条第1項の表中のオーラルヘルス・ブレインヘルス・トータルヘルス研究センターを加える規定は、平成28年4月1日から適用する。

附 則 (平成29年度九大規則第1号)

この規則は、平成29年5月1日から施行する。

附 則 (平成29年度九大規則第5号)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則 (平成29年度九大規則第8号)

この規則は、平成29年10月1日から施行する。

附 則 (平成29年度九大規則第23号)

この規則は、平成29年11月1日から施行する。

附 則 (平成29年度九大規則第40号)

この規則は、平成30年1月1日から施行する。

附 則 (平成29年度九大規則第48号)

この規則は、平成30年2月1日から施行する。

附 則 (平成29年度九大規則第67号)

1 この規則は、平成30年4月1日から施行する。

2 生物資源環境科学府生物産業創成専攻は、この規則による改正後の九州大学学則第6条第1項の規定にかかわらず、平成30年3月31日に当該専攻に在学する者が在学なくなる日までの間、存続するものとする。

附 則 (平成30年度九大規則第1号)

この規則は、平成30年5月1日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

附 則 (平成30年度九大規則第11号)

この規則は、平成30年7月1日から施行する。ただし、第13条の2の規定は、平成30年4月1日から適用する。

附 則 (平成30年度九大規則第18号)

この規則は、平成30年11月1日から施行する。

附 則 (平成30年度九大規則第22号)

この規則は、平成30年10月1日から施行する。

附 則 (平成30年度九大規則第49号)

この規則は、平成31年1月1日から施行する。

附 則 (平成30年度九大規則第60号)

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則 (令和元年度九大規則第 号)

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

九州大学学則の一部を改正する規則（案）

令和元年度九大規則第 号
 制定：令和2年 月 日

芸術工学部を1学科5コース制に改組することに伴い、九州大学学則（平成16年度九大規則第1号）の一部を次のように改正する。

(新)	(旧)																
(略)	(略)																
(学部) 第3条 本学に、次の表を掲げるとおり、学部及び学科を置く。	(学部) 第3条 本学に、次の表を掲げるとおり、学部及び学科を置く。																
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">学 部</th> <th style="text-align: center;">学 科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(略)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">芸術工学部</td> <td style="text-align: center;"><u>芸術工学科</u></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(略)</td> </tr> </tbody> </table>	学 部	学 科	(略)		芸術工学部	<u>芸術工学科</u>	(略)		<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">学 部</th> <th style="text-align: center;">学 科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(略)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">芸術工学部</td> <td style="text-align: center;"><u>環境設計学科、工業設計学科、画像設計学科、音響設計学科、芸術情報設計学科</u></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(略)</td> </tr> </tbody> </table>	学 部	学 科	(略)		芸術工学部	<u>環境設計学科、工業設計学科、画像設計学科、音響設計学科、芸術情報設計学科</u>	(略)	
学 部	学 科																
(略)																	
芸術工学部	<u>芸術工学科</u>																
(略)																	
学 部	学 科																
(略)																	
芸術工学部	<u>環境設計学科、工業設計学科、画像設計学科、音響設計学科、芸術情報設計学科</u>																
(略)																	
2～5 (略)	2～5 (略)																
(略)	(略)																

附 則

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

目次

- 第1章 総則（第1条～第6条）
- 第2章 入学、再入学、転学部、転入学及び編入学（第7条～第14条）
- 第3章 教育課程、卒業の認定等（第15条～第25条）
- 第4章 退学、転学、留学及び休学（第26条～第33条）
- 第5章 表彰、除籍及び懲戒（第34条～第37条）
- 第6章 検定料、入学料、授業料及び寄宿料（第38条～第42条）
- 第7章 科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、研究生及び専修生（第43条～第47条）

附則

第1章 総則
（趣旨）

第1条 この規則は、九州大学学則（平成16年度九大規則第1号）第3条第5項の規定に基づき、学部の修業年限、教育課程、学生の入学、退学、卒業その他の学生の修学上必要な事項を定めるものとする。

（修業年限等）

第2条 修業年限は、4年とする。

2 前項の規定にかかわらず、医学部医学科、歯学部及び薬学部臨床薬学科の修業年限は、6年とする。【学教法第87条】

3 九州大学（以下「本学」という。）の科目等履修生として一定の単位を修得した者が本学に入学する場合において、当該単位の修得により教育課程の一部を履修したと認められるときは、その単位数に応じて相当期間を修業年限の2分の1を超えない範囲で修業年限に通算することができる。

4 前項の修業年限の通算は、学部教授会の議を経て各学部長が定める。

（在学期間の限度）

第3条 在学期間の限度は、8年とする。

2 前項の規定にかかわらず、医学部医学科、歯学部及び薬学部臨床薬学科の在学期間の限度は、12年とする。

（定員）

第4条 各学部・学科の学生定員は、別表のとおりとする。

（学年及び学期）

第5条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。【学教法規則第163条】

2 学期の区分は、各学部規則において定める。【大学設置基準第23条】

3 前項に定める各学期は、2つの授業期間に区分することができる。

（休業日）

第6条 休業日（授業を行わない日）は、次のとおりとする。

日曜日及び土曜日

国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

本学記念日 5月11日

別に定める春季、夏季及び冬季の各休業日

【大学設置基準第22条】

2 臨時的休業日は、その都度定める。

3 前2項の休業日において、特に必要がある場合には、授業を行うことがある。

第2章 入学、再入学、転学部、転入学及び編入学

（入学の時期）

第7条 学生の入学の時期は、学年の始めとする。ただし、特に必要があり、かつ、教育上支障がないと認めるときは、学期の始めに入学させることができる。

(入学資格)

第8条 本学に入學することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号。以下この条において「旧規程」という。）による大学入学資格検定（以下この条において「旧検定」という。）に合格した者を含む。）
- (8) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第2項の規定により大学に入學した者であつて、本学において、本学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (9) 本学において、個別の入學資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの **【学教法第90条、学教法規則第150条】**

2 前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する者であつて、本学の定める分野において特に優れた資質を有すると認めるものを、本学に入學させることができる。

- (1) 高等学校に2年以上在學した者
- (2) 中等教育学校の後期課程、高等専門学校又は特別支援学校の高等部に2年以上在學した者
- (3) 外国において、学校教育における9年の課程に引き続く学校教育の課程に2年以上在學した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設（高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定したものを含む。）の当該課程に2年以上在學した者
- (5) 前項第5号に規定する専修学校の高等課程に同号に規定する文部科学大臣が定める日以後において2年以上在學した者
- (6) 文部科学大臣が指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則第4条に定める試験科目の全部（試験の免除を受けた試験科目を除く。）について合格点を得た者（旧規程第4条に規定する受験科目の全部（旧検定の一部免除を受けた者については、その免除を受けた科目を除く。）について合格点を得た者を含む。）で17歳に達したもの **【学教法第90条、学教法規則第153条、第154条】**

(入學の出願)

第9条 入學を志願する者は、所定の期日までに、入學志願票に、所定の入學検定料その他別に定める書類を添えて願出しなければならない。

(入學者選抜)

第10条 前条の入學を志願する者については、入學者選抜を行う。 **【学教法規則第144条】**

(入學の手續及び許可)

第10条の2 総長は、前条の入學者選抜の結果合格した者で、所定の期日までに入學料の納付（入學料の全部若しくは一部の免除又は徴収猶予を受けようとする者にあつては、当該免除又は徴収猶予に係る申請）及び所定の書類の提出を完了したものに入學を許可する。

(再入學)

第11条 第26条の規定により退學した後、再び同一学部に入學を志願する者については、選

考の上、再入学を許可することがある。

(転入学又は編入学)

第12条 次の各号のいずれかに該当する者については、選考の上、転入学又は編入学を許可することができる。

- (1) 他の大学の学生で、本学に転入学を志願する者
- (2) 我が国において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程に在学した者(学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。)で、本学に転入学を志願するもの
- (3) 大学において単位(科目等履修生として修得した単位を除く。)を修得した者で、編入学を志願するもの
- (4) 大学を卒業し、又は学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者で、編入学を志願するもの
- (5) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者で、編入学を志願するもの
- (6) 外国の短期大学を卒業した者及び外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を我が国において修了した者(学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。)で、本学に編入学を志願するもの
- (7) 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。)で、編入学を志願するもの
- (8) 高等学校の専攻科の課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。)で、編入学を志願するもの

(転学部)

第12条の2 学部長は、本学の学生で転学部を志願する者について、学部教授会の議を経て選考の上、転学部を許可することができる。

(再入学、転入学及び編入学の手續及び許可)

第13条 第11条及び第12条に規定する再入学、転入学及び編入学に係る手續及び許可については、第10条の2の規定を準用する。

(再入学等における修業年限等の取扱い)

第14条 第11条から第12条の2までの規定により再入学、転学部、転入学及び編入学(以下「再入学等」という。)を許可された者の修業年限及び既修得単位の認定については、学部教授会の議を経て各学部長が別に定める。

2 前項の規定により修業年限を定められた者の在学期間の限度は、当該修業年限の2倍とする。

第3章 教育課程、卒業の認定等

(教育課程)

第15条 各学部の教育課程は、基幹教育科目及び専攻教育科目により編成するものとする。

2 前項の基幹教育科目の履修については、別に定める。

3 第1項の教育課程及び卒業の認定については、各学部規則において定める。

(チャレンジ21)

第16条 本学に、学部ごとに編成する教育課程のほか、学部共通の課程を置く。

2 前項の課程をチャレンジ21と称し、当該課程について必要な事項は、別に定める。

(授業の方法)

第16条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 各学部は、文部科学大臣が定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 各学部は、第1項の授業を、外国において履修させることができる。第2項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所でも履修させる場合についても、同様とする。

【大学設置基準第25条】

(単位の計算方法)

第17条 各授業科目(基幹教育科目を除く。)の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で各学部規則に定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で各学部規則に定める時間の授業をもって1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、当該学部規則に定める時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して当該学部規則に定める時間の授業をもって1単位とする。 **【大学設置基準第21条】**

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目について、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認める場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。 **【大学設置基準第21条】**

3 基幹教育科目の各授業科目の単位の計算方法は、別に定める。

(成績評価基準等の明示等)

第17条の2 学部長は、学生に対して、授業科目の授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 学部長は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。 **【大学設置基準第25条の2】**

(成績評価)

第17条の3 学生が履修した授業科目について、試験により成績評価を行う。ただし、平素の成績をもって、試験の成績に代えることができる。

2 各授業科目の成績は、A、B、C、D及びFの5種の評語をもってあらわし、A、B、C及びDを合格とし、Fを不合格とする。

- A 基準を大きく超えて優秀である。
- B 基準を超えて優秀である。
- C 望ましい基準に達している。
- D 単位を認める最低限の基準には達している。
- F 基準を大きく下回る。

3 前項の規定にかかわらず、演習、実験、実習等の可否等により判定する授業科目は、R又はFの評語をもってあらわすことができるものとし、Rを合格とする。

4 前3項に定めるもののほか成績評価に関し必要な事項は、別に定める。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第17条の4 学部長は、当該学部の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。 **【大学設置基準第25条の3】**

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修)

第18条 学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、当該学部における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。 **【大学設置基準第28条】**

2 前項の規定は、学生が、外国の大学又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。 **【大学設置基準第28条】**

(休学期間中の外国の大学又は短期大学における授業科目の履修)

第19条 学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が休学期間中に外国の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得

したものとみなすことができる。

(大学以外の教育施設における学修)

第20条 学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学部教授会の議を経て各学部長が定めるところにより単位を与えることができる。

【大学設置基準第29条】

(入学前の既修得単位等の認定)

第21条 学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)第31条の規定により科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本学に入学した後の本学の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。外国の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位についても同様とする。

【大学設置基準第30条】

2 学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学部教授会の議を経て各学部長が定めるところにより単位を与えることができる。

【大学設置基準第30条】

(本学において修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数の限度)

第22条 第18条から前条までの規定により本学において修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、第11条及び第12条に規定する再入学等の場合を除き、合わせて60単位を超えないものとする。この場合において、入学前の既修得単位等で第15条第1項に規定する基幹教育科目の授業科目の履修により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、30単位を超えないものとする。

【大学設置基準第28条、第29条、第30条】

(長期にわたる教育課程の履修)

第23条 学生が、職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を学部長に申し出たときは、学部教授会の議を経て各学部長が定めるところにより、その計画的な履修を認めることができる。

【大学設置基準第30条の2】

(卒業)

第24条 第2条に規定する期間在学し、所定の授業科目及び単位数を履修修得した者は、卒業者とし、これに卒業証書を授与する。

【大学設置基準第32条】

2 前項の規定にかかわらず、本学の各学部(医学部医学科、歯学部及び薬学部臨床薬学科を除く。)に3年以上在学した者で、各学部規則の定めるところにより、所定の授業科目及び単位数を優秀な成績で履修修得したものは、卒業者とし、卒業証書を授与することができる。

3 第1項の規定による卒業に必要な単位のうち、第16条の3第2項及び第3項に規定する授業の方法により修得する単位数は、60単位を超えないものとする。ただし、卒業に必要な単位が124単位(医学部医学科及び歯学部歯学科にあつては188単位、薬学部臨床薬学科にあつては186単位)を超える学部にあつては、その超える部分の単位数を60単位に加えることができる。

【学教法第89条】

(学位の授与)

第25条 卒業者には、九州大学学位規則(平成16年度九大規則第86号)の定めるところにより、学士の学位を授与するものとする。

【学教法第104条】【学位規則第2条】

第4章 退学、転学、留学及び休学

(退学)

第26条 学生が退学しようとするときは、学部長を経て総長に退学許可願を提出し、その許可を受けなければならない。

(転学)

第27条 他の大学に転学を志望する学生は、学部長を経て総長に転学許可願を提出し、その許可を受けなければならない。

(留学)

第28条 外国の大学又は短期大学に留学を志望する学生は、学部長に留学許可願を提出し、その許可を受けなければならない。

2 前項の許可を得て留学した期間は、第2条の修業年限に通算することができる。

(休学)

第29条 疾病又は経済的理由のため2月以上修学できない学生は、学部長の許可を得て、その学年の終りまで休学することができる。

2 前項のほか、特別の事情があると認められたときは、学部長は、休学を許可することができる。

第30条 疾病のため修学が不相当と認められる学生に対しては、学部長は、休学を命ずることができる。

第31条 休学期間中に、その事由が消滅したときは、学部長の許可を得て、復学することができる。

第32条 休学した期間は、在学期間に算入しない。

第33条 休学期間は、第2条に規定する修業年限の年数を超えることはできない。ただし、第11条又は第12条の規定により再入学等をした者の休学期間は、第14条第1項に規定する修業年限の年数を超えることができない。

第5章 表彰、除籍及び懲戒

(表彰)

第34条 学生に表彰に値する行為があったときは、総長が表彰することがある。

2 表彰に関し必要な事項は、別に定める。

(除籍)

第35条 総長は、学部長の報告により学生が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、当該学生を除籍することができる。

(1) 欠席が長期にわたるとき。

(2) 成業の見込みがないとき。

(3) 長期間にわたり行方不明のとき。

(4) 第3条又は第14条第2項に規定する在学期間の限度を超えたとき。

(5) 第33条に規定する休学期間を超えてなお復学できないとき。

第36条 総長は、学生が、次の各号のいずれかに該当するときは、当該学生を除籍する。

(1) 入学料の一部を免除された者若しくは免除を不許可とされた者又は入学料の徴収を猶予された者若しくは徴収の猶予を不許可とされた者が、所定の期日までに入学料を納付しないとき。

(2) 授業料の納付を怠り、督促を受けてなお納付しないとき。

(懲戒)

第37条 総長は、学生が本学の規則に違反し、又はその本分に反する行為があったときは、当該学生を懲戒する。

2 前項の場合における懲戒は、訓告、停学及び退学とする。

3 懲戒の手続その他懲戒に関し必要な事項は、別に定める。

第6章 検定料、入学料、授業料及び寄宿料

(検定料)

第38条 入学(再入学、転入学又は編入学を含む。次条において同じ。)を志願する者は、検定料を納付しなければならない。

(入学料)

第39条 入学に当たっては、入学料を納付しなければならない。

2 入学料の納付が困難な者に対し、その全部若しくは一部を免除し、又は徴収猶予することができる。

3 前項の入学料の免除及び徴収猶予に関し必要な事項は、別に定める。

(授業料)

第40条 各年度に係る授業料は、次の表に掲げる納付区分ごとに、それぞれ授業料の年額の2分の1に相当する額を同表に掲げる納期に納付しなければならない。ただし、当該期の授業料

の免除、徴収猶予又は月割分納を申請した者の納期については、この限りでない。

納 付 区 分	納 期
前期（４月１日から９月３０日まで）	４月３０日まで
後期（１０月１日から３月３１日まで）	１０月３１日まで

- 2 休学が前項に定めた授業料納付区分の全期間である場合は、その期間分の授業料を免除する。
- 3 経済的理由により授業料を納付することが困難であると認められ、かつ、学業が優秀と認められる者その他やむを得ない特別の事情があると認められる者については、授業料の全部若しくは一部を免除し、徴収猶予し、又は月割分納を許可することができる。

- 4 前項の授業料の免除、徴収猶予及び月割分納に関し必要な事項は、別に定める。

（寄宿料）

第４１条 寄宿舎に入居した者は、所定の期日までに、寄宿料を納付しなければならない。

- 2 前項の規定にかかわらず、特別の事情があると認められる者については、寄宿料を免除することができる。

（検定料、入学料、授業料及び寄宿料の額等）

第４２条 検定料、入学料、授業料及び寄宿料の額、徴収方法その他の必要な事項については、国立大学法人九州大学における授業料その他の費用に関する規程（平成１６年度九大会規第１２号。以下「費用規程」という。）に定める。

第７章 科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、研究生及び専修生

（科目等履修生）

第４３条 本学の学生以外の者で、学部の授業科目のうち一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、科目等履修生として入学を許可することがある。

【大学設置基準第３１条】

- 2 科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。

（聴講生）

第４４条 本学において、学部で開講する特定の授業科目を聴講することを志願する者があるときは、当該学部の教育研究上支障がない場合に限り、選考の上、聴講生として入学を許可することがある。

- 2 聴講生に関し必要な事項は、別に定める。

（特別聴講学生）

第４５条 他の大学又は外国の大学の学生で、本学において、学部で開講する特定の授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該他の大学又は外国の大学との協議に基づき、特別聴講学生として入学を許可することがある。

- 2 特別聴講学生に関し必要な事項は、別に定める。

（研究生及び専修生）

第４６条 学部において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、当該学部の教育研究上支障がない場合に限り、選考の上、研究生又は専修生として入学を許可することがある。

- 2 研究生及び専修生に関し必要な事項は、別に定める。

（授業料等）

第４７条 科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、研究生及び専修生の検定料、入学料及び授業料の額、徴収方法その他の必要な事項については、費用規程に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成１６年４月１日から施行する。
- 2 平成１６年３月３１日に本学に在学し、平成１６年４月１日以降も引き続き在学する者の教育課程の履修その他当該学生の教育に必要な事項については、九州大学通則（昭和２４年６月１日施行）等の規定によるものとする。

- 附 則（平成16年度九大規則第194号）
この規則は、平成17年4月1日から施行する。
- 附 則（平成17年度九大規則第31号）
この規則は、平成18年4月1日から施行する。
- 附 則（平成18年度九大規則第38号）
この規則は、平成19年4月1日から施行する。
- 附 則（平成19年度九大規則第32号）
この規則は、平成19年12月26日から施行する。
- 附 則（平成19年度九大規則第59号）
- 1 この規則は、平成20年4月1日から施行する。
 - 2 改正後の九州大学学部通則第16条の2の規定は、平成20年度に九州大学に入学する者から適用する。
- 附 則（平成20年度九大規則第38号）
この規則は、平成21年4月1日から施行する。
- 附 則（平成21年度九大規則第50号）
この規則は、平成22年4月1日から施行する。
- 附 則（平成22年度九大規則第83号）
この規則は、平成23年4月1日から施行する。
- 附 則（平成23年度九大規則第81号）
この規則は、平成24年4月1日から施行する。
- 附 則（平成24年度九大規則第47号）
この規則は、平成25年4月1日から施行する。
- 附 則（平成25年度九大規則第84号）
- 1 この規則は、平成26年4月1日から施行する。
 - 2 この規則による改正後の九州大学学部通則第15条及び第22条の規定は、平成26年度に九州大学に入学する者から適用し、平成26年3月31日に九州大学に在学し、同年4月1日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。
- 附 則（平成26年度九大規則第78号）
この規則は、平成27年4月1日から施行する。
- 附 則（平成27年度九大規則第36号）
この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 附 則（平成28年度九大規則第86号）
この規則は、平成29年4月1日から施行する。
- 附 則（平成29年度九大規則第6号）
この規則は、平成30年4月1日から施行する。
- 附 則（平成29年度九大規則第68号）
- 1 この規則は、平成30年4月1日から施行する。
 - 2 この規則による改正後の九州大学学部通則は、平成30年度に九州大学に入学する者から適用し、平成30年3月31日に九州大学に在学し、同年4月1日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。
- 附 則（平成30年度九大規則第61号）
この規則は、平成31年4月1日から施行する。
- 附 則（令和元年度九大規則第 号）
この規則は、令和2年4月1日から施行する。

別表（第4条関係）

学部名	学科名	学生定員						収容定員
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
共創学部	共創学科	105	105	105	—	—	—	315
文学部	人文学科	151	151	151	160	—	—	613
教育学部		46	46	46	50	—	—	188
法学部		189	189	189	200	—	—	767
経済学部	経済・経営学科	141	141	141 (10)	150 (10)	—	—	573 (20)
	経済工学科	85	85	85 (10)	90 (10)	—	—	345 (20)
	計	226	226	226 (20)	240 (20)	—	—	918 (40)
理学部	物理学科	55	55	55	59	—	—	224
	化学科	62	62	62	67	—	—	253
	地球惑星科学科	45	45	45	48	—	—	183
	数学科	50	50	50 (5)	54 (5)	—	—	204 (10)
	生物学科	46	46	46	49	—	—	187
	計	258	258	258 (5)	277 (5)	—	—	1,051 (10)
医学部	医学科	111	111	111	111	111	111	666
	生命科学科	12	12	12	12	—	—	48
	保健学科	134	134	134	137	—	—	539
	計	257	257	257	260	111	111	1,253
歯学部	歯学科	53	53	53	53	53	53	318
薬学部	創薬科学科	49	49	49	50	—	—	197
	臨床薬学科	30	30	30	30	30	30	180

	計	79	79	79	80	30	30	377
工学部	建築学科	58	58	58	60	—	—	234
	電気情報工学科	153	153	153	158	—	—	617
	物質科学工学科	163	163	163	168	—	—	657
	地球環境工学科	145	145	145	150	—	—	585
	エネルギー科学科	95	95	95	99	—	—	384
	機械航空工学科	164	164	164	169	—	—	661
	計	778	778	778	804	—	—	3,138
芸術工学部	(環境設計学科)	—	35	35	38	—	—	108
	(工業設計学科)	—	45	45	48	—	—	138
	(画像設計学科)	—	35	35	38	—	—	108
	(音響設計学科)	—	35	35	38	—	—	108
	(芸術情報設計学科)	—	37	37	40	—	—	114
	芸術工学科	187	—	—	—	—	—	187
	計	187	187	187	202	—	—	763
農学部	生物資源環境学科	226	226	226	229	—	—	907
総	計	2,555	2,555	2,555 (25)	2,555 (25)	194	194	10,608 (50)

(備考)

- 1 学生定員の（ ）を付したものは3年次編入学定員で外数
- 2 （ ）を付した学科は、学部の改組により、学生募集を停止したものである。
- 3 外国人である学生は、定員外とすることができる。

九州大学学部通則の一部を改正する規則（案）

令和元年度九大規則第 号
制 定：令和2年 月 日

共創学部の年次進行及び芸術工学部改組に伴い、九州大学学部通則（平成16年度九大規則第2号）の一部を次のように改正する。

(新)	(旧)
(略) (定員) 第4条 各学部・学科の学生定員は、別表のとおりとする。 (略) 別表 <u>(別紙のとおり)</u>	(略) (定員) 第4条 (同左) (略) 別表 <u>(別紙のとおり)</u>

附 則

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

新

学部名	学科名	学生定員						収容定員
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
共創学部	共創学科	105	105	<u>105</u>	—	—	—	<u>315</u>
文学部	人文学科	151	151	<u>151</u>	160	—	—	<u>613</u>
教育学部		46	46	<u>46</u>	50	—	—	<u>188</u>
法学部		189	189	<u>189</u>	200	—	—	<u>767</u>
経済学部	経済・経営学科	141	141	<u>141</u> (10)	150 (10)	—	—	<u>573</u> (20)
	経済工学科	85	85	<u>85</u> (10)	90 (10)	—	—	<u>345</u> (20)
	計	226	226	<u>226</u> (20)	240 (20)	—	—	<u>918</u> (40)
理学部	物理学科	55	55	<u>55</u>	59	—	—	<u>224</u>
	化学科	62	62	<u>62</u>	67	—	—	<u>253</u>
	地球惑星科学科	45	45	<u>45</u>	48	—	—	<u>183</u>
	数学科	50	50	<u>50</u> (5)	54 (5)	—	—	<u>204</u> (10)
	生物学科	46	46	<u>46</u>	49	—	—	<u>187</u>
	計	258	258	<u>258</u> (5)	277 (5)	—	—	<u>1,051</u> (10)
医学部	医学科	111	111	111	111	111	111	666
	生命科学科	12	12	12	12	—	—	48
	保健学科	134	134	<u>134</u>	137	—	—	<u>539</u>
	計	257	257	<u>257</u>	260	111	111	<u>1,253</u>

歯学部	歯学科	53	53	53	53	53	53	318
薬学部	創薬科学科	49	49	<u>49</u>	50	—	—	<u>197</u>
	臨床薬学科	30	30	30	30	30	30	180
	計	79	79	<u>79</u>	80	30	30	<u>377</u>
工学部	建築学科	58	58	<u>58</u>	60	—	—	<u>234</u>
	電気情報工学科	153	153	<u>153</u>	158	—	—	<u>617</u>
	物質科学工学科	163	163	<u>163</u>	168	—	—	<u>657</u>
	地球環境工学科	145	145	<u>145</u>	150	—	—	<u>585</u>
	エネルギー科学科	95	95	<u>95</u>	99	—	—	<u>384</u>
	機械航空工学科	164	164	<u>164</u>	169	—	—	<u>661</u>
	計	778	778	<u>778</u>	804	—	—	<u>3,138</u>
芸術工学部	<u>(環境設計学科)</u>	<u>—</u>	35	<u>35</u>	38	—	—	<u>108</u>
	<u>(工業設計学科)</u>	<u>—</u>	45	<u>45</u>	48	—	—	<u>138</u>
	<u>(画像設計学科)</u>	<u>—</u>	35	<u>35</u>	38	—	—	<u>108</u>
	<u>(音響設計学科)</u>	<u>—</u>	35	<u>35</u>	38	—	—	<u>108</u>
	<u>(芸術情報設計学科)</u>	<u>—</u>	37	<u>37</u>	40	—	—	<u>114</u>
	芸術工学科	<u>187</u>	—	—	—	—	—	<u>187</u>
	計	187	187	<u>187</u>	202	—	—	<u>763</u>
農学部	生物資源環境学科	226	226	<u>226</u>	229	—	—	<u>907</u>
総	計	2,555	2,555	2,555 (25)	2,555 (25)	194	194	10,608 (50)

(備考)

- 1 学生定員の () を付したものは3年次編入学定員で外数
- 2 () を付した学科は、学部の改組により、学生募集を停止したものである。
- 3 外国人である学生は、定員外とすることができる。

別表（第4条関係）

学部名	学科名	学生定員						収容定員
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
共創学部	共創学科	105	105	—	—	—	—	<u>210</u>
文学部	人文学科	151	151	<u>160</u>	160	—	—	<u>622</u>
教育学部		46	46	<u>50</u>	50	—	—	<u>192</u>
法学部		189	189	<u>200</u>	200	—	—	<u>778</u>
経済学部	経済・経営学科	141	141	<u>150</u> (10)	150 (10)	—	—	<u>582</u> (20)
	経済工学科	85	85	<u>90</u> (10)	90 (10)	—	—	<u>350</u> (20)
	計	226	226	<u>240</u> (20)	240 (20)	—	—	<u>932</u> (40)
理学部	物理学科	55	55	<u>59</u>	59	—	—	<u>228</u>
	化学科	62	62	<u>67</u>	67	—	—	<u>258</u>
	地球惑星科学科	45	45	<u>48</u>	48	—	—	<u>186</u>
	数学科	50	50	<u>54</u> (5)	54 (5)	—	—	<u>208</u> (10)
	生物学科	46	46	<u>49</u>	49	—	—	<u>190</u>
	計	258	258	<u>277</u> (5)	277 (5)	—	—	<u>1,070</u> (10)
医学部	医学科	111	111	111	111	111	111	666
	生命科学科	12	12	12	12	—	—	48
	保健学科	134	134	<u>137</u>	137	—	—	<u>542</u>
	計	257	257	<u>260</u>	260	111	111	<u>1,256</u>

歯学部	歯学科	53	53	53	53	53	53	318
薬学部	創薬科学科	49	49	<u>50</u>	50	—	—	<u>198</u>
	臨床薬学科	30	30	30	30	30	30	180
	計	79	79	<u>80</u>	80	30	30	<u>378</u>
工学部	建築学科	58	58	<u>60</u>	60	—	—	<u>236</u>
	電気情報工学科	153	153	<u>158</u>	158	—	—	<u>622</u>
	物質科学工学科	163	163	<u>168</u>	168	—	—	<u>662</u>
	地球環境工学科	145	145	<u>150</u>	150	—	—	<u>590</u>
	エネルギー科学科	95	95	<u>99</u>	99	—	—	<u>388</u>
	機械航空工学科	164	164	<u>169</u>	169	—	—	<u>666</u>
	計	778	778	<u>804</u>	804	—	—	<u>3,164</u>
芸術工学部	環境設計学科	<u>35</u>	35	<u>38</u>	38	—	—	<u>146</u>
	工業設計学科	<u>45</u>	45	<u>48</u>	48	—	—	<u>186</u>
	画像設計学科	<u>35</u>	35	<u>38</u>	38	—	—	<u>146</u>
	音響設計学科	<u>35</u>	35	<u>38</u>	38	—	—	<u>146</u>
	芸術情報設計学科	<u>37</u>	37	<u>40</u>	40	—	—	<u>154</u>
	計	187	187	<u>202</u>	202	—	—	778
農学部	生物資源環境学科	226	226	<u>229</u>	229	—	—	<u>910</u>
総	計	2,555	2,555	2,555 (25)	2,555 (25)	194	194	10,608 (50)

(備考)

- 1 学生定員の（ ）を付したものは3年次編入学定員で外数
- 2 （ ）を付した学科は、学部の改組により、学生募集を停止したものである。
- 3 外国人である学生は、定員外とすることができる。

九州大学学位規則

平成16年度九大規則第86号
施行：平成16年 4月 1日
最終改正：平成31年 3月 22日
(平成30年度九大規則第87号)

(趣旨)

第1条 この規則は、学位規則（昭和28年文部省令第9号）により定めるように規定されている事項その他九州大学（以下「本学」という。）が授与する学位について必要な事項を定めるものとする。

(学位)

第2条 本学が授与する学位は、学士、修士及び博士とする。

2 本学が授与する専門職学位は、修士（専門職）及び法務博士（専門職）とする。

(学士の学位授与の要件)

第3条 学士の学位授与は、本学の課程を修了し、卒業を認定された者に対し行うものとする。

(修士の学位授与の要件)

第4条 修士の学位授与は、本学大学院の学府の修士課程を修了した者に対し行うものとする。

2 前項に定めるもののほか、修士の学位は、九州大学大学院通則（平成16年度九大規則第3号。以下「大学院通則」という。）第2条第5項に定める一貫制博士課程（以下「一貫制博士課程」という。）において、大学院通則第27条及び第27条の2に規定する修了要件を満たした者に対し授与することができる。

(博士の学位授与の要件)

第5条 博士の学位授与は、本学大学院の学府の博士課程を修了した者に対し行うものとする。

(専門職学位の授与の要件)

第6条 専門職学位の授与は、本学大学院の学府の専門職大学院の課程を修了した者に対し行うものとする。

(修士の学位授与)

第7条 修士の学位授与に関して必要な事項は、各学府規則で定める。

(博士論文の提出)

第8条 博士論文（以下「論文」という。）は、博士後期課程にあつては2年以上（法科大学院の課程を修了した者が博士後期課程に入学した場合にあつては1年以上）、医学系学府医学専攻、歯学府及び薬学府臨床薬学専攻の博士課程（以下「医学系、歯学及び薬学の博士課程」という。）にあつては3年以上、一貫制博士課程にあつては4年以上在学し、各学府規則に定める所要の授業科目の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けなければ、提出することができない。

2 前項の規定にかかわらず、優れた研究業績を上げた者については、在学期間が博士後期課程にあつては2年、医学系、歯学及び薬学の博士課程にあつては3年、一貫制博士課程にあつては4年に満たなくても論文を提出させることができる。

3 論文は、在学期間中に提出するものとし、その期日は、各学府規則で定める。ただし、博士後期課程、医学系、歯学及び薬学の博士課程又は一貫制博士課程に所定の年限在学し、各学府規則に定める所要の授業科目の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者は、退学の上、別に定める期間内に論文を提出することができる。

4 論文は、論文審査願に、論文目録、論文要旨及び履歴書各1通を添え、当該学府長を経て総長に提出するものとする。

第9条 論文は、1編とし、2通を提出するものとする。ただし、参考として、他の論文を添付することができる。

2 総長は、審査のため必要があるときは、論文の副本又は訳文、模型、標本等の提出を求めることがある。

3 受理した論文は、返還しない。

(論文の審査)

第10条 総長は、論文を受理したときは、学府教授会にその審査を付託するものとする。

2 前項の審査は、論文を受理した後1年以内に終了するものとする。

- 第11条 学府教授会は、前条第1項により付託された論文を審査するため、論文調査委員（以下「調査委員」という。）を定めて、その論文の調査及び最終試験を行わせる。
- 2 調査委員は、3名以上とし、必要に応じ、他の大学院又は研究所等の教員等を加えることができる。
- 第12条 最終試験は、論文を中心とし、これに関連のある授業科目について、口頭又は筆答により行うものとする。
- 第13条 調査委員は、論文調査及び最終試験を終了したときは、調査及び最終試験の結果の要旨を、文書をもって、学府教授会に報告しなければならない。
- 第14条 学府教授会は、前条の報告に基づき、学位を授与すべきか否かを審査する。
- 2 前項の審査は、構成員の3分の2以上が出席し、出席者の3分の2以上の賛成があることを必要とする。
（審査結果の報告）
- 第15条 学府教授会は、前条の審査の結果を文書をもって、総長に報告しなければならない。
（論文提出による博士）
- 第16条 第5条に定めるもののほか、博士の学位授与は、本学大学院の学府の行う論文の審査に合格し、かつ、本学大学院の学府の博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することの確認（以下「学力の確認」という。）をされた者に対し行うことができる。
- 2 第8条第3項ただし書に規定する者が、退学の上、同項ただし書に定める期間を経過した後に論文を提出した場合も、前項の例による。
- 3 前2項により博士の学位を請求しようとする者は、学位申請書に、学位論文2通、同目録、論文要旨及び履歴書各1通並びに総長が定める審査手数料を添え、関係学府を経て、総長に提出しなければならない。
- 4 既納の審査手数料は、返還しない。
- 5 第9条の規定は、第3項の規定による学位の請求に準用する。
- 第17条 総長は、前条による論文を受理したときは、学府教授会にその審査を付託するものとする。
- 2 学府教授会は、調査委員を定めて、その論文の調査及び学力の確認を行わせる。
- 3 第10条第2項及び第11条第2項の規定は、前2項の場合に準用する。
- 第18条 論文の調査にあたっては、原則として試験を行う。
- 2 試験は、論文を中心とし、これに関連のある授業科目について、口頭又は筆答により行うものとする。
- 第19条 学力の確認は、試問による。
- 2 試問は、口頭又は筆答によるものとし、専攻分野に関し本学大学院の学府の博士課程を修了した者と同等以上の学力を有し、かつ、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力を有するか否かについて行う。この場合、外国語を課すものとし、その種類は、各学府教授会において定める。
- 3 第1項の規定にかかわらず、十分な研究歴と顕著な研究業績を有する者については、試問以外の方法により学力の確認を行うことができる。
- 第20条 前2条の規定による論文の調査及び学力の確認の結果の取扱いについては、第13条から第15条までの規定を準用する。
（専門職学位の授与）
- 第21条 専門職学位の授与に関して必要な事項は、専門職大学院の課程を置く学府の各学府規則で定める。
（学位記の授与）
- 第22条 総長は、第15条（第20条において準用する場合を含む。）の報告を踏まえ、学位を授与すべきか否かを決定し、博士の学位を授与すべき者に学位記を授与し、学位を授与できない者にはその旨を通知する。
- 2 総長は、卒業並びに修士課程及び専門職大学院の課程修了の審査結果の報告を踏まえ、学位を授与すべきか否かを決定し、学士若しくは修士の学位又は専門職学位を授与すべき者に学位記を授与する。
（学位授与の報告等）

第23条 総長は、前条第1項により博士の学位を授与したときは、当該学位を授与した日から3月以内に、所定の様式による学位授与報告書を文部科学大臣に提出するとともに、その論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

(学位論文の公表)

第24条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表しなければならない。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、学府の承認を得て、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表することができる。この場合において、当該学府は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 博士の学位を授与された者が行う前2項の規定による公表は、インターネットの利用により行うものとする。

4 第1項及び第2項により論文を公表する場合には、本学において審査を受けた学位論文であることを、明記しなければならない。

第25条 本学の学位を授与された者が、学位の名称を用いるときは、「九州大学」と付記しなければならない。ただし、共同教育課程に係る学位にあっては、本学に加え、当該共同教育課程を編成する他の大学の名称を付記しなければならない。

(学位の名称)

第26条 第2条の学位(法務博士(専門職)を除く。)を授与するに当たっては、専攻分野の名称を付記するものとし、学位の名称は、学士にあっては別表第1のとおりとし、修士の学位及び博士の学位にあっては別表第2のとおりとし、専門職学位にあっては、別表第3のとおりとする。

(学位授与の取消)

第27条 本学において博士の学位を授与された者が不正な方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、又は学位の榮譽を汚辱する行為があったときは、総長は、教育研究評議会の議を経て、既に与えた学位を取り消し、学位記を返納させ、かつ、その旨を公表するものとする。

2 教育研究評議会において前項の決定を行うには、構成員の3分の2以上が出席し、出席者の4分の3以上の賛成があることを必要とする。

(学位記等の様式)

第28条 学位記及び学位申請関係書類の様式は、別記様式のとおりとする。

附 則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

2 平成16年3月31日に本学に在学し、平成16年4月1日以降も引き続き在学する者(21世紀プログラムの教育を受ける学生を除く。)については、九州大学学位規則(昭和32年11月19日施行)の規定によるものとする。

3 九州大学学則(平成16年度九大規則第1号)附則第4項に規定する者に授与する学位記については、第28条の規定にかかわらず、次の様式によるものとする。

(1) 九州芸術工科大学芸術工学部の課程を修めて卒業した者に授与する学位記の様式

学 位 記		
学 部 印	氏 名	
	年 月 日 生	
本学において九州芸術工科大学芸術工学部〇〇学科所定の課程を修めたりとを認める		
年 月 日		
	九州芸術工科大学教育課程担当	
	九州大学芸術工学部長	印

[]

本学芸術工学部長の認定により学士（芸術工学）の学位を授与する

大 学 印
九州大学総長
印

第 号

(2) 九州芸術工科大学大学院の博士前期課程を修めて修士課程を修了した者に授与する学位記の様式

学 位 記

学 府 印
氏 名

年 月 日 生

本学において九州芸術工科大学大学院芸術工学研究科芸術工学専攻の博士前期課程を修めたことを認める

年 月 日

九州芸術工科大学大学院教育課程担当
九州大学大学院芸術工学府長

印

本学大学院芸術工学府長の認定により修士（芸術工学）の学位を授与する

大 学 印
九州大学総長
印

芸修第 号

(3) 九州芸術工科大学大学院の博士課程を修めて博士課程を修了した者に授与する学位記の様式

学 位 記

学 府 印
氏 名

年 月 日 生

本学において九州芸術工科大学大学院芸術工学研究科芸術工学専攻の博士課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格したことを認める

年 月 日

九州芸術工科大学大学院教育課程担当
九州大学大学院芸術工学府長

印

本学大学院芸術工学府長の認定により博士（〇〇）の学位を授与する

大 学 印
九州大学総長
印

芸博甲第 号

4 21世紀プログラムの課程を修了した者に授与する学位の名称は、第26条の規定にかかわらず、学士（学術）とし、学位記については、第28条の規定にかかわらず、次の様式による

ものとする。

第 号
学 位 記
氏 名
年 月 日 生
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">大学印</div>
本学所定の21世紀プログラムの 課程を修めたので本学の卒業を認め 学士（学術）の学位を授与する
年 月 日
九州大学総長
印

No.
KYUSHU UNIVERSITY
hereby confers upon
Name
Date of Birth:○○
the Degree of
Bachelor of Arts
having completed the prescribed program of the Twenty First Century Program (○○)
Date
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">大学印</div>
Name President

附 則（平成16年度九大規則203号）
この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則（平成17年度九大規則第55号）
この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成18年度九大規則第19号）
この規則は、平成18年6月1日から施行する。

附 則（平成18年度九大規則第118号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成20年度九大規則第74号）

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成22年度九大規則第11号）

1 この規則は、平成22年6月15日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

2 平成22年3月31日に九州大学大学院薬学府の修士課程に在学し、同年4月1日以降も引き続き在学する者に授与する学位の名称については、この規則による改正後の九州大学学位規則別表第2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成22年度九大規則第151号）

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成23年度九大規則第113号）

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成24年度九大規則第4号）

この規則は、平成24年5月1日から施行し、平成24年3月14日から適用する。

附 則（平成24年度九大規則第35号）

この規則は、平成24年12月1日から施行する。

附 則（平成24年度九大規則第92号）

1 この規則は、平成25年4月1日（以下「施行日」という。）から施行する。

2 この規則による改正後の九州大学学位規則（以下「新規則」という。）第23条の規定は、施行日以後に博士の学位を授与した場合について適用し、同日前に博士の学位を授与した場合については、なお従前の例による。

3 新規則第24条の規定は、施行日以後に博士の学位を授与された者について適用し、同日前に博士の学位を授与された者については、なお従前の例による。

4 新規則別記様式の規定は、施行日以後に授与する学位記について適用し、同日前に授与する学位記については、なお従前の例による。

附 則（平成25年度九大規則第116号）

1 この規則は、平成26年4月1日から施行する。

2 平成26年3月31日までに九州大学大学院比較社会文化学府に入学した者に授与する学位の名称については、この規則による改正後の九州大学学位規則別表第2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成26年度九大規則第141号）

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成28年度九大規則第54号）

この規則は、平成28年10月1日から施行する。

附 則（平成28年度九大規則第106号）

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成29年度九大規則第101号）

1 この規則は、平成30年4月1日から施行する。

2 平成30年3月31日に九州大学に在学し、同年4月1日以降も引き続き在学する者に授与する学位の名称については、この規則による改正後の九州大学学位規則別表第1の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成30年度九大規則第53号）

この規則は、平成31年1月15日から施行する。

附 則（平成30年度九大規則第87号）

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

別表第1（学士の学位）

学 部	学 位 の 名 称
共創学部	学士（学術）
文学部	学士（文学）
教育学部	学士（教育学）
法学部	学士（法学）
経済学部	学士（経済学）
理学部	学士（理学）
医学部	学士（医学） 学士（生命医科学） 学士（看護学） 学士（保健学）
歯学部	学士（歯学）
薬学部	学士（創薬科学） 学士（薬学）
工学部	学士（工学）
芸術工学部	学士（芸術工学）
農学部	学士（農学）

別表第2（修士の学位及び博士の学位）

学 府	学 位 の 名 称	
	修 士	博 士
人文科学府	修士（文学）	博士（文学）
地球社会統合科学府	修士（学術） 修士（理学）	博士（学術） 博士（理学）
人間環境学府（臨床実践心理学専攻を除く。）	修士（人間環境学） 修士（文学） 修士（教育学） 修士（心理学） 修士（工学）	博士（人間環境学） 博士（文学） 博士（教育学） 博士（心理学） 博士（工学）
法学府	修士（法学）	博士（法学）

経済学府（産業マネジメント専攻を除く。）	修士（経済学）	博士（経済学）
理学府	修士（理学）	博士（理学）
数理学府	修士（数理学） 修士（技術数理学）	博士（数理学） 博士（機能数理学）
システム生命科学府	修士（システム生命科学） 修士（理学） 修士（工学） 修士（情報科学）	博士（システム生命科学） 博士（理学） 博士（工学） 博士（情報科学）
医学系学府（医療経営・管理学専攻を除く。）	修士（医科学） 修士（看護学） 修士（保健学）	博士（医学） 博士（看護学） 博士（保健学）
歯学府	—————	博士（歯学） 博士（臨床歯学） 博士（学術）
薬学府	修士（創薬科学）	博士（創薬科学） 博士（臨床薬学）
工学府	修士（工学）	博士（工学）
芸術工学府	修士（芸術工学） 修士（デザインストラテジー）	博士（芸術工学） 博士（工学）
システム情報科学府	修士（情報科学） 修士（理学） 修士（工学） 修士（学術）	博士（情報科学） 博士（理学） 博士（工学） 博士（学術）
総合理工学府	修士（理学） 修士（工学） 修士（学術）	博士（理学） 博士（工学） 博士（学術）
生物資源環境科学府	修士（農学）	博士（農学）
統合新領域学府	修士（感性学） 修士（芸術工学） 修士（工学） 修士（オートモーティブサイエンス） 修士（ライブラリーサイエンス） 修士（学術）	博士（感性学） 博士（芸術工学） 博士（工学） 博士（オートモーティブサイエンス） 博士（ライブラリーサイエンス） 博士（学術）

別表第3（専門職学位）

--	--

専 門 職 大 学 院	学 位 の 名 称
人間環境学府実践臨床心理学専攻	臨床心理修士（専門職）
経済学府産業マネジメント専攻	経営修士（専門職）
医学系学府医療経営・管理学専攻	医療経営・管理学修士（専門職）
法科大学院 （法務学府実務法学専攻）	法務博士（専門職）

別記様式

(1) 第3条により本学を卒業した者に授与する学位記の様式

第 号
<p>学 位 記</p> <p style="text-align: right;">氏 名</p> <p style="text-align: right;">年 月 日 生</p>
<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin-left: 20px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> 大学印 </div> <p style="margin-top: 20px;">本学〇〇学部〇〇学科所定の課程を修めたことを認める</p> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">九州大学〇〇学部長</p> <div style="text-align: right; margin-right: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">印</div> </div> <p style="margin-top: 20px;">本学〇〇学部長の認定により本学を卒業したことを認め 学士（〇〇）の学位を授与する</p> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">年 月 日</p> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">九州大学総長</p> <div style="text-align: right; margin-right: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">印</div> </div>

No.
<p>KYUSHU UNIVERSITY</p> <p>hereby confers upon</p> <p style="text-align: center;">Name</p> <p>Date of Birth: 〇〇</p> <p style="text-align: center;">the Degree of</p> <p style="text-align: center;">Bachelor of 〇〇</p> <p>having completed the prescribed program</p> <p style="text-align: center;">of the School of 〇〇</p> <p style="text-align: center;">(〇〇)</p> <p style="text-align: center;">Date</p> <p style="margin-top: 20px;"> <div style="border-top: 1px solid black; width: 100px; display: inline-block;"></div> Name </p>

大学印	Dean of the School of ○○ Name President
-----	---

(2) 第4条1項により修士課程（共同教育課程を除く。）を修了した者に授与する学位記の様式

△修第	号
学 位 記	
氏 名	
年 月 日 生	
<p>本学大学院○○学府○○専攻の修士課程を修了したので修士（○○）の学位を授与する</p>	
年 月 日	
九 州 大 学	大学印

No.
KYUSHU UNIVERSITY
hereby confers upon Name Date of Birth: ○○ the Degree of Master of ○○ having completed the Master's Program in the Graduate School of ○○ (○○) Date
Name President
大学印

備考 △印の箇所は学府名の略号を記入する。

(3) 第4条1項により修士課程（共同教育課程）を修了した者に授与する学位記の様式

△修第	号
学 位 記	
氏 名	
年 月 日 生	

九州大学大学院○○学府及び□□大学大学院◇◇研究科の
◎◎専攻の修士課程を修了したので修士（○○）の学位を授
与する

年 月 日

九 州 大 学

大学印

□ □ 大 学

大学印

No.

KYUSHU UNIVERSITY

hereby confers upon

Name

Date of Birth: ○○

the Degree of

Master of ○○

having completed the Master's Program
in the Graduate School of ○○, Kyushu University
and the Graduate School of △△,□□

(◎◎)

Date

大学印

Name

President of Kyushu University

大学印

Name

President of □□ University

備考1 △印の箇所は学府名の略号を記入する。

2 □印の箇所は共同教育課程を構成する大学（本学を除く。）、◇印の箇所は構成大学の
共同教育課程を編成する研究科の名称を記入する。

3 ◎印の箇所は共同教育課程における専攻の名称を記入する。

(4) 第4条2項により修士課程の修了に相当する要件を満たした者に授与する学位記の
様式

△修第 号

学 位 記

氏 名

年 月 日 生

本学大学院○○学府○○専攻において修士課程の修了に相
当する要件を満たしたので修士（○○）の学位を授与する

年	月	日
九州大学	大学印	

		No.
KYUSHU UNIVERSITY		
hereby confers upon		
Name		
Date of Birth: ○○		
the Degree of		
Master of ○○		
having completed the requirement		
for a Master's Qualification		
in the Graduate School of ○		
(○○)		
Date		
		Name
		President
大学印		

備考 △印の箇所は学府名の略号を記入する。

(5) 第5条により博士課程（博士課程教育リーディングプログラムを除く。）を修了した者に授与する学位記の様式

		△博甲第	号
学位記			
		氏名	
		年月日生	
<p>本学大学院○○学府○○専攻の博士課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格をしたので博士（○○）の学位を授与する</p>			
		年	月 日
九州大学		大学印	

		No.
KYUSHU UNIVERSITY		

hereby confers upon
Name
Date of Birth: ○○
the Degree of
Doctor of ○○
having passed the prescribed final examination
and completed a doctoral dissertation
in the Graduate School of ○
(○○)
Date

Name
President

大学印

備考 △印の箇所は学府名の略号を記入する。

(6) 第5条により博士課程（博士課程教育リーディングプログラム）を修了した者に授与する学位記の様式

△博甲第 号

学 位 記

氏 名
年 月 日 生

本学大学院○○学府○○専攻の博士課程（□□□□□□□□）において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格したので博士（○○）の学位を授与する

年 月 日

九 州 大 学

大学印

No.

KYUSHU UNIVERSITY

hereby confers upon
Name
Date of Birth: ○○
the Degree of
Doctor of ○○
having passed the prescribed final examination
and completed a doctoral dissertation
in the Graduate School of ○

(○○)
with additional completion of □□□□
Date

Name
President

大学印

備考 △印の箇所は学府名の略号を記入し、□印の箇所は博士課程教育リーディングプログラムの名称を記入する。

(7) 第6条により専門職学位課程を修了した者（法科大学院（法務学府実務法学専攻）の専門職学位課程を修了した者を除く。）に授与する学位記の様式

△専第 号

学 位 記

氏 名
年 月 日 生

本学大学院○○学府○○専攻の専門職学位課程を修了した
ので修士（専門職）の学位を授与する

年 月 日

九 州 大 学

大学印

No.

KYUSHU UNIVERSITY

hereby confers upon
Name
Date of Birth: ○○
the Degree of
Master of ○○
having completed the Professional Degree Program
in the Graduate School of ○
(○○)
Date

Name
President

大学印

備考 △印の箇所は学府名の略号を記入する。

- (8) 第6条により法科大学院（法務学府実務法学専攻）の専門職学位課程を修了した者に授与する学位記の様式

法専第	号
学位記	
氏名	
年月日生	
<p style="text-align: center;">法科大学院（法務学府実務法学専攻）の専門職学位課程を 修了したので法務博士（専門職）の学位を授与する</p>	
年 月 日	
九州大学	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 5px 15px;">大学印</div>

No.	
KYUSHU UNIVERSITY	
hereby confers upon	
Name	
Date of Birth: ○○	
the Degree of	
Juris Doctor	
having completed the Professional Degree Program	
in the Law School	
(Legal Practice)	
Date	
<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 5px 15px;">大学印</div>	Name President

- (9) 第16条により博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することの確認をされた者に授与する学位記の様式

△博乙第	号
学位記	
氏名	
年月日生	
<p style="text-align: center;">本学に学位論文を提出し所定の審査及び試験に合格したの</p>	

で博士（〇〇）の学位を授与する

年 月 日

九州大学

大学印

No.

KYUSHU UNIVERSITY

hereby confers upon

Name

Date of Birth: 〇〇

the Degree of

Doctor of 〇〇

having submitted a doctoral dissertation and
successfully fulfilled all the requirements

Date

大学印

Name

President

備考 △印の箇所は学府名の略号を記入する。

(10) 学位申請関係書類の様式

ア 第8条第4項による学位論文審査願様式

年 月 日

九州大学総長殿

〇〇学府〇〇学専攻

〇〇年入学

氏名印

学位論文審査願

このたび博士の学位を受けたいので、九州大学学位規則第8条により、下記のとおり関係書類を添え、学位論文を提出いたしますから御審査ください。

記

- | | | | | |
|---|------|----|---|----|
| 1 | 主論文 | 1編 | 冊 | 2通 |
| 2 | 参考論文 | 編 | 冊 | 1通 |
| 3 | 論文目録 | | | |
| 4 | 論文要旨 | | | |
| 5 | 履歴書 | | | |

イ 第16条第3項による学位申請書様式

年 月 日																									
九州大学総長殿																									
本籍： 氏名： 印																									
学位申請書																									
<p>貴学学位規則第16条により、博士の学位を受けたいので、下記のとおり関係書類を添え、学位論文を提出いたします。 なお所定の手数料を納入いたします。</p>																									
記																									
<table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>主論文</td> <td>1編</td> <td>冊</td> <td>2通</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>参考論文</td> <td>編</td> <td>冊</td> <td>1通</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>論文目録</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>論文要旨</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>履歴書</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	1	主論文	1編	冊	2通	2	参考論文	編	冊	1通	3	論文目録				4	論文要旨				5	履歴書			
1	主論文	1編	冊	2通																					
2	参考論文	編	冊	1通																					
3	論文目録																								
4	論文要旨																								
5	履歴書																								

ウ 添付書類の様式
① 論文目録様式

論 文 目 録		区分 甲乙
氏 名		
主論文 1編〇冊		
題 名		
(印刷公表の方法及びその時期 (未公開の場合は予定を記入))		
参考論文 〇編〇冊		
題 名		
1		

2 (同上)
3

備考

- 1 論文題名が外国語の場合は、訳を付すること。
- 2 未公表の論文の場合は、原稿の枚数を記入すること。
- 3 参考論文が2以上ある場合は、その題名を列記すること。

② 履歴書様式

履 歴 書		区分	甲乙
(ふりがな) 氏 名 生 年 月 日	年 月 日生	男 女	
本 籍 (都道府県名)		都 道 府 県	
現 住 所	都道 府 県	区市 郡	町 村 番地
学 歴 年 月 日 年 月 日			
職 歴 年 月 日 年 月 日			
研究歴 年 月 日 年 月 日			
上記のとおり相違ありません。 年 月 日			
		氏	名 印

備考

- 1 学歴は、新制大学卒業以後又は最終学歴を記載すること。
- 2 研究歴には研究した事項とその期間を明記すること。なお、学歴又は職歴に記載した期間中に研究歴に当たるものがある場合は、それについても記入すること。

九州大学芸術工学部規則（案）

平成16年度九大規則第116号
制 定：平成16年 4月 1日
最終改正：令和 2年 月 日
（令和元年度九大規則第 号）

（趣旨）

第1条 この規則は、九州大学学部通則（平成16年度九大規則第2号。以下「通則」という。）により、各学部規則において定めるように規定されている事項その他芸術工学部の教育に関し必要な事項を定めるものとする。

（教育研究上の目的）

第1条の2 芸術工学部は、技術を人間生活に適切に利用するために、技術の基礎である科学と人間精神の最も自由な発現である芸術とを総合し、技術の進路を計画し、その機能の設計について研究するとともに、人文、社会、自然にまたがる知識と芸術的感性を基盤とする設計家を養成することを目的とする。

（コース）

第1条の3 芸術工学部の芸術工学科に次のコースを置く。

環境設計コース
インダストリアルデザインコース
未来構想デザインコース
メディアデザインコース
音響設計コース

（入学等）

第2条 学生の入学に関し必要な事項は、別に定める。

2 学生の再入学、転学部、転入学及び編入学（以下「再入学等」という。）については、芸術工学部の収容定員に余裕がある場合又は特に必要と認める場合に、教授会の議を経て、これを許可することができる。

3 前項の規定により再入学等を許可された者の修業年限、単位修得の方法等については、教授会の議を経て、学部長が決定する。

第3条 科目等履修生として、本学において一定の単位を修得した後に入学する者の修業年限の通算については、教授会の議を経て、学部長が決定する。

（長期にわたる教育課程の履修）

第3条の2 学生が、通則第23条の規定に基づき、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を学部長に申し出たときは、教授会の議を経て学部長が定めるところにより、その計画的な履修を認めることができる。

（学期）

第4条 学年を分けて次の2学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで
後期 10月1日から翌年3月31日まで

2 前項に定める各学期の授業期間は、別に定める。

（教育課程）

第5条 芸術工学部における教育課程は、基幹教育科目及び専攻教育科目により編成するものとする。

2 基幹教育科目に関する授業科目、単位数及び最低修得単位数は、別表第1のとおりとする。

3 専攻教育科目に関する授業科目、単位数及び最低修得単位数は、別表第2のとおりとする。

4 前項に規定するもののほか、臨時に開設する授業科目は、その都度教授会の議を経て、学部長が別に定める。

5 単位計算の基準は、原則として、講義については15時間をもって1単位、演習については15時間又は30時間をもって1単位、実験及び実習については30時間又は45時間をもつ

て1単位とする。ただし、これによりがたい場合は、教授会の議を経て、学部長が別に定める。
第6条 学生は、各学期の始めに履修しようとする授業科目を学部長に届け出なければならない。

(単位修得及び卒業)

第7条 授業担当教員は、学生が履修した授業科目について試験、平素の学修の状況等により成績評価を行う。

2 授業科目の成績評価は、通則第17条の3の規定に基づき行うものとする。

第8条 学部長は前条第2項の合格の評価を受けた授業科目について、所定の単位を認定する。

第9条 芸術工学部の卒業の要件は、芸術工学部に4年以上在学し、次の各号に定めるところにより、128単位以上修得することとする。

- (1) 基幹教育科目から48単位
- (2) 専攻教育科目から80単位以上

2 教授会は、前項の単位を修得した者について、卒業の審査を行う。

(科目等履修生及び聴講生)

第10条 科目等履修生として入学を志願できる者は、九州大学科目等履修生等規則（平成16年度九大規則第91号）第2条第1項に定めるところによる。

第11条 科目等履修生として入学を志願する者は、所定の願書に履修しようとする授業科目名を記載し、履歴書及び検定料を添えて、学部長に願出しなければならない。

2 学部長は、学生の授業に支障がないときは、前項の願出があった者について選考の上、学年又は学期の始めに入学を許可することができる。

第12条 科目等履修生の履修した授業科目については、試験により所定の単位を与える。

2 前項の単位の授与については、第7条及び第8条の規定を準用する。

第13条 学部長は、科目等履修生の修得した単位について、所要の証明書を交付することができる。

第14条 特定の授業科目を聴講しようとする者は、所定の願書に聴講しようとする授業科目名を記載し、履歴書及び検定料を添えて、学期の始めに学部長に願出なければならない。

第15条 聴講生として、聴講を志願できる者は、大学において2年以上の課程を修了した者又はこれと同等以上の学力があると認めた者とする。

第16条 学部長は、学生の履修に妨げがない場合は、教授会の議を経て、学期又は学年ごとに聴講を許可することができる。

第17条 聴講生に対しては、単位修得の認定を行わない。ただし、法令等に基づく資格を得るため等特に単位を必要とする者については、単位修得の認定を行うことができる。

2 聴講生から請求があるときは、聴講証明書又は単位修得証明書を交付することができる。

(雑則)

第18条 この規則その他の規則等に定めるもののほか、芸術工学部の校務について必要な事項は、教授会の議を経て、学部長が別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成16年度九大規則第211号）

1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。

2 改正後の九州大学芸術工学部規則の規定は、平成16年4月1日以降に本学部に入学者から適用する。

附 則（平成17年度九大規則第71号）

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

2 改正後の九州大学芸術工学部規則は、平成18年度に本学部に入学者から適用し、平成18年3月31日に本学部在学し、同年4月1日以降も引き続き在学者については、なお従前の例による。

附 則（平成18年度九大規則第140号）

- 1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 改正後の九州大学芸術工学部規則は、平成19年度に本学部に入学者から適用し、平成19年3月31日に本学部在学者、同年4月1日以降も引き続き在学者については、なお従前の例による。

附 則（平成19年度九大規則第20号）

- 1 この規則は、平成19年7月20日から施行する。
- 2 改正後の九州大学芸術工学部規則第7条の規定は、平成19年度に本学部に入学者から適用し、平成19年3月31日に本学部在学者、同年4月1日以降も引き続き在学者については、なお従前の例による。

附 則（平成19年度九大規則第88号）

- 1 この規則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 改正後の九州大学芸術工学部規則別表第1及び別表第2の規定は、平成18年度に本学部に入学者から適用し、平成18年3月31日に本学部在学者、同年4月1日以降も引き続き在学者については、なお従前の例による。
- 3 改正後の九州大学芸術工学部規則別表第3の規定は、平成20年度に本学部に入学者から適用し、平成20年3月31日に本学部在学者、同年4月1日以降も引き続き在学者については、なお従前の例による。

附 則（平成20年度九大規則第86号）

- 1 この規則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の九州大学芸術工学部規則は、平成21年度に本学部に入学者から適用し、平成21年3月31日に本学部在学者、同年4月1日以降も引き続き在学者については、なお従前の例による。

附 則（平成21年度九大規則第87号）

- 1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の九州大学芸術工学部規則は、平成22年度に本学部に入学者から適用し、平成22年3月31日に本学部在学者、同年4月1日以降も引き続き在学者については、なお従前の例による。

附 則（平成22年度九大規則第103号）

- 1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の九州大学芸術工学部規則は、平成23年度に本学部に入学者から適用し、平成23年3月31日に本学部在学者、同年4月1日以降も引き続き在学者については、なお従前の例による。

附 則（平成23年度九大規則第122号）

- 1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の九州大学芸術工学部規則は、平成24年度に本学部に入学者から適用し、平成24年3月31日に本学部在学者、同年4月1日以降も引き続き在学者については、なお従前の例による。

附 則（平成24年度九大規則第104号）

- 1 この規則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の九州大学芸術工学部規則は、平成25年度に本学部に入学者から適用し、平成25年3月31日に本学部在学者、同年4月1日以降も引き続き在学者については、なお従前の例による。

附 則（平成25年度九大規則第132号）

- 1 この規則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の九州大学芸術工学部規則は、平成26年4月1日に本学部に入学者から適用し、平成26年3月31日に本学部在学者、同年4月1日以降も引き続き在学者については、なお従前の例による。

附 則（平成26年度九大規則第156号）

- 1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の九州大学芸術工学部規則別表第2の規定は、平成27年4月1日に本学部に入学者から適用し、平成27年3月31日に本学部在学中、同年4月1日以降
附 則（平成27年度九大規則第65号）
 - 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
 - 2 この規則による改正後の九州大学芸術工学部規則（以下「新規則」という。）は、平成28年4月1日に本学部に入学者から適用し、平成28年3月31日に本学部在学中、同年4月1日以降も引き続き在学中者については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、新規則のうち別表第1の規定（備考第2号に係る規定を除く。）は、平成26年4月1日に本学部に入学者から適用し、平成26年3月31日に本学部在学中、同年4月1日以降も引き続き在学中者については、なお従前の例による。
附 則（平成28年度九大規則第39号）

この規則は、平成28年10月1日から施行する。

附 則（平成28年度九大規則第122号）
 - 1 この規則は、平成29年4月1日から施行する。
 - 2 この規則による改正後の九州大学芸術工学部規則は、平成29年4月1日に本学部に入学者から適用し、平成29年3月31日に本学部在学中、同年4月1日以降も引き続き在学中者については、なお従前の例による。
附 則（平成29年度九大規則第118号）
 - 1 この規則は、平成30年4月1日から施行する。
 - 2 この規則による改正後の九州大学芸術工学部規則は、平成30年4月1日に本学部に入学者から適用し、平成30年3月31日に本学部在学中、同年4月1日以降も引き続き在学中者については、なお従前の例による
附 則（平成30年度九大規則第102号）
 - 1 この規則は、平成31年4月1日から施行する。
 - 2 この規則による改正後の九州大学芸術工学部規則は、平成31年4月1日に本学部に入学者から適用し、平成31年3月31日に本学部在学中、同年4月1日以降も引き続き在学中者については、なお従前の例による。
附 則（令和元年度九大規則第 号）
 - 1 この規則は、令和2年4月1日から施行する。
 - 2 この規則による改正後の九州大学芸術工学部規則は、令和2年4月1日に本学部に入学者から適用し、令和2年3月31日に本学部在学中、同年4月1日以降も引き続き在学中者については、なお従前の例による。

	日本語Ⅲ 日本語Ⅳ 日本語Ⅴ 日本語Ⅵ 日本語Ⅶ	1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位		
言語文化自由選択科目	入門ドイツ語Ⅰ 入門ドイツ語Ⅱ 入門中国語Ⅰ 入門中国語Ⅱ 中国語オーラル・リスニング演習Ⅰ 中国語オーラル・リスニング演習Ⅱ 中国語表現・読解演習Ⅱ 入門ロシア語Ⅰ 入門ロシア語Ⅱ 入門韓国語Ⅰ 入門韓国語Ⅱ 韓国語表現・読解演習Ⅰ 韓国語表現・読解演習Ⅱ	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位		
文系デザインシンプリン科目	先史学入門 歴史学入門 文学・言語学入門 芸術学入門 地理学入門 社会学入門 心理学入門 現代教育学入門 教育基礎学入門 法学入門 政治学入門 経済学入門 経済史入門 The Law and Politics of International Society	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 1 単位 1 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位	4 単位	4 単位
理系デザインシンプリン科目	数理統計学 デザイン史 情報科学 自然科学総合実験（基礎） 自然科学総合実験（発展）	1.5 単位 2 単位 1.5 単位 1 単位 1 単位	7 単位	18 単位
	微分積分学 微分積分学・同演習 A 微分積分学・同演習 B	1.5 単位 1.5 単位 1.5 単位	※備考 2 参照	
	線形代数 線形代数学・同演習 A 線形代数学・同演習 B	1.5 単位 1.5 単位 1.5 単位	※備考 3 参照	

物理学概論A	1.5 単位	5 単位 ※備考4参 照
物理学概論B	1.5 単位	
物理学概論A演習	1 単位	
物理学概論B演習	1 単位	
基幹物理学 I A	1.5 単位	
基幹物理学 I B	1.5 単位	
基幹物理学 I A演習	1 単位	
基幹物理学 I B演習	1 単位	
基礎化学	1.5 単位	
無機物質化学	1.5 単位	
有機物質化学	1.5 単位	
基礎化学結合論	1.5 単位	
基礎化学熱力学	1.5 単位	
基礎生物学概要	1.5 単位	
細胞生物学	1.5 単位	
集団生物学	1.5 単位	
地球と宇宙の科学	1 単位	
地球科学	1 単位	
デザイン思考	1 単位	
図形科学	1.5 単位	
空間表現実習 I	2 単位	
空間表現実習 II	2 単位	
プログラミング演習	1 単位	
社会と数理科学	1 単位	
微分積分学・同演習 I	1.5 単位	
微分積分学・同演習 II	1.5 単位	
微分積分学・同演習 III	1.5 単位	
数学演習 I A	1 単位	
数学演習 I B	1 単位	
数学演習 II	1 単位	
身の回りの物理学A	1 単位	
力学演習	1 単位	
物理学の進展	1.5 単位	
基幹物理学 II	1.5 単位	
電気電子工学入門	2 単位	
原子核物理学	2 単位	
身の回りの化学	1 単位	
現代化学	1.5 単位	
基礎生物有機化学	1.5 単位	
基礎生化学	1.5 単位	
機器分析学	2 単位	
生命の科学A	1 単位	
生命の科学B	1 単位	
分子生物学	1.5 単位	
生態系の科学	1.5 単位	
最先端地球科学	1 単位	

	現代企業分析	1 単位		
	現代経済事情	1 単位		
	ことばの科学	1 単位		
	外国語プレゼンテーション	1 単位		
	水の科学	2 単位		
	医療倫理学 I	1 単位		
	医療倫理学 II	1 単位		
	バイオエシックス入門	1 単位		
	糸島の水と土と緑 I	1 単位		
	糸島の水と土と緑 II	1 単位		
	命のあり方・尊さと食の連関	2 単位		
	食肉加工の理論と実践	2 単位		
	先進的植物生産システム概論 I	1 単位		
	先進的植物生産システム概論 II	1 単位		
	農のための植物-環境系輸送現象論	1 単位		
	農のための最適環境制御	1 単位		
	食科学の新展開	1 単位		
	作物生産とフロンティア研究	1 単位		
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1 単位		
	農業と微生物	1 単位		
	企業から見たサイバーセキュリティ	1 単位		
	サイバーセキュリティ演習	1 単位		
	セキュリティエンジニアリング演習 (サーバー構築編)	1 単位		
	セキュリティエンジニアリング演習 (ハードウェア設計編)	1 単位		
	セキュリティエンジニアリング演習 (IoTセキュリティ編)	1 単位		
	分子の科学	2 単位		
	「留学」考	1 単位		
	Contemporary American Society: A Sociological Introduction	1 単位		
	アイデア・ラボ I	2 単位		
	アントレプレナーシップ入門	2 単位		
	伊都キャンパスを科学する I (軌跡編)	1 単位		
	伊都キャンパスを科学する II (現在編)	1 単位		
	伊都キャンパスを科学する III (展望編)	1 単位		
	少人数セミナー 九州大学基幹教育科目履修規則 (平成 25 年度九大規則第 120 号) 第 3 条第 2 項の規定により定める授業科目	1 単位		
高 年 次 基 幹	科学の歴史 A	1 単位	2 単位	2 単位
	科学の歴史 B	1 単位		
	脳情報科学入門	1 単位		
	認知心理学	1 単位		
	Brain and Mind	1 単位		

教育科目	機械学習と人工知能	1 単位
	現代社会Ⅰ	2 単位
	現代社会Ⅱ	2 単位
	現代社会Ⅲ	2 単位
	現代史Ⅰ	2 単位
	現代史Ⅱ	2 単位
	現代史Ⅲ	2 単位
	現代史Ⅳ	2 単位
	E U 論基礎—制度と経済—	2 単位
	技術と産業・企業	2 単位
	金融と経済	2 単位
	サイバー空間デザイン	2 単位
	芸術学概論	1 単位
	音楽・音響論	2 単位
	デザインと観察	2 単位
	環境問題と自然科学	2 単位
	環境調和型社会の構築	2 単位
	グリーンケミストリー	2 単位
	自然災害と防災	2 単位
	生態系の構造と機能Ⅰ	1 単位
	生態系の構造と機能Ⅱ	1 単位
	男女共同参画	2 単位
	ボランティア活動Ⅰ	1 単位
	ボランティア活動Ⅱ	1 単位
	インターンシップⅠ	1 単位
	インターンシップⅡ	1 単位
	漢方医薬学	1 単位
	チーム医療演習	1 単位
	臨床イメージング	1 単位
	社会と健康	2 単位
	国際保健と医療	2 単位
	アクセシビリティマネジメント研究	2 単位
	地球の進化と環境	2 単位
	生物多様性と人間文化A	1 単位
	生物多様性と人間文化B	1 単位
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2 単位
	バイオテクノロジー詳論	2 単位
	平和と安全の構築学	1 単位
	文化と社会の理論	2 単位
	東アジアと日本—その歴史と現在—	2 単位
	法文化学入門	2 単位
	法史学入門	2 単位
	ローマ法史	2 単位
	東アジアの政治と社会	2 単位
	プレゼンテーション基礎	1 単位
	レトリック基礎	1 単位
	共創発想法	2 単位
	データマイニングと情報可視化	1 単位

技術と倫理	1 単位	
医療における倫理	2 単位	
研究と倫理	1 単位	
社会と倫理	1 単位	
インフォームドコンセント	1 単位	
臨床倫理	1 単位	
アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス 基礎	1 単位	
アントレプレナーシップ・戦略論基礎	1 単位	
アントレプレナーシップ・組織論基礎	1 単位	
アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	1 単位	
事業創造デザイン特論 I	1 単位	
事業創造デザイン特論 II	1 単位	
社会統計学 A	1 単位	
社会統計学 B	1 単位	
社会調査法 I A	1 単位	
社会調査法 I B	1 単位	
社会調査法 II A	1 単位	
社会調査法 II B	1 単位	
教育学特論	2 単位	
教育心理学特論（教育・学校心理学）	2 単位	
日本国憲法	2 単位	
九州大学基幹教育科目履修規則（平成 25 年度 九大規則第 120 号）第 3 条第 2 項の規定によ り定める授業科目		

上記に掲げる最低修得単位のほか、基幹教育科目の授業科目のうち、最低修得単位数を超えて修得する授業科目、別表第 2 に掲げる専攻教育科目（在籍するコースの専攻教育科目を除く。）のうち、最低修得単位数を超えて修得する授業科目又は他学部の専攻教育科目から、5.5 単位以上修得しなければならない。

(備考)

- 1 「日本語Ⅱ」～「日本語Ⅶ」については、外国人留学生を対象とする授業科目として開設し、第 2 外国語として最低修得単位数に含めることができる。
- 2 「微分積分学」の 1.5 単位又は「微分積分学・同演習 A」及び「微分積分学・同演習 B」の合計 3 単位を修得しなければならない。
- 3 「線形代数」の 1.5 単位又は「線形代数学・同演習 A」及び「線形代数学・同演習 B」の合計 3 単位を修得しなければならない。
- 4 インダストリアルデザインコースの学生は、「空間表現実習Ⅱ」を修得しなければならない。

別表第2 (専攻教育科目に関する授業科目、単位数及び最低修得単位数)

デザインリテラシー科目、コース基礎科目及び深化・展開科目

区分	科目群	授 業 科 目	単位数	最低修得 単位数	合計最低 修得単位 数
デザインリテラシー科目	デザインリテラシー基礎	デザインリテラシー基礎	1 単位	1 単位	8 単位
	基礎造形	基礎造形Ⅰ 基礎造形Ⅱ	1 単位 1 単位	2 単位	
		基礎造形Ⅲ 基礎造形Ⅳ	1 単位 1 単位		
	人間とデザイン	文化とデザイン 社会とデザイン 人間科学とデザイン 科学技術とデザイン	1 単位 1 単位 1 単位 1 単位	1 単位	
	デザイン論	デザイン論Ⅰ デザイン論Ⅱ デザイン・ケーススタディⅠ デザイン・ケーススタディⅡ	1 単位 1 単位 1 単位 1 単位	1 単位	
コース基礎科目		環境設計基礎Ⅰ 環境設計基礎Ⅱ 空間デザイン実習 環境設計プロジェクトA 環境設計プロジェクトB 空間情報分析実習Ⅰ 空間情報分析実習Ⅱ	1 単位 1 単位 2 単位 2 単位 2 単位 1 単位 1 単位		※備考 1 参照
		インダストリアルデザイン基礎Ⅰ インダストリアルデザイン基礎Ⅱ プロダクトデザイン概論 ライフスケープデザイン概論 サービスデザイン概論 人間工学概論	1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 2 単位		
		未来構想デザイン概論 視覚芸術基礎 コンセプト論 デザインスケッチ 社会と多様性	1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位		

	環境と持続可能性 クリティカルシンキング プログラミング基礎 情報科学 I 生命科学入門 I	1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位		
	メディアデザイン概論 I メディアデザイン概論 II メディアデザイン概論 III メディア表現基礎 メディアプログラミング	1 単位 1 単位 1 単位 2 単位 2 単位		
	聴覚生理学 聴覚心理学 音文化論 音響理論演習 I 音響理論演習 II 音響信号処理 デジタル信号処理	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位		
深化・展開科目	次の(1)～(4)に掲げる授業科目 (1) 所属コースのコース専門科目のうち、最低修得単位数（合計最低修得単位数の指定がある場合は合計最低修得単位数をいう。以下同じ。）を超えて修得する授業科目 (2) 所属コースのコース演習科目（PBL）のうち、最低修得単位数を超えて修得する授業科目 (3) 所属コース以外のコース専門科目 (4) 所属コース以外のコース演習科目（PBL）	※備考 2 参照	1 2 単位	
<p>(備考)</p> <p>1 コース基礎科目については、環境設計コースの学生は10単位、インダストリアルデザインコースの学生は7単位、未来構想デザインコースの学生は10単位、メディアデザインコースの学生は7単位、音響設計コースの学生は14単位を修得しなければならない。</p> <p>2 深化・展開科目については、環境設計コース、メディアデザインコース及び音響設計コースの学生は(3)又は(4)の授業科目から4単位以上、インダストリアルデザインコース及び未来構想デザインコースの学生は(3)又は(4)の授業科目から8単位以上を修得しなければならない。</p>				

環境設計コース

区分	授 業 科 目	単位数	最低修得単位数	合計最低修得単位数
コース専門科目	構造理論 I	1 単位	2 単位	3 0 単位

構造理論Ⅱ 構造システム論Ⅰ 構造システム論Ⅱ	1 単位 1 単位 1 単位	
環境材料論Ⅰ 環境材料論Ⅱ 環境構法論 構法設計論 建築生産	1 単位 1 単位 2 単位 2 単位 2 単位	4 単位
環境調整システム論 環境情報論Ⅰ 環境情報論Ⅱ 設備計画論 環境テクノロジー実習 A 環境テクノロジー実習 B	2 単位 1 単位 1 単位 2 単位 1 単位 1 単位	4 単位
建築デザイン計画論 建築空間設計論 都市環境設計論	2 単位 2 単位 2 単位	4 単位
西洋建築史 近代建築史 環境文化財論 日本建築史 歴史環境実習	1 単位 1 単位 2 単位 2 単位 1 単位	4 単位
環境保全論 緑地環境設計論 ランドスケープデザイン論 緑地環境実習	2 単位 2 単位 2 単位 1 単位	4 単位
建築法規 環境社会デザイン論 データ解析 物質文化論 ファシリテーション 環境倫理学 芸術コミュニケーション論 アーツマネジメント論 Design Pitching Skills Start-ups and Global Disruptors Intellectual Property Rights : Global Perspective Global Design Innovations 国際環境デザイン AⅠ 国際環境デザイン AⅡ 国際環境デザイン AⅢ	1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位	

	国際環境デザイン A IV 国際環境デザイン B I 国際環境デザイン B II 国際環境デザイン B III 国際環境デザイン B IV インターンシップ (学部) I インターンシップ (学部) II	1 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 1 単位 1 単位		
コース演習科目 (PBL)	環境設計プロジェクト C 環境設計プロジェクト D 環境設計プロジェクト E 環境設計プロジェクト F 環境設計プロジェクト G 環境設計プロジェクト H 環境総合プロジェクト A 環境総合プロジェクト B	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位	8 単位	12 単位
融合プロジェクト・ブ ラットフォーム	コース融合プロジェクト A コース融合プロジェクト B	4 単位 4 単位		
卒業研究・設計	卒業研究 I 卒業研究 II	4 単位 4 単位		8 単位

インダストリアルデザインコース

区分	授 業 科 目	単位数	最低修得単位数
コース専門科目	プロダクトデザイン実践論 ライフスケープデザイン実践論 サービスデザイン実践論 イノベーションデザイン論・演習 I イノベーションデザイン論・演習 II ライフスケープデザイン実践論・演習 I ライフスケープデザイン実践論・演習 II ソーシャルデザイン論・演習 I ソーシャルデザイン論・演習 II クリエイティブデザイン演習 福祉人間工学 データ解析 環境人間工学 環境生理学 感性科学 行動生理学 生活機能支援科学 データマイニング I データマイニング II	1 単位 1 単位 1 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位	21 単位

	生理人類学 生体情報処理論 人間工学先端セミナー リサーチリテラシー Design Pitching Skills Start-ups and Global Disruptors Intellectual Property Rights : Global Perspective Global Design Innovations 国際インダストリアルデザイン A I 国際インダストリアルデザイン A II 国際インダストリアルデザイン A III 国際インダストリアルデザイン A IV 国際インダストリアルデザイン B I 国際インダストリアルデザイン B II 国際インダストリアルデザイン B III 国際インダストリアルデザイン B IV インターンシップ (学部) I インターンシップ (学部) II	1 単位 1 単位	
コース演習科目 (PBL)	プロダクトデザイン実践論・演習 I プロダクトデザイン実践論・演習 II ライフスケープデザイン論・演習 I ライフスケープデザイン論・演習 II ビジネスデザイン論・演習 I ビジネスデザイン論・演習 II 人間工学演習 I 人間工学演習 II 人間工学プロジェクト演習 フィールド調査論・演習	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 4 単位 4 単位 4 単位 4 単位	24 単位
融合プロジェクト・プラットフォーム	コース融合プロジェクト A コース融合プロジェクト B	4 単位 4 単位	
卒業研究・設計	卒業研究 I 卒業研究 II	4 単位 4 単位	8 単位

未来構想デザインコース

区分	授 業 科 目	単位数	最低修得単位数
コース専門科目	芸術表現論 西洋美術史 芸術文化論 芸術環境論 身体表現演習 I 身体表現演習 II	1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単位	30 単位

応用音楽表現演習 I	1 単位
応用音楽表現演習 II	1 単位
先端芸術表現論	1 単位
デザイン哲学	1 単位
デザイン美学	1 単位
デザイン編集論・演習	1 単位
デザイン材料論・演習	1 単位
バイオアート&デザイン論・演習	1 単位
未来デザイン方法論	1 単位
デザイン要素論・演習	1 単位
デザイン設計論・演習	1 単位
デザイン実装論・演習	1 単位
環境倫理学	1 単位
物質文化論	1 単位
グローバル化と伝統的社会	1 単位
環境社会デザイン論	1 単位
価値と政策	1 単位
表象文化論	1 単位
芸術コミュニケーション論	1 単位
アーツマネジメント論	1 単位
教育における多様性	1 単位
質的社会調査法	1 単位
ファシリテーション	1 単位
アート・デザイン・ライティング演習	1 単位
主観評価法	2 単位
フィジカルコンピューティングと IoT	1 単位
ウェブサービスデザイン	2 単位
データ解析	1 単位
プログラミング設計	1 単位
シミュレーション数理	1 単位
シミュレーション演習	1 単位
情報科学 II	1 単位
情報科学 III	1 単位
データマイニング I	1 単位
データマイニング II	1 単位
先端情報生命科学 I	1 単位
先端情報生命科学 II	1 単位
生命科学入門 II	1 単位
生命科学実習	1 単位
知覚心理学	2 単位
Design Pitching Skills	1 単位
Start-ups and Global Disruptors	1 単位
Intellectual Property Rights : Global Perspective	1 単位
Global Design Innovations	1 単位
国際未来構想デザイン A I	1 単位
国際未来構想デザイン A II	1 単位
国際未来構想デザイン A III	1 単位

	国際未来構想デザイン A IV 国際未来構想デザイン B I 国際未来構想デザイン B II 国際未来構想デザイン B III 国際未来構想デザイン B IV インターンシップ (学部) I インターンシップ (学部) II	1 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 1 単位 1 単位	
コース演習科目 (PBL)	共通課題 PBL 演習 A 共通課題 PBL 演習 B プラットフォーム演習 A プラットフォーム演習 B プラットフォーム演習 C プラットフォーム演習 D	4 単位 4 単位 4 単位 4 単位 4 単位 4 単位	8 単位
融合プロジェクト・プラットフォーム	コース融合プロジェクト A コース融合プロジェクト B	4 単位 4 単位	4 単位
卒業研究・設計	卒業研究 I 卒業研究 II	4 単位 4 単位	8 単位

メディアデザインコース

区分	授 業 科 目	単位数	最低修得 単位数	合計最低 修得単位 数
コース専門科目	ゲームデザイン 映像表現 アニメーション表現 芸術論 数理造形 タイポグラフィックデザイン グラフィックデザイン 広告クリエイティブデザイン 情報デザイン	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 1 単位 1 単位 1 単位 2 単位	9 単位	25 単位
	インタラクティブデザイン メカニクスデザイン バーチャルリアリティ コンピュータグラフィックス ウェブサービスデザイン コンピュータビジョン メディア情報処理 コンテンツ工学 フィジカルコンピューティングと IoT	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 1 単位	8 単位	

	視覚心理学 色彩学 心理学的思考法 言葉とコミュニケーション 演劇文化論 知的財産法	2単位 2単位 2単位 2単位 2単位	8単位	
	知覚心理学 主観評価法 Design Pitching Skills Start-ups and Global Disruptors Intellectual Property Rights : Global Perspective Global Design Innovations 国際メディアデザイン A I 国際メディアデザイン A II 国際メディアデザイン A III 国際メディアデザイン A IV 国際メディアデザイン B I 国際メディアデザイン B II 国際メディアデザイン B III 国際メディアデザイン B IV インターンシップ (学部) I インターンシップ (学部) II	2単位 2単位 1単位 1単位 1単位 1単位 1単位 1単位 1単位 2単位 2単位 2単位 2単位 1単位 1単位		
コース演習科目 (PBL)	メディアデザイン総合プロジェクト I メディアデザイン総合プロジェクト II	2単位 2単位	4単位	20単位
	コンテンツデザイン演習 I コンテンツデザイン演習 II 造形表現演習 数理造形と表現演習 コミュニケーションデザイン演習 I コミュニケーションデザイン演習 II コンテンツインタラクション演習 実世界インタラクション演習 クリエーティブ発想演習 クリエーティブプロトタイプング演習 メディアサイエンス演習 I メディアサイエンス演習 II 比較演劇・メディア文化演習 知的財産マネジメント演習	2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位		
融合プロジェクト・プラットフォーム	コース融合プロジェクト A コース融合プロジェクト B	4単位 4単位		
卒業研究・設計	卒業研究 I 卒業研究 II	4単位 4単位		8単位

音響設計コース

区分	授 業 科 目	単位数	最低修得 単位数	合計最低 修得単位 数
コース専門科目	知覚心理学 主観評価法 電気工学 電子工学 情報理論 データ解析 データマイニングⅠ データマイニングⅡ	2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 1単位 1単位 1単位	2単位	22単位
	質的社会調査法 比較音楽理論 西洋音楽史 音文化論演習 芸術コミュニケーション論 音楽学	1単位 2単位 2単位 2単位 1単位 2単位		
	聴覚認知論 音声情報学 デジタル信号処理演習 音響メディア工学 音響メディア工学演習	2単位 2単位 2単位 2単位 2単位		
	応用音響理論 音響機器論 騒音環境学 非線形理論 楽器音響学 室内音響学	2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位		
	Design Pitching Skills Start-ups and Global Disruptors Intellectual Property Rights : Global Perspective Global Design Innovations 国際音響デザイン AⅠ 国際音響デザイン AⅡ 国際音響デザイン AⅢ 国際音響デザイン AⅣ 国際音響デザイン BⅠ 国際音響デザイン BⅡ	1単位 1単位 1単位 1単位 1単位 1単位 1単位 1単位 1単位 2単位 2単位		

	国際音響デザイン B III 国際音響デザイン B IV インターンシップ (学部) I インターンシップ (学部) II	2 単位 2 単位 1 単位 1 単位		
コース演習科目 (PBL)	音楽理論表現演習 音響実験 I 音響実験 II	2 単位 2 単位 3 単位	7 単位	16 単位
	聴能形成 I 聴能形成 II 音響プログラミング演習 電気実験 応用音楽表現演習 I 応用音楽表現演習 II 音響生成演習 收音音響構成 環境音響構成	1 単位 1 単位 2 単位 2 単位 1 単位 1 単位 2 単位 2 単位 2 単位		
融合プロジェクト・ブ ラットフォーム	コース融合プロジェクト A コース融合プロジェクト B	4 単位 4 単位		
卒業研究・設計	卒業研究 I 卒業研究 II	4 単位 4 単位		8 単位

九州大学芸術工学部規則の一部を改正する規則（案）

令和元年度九大規則第 号

制定：令和2年 月 日

芸術工学部を1学科5コース制に改組することに伴い、九州大学芸術工学部規則（平成16年度九大規則第116号）の一部を次のように改正する。

(新)	(旧)
(略)	(略)
<p style="text-align: center;"><u>(コース)</u></p> <p>第1条の3 <u>芸術工学部の芸術工学科に次のコースを置く。</u></p> <p><u>環境設計コース</u></p> <p><u>インダストリアルデザインコース</u></p> <p><u>未来構想デザインコース</u></p> <p><u>メディアデザインコース</u></p> <p><u>音響設計コース</u></p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>(教育課程)</p> <p>第5条 芸術工学部における教育課程は、基幹教育科目及び専攻教育科目により編成するものとする。</p> <p>2 基幹教育科目に関する授業科目、単位数及び最低修得単位数は、別表第1のとおりとする。</p> <p>3 専攻教育科目に関する授業科目、<u>単位数及び最低修得単位数</u>は、別表第2のとおりとする。</p> <p>4・5 (略)</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>別表第1 <u>(別紙のとおり)</u></p> <p>別表第2 <u>(別紙のとおり)</u></p>	<p style="text-align: center;">(略)</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>(教育課程)</p> <p>第5条 (同左)</p> <p>2 (同左)</p> <p>3 専攻教育科目に関する授業科目<u>及び</u>単位数は、別表第2のとおりとする。</p> <p>4・5 (略)</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>別表第1 <u>(別紙のとおり)</u></p> <p>別表第2 <u>(別紙のとおり)</u></p>

附 則

- この規則は、令和2年4月1日から施行する。
- この規則による改正後の九州大学芸術工学部規則は、令和2年4月1日に本学部に入学者から適用し、令和2年3月31日に本学部_に在学し、同年4月1日以降も引き続き在学する者については、なお従前の例による。

(別紙)

新

別表第1 (基幹教育科目に関する授業科目、単位数及び最低修得単位数)

区分	授業科目	単位数	最低修得単位数	合計最低修得単位数
(略)				
言語文化科目	(略) 専門英語	(略) 1 単位	(略)	(略)
	(略) フランス語Ⅲ	(略) 1 単位	(略)	(略)
	(略) スペイン語フォーラム	(略) 1 単位	(略)	(略)
	(略)	(略)	(略)	(略)
言語文化自由選択科目	(略) 入門ドイツ語Ⅱ	(略) 2 単位	(略)	(略)
	(略) 中国語オーラル・リスニング演習Ⅱ	(略) 2 単位	(略)	(略)
	(略) 韓国語表現・読解演習Ⅱ	(略) 2 単位	(略)	(略)
文系ディシプリン科目	(略) 芸術学入門	(略) 2 単位	(略)	(略)
	(略)	(略)	(略)	(略)

理 系 デ ィ シ プ リ ン 科 目	数理統計学	1.5 単位	7 単位	18 単位
	デザイン史	2 単位		
	情報科学	1.5 単位		
	自然科学総合実験 (基礎)	1 単位		
	自然科学総合実験 (発展)	1 単位		
	微分積分学	1.5 単位	※備考2参 照	
	微分積分学・同演習A	1.5 単位		
	微分積分学・同演習B	1.5 単位		
	線形代数	1.5 単位	※備考3参 照	
	線形代数学・同演習A	1.5 単位		
	線形代数学・同演習B	1.5 単位		
	物理学概論A	1.5 単位	5 単位 ※備考4参 照	
	物理学概論B	1.5 単位		
	物理学概論A演習	1 単位		
	物理学概論B演習	1 単位		
	基幹物理学 I A	1.5 単位		
	基幹物理学 I B	1.5 単位		
	基幹物理学 I A演習	1 単位		
	基幹物理学 I B演習	1 単位		
	基礎化学	1.5 単位		
無機物質化学	1.5 単位			
有機物質化学	1.5 単位			
基礎化学結合論	1.5 単位			
基礎化学熱力学	1.5 単位			
基礎生物学概要	1.5 単位			
細胞生物学	1.5 単位			
集団生物学	1.5 単位			
地球と宇宙の科学	1 単位			
地球科学	1 単位			
デザイン思考	1 単位			
図形科学	1.5 単位			
空間表現実習 I	2 単位			
空間表現実習 II	2 単位			
プログラミング演習	1 単位			

	社会と数理科学	1 単位		
	(略)	(略)		
	微分積分学・同演習Ⅲ	1.5 単位		
	(略)	(略)		
	数学演習Ⅱ	1 単位		
	身の回りの物理学A	1 単位		
	(略)	(略)		
	身の回りの化学	1 単位		
	(略)	(略)		
	生命の科学B	1 単位		
	分子生物学	1.5 単位		
	生態系の科学	1.5 単位		
	最先端地球科学	1 単位		
	世界建築史	2 単位		
	日本建築史	2 単位		
	コンピュータープログラミング入門	1 単位		
(略)				
目 健康・ スポーツ 科	(略)			
	(略)	(略)		
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1 単位		
	(略)	(略)		
目 総合 科	(略)	(略)	<u>1 単位</u>	<u>1 単位</u>
	アカデミック・フロンティアⅡ	1 単位		

	大学とは何かⅡ (略) 女性学・男性学Ⅱ (略) バイオエシックス入門 (略) 先進的植物生産システム概論Ⅱ (略)	1 単位 (略) 1 単位 (略) 1 単位 (略) 1 単位 (略)		
	(略)			
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	(略) 科学の歴史 B (略) 現代社会Ⅲ (略) 技術と産業・企業 (略) チーム医療演習 (略) 共創発想法 (略) インフォームドコンセント (略) 事業創造デザイン特論Ⅱ (略)	(略) 1 単位 (略) 2 単位 (略) 2 単位 (略) 1 単位 (略) 2 単位 (略) 1 単位 (略) 1 単位 (略)	(略)	(略)

上記に掲げる最低修得単位のほか、基幹教育科目の授業科目のうち、最低修得単位数を超えて修得する授業科目、別表第2に掲げる専攻教育科目（在籍するコースの専攻教育科目を除く。）のうち、最低修得単位数を超えて修得する授業科目又は他学部の専攻教育科目から、5.5単位以上修得しなければならない。

(備考)

- 1 「日本語Ⅱ」～「日本語Ⅶ」については、外国人留学生を対象とする授業科目として開設し、第2外国語として最低修得単位数に含めることができる。
- 2 「微分積分学」の1.5単位又は「微分積分学・同演習A」及び「微分積分学・同演習B」の合計3単位を修得しなければならない。
- 3 「線形代数」の1.5単位又は「線形代数学・同演習A」及び「線形代数学・同演習B」の合計3単位を修得しなければならない。
- 4 インダストリアルデザインコースの学生は、「空間表現実習Ⅱ」を修得しなければならない。

別表第2（専攻教育科目に関する授業科目、単位数及び最低修得単位数）

デザインリテラシー科目、コース基礎科目及び深化・展開科目

科目区分	科目群	授 業 科 目	単位数	最低修得単位数	合計最低修得単位数
デザインリテラシー科目	デザインリテラシー基礎	デザインリテラシー基礎	1単位	1単位	8単位
	基礎造形	基礎造形Ⅰ	1単位	2単位	
		基礎造形Ⅱ	1単位		
		基礎造形Ⅲ 基礎造形Ⅳ	1単位 1単位		
人間とデザイン	文化とデザイン 社会とデザイン 人間科学とデザイン 科学技術とデザイン	1単位 1単位 1単位 1単位	1単位		

	デザイン論	デザイン論Ⅰ デザイン論Ⅱ デザイン・ケーススタディⅠ デザイン・ケーススタディⅡ	1単位 1単位 1単位 1単位	1単位	
コース基礎科目		環境設計基礎Ⅰ 環境設計基礎Ⅱ 空間デザイン実習 環境設計プロジェクトA 環境設計プロジェクトB 空間情報分析実習Ⅰ 空間情報分析実習Ⅱ	1単位 1単位 2単位 2単位 2単位 1単位 1単位		※備考1参照
		インダストリアルデザイン基礎Ⅰ インダストリアルデザイン基礎Ⅱ プロダクトデザイン概論 ライフスケープデザイン概論 サービスデザイン概論 人間工学概論	1単位 1単位 1単位 1単位 1単位 2単位		
		未来構想デザイン概論 視覚芸術基礎 コンセプト論 デザインスケッチ 社会と多様性 環境と持続可能性 クリティカルシンキング プログラミング基礎 情報科学Ⅰ 生命科学入門Ⅰ	1単位 1単位 1単位 1単位 1単位 1単位 1単位 1単位 1単位 1単位		
		メディアデザイン概論Ⅰ メディアデザイン概論Ⅱ メディアデザイン概論Ⅲ メディア表現基礎 メディアプログラミング	1単位 1単位 1単位 2単位 2単位		

	聴覚生理学 聴覚心理学 音文化論 音響理論演習Ⅰ 音響理論演習Ⅱ 音響信号処理 デジタル信号処理	2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位		
深化・展開科目	次の(1)～(4)に掲げる授業科目 (1) 所属コースのコース専門科目のうち、最低修得単位数（合計最低修得単位数の指定がある場合は合計最低修得単位数をいう。以下同じ。）を超えて修得する授業科目 (2) 所属コースのコース演習科目（PBL）のうち、最低修得単位数を超えて修得する授業科目 (3) 所属コース以外のコース専門科目 (4) 所属コース以外のコース演習科目（PBL）		※備考2 参照	12単位
(備考)				
1 コース基礎科目については、環境設計コースの学生は10単位、インダストリアルデザインコースの学生は7単位、未来構想デザインコースの学生は10単位、メディアデザインコースの学生は7単位、音響設計コースの学生は14単位を修得しなければならない。				
2 深化・展開科目については、環境設計コース、メディアデザインコース及び音響設計コースの学生は(3)又は(4)の授業科目から4単位以上、インダストリアルデザインコース及び未来構想デザインコースの学生は(3)又は(4)の授業科目から8単位以上を修得しなければならない。				

環境設計コース

区分	授業科目	単位数	最低修得単位数	合計最低修得単位数
コース専門科目	構造理論Ⅰ	1単位	2単位	30単位
	構造理論Ⅱ	1単位		
	構造システム論Ⅰ	1単位		
	構造システム論Ⅱ	1単位		

<u>環境材料論 I</u>	<u>1 単位</u>	<u>4 単位</u>
<u>環境材料論 II</u>	<u>1 単位</u>	
<u>環境構法論</u>	<u>2 単位</u>	
<u>構法設計論</u>	<u>2 単位</u>	
<u>建築生産</u>	<u>2 単位</u>	
<u>環境調整システム論</u>	<u>2 単位</u>	<u>4 単位</u>
<u>環境情報論 I</u>	<u>1 単位</u>	
<u>環境情報論 II</u>	<u>1 単位</u>	
<u>設備計画論</u>	<u>2 単位</u>	
<u>環境テクノロジー実習A</u>	<u>1 単位</u>	
<u>環境テクノロジー実習B</u>	<u>1 単位</u>	
<u>建築デザイン計画論</u>	<u>2 単位</u>	<u>4 単位</u>
<u>建築空間設計論</u>	<u>2 単位</u>	
<u>都市環境設計論</u>	<u>2 単位</u>	
<u>西洋建築史</u>	<u>1 単位</u>	<u>4 単位</u>
<u>近代建築史</u>	<u>1 単位</u>	
<u>環境文化財論</u>	<u>2 単位</u>	
<u>日本建築史</u>	<u>2 単位</u>	
<u>歴史環境実習</u>	<u>1 単位</u>	
<u>環境保全論</u>	<u>2 単位</u>	<u>4 単位</u>
<u>緑地環境設計論</u>	<u>2 単位</u>	
<u>ランドスケープデザイン論</u>	<u>2 単位</u>	
<u>緑地環境実習</u>	<u>1 単位</u>	

	<u>建築法規</u> <u>環境社会デザイン論</u> <u>データ解析</u> <u>物質文化論</u> <u>ファシリテーション</u> <u>環境倫理学</u> <u>芸術コミュニケーション論</u> <u>アーツマネジメント論</u> <u>Design Pitching Skills</u> <u>Start-ups and Global Disruptors</u> <u>Intellectual Property Rights : Global Perspective</u> <u>Global Design Innovations</u> <u>国際環境デザインA I</u> <u>国際環境デザインA II</u> <u>国際環境デザインAIII</u> <u>国際環境デザインAIV</u> <u>国際環境デザインB I</u> <u>国際環境デザインB II</u> <u>国際環境デザインBIII</u> <u>国際環境デザインBIV</u> <u>インターンシップ (学部) I</u> <u>インターンシップ (学部) II</u>	<u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u>		
<u>コース演習科目</u> <u>(PBL)</u>	<u>環境設計プロジェクトC</u> <u>環境設計プロジェクトD</u> <u>環境設計プロジェクトE</u> <u>環境設計プロジェクトF</u> <u>環境設計プロジェクトG</u> <u>環境設計プロジェクトH</u> <u>環境総合プロジェクトA</u> <u>環境総合プロジェクトB</u>	<u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u>	<u>8 単位</u>	<u>1 2 単位</u>
<u>融合プロジェクト</u> <u>・プラットフォーム</u> <u>△</u>	<u>コース融合プロジェクトA</u> <u>コース融合プロジェクトB</u>	<u>4 単位</u> <u>4 単位</u>		

卒業研究・設計	卒業研究Ⅰ	4単位		8単位
	卒業研究Ⅱ	4単位		

インダストリアルデザインコース

区分	授 業 科 目	単位数	最低修得単位数
コース専門科目	プロダクトデザイン実践論	1単位	21単位
	ライフスケープデザイン実践論	1単位	
	サービスデザイン実践論	1単位	
	イノベーションデザイン論・演習Ⅰ	2単位	
	イノベーションデザイン論・演習Ⅱ	2単位	
	ライフスケープデザイン実践論・演習Ⅰ	2単位	
	ライフスケープデザイン実践論・演習Ⅱ	2単位	
	ソーシャルデザイン論・演習Ⅰ	2単位	
	ソーシャルデザイン論・演習Ⅱ	2単位	
	クリエイティブデザイン演習	2単位	
	福祉人間工学	1単位	
	データ解析	1単位	
	環境人間工学	1単位	
	環境生理学	1単位	
	感性科学	1単位	
	行動生理学	1単位	
	生活機能支援科学	1単位	
	データマイニングⅠ	1単位	
	データマイニングⅡ	1単位	
	生理人類学	1単位	
	生体情報処理論	1単位	
	人間工学先端セミナー	1単位	
	リサーチリテラシー	1単位	
	Design Pitching Skills	1単位	
	Start-ups and Global Disruptors	1単位	
	Intellectual Property Rights : Global Perspective	1単位	
	Global Design Innovations	1単位	
	国際インダストリアルデザインAⅠ	1単位	
	国際インダストリアルデザインAⅡ	1単位	

	<u>国際インダストリアルデザインAⅢ</u> <u>国際インダストリアルデザインAⅣ</u> <u>国際インダストリアルデザインBⅠ</u> <u>国際インダストリアルデザインBⅡ</u> <u>国際インダストリアルデザインBⅢ</u> <u>国際インダストリアルデザインBⅣ</u> <u>インターンシップ（学部）Ⅰ</u> <u>インターンシップ（学部）Ⅱ</u>	<u>1単位</u> <u>1単位</u> <u>2単位</u> <u>2単位</u> <u>2単位</u> <u>2単位</u> <u>1単位</u> <u>1単位</u>	
<u>コース演習科目</u> <u>（PBL）</u>	<u>プロダクトデザイン実践論・演習Ⅰ</u> <u>プロダクトデザイン実践論・演習Ⅱ</u> <u>ライフスケープデザイン論・演習Ⅰ</u> <u>ライフスケープデザイン論・演習Ⅱ</u> <u>ビジネスデザイン論・演習Ⅰ</u> <u>ビジネスデザイン論・演習Ⅱ</u> <u>人間工学演習Ⅰ</u> <u>人間工学演習Ⅱ</u> <u>人間工学プロジェクト演習</u> <u>フィールド調査論・演習</u>	<u>2単位</u> <u>2単位</u> <u>2単位</u> <u>2単位</u> <u>2単位</u> <u>2単位</u> <u>4単位</u> <u>4単位</u> <u>4単位</u> <u>4単位</u>	<u>24単位</u>
<u>融合プロジェクト</u> <u>・プラットフォーム</u>	<u>コース融合プロジェクトA</u> <u>コース融合プロジェクトB</u>	<u>4単位</u> <u>4単位</u>	
<u>卒業研究・設計</u>	<u>卒業研究Ⅰ</u> <u>卒業研究Ⅱ</u>	<u>4単位</u> <u>4単位</u>	<u>8単位</u>

未来構想デザインコース

区分	授業科目	単位数	最低修得単位数
<u>コース専門科目</u>	<u>芸術表現論</u> <u>西洋美術史</u> <u>芸術文化論</u> <u>芸術環境論</u> <u>身体表現演習Ⅰ</u> <u>身体表現演習Ⅱ</u> <u>応用音楽表現演習Ⅰ</u> <u>応用音楽表現演習Ⅱ</u>	<u>1単位</u> <u>1単位</u> <u>1単位</u> <u>1単位</u> <u>1単位</u> <u>1単位</u> <u>1単位</u> <u>1単位</u>	<u>30単位</u>

<u>先端芸術表現論</u>	<u>1 単位</u>
<u>デザイン哲学</u>	<u>1 単位</u>
<u>デザイン美学</u>	<u>1 単位</u>
<u>デザイン編集論・演習</u>	<u>1 単位</u>
<u>デザイン材料論・演習</u>	<u>1 単位</u>
<u>バイオアート&デザイン論・演習</u>	<u>1 単位</u>
<u>未来デザイン方法論</u>	<u>1 単位</u>
<u>デザイン要素論・演習</u>	<u>1 単位</u>
<u>デザイン設計論・演習</u>	<u>1 単位</u>
<u>デザイン実装論・演習</u>	<u>1 単位</u>
<u>環境倫理学</u>	<u>1 単位</u>
<u>物質文化論</u>	<u>1 単位</u>
<u>グローバル化と伝統的社会</u>	<u>1 単位</u>
<u>環境社会デザイン論</u>	<u>1 単位</u>
<u>価値と政策</u>	<u>1 単位</u>
<u>表象文化論</u>	<u>1 単位</u>
<u>芸術コミュニケーション論</u>	<u>1 単位</u>
<u>アーツマネジメント論</u>	<u>1 単位</u>
<u>教育における多様性</u>	<u>1 単位</u>
<u>質的社会調査法</u>	<u>1 単位</u>
<u>ファシリテーション</u>	<u>1 単位</u>
<u>アート・デザイン・ライティング演習</u>	<u>1 単位</u>
<u>主観評価法</u>	<u>2 単位</u>
<u>フィジカルコンピューティングとIoT</u>	<u>1 単位</u>
<u>ウェブサービスデザイン</u>	<u>2 単位</u>
<u>データ解析</u>	<u>1 単位</u>
<u>プログラミング設計</u>	<u>1 単位</u>
<u>シミュレーション数理</u>	<u>1 単位</u>
<u>シミュレーション演習</u>	<u>1 単位</u>
<u>情報科学Ⅱ</u>	<u>1 単位</u>
<u>情報科学Ⅲ</u>	<u>1 単位</u>
<u>データマイニングⅠ</u>	<u>1 単位</u>
<u>データマイニングⅡ</u>	<u>1 単位</u>
<u>先端情報生命科学Ⅰ</u>	<u>1 単位</u>
<u>先端情報生命科学Ⅱ</u>	<u>1 単位</u>
<u>生命科学入門Ⅱ</u>	<u>1 単位</u>

	<u>生命科学実習</u> <u>知覚心理学</u> <u>Design Pitching Skills</u> <u>Start-ups and Global Disruptors</u> <u>Intellectual Property Rights : Global Perspective</u> <u>Global Design Innovations</u> <u>国際未来構想デザインA I</u> <u>国際未来構想デザインA II</u> <u>国際未来構想デザインA III</u> <u>国際未来構想デザインA IV</u> <u>国際未来構想デザインB I</u> <u>国際未来構想デザインB II</u> <u>国際未来構想デザインB III</u> <u>国際未来構想デザインB IV</u> <u>インターンシップ (学部) I</u> <u>インターンシップ (学部) II</u>	<u>1 単位</u> <u>2 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u>	
<u>コース演習科目 (PBL)</u>	<u>共通課題PBL演習A</u> <u>共通課題PBL演習B</u> <u>プラットフォーム演習 A</u> <u>プラットフォーム演習 B</u> <u>プラットフォーム演習 C</u> <u>プラットフォーム演習 D</u>	<u>4 単位</u> <u>4 単位</u> <u>4 単位</u> <u>4 単位</u> <u>4 単位</u> <u>4 単位</u>	<u>8 単位</u>
<u>融合プロジェクト・プラットフォーム</u>	<u>コース融合プロジェクトA</u> <u>コース融合プロジェクトB</u>	<u>4 単位</u> <u>4 単位</u>	<u>4 単位</u>
<u>卒業研究・設計</u>	<u>卒業研究 I</u> <u>卒業研究 II</u>	<u>4 単位</u> <u>4 単位</u>	<u>8 単位</u>

メディアデザインコース

<u>区分</u>	<u>授 業 科 目</u>	<u>単位数</u>	<u>最低修得単位数</u>	<u>合計最低修得単位数</u>
-----------	----------------	------------	----------------	------------------

コース専門科目	<u>ゲームデザイン</u>	<u>2 単位</u>	<u>9 単位</u>	<u>2 5 単位</u>
	<u>映像表現</u>	<u>2 単位</u>		
	<u>アニメーション表現</u>	<u>2 単位</u>		
	<u>芸術論</u>	<u>2 単位</u>		
	<u>数理造形</u>	<u>2 単位</u>		
	<u>タイポグラフィックデザイン</u>	<u>1 単位</u>		
	<u>グラフィックデザイン</u>	<u>1 単位</u>		
	<u>広告クリエイティブデザイン</u>	<u>1 単位</u>		
	<u>情報デザイン</u>	<u>2 単位</u>		
	<u>インタラクティブデザイン</u>	<u>2 単位</u>	<u>8 単位</u>	
	<u>メカニクスデザイン</u>	<u>2 単位</u>		
	<u>バーチャルリアリティ</u>	<u>2 単位</u>		
	<u>コンピュータグラフィックス</u>	<u>2 単位</u>		
	<u>ウェブサービスデザイン</u>	<u>2 単位</u>		
	<u>コンピュータビジョン</u>	<u>2 単位</u>		
	<u>メディア情報処理</u>	<u>2 単位</u>		
	<u>コンテンツ工学</u>	<u>2 単位</u>		
	<u>フィジカルコンピューティングとIoT</u>	<u>1 単位</u>		
	<u>視覚心理学</u>	<u>2 単位</u>	<u>8 単位</u>	
	<u>色彩学</u>	<u>2 単位</u>		
	<u>心理学的思考法</u>	<u>2 単位</u>		
	<u>言葉とコミュニケーション</u>	<u>2 単位</u>		
	<u>演劇文化論</u>	<u>2 単位</u>		
	<u>知的財産法</u>	<u>2 単位</u>		

	<u>知覚心理学</u> <u>主観評価法</u> <u>Design Pitching Skills</u> <u>Start-ups and Global Disruptors</u> <u>Intellectual Property Rights : Global Perspective</u> <u>Global Design Innovations</u> <u>国際メディアデザインA I</u> <u>国際メディアデザインA II</u> <u>国際メディアデザインA III</u> <u>国際メディアデザインA IV</u> <u>国際メディアデザインB I</u> <u>国際メディアデザインB II</u> <u>国際メディアデザインB III</u> <u>国際メディアデザインB IV</u> <u>インターンシップ (学部) I</u> <u>インターンシップ (学部) II</u>	<u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u>		
<u>コース演習科目</u> <u>(PBL)</u>	<u>メディアデザイン総合プロジェクト I</u> <u>メディアデザイン総合プロジェクト II</u>	<u>2 単位</u> <u>2 単位</u>	<u>4 単位</u>	<u>20 単位</u>
	<u>コンテンツデザイン演習 I</u> <u>コンテンツデザイン演習 II</u> <u>造形表現演習</u> <u>数理造形と表現演習</u> <u>コミュニケーションデザイン演習 I</u> <u>コミュニケーションデザイン演習 II</u> <u>コンテンツインタラクション演習</u> <u>実世界インタラクション演習</u> <u>クリエイティブ発想演習</u> <u>クリエイティブプロトタイピング演習</u> <u>メディアサイエンス演習 I</u> <u>メディアサイエンス演習 II</u> <u>比較演劇・メディア文化演習</u> <u>知的財産マネジメント演習</u>	<u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u>		
<u>融合プロジェクト</u> <u>・プラットフォーム</u>	<u>コース融合プロジェクトA</u> <u>コース融合プロジェクトB</u>	<u>4 単位</u> <u>4 単位</u>		

<u>ム</u>				
卒業研究・設計	卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	<u>4単位</u> <u>4単位</u>		<u>8単位</u>

音響設計コース

<u>区分</u>	<u>授 業 科 目</u>	<u>単位数</u>	<u>最低修得 単位数</u>	<u>合計最低修 得単位数</u>
コース専門科目	知覚心理学	<u>2単位</u>	<u>2単位</u>	<u>22単位</u>
	主観評価法	<u>2単位</u>		
	電気工学	<u>2単位</u>		
	電子工学	<u>2単位</u>		
	情報理論	<u>2単位</u>		
	データ解析	<u>1単位</u>		
	データマイニングⅠ	<u>1単位</u>		
	データマイニングⅡ	<u>1単位</u>		
	質的社会調査法	<u>1単位</u>	<u>2単位</u>	
	比較音楽理論	<u>2単位</u>		
	西洋音楽史	<u>2単位</u>		
	音文化論演習	<u>2単位</u>		
	芸術コミュニケーション論	<u>1単位</u>		
	音楽学	<u>2単位</u>		
	聴覚認知論	<u>2単位</u>	<u>2単位</u>	
	音声情報学	<u>2単位</u>		
	デジタル信号処理演習	<u>2単位</u>		
	音響メディア工学	<u>2単位</u>		
	音響メディア工学演習	<u>2単位</u>		
	応用音響理論	<u>2単位</u>	<u>2単位</u>	
	音響機器論	<u>2単位</u>		
騒音環境学	<u>2単位</u>			
非線形理論	<u>2単位</u>			
楽器音響学	<u>2単位</u>			
室内音響学	<u>2単位</u>			

	<u>Design Pitching Skills</u> <u>Start-ups and Global Disruptors</u> <u>Intellectual Property Rights : Global Perspective</u> <u>Global Design Innovations</u> <u>国際音響デザインA I</u> <u>国際音響デザインA II</u> <u>国際音響デザインA III</u> <u>国際音響デザインA IV</u> <u>国際音響デザインB I</u> <u>国際音響デザインB II</u> <u>国際音響デザインB III</u> <u>国際音響デザインB IV</u> <u>インターンシップ (学部) I</u> <u>インターンシップ (学部) II</u>	<u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u>		
<u>コース演習科目</u> <u>(PBL)</u>	<u>音楽理論表現演習</u> <u>音響実験 I</u> <u>音響実験 II</u>	<u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>3 単位</u>	<u>7 単位</u>	<u>16 単位</u>
	<u>聴能形成 I</u> <u>聴能形成 II</u> <u>音響プログラミング演習</u> <u>電気実験</u> <u>応用音楽表現演習 I</u> <u>応用音楽表現演習 II</u> <u>音響生成演習</u> <u>収音音響構成</u> <u>環境音響構成</u>	<u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u> <u>2 単位</u>		
<u>融合プロジェクト</u> <u>・プラットフォーム</u> <u>ム</u>	<u>コース融合プロジェクトA</u>	<u>4 単位</u>		
	<u>コース融合プロジェクトB</u>	<u>4 単位</u>		
<u>卒業研究・設計</u>	<u>卒業研究 I</u>	<u>4 単位</u>		<u>8 単位</u>
	<u>卒業研究 II</u>	<u>4 単位</u>		

回

別表第 1 (基幹教育科目に関する授業科目、単位数及び最低修得単位数)

区分		授業科目	単位数	最低修得単位数	合計最低修得単位数
(略)					
言語文化科目	言語文化基礎科目	(略)	(略)	(略)	(略)
		専門英語	1 単位		
		<u>学術英語 C・集中演習</u>	<u>2 単位</u>		
		(略)	(略)		
		フランス語Ⅲ	1 単位		
		<u>フランス語プラティク I</u>	<u>1 単位</u>		
		<u>フランス語プラティク II</u>	<u>1 単位</u>		
		(略)	(略)		
		スペイン語フォーラム	1 単位		
		<u>日本語 I</u>	<u>1 単位</u>		
	(略)	(略)			
言語文化自由選択科目	言語文化自由選択科目	(略)	(略)		
		入門ドイツ語Ⅱ	2 単位		
		<u>ドイツ語オーラル・リスニング演習 I</u>	<u>2 単位</u>		
		<u>ドイツ語オーラル・リスニング演習 II</u>	<u>2 単位</u>		
		<u>ドイツ語表現・読解演習 I</u>	<u>2 単位</u>		
		<u>ドイツ語表現・読解演習 II</u>	<u>2 単位</u>		
		<u>入門フランス語 I</u>	<u>2 単位</u>		
		<u>入門フランス語 II</u>	<u>2 単位</u>		
		<u>フランス語実用会話</u>	<u>2 単位</u>		
		<u>フランス語読解・作文コース</u>	<u>2 単位</u>		
		<u>フランス語圏の言語と文化</u>	<u>2 単位</u>		
		(略)	(略)		
		中国語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2 単位		
	<u>中国語表現・読解演習 I</u>	<u>2 単位</u>			
	(略)	(略)			

	<u>韓国語表現・読解演習Ⅱ</u> <u>入門スペイン語Ⅰ</u> <u>入門スペイン語Ⅱ</u> <u>総合スペイン語演習</u> <u>表現スペイン語</u> <u>スペイン語圏の言語と文化</u> <u>入門インドネシア語Ⅰ</u> <u>入門インドネシア語Ⅱ</u> <u>入門イタリア語Ⅰ</u> <u>入門イタリア語Ⅱ</u> <u>速習オランダ語</u> <u>速習エスペラント</u>	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位 2 単位		
言語文化 古典語科目	<u>古典ギリシア語Ⅰ</u> <u>古典ギリシア語Ⅱ</u> <u>ラテン語Ⅰ</u> <u>ラテン語Ⅱ</u>	1 単位 1 単位 1 単位 1 単位		
文系 ディシプリン 科目	<u>哲学・思想入門</u> <u>社会思想史</u> (略) 芸術学入門 <u>文化人類学入門</u> (略)	2 単位 2 単位 (略) 2 単位 2 単位 (略)	(略)	(略)

理 系 デ ィ シ プ リ ン 科 目	社会と数理科学	1 単位	※備考2 参照
	<u>微分積分学</u>	<u>1.5 単位</u>	
	<u>微分積分学・同演習A</u>	<u>1.5 単位</u>	
	<u>微分積分学・同演習B</u>	<u>1.5 単位</u>	
	(略)	(略)	
	微分積分学・同演習Ⅲ	1.5 単位	
	<u>線形代数</u>	<u>1.5 単位</u>	
	<u>線形代数学・同演習A</u>	<u>1.5 単位</u>	
	<u>線形代数学・同演習B</u>	<u>1.5 単位</u>	
	(略)	(略)	
	数学演習Ⅱ	1 単位	
	<u>数理統計学</u>	<u>1.5 単位</u>	
	身の回りの物理学A	1 単位	
	<u>身の回りの物理学B</u>	<u>1 単位</u>	
	<u>物理学概論A</u>	<u>1.5 単位</u>	
	<u>物理学概論B</u>	<u>1.5 単位</u>	
	<u>物理学概論A演習</u>	<u>1 単位</u>	
	<u>物理学概論B演習</u>	<u>1 単位</u>	
	<u>基幹物理学 I A</u>	<u>1.5 単位</u>	
	<u>基幹物理学 I B</u>	<u>1.5 単位</u>	
	<u>基幹物理学 I A演習</u>	<u>1 単位</u>	
	<u>基幹物理学 I B演習</u>	<u>1 単位</u>	
	(略)	(略)	
	身の回りの化学	1 単位	
	<u>基礎化学</u>	<u>1.5 単位</u>	
	<u>無機物質化学</u>	<u>1.5 単位</u>	
	<u>有機物質化学</u>	<u>1.5 単位</u>	
	<u>基礎化学結合論</u>	<u>1.5 単位</u>	
	<u>基礎化学熱力学</u>	<u>1.5 単位</u>	
	(略)	(略)	
	生命の科学B	1 単位	
	<u>基礎生物学概要</u>	<u>1.5 単位</u>	
<u>細胞生物学</u>	<u>1.5 単位</u>		
<u>集団生物学</u>	<u>1.5 単位</u>		
分子生物学	1.5 単位		
生態系の科学	1.5 単位		

	<u>地球と宇宙の科学</u> <u>地球科学</u> 最先端地球科学 <u>宇宙科学概論</u> <u>デザイン思考</u> <u>図形科学</u> <u>空間表現実習 I</u> <u>空間表現実習 II</u> 世界建築史 日本建築史 <u>近・現代建築史</u> <u>デザイン史</u> <u>情報科学</u> <u>プログラミング演習</u> コンピュータープログラミング入門 <u>自然科学総合実験（基礎）</u> <u>自然科学総合実験（発展）</u>	<u>1単位</u> <u>1単位</u> 1単位 <u>1.5単位</u> <u>1単位</u> <u>1.5単位</u> <u>2単位</u> <u>2単位</u> 2単位 2単位 <u>2単位</u> <u>2単位</u> <u>1.5単位</u> <u>1単位</u> 1単位 <u>1単位</u> <u>1単位</u>		
(略)				
健康・ スポーツ 科目	(略)			
	(略)	(略)		
	健康・スポーツ科学講義 I A <u>健康・スポーツ科学講義 I B</u> (略)	1単位 <u>1単位</u> (略)		
総 合 科 目	(略)	(略)	<u>1.5単位</u>	<u>1.5単位</u>
	アカデミック・フロンティア II	1単位		
	<u>大学とは何か I</u>	<u>1単位</u>		
	大学とは何か II	1単位		
	<u>九州大学の歴史 I</u>	<u>1単位</u>		
	(略)	(略)		
	女性学・男性学 II	1単位		
	<u>日本事情</u>	<u>2単位</u>		
	(略)	(略)		
	バイオエシックス入門	1単位		
	<u>科学の進歩と女性科学者 I</u>	<u>1単位</u>		
<u>科学の進歩と女性科学者 II</u>	<u>1単位</u>			

	(略) 先進的植物生産システム概論Ⅱ <u>体験的農業生産学入門</u> (略)	(略) 1単位 <u>1単位</u> (略)		
	(略)			
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	(略) 科学の歴史 B <u>科学の基礎 (哲学的考察)</u> (略) 現代社会Ⅲ <u>現代社会Ⅳ</u> (略) 技術と産業・企業 <u>グローバル化とアジア経済</u> (略) チーム医療演習 <u>バイオインフォマティクス</u> (略) 共創発想法 <u>動的現象の科学</u> <u>誘導現象の科学</u> (略) インフォームドコンセント <u>薬害</u> (略) 事業創造デザイン特論Ⅱ <u>リスクマネジメント</u> <u>ビジネス統計学</u> (略)	(略) 1単位 <u>1単位</u> (略) 2単位 <u>2単位</u> (略) 2単位 <u>2単位</u> (略) 1単位 <u>2単位</u> (略) 2単位 <u>2単位</u> (略) 1単位 <u>1単位</u> (略) 1単位 <u>2単位</u> <u>1単位</u> (略)	(略)	(略)
<u>上記に掲げる最低修得単位のほか、備考3に定める授業科目の単位を修得しなければならない。</u>				

(備考)

- 1 「日本語Ⅰ」～「日本語Ⅶ」については、外国人留学生を対象とする授業科目として開設し、第2外国語として最低修得単位数に含めることができる。

2 各学科の学生は、理系ディシプリン科目として次の所定の単位を修得しなければならない。

学科	授 業 科 目		単位数	最低修得 単位数	合計最低 修得単位数
環境 設計 学科	必修 科目	微分積分学	1.5 単位	17 単位	18.5 単位
		線形代数	1.5 単位		
		数理統計学	1.5 単位		
		基幹物理学 I A	1.5 単位		
		図形科学	1.5 単位		
		空間表現実習 I	2 単位		
		空間表現実習 II	2 単位		
		デザイン史	2 単位		
		情報科学	1.5 単位		
		自然科学総合実験 (基礎)	1 単位		
	自然科学総合実験 (発展)	1 単位			
	選択 必修 科目	基幹物理学 I B	1.5 単位	1.5 単位	
		基礎化学	1.5 単位		
		基礎生物学概要	1.5 単位		
地球科学		1 単位			
工業 設計 学科	必修 科目	微分積分学・同演習 A	1.5 単位	18.5 単位	21 単位
		微分積分学・同演習 B	1.5 単位		
		線形代数学・同演習 A	1.5 単位		
		線形代数学・同演習 B	1.5 単位		
		数理統計学	1.5 単位		
		図形科学	1.5 単位		
		空間表現実習 I	2 単位		
		空間表現実習 II	2 単位		
		デザイン史	2 単位		
		情報科学	1.5 単位		
	自然科学総合実験 (基礎)	1 単位			
	自然科学総合実験 (発展)	1 単位			
	選択 必修 科目	基幹物理学 I A	1.5 単位	2.5 単位	
		基幹物理学 I B	1.5 単位		
基幹物理学 I A 演習		1 単位			
基幹物理学 I B 演習		1 単位			
基礎生物学概要		1.5 単位			

		集団生物学	<u>1.5 単位</u>		
画像 設計 学科	必修 科目	<u>微分積分学・同演習 A</u>	<u>1.5 単位</u>	<u>13 単位</u>	<u>17.5 単位</u>
		<u>微分積分学・同演習 B</u>	<u>1.5 単位</u>		
		<u>線形代数学・同演習 A</u>	<u>1.5 単位</u>		
		<u>線形代数学・同演習 B</u>	<u>1.5 単位</u>		
		<u>数理統計学</u>	<u>1.5 単位</u>		
		<u>デザイン史</u>	<u>2 単位</u>		
		<u>情報科学</u>	<u>1.5 単位</u>		
		<u>自然科学総合実験（基礎）</u>	<u>1 単位</u>		
		<u>自然科学総合実験（発展）</u>	<u>1 単位</u>		
		選択 必修 科目	<u>基幹物理学 I A</u>		
<u>基幹物理学 I B</u>	<u>1.5 単位</u>				
<u>基幹物理学 I A 演習</u>	<u>1 単位</u>				
<u>基幹物理学 I B 演習</u>	<u>1 単位</u>				
<u>基礎化学熱力学</u>	<u>1.5 単位</u>				
<u>細胞生物学</u>	<u>1.5 単位</u>				
<u>集団生物学</u>	<u>1.5 単位</u>				
<u>地球と宇宙の科学</u>	<u>1 単位</u>				
<u>地球科学</u>	<u>1 単位</u>				
音響 設計 学科	必修 科目	<u>微分積分学・同演習 A</u>	<u>1.5 単位</u>	<u>16 単位</u>	<u>17 単位</u>
		<u>微分積分学・同演習 B</u>	<u>1.5 単位</u>		
		<u>線形代数学・同演習 A</u>	<u>1.5 単位</u>		
		<u>線形代数学・同演習 B</u>	<u>1.5 単位</u>		
		<u>数理統計学</u>	<u>1.5 単位</u>		
		<u>基幹物理学 I A</u>	<u>1.5 単位</u>		
		<u>基幹物理学 I B</u>	<u>1.5 単位</u>		
		<u>基幹物理学 I A 演習</u>	<u>1 単位</u>		
		<u>基幹物理学 I B 演習</u>	<u>1 単位</u>		
		<u>情報科学</u>	<u>1.5 単位</u>		
		<u>自然科学総合実験（基礎）</u>	<u>1 単位</u>		
		<u>自然科学総合実験（発展）</u>	<u>1 単位</u>		
	選択 必修 科目	<u>無機物質化学</u>	<u>1.5 単位</u>	<u>1 単位</u>	
	<u>有機物質化学</u>	<u>1.5 単位</u>			
	<u>基礎化学結合論</u>	<u>1.5 単位</u>			

		基礎化学熱力学 細胞生物学 集団生物学 地球と宇宙の科学 地球科学 プログラミング演習	<u>1.5 単位</u> <u>1.5 単位</u> <u>1.5 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u> <u>1 単位</u>		
芸術 情報 設計 学科	必修 科目	微分積分学・同演習 A	<u>1.5 単位</u>	<u>13 単位</u>	<u>17.5 単位</u>
		微分積分学・同演習 B	<u>1.5 単位</u>		
		線形代数学・同演習 A	<u>1.5 単位</u>		
		線形代数学・同演習 B	<u>1.5 単位</u>		
		数理統計学	<u>1.5 単位</u>		
		デザイン史	<u>2 単位</u>		
		情報科学	<u>1.5 単位</u>		
		自然科学総合実験（基礎）	<u>1 単位</u>		
	自然科学総合実験（発展）	<u>1 単位</u>			
	選択 必修 科目	基幹物理学 I A	<u>1.5 単位</u>	<u>4.5 単位</u>	
		基幹物理学 I B	<u>1.5 単位</u>		
		基幹物理学 I A 演習	<u>1 単位</u>		
		基幹物理学 I B 演習	<u>1 単位</u>		
		基礎化学熱力学	<u>1.5 単位</u>		
基礎生物学概要		<u>1.5 単位</u>			
集団生物学	<u>1.5 単位</u>				

3 各学科の学生は、次の所定の単位を修得しなければならない。

授 業 科 目	合計最低修得単位数
基幹教育科目の授業科目のうち、最低修得単位数を超えて修得する授業科目、別表第2に掲げる専攻教育科目（在籍する学科の専攻教育科目を除く。）のうち、最低修得単位数を超えて修得する授業科目又は他学部の専攻教育科目	環境設計学科 <u>4.5 単位</u>
	工業設計学科 <u>2 単位</u>
	画像設計学科 <u>5.5 単位</u>
	音響設計学科 <u>6 単位</u>
	芸術情報設計学科 <u>5.5 単位</u>

別表第 2

環境設計学科

授 業 科 目	単 位 数
必 修 科 目	
<u>環境設計基礎Ⅰ</u>	<u>2 単位</u>
<u>環境設計基礎Ⅱ</u>	<u>2 単位</u>
<u>構造理論</u>	<u>2 単位</u>
<u>空間デザイン実習</u>	<u>2 単位</u>
<u>空間プロジェクト</u>	<u>4 単位</u>
<u>空間情報分析実習</u>	<u>2 単位</u>
<u>建築プロジェクト</u>	<u>4 単位</u>
<u>ランドスケーププロジェクト</u>	<u>4 単位</u>
<u>都市プロジェクト</u>	<u>4 単位</u>
<u>卒業研究Ⅰ</u>	<u>2 単位</u>
<u>卒業研究Ⅱ</u>	<u>4 単位</u>
計	<u>32 単位</u>
選 択 科 目	
<u>基礎造形</u>	<u>2 単位</u>
<u>知覚心理学</u>	<u>2 単位</u>
<u>主観評価法</u>	<u>2 単位</u>
<u>デザインストラテジー基礎</u>	<u>2 単位</u>
<u>インターンシップ (学部)</u>	<u>2 単位</u>
※(1) <u>環境材料論</u>	<u>2 単位</u>
※(1) <u>環境調整システム論</u>	<u>2 単位</u>
※(1) <u>環境保全論</u>	<u>2 単位</u>
※(1) <u>建築デザイン計画論</u>	<u>2 単位</u>
※(1) <u>緑地環境設計論</u>	<u>2 単位</u>
※(1) <u>環境構法論</u>	<u>2 単位</u>
※(1) <u>環境人類学</u>	<u>2 単位</u>
※(1) <u>歴史環境設計論</u>	<u>2 単位</u>
※(1) <u>環境文化財論</u>	<u>2 単位</u>
※(1) <u>都市環境設計論</u>	<u>2 単位</u>

※(1)	<u>環境社会経済デザイン論</u>	<u>2単位</u>
※(1)	<u>環境倫理学</u>	<u>2単位</u>
※(1)	<u>環境情報論</u>	<u>2単位</u>
※(1)	<u>構造システム論</u>	<u>2単位</u>
※(1)	<u>環境形成史</u>	<u>2単位</u>
※(1)	<u>建築空間設計論</u>	<u>2単位</u>
※(1)	<u>ポートフォリオマネジメント</u>	<u>2単位</u>
	<u>構法設計論</u>	<u>2単位</u>
	<u>設備計画論</u>	<u>2単位</u>
	<u>建築生産</u>	<u>2単位</u>
	<u>建築法規</u>	<u>1単位</u>
	<u>環境総合プロジェクト</u>	<u>4単位</u>
※(2)	<u>緑地環境実習</u>	<u>1単位</u>
※(2)	<u>歴史環境実習</u>	<u>1単位</u>
※(2)	<u>環境設計文献講読</u>	<u>2単位</u>
※(2)	<u>環境テクノロジー実習</u>	<u>2単位</u>
	<u>芸術文化環境論</u>	<u>2単位</u>
	<u>統計・データ科学</u>	<u>2単位</u>
<u>学 部 内 自 由 科 目</u>		
	<u>芸術工学特別演習 1</u>	<u>1単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 2</u>	<u>1単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 3</u>	<u>1単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 4</u>	<u>1単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 5</u>	<u>1単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 6</u>	<u>1単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 7</u>	<u>1単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 8</u>	<u>1単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 9</u>	<u>1単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 1 0</u>	<u>1単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 1 1</u>	<u>2単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 1 2</u>	<u>2単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 1 3</u>	<u>2単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 1 4</u>	<u>2単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 1 5</u>	<u>2単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 1 6</u>	<u>2単位</u>

<u>芸術工学特別演習 1 7</u>	<u>2 単位</u>
<u>芸術工学特別演習 1 8</u>	<u>2 単位</u>
<u>芸術工学特別演習 1 9</u>	<u>2 単位</u>
<u>芸術工学特別演習 2 0</u>	<u>2 単位</u>
<u>その他本学科又は芸術工学部の他学科の専攻教育科目のうち、本学科の専攻教育科目の必修単位として修得する科目以外の授業科目</u>	
計	<u>6 単位</u>
<u>(備考)</u>	
1 「※(1)」及び「※(2)」を付している授業科目は選択必修科目を示す。	
2 「※(1)」を付している授業科目から24単位、「※(2)」を付している授業科目から3単位を履修しなければならない。	

工業設計学科

授 業 科 目	単 位 数
必 修 科 目	
<u>人間工学概論</u>	<u>2 単位</u>
<u>人間工学設計法</u>	<u>2 単位</u>
<u>デザイン理論</u>	<u>2 単位</u>
<u>生活機器デザイン論</u>	<u>2 単位</u>
<u>生活空間デザイン論</u>	<u>2 単位</u>
<u>工業設計基礎演習 I</u>	<u>1 単位</u>
<u>工業設計基礎演習 II</u>	<u>1 単位</u>
<u>卒業研究 I</u>	<u>2 単位</u>
<u>卒業研究 II</u>	<u>4 単位</u>
計	<u>1 8 単位</u>
選 択 科 目	
<u>工業設計モデリング演習</u>	<u>1 単位</u>
<u>知覚心理学</u>	<u>2 単位</u>
<u>主観評価法</u>	<u>2 単位</u>
<u>デザインストラテジー基礎</u>	<u>2 単位</u>
<u>インターンシップ (学部)</u>	<u>2 単位</u>

	<u>統計・データ科学</u>	<u>2単位</u>
	<u>電子工学</u>	<u>2単位</u>
	<u>知的財産論</u>	<u>2単位</u>
	<u>情報理論</u>	<u>2単位</u>
※(1)	<u>感性科学</u>	<u>2単位</u>
※(1)	<u>福祉人間工学</u>	<u>2単位</u>
※(1)	<u>行動生理学</u>	<u>2単位</u>
※(1)	<u>生理人類学</u>	<u>2単位</u>
※(1)	<u>環境人間工学</u>	<u>2単位</u>
	<u>聴覚生理学</u>	<u>2単位</u>
	<u>人間工学研究法</u>	<u>2単位</u>
	<u>人間工学測定演習</u>	<u>2単位</u>
	<u>フィールド調査演習</u>	<u>2単位</u>
	<u>生体情報処理演習</u>	<u>2単位</u>
	<u>人間工学設計演習</u>	<u>2単位</u>
※(2)	<u>現代生活デザイン論・演習</u>	<u>3単位</u>
※(2)	<u>生活機器設計論・演習</u>	<u>3単位</u>
※(2)	<u>生活空間設計論・演習</u>	<u>3単位</u>
※(2)	<u>生活機器造形論・演習</u>	<u>3単位</u>
※(2)	<u>生活空間造形論・演習</u>	<u>3単位</u>
※(2)	<u>デザインシステム論・演習</u>	<u>3単位</u>
	<u>インタラクシオンデザイン</u>	<u>2単位</u>
	<u>デザイン思考法</u>	<u>2単位</u>
	<u>インダストリアルデザイン基礎演習A</u>	<u>2単位</u>
	<u>インダストリアルデザイン基礎演習B</u>	<u>2単位</u>
	<u>計画設計プロジェクト演習</u>	<u>2単位</u>
※(3)	<u>工業設計力学Ⅰ</u>	<u>2単位</u>
※(3)	<u>工業設計力学Ⅱ</u>	<u>2単位</u>
※(3)	<u>設計多変量解析</u>	<u>2単位</u>
※(3)	<u>機能工学基礎</u>	<u>2単位</u>
※(3)	<u>機能デザイン論</u>	<u>2単位</u>
※(3)	<u>応用時系列解析</u>	<u>2単位</u>
	<u>構造理論</u>	<u>2単位</u>
	<u>機械学習</u>	<u>2単位</u>
	<u>デジタルモデリング演習</u>	<u>2単位</u>
	<u>機能工学デザイン演習</u>	<u>2単位</u>

工業設計プロジェクト研究	2単位
学 部 内 自 由 科 目	
芸術工学特別演習 1	1単位
芸術工学特別演習 2	1単位
芸術工学特別演習 3	1単位
芸術工学特別演習 4	1単位
芸術工学特別演習 5	1単位
芸術工学特別演習 6	1単位
芸術工学特別演習 7	1単位
芸術工学特別演習 8	1単位
芸術工学特別演習 9	1単位
芸術工学特別演習 1 0	1単位
芸術工学特別演習 1 1	2単位
芸術工学特別演習 1 2	2単位
芸術工学特別演習 1 3	2単位
芸術工学特別演習 1 4	2単位
芸術工学特別演習 1 5	2単位
芸術工学特別演習 1 6	2単位
芸術工学特別演習 1 7	2単位
芸術工学特別演習 1 8	2単位
芸術工学特別演習 1 9	2単位
芸術工学特別演習 2 0	2単位
その他本学科又は芸術工学部の他学科の専攻教育科目のうち、本学科の専攻教育科目の必修単位として修得する科目以外の授業科目	
計	6単位
(備考)	
1 「※(1)」、「※(2)」、「※(3)」を付している授業科目は選択必修科目を示す。	
2 「※(1)」を付している授業科目から6単位、「※(2)」を付している授業科目から9単位、「※(3)」を付している授業科目から8単位を履修しなければならない。	

画像設計学科

授 業 科 目	単 位 数
必 修 科 目	
視覚学	2 単位
色彩学	2 単位
視覚芸術基礎Ⅰ	2 単位
視覚芸術基礎Ⅱ	2 単位
視覚芸術基礎Ⅲ	2 単位
画像工学基礎	2 単位
画像工学プログラミング	2 単位
卒業研究Ⅰ	2 単位
卒業研究Ⅱ	4 単位
計	20 単位
選 択 科 目	
知覚心理学	2 単位
主観評価法	2 単位
デザインストラテジー基礎	2 単位
インターンシップ (学部)	2 単位
統計・データ科学	2 単位
機械学習	2 単位
設計多変量解析	2 単位
応用時系列解析	2 単位
コンピュータグラフィックス	2 単位
知的財産論	2 単位
銀塩写真演習	2 単位
※(1) 視覚心理学	2 単位
視覚心理学演習	2 単位
※(1) 視覚生理システム学	2 単位
色彩学演習	2 単位
心理学的思考法演習	2 単位
※(1) 画像論	2 単位
画像論演習	2 単位
視覚伝達論	2 単位

※(2)	<u>映像表現プロデュース論</u>	<u>2単位</u>
	<u>拡張映像表現スタジオ演習</u>	<u>2単位</u>
※(2)	<u>デジタルイメージクリエーション論</u>	<u>2単位</u>
	<u>コンピュータアニメーション演習</u>	<u>2単位</u>
※(2)	<u>グラフィックコミュニケーション論</u>	<u>2単位</u>
	<u>グラフィックデザイン演習</u>	<u>2単位</u>
※(2)	<u>メディアコミュニケーション論</u>	<u>2単位</u>
	<u>メディア環境計画</u>	<u>2単位</u>
※(2)	<u>芸術表現論</u>	<u>2単位</u>
	<u>現代芸術とコミュニケーション演習</u>	<u>2単位</u>
	<u>視覚芸術学プロジェクト</u>	<u>2単位</u>
※(3)	<u>画像メディア工学</u>	<u>2単位</u>
	<u>画像メディア工学演習</u>	<u>2単位</u>
※(3)	<u>画像処理</u>	<u>2単位</u>
	<u>画像処理演習</u>	<u>2単位</u>
※(3)	<u>グラフィックスアルゴリズム</u>	<u>2単位</u>
	<u>グラフィックスアルゴリズム演習</u>	<u>2単位</u>
<u>学 部 内 自 由 科 目</u>		
	<u>芸術工学特別演習 1</u>	<u>1単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 2</u>	<u>1単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 3</u>	<u>1単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 4</u>	<u>1単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 5</u>	<u>1単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 6</u>	<u>1単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 7</u>	<u>1単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 8</u>	<u>1単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 9</u>	<u>1単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 10</u>	<u>1単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 11</u>	<u>2単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 12</u>	<u>2単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 13</u>	<u>2単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 14</u>	<u>2単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 15</u>	<u>2単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 16</u>	<u>2単位</u>
	<u>芸術工学特別演習 17</u>	<u>2単位</u>

芸術工学特別演習 1 8	2 単位
芸術工学特別演習 1 9	2 単位
芸術工学特別演習 2 0	2 単位
その他本学科又は芸術工学部の他学科の専攻教育科目のうち、本学科の専攻教育科目の必修単位として修得する科目以外の授業科目	
計	6 単位
(備考)	
1 「※(1)」、「※(2)」、「※(3)」を付している授業科目は選択必修科目を示す。	
2 「※(1)」、「※(2)」、「※(3)」を付している授業科目からそれぞれ4単位を履修しなければならない。	

音響設計学科

授 業 科 目	単 位 数
必 修 科 目	
主観評価法	2 単位
音楽社会学	2 単位
西洋音楽史	2 単位
音文化論演習	2 単位
聴覚生理学	2 単位
聴覚心理学	2 単位
音響信号処理演習	2 単位
デジタル信号処理	2 単位
電気工学	2 単位
電気実験	1 単位
音響理論演習 I	3 単位
音響理論演習 II	3 単位
音楽理論表現演習	2 単位
音楽構造基礎演習	2 単位
音響実験 I	3 単位
音響実験 II	3 単位
輪講	2 単位

<u>電子工学</u>	<u>2 単位</u>
<u>卒業研究 I</u>	<u>2 単位</u>
<u>卒業研究 II</u>	<u>4 単位</u>
計	<u>4 5 単位</u>
<u>選 択 科 目</u>	
<u>知覚心理学</u>	<u>2 単位</u>
<u>デザインストラテジー基礎</u>	<u>2 単位</u>
<u>インターンシップ (学部)</u>	<u>2 単位</u>
<u>推測統計学</u>	<u>2 単位</u>
<u>システム工学</u>	<u>2 単位</u>
<u>設計多変量解析</u>	<u>2 単位</u>
<u>情報理論</u>	<u>2 単位</u>
<u>音楽学</u>	<u>2 単位</u>
<u>応用音楽学</u>	<u>2 単位</u>
<u>音声学</u>	<u>2 単位</u>
<u>サウンド・パフォーマンス</u>	<u>2 単位</u>
<u>比較音楽理論</u>	<u>2 単位</u>
<u>室内音響学</u>	<u>2 単位</u>
<u>騒音環境学</u>	<u>2 単位</u>
<u>非線形振動論</u>	<u>2 単位</u>
<u>応用音響理論</u>	<u>2 単位</u>
<u>音響構成</u>	<u>4 単位</u>
<u>聴覚認知論</u>	<u>2 単位</u>
<u>楽器・音響機器論</u>	<u>2 単位</u>
<u>デジタル信号処理演習</u>	<u>2 単位</u>
<u>音響情報工学</u>	<u>2 単位</u>
<u>音響情報工学演習</u>	<u>2 単位</u>
<u>応用時系列解析</u>	<u>2 単位</u>
<u>聴能形成 I</u>	<u>1 単位</u>
<u>聴能形成 II</u>	<u>1 単位</u>
<u>プログラミング言語</u>	<u>2 単位</u>
<u>学 部 内 自 由 科 目</u>	
<u>芸術工学特別演習 1</u>	<u>1 単位</u>

<u>芸術工学特別演習 2</u>	<u>1 単位</u>
<u>芸術工学特別演習 3</u>	<u>1 単位</u>
<u>芸術工学特別演習 4</u>	<u>1 単位</u>
<u>芸術工学特別演習 5</u>	<u>1 単位</u>
<u>芸術工学特別演習 6</u>	<u>1 単位</u>
<u>芸術工学特別演習 7</u>	<u>1 単位</u>
<u>芸術工学特別演習 8</u>	<u>1 単位</u>
<u>芸術工学特別演習 9</u>	<u>1 単位</u>
<u>芸術工学特別演習 1 0</u>	<u>1 単位</u>
<u>芸術工学特別演習 1 1</u>	<u>2 単位</u>
<u>芸術工学特別演習 1 2</u>	<u>2 単位</u>
<u>芸術工学特別演習 1 3</u>	<u>2 単位</u>
<u>芸術工学特別演習 1 4</u>	<u>2 単位</u>
<u>芸術工学特別演習 1 5</u>	<u>2 単位</u>
<u>芸術工学特別演習 1 6</u>	<u>2 単位</u>
<u>芸術工学特別演習 1 7</u>	<u>2 単位</u>
<u>芸術工学特別演習 1 8</u>	<u>2 単位</u>
<u>芸術工学特別演習 1 9</u>	<u>2 単位</u>
<u>芸術工学特別演習 2 0</u>	<u>2 単位</u>
その他本学科又は芸術工学部の他学科の専攻教育科目のうち、本学科の専攻教育科目の必修単位として修得する科目以外の授業科目	
計	<u>6 単位</u>

芸術情報設計学科

授 業 科 目	単 位 数
必 修 科 目	
<u>基礎造形（平面）</u>	<u>2 単位</u>
<u>基礎造形（立体）</u>	<u>2 単位</u>
<u>芸術情報設計概論</u>	<u>2 単位</u>
<u>コンピュータ概論</u>	<u>2 単位</u>
<u>プログラミング基礎</u>	<u>2 単位</u>
<u>芸術情報総合演習</u>	<u>2 単位</u>

<u>卒業研究Ⅰ</u>	<u>2単位</u>
<u>卒業研究Ⅱ</u>	<u>4単位</u>
計	<u>18単位</u>
<u>選 択 科 目</u>	
<u>知覚心理学</u>	<u>2単位</u>
<u>主観評価法</u>	<u>2単位</u>
<u>デザインストラテジー基礎</u>	<u>2単位</u>
<u>インターンシップ (学部)</u>	<u>2単位</u>
<u>設計多変量解析</u>	<u>2単位</u>
<u>応用時系列解析</u>	<u>2単位</u>
※ <u>芸術学概論</u>	<u>2単位</u>
※ <u>文化比較論</u>	<u>2単位</u>
※ <u>演劇文化論</u>	<u>2単位</u>
※ <u>芸術文化環境論</u>	<u>2単位</u>
※ <u>造形論</u>	<u>2単位</u>
※ <u>知的財産論</u>	<u>2単位</u>
※ <u>芸術文化施設論</u>	<u>2単位</u>
<u>色彩学</u>	<u>2単位</u>
<u>画像論</u>	<u>2単位</u>
<u>比較映画・演劇文化演習</u>	<u>2単位</u>
<u>フィールドワーク演習</u>	<u>2単位</u>
※ <u>デジタルコンテンツデザイン</u>	<u>2単位</u>
※ <u>コンピュータグラフィックス</u>	<u>2単位</u>
※ <u>コンテンツ環境デザイン</u>	<u>2単位</u>
※ <u>インタラクティブデザイン</u>	<u>2単位</u>
<u>コンピュータグラフィックス演習</u>	<u>2単位</u>
<u>デジタルコンテンツデザイン演習</u>	<u>2単位</u>
<u>インタラクティブインタフェース演習</u>	<u>2単位</u>
<u>Webコンテンツデザイン演習</u>	<u>2単位</u>
※ <u>バーチャルリアリティ</u>	<u>2単位</u>
※ <u>ソフトウェアアーキテクチャ</u>	<u>2単位</u>
※ <u>メディア情報処理</u>	<u>2単位</u>
※ <u>人工生命デザイン</u>	<u>2単位</u>
※ <u>知覚情報処理工学</u>	<u>2単位</u>

※	統計・データ科学	2単位
※	機械学習	2単位
	メディアアート表現ワークショップ	2単位
	芸術情報先端特別講義	2単位
	芸術情報プロジェクト演習	2単位
学 部 内 自 由 科 目		
	芸術工学特別演習 1	1単位
	芸術工学特別演習 2	1単位
	芸術工学特別演習 3	1単位
	芸術工学特別演習 4	1単位
	芸術工学特別演習 5	1単位
	芸術工学特別演習 6	1単位
	芸術工学特別演習 7	1単位
	芸術工学特別演習 8	1単位
	芸術工学特別演習 9	1単位
	芸術工学特別演習 10	1単位
	芸術工学特別演習 11	2単位
	芸術工学特別演習 12	2単位
	芸術工学特別演習 13	2単位
	芸術工学特別演習 14	2単位
	芸術工学特別演習 15	2単位
	芸術工学特別演習 16	2単位
	芸術工学特別演習 17	2単位
	芸術工学特別演習 18	2単位
	芸術工学特別演習 19	2単位
	芸術工学特別演習 20	2単位
	その他本学科又は芸術工学部の他学科の専攻教育科目のうち、本学科の専攻教育科目の必修単位として修得する科目以外の授業科目	
計		6単位
(備考)		
1 「※」を付している授業科目は、選択必修科目を示す。		
2 「※」を付している授業科目から20単位を履修しなければならない。		

九州大学教授会通則

平成16年度九大規則第8号
制定：平成16年 4月 1日
最終改正：平成27年 2月24日
(平成26年度九大規則第83号)

(趣旨)

第1条 この規則は、九州大学学則（平成16年度九大規則第1号）第38条第2項の規定に基づき、教授会の組織、審議事項、議事の手続その他必要な事項を定めるものとする。

(構成員)

第2条 各学部の教授会の構成員は、次に掲げる者とする。

(1) 研究院の所属で当該学部の教育研究又は附属教育研究施設を担当する教授

(2) 病院の所属で学部の教育研究を担当する教授

2 各学府の教授会の構成員は、当該学府の教育研究を担当する教授とする。

3 各研究院の教授会の構成員は、当該研究院所属の教授とする。

4 基幹教育院の教授会の構成員は、基幹教育院所属の教授とする。

5 各附置研究所の教授会の構成員は、当該附置研究所所属の教授とする。

6 カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所（以下「国際研究所」という。）の教授会の構成員は、国際研究所所属の教授とする。

7 情報基盤研究開発センター（以下「センター」という。）の教授会の構成員は、センター所属の教授とする。

8 教授会には、准教授その他の職員を加えることができる。

(教授会の審議事項等)

第3条 教授会は、総長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了

(2) 学位の授与

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして総長が定めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、総長及び教授会が置かれる部局の長（以下この項において「総長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び総長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(議長)

第4条 教授会に議長を置き、当該部局の長をもって充てる。

2 議長は、教授会を主宰する。

(議事)

第5条 教授会は、構成員の2分の1以上が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。

2 教授会の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 前2項の規定にかかわらず、特に重要な事項の審議については、別段の定めをすることができる。

(構成員以外の者の出席)

第6条 教授会が必要であると認めた場合は、構成員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(代議員会等)

第7条 教授会は、その定めるところにより、教授会の構成員のうちの一部の者をもって構成される代議員会、専門委員会等（次項において「代議員会等」という。）を置くことができる。

2 教授会は、その定めるところにより、代議員会等の議決をもって、教授会の議決とすることができる。

(補則)

第8条 この規則に定めるもののほか、教授会の議事の手続その他その運営に関し必要な事項は、各教授会の議を経て当該部局長が定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 (平成16年度九大規則第246号)

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則 (平成18年度九大規則第40号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平成23年度九大規則第14号)

この規則は、平成23年10月1日から施行する。

附 則 (平成24年度九大規則第32号)

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則 (平成24年度九大規則第50号)

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則 (平成25年度九大規則第41号)

この規則は、平成25年11月1日から施行する。

附 則 (平成26年度九大規則第14号)

この規則は、平成26年10月1日から施行する。

附 則 (平成26年度九大規則第83号)

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

九州大学芸術工学部

目 次

1. 設置の趣旨及び必要性	1
2. 学部・学科等の特色	5
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	8
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	9
5. 教員組織の編成の考え方及び特色	17
6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	19
7. 施設、設備等の整備計画	22
8. 入学者選抜の概要	24
9. 取得可能な資格	30
10. 海外留学等の具体的計画	31
11. 2以上の校地において教育研究を行う場合の 具体的計画	35
12. 管理運営	36
13. 自己点検・評価	38
14. 情報の公表	40
15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	41
16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	42

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 設置の趣旨・必要性

九州大学芸術工学部は、前身である九州芸術工科大学が、平成15年10月に九州大学と統合したことにより誕生した学部である。本学部は、昭和43年4月の学部開設時は、環境設計、工業設計、画像設計、音響設計の4学科でスタートし、平成9年4月に芸術情報設計学科を設置して5学科体制となり、その後の大学統合や大学院の組織改編を経て20年以上が経過している。九州芸術工科大学と九州大学との統合からもすでに15年が経過しており、今では芸術工学部のみならず、九州大学全体にもデザインの感性を育てる教育が次第に浸透し、特色のある学生が育成されている。

その間、グローバル化、少子高齢化等大学を取り巻く社会構造が大きく変化し、地球環境問題の顕在化等から、経済活動の持続可能性が深刻に問われ、人間の生き方や生活のあり方について、価値観の転換を含め、人類がこれまでに経験したことがないような社会的課題が生じている。さらに、このような状況の中で、社会的な変化に伴いデザインの領域は拡大し、デザイナーの役割も大きく変化している現状から「芸術工学」教育をあらためて見直す必要が出てきている。

デザインの対象は「モノ」から「コト」へ、さらに「ビジョン」へと拡大し、従来は形や色等、意匠的、表層的な成果を目的としてデザインが行われていたが、ユーザーエクスペリエンス（UX）を含む製品とサービス全体、あるいは、価値創造プロセス全体が領域となり、デザイン領域はビジネスモデル、社会システム等の仕組みへと広がった。さらに、現状の課題に対する解決に限らず、将来のあり得る、また、そうありたい社会のビジョン、「未来はこうもあり得るのではないか」という「問い」の創造までをデザイン概念が含むようになった。

また、デザインに関連する多くの企業への調査によれば、デザイン領域の変化に対応するためには、「高度デザイン人材」が求められていると言われている。その求められている高度デザイン人材とは、「社会を支えるシステムのあるべき姿を探るための将来像を示す」（日立）、「従来の枠を超える、領域にとらわれない」（パナソニック）、「デザインの枠自体がなくなり、モノからシステムや環境をデザインの主体とする」（ダイキン）、「商品デザインから、事業創出、研究開発、ブランディングまで広げる」（ソニー）、と言われるような領域を横断する能力を持つ人材であり、「人や社会、技術を理解し、人の経験や行動原理をベースに未来ビジョンを描き、それを実現する仕組みを考え、必要なサービス、商品や空間を総合的にデザインする」（富士通）、「30年先からの未来技術、生活文化を想像し、未来に生じる価値観や価値の源泉となる物事を見極めるためのスペキュラティブデザイナー」（デンソー）、と言われるような社会変化に柔軟に対応し将来の姿・仕組みを構想できる人材である。

このようなデザインの拡大、変化に対応し、社会が要請する高度デザイン人材を育成する教育を実施するためには、現在の教育課程に以下のような課題がある。

- ① 現状の芸術工学部は、50年前に「モノ」のデザインを想定した4学科と20年前に勃興してきたデジタル技術に対応した1学科の、5学科で構成されている。これらのデザイン分野は現在でも必要とされている一方で、上記のようなデザイン領域の拡大に十分に対応できていない。
- ② 領域を超え、横断的な人材が求められていることに対して、芸術工学部における教育課程が学科という壁で固定されているため、横断的な教育プログラムの編成が困難になっている。
- ③ 今後もデザイン領域の流動性はさらに高まる中、固定的な学科制では必要な教育内容の変化に十分に対応できない。

以上のような課題に応えるため、教育課程を見直すこととし、以下の4つの基本方針を定め、以下で詳述するように、現行の5学科を1学科に統合し、その中に緩やかに並列する5コースを設け、これまでの芸術工学の学問的アイデンティティを継承しつつ、拡大し流動化するデザイン領域に対応す

るための芸術工学部の改組を実施することとした。

【学部改組の基本方針】

- ① 変化に対応できる柔軟な組織とするため、教育課程及び教員・学生の流動性を向上させ、拡大変貌を続ける芸術工学・デザイン分野の多様性に対応する教育組織とする。
- ② 変化に対応する一方で、芸術工学の学問的アイデンティティを強化し、50年間芸術工学が培ってきた専門性を担保し、そのレガシーを次の50年に向けて継承する。
- ③ 世界のグローバル化に沿った教育の国際化を進めるとともに、国内外の多様な価値を包摂する教育を推進する。
- ④ イノベーション創出に対応する教育の一層の充実を図るため、創造性を育む新しいデザイン教育を開発し、新しい科目を提供する。

この4つの基本方針は、九州大学の基本理念である「自律的に改革を続け、教育の質を国際的に保証するとともに、常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の研究・教育拠点となる」の実現を念頭に策定したもので、4つの基本方針を踏まえた学部改組により、芸術工学のアイデンティティの基盤となるデザインリテラシー教育を体系化し、従来のデザイン領域の枠を超える広範なスキルと知識をもつ、高度デザイン人材の育成に取り組む。このデザインリテラシー教育の体系化は、さまざまな専門分野の学生が、時代に対応したデザインの感性を身に付けるための、九州大学全体のデザイン教育を高める役割も果たす。

(2) 教育上の目的

芸術工学部は、「技術の人間化」を実践する学部として、工学や技術に関する科学的な知識、人間や社会に対する深い洞察や、社会の状況に的確に対応できる豊かな教養を持ち、国際的にも通用する広い視野と学識を有する創造性あふれる高度デザイン人材の育成を目的とする。

(3) 学位授与の方針

I) 九州大学教育憲章

九州大学は、教育活動の基本理念を「教育憲章」に掲げ、九州大学が行う教育の目的を「日本の様々な分野において指導的な役割を果たし、アジアをはじめ広く全世界で活躍する人材を輩出し、日本及び世界の発展に貢献する」と定めている。また、九州大学の教育により、秀でた人間性、社会性、国際性、専門性を有する人材を育成するために、4つの原則（人間性の原則、社会性の原則、国際性の原則、専門性の原則）を設け、全学一体となって上記の教育目的及び原則の達成に取り組んでいる。

II) 本学部の学位授与の方針

本学部は、九州大学教育憲章に定める教育の目的と4つの原則（人間性の原則、社会性の原則、国際性の原則、専門性の原則）及び本学部における教育上の目的を踏まえて、次に掲げる「芸術工学」の基本・基礎を十分に理解し、社会的な要請に応える創造性あふれる高度デザイン人材を育成する。改組後の本学部は、芸術工学科の1学科となるため、学科も同様の方針となる。さらに各コースで掲げる到達目標を達成した学生に対して、学士の学位を授与する。

- ・芸術工学に関連する様々な専門知識を総合的に活用しながら社会の課題を発見・提起する能力。
- ・広い視野に立って他者と協力しながら課題の解決に向けて取り組む能力。
- ・課題の解決のためのプロセスを明確にし、企画・実践する能力。
- ・自らの感性や専門的知識を有効に活用しつつ、考えを効果的に表現・伝達する能力。

○ 環境設計コース

A) 関心・意欲・態度

- ・多様化する環境に関する諸問題に対し自ら継続的かつ主体的な関心を有する。

B) 知識・理解

- ・建築、都市、地域、ランドスケープに関する専門知識を有する。

C) 能力・技能

- ・環境を読み解く力、社会調査スキル、科学的思考力、表現能力、分析する力等の基礎的な能力を有する。
- ・時間、空間、他者、自然に対する想像力を持ち、広い視点から人間を取り巻く環境をより良いものにするための設計・計画・制度立案等の実践的解決能力を有する。

○ インダストリアルデザインコース

A) 関心・意欲・態度

- ・人の生活や社会を支える「製品」「生活環境」「サービス」「社会システム」に主体的な関心を有する。

B) 知識・理解

- ・人間の特性及び論理的にデザインを創造する、幅広い専門知識を有する。

C) 能力・技能

- ・感性的・工学的・科学的アプローチを統合する能力を有する。
- ・創造した成果を説明・伝達でき、社会で実践できる能力を有する。

○ 未来構想デザインコース

A) 関心・意欲・態度

- ・既成概念にとらわれることなく、新たなデザインの分野を切り拓こうとする挑戦的な態度を持ち、実践しながら探求、実証しようとする志向性を有する。

B) 知識・理解

- ・芸術、技術、思想の歴史と理論を理解し、現代の社会や人間のありようを説明し、未来社会を構想するために必要な知識を有する。

C) 能力・技能

- ・情報科学を理解し、自然や社会における多様な現象を情報として数理科学的に捉える能力を持ち、生命現象の背後にある自然の仕組みを理解する能力を有する。
- ・芸術的表現方法を修得し、豊かな発想、デザイン実践に結びつける創造的能力を有する。
- ・新しい分野を切り拓き、新しいものをイメージし、文脈を作り、それを表現できる能力を有する。

○ メディアデザインコース

A) 関心・意欲・態度

- ・メディアとコミュニケーションのデザインによって、新しい表現を創出しようとする関心と意欲を有する。
- B) 知識・理解
- ・メディアとコミュニケーションに関わるデザインの知識、そのデザインや研究領域に応用できる数理工学的知識、人間の心理や、知的財産の保護・流通、芸術と文化に関わる知識を有する。
- C) 能力・技能
- ・メディアとコミュニケーションのデザイン、コンテンツ創成に必要な表現能力、およびプログラミング能力を有する。
 - ・好奇心を持って対象を観察し、その結果を構成し、様々なメディアを使って表現する能力を有する。

○ 音響設計コース

- A) 関心・意欲・態度
- ・音に関連する芸術、科学、技術のすべての分野に関心を持ち、それらの専門的知識を自発的に修得して、自らの専門性を継続的に発展させる意欲を有する。
- B) 知識・理解
- ・音響設計の専門家として必要な音に対する感性と、音に関連する文化、環境、情報の各分野についての専門的知識を有する。
- C) 能力・技能・実践
- ・音に関連する芸術、科学、技術的な側面と人間や社会との関わりを理解し、専門的知識を応用して総合的かつ実践的に課題を解決する能力を有する。

(4) 中心となる学問分野

本学部の教育研究で中心となる学問分野は「芸術工学」である。芸術工学は「技術の人間化」を理念として、科学技術を人間生活に適切に利用するために、技術の基盤である科学と、人間精神の最も自由な発現である芸術とを統合し、その全体的な精神によって技術の進路を計画し、その機能の設計について研究する学問分野であり、本学部の前身である九州芸術工科大学の開学当初からの学問的中心であった。その内容は、人文、社会、自然にまたがる知識と芸術的感性を基盤とする高次のデザインで構成される。

芸術工学は、九州芸術工科大学開学当初は環境設計、工業設計、画像設計及び音響設計の4つの専門分野を軸とし、この半世紀の間に誕生した新たな専門分野、境界領域、今後拡大していくデザイン領域を含めて拡大充実している（図1）。

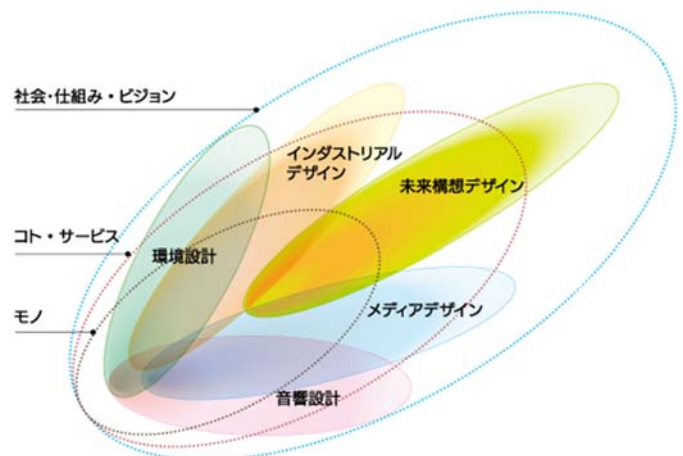


図1： 拡大するデザイン領域のイメージ

2. 学部・学科等の特色

(1) 学部の特色

近年、高度情報化、経済のグローバル化をはじめとする社会構造が大きく変化し、人間の生き方や生活の在り方について、価値観の転換を含め、環境問題等人類がこれまで経験したことがないような新たな課題が生じており、さらに、デザインの領域でも、図1のように、デザインの対象がモノからコトへ、ビジョンへと変化拡大が続いている。

改組後の芸術工学部は、このようなデザイン領域の変化に合わせて教育内容を再編成するだけでなく、不断に変化し続ける状況に対応することが可能な柔軟な組織、カリキュラムを特色としている。

(2) コース制の導入

上記のような特色を備えた学部組織とするため、現行の5学科制を改組し、1学科5コース制に改める(図2)。

この5コースは、図1に示すように従来のモノを中心とするデザイン領域から、コト・サービス、社会・仕組み・ビジョンへ広がる領域に対応する。特に新しく、これからも強く流動するであろう領域は「未来構想デザイン」コースが対応し、近未来の社会の「あるかもしれない」姿に関する「問い」も含めて対象とする。サービス、UX(「ユーザーエクスペリエンス」)等の「コト」のデザインは、「インダストリアルデザイン」コースが主に扱い、対象・課題によっては他の4コースでもカバーする。「メディアデザイン」コースでは、画像設計と芸術情報設計を統合し、総合的なメディアデザインを目指す。「環境設計」、「音響設計」の2コースは、明確な志望動機を持つ受験生を多く受け入れており、これまでの教育内容を強化しつつ、コトやビジョンのデザインへと展開する。

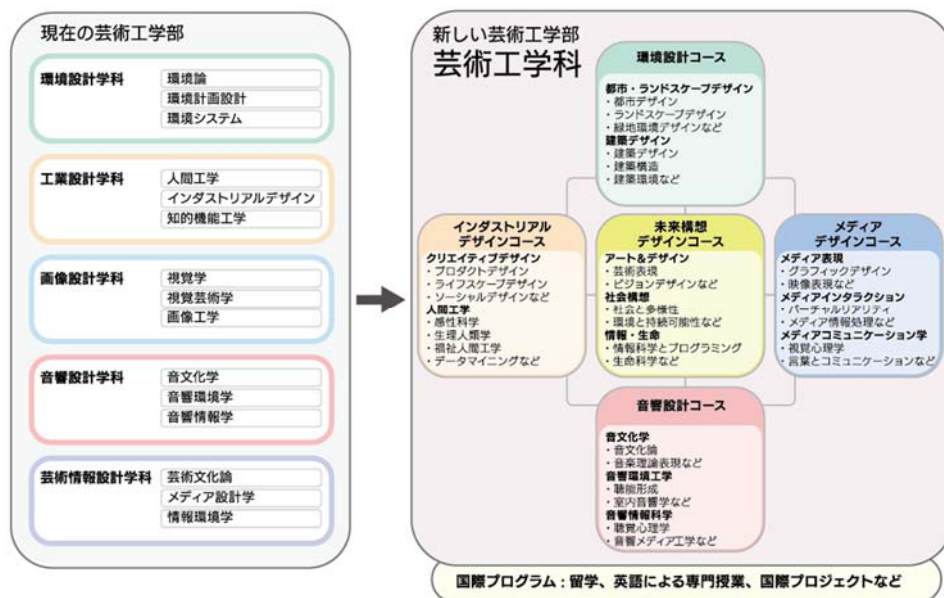


図2： 5学科から1学科5コース制への移行

コース制の導入により、従来実質的には各学科で設計・運営していた個々のカリキュラムを、学部として一元的に設計・運営することが可能となり、分野横断的な教育プログラムの実施や、デザイン領域の変化や学生のニーズにも柔軟に対応可能となる。

具体的には、

- (1) 学生は、芸術工学における基幹的な教育（デザインリテラシー教育）の履修を通じて、コースとして設置するデザイン各分野の融合の基盤を修得する。
- (2) 各学科で設けられていた必修科目を大幅に削減することで各コースのカリキュラムの柔軟性を高める。これにより、学生は興味、関心、問題意識や目的に従って、所属するコース以外から提供される特色のある科目の多様な履修が可能となる。
- (3) 芸術工学部の教育の大きな特徴であるPBL（課題解決型・プロジェクト型）科目を維持、発展させる。学生はそれぞれのコースのPBL科目だけでなく、新たに設ける複数のコースに所属する学生と教員が参加するPBL科目の履修を通じて、分野間の融合を進めることができる。
- (4) 学生は研究的興味を展開に伴って、他コースの研究室配属、複数教員による卒業研究指導を受けることが可能な体制とする。

また、各分野、コースの教員の配置、学生募集の面では、社会的な要請や学問分野の進展に即して、1学科制の中で教員や学生の配置を柔軟に調整することができる。人材の育成という面においては、1学科制カリキュラムは、学科固有の必修科目を多く含む複数学科制カリキュラムよりも、共通科目の配置や他分野科目の履修が容易となり、多様なバックグラウンドを持った人材の輩出が期待できる等が考えられる。

このようにコース制の導入により、全学生を対象とする質の高い芸術工学の基幹的な教育を行いつつ、「芸術工学」の基本となる専門性をしっかりと教育し、共通するカリキュラムを編成することで、より効果的・効率的な教育体制の構築と、異なる志向の学生や教員が協働して新たな価値の創出や課題解決に積極的に取り組む教育を展開する。

各コースの概要は表1のとおりである。

表1：コースの概要

コース名	コースの概要
環境設計コース	エコロジー、持続可能性、地域再生といった近年の課題に応えるため、人間をとりまく環境について多角的な知識を学び、両者の関係のありかたを考察して、芸術的センスあふれる建築、都市、地域、緑地、ランドスケープ等よりよい環境をデザインできる総合的な設計家を育成する。
インダストリアルデザインコース	社会とのつながりを踏まえ、人間の特性をさまざまな側面から理解し、技術の再編・統合も含めた生活者の立場からの新しい俯瞰的視点を備え、安全・安心で魅力的な「製品」「生活環境」「サービス」を創造するクリエイター、プランナー、エンジニア等も含む広義のデザイナーを育成する。
未来構想デザインコース	現代社会の複合的な課題と可能性に向き合うため、これまでデザインの対象とされてこなかった課題・領域における、人々や社会が持つ本質的な課題や欲求を捉え、そこに必要となるコトやサービス、ビジョンあるいは社会の在り方そのものを、芸術工学のディシプリンをツールとして総合的にデザインできる発想力・創造力を持ったデザイン人材を育成する。

メディアデザインコース	論理的な思考能力と芸術的感性あふれる表現能力を併せ持ち、メディアとコミュニケーションに関する問題を科学的かつ文化的視点で捉え、新しいメディアテクノロジーを応用し、創造的なデザインに積極的に挑戦できる、クリエイターをはじめとする高次のデザイナーを育成する。
音響設計コース	音文化を深く理解し、音に対する正しい評価、人間に適合した音環境の創出、音響情報の高品質化の推進に必要となる、音に対する鋭い感性と他分野との融合も視野に入れた高度な専門的知識を兼ね備えた、総合的な設計能力を有する人材を育成する。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

(1) 学部及び学科の名称

芸術工学部／芸術工学科 (School of Design / Department of Design)

本学部の前身である九州芸術工科大学の設立時より、従来の工学や芸術では解決できない分野、人間性を契機とする科学技術と芸術の総合による一つの独自性を持った専門分野、科学技術と人間の最も自由な発現である芸術を融合させた学問分野として、「芸術工学」を用いており、学部及び学科の名称とする。

(2) 学位の名称

学士 (芸術工学) (Bachelor of Design)

本学部における教育課程を修了した者には、工学や技術に関する科学的な知識、人間や社会に対する深い洞察や、社会状況の変化に的確に対応できる豊かな教養を持ち、国際的にも通用する広い視野と学識を有することが期待される。この目的を達成するため、科学技術と人間の最も自由な発現である芸術を融合させた学問分野としての「芸術工学」に関する十分な知識と技術を獲得した者に授与する学位名を「学士 (芸術工学)」とする。

(3) 英語名称について

本学部における「芸術工学」は、芸術 (art) と科学技術 (technology) だけでなく、設計、人文・社会科学等の複合領域にまたがるものであり、設立時より使用している広義的な意味を包含する“Design”を英語名称とする。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程の編成の考え方

本学部のカリキュラムは大きく分けて、全学共通の基幹教育と学部独自の専攻教育からなる。全学共通の基幹教育では、新たな知や技能を創出し、未知の問題を解決していく上での幹となる「ものの見方・考え方・学び方」を学び、生涯にわたって自立的に学び続けるアクティブ・ラーナーの育成を目指し、初年次ー学部ー大学院ー社会へと続く学びの成長を支持する幹を作る体系的なカリキュラムとして機能する。(図3参照)

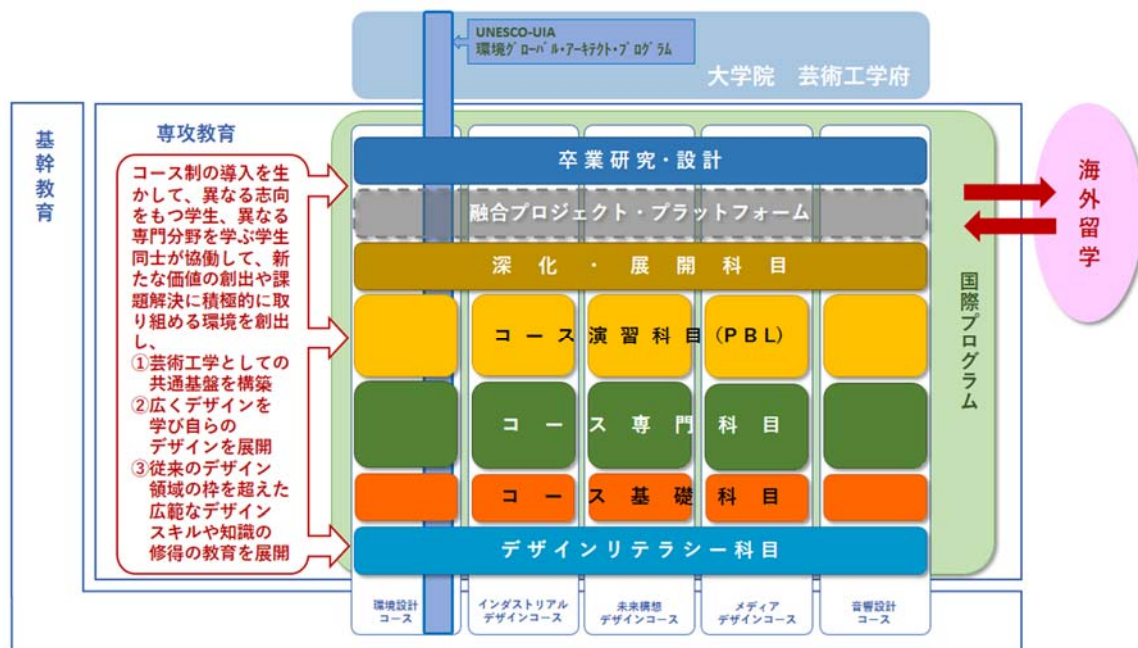


図3：改組後の教育体制

2年次からの学部専攻教育では、基幹教育で掲げる目的と目標を踏まえながら、芸術工学の学問的アイデンティティを強化しつつ、50年間芸術工学が培ってきた専門性を活かして、学生に基盤となる設計の知識や技能を身に付けさせるように、以下の方針で高度デザイン人材に必要な創造性を育むデザイン教育を構築する。改組後の本学部は、芸術工学科の1学科となるため、学科も同様の方針となる。

- ・多様化・複雑化している今日の社会課題を発見・提起できるように、芸術工学に関連する様々な専門知識を修得させる。
- ・広い視野に立って複数の専門分野の人々と協力しながら課題解決へ向かうための知識や技能を修得させる。
- ・新たな価値の創出や課題解決に向かうプロセスを明確化し、企画・実践するための知識や技能を修得させる。
- ・自らの感性や専門的知識を活用しながら、考え方を効果的に表現・伝達するための知識や技能を修得させる。

これらに加えて、各コースで掲げる目標に沿った高度デザイン人材を育成するため、以下のような教育課程を編成し、実施する。

○ 環境設計コース

- ・本コースでは、低年次において基礎科学やデザインリテラシーの授業とともに環境設計の基礎スキルを培うための教育科目を配置する。
- ・その後、フィールドワーク等の学外実習や、実践的な設計プロジェクト演習を中心として、それを専門講義科目群が支えるカリキュラムによって、多様化する環境に関する諸問題や、建築、都市、地域、ランドスケープ等、幅広く専門的な知識と実践的な設計能力を修得させる。
- ・なお、一級建築士受験資格に対応し、大学院修士課程と接続して、国際的建築家資格への対応を図る。

○ インダストリアルデザインコース

- ・本コースでは、低年次において基礎科学やデザインリテラシーの授業とともに、人の生活や社会を支える様々な設計対象に対応するための感性、工学、科学等の複数の考え方に基づいた基礎スキルを培うための教育科目を配置する。
- ・その後、人間の特性を理解し、論理的にデザインを創造するために、クリエイティブデザインと人間工学を核として専門科目に関する講義と演習を相互に行い、深い理解と知識・技術を修得させる。また、専門領域を横断したプロジェクトの学修を介して、高度な専門知識を融合し新しい価値を創造できる実践的な能力を修得させる。

○ 未来構想デザインコース

- ・本コースでは、低年次において基礎科学やデザインリテラシーの授業とともに、新たなデザイン分野を切り開くために自然科学、情報科学、社会科学、アート・デザイン等の分野の基礎的な知識を修得させるための教育科目を配置する。
- ・その後、近い未来の社会のありようを想起するため、芸術、技術、思想の歴史と理論等の知識を修得させ、アート&デザイン、社会構想、情報・生命の科目群で構成していた専門科目によって未来を構想、デザインする能力を養う。また深化・展開科目として他コースの科目を集中的に履修することで具体的なデザイン対象に習熟し、融合プロジェクト・プラットフォームでの演習を通して実践的な知識やスキルを修得させる。

○ メディアデザインコース

- ・本コースでは、低年次において基礎科学やデザインリテラシーの授業とともに、芸術表現やプログラミング言語、コミュニケーションに関わる基礎的な知識を修得させるための教育科目を配置する。
- ・その後、メディア表現、メディアインタラクション、メディアコミュニケーション学の3つの科目群を配置し、メディアとコミュニケーションのデザインや研究に応用できる数理的な知識、人の心理に関わる知識、知的財産の保護・流通、芸術と文化に関わる専門的知識を修得させる。

○ 音響設計コース

- ・本コースでは、低年次において基礎科学やデザインリテラシーの授業とともに、音に関連する芸術、科学、技術の分野に関連する基礎科目を配置する。

- ・その後、音響設計の専門家として必要な、音に対する感性と音に関連する文化、環境、情報の各分野についての専門知識を修得、深化させ、さらにコースの専門科目やコースにまたがる横断的な科目を履修することを通して、総合的に課題を解決するために応用する能力を修得させる。

(2) カリキュラムを構成する科目群

[基幹教育]

- ①「基幹教育科目」
 - i) 基幹教育セミナー
 - ii) 課題協学科目
 - iii) 言語文化科目
 - iv) 文系ディシプリン科目
 - v) 理系ディシプリン科目
 - vi) サイバーセキュリティ科目
 - vii) 健康・スポーツ科目
 - viii) 総合科目
 - ix) 高年次基幹教育科目
 - x) その他

[専攻教育]

- ②デザインリテラシー科目
- ③コース基礎科目
- ④コース専門科目
- ⑤コース演習科目 (PBL)
- ⑥融合プロジェクト・プラットフォーム
- ⑦深化・展開科目
- ⑧卒業研究・設計

[基幹教育]

① 基幹教育科目

九州大学の学部学生の全てが履修する基幹教育科目は、基幹教育セミナー、課題協学科目、言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、サイバーセキュリティ科目、健康・スポーツ科目、総合科目及び高年次基幹教育科目で構成され、初年次に36単位以上を目安に修得し、2年次以降も専攻教育と連動しながら計48単位を修得させる。

i) 基幹教育セミナー

基幹教育セミナーは、生涯にわたる自立的な成長を支える〈学びの基幹〉を育むことを目標とする科目である。

ii) 課題協学科目

課題協学科目は、現代社会が抱える様々な課題や問題の中から授業テーマを設定し、他者と協働しながら自律的に学修を進めることのできる姿勢を身に付けることを目標とする科目である。

iii) 言語文化科目

言語文化科目は、外国語で目標の課題を達成することができる言語運用能力の修得を目標とする科目である。

iv) 文系ディシプリン科目

文系ディシプリン科目は、豊かな教養に裏付けられた深い専門性を伸ばすために必要な文系の基礎的な科目である。

v) 理系ディシプリン科目

理系ディシプリン科目は、教養・専門基礎・リメディアルの3つを意識した科目で構成し、知識を使える力を育てることを目標とする科目である。

vi) サイバーセキュリティ科目

サイバーセキュリティ科目は、IT 社会を生き抜くために必要となるサイバーセキュリティ力を向上させることを目的とする科目である。

vii) 健康・スポーツ科目

健康・スポーツ科目は、身体運動やスポーツを媒介として、生活の基本となる健康・体力を高めることを目標とする科目である。

viii) 総合科目

総合科目は、幅広いテーマと多種多様な授業形態によって開講し、創造的・批判的な思考方法の涵養を目標とする科目である。

ix) 高年次基幹教育科目

高年次基幹教育科目は、2年次以上の学生を対象に、より多様で幅広い教養の深まりを促すことを目標とする科目である。

[専攻教育]

本学部の専攻教育は、基幹教育で修得する学問分野の基礎的な知識をはじめ、豊かな教養へとつながる知識、技能を基盤としつつ、学部専攻教育を実施するカリキュラムで構成し、基幹教育と連動しながら計80単位を修得させる。

② デザインリテラシー科目

芸術工学としての共通基盤を構築するため、全ての学生が、次の4つの科目群それぞれから1科目以上（必修科目を含む）履修し、コース毎の専門的能力にとどまらない普遍的なデザインのリテラシーを体系的に学ぶ科目である。

表 2 : デザインリテラシー科目の内容

4つの科目群の内容		開講科目
デザインリテラシー基礎	芸術工学がどのような価値を実現しているかを学び、デザイン応用力を支える基礎的なリテラシーを形成する	デザインリテラシー基礎
基礎造形	物理的な形を作り出すことにより、創造性を育む	基礎造形Ⅰ 基礎造形Ⅱ 基礎造形Ⅲ 基礎造形Ⅳ
人間とデザイン	人間とデザインの関わり方を多面的に学び、デザインが展開するフィールドを理解する	文化とデザイン 社会とデザイン 人間科学とデザイン 科学技術とデザイン
デザイン論	デザイン学の基盤となる概念、あるいは先端的な概念を学修し、デザイン学としての基礎知識や基礎概念を取得する	デザイン論Ⅰ デザイン論Ⅱ デザイン・ケーススタディⅠ デザイン・ケーススタディⅡ

特に基礎造形Ⅰ～Ⅳでは、インターネットの一般化に伴って生じたDIY (Do It Yourself) やDIWO (Do It With Others)、パーソナル・ファブリケーション、メーカームーブメントという新たなモノづくりに対する理解を踏まえた、造形を通じた体系的な創造性教育を実施する。工作工房を活用し、新たな知や技術だけを取り入れる又は伝統的な手法に固執するという新旧の断絶ではなく、両者を融合し、アナログからデジタルまでを滑らかに行き来する次世代のデザイン教育を実現する。

③ コース基礎科目

各コースの教育目的に合わせた基本的な知識の修得に必要な科目を提供する。

専門分野の基本となる分野を履修することで、より高度な専門知識を得るために必要な理解力、思考力や知識を身に付けることを目的としており、各コースにおいて学生に履修を強く推奨する科目と位置づけている。

④ コース専門科目、⑤コース演習科目 (PBL)

各コースで育成する人材に必要な基礎的能力をはじめ、専門知識、想像力、実践的解決能力、技能等の修得に必要な科目を、コース専門科目及びコース演習科目 (PBL) で提供する。

また、コース演習科目 (PBL) では、各コースに関わる身近な問題や事例等を素材としながら、具体的な問題解決に向けて協働学習で取組み、実践的思考を鍛える科目である。

⑥ 融合プロジェクト・プラットフォーム

異なる専門分野を広く学ぶことを希望する学生が協働して、新たな価値の創出や課題解決に積極的に取り組めるように、複数の分野 (コース) の教員でグループを作り、数種類のプラットフォーム (課題) を提示する。各プラットフォームで設定するテーマは、その時のデザイン領域の先端性のある可変的なテーマとし、常に社会の趨勢に沿ったデザイン教育を実施する。授業は、2, 3, 4年次の夏

学期と秋学期に開講し、学年や所属するコースが異なる学生が一つの課題に協働で取り組む形式とし、学生はこれまでに身に付けた専門分野の知識・スキル・経験を活用する方法を学ぶ一方、別の専門分野に関する経験やスキルを得ることで、従来のデザイン領域の枠を超えた広範な視点や発想方法、デザインスキルの修得や知識の融合を図ることが可能となる。

⑦ 深化・展開科目

全体的に必修科目数を減らし、学生が自身の興味・関心・問題意識に従って広くデザインを学び、様々な視点から自らのデザインを展開するために必要な知識・技能を身に付けさせることを狙いとする科目群として設ける。学生には12単位以上を修得させるが、環境設計コース、メディアデザインコース、音響設計コースの学生はそのうち4単位以上を、未来構想デザインコース及びインダストリアルデザインコースの学生はそのうち8単位以上を他コース科目の履修により修得することを条件とし、全単位を他コースの科目での修得とすることも可能とする。なお、未来構想デザインコースにおいては、その中で1つのコースから提供される科目を集中的に履修することで、具体的なデザイン対象に習熟することとする。

⑧ 卒業研究・設計

3年次終了の時点において、各コースで設定する卒業研究の着手条件を満たした学生は、4年次より必修の卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱを履修する。卒業研究は各コースで定めた方法により、特定のテーマについて研究し、卒業研究発表会や卒業研究展において、研究等の成果を発表させる。

(3) 本学部におけるカリキュラムの特色

I) 創造性を育む新しいデザイン教育

コース制の導入を生かして必修科目を減らし、前述の芸術工学の基幹をつくり、造形教育を強化したデザインリテラシー科目による教育や、異なる志向をもつ学生、異なる専門分野を学ぶ他コースの学生同士が協働して新たな価値創出や課題解決に取り組むコース演習科目（PBL）、融合プロジェクト・プラットフォームでの学びを通じて、拡大し流動化するデザイン領域に対応するものづくりを媒介とした創造性を育むことが新しいデザイン教育としての狙いであり、特色である。

II) 学生の流動性の担保

1) 4学期制を踏まえた時間割の編成

大学全体の4学期制の導入を踏まえ、各授業科目は、週1コマ、8週間、1単位付与のクォーター科目としての開講を基本とする。ただし、授業科目の内容によっては、15コマのセメスター科目や、諸外国のデザイン教育で行われている、1日、3日間、1週間等の期間で実施するワークショップ型の科目として開講する。

また、留学の機会や、他コース科目履修の機会を提供するため、必修の授業科目を開講しないクォーター（3年次夏学期）を設定し、柔軟に授業を履修、運用できる教育環境を整える。

2) 学科一括入試による入学者のコース選択

本学部では、2020（令和2）年4月より学生を入学時に学部全体で一括募集し、2年次から各コースに配属する学科一括入試（大括り入試）の枠を設ける。

学科一括入試により入学した学生は、1年次に芸術工学共通の基礎的なリテラシーを学びながら、

様々なデザイン分野の事例を集めたデザイン・ケーススタディ I を履修する。さらに自身の興味、関心、問題意識に従って、各コースが提供する専門分野の科目の履修が可能となるように科目配置を行うことで、学生のコース選択決定をサポートする。教員からの修学指導やサポートを受けつつ、2年次に5コースのいずれかを選択することとなるため、教員との面談により各コースの専門分野の内容等を把握した上で、より適性や関心に沿ったコース選択が可能となる体制を構築する。

3) 転コースによる学生の流動性の担保

学修を進めるうちに、軸足となる専門分野の変更を希望する学生に対しても対応できるよう、転コースの仕組みについても構築する。2年次の秋学期に、転コース希望について学生に照会し、希望した学生が転コース先の2年次学生が2年次終了時まで履修した科目の平均 GPA 以上の GPA である場合、3年次の春学期開始前に希望したコースへの所属変更を行う。なお、転コースする学生は転コース先の2年次までのコース必修科目をすべて履修するものとする。また、分野のミスマッチを起こさないように、転コース先で履修すべきことについての事前の修学指導と、転コース後のフォローアップを実施する。

4) 卒業研究の柔軟化

各コースで設定する一定の要件を満たす一部の学生については、自身の興味、関心、問題意識に従って、他コースでの卒業研究の実施や、卒業研究のテーマが専門分野の境界領域の場合は専門分野の異なる複数の教員から指導を受けられるようにする等、軸足となる専門性をしっかりと担保しつつ、デザイン領域の広がりや学生の自由な発想に柔軟に対応できる仕組みを導入する。

他コース研究室への受入れを希望する学生がいた場合、各研究室の教員が学生と十分協議を行った上で、最終的な受入れの判断を行う。転コースとは異なり、所属コースの変更は行わないため、学生は所属コースの教員と受入先の他コースの教員から指導を受ける複数指導体制の下、自身の興味、関心、問題意識に関係する分野を横断的に学ぶことが可能となる。

受入れ条件を毎年4月に1～3年次を含む全学年に公示し、他コースでの卒業研究実施に興味を持つ学生が早い段階で準備できるようにする。

例えば、受入れ条件としては以下のいずれかの条件を満たすことが考えられる。

- i) 受入れ先の教員が担当する授業科目の単位を修得している。
- ii) 受入れ先コースの授業を3科目程度履修している。
- iii) 卒業研究と関連するテーマの融合プロジェクト・プラットフォームを履修している。

Ⅲ) 国際的な教育活動

1) 国際プログラムの開設

全てのコースの学生を対象として、国際社会において主体的に活動できる姿勢を身に付けさせ、コミュニケーション能力を高めるための国際プログラムを設け、英語による講義・演習授業の実施や、英語による卒業研究発表等を実施する。また、国際プログラムを履修する学生は、在学中に国際プログラムの一環としての留学を行い、海外の大学で諸外国の新たなデザイン概念、デザイン実践を学ぶ。プログラムの詳細については後述の通り（10章）。

2) 環境設計グローバル・アーキテクト・プログラムの開設

本プログラムは、国際的な建築家資格を目指す学生向けに、環境設計コースの4年間と大学院芸術工学府の2年間を合わせた6年間の国際標準の建築設計教育を提供するものである。日本技術者

教育認定機構（JABEE）の建築系学士修士課程プログラムの認定を受けた上で、UNESCO-UIA が求める建築設計・計画系に特化された国際要求基準（UNESCO-UIA 建築教育憲章）に準拠した教育プログラムとして開設し、修了要件を満たした学生にはプログラム修了証を交付する。

学部教育においては、環境設計コースの提供科目により教育プログラムを実施する。学生には、入学後に本プログラム修了のための必要科目、単位数等についてガイダンスを行う。学生は環境設計コースを履修しながら、同時に本プログラムを履修していくこととなる。

大学院教育においても、既存提供科目を活用するプログラムとなるが、芸術工学研究院の部局内センターである「環境設計グローバル・ハブ」で培われた国際的な研究ネットワークを活用し、海外の大学と連携した国際ワークショップやスタジオを含む PBL（課題解決型）設計演習科目を教育の中心とし、それらを支える専門講義科目、デザインの幅を広げる展開科目、インターンシップ科目等でカリキュラムを構成する。

IV) その他カリキュラムの特色

企業、自治体及び非営利法人（NPO）等との連携教育

本学部ではこれまで数年にわたり、各学科の専攻教育科目において、企業、自治体及び非営利法人（NPO）等と連携した教育を行っている。企業等の担当者による、実際の現場でより必要とされる専門領域についての講義のほか、企業や社会が実際に抱える問題について、学生と企業等の担当者が共同で課題解決に取り組む授業を行っている。具体的には、企業等が資料や情報を提供し、学生がフィールド調査を実施する、共同ワークショップを行って企業等の担当者から学生のアイデアに対し助言や評価を行ったりする等である。これらの体験により、学生はより実践的な仕事の知識や技術、社会人としてのコミュニケーション能力や課題解決能力を身に付けることができる。また、学生ならではの視点による斬新な発想、アイデアが企業等に評価され、実際に一部の商品や活動に取り入れられた事例もある。

近年実施した取り組みの例としては、以下のようなものがあげられる。

i) 自治体や企業、NPO 法人と共同した、様々な社会問題解決の取り組み：

銀行、近隣自治体と連携したキャッシュレス時代のサービスデザイン、海外の大学や近隣自治体と連携した少子高齢化時代特有のサービスデザイン、障がい者の芸術表現活動の支援方法のデザインを試みる演習等。

ii) 企業と共同した「モノ・コト」のデザイン：

インテリアに関わる製品デザイン、気象や人体に関わる各種センサーから得られる情報の利活用、空気の質の可視化、エアラインにおける顧客満足度を高めるためのサービスデザインまで、広範囲にわたるデザイン演習。

iii) 自治体、地域と連携した取り組み：

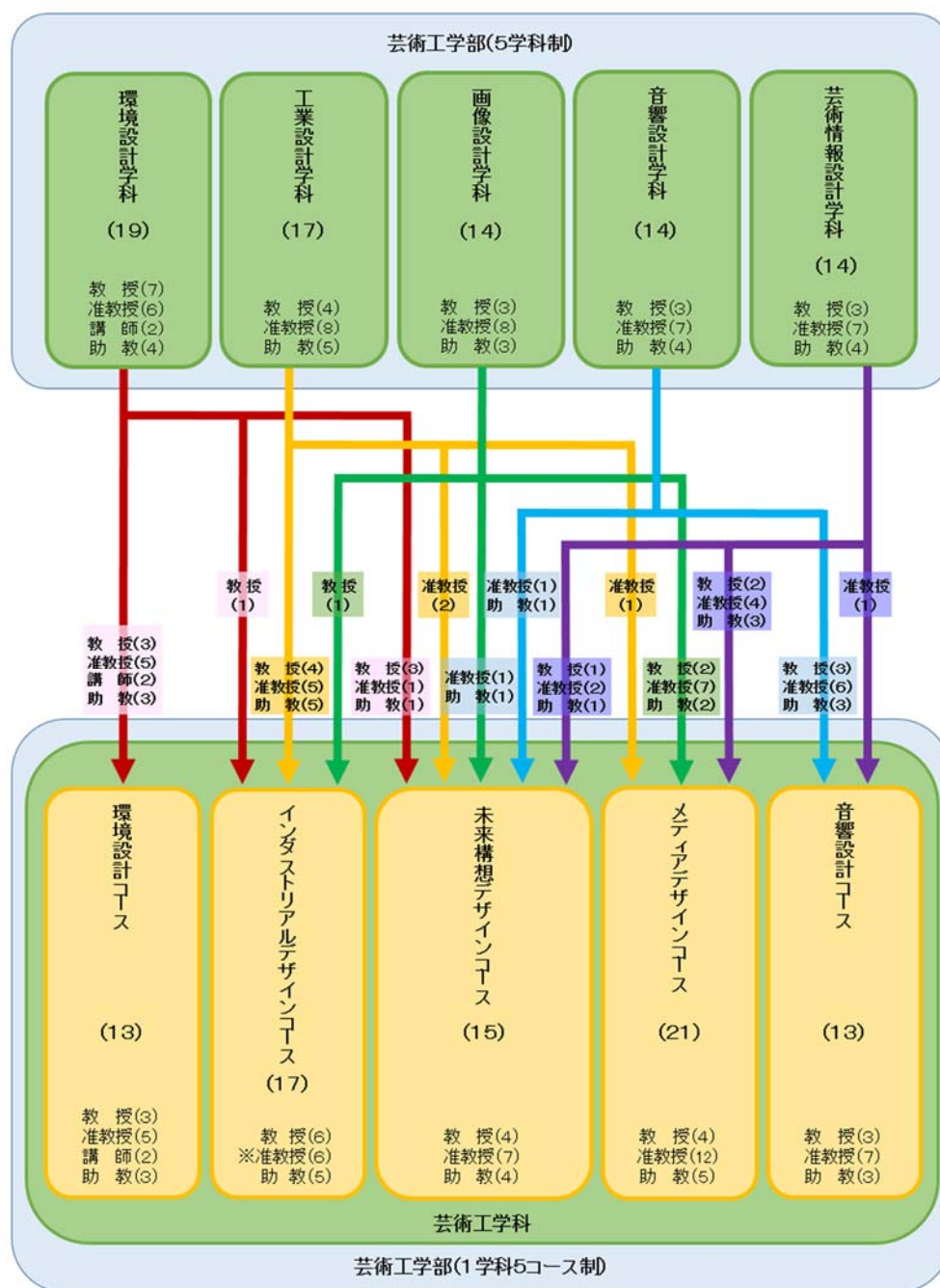
災害復興やその後の地域振興等、緊急度の高い内容から長いスパンで考えるべき政策提言までをデザインする演習。フィールドでの調査から提案まで、実践的な内容に取り組む。

学部改組後は、より体系的に企業・自治体連携を教育課程に取り込んでいく予定である。例えば、3年次の夏学期には必修科目を入れず、日程的に柔軟にデザイン教育を行える環境を整えているため、当該学期に開講する融合プロジェクト・プラットフォームにおいて、企業や自治体が抱える具体的な課題をテーマに取り上げ、企業・自治体関係者の協力を得て演習を実施する等を予定している。

5. 教員組織の編成の考え方及び特色

(1) 教員組織の編成の考え方

教員の組織編成においては、九州大学の学部・学府研究院制度を前提として、主に芸術工学研究院所属の教員が芸術工学部の教育を担当するという考え方にに基づき、研究院におけるそれぞれの専門分野における専門性と、これまでの教育実績を十分に考慮した上で、教員個々の適性や希望も尊重して編成した（図4）。



※インダストリアルデザインコースには現行の学部で学科に所属していない准教授(共通科目担当)1名を含む

図4 改組による教員組織の再編成について

なお、各コースに配置された教員は、所属コースの教育に係る企画運営及びコースに所属する学生の教育を主に行うが、担当以外のコースの教育についても必要に応じて担当し、学生に対する修学指導については学部教育に関わる全教員で臨む体制とする。

初年次から学生が学ぶこととなる基幹教育については、平成26年度以降、すべての研究院、附置研究所、学内共同教育研究センター、先導的研究センター等に所属する教員が、全学的に協力し一体となって実施する体制が既に構築されている。2年次以降に教育課程の中心となる専攻教育の主要な科目には、本学部の専任の教授及び准教授を中心に配置し、専任の講師および助教も協力して学部教育を実施する体制を構築している。

(2) 教員の年齢構成

本学部の開設年度（2020年4月1日）における専任教員は79名であり、うち教授20名、准教授37名（共通科目担当教員1名含む）、講師2名、助教20名となっている。完成年度（2023年4月1日）には専任教員は72名となり、うち教授が14名、准教授が36名、講師が2名、助教が20名となる。専任教員の年齢構成については、完成年度（2023年4月1日）時点で30歳代が7名、40歳代が20名、50歳代が32名、60歳代が13名となっており、教育研究水準の維持及び活性化に十分な年齢構成となっている。なお、完成年度までに7名の教員が定年により退職となる予定であるが、他の専任教員で十分に対応可能であるため、教育研究上の支障はない。

(3) 教員組織編成の特色

本学部の中心となる学問分野となる「芸術工学」は、芸術、科学技術、人間・人文科学だけにとどまらない、社会や自然にもまたがる幅広い分野を包括しているため、教員組織は様々な専門分野の教員から構成されている。

6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 本学部の教育方法の考え方

I) 教育方法の考え方と授業科目

本学部は、設立当初から実験・実習等の演習系科目を通して、自ら体験することすなわち、実際に触れてみることに、視ること、聴くこと、創ってみることを教育方法の方針として掲げており、教育課程の編成に当たっても、この考え方を継承拡大している。

再編後の教育課程においては、実験・実習科目やワークショップ形式の授業を多く取り入れたカリキュラムとなっている。最近、アクティブ・ラーナーという用語とともに、盛んに高等教育の世界で使われているPBL(課題解決型・プロジェクト型)教育科目については、50年前から既に取り組んできた実績があるため、本学部では、こうした最近の流れを受けた取組として授業を実施するのではなく、長年の実績と経験に基づいたPBL授業を、改組後の新学科においてもしっかりと引き継ぎ発展させる。

II) 主要な授業科目の実施方法と配当年次

- 1年次：全学共通の基幹教育を中心に履修し、多様な学問にふれることを通して、問題関心の裾野を広げ、後の成長のための土台を築き、本学部の学生に求められる能動的学修能力を養成する。セミナー科目である「基幹教育セミナー」で自己表現力を養い、「課題協学科目」を通じて、協働学習の基礎を身に付ける。理系ディシプリン科目では、「情報科学」、「自然科学総合実験」、「数理統計学」及び「デザイン史」を本学部の必修科目とし、設計やデザインのための基礎スキルを培う。
また、学部の専攻教育として、1年次前期にはそれぞれの分野が共有する要素であり、芸術工学の共通基盤となるデザインリテラシー科目を全ての学生が履修し、後期には各コースから提供される専門的な科目を履修する。
- 2年次：専攻教育科目を中心に履修し、課題解決を構想するために必要な基礎的な知識・技能を身に付け、課題を見つけるための学びを開始する。また、具体的な地域の実態やあるべき姿について、総合的かつ実践的に学ぶため、フィールドワークな等の学外実習や、実践的な設計プロジェクト演習を履修する。
- 3年次：専攻教育科目を中心に履修し、徐々に自分の取り組む課題を明確にしていき、自らの力で課題を設定して、課題の解決方法を模索する能力を培う。3年次の夏学期は必修科目を設定しない期間とし、国際プログラムの履修学生は海外留学の実施、それ以外の学生には融合プロジェクト・プラットフォームの履修を促す。専門領域を横断する融合プロジェクト・プラットフォームや、身近な事例等を素材とした課題解決学習であるコース演習科目(PBL)の学修を介して、高度な専門知識の融合を図り、新しい価値を創造できる実践的な能力を身に付ける。
- 4年次：卒業研究を実施することで、実践的な問題解決能力とともに、表現能力、プレゼンテーション能力を身に付ける。

(2) 卒業要件

本学部の卒業要件は、基幹教育科目及び本学部の専攻教育として開講する科目の履修による128単位の修得であり、各区分で設ける必要単位数は次のとおりである。

表3： 基幹教育科目（2年次以降を含む）48単位（科目区分ごとの最低修得単位数）

科目区分	コース	芸術工学部 芸術工学科				
		環境設計コース	インダストリアル デザインコース	未来構想 デザインコース	メディア デザインコース	音響設計コース
基幹教育セミナー		1単位				
課題協学科目		2.5単位				
言語文化科目		12単位				
文系ディシプリン科目		4単位				
理系ディシプリン科目		18単位				
サイバーセキュリティ科目		1単位				
健康・スポーツ科目		1単位				
総合科目		1単位				
高年次基幹教育科目		2単位				
その他		5.5単位 (言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、健康・ スポーツ科目、総合科目、高年次基幹教育科目から修得)				

表4： 専攻教育科目 80単位（科目区分ごとの最低修得単位数）

科目区分	コース	芸術工学部 芸術工学科				
		環境設計コース	インダストリアル デザインコース	未来構想 デザインコース	メディア デザインコース	音響設計コース
デザインリテラシー科目		8単位				
コース基礎科目		10単位	7単位	10単位	7単位	14単位
コース専門科目		30単位	21単位	30単位	25単位	22単位
コース演習科目 (PBL)		12単位	24単位	8単位	20単位	16単位
融合プロジェクト・ プラットフォーム				4単位		
深化・展開科目		12単位*)				
卒業研究・設計		8単位				

*) 4単位以上を他コースの専門科目（コース専門科目及びコース演習科目（PBL））からの修得とし、全て他コースの専門科目で修得することも可能。
但し、未来構想デザインコース及びインダストリアルデザインコースは8単位以上を他コースの専門科目から修得する。

(3) 履修科目の年間登録上限

卒業の要件として修得すべき単位数について、学生が各年度の1学期において履修科目として登録できる総単位数の上限を24単位とする。ただし、前年度において修得した単位の8割以上の成績がB（基準を超えて優秀）以上である者は、学部長に願い出て許可を得ることで、登録単位数の上限を超えて履修科目の登録を認めるものとする。

7. 施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備状況

芸術工学部のある大橋キャンパス内には、芸術工学図書館、キャンパスライフ・健康支援センター（健康相談室、学生相談室）、外国人留学生・研究者サポートセンター、食堂・売店等の福利厚生施設が充実している。

また、大橋キャンパスの近くには、学生寄宿舍（井尻寮）が設けられている。

運動場については、大橋キャンパス内に設置されている多目的グラウンド、体育館、テニスコートを主に使用する。このほか大橋キャンパスには課外活動施設（サークル棟）が整備されている。

学生が休息するスペースとしては、課外活動施設（サークル棟）、食堂、建物によっては休憩スペース（リフレッシュルーム）が整備されている。

(2) 校舎等施設の整備状況

教室については、本学部の特色ある教育を展開できるよう、現在の3号館・4号館・5号館・7号館等を中心として、次のような形で整備されている。

① 講義室・演習室

3号館	3 2 1号室（ 5 4名規模）
	3 2 2号室（1 1 7名規模）
	3 2 3号室（ 3 0名規模）
4号館	4 1 1号室（ 6 1名規模）
5号館	5 1 1号室（2 1 0名規模）
	5 1 2号室（ 8 1名規模）
	5 2 1号室（ 8 8名規模）
	5 2 4号室（1 3 0名規模）
	5 2 5号室（1 4 7名規模）
	5 3 1号室（ 7 8名規模）
	5 3 2号室（ 5 4名規模）
	5 3 3号室（ 5 4名規模）
	共同製図室（1 1 1名規模）
7号館	ワークショップ室（3 6名規模）
	シアタールーム（1 6名規模）

② アクティブ・ラーニング・スペース

グループで議論しあう協働学習を支える設備として、大橋キャンパス内の学修支援施設（デザインコモン）2階に、可動式の椅子や机等を利用可能なアクティブ・ラーニング・スペース（50名規模・1室）が整備されている。

また、学生によるグループプロジェクトや研究・教育活動を支援するためのコワーキングスペースである「デザインステーション」を大橋キャンパス内の複数箇所に整備し、グループワークに適したデスク、チェア、可動式ホワイトボードを設置している。（2号館2階スペース、3号館1階スペース、3号館3階305号室、7号館1階スペース）

③実験・研究室

問題や課題の解決に向けた研究に取り組むための活動スペースとして、実験・研究室が整備されている。

また、教員の研究室についても、大橋キャンパスの既存施設の中で、教員団としてまとまりを形成できる位置に確保し、演習室を近接させて、教員と学生の日常的なコミュニケーションがスムーズに図られるよう整備されている。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備

I) 図書資料の整備状況

九州大学附属図書館の全蔵書は、図書約420万冊、学術雑誌約83,300冊、アクセス可能な電子ブック約238,000タイトル、アクセス可能な電子ジャーナル約108,000タイトルを所蔵し、各種データベースサービスを提供している。データベースや電子ジャーナルは、学外からもアクセス可能となっている。そのうち、芸術工学図書館には、図書約188,000冊、学術雑誌約3,000冊が収蔵されている。長年にわたる計画的な図書資料の収集・整備により、芸術工学部の教育研究領域に関する図書・学術雑誌類は充実している状況にあり、現在も年間で図書が約1,700冊、学術雑誌約520冊を受け入れる等、更なる充実を図っている。

II) 図書館の整備状況

芸術工学図書館は、主に芸術工学系の学生・教職員へのサービスを行い、ビデオ室・ステレオ室等、芸術工学関係の多様な資料に応じた施設を備えている。

また、平成28年度より、1階にアクティブ・ラーニング・スペースを設置し、可動式の椅子と机、壁面ホワイトボード、大型ディスプレイ、可動式電源を利用できることとなった。このエリアでは学修のための対話やディスカッションが可能となっている。

8. 入学者選抜の概要

(1) 芸術工学部が求める学生

九州大学では、九州大学教育憲章の理念と目的を達成するために、高等学校等における基礎的教科・科目の普遍的履修を基盤とし、大学における総合的な教養教育や専門基礎教育を受け、自ら学ぶ姿勢を身に付け、さらに進んで自ら問いを立て、創造的・批判的に吟味・検討し、他者と協働し、幅広い視野で問題解決にあたる力を持つアクティブ・ラーナーへと成長する学生を求めている。

その中で芸術工学部では、本学部の理念である「技術の人間化」に基づき、技術を人間生活に適切に利用するための道筋を設計する「高次のデザイナー」の養成を目的とし、以下のような学生を求めている。改組後の本学部は、芸術工学科の1学科となるため、学科も同様である。

- ・芸術工学に関連する様々な専門知識を修得し、社会の課題を発見・提起できる力を修得するために必要な基礎学力、論理的な思考能力とともに、美しさ、心地よさ、文化的な深み等を感じ取れる感性を有する。
- ・広い視野に立って他者と協力しながら課題解決へ向かう力を修得するために必要な、豊かな人間性、創造性、挑戦する精神を有する。
- ・課題解決のためのプロセスを明確化し、実践する力を修得するために必要な、自ら問題を設定し、積極的に解決に向かう意欲を有する。
- ・自らの感性や専門的知識を有効に活用し、考えを効果的に表現・伝達する力を修得するために必要な、多様性に対する好奇心と寛容性、柔軟な思考力を有する。

これらに加えて、各コースにおいて次のような学生を求めている。

○ 環境設計コース

- ・多様化する環境に関する諸問題に対して、空間の広がりや、歴史性をふまえて、問題を解決するためにどのような提案をすべきか、自ら判断する強い意欲を有する。
- ・建築、都市、地域、ランドスケープ等に関する専門知識を修得するために必要な基礎学力を有する。
- ・環境を読み解く力、社会調査スキル、科学的思考力、表現能力、分析する力を修得するために必要な環境や事物を観察する能力、創造的な感性を有する。

○ インダストリアルデザインコース

- ・人間とは何かを考え、人間の生活や社会を支える「製品」「生活環境」「サービス」「社会システム」の創造に対して強い意欲を有する。
- ・人間の特性と論理的にデザインを創造する幅広い専門知識を修得するために必要な基礎学力を有する。
- ・社会的視点を持って物事を考え、実践する努力を惜しまない意欲を有する。

○ 未来構想デザインコース

- ・近い将来の我々の社会のありように関心を持ち、既成概念にとらわれることなく、新たなデザインの分野の開拓や表現活動への挑戦と創造への強い意欲を有する。

- ・よりよい社会を構想するために、芸術、技術、思想に関する知識と、自然や社会を数理科学的に捉える生命科学、情報科学に関する知識を修得するために必要な基礎学力を有している。
- ・社会的な課題に関心を持ち、論理的な思考力と実証的な志向性を有する。

○ メディアデザインコース

- ・メディアとコミュニケーションに関わるデザインと芸術的表現に強い意欲を有する。
- ・メディアとコミュニケーションに関わるデザインの知識、数理科学的知識、人間の心理や知的財産に関する知識、芸術と文化に関わる知識を修得するために必要な基礎学力を有する。
- ・メディアとコミュニケーションに関わるデザイン、コンテンツ創成に関する基礎的な表現能力を有する。

○ 音響設計コース

- ・音に関連する芸術、科学、技術の幅広い分野に関心を持ち、専門的知識を自発的に修得する強い意欲を有する。
- ・音響設計の専門家として必要な音に対する感性と、音に関連する文化、環境、情報の各分野についての専門的な知識を修得するための基礎学力を有する。
- ・音響・音楽等に関する強い関心や有意義な経験を持ち、芸術的感性を有して個性豊かであるとともに、音響設計コースにおいて自主的に修学する意欲を有する。

(2) 入学者選抜の概要

九州大学では「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」を踏まえ、九州大学基幹教育の理念に合致した、ものごとを多角的にみることのできる学生を選抜する「九州大学新入試 QUBE」を2021（令和3）年度までに段階的に実施することを目標としている。九州大学新入試 QUBEは「大学適応力重視型入試」「加速学習型入試（高大連携型推薦入試）」「国際経験・英語力重視型入試（国際型入試）」「記述学力重視型入試（バランス型）」の4類型で、実施される。

本学部においては、上記大学の方針に基づき、以下に述べる入試を実施する。

I) 一般入試（前期）（記述学力重視型入試）

1) コース別入試

本学部では、学生が自己の専門知識や技能を生かしつつ、他の分野を経験することで、従来のデザイン領域の枠を超えた広範な専門知識や技能を修得することを目的とする融合教育を行うこととしている。高年次において融合教育を行うために、早い段階から学生に軸となる専門分野を選択させ、分野に関係する専門教育科目を履修させることにより、学生の知識や習熟度を高めておく必要がある。また、過去10年間においても、現行の学科は平均して3倍強の志願倍率を保持しており、学生は明確な目的意識を持って各学科を受験していることがうかがえる。これらの事実から、これまで実施されてきた専門分野（学科）別の入学試験制度を継承し、入学時に所属するコースを選択する「コース別入試」を2020（令和2）年度入試より実施する。

2) 学科一括入試

学生を入学時には一括募集し、入学後にコース選択させる大括り入試を導入する大学が全国的に増加しており、2019（令和元）年度入試からは宇都宮大学工学部、愛媛大学工学部、佐賀大学工学

部で大括り入試が導入される予定となっている。また、九州大学でもすでに文学部、農学部で同様の入試方法が実施されており、入学時から分野を選択せず、複数の分野をある程度学んだ後に分野選択を行う制度について、従前より潜在的な需要があったと考えられる。本学部においても受験生のニーズに応えるため、最初から学びたい分野を決めて受験するコース別入試と併せて、コースを特定せず一括で入試を行う「学科一括入試」を2020（令和2）年度入試より実施する。

II) AO入試（大学適応力重視型入試）

AO入試は、従来の教科・科目の筆記だけによる学力試験では測れない、学生の個性や能力、芸術工学に必要な感性等を総合的に評価する選抜試験としてこれまで実施しており、各コースで学生に求める個性、能力及び学ぶことへの意欲や目的意識を測るため、コース別にAO入試を実施する。

III) 国際型入試（国際経験・英語力重視型入試）

国際型入試では、現代の国際社会に対する強い関心と多様な経験を有し、世界を舞台にした活動に対する強い意欲を持ち、その意欲を実現するための高い語学力（特に英語で学び・考え・行動するための語学力）を備える学生を選抜する。九州大学では、「帰国子女入試」及び「私費外国人留学生入試」を毎年全学一括で実施しており、本学部においては2020（令和2）年度入試以降も引き続き、若干名の募集枠を設け、実施する。

IV) 推薦入試（高大連携型推薦入試）

推薦入試では、高等学校までの正課の学習に加えて、部活動や学校内外での社会活動や特別プログラム等において、高度な科学的探究活動や社会貢献活動等を行い、その成果を諸団体が企画・運営する研究会等で発表している等、自主的な研究活動、社会活動等のための高い資質と顕著な活動実績を有する学生について、学校長からの推薦を受けることができる。本学の共創学部で現在実施されており、本学部では2021（令和2）年度入試より、インダストリアルデザインコース及び未来構想デザインコースにおいて、知識・技能のみならず思考力・判断力・表現力や主体性・多様性・協働性を持つ多様な学生を獲得するため、推薦入試を実施する予定である。

(3) 募集人員及び選抜方法

現在は学科別に入試を実施しており、現行の5学科制での過去5年間（平成26年度から平成30年度）の志願倍率は、学部全体で約3.1倍から約3.7倍で推移し、定員充足率も1.02倍から1.07倍を保っている。

今回の改組では、履修上の区分として5コース（環境設計、インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計）を設けるため、各コースのニーズ・受験動向の把握として、現在芸術工学部に在籍する学生に対してアンケート調査を実施した。

各コースの履修学生数を設定するにあたって、過去5年間の学科ごとの定員設定と志願状況や、前述のアンケート調査の結果に加え、専任教員の確保状況、各コースで開講する授業科目等を踏まえ、各コースの適切な履修人数を検討した。

特に、カリキュラムの面において、各コースを履修する学生が、コースに関わる身近な問題や事例等を素材としながら、具体的な問題解決に向けて取組み、実践的思考力を鍛える「コース演習科目(PBL)」や、異なる専門分野を学ぶことを希望する学生が、新たな価値の創出や課題解決に取り組む「融合プロジェクト・プラットフォーム科目」では、学生がチームを形成し、協働して問題解決等に取り組むこと

となる。そのため、各コースで開講される「コース演習科目（PBL）」等に応じて、7名×5チーム＝35名、9名×3チーム＝27名、9名×5＝45名といった形で、柔軟にチーム編成が可能な人数を考慮する必要があった。

加えて、「インダストリアルデザインコース」と「メディアデザインコース」は、母体となる改組前の旧学科において志願倍率が高く十分に入学希望学生を確保できていたこと、及び先に述べたアンケート調査において、同コースを希望する学生の割合が他コースと比較して高かったこと、また、「未来構想デザインコース」は、現代社会の複合的な課題と可能性に向き合うために、発想力・想像力を徹底して鍛える特色あるコースである点も考慮した。

先に述べた様々な点も考慮し、改組前の5学科において標準的な定員サイズであった35名をベースに、各コースで想定する履修人数を設定した。（表5、表6）。

I) 一般入試（前期）（記述学力重視型入試）

1) コース別入試

2020（令和2）年度入試においては、環境設計コース24名、インダストリアルデザインコース25名、未来構想デザインコース15名、メディアデザインコース21名、音響設計コース26名とする。なお、2021（令和3）年度入試以降は、インダストリアルデザインコース及び未来構想デザインコースで推薦入試を開始するため、コース別入試における募集人員をインダストリアルデザインコース20名、未来構想デザインコース10名に変更する予定である。

選抜方法として、総合的な基礎学力を測るための大学入試センター試験（5教科7科目）及び、芸術工学を学ぶために必要な基礎知識を身に付けているかを判定するための個別学力検査（数学、理科、外国語の3科目）を課す。

2) 学科一括入試

学科一括入試では、学生が適切なコース選択を行えるよう、何をすべきなのか、何を学びたいのかについて、十分に履修指導を行う必要がある。そのため、学生への支援を綿密に実施することが可能な人数を考慮し、学科一括入試による募集人員は学部全体で20名とした。

選抜方法として、総合的な基礎学力を測るための大学入試センター試験（5教科7科目）及び、芸術工学を学ぶために必要な基礎知識を身に付けているかを判定するための個別学力検査（数学、理科、外国語の3科目）を課す。

この枠で入学する学生に対しては、合格後（入学前）に、学科一括入試を選んだ理由、芸術工学部で行いたいことのイメージ、第1希望と第2希望のコース等の進路希望調査を行い、この調査をもとにして面談および希望に応じた適切な履修指導をきめ細かく行う。さらに、学期ごとの履修登録期間の前に、コースの希望調査と履修指導を継続して実施し、1年次の秋学期終了時には、第1希望先のコースを決定させる。

2年次進級時の各コースでの受け入れは、基本的に学生の希望を尊重するが、授業の内容等に応じた適正規模の人数の目安をあらかじめ明示しておき、希望人数に偏りが生じて目安を超えるような場合は、各学生の履修状況、成績や適性等を踏まえ、適切な進路指導を行う。

II) AO入試（大学適応力重視型入試）

九州大学では、「九州大学新入試 QUBE」の改革の一つとして従来の記述学力重視型試験以外の方法による入学者を定員の30%とすることを目指している。本学部においても、この全学の方針を踏まえ、2020（令和2）年度入試より、コース別入試の募集人員のうち50%程度（学部全体では30%

程度)をAO入試により選抜することとする。募集人員は、環境設計コース7名、インダストリアルデザインコース16名、未来構想デザインコース8名、メディアデザインコース20名、音響設計コース5名とする。

選抜方法は、各コースにおいて以下のとおりとする。

○ 環境設計コース

個別学力検査を免除し、調査書・志望理由書、大学入試センター試験及び実技の総合評価を行うことで、基礎的な学力を備えた上で、環境や事物の特徴を観察し、創造できる感性を備えた意欲的で個性豊かな学生を選抜する。

○ インダストリアルデザインコース

個別学力検査を免除し、調査書・志望理由書、大学入試センター試験及び実技の総合評価を行うことで、基礎的な学力を備えた上で、様々な活動に積極的に参加し、有意義な体験を重ねてきた意欲的で個性豊かな学生を選抜する。

○ 未来構想デザインコース

個別学力検査を免除し、調査書・志望理由書・大学入試センター試験及び実技の総合評価を行うことで、基礎的な学力を備えた上で、国際的な志向性と多様性に対する関心、柔軟な思考力を持って様々な活動に積極的に参加する、意欲的で個性豊かな学生を選抜する。

○ メディアデザインコース

個別学力検査を免除し、調査書・志望理由書、大学入試センター試験及び実技の総合評価を行うことで、基礎的な学力を備えた上で、創作活動に高い関心を持ち、論理的な思考能力を持つ、個性豊かな学生を選抜する。

○ 音響設計コース

個別学力検査を免除し、調査書・志望理由書、大学入試センター試験、小論文及び実技を含む面接による総合評価を行うことで、十分な学力を備えた上で、音響・音楽に関する様々な活動等、有意義で実践的な経験を持つ意欲的で個性豊かな学生を選抜する。

Ⅲ) 国際型入試(国際経験・英語力重視型入試)

九州大学では、大学一括で国際型入試を年3回(帰国子女入試を年1回、私費外国人留学生入試を年2回)実施しているが、出願対象となる学生の特性から受験者の数が限られている。過去5年間に於いて芸術工学部を志望した者はいない状況であるため、帰国子女及び私費外国人留学生を対象とする国際型入試の募集人員は、学部全体で若干名とする。

選抜方法は、大学入試センター試験を免除し、学力検査及び面接により選抜を行う。

Ⅳ) 推薦入試(高大連携型推薦入試)

2021(令和3)年度から実施する予定の推薦入試の募集人員は、インダストリアルデザインコース5名、未来構想デザインコース5名の計10名とした。

表5：2020（令和2）年度入試における募集人員数

試験種 コース		芸術工学部芸術工学科					
		環境設計 コース	インダストリアル デザインコース	未来構想 デザインコース	メディア デザインコース	音響設計 コース	計
入 試	一般入試	24	25	15	21	26	111
	A0入試	7	16	8	20	5	56
	小 計	31	41	23	41	31	167
学科一括入試 (一般入試)		20					20
国際型 入 試	帰国子女 入 試	若干名*					若干名*
	私費外国人留 学生入試	若干名*					若干名*
						合 計	187

*募集人員の内数に含まれます。

表6：2021（令和3）年度入試以降における募集人員数

試験種 コース		芸術工学部芸術工学科					
		環境設計 コース	インダストリアル デザインコース	未来構想 デザインコース	メディア デザインコース	音響設計 コース	計
入 試	一般入試	24	20	10	21	26	101
	A0入試	7	16	8	20	5	56
	推薦入試	—	5	5	—	—	10
	小 計	31	41	23	41	31	167
学科一括入試 (一般入試)		20					20
国際型 入 試	帰国子女 入 試	若干名*					若干名*
	私費外国人留 学生入試	若干名*					若干名*
						合 計	187

*募集人員の内数に含まれます。

9. 取得可能な資格

本学部において、取得可能な資格は次のとおりである。

表7：取得可能な資格

種別	資格名	取得できる資格	要件等
国家資格	1級建築士	受験資格	指定科目の単位を修得して卒業すれば、受験に必要な建築実務の経験年数が2年以上となる。
	2級建築士	受験資格	指定科目の単位を修得して卒業すれば、建築実務の経験がなくとも受験可能となる。
	木造建築士	受験資格	指定科目の単位を修得して卒業すれば、建築実務の経験がなくとも受験可能となる。
民間資格	インテリアプランナー	登録資格	インテリア・建築に関する科目の単位を修得して卒業後、インテリアプランナー試験に合格すれば、実務経験がなくとも、インテリアプランナー登録を受けることができる。

10. 海外留学等の具体的計画

(1) 国際プログラム

(理念)

全てのコースに所属する学生を対象として、国際社会において主体的に活動できる姿勢や態度とコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目的として、国際プログラム枠を設ける。本プログラムは、各コースで学ぶ専門的なデザインと自国のアイデンティティに軸足を置きながら、留学により日本にはないデザインのアプローチ、手法、発想を学び、学生自らのデザインの幅を広げるとともに、留学で学んだことを大学・学部にもたらし、他の学生のデザインの幅を広げる効果が期待できる。

詳細は以下に記述するが、希望する学生にとってのプログラムの特長としては、1) 修了証明書が発行されることで、就職や将来の海外留学に有利になる、2) 国際プログラム科目(4科目)を履修し、担当教員が開催する英語によるゼミに参加することで、コミュニケーション能力を身に付けるとともに、国際的に活動するうえで有用な自らの強みを発見できる、3) 1クォーターから1年間の留学を通して、海外のデザインの手法を修得できる、4) 海外の協定校に優先的に留学できる、5) 継続的に留学をしても、留年することなく学部課程を卒業できる制度設計がなされている、6) 留学にかかる手続きや奨学金取得に関する体系的なサポートやアドバイスを得られる、等が挙げられる。

(本プログラムの修了要件と修了証明書の発行)

英語のみの授業となる国際プログラム科目4科目の履修、留学、留学後の融合プロジェクト・プラットフォームの履修を必須とし、修了要件を満たす学生に対してプログラム修了が認定され、修了証が発行される。

(国際プログラム科目)

国際プログラムでは以下の4科目を英語で提供し(表8)、学生の国際的なデザイン活動の基盤を作ることを目指す。国際プログラムを履修する学生は、国際プログラム科目をすべて履修する。

表8：国際プログラム科目とその内容

Title	Content
Design Pitching Skills	The objective of this course is to develop students with the required English competencies to explain their ideas and pitch their ideas effectively and clearly in English. This course will consist of a series of projects where students will be coached in terms of presentation and communication skills as well as pitching skills.
Start-ups and Global Disruptors	The objective of this course is to provide students with the basic understand on the requirements and what it takes in building Start-ups as entrepreneurs. It provides students with the cycles encountered by start-up companies such as acquiring initial investment funds, the dead valley, acquisitions and IPOs etc.

Intellectual Property Rights : Global Perspective	The objective of this course is to provide students with the basic understand on Intellectual Property Rights in Japan and overseas.
Global Design Innovations	<p>The objective of this course is to provide students with various case studies of social design innovations through the context of overseas. Such examples may be based on Global Innovation Design in RCA etc.</p> <p>Through these case studies, students will be involved in design projects and provide proposals and prototypes in responds to some of the issues introduced through the course.</p>

(海外留学)

国際プログラムを履修する学生は、海外大学で修得したい内容や進路の希望によって留学先を決定し、3年次に1クォーターから1年間の海外留学を行う。現在、芸術工学部と学生交流協定を結び、実際に学生の交換留学の実績のある海外機関は表9のとおりである。各大学に同時に2名程度を限度として、一定の言語要件を満たすことを条件として、国際プログラムを履修する学生を優先的に派遣する。

表9：これまで交換留学の実績のある国と海外機関

国	大学
フランス	パリ・ラ・ヴィレット建築大学 ボルドー建築景観学院
オランダ	アムステルダム応用科学大学 HKU ヌトレヒト芸術大学 NHL 応用科学大学
ドイツ	カールスルーエ造形大学 ダルムシュタット科学技術大学 ケルン応用科学大学
イタリア	ミラノ工科大学
フィンランド	アールト大学
トルコ	アナドル大学
アメリカ	カリフォルニア・ポリテクニク州立大学
台湾	国立台北科技大学 銘傳大学 国立成功大学
中国	北京大学 大連理工大学

韓国	KAIST (Korea Advanced Institute of Science and Technology) 東西大学
シンガポール	シンガポール国立大学 NTU (Nanyang Technological University)
インドネシア	ハサヌディン大学
バングラデシュ	バングラデシュ工科大学

(留学中の単位認定)

留学先の海外機関で、学生は学修計画に基づいて科目履修を行っていくが、特にデザインの内容、アプローチ、実践等に関する演習授業の修得を推奨し、日本とは違う価値観に基づくデザインに触れる機会を重視する。これらのデザイン専門科目は各コースで開設する国際デザイン科目（専門選択科目）の単位として認定する。

例えば、環境設計コースでは、国際環境デザインA I～IV（2単位）及びB I～IV（1単位）を各クォーター、合計8科目開設する。ほかの4コースについても、同様な科目（「国際メディアデザインA, B」等）を開設する。学生が海外の大学で履修したデザイン科目の内容に応じて、1クォーターにつきいずれかのコースの国際デザイン科目A, B、それぞれ1科目認定できるものとする。海外の大学のプロジェクト科目のうち本学部のプロジェクト科目に相当するものについては、融合プロジェクト・プラットフォーム（最大4単位）の単位として認定する。この他、海外の大学において修得した授業科目のうち、選択科目と教育内容の同等性が認められる科目については、読み替えて単位認定できる。国際デザイン科目も含めて、単位認定を希望する学生は当該科目の資料を提出し、申請する。

以上の制度により、留学した学生は国際デザイン科目単位を1クォーターにつき3単位、1年で12単位、融合プロジェクト・プラットフォームを最大で4単位、計16単位を上限として自由科目ではなく、卒業要件単位に算入できる。これに加えて、専門科目に選択科目として開設されている科目に読み替えられる科目により単位を修得した場合はさらに卒業要件単位に算入できるため、留学しても留年せずに卒業できる可能性が高まる。

(サポート体制)

国際プログラムには、外国人教員を含む担当教員を置き、継続的なガイダンス、ゼミを実施するとともに、芸術工学部事務部の留学および国際連携担当とともに、各種サポート、サービスを提供する。さらに、九州大学は海外オフィスを複数設置しており、これらの海外オフィスからのアドバイスを得ながら、留学の支援を行う。

(制度的な立て付け)

本プログラムは、1学年におよそ10名程度が履修する見込みである。本学部では、既に毎年10名弱の学生が海外の大学や教育機関に留学している実績（図5参照）があり、国際プログラム担当教員による学生へのサポート体制のキャパシティから、募集人員は年に各コースから2～3名、学部全体で10名程度とした。

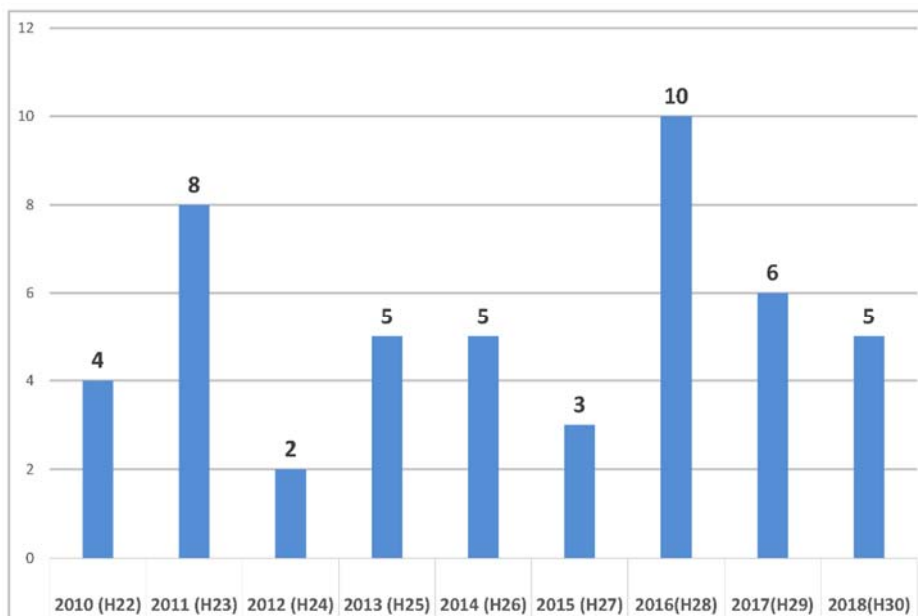


図5 芸術工学部における学生の海外留学者数

具体的な制度運用としては（表10参照）、2年次の春学期に国際プログラムについての説明会を行い、履修を希望する学生を募集する。学生への面談等を行った後、2年次の夏学期に国際プログラム履修者を決定、3年次の春学期までに国際プログラム科目（英語科目）の修得、外国人教員による学生への語学指導、留学先の大学等との調整を行い、3年次に1クォーターから1年間まで、各自で設定する期間の海外留学を実施する。帰国後は、4年次の夏学期に、融合プロジェクト・プラットフォームへの参加を必修として、学生が留学時に修得した海外のデザインに関する知見、経験、アプローチ等を共有し、他の学生・教員に対してフィードバックする。卒業時には、国際プログラムの修了証明書を学生に交付する。

表10： 国際プログラムの実施

時期	活動内容
2年次・春	プログラム説明会・継続的な随時相談 春クォーター終了時までに履修希望調査
2年次・夏	プログラムの履修者決定
2年次・夏以降	国際プログラム科目4科目（Design pitching skills; Start-ups and global disruptions, Intellectual property; Global design innovation）を履修
3年次	留学
4年次	融合プロジェクト・プラットフォーム
卒業時	修了証書

1 1. 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

(1) 概要

芸術工学部の学生は、1年次は伊都キャンパス（福岡市西区元岡744）で、2年次以降は大橋キャンパス（福岡市南区塩原4-9-1）で授業を受けることになっており、1年次及び2年次以降のいずれの履修も、それぞれのキャンパスで完結する。したがって、学生が同一学期の中で両キャンパスを往復しながら履修しなければならないような時間割にはならない。

伊都キャンパスでは、全学部の1年次を対象に開講される「基幹教育」の授業と、専攻教育の一部の授業（「デザインリテラシー科目」「コース基礎科目」「コース演習科目」の一部で週に1コマ程度）を履修する。

基幹教育は、基幹教育セミナー、課題協学科目、言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目などで構成され、新たな知や技能を創出し、未知の問題を解決していく上での幹となる「ものの見方・考え方・学び方」を学び、生涯にわたって自律的に学び続けるアクティブ・ラーナーの育成を目指し、学びの成長を支持する幹を作る体系的なカリキュラムとして機能する。

2年次以降は、大橋キャンパスで芸術工学部の専攻教育科目を中心に、芸術工学としての共通基盤を構築するため、全ての学生がコース毎の専門的能力にとどまらない普遍的なデザインのリテラシーを体系的に学ぶ「デザインリテラシー科目」をはじめ、各コースの教育目的に合わせた基本的な知識を学ぶ「コース基礎科目」、各コースで育成する人材に必要な基礎的能力をはじめ、専門知識、想像力、実践的解決能力、技能等を身に付けるコース専門科目及びコース演習科目（PBL）等を履修する。

なお、1年次の科目で再履修が必要なものがある場合は、当該科目のみを伊都キャンパスで履修せざるを得ないが、両キャンパス間は比較的交通の便もよいことから、履修登録の工夫である程度は対応可能と考えている。また、そもそもそのような事態を極力避けるため、履修指導を徹底する。

(2) 専任教員の配置

伊都キャンパスで開講する全学部の1年次を対象とする基幹教育は、全学出動体制により全学部共通の授業として開講され、担当教員のほとんどは伊都キャンパスに配置されている。

また、伊都キャンパスで開講する芸術工学部の1年次を対象とする一部の専攻教育科目は、原則として、芸術工学部の専任教員が担当するが、週に1コマ程度であり、また、教員の移動時間等も考慮した時間割を組んでいることから、教員の移動等に関しても問題はない。

なお、伊都キャンパスでは、主に基幹教育の運営母体である基幹教育院の教員と、学務部基幹教育課が1年次の学修面をサポートする体制を整えている。芸術工学部の専攻教育科目が開講される曜日には、専任教員が伊都キャンパスで授業を行うため、当該専任教員が芸術工学部の1年次に履修指導を行うことができる。

(3) 施設設備

伊都キャンパスでは、全学部の1年次を対象とした授業を行っている。教室や基礎的な実験授業を行う実験室、体育館等の設備は十分に整っている。

1 2. 管理運営

(1) 学部ガバナンス

九州大学は、大学全体で世界的研究・教育拠点（グローバル・ハブ・キャンパス）の形成を目標に、アクティブ・ラーナーを育成するために、基幹教育を基盤に、学部専攻教育から大学院教育に至るまでの体系的を持ったカリキュラムの構築や、教育研究の理念、社会的課題への対応と提言、諸活動の不断の自己点検評価、大学や部局の IR（Institutional Research）情報等に基づき、構成員、部局、大学本部が一体となって、対話に基づく調和のとれた自律的改革に取り組んでいる。

芸術工学部は、このような大学全体のグローバル・ハブ・キャンパスを形成していくための取組に加え、基幹教育等で他学部の学生に対するデザイン的感性を育てる教育を実施し、特色のある学生の育成にも貢献しており、総長が任命する学部長がイニシアチブを十分に発揮できる学部ガバナンスを実現し、九州大学のミッションを踏まえた学部としてのミッションを、迅速かつ効果的に学部運営に反映できる管理運営体制の構築、運営に努めている。

また、教授会が学部長候補者を推薦することができる仕組みを設けているが、大学運営上、重要な職であることから、役員会において候補者から部局の運営方針等についてのヒアリングを行い、役員会の議を経て、総長が任命することとなっている。

(2) 教授会及び代議員会

教授会の審議事項は、人事、予算、組織の運営に関わる事項等とし、その他を代議員会に委任している。教授会は、専任の教授及び准教授で構成し、原則4月、7月、10月、1月に開催する。

代議員会の審議事項は、教授会から委任された事項、その他部局の管理運営に関する必要な事項としている。代議員会は、研究院長、副研究院長、部門長、学科長、コース・専攻長等で構成し、8月を除き原則毎月1回定例で開催する。

また、必要に応じて全教員で構成する拡大教授会を開催し、審議を伴わない部局の運営に関する重要事項の情報共有を図っている。

(3) 副学部長及び常設委員会

学部長がイニシアチブを十分に発揮できる体制を構築し、学部ガバナンスを円滑に行うため、学部長を補佐・支援する学部長指名の副学部長を3名置く。副学部長は、危機管理の観点から、学部長の補佐の役割に加え、学部長に事故がある場合の職務の代理や学部長が欠けた場合に職務を代行することができる仕組みとなっている。また、学部長、副学部長が一体となった部局運営体制を構築するため、副学部長は、学部長の推薦に基づき、総長が任命する。

学部の恒常的な業務を円滑に処理するため、常設委員会として、学務専門委員会、研究・評価専門委員会、施設等専門委員会を置く。

(4) 教学マネジメント

本学部で養成する人材像を踏まえた、体系的な教育課程の編成、組織的な教育の実施、厳格な成績評価等、教学マネジメント体制を実現するため、学部長（学府長）、学部長（学府長）から指名された副学部長（副学府長）、芸術工学部の学科目を担当する教員（コースごとに各1人）、芸術工学府の

講座を担当する教員のうち博士後期課程の研究指導資格を有する教員（専攻、コースごとに各1人）によって、学務専門委員会を組織する。

（5）人事給与システム

九州大学では、魅力ある年俸制給与体系とメリハリある業績評価体制の一体的構築により、組織の活性化及び多様な人材を確保することを目的に、平成26年10月1日から教員の年俸制を導入し、今後も年俸制の導入促進に取り組むとともに、本学独自の取組である「大学改革活性化制度」を活用した多様な人事を促進し、教員の流動性の向上と教育研究の活性化を図っている。

13. 自己点検・評価

(1) 全学の自己点検・評価

全学的な自己点検・評価について、九州大学学則第2条において、「教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表すること、及び「自己点検・評価及び第三者評価等多様な評価の結果を本学の目標・計画に反映させ、不断の改革に努める」ことを定め、学則第33条で大学評価に関する重要事項を審議する組織として、大学評価委員会を置くことを定めている。

大学評価委員会は、①本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の評価、②国立大学法人評価、③認証評価、④教員の教育・研究等活動の評価、⑤各部署の評価活動の総括、⑥大学評価に係る報告書の作成及び公表、⑦教員活動進捗・報告システム(Q-RADeRS)の運用等に関することを任務とし、総長を委員長とし、理事、副学長、各部署の長、事務局長で構成している。

全教員を対象とする教員活動評価も実施しており、教員活動評価では、①教員自身の教育研究活動の把握と改善向上と、②部局の将来構想における諸施策への活用を目的に、全学での基本的枠組みを設定し、部局の特性に配慮した実施体制や実施方法を定め、部局ごとに実施している。

また、教育・研究活動の継続的な改善を行っていくためには、改善に役立つための評価活動の質の向上を進めると同時に、効率的・効果的な評価体制の構築も必要であるため、九州大学では、多様かつ大量の必要データを処理・管理する情報処理システムの開発・運用を行っている。①大学経営や将来計画に関する基礎資料を収集、②自己点検・評価及び第三者評価への基礎資料、③教員が教員活動評価のために毎年度提出する報告書への活用、④国際交流や社会貢献推進のための情報公開への活用、⑤学内外からの教育研究活動に関する調査への対応の5つを目的に掲げ運用している「大学評価情報システム」をはじめ、中期目標・計画の達成を念頭に置きながら、年度計画の自己点検・評価や根拠資料の収集・保管、さらには次年度計画の立案までの一連の業務をサポートする「中期目標・中期計画進捗管理システム」等を運用し、全学的な評価活動の質の向上と、効率的・効果的な評価体制の構築を図っている。

さらに、平成28年4月には、学内の様々なデータを一元的に収集、管理し、組織としての管理・運営機能の強化を図ることを目的に、これまで本学における点検・評価活動に対する支援や、学内外への情報の提供等の業務を担っていた大学評価情報室を、インスティテューショナル・リサーチ(IR)室として発展的に改組し、現状把握や改善事項への対応を迅速に行える体制の強化を図っている。

九州大学では、国立大学法人評価、大学機関別認証評価等の評価において、上記の組織体制のもと点検・評価を行うとともに、評価結果の分析を行い、課題や改善点を整理した上で学内に対応を促す等、評価を適切に改善につなげる取組を推進している。

(2) 芸術工学部の自己点検・評価

芸術工学部では、中期目標期間における全学的な方針である「自己点検・評価体制に関する基本方針」と、「年度計画の自己点検・評価に係る実施要領」に基づく本学部内の自己点検・評価を行う組織として、常設委員会として研究・評価専門委員会を設置している。

当該委員会を中心に、大学の中期目標・中期計画を踏まえた上で、教育面においても研究面においても、グローバル化の推進に関する目標計画を多く立てており、将来構想として目指す世界的デザイン教育研究拠点化構想で掲げる、教育の国際化、科学技術イノベーション人材育成、イノベーション

創出の推進に向けた取り組みを含んだ中期目標・中期計画を策定するとともに、学生の受入れに関する事項、教育内容及び方法に関する事項、学修成果に関する事項について、点検・評価を行っている。

14. 情報の公表

(1) 大学としての情報の公表

九州大学では、インターネット上に大学のホームページを開設し、大学としての基本方針である「教育憲章」や「学術憲章」をはじめ、中期目標・中期計画等今後の大学の取組に関する情報を発信するとともに、カリキュラム、カリキュラムマップ、シラバス、授業科目のナンバリング、定員、学生数、教員数や学内規則等、大学の基本情報を公開しており、具体的な公表項目の内容と、公開しているホームページのアドレスは以下のとおりである。

- ①大学の教育研究上の目的に関すること
- ②教育研究上の基本組織に関すること
- ③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
- ④入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
- ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
- ⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
- ⑦校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
- ⑧授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
- ⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

上記①～⑨ <http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/education/>

⑩その他

- a. 中期目標・中期計画、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等
<http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/hyoka-home/index.html>
- b. 学内規則
<http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/information/rule/rulebook/>
- c. 学部・学府等の設置関係の書類
<http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/establish/>

15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

(1) 全学的な取組

九州大学では、教育データに基づく教育改革のPDCAサイクルを確立させ、各学部等との連携により、全学的な教育改革を推進し、教育の国際的な通用性を高めることを目的とする全学組織として「教育改革推進本部」を設置している。同本部では、全学的なFD活動を実施するとともに、各部局と連携して、各部局のFD活動の支援を恒常的に行っている。

全学的なFD活動では、全学的な教育課題等に関する内容を中心に、部局のFD活動では、部局ごとの特性に応じた教育課題を取り上げて実施しており、FDを企画する際には、教職員を対象としたアンケートや、学生を対象とした授業評価アンケートの結果を活用している。

全学的なFD活動として、新採用となった教員等を対象に本学の将来の展望等について理解を深め、教育者・研究者としての資質と大学の構成員としての自覚を高める初任教員研修をはじめ、学習支援システム講習会、メンタルヘルス講習会、電子教材開発・著作権講習会、バリアフリー講習会等、教育活動の全般にわたるFD活動を実施している。これらの活動を通じて全学的な教育課題等に関する啓発や、課題の共有が図られ、カリキュラム、シラバス、教育手法、成績評価方法等の改善につながっている。

また、FD活動以外にも、全学的な職務関連研修を実施するほか、大学職員に必要な知識・技能を修得させ、必要な能力及び資質を向上させるために、以下の取組を実施している。

- ・コンプライアンスを確保するため、本学の体制・取組、非違行為の概要等を学び、コンプライアンスの重要性の認識と理解を深める「職員コンプライアンス研修」
- ・研究費不正を防止するための「研究費の運営・管理に係るコンプライアンス教育」(eラーニング)
- ・近年の不正競争防止法の諸改正等を受け、秘密情報の漏えい等を事前に防止し、適正な秘密管理を図る「大学における営業秘密管理eラーニング研修」
- ・国の方針や大学への要請等について理解を深め、職員個人の資質向上はもとより、組織として業務を円滑に遂行するための職員間における連帯意識の醸成を図る「学務事務研修」
- ・ビジネスライティングの基本的なルールと相手や状況に合わせた表現方法を学修し、留学生及び外国人研究者への対応能力及び海外の大学等とのEメールや文書による調整能力を涵養する「職員英語ビジネスライティング研修」等

(2) 芸術工学部の取組

芸術工学部では、全学的なFD活動を踏まえ、学務専門委員会が学部内のFDに関する企画・実施を担当している。

学務専門委員会は、年度毎にテーマを定め教育関連のFD企画を立案している。近年は、「グローバル化と英語による教育力」、「ルーブリックの作成」、「成績不振学生への指導」、「英語で授業を行う際の注意点」、「デザイン教育の質保証」、「教育支援システムの活用」をテーマとしてFDを実施しており、改組後も引き続き教育の質の向上及び学生支援の充実に資する企画を実施する。

16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

九州大学では、学生が「学び」を主体とした学生生活を送るための修学・生活支援、進路・就職支援を全学的な立場から統括・支援する組織として学務部にキャリア・奨学支援課を設置し、修学支援、進路・就職支援、正課外活動支援、経済支援を柱とした取組を実施し、教育と支援のシームレスな関係構築に取り組んでいる。

具体的な就職支援企画としては、主体的に進路を選択する能力の育成や、就業意識の形成を目的に、学部の低年次から「キャリアガイダンス」と、「業界・企業研究セミナー」を実施しているほか、3年次には「就活キックオフ&インターンシップガイダンス」、「インターンシップ企業合同セミナー」、「インターンシップ事前講習」、「インターンシップ対策講座」、「ビジネスマナー講座」、「内定者との座談会」等に加え、自己分析・自己PR講座、業界研究・志望動機講座、SPI対策講座、面接マナー講座、集団面接対策講座、個別面接対策講座、グループディスカッション講座等の就職支援に関する講座で構成する「就活対策講座（ES・面接対策）」を実施している。最終学年では、面接対策セミナーのほか、学内合同企業説明会（就職フェア）や、学内個別企業説明会等を実施している。

日本での就職を希望する外国人留学生に対しては、就職支援企画として「外国人留学生のための就職活動講座（全10回）」や、外国人留学生向けの「ビジネス日本語講座」、「ビジネスマナー講座」、「ビジネスコミュニケーション講座」、「内定者セミナー」、「企業研究セミナー」の他、「留学生のためのJOB FAIR」等を実施している。

さらに、キャリア・奨学支援課とキャンパスライフ健康支援センターとが合同で、障害のある学生向けの支援企画「就活サキドリ講座」、「インターンシップ」及び「キャリアガイダンス」を実施している。

また、就職後、あるいは大学院進学後に求められる実践的な英語能力を在学中に身に付けさせることを目的に、6週間のTOEIC対策プログラムを実施している。

具体的な就職支援制度としては、就職情報室を3か所に設置し、就職支援に関するイベントの情報提供をはじめ、就職活動に役立つ書籍の配架や、求人情報の提供などを行うほか、各キャンパスに就職相談室を設け、進路・就職アドバイザー6名を配置し、学生の就職に関する相談に対応している。また、学生は就職活動中に、九州大学東京オフィス・大阪オフィス・博多オフィスのパソコンやネット回線、ラウンジを利用することが可能である。

その他の取組として、就職活動を行う学生を対象とする「就活手帳」や、「九大生の就活体験記」の作成・配布、志望業界・企業のOB・OG訪問支援、求人情報Webシステムでの会社概要や求人情報の公開、九州大学の進路・就職コーディネーターが企業を訪問し、採用に関する情報をまとめた企業訪問情報シートの公開を行っている。

これらの就職支援に関する企画等は、九州大学のWebサイトや九州大学学生支援サイトにまとめて掲載し、学生が必要な情報に容易にアクセスできるようにしている。

基幹教育 [36.5]

- 基幹教育セミナー [1]
 基幹教育セミナー [1]
 課題協同学科目 [2.5]
 課題協同学科目 [2.5]
 言語文化科目 [10]
 第一外国語 [6]
 学術英語A・リセプション [1]
 学術英語A・プロダクション [1]
 学術英語B・インテグレート [2]
 学術英語A・CALL [1]
 学術英語B・CALL [1]
 第二外国語 [4]
 ドイツ語I [2]、ドイツ語II [2]
 文系ディシプリン科目 [4]
 地理学入門 [2]、法学入門 [2]
 理系ディシプリン科目 [14.5]
 情報科学 [1.5]
 自然科学総合実験(基礎) [1]
 自然科学総合実験(発展) [1]
 微分積分学 [1.5]、線形代数 [1.5]
 基幹物理学I A [1.5]
 基幹物理学I B [1.5]
 地球科学 [1]、プログラミング演習 [1]
 空間表現実習I [2]、デザイン思考 [1]
 サイバーセキュリティ科目 [1]
 サイバーセキュリティ基礎論 [1]
 健康・スポーツ科目 [1]
 健康・スポーツ科学演習 [1]
 総合科目 [1]
 ユニバーサルデザイン研究 [1]
 その他 [1.5]
 図形科学 [1.5]

デザインリテラシー科目 [2]

- デザインリテラシー基礎 [1]
 デザイン・ケーススタディI [1]

コース基礎科目 [2]

- 環境設計基礎I [1]
 環境設計基礎II [1]

・基幹教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
 ・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
 ・1年次後半からは、環境設計のための基礎的な手法や建築・環境の基礎概念を修得する。

1年次：40.5単位

基幹教育 [11.5]

- 言語文化科目 [2]
 第一外国語 [2]
 専門英語 [2]
 理系ディシプリン科目 [3.5]
 数理統計学 [1.5]、デザイン史 [2]
 高年次基幹教育科目 [2]
 サイバー空間デザイン [2]
 その他 [4]
 空間表現実習II [2]、デザインと観察 [2]

デザインリテラシー科目 [4]

- 基礎造形I [1] 基礎造形III [1]
 基礎造形II [1] 基礎造形IV [1]

コース基礎科目 [8]

- 空間デザイン実習 [2] 空間情報分析実習I [1]
 環境設計プロジェクトA [2] 空間情報分析実習II [1]
 環境設計プロジェクトB [2]

コース専門科目 [16]

- 構造理論I [1] 建築デザイン計画論 [2]
 構造理論II [1] 環境構法論 [2]
 環境材料論I [1] 都市環境設計論 [2]
 環境材料論II [1] 環境保全論 [2]
 環境調整システム論 [2] 緑地環境設計論 [2]

・基幹教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
 ・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
 ・具体的な地域の実態やあるべき姿について総合的かつ実践的に学ぶため、フィールドワーク等の学外実習や、実践的な設計プロジェクト演習を中心に履修し、環境設計、システムやデザインに関する知識や実践的能力を修得する。

2年次：39.5単位

デザインリテラシー科目 [2]

- 社会とデザイン [1] 科学技術とデザイン [1]

コース専門科目 [14]

- 構法設計論 [2] 環境テクノロジー実習A [1]
 建築空間設計論 [2] 環境テクノロジー実習B [1]
 環境情報論I [1] 近代建築史 [1]
 環境情報論II [1] 日本建築史 [2]
 設備計画論 [2] 歴史環境実習 [1]

コース演習科目(PBL) [4]

- 環境設計プロジェクトC [2]
 環境設計プロジェクトD [2]

深化・展開科目 [8]

- 環境設計コース専門科目 [4]
 環境社会デザイン論 [1]
 物質文化論 [1]
 環境倫理学 [1]
 アプローチメント論 [1]
 環境設計コース演習科目(PBL) [4]
 環境設計プロジェクトF [2]
 環境設計プロジェクトH [2]

融合プロジェクト・プラットフォーム・A [4]

・環境保全に関する講義や演習を通して、環境保全に関する専門的知識や調査能力、企画立案能力を養っていく。
 ・専門領域を横断したプロジェクトの学習を介して、高度な専門知識を融合し新しい価値を創造できる実践的な能力を身につける。
 ・自己の専門分野に関連する講義や演習を、中心に履修することで、専門分野に関するより高度な知識や理解力を身に付ける。

3年次：32単位

【卒業要件 128単位】

- 基幹教育科目 48単位
 デザインリテラシー科目 8単位
 コース基礎科目 10単位
 コース専門科目 30単位
 コース演習科目(PBL) 12単位
 融合プロジェクトプラットフォーム 12単位
 深化・展開科目 12単位
 (他コース科目から4単位以上修得)
 卒業研究・設計 8単位

卒業研究・設計 [8]

- 卒業研究I [4]
 卒業研究II [4]

コース演習科目(PBL) [4]

- 環境総合プロジェクトA [2]
 環境総合プロジェクトB [2]

深化・展開科目 [4]

- インガストリテラシーインコース演習科目(PBL) [4]
 フィールド調査論・演習 [4]

・卒業研究を中心として履修し、実践的な問題解決能力とともに、専門的な英文の読解力、表現能力、さらにプレゼンテーションのスキルを身につける。特に具体的に表現・設計する能力を取得する。
 ・他の専門分野の演習科目を履修し、これまで身につけた専門分野に関する知識やスキルを横断的に発展させていく。

4年次：16単位

卒業後の進路イメージ「環境コンサルタント」

資料1

2

基幹教育 [36.5]

- 基幹教育セミナー [1]
 基幹教育セミナー [1]
 課題協同学科 [2.5]
 課題協同学科 [2.5]
 言語文化科目 [10]
 第一外国語 [6]
 学術英語A・リセプション [1]
 学術英語A・プロダクション [1]
 学術英語B・インテグレート [2]
 学術英語A・CALL [1]
 学術英語B・CALL [1]
 第二外国語 [4]
 ドイツ語 I [2], ドイツ語 II [2]
 文系ディシプリン科目 [4]
 社会学入門 [2], 芸術学入門 [2]
 理系ディシプリン科目 [12.5]
 情報科学 [1.5]
 自然科学総合実験(基礎) [1]
 自然科学総合実験(発展) [1]
 微積分学 [1.5], 線形代数 [1.5]
 基幹物理学 I A [1.5], 基幹物理学 I B [1.5]
 空間表現実習 I [2], プログラミング演習 [1]
 サイバーセキュリティ科目 [1]
 サイバーセキュリティ基礎論 [1]
 健康・スポーツ科目 [1]
 健康・スポーツ科学演習 [1]
 総合科目 [1]
 企業から見たサイバーセキュリティ [1]
 その他 [3.5]
 バリアフリー支援入門 [1]
 ユニバーサルデザイン研究 [1]
 図形科学 [1.5]

デザインリテラシー科目 [2]

- デザインリテラシー基礎 [1]
 デザイン・ケーススタディ I [1]

コース基礎科目 [2]

- インダストリアルデザイン基礎 I [1]
 インダストリアルデザイン基礎 II [1]

・基幹教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの方・考え方、学び方」を身に付ける。
 ・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
 ・感性、工学、科学などの複数の考え方に基づいて体系化したカリキュラムにより、社会実装のためのデザインの理論・方法論を身につける。

1年次：40.5単位

基幹教育 [11.5]

- 言語文化科目 [2]
 第一外国語 [2]
 専門英語 [2]
 理系ディシプリン科目 [5.5]
 数理統計学 [1.5], デザイン史 [2]
 空間表現実習 II [2]
 高年次基幹教育科目 [2]
 デザインと観察 [2]
 その他 [2]
 サイバー空間デザイン [2]

デザインリテラシー科目 [4]

- 基礎造形 I [1] 人間科学とデザイン [1]
 基礎造形 II [1] 科学技術とデザイン [1]

コース基礎科目 [5]

- プロダクトデザイン概論 [1]
 ライフスケープデザイン概論 [1]
 サービスデザイン概論 [1]
 人間工学概論 [2]

コース演習科目(PBL) [12]

- プロダクトデザイン実践論・演習 I [2]
 プロダクトデザイン実践論・演習 II [2]
 ライフスケープデザイン論・演習 I [2]
 ライフスケープデザイン論・演習 II [2]
 人間工学演習 I [4]

コース専門科目 [7]

- プロダクトデザイン実践論 [1] 環境生理学 [1]
 ライフスケープデザイン実践論 [1] 感性科学 [1]
 サービスデザイン実践論 [1] 行動生理学 [1]
 データ解析 [1]

・基幹教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの方・考え方、学び方」を身に付ける。
 ・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
 ・幅広い理論と実践の専門基礎となるクリエイティブデザインと人間工学を核に、講義と演習を相互に学び、深い理解と知識・技術を修得する。

2年次：39.5単位

デザインリテラシー科目 [2]

- デザイン論 I [1]
 デザイン・ケーススタディ II [1]

深化・展開科目 [8]

- 未来構想デザインコース専門科目 [4]
 先端芸術表現論 [1]
 デザイン哲学 [1]
 デザイン美学 [1]
 未来デザイン方法論 [1]
 先行デザインコース演習科目(PBL) [4]
 クリエイティブ発想演習 [2]
 クリエイティブプロトタイプ演習 [2]

コース演習科目(PBL) [12]

- ビジネスデザイン論・演習 I [2]
 ビジネスデザイン論・演習 II [2]
 人間工学演習 II [4]
 人間工学プロダクト演習 [4]

コース専門科目 [14]

- イノベーションデザイン論・演習 I [2]
 イノベーションデザイン論・演習 II [2]
 ライフスケープデザイン実践論・演習 I [2]
 ライフスケープデザイン実践論・演習 II [2]
 ソーシャルデザイン論・演習 I [2]
 ソーシャルデザイン論・演習 II [2]
 クリエイティブデザイン演習 [2]

・演習科目を中心としたカリキュラムを履修し、専門的知識と実践的な課題解決能力を修得する。
 ・深化・展開科目では、自コースの科目を履修することで専門的知識、課題解決能力を深めるとともに、他コースの科目を履修し、異なる専門分野の知識、観点や技術を修得する。

3年次：36単位

【卒業要件 128単位】

- 基幹教育科目 48単位
 デザインリテラシー科目 8単位
 コース基礎科目 7単位
 コース専門科目 21単位
 コース演習科目(PBL) } 24単位
 融合プロジェクトプラットフォーム }
 深化・展開科目 12単位
 (他コース科目から8単位以上修得)
 卒業研究・設計 8単位

卒業研究・設計 [8]

- 卒業研究 I [4]
 卒業研究 II [4]

深化・展開科目 [4]

- 環境設計コース演習科目(PBL) [4]
 環境総合プロジェクトA [2]
 環境総合プロジェクトB [2]

・卒業研究を中心として履修し、実践的な問題解決能力とともに、専門的な英文の読解力、表現能力、さらにプレゼンテーションのスキルを身につける。特に実践的な課題解決能力、デザイン開発能力を修得する。
 ・演習科目を履修し、専門的知識と実践的な課題解決能力を修得する。

4年次：12単位

卒業後の進路イメージ
 「エンジニア・プランナー・リサーチャーなどを含む広義のクリエイター」

履修モデル(未来構想デザインコース)

従来の形や色をのみをデザインの対象とするだけでなく、商品デザインから、事業創出、研究開発、ブランディングまでを総合的にデザインする高度デザイン人材

基幹教育 [36.5]

- 基幹教育セミナー [1]
 基幹教育セミナー [1]
 課題協学科目 [2.5]
 課題協学科目 [2.5]
 言語文化科目 [10]
 第一外国語 [6]
 学術英語A・リセプション [1]
 学術英語A・プロダクション [1]
 学術英語B・インテグレート [2]
 学術英語A・CALL [1]
 学術英語B・CALL [1]
 第二外国語 [4]
 中国語 I [2]、中国語 II [2]
 文系ディシプリン科目 [4]
 法学入門 [2]、経済学入門 [2]
 理系ディシプリン科目 [14.5]
 情報科学 [1.5]
 自然科学総合実験(基礎) [1]
 自然科学総合実験(発展) [1]
 微分積分学・同演習 A [1.5]
 微分積分学・同演習 B [1.5]
 線形代数学・同演習 A [1.5]
 線形代数学・同演習 B [1.5]
 基幹物理学 I A [1.5]、基幹物理学 I B [1.5]
 プログラミング演習 [1]
 デザイン思考 [1]
 サイバーセキュリティ科目 [1]
 サイバーセキュリティ基礎論 [1]
 健康・スポーツ科目 [1]
 健康・スポーツ科学演習 [1]
 総合科目 [1]
 現代企業分析 [1]
 その他 [1.5]
 図形科学 [1.5]

デザインリテラシー科目 [2]

- デザインリテラシー基礎 [1]
 デザインケーススタディ I [1]

コース基礎科目 [2]

- 未来構想デザイン概論 [1]
 社会と多様性 [1]

・基幹教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
 ・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
 ・1年次後半から、専門分野の基礎を学ぶことより高度な専門知識を得るために必要な理解力、思考力や知識を身に付ける。

1年次：40.5単位

基幹教育 [11.5]

- 言語文化科目 [2]
 第一外国語 [2]
 専門英語 [2]
 理系ディシプリン科目 [3.5]
 数理統計学 [1.5]、デザイン史 [2]
 高年次基幹教育科目 [2]
 デザインと観察 [2]
 その他 [4]
 サイバー空間デザイン [2]
 音楽・音響論 [2]

デザインリテラシー科目 [4]

- 基礎造形 I [1] 科学技術とデザイン [1]
 基礎造形 II [1] 社会とデザイン [1]

コース基礎科目 [8]

- 視覚芸術基礎 [1] クリティカルシンキング [1]
 コンセプト論 [1] プロトタイプ基礎 [1]
 デザインスケッチ [1] 情報科学 I [1]
 環境と持続可能性 [1] 生命科学入門 I [1]

コース専門科目 [9]

- 芸術表現論 [1]
 芸術文化論 [1]
 デザイン哲学 [1]
 デザイン美学 [1]
 未来デザイン方法論 [1]
 物質文化論 [1]
 環境社会デザイン論 [1]
 質的社会調査法 [1]
 情報科学 II [1]

共通課題 PBL 演習 A [4]

コース演習科目(PBL) プラットフォーム演習 A [4]

・基幹教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
 ・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
 ・専門分野の基礎的な知識・理解を基に、専門性の高い科目を履修し、より高度な知識やスキルを修得する。
 ・共通課題 PBL 演習(コース演習科目(PBL))により、共通のテーマへの取り組み方、デザインの演習の基本となる表現スキルや方法などを実践的に修得する。

2年次：40.5単位

デザインリテラシー科目 [2]

- デザイン論 I [1]
 デザイン論 II [1]

コース専門科目 [21]

- デザイン編集論・演習 [1] アプリケーション [1]
 デザイン材料論・演習 [1] ウェブサービスデザイン [2]
 デザイン要素論・演習 [1] データ解析 [1]
 デザイン設計論・演習 [1] プロトタイプ設計 [1]
 デザイン実装論・演習 [1] 情報科学 III [1]
 先端芸術表現論 [1] データマイニング I [1]
 グローバル化と伝統的社会 [1] データマイニング II [1]
 価値と政策 [1] 先端情報生命科学 I [1]
 芸術コミュニケーション論 [1] 先端情報生命科学 II [1]
 アプローチメント論 [1] 生命科学入門 II [1]

深化・展開科目 [4]

- インダストリアルデザインコース演習科目(PBL) [4]
 ビジネスデザイン論・演習 I [2]
 ビジネスデザイン論・演習 II [2]

融合プロジェクト・プラットフォームコース融合プロジェクト A [4]

・専門性の高い科目を中心に履修し、より高度な知識やスキルを修得する。
 ・融合プロジェクト・プラットフォームを通して知識やスキルを応用し、実践力をつけることで、将来のあり得る社会を構想する能力を修得する。
 ・深化・展開科目では、他の専門分野のうち、一つの分野の科目を集中的に履修し、具体的なデザイン対象に習熟する。

3年次：31単位

【卒業要件 128単位】

- 基幹教育科目 48単位
 デザインリテラシー科目 8単位
 コース基礎科目 10単位
 コース専門科目 30単位
 コース演習科目(PBL) 8単位
 融合プロジェクト・プラットフォーム 4単位
 深化・展開科目 12単位
 (他コース科目から8単位以上修得)
 卒業研究・設計 8単位

卒業研究・設計 [8]

- 卒業研究 I [4]
 卒業研究 II [4]

深化・展開科目 [8]

- インダストリアルデザインコース専門科目 [8]
 イノベーションデザイン論・演習 I [2]
 イノベーションデザイン論・演習 II [2]
 ソーシャルデザイン論・演習 I [2]
 ソーシャルデザイン論・演習 II [2]

・卒業研究を中心として履修し、実践的な問題解決能力とともに、専門的な英文の読解力、表現能力、さらにプレゼンテーションのスキルを身に付ける。
 ・深化・展開科目では、引き続き他の専門分野のうち、一つの分野の科目を集中的に履修し、具体的なデザイン対象への習熟を深めていく。

4年次：16単位

卒業後の進路イメージ「デザイナー・起業家(企業デザイン部など)」

履修モデル(メディアデザインコース)

従来の形や色のみをデザインの対象とするだけでなく、商品デザインから、事業創出、研究開発、ブランディングまでを総合的にデザインする高度デザイン人材

基幹教育 [36.5]

- 基幹教育セミナー [1]
基幹教育セミナー [1]
課題協同学科目 [2.5]
課題協同学科目 [2.5]
言語文化科目 [10]
第一外国語 [6]
学術英語A・リセプション [1]
学術英語A・プロダクション [1]
学術英語B・インテグレート [2]
学術英語A・CALL [1]
学術英語B・CALL [1]
第二外国語 [4]
フランス語 I [2]、フランス語 II [2]
文系ディシプリン科目 [4]
芸術学入門 [2]、社会学入門 [2]
理系ディシプリン科目 [14.5]
情報科学 [1.5]
自然科学総合実験(基礎) [1]
自然科学総合実験(発展) [1]
微積分学・同演習A [1.5]
微積分学・同演習B [1.5]
線形代数学・同演習A [1.5]
線形代数学・同演習B [1.5]
基幹物理学 I A [1.5]、基幹物理学 I A 演習 [1]
基幹物理学 I B [1.5]、基幹物理学 I B 演習 [1]
サイバーセキュリティ科目 [1]
サイバーセキュリティ基礎論 [1]
健康・スポーツ科目 [1]
健康・スポーツ科学演習 [1]
総合科目 [1]
外国語プレゼンテーション [1]
その他 [1.5]
基礎生物学概要 [1.5]

デザインリテラシー科目 [2]

- デザインリテラシー基礎 [1]
デザイン・ケーススタディ I [1]

コース基礎科目 [2]

- メディアデザイン概論 I [1]
メディアデザイン概論 II [1]

・基幹教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
・1年後半から、専門分野の基礎を学ぶことより高度な専門知識を得るために必要な理解力、思考力や知識を身に付ける。

1年次：40.5単位

基幹教育 [11.5]

- 言語文化科目 [2]
第一外国語 [2]
専門英語 [2]
理系ディシプリン科目 [3.5]
数理統計学 [1.5]、デザイン史 [2]
高年次基幹教育科目 [2]
サイバー空間デザイン [2]
その他 [4]
デザインと観察 [2]、音楽・音響論 [2]

デザインリテラシー科目 [4]

- 基礎造形 I [1] 文化とデザイン [1]
基礎造形 II [1] 社会とデザイン [1]

コース基礎科目 [5]

- メディアデザイン概論 III [1]
メディア表現基礎 [2]
メディア「ロゴ」ラミング [2]

コース専門科目 [11]

- グラフィックデザイン [1] Motionデザイン [2]
情報デザイン [2] メディア情報処理 [2]
インタラクションデザイン [2] 色彩学 [2]

コース演習科目(PBL) [8]

- 造形表現演習 [2] コンテンツデザイン演習 I [2]
コミュニケーションデザイン演習 I [2]
メディアサイエンス演習 I [2]

・基幹教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
・メディアとコミュニケーションのデザインに必要なスキル、数理的知識、人間の心理に関わる知識、知的財産の保護・流通、芸術と文化に関わる知識などを広く修得する。
・芸術表現やプログラミング言語、コミュニケーションに関わる基礎的な技能・方法を体系的に修得する。

2年次：39.5単位

デザインリテラシー科目 [2]

- デザイン論 I [1] デザイン論 II [1]

コース専門科目 [14]

- 映像表現 [2] コンピュータビジョン [2]
アニメーション表現 [2] 心理学的思考法 [2]
数理造形 [2] フィジカルコンピュータとIoT [1]
バーチャルリアリティ [2] インターンシップ(学部) I [1]

コース演習科目(PBL) [12]

- メディアデザイン総合プロジェクト I [2]
メディアデザイン総合プロジェクト II [2]
コンテンツデザイン演習 II [2]
コミュニケーションデザイン演習 II [2]
メディアサイエンス演習 II [2]
数理造形と表現演習 [2]

深化・展開科目 [8]

- メディアデザインコース専門科目 [4]
演劇文化論 [2]
知的財産法 [2]

- メディアデザインコース演習科目(PBL) [4]
比較演劇・メディア文化演習 [2]
知的財産マネジメント演習 [2]

・メディアデザインに関する専門的な科目を履修し、様々な表現手法とそれを実現するための知識やスキルを習得する。
・コース演習科目(PBL)や深化・展開科目によるメディアデザインに関する実践的なプロジェクトの学習を介して、問題解決のためのプロセスを明確にし、企画実践する構想力、他者と共同する共創力、効果的に表現し伝達する表現能力を修得する。

3年次：36単位

【卒業要件 128単位】

- 基幹教育科目 48単位
デザインリテラシー科目 8単位
コース基礎科目 7単位
コース専門科目 25単位
コース演習科目(PBL) 20単位
融合プロジェクトプラットフォーム }
深化・展開科目 12単位
(他コース科目から4単位以上修得)
卒業研究・設計 8単位

卒業研究・設計 [8]

- 卒業研究 I [4]
卒業研究 II [4]

深化・展開科目 [4]

- 未来構想デザインコース専門科目 [2]
デザイン設計論・演習 [1]
デザイン実装論・演習 [1]

- インダストリアルデザインコース専門科目 [2]
クリエイティブデザイン演習 [2]

・卒業研究を中心として履修し、実践的な問題解決能力とともに、専門的な英文の読解力、表現能力、さらにプレゼンテーションのスキルを身につける。
・他の専門分野の専門科目、演習科目を履修し、具体的な制作や表現の方法、設計・実装していく能力を修得する。

4年次：12単位

卒業後の進路イメージ「メディアアーティストのクリエイター」

基幹教育 [36.5]

- 基幹教育セミナー [1]
 基幹教育セミナー [1]
 課題協同学科 [2.5]
 課題協同学科 [2.5]
 言語文化科目 [10]
 言語文化科目 [10]
 第一外国語 [6]
 学術英語A・リセプション [1]
 学術英語A・プロダクション [1]
 学術英語B・インテグレイト [2]
 学術英語A・CALL [1]
 学術英語B・CALL [1]
 第二外国語 [4]
 ドイツ語 I [2]、ドイツ語 II [2]
 文系ディシプリン科目 [4]
 文学・言語学入門 [2]、心理学入門 [2]
 理系ディシプリン科目 [14.5]
 情報科学 [1.5]
 自然科学総合実験(基礎) [1]
 自然科学総合実験(発展) [1]
 微積分学・同演習 A [1.5]
 微積分学・同演習 B [1.5]
 線形代数学・同演習 A [1.5]
 線形代数学・同演習 B [1.5]
 基幹物理学 I A [1.5]、基幹物理学 I A 演習 [1]
 基幹物理学 I B [1.5]、基幹物理学 I B 演習 [1]
 サイバーセキュリティ科目 [1]
 サイバーセキュリティ基礎論 [1]
 健康・スポーツ科目 [1]
 健康・スポーツ科学演習 [1]
 総合科目 [1]
 アクセンビリティ基礎 [1]
 その他 [1.5]
 図形科学 [1.5]

デザインリテラシー科目 [2]

- デザインリテラシー基礎 [1]
 デザイン・ケーススタディ I [1]

コース演習科目(PBL) [1]

- 聴能形成 I [1]

・基幹教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
 ・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
 ・1年次後半からは、音についての基礎的な訓練を始めることで、音に対する感性を高め、音響特性の違いを聞き分ける能力、音を明確にイメージできる能力を修得する。

1年次：39.5単位

基幹教育 [11.5]

- 言語文化科目 [2]
 第一外国語 [2]
 専門英語 [2]
 理系ディシプリン科目 [3.5]
 数理統計学 [1.5]、デザイン史 [2]
 高年次基幹教育科目 [2]
 音楽・音響論 [2]
 その他 [4]
 サイバー空間デザイン [2]
 デザインと観察 [2]

デザインリテラシー科目 [4]

- 基礎造形 I、II、III、IV [各1]

コース基礎科目 [14]

- | | |
|-----------|---------------|
| 聴覚生理学 [2] | 音響理論演習 I [2] |
| 聴覚心理学 [2] | 音響理論演習 II [2] |
| 音文化論 [2] | 音響信号処理 [2] |
| | デジタル信号処理 [2] |

コース演習科目(PBL) [6]

- | | |
|--------------|----------------|
| 聴能形成 II [1] | 応用音楽表現演習 I [1] |
| 音楽理論表現演習 [2] | 環境音響構成 [2] |

コース専門科目 [4]

- 電気工学 [2] 電子工学 [2]

・基幹教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
 ・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
 ・音文化、音響環境、音響情報に関する必修の基礎科目を集中的に履修し、音響設計の専門家として必要な基礎知識を身につける。

2年次：39.5単位

デザインリテラシー科目 [2]

- 人間科学とデザイン [1] 科学技術とデザイン [1]

コース演習科目(PBL) [9]

- | | |
|------------|-------------|
| 電気実験 [2] | 音響実験 I [2] |
| 音響生成演習 [2] | 音響実験 II [3] |

コース専門科目 [18]

- | | |
|----------------|---------------|
| 主観評価法 [2] | 音響マイエ工学 [2] |
| 情報理論 [2] | 音響マイエ工学演習 [2] |
| データ解析 [1] | 音響機器論 [2] |
| データマイニング I [1] | 楽器音響学 [2] |
| 音楽学 [2] | 室内音響学 [2] |

深化・展開科目 [8]

- 音響設計コース専門科目 [4]
 比較音楽理論 [2]、応用音響理論 [2]

- 音響設計コース演習科目(PBL) [4]
 音響プログラミング演習 [2]、收音音響構成 [2]

・各分野の専門科目、分野にまたがる横断的な科目群を履修する。音響実験 I・IIにより、専門知識を課題解決に応用する能力、総合的に課題を解決する能力、他者との協調性を身につける。
 ・音響設計・機器に関する科目を中心に履修し、音響設計の専門家として必要な専門知識を修得していく。

3年次：37単位

【卒業要件 128単位】

- | | |
|-------------------|------|
| 基幹教育科目 | 48単位 |
| デザインリテラシー科目 | 8単位 |
| コース基礎科目 | 14単位 |
| コース専門科目 | 22単位 |
| コース演習科目(PBL) | 16単位 |
| 融合プロジェクトプラットフォーム | |
| 深化・展開科目 | 12単位 |
| (他コース科目から4単位以上修得) | |
| 卒業研究・設計 | 8単位 |

- 卒業研究・設計 [8]
 卒業研究 I [4]
 卒業研究 II [4]

深化・展開科目 [4]

- マイエデザインコース専門科目 [2]
 知的財産法 [2]

- マイエデザインコース演習科目(PBL) [2]
 知的財産マネジメント演習 [2]

・卒業研究を中心として履修し、実践的な問題解決能力とともに、専門的な英文の読解力、表現能力、さらにプレゼンテーションのスキルを身につける。
 ・知識や能力の展開を図るため、他の専門分野の専門科目、演習科目を履修し、芸術工学に関わりのある知的財産権に関する知識を修得する。

4年次：12単位

卒業後の進路イメージ「楽器・音響機器メーカー関係の研究開発職」

履修モデル(国際プログラム)
※未来構想デザインコース在学生のモデル

国際的・社会的な課題を解決するため、デザインの力を活用してそれらの要因やニーズ、解決方法を多方面の視野から俯瞰的に探り、具体的な方向性を提案・検証する創造的プロセスを行うことができるグローバル人材

基礎教育 [37]

基礎教育セミナー [1]
 基礎教育セミナー [1]
 課題協同学科 [2.5]
 課題協同学科 [2.5]
 言語文化科目 [10]
 第一外国語 [6]
 学術英語A・リセプション [1]
 学術英語A・プロダクション [1]
 学術英語B・インテグレート [2]
 学術英語A・CALL [1]
 学術英語B・CALL [1]
 第二外国語 [4]
 中国語 I [2]、中国語 II [2]
 文系ディシプリン科目 [4]
 地理学入門 [2]、政治学入門 [2]
 理系ディシプリン科目 [14.5]
 情報科学 [1.5]
 自然科学総合実験(基礎) [1]
 自然科学総合実験(発展) [1]
 微分積分学・同演習A [1.5]
 微分積分学・同演習B [1.5]
 線形代数・同演習A [1.5]
 線形代数・同演習B [1.5]
 基礎物理学 I A [1.5]、基礎物理学 I A 演習 [1]
 基礎物理学 I B [1.5]、基礎物理学 I B 演習 [1]
 サイバーセキュリティ科目 [1]
 サイバーセキュリティ基礎論 [1]
 健康・スポーツ科目 [1]
 健康・スポーツ科学演習 [1]
 総合科目 [1]
 外国語プレゼンテーション [1]
 その他 [2]
 社会連携活動論: ボランティア [1]
 社会連携活動論: インターンシップ [1]

デザインリテラシー科目 [2]

デザインリテラシー基礎 [1]
 デザイン・ケーススタディ I [1]

コース基礎科目 [2]

未来構想デザイン概論 [1]
 社会と多様性 [1]

1年次: 41単位

基礎教育 [11]

言語文化科目 [2]
 第一外国語 [2]
 専門英語 [2]
 理系ディシプリン科目 [3.5]
 数理統計学 [1.5]、デザイン史 [2]
 高年次基礎教育科目 [2]
 ボランティア活動 I、II [各1]
 その他 [3.5]
 グローバル社会を生きる I [1]、「留学」考 [1]
 集団生物学 [1.5]

デザインリテラシー科目 [4]

基礎造形 I [1]、人間科学とデザイン [1]
 基礎造形 II [1]、社会とデザイン [1]

コース基礎科目 [8]

視覚芸術基礎 [1]、クリエイティブシンキング [1]
 コンセプト論 [1]、プロダクティング基礎 [1]
 デザインスケッチ [1]、情報科学 I [1]
 環境と持続可能性 [1]、生命科学入門 I [1]

コース専門科目 [6]

西洋美術史 [1]、未来デザイン方法論 [1]
 デザイン哲学 [1]、データ解析 [1]
 デザイン美学 [1]、情報科学 II [1]

コース専門科目 [4]

Design Pitching Skills [1]
 Start-ups and Global Disruptors [1]
 Intellectual Property Rights: Global Perspective [1]
 Global Design Innovations [1]

国際プログラム科目履修

【留学サポート】
 ネイティブ教員の語学指導、
 留学先の調整、ビザ手続

2年次: 37単位

コース専門科目 [14]

芸術文化論 [1]、価値と政策 [1]
 芸術環境論 [1]、表象文化論 [1]
 デザイン設計論・演習 [1]、芸術コミュニケーション論 [1]
 デザイン実装論・演習 [1]、教育における多様性 [1]
 環境倫理学 [1]、ファッション [1]
 物質文化論 [1]、情報科学 III [1]
 ハードウェアデザイン論・演習 [1]
 フィジカルコンピューティングとIoT [1]

デザインリテラシー科目 [2]

デザイン論 I [1]、デザイン・ケーススタディ II [1]

海外留学(夏・秋学期)

コース専門科目 [6]
 ・国際未来構想デザインA I [1]
 ・国際未来構想デザインA II [1]
 ・国際未来構想デザインB I [2]
 ・国際未来構想デザインB II [2]

3年次: 26単位

卒業要件 128単位

基礎教育科目 48単位
 デザインリテラシー科目 8単位
 コース基礎科目 10単位
 コース専門科目 30単位
 コース演習科目(PBL) 8単位
 融合プロジェクト・プラットフォーム 4単位
 深化・展開科目 12単位
 (他コース科目から8単位以上修得)
 卒業研究・設計 8単位

深化・展開科目 [12]

インダストリアルデザインコース演習科目(PBL) [8]
 ライフスケープデザイン論・演習 I [2]
 ライフスケープデザイン論・演習 II [2]
 人間工学プロジェクト演習 [4]

インダストリアルデザインコース専門科目 [4]
 ソーシャルデザイン論・演習 I [2]
 ソーシャルデザイン論・演習 II [2]

卒業研究・設計 [8]

卒業研究 I [4]
 卒業研究 II [4]

融合プロジェクト・プラットフォーム
 コース融合プロジェクト A [4]

「融合プロジェクト・プラットフォーム」にて、留学時に修得した海外のデザインに関する知見、経験、アプローチなどを発表する。

修了証の交付

4年次: 24単位

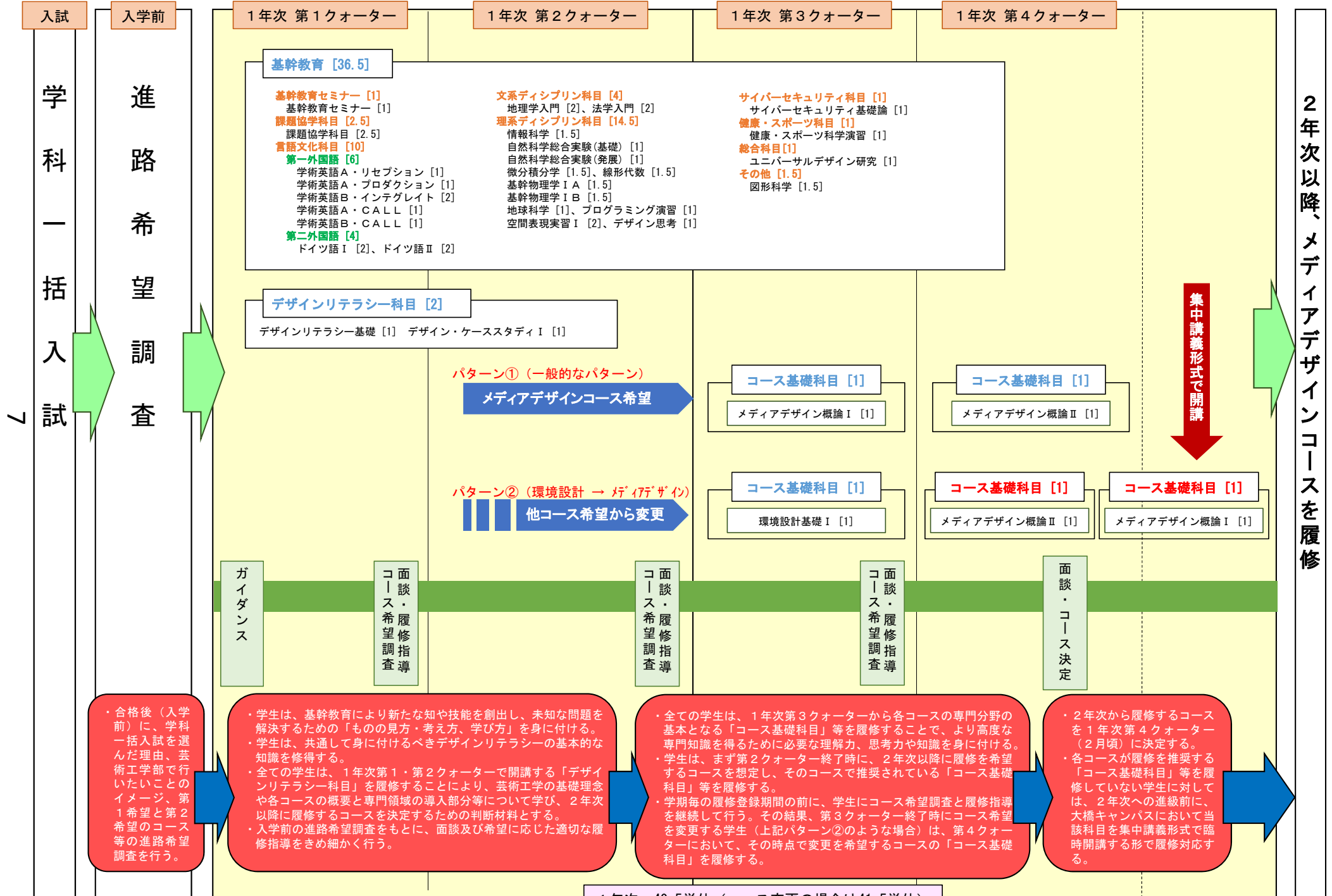
卒業後の進路イメージ「行政官、国際機関職員」

・基礎教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
 ・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
 ・1年後半から、専門分野の基礎を学ぶことより高度な専門知識を得るために必要な理解力、思考力や知識を身に付ける。

・基礎教育により、新たな知や技能を創出し、未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
 ・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
 ・専門分野の基礎的な知識・理解を基に専門性の高い科目を履修し、より高度な知識やスキルを修得する。
 ・国際プログラム科目の履修や語学指導で、留学に必要な語学能力を修得し、かつ留学先機関との調整等、留学の準備を進めていく。

・共通課題PBL演習により、共通のテーマへの取り組み方、デザインの演習の基本となる表現スキルや方法などを実践的に取得する。
 ・夏・秋学期に海外留学を行う。留学中は学修計画に基づいて、日本とは異なる価値観に基づくデザインに触れる機会を重視し、演習授業を履修し、その知識や発想を身に付ける。
 ・春学期・冬学期の留学前後は、専門科目を履修して自己の専門性を高めることで、海外で得た知識と比較し、思考を深めていく。

・卒業研究を中心として履修し、実践的な問題解決能力とともに、専門的な英文の読解力、表現能力、さらにプレゼンテーションのスキルを身につける。
 ・コース融合プロジェクトAでは、海外のデザインに関する知見、経験、アプローチ等、他の学生・教員に対してフィードバックすると共に、自己の理解を深める。
 ・深化・展開科目では、他の専門分野のうち、一つの分野の科目を集中的に履修し、具体的なデザイン対象に習熟する。



集中講義形式で開講

2年次以降、メディアデザインコースを履修

1年次
8

2年次

基幹教育 [11.5]

言語文化科目 [2]
第一外国語 [2]
専門英語 [2]
理系ディシプリン科目 [3.5]
数理統計学 [1.5]、デザイン史 [2]
高年次基幹教育科目 [2]
サイバー空間デザイン [2]
その他 [4]
デザインと観察 [2]、音楽・音響論 [2]

デザインリテラシー科目 [4]

基礎造形 I [1] 文化とデザイン [1]
基礎造形 II [1] 社会とデザイン [1]

コース基礎科目 [5]

メディアデザイン概論Ⅲ [1] メディア表現基礎 [2]
メディアプログラミング [2]

コース専門科目 [11]

グラフィックデザイン [1] メカニクスデザイン [2]
情報デザイン [2] メディア情報処理 [2]
色彩学 [2] インタラクションデザイン [2]

コース演習科目(PBL) [8]

造形表現演習 [2]
コンテンツデザイン演習Ⅰ [2]
コミュニケーションデザイン演習Ⅰ [2]
メディアサイエンス演習Ⅰ [2]

- ・基幹教育により、新たな知や技能を創出し未知な問題を解決するための「ものの見方・考え方、学び方」を身に付ける。
- ・学生が共通して身につけるべきデザインリテラシーの基本的な知識を修得する。
- ・メディアとコミュニケーションのデザインに必要なスキル、数理的知識、人間の心理に関わる知識、知的財産の保護・流通、芸術と文化に関わる知識などを広く修得する。
- ・芸術表現やプログラミング言語、コミュニケーションに関わる基礎的な技能・方法を体系的に修得する。

2年次：39.5単位

3年次

デザインリテラシー科目 [2]

デザイン論Ⅰ [1] デザイン論Ⅱ [1]

コース専門科目 [14]

映像表現 [2] コンピュータビジョン [2]
アニメーション表現 [2] 心理学的思考法 [2]
数理造形 [2] インターンシップ(学部)Ⅰ [1]
バーチャルリアリティ [2]
フィジカルコンピューティングとIoT [1]

コース演習科目(PBL) [12]

メディアデザイン総合プロジェクトⅠ [2]
メディアデザイン総合プロジェクトⅡ [2]
コンテンツデザイン演習Ⅱ [2]
コミュニケーションデザイン演習Ⅱ [2]
メディアサイエンス演習Ⅱ [2]
数理造形と表現演習 [2]

深化・展開科目 [8]

メディアデザインコース専門科目 [4]
演劇文化論 [2]
知的財産法 [2]
メディアデザインコース演習科目(PBL) [4]
比較演劇・メディア文化演習 [2]
知的財産マネジメント演習 [2]

- ・メディアデザインに関する専門的な科目を履修し、様々な表現手法とそれを実現するための知識やスキルを習得する。
- ・コース演習科目(PBL)や深化・展開科目によるメディアデザインに関する実践的なプロジェクトの学習を介して、問題解決のためのプロセスを明確にし、企画実践する構想力、他者と共同する共創力、効果的に表現し伝達する表現能力を修得する。

3年次：36単位

4年次

【卒業要件 128単位】

基幹教育科目 48単位
デザインリテラシー科目 8単位
コース基礎科目 7単位
コース専門科目 25単位
コース演習科目(PBL) 20単位
融合プロジェクト・プラットフォーム }
深化・展開科目 12単位
(他コース科目から4単位以上修得)
卒業研究・設計 8単位

深化・展開科目 [4]

未来構想デザインコース専門科目 [2]
デザイン設計論・演習 [1]
デザイン実装論・演習 [1]
インダストリアルデザインコース専門科目 [2]
クリエイティブデザイン演習 [2]

卒業研究・設計 [8]

卒業研究Ⅰ [4]
卒業研究Ⅱ [4]

- ・卒業研究を中心として履修し、実践的な問題解決能力とともに、専門的な英文の読解力、表現能力、さらにプレゼンテーションのスキルを身に付ける。
- ・他の専門分野の専門科目、演習科目を履修し、具体的な制作や表現の方法、設計・実装していく能力を修得する。

4年次：12単位

卒業後の進路イメージ「メディアアートのクリエイター」

国立大学法人九州大学教員の定年に関する規程

平成16年度九大就規第12号
施行：平成16年4月1日
最終改正：平成27年3月30日
(平成26年度九大就規第13号)

第1条 この規程は、国立大学法人九州大学就業通則（平成16年度九大就規第1号）第15条第1項の規定に基づき、国立大学法人九州大学に勤務する教員の定年について定めるものとする。

第2条 教員の定年は、65歳とする。

2 定年による退職の日は、定年に達した日以後における最初の3月31日とする。

第3条 前条第1項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する者の定年は、70歳とする。

- (1) 文化勲章又はノーベル賞を授与された者
- (2) 総長が前号に掲げる賞に相当すると認める賞を授与された者

附 則

1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。

2 第2条第1項の規定にかかわらず、生年月日が次表の左欄に掲げる年月日に該当する教員の定年は、同表右欄に掲げる年齢とする。

生年月日	定年年齢
昭和16年4月2日～昭和22年4月1日	63歳
昭和22年4月2日～昭和24年4月1日	64歳

附 則（平成26年度九大就規第13号）

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

基幹教育の目的と目標

1 基幹教育の目的と目標

(目的)

九州大学の教育は、日本の様々な分野において指導的な役割を果たし、アジアをはじめ広く全世界で活躍する人材を輩出し、日本及び世界の発展に貢献することを目的としています。このために、基幹教育は、専攻教育と協働して、生涯にわたって学び続けることを幹に持つ、行動力を備えた人材である**アクティブ・ラーナー**へと成長していく力を培うことを目的としています。

(目標)

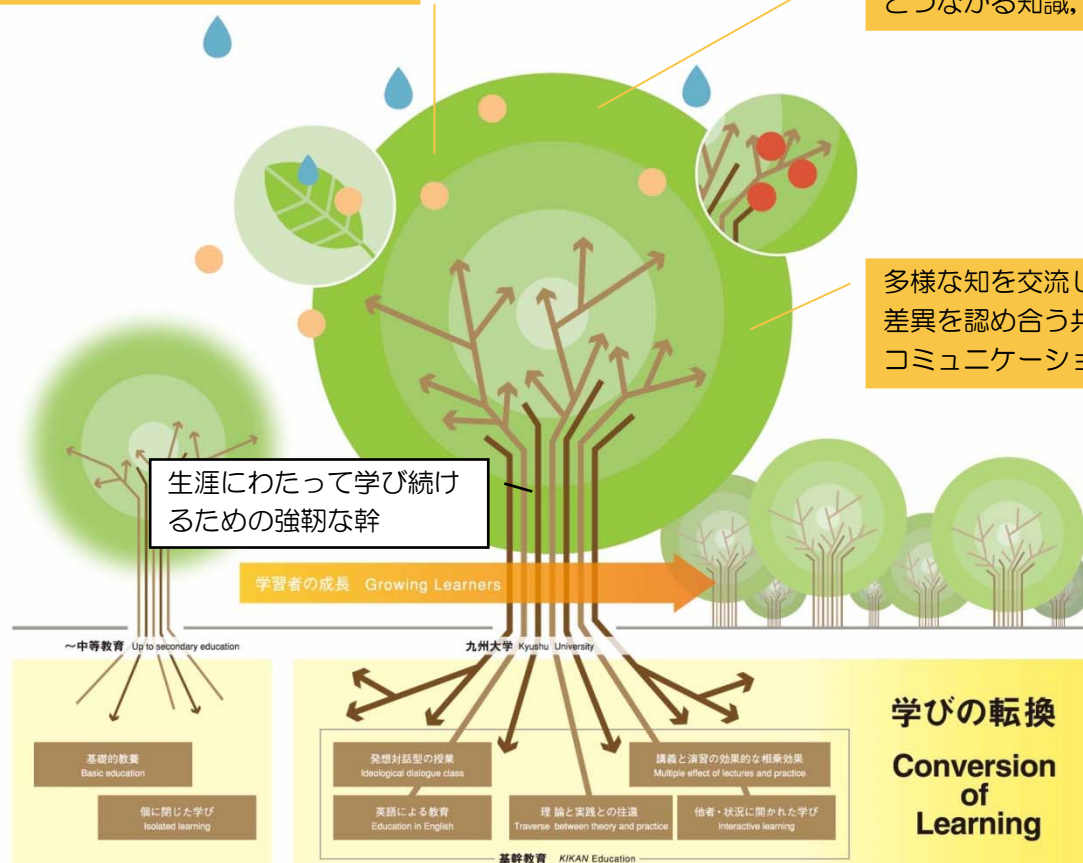
1. 進展するグローバル社会で求められる、深い専門性や豊かな教養へとつながる知識、技能を身につけよう。
2. 新たな知や技能を創出し未知な問題を解決する力である「ものの見方・考え方・学び方」を身につけよう。
既存の知識から解答を探すのではなく、自発的に問題を提起し、創造的・批判的に吟味検討することができる主体的な学び方を身につけよう。
3. ものの見方・考え方・価値観の異なる人と多様な知を交流し活動する能力、差異を認め合う共感性、そして問題解決へと導くコミュニケーション能力を磨こう。
他者との対話、共に学ぶ協働、そして自らを振り返る内省のサイクルを通じての力を高めよう。
4. 生涯にわたって学び続ける強靱な幹を育もう。



課題を発見し、創造的・批判的に吟味検討する主体的な学び

深い専門性、豊かな教養へとつながる知識、技能

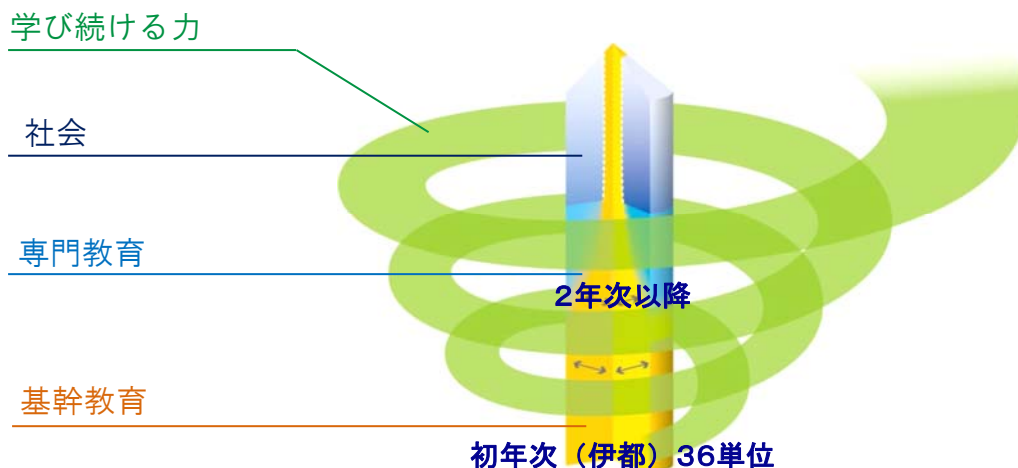
多様な知を交流し活動する力
差異を認め合う共感性
コミュニケーション能力



2 基幹教育科目の構成と各科目区分の目的・目標の解説

基幹教育科目は、基幹教育セミナー、課題協学科目、言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、サイバーセキュリティ科目、健康・スポーツ科目、総合科目および高年次基幹教育科目からなっています。

初年次の履修（36単位）に加え、2年次以降も専攻教育と連動しながら履修します。



【基幹教育セミナー】

科学技術が急速に進歩しグローバル化が進展する現代では、一人ひとりが変化や多様性と“しなやか”に付き合い、柔軟に適応していくことが求められます。このことを可能にするのは、私たちの生涯にわたる自律的な成長を支える〈学びの基幹〉です。すなわち、社会の諸課題や自己について多様な観点からの知識・情報を受けとめて批判的に考察しつつ、自ら問題を発見し、絶えず主体的に学び続ける態度です。本授業は、異なる専門分野を目指す学生および教員との対話や、それを踏まえた自己省察を通じて、一人ひとりが〈学びの基幹〉を育むことを目的としています。

学修目標として、①一人ひとりが自らの大学における学びについて、関連する知見を広く吸収しつつ、自らに問いかけ他者に伝え、また他者からの反応を受け止める体験を通じて、大学における学びへの意欲を高めること、②こうした仲間との対話や自己省察から新たな気づきや疑問を発見する過程を通じて、創造的・批判的に問題に取り組み学んでいく態度を培うこと、③対話や省察を通じて得た自らの学びが持つ可能性や意義、今後の展望等についてプレゼンテーションができるようになること、④このような学びのプロセスにおいて自分がどのように成長したいのか、自分の言葉で表現できるようになることを目指します。

【課題協学科目】

この科目では、現代社会が抱える様々な課題や問題の中から授業テーマを設定し、そのテーマに対する文系・理系にまたがる複数の学問的なアプローチを提示します。みなさんが幅広い視野と考え方を修得するとともに、文系・理系学部混成のグループで議論し合う協働学習により、思考能力を高め、他者と協力しながら自主的に学習を進めることのできる姿勢を身に付けることを目標としています。

【言語文化科目】

言語文化科目は、外国語で目標の課題を達成することができる言語運用能力の習得を目指します。また、外国語の背景にある異文化に対する理解を深めながら、母語や自国の文化を相対化する力を養います。英語科目においてはより高度な運用能力を習得できるよう、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの学習に加え、英語によるプレゼンテーションやディベートへとステップアップできる授業を設けています。また、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国語、スペイン語などの初修外国語の授業では、初めて習う言語そのものの学習だけでなく、その言語の発想法や背景における文化を理解することで、思考の幅広さを涵養することを目標にしています。

【ディシプリンとは】

「ディシプリン “discipline”」のdiscipleは「弟子」「門人」という意味であり、学問の世界でのディシプリンとは職人が弟子に技術を伝えるように学術研究をするための訓練のことをいいます。それぞれの学問分野においてその学問を学ぶ上での基礎知識はもちろん、問題を解決していく方法やものの見方、表現の技法などがディシプリンに含まれます。すなわち、大学で特定の専門を身につけるといえるのはその学問を研究していくための訓練を積むことでもあります。基幹教育でのディシプリン科目はそれぞれの専門の分野を学ぶときに核となるディシプリンを磨くと共に他の学問領域のディシプリンを学び、幅広い世界観を持つことも狙いとしています。



【文系ディシプリン科目】

文系ディシプリン科目は、文系の多くの学問分野のディシプリンを一通り体得できるように設計しています。いろいろな学部のディシプリンを知り、多様な文系的思考に触れることで獲得した学問的教養は、すべての学生にとってアクティブ・ラーナーとなるための骨太の基幹を作るとともに、他の学問分野の方法・視点・ものの見方によって、自らの学びを相対化することにつながります。また、文系学生にとっては専門基礎科目として、豊かな教養に裏づけられた深い専門性を獲得するためのスタートアップになります。

現在、文系ディシプリン科目には以下の科目を設けています。

《哲学・思想入門，社会思想史，先史学入門，歴史学入門，文学・言語学入門，芸術学入門，文化人類学入門，地理学入門，社会学入門，心理学入門，現代教育学入門，教育基礎学入門，法学入門，政治学入門，経済学入門，経済史入門，The Law and Politics of International Society》

【理系ディシプリン科目】

理系ディシプリン科目では、興味と問題意識を持ち、自ら考えることで、知っているだけではない本当に使える知識あるいは知識を使える力を育てることを目標としています。教養・専門基礎・リメディアルの3つを意識した科目を設けています。

（1）教養としての自然科学（教養系）

《数学，物理学，化学，生物学，地球科学，感性・デザイン学，情報科学》

それぞれの科目が持つ学問領域の基礎的な素養を修得し、自らの生活や取り巻く環境との関わりを考えられるように授業内容を構成しています。理系専攻教育への積み上げのための基礎としてではなく、色々な自然科学科目を受講し、それらを自らつなげることで自然科学の素養を築いてもらうことを狙いとしています。

（2）専門基礎としての自然科学（専門基礎系）

《数学，物理学，化学，生物学，地球科学，感性・デザイン学，情報科学，自然科学総合実験》

理系分野の専攻教育に連続的につながるものとして、着実な積み上げにより系統的に学習できるように授業を構成しています。学際性を意識して自然科学の基礎を幅広く学習することで、専門分野をより深く考えたり高めたりすることも期待します。また、自然現象を研究し理解するためには、実験的手法は欠かせないものです。そこで、全理系学部・学科に共通した内容の自然科学総合実験を提供しています。そこでは、物理学・地球科学・化学・生物科学の各分野にわたり、それぞれのテーマに沿った観察・実験を行い、結果をレポートとしてまとめることを通して実験的手法を学びます。

(3) リメディアルからはじめる自然科学（リメディアル系）

《物理学，化学，生物学》

物理，生物，化学について高校で授業を受けなかったことや受験科目として選択していなかったことで生じる基礎的知識が不十分な部分や十分に整理されていない部分を補足して，専門分野へつなげられるようにするための科目を設けています。理系専攻教育へのスムーズな発展を狙いとしています。

【サイバーセキュリティ科目】

インターネットや ICT 技術の普及によって，サイバーセキュリティに対する重要性が日に日に高まっています。また，考慮すべき領域は，コンピュータをインターネットに接続している空間だけに留まらず，パソコンを持ち運んでいる時，あるいは銀行オンラインシステムを利用している時などを含めた，サイバー空間全体に広がっています。このような状況で我が国ではサイバーセキュリティ基本法が施行され，大学におけるセキュリティの教育に加え，国民個人のセキュリティへの対応能力の向上が求められています。本講義では，学年，理系・文系を問わず，今後 ICT 国際社会で生き抜くためのサイバーセキュリティ力を向上させることを目的として，セキュリティに関する基礎的な技術から法律，倫理まで幅広く学びます。

【健康・スポーツ科目】

健康・スポーツ科目では，心身ともに健やかな人材の育成を目的とします。そのために，主に身体運動やスポーツを媒介として，生活の基本となる健康・体力およびそれらを高めるための方法に関する正しい知識を獲得すること，ならびに様々な社会的要求に応えるために必要とされる心理社会的能力，いわゆるライフスキルを習得・向上させることを目標とします。各科目は，年次進行に伴って，これらの知識やスキルが段階的に向上していくように配置されています。これらの科目の履修により，自律的な健康行動に結びつくような運動スキルあるいはライフスキルの更なる向上を図ること，また，健康・運動・スポーツ科学にかかる理解を一層深めることができます。

【総合科目】

総合科目は，文系から理系，純粋から応用にわたる幅広いテーマと多種多様な授業形態（講義形式，演習形式，セミナー形式，集中講義形式，フィールド形式など）をもつ授業科目からなります。主体的に課題を発見し探求して新たな知を深化・創造していく場であり，そして異分野の人との交流による知の創造・進展の場です。九州大学の教員が自主的に開講する授業に加え，QREC や各研究機関，他大学と連携して行われる授業もあります。授業を通じて得られる多様な知識の修得，知識に至る考え方の過程の経験や他者との交流から得られる創造的・批判的な思考の方法の涵養を目標としています。

【高年次基幹教育科目】

高年次基幹教育科目はすべての2年生以上を対象に各キャンパスで開講されます。それらは，専攻教育の学修による知識の深化を背景として生まれてくる，より多様で幅広い教養への興味，専門性の一步先にある有用な知識やスキルに対するニーズを満たす科目からなります。専門性を契機として生まれるアクティブな学びの広がりや深まりを促すことを目標としています。



学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

ア. 定員充足の見込み

九州大学芸術工学部（定員187名）は既存学科として、環境設計学科、工業設計学科、画像設計学科、音響設計学科、芸術情報設計学科の5学科が設置されている。今回の改組では、デザイン領域の変化（モノ→コト・サービス→社会・仕組み・ビジョン）に合わせて教育内容が拡大することや、この先も変化し続けるであろう状況に対応するため、現行の5学科を1学科にまとめ、履修上の区分として5コース（環境設計、インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計）を設けるもので、学部全体としての定員に変更はない。

現行の5学科制での過去5年間（平成26年度から平成30年度）の志願者倍率は、学部全体で約3.1倍から約3.7倍の間で推移し、定員充足率も1.02倍から1.07倍となっている。

学部名	平成26年度					平成27年度					平成28年度				
	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	定員充足率	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	定員充足率	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	定員充足率
芸術工学部	202	749	209	3.71	1.03	202	670	217	3.32	1.07	202	737	209	3.65	1.03
環境設計学科	38	145	40	3.82	1.05	38	94	42	2.47	1.11	38	141	40	3.71	1.05
工業設計学科	48	172	50	3.58	1.04	48	153	52	3.19	1.08	48	187	48	3.90	1.00
画像設計学科	38	139	40	3.66	1.05	38	157	41	4.13	1.08	38	143	40	3.76	1.05
音響設計学科	38	171	39	4.50	1.03	38	152	40	4.00	1.05	38	153	40	4.03	1.05
芸術情報設計学科	40	122	40	3.05	1.00	40	114	42	2.85	1.05	40	113	41	2.83	1.03
学部名	平成29年度					平成30年度									
	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	定員充足率	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	定員充足率					
芸術工学部	202	627	208	3.10	1.03	187	684	190	3.66	1.02					
環境設計学科	38	116	39	3.05	1.03	35	131	35	3.74	1.00					
工業設計学科	48	131	50	2.73	1.04	45	156	47	3.47	1.04					
画像設計学科	38	113	39	2.97	1.03	35	140	35	4.00	1.00					
音響設計学科	38	157	40	4.13	1.05	35	123	36	3.51	1.03					
芸術情報設計学科	40	110	40	2.75	1.00	37	134	37	3.62	1.00					

今回の芸術工学部の改組計画の検討にあたって、同学部に在籍する2年次から4年次の学生（674名）に対してアンケート調査を実施した（資料1）。有効な回答のあった学生（440名）のうち約6割の学生（264名）から、改組後の新しい芸術工学部に魅力を感じているとの回答結果が得られた。

また、履修上の区分として設ける5コースについても、各コースのニーズの把握として、コースごとの受験希望について第一希望・第二希望の形で質問し、第一希望として最も希望が少ないコースでも41名（約9%）、最も希望が高いコースで139名（約32%）であり、過去5年間の平均志願倍率と最低志願倍率で試算した結果、各コースで想定している履修人数を十分に満たす希望者が見込まれるという結果であった。

これまでの芸術工学部の志願状況及び定員充足状況と、改組計画を踏まえたアンケート調査の結果を踏まえた試算から、十分に定員（187名）を確保できる見込みがある。

イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

現行の5学科制での過去5年間（平成26年度から平成30年度）の志願者倍率は、上記ア。「定員充足の見込み」に記載のとおり、学部全体で約3.1倍から約3.7倍の間で推移し、定員充足率も1.02倍から1.07倍となっている。

今回の芸術工学部の改組計画の検討にあたって、構想している芸術工学部の改組の概要を示し（資料2）、同学部に在籍する2年次から4年次の学生（674名）に対するアンケート調査を実施した。

「新しい芸術工学部に魅力を感じるか」という質問に対して、「とても感じる」と回答した者が55名（12.5%）、「やや感じる」と回答した者が209名（47.5%）で、6割の学生が改組後の新しい芸術工学部に魅力を感じている。

	回答数	割合
とても感じる	55	12.5%
やや感じる	209	47.5%
あまり感じない	123	28.0%
全く感じない	37	8.4%
未回答	16	3.6%
計	440	100%

また、今回の改組では、履修上の区分として5コース（環境設計、インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計）を設けるため、各コースのニーズ・受験動向の把握として、コースごとの受験希望について第一希望・第二希望の形で質問し、上記の質問で「とても感じる」及び「やや感じる」と回答した学生264名からの回答結果は次のとおりであった。

コース名	第一希望		第二希望		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
環境設計コース	43	16.3%	33	12.5%	76	14.4%
インダストリアルデザインコース	70	26.5%	69	26.1%	139	26.3%
未来構想デザインコース	34	12.9%	90	34.1%	124	23.5%
メディアデザインコース	84	31.8%	59	22.4%	143	27.1%
音響設計コース	33	12.5%	9	3.4%	42	8.0%
未回答			4	1.5%	4	0.8%
計	264	100%	264	100%	528	100%

各コースの履修学生数を設定するにあたって、過去5年間の学科ごとの定員設定と志願状況や、上記のアンケート調査の結果に加え、専任教員の確保状況、各コースで開講する授業科目等を踏まえ、各コースの適切な履修人数を検討した。

特に、カリキュラムの面において、各コースを履修する学生が、コースに関わる身近な問題や事例等を素材としながら、具体的な問題解決に向けて取組み、実践的思考力を鍛える「コース演習科目（PBL）」や、異なる専門分野を学ぶことを希望する学生が、新たな価値の創出や課題解決に取り組む「融合プロジェクト・プラットフォーム科目」では、学生がチームを形成し、協働して問題解決等に取り組むこととなる。そのため、各コースで開講される「コース演習科目（PBL）」等に応じて、7名×5チーム＝35名、9名×3チーム＝27名、9名×5＝45名といった形で、柔軟にチーム編成が可能な人数を考慮する必要があった。

加えて、「インダストリアルデザインコース」と「メディアデザインコース」は、母体となる改組前の旧学科において志願者倍率が高く十分に入学希望学生が確保できていたこと、及び先に述べたアンケート調査において、同コースを希望する学生の割合が他コースと比較して高かったこと、また、「未来構想デザインコース」は、現代社会の複合的な課題と可能性に向き合うために、発想力・想像力を徹底して鍛える特色あるコースである点も考慮した。

先に述べた様々な点も考慮し、改組前の5学科において標準的な定員サイズであった35名をベースに、各コースで想定する履修人数を次のとおり設定した。

学部等名	定員	コース名	各コース履修人数
芸術工学部 芸術工学科	187名	環境設計コース	35名
		インダストリアルデザインコース	45名
		未来構想デザインコース	27名
		メディアデザインコース	45名
		音響設計コース	35名

[参考]

学部名	学科名	定員	計
芸術工学部	環境設計学科	35名	187名
	工業設計学科	45名	
	画像設計学科	35名	
	音響設計学科	35名	
	芸術情報設計学科	37名	

上記で設定した各コースの履修人数の動向について、過去5年間（平成26年度から平成30年度）の平均志願倍率（3.49）と、同期間における最低志願倍率（3.10）を基に、改組計画を踏まえて実施したアンケート調査の結果（ニーズ・受験動向）を参考に、次の様な試算を行った。

◇パターン1：過去5年間の平均の学部志願倍率で算定

コース名	各コース履修人数(a)	平均志願倍率(b)	想定希望者数(c=a×b)	第一希望回答数(d)	e=(c)の計/(d)の計	アンケート結果を反映した想定希望者数(d×e)
環境設計コース	35	3.49	122	43	2.47	106
インダストリアルデザインコース	45		157	70		173
未来構想デザインコース	27		94	34		84
メディアデザインコース	45		157	84		207
音響設計コース	35		122	33		82
計	187		652	264		652

◇パターン2：過去5年間で最低の学部志願倍率で算定

コース名	各コース履修人数(a)	最低志願倍率(b)	想定希望者数(c=a×b)	第一希望回答数(d)	e=(c)の計/(d)の計	アンケート結果を反映した想定希望者数(d×e)
環境設計コース	35	3.10	108	43	2.19	94
インダストリアルデザインコース	45		139	70		153
未来構想デザインコース	27		83	34		74
メディアデザインコース	45		139	84		184
音響設計コース	35		108	33		72
計	187		577	264		577

いずれの試算においても、各コースで想定する履修人数を上回る志願者の確保が見込める結果となった。

ウ. 学生納付金の設定の考え方

本学の初年度納付額は、817,800円（授業料年額：535,800円、入学料：282,000円）で、近隣の国立大学法人と同額である。

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

九州大学では、芸術工学部の認知度向上を図り、学生確保につなげるため、以下の取組を行うことを予定している。

①オープンキャンパス及び施設公開

毎年8月に大学全体でオープンキャンパスを開催し、例年芸術工学部には1,000名程度の高校生等の参加があり、学科紹介、実験室等の見学、体験授業、模擬授業、ガイドツアー、学生作品の展示などを実施し、いずれも参加者から好評を得ており、学生確保のためのPRには絶好の機会となっている。今年のオープンキャンパスでは、新コースの紹介・説明を大々的に行う予定としており、かなりの学生確保の効果が期待できる。

また、芸術工学部では、毎年5月下旬に小・中・高校生や一般市民を対象とする施設公開イベント「デザインのフシギ体験」を開催し、例年1,500名を超える参加

がある。同イベントでは、リサイクルアートや親子でのゲームプログラミング等のものづくり体験や、無響室といった特殊な実験室公開等を通じて、芸術工学部独自の教育内容を分かりやすく紹介する内容で構成し、高校生を含めた幅広い層に芸術工学部の魅力を紹介するまたとない機会となっており、オープンキャンパス以上に永続的な効果が期待できる。

②入試懇談会

九州大学では、上記オープンキャンパス開催時に、高等学校教諭と大学教員との懇談会を開催している。そこで本学部の特色のある教育等について説明することによって、学生への進路指導の参考としてもらうことができ、学生確保の効果が期待できる。

③進学説明会

九州大学では、全国から受験生を確保するために、毎年、大学や企業が各地で開催する進学説明会に参加している。平成30年度は、5月から10月までの間に、福岡、熊本、鹿児島といった九州地区をはじめ、札幌や、東京、大阪など18都道府県、全32回の進学説明会に参加し、大学紹介を行っている。芸術工学部も例年積極的に各会場へ教員を派遣しており、平成31年度も前年度と同程度の進学説明会に参加する予定であり、学生確保の効果が期待できる。

④高校訪問

九州大学では、九州・山口地域の高等学校に、教員とその高等学校出身の修士課程学生を派遣して、九州大学についての説明会を実施している。芸術工学部を卒業した大学院生が、大学進学前後の自身の体験談を高校生に聞かせるなど、より身近な立場から芸術工学部についてアピールする機会となっており、学生確保の効果が期待できる。

⑤高校生を対象とした公開講座及び出前授業

芸術工学部では、高校生を対象とした公開講座を毎年度開講しており、平成29年度は7講座・延べ148名が参加し、平成30年度は6講座・延べ135名が参加している。公開講座は、「高校生のための工業設計学科のデザイン講座」、「高校生のための音と画像の実験等」、「高校生のための最先端メディアスタジオワークショップ」等、高校生向けに分かりやすい講義スタイルで行っている。

また、九州・山口地区以外でも、広島県、岡山県、兵庫県及び大阪府の高等学校での出前授業も実施しており、平成29年度には35校、平成30年度には32校で実施した。出前授業のテーマは、高校と大学の違い、勉強と研究・卒業研究、授業の構成と内容、卒業後の進路、課外活動と大学生活等の共通テーマから、設計、まちづくり、デザイン、人間工学、画像・映像表現、音デザイン、コンピュータグラフィックス等、芸術工学部の教育・研究内容に沿ったものとなっている。

平成31年度も公開講座、出前事業の実施を予定しており、幅広い地域からの学生確保の効果が期待できる。

⑥ウェブサイトによる広報

芸術工学部のホームページに、今回の改組構想に関する内容を掲載したチラシ

をPDFデータで公開しており、理念や概要等について紹介している。今後、改組構想について、より具体的な情報を適切な時期に大学のホームページや学部のホームページで順次公開し、高校生や保護者に対して周知を行う。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

芸術工学部は、「技術の人間化」を実践する学部として、工学や技術に関する科学的な知識、人間や社会に対する深い洞察や、社会の状況に的確に対応できる豊かな教養を持ち、国際的にも通用する広い視野と学識を有する創造性あふれる高度デザイン人材の育成を目的としている。

グローバル化、少子高齢化など大学を取り巻く社会構造が大きく変化し、地球環境問題の顕在化などから、経済活動の持続可能性が深刻に問われ、人間の生き方や生活のあり方について、価値観の転換を含め、人類がこれまでに経験したことがないような社会的課題が生じている。このような状況の中で、社会的な変化に伴いデザインの領域は拡大し、デザイナーの役割も大きく変化している。

デザインの対象は「モノ」から「コト」へ、さらに「ビジョン」へ拡大し、従来は形や色など意匠的、表層的な成果を目的としてデザインが行われていたが、ユーザーエクスペリエンス（UX）を含む製品とサービス全体、あるいは、価値創造プロセス全体が領域となり、デザイン領域はビジネスモデル、社会システムなどの仕組みへと広がっている。

さらに、現状の課題に対する解決に限らず、将来のあり得る、また、そうありたい社会のビジョン、「未来はこうもあり得るのではないか」という「問い」の創造までをデザイン概念が含むようになっている。

デザインに関連する多くの企業への調査によれば、デザイン領域の変化に対応するためには、「高度デザイン人材」が求められているといわれており、その求められている高度デザイン人材とは、社会変化に柔軟に対応し将来の姿・仕組みを構想できる人材であり、本学部で育成する高度デザイン人材と合致している。

また、イノベーション創出といった新たな価値を求める世界的な動きの中、特に、我が国の科学技術政策として重要な課題となっている「科学技術イノベーション人材育成」に寄与していくことは、約半世紀にわたって「技術の人間化」を実践してきた本学部の責務であり、その役割は極めて大きいものと認識している。

(2) 社会的・地域的な人材需要の動向等を踏まえた客観的な根拠

芸術工学部の改組構想の検討にあたって、人材需要の社会的なニーズを明らかにするため、政府・企業等が公開している関連情報を基に、デザインの役割と求められる人材像についてデータを収集した（資料3）。

①政府の動向

デザインの役割と求められる人材像に関する政府の政策上の動向として、

○2017年3月公表：経済産業省の「第4次産業革命におけるデザイン等のクリエイティブの重要性及び施策検討に係る調査研究報告書」【官①】

同報告書では、デザインの定義を「狭義のデザイン」、「広義のデザイン」、「経営のデザイン」の3階層に分類し、企業が自社の製品・サービスについて、実際に「広義のデザイン」の視点で検討する場合、高度デザイン人材が必要と

なると述べられている。

また、高度デザイン人材の能力は、専門性よりも横断的な基礎力に紐付いており、高校生までの基礎的な学習が有効であり、大学生・大学院生では、企業のリアルなニーズの下でクリエイティブの重要性を認識する取組みの必要性が述べられている、具体的には、芸術系学生・社会科学系・理工学系など多様な学問領域の学生が、企業や各種団体が行う実際の開発プロジェクト、インターンシップ、製品・サービス開発のワークショップを一緒に行い、実際の取組みを通じてクリエイティブの重要性を認識することが重要とされている。

- 2018年5月公表：経済産業省・特許庁の「産業競争力とデザインを考える研究会」より、各企業のデザイン経営に対する取り組みと考え方をまとめた『「デザイン経営」宣言』【官②】

同宣言では、企業・大学等において、事業課題を創造的に解決できる人材（高度デザイン人材）の育成を推進することの必要性が提言されている。

といったものがあり、上記以外にも

- 2016年1月公表：「第5期科学技術基本計画」【官③】

同基本計画では、「(3)「超スマート社会」における競争力向上と基盤技術の強化 ①競争力向上に必要となる取組」として、「新しい価値やサービスを生み出す事業の創出や、新しい事業モデルを構築できる人材、データ解析やプログラミング等の基本的知識を持ちつつビッグデータやAI等の基盤技術を新しい課題の発見・解決に活用できる人材などの強化を図る」ことが示されている。

- 2015年9月公表：文部科学省高等教育局の「新時代を見据えた国立大学改革」【官④】

国立大学に求められている社会的役割として、世界における日本の競争力強化、産業の生産性向上、我が国発の科学技術イノベーションの創出、グローバル化を担う人材の育成、震災の経験を活かした防災対策、地球温暖化等の環境問題への対応、今後ますます進行する高齢化と人口減少の克服、活力ある地方の創生、そして、こうした現代社会に飛び立っていく若者の育成が示されている。

- 2017年3月公表：文部科学省高等教育局と経済産業省産業技術環境局大学連携推進室による「理工系人材育成に関する産学官円卓会議－人材需給ワーキンググループ取りまとめ（報告）」【官⑤】

同報告書では、

- ・技術系職種において「多様な分野の科目を学べる学科」に対するニーズが高く、「企業等との共同研究、より実践的で実社会に貢献できる研究」、「大学に入ってから専門を決められる仕組み」、「自分の専門以外の専門をサブコースとして学べる仕組み」に対するニーズが高いこと
- ・第4次産業革命や「超スマート社会」(Society5.0)といった産業創造・社会変革に対応した人材育成に向けて、その中心を担う大学における工学系教育への期待が高まっていること

など産業界からのニーズが述べられている。

といったものがある。

②企業等の動向

企業等の人材需要の動向として、以下の企業等で具体的な動向・意向が示されて

いる。

○株式会社デンソー

2017年度の「スペキュラティブデザインリードの求人」において、「デザインの業務内容が拡大し、従来のデザインワークに収まらない広範な知識・スキルを統合し、デザイナー特有の発想力や想像力を駆使して将来に対する問題提起、価値創造を通じた事業開発、経営企画への貢献を期待されるようになってきている」と記載されている【産①】。

○日立グループ

技術情報誌「日立評論」の創立100周年記念号（2018年5月）では、第8章“Design”において、「将来の社会課題を洞察・共有し、それを解決する社会イノベーションをR&D（Research & Development）が創出するには、生活者起点のデザイン思考が不可欠である」と述べられている【産②】。

○パナソニック株式会社

同社では、大阪及び滋賀に分散していたアプライアンス社デザインセンターの拠点を「Panasonic Design KYOTO」として京都に一本化しており、そのインタビュー記事において、「いまのデザインは、感性価値や体験が伴わずには未完成である。便利な道具から、豊かな体験、憧れの暮らしへとシフトするなかで、感性を扱うデザイン部門が果たす役割は大きくなっている。」と述べられている。

また、同センターの取組として、社内の他部門からデザインエンジニアやインサイトリサーチャーを獲得していること、大学との協力で、建築学、機械工学、情報学、経営学、心理学といった学部を超えた、デザインの観点からの連携を行っていることが挙げられている【産③】。

○ソニー株式会社

日刊工業新聞によるソニークリエイティブセンター長へのインタビュー記事では、「商品のデザインが中心だったが、対象を事業創出や研究開発、ブランディングまで広げた。今では既存事業から新規事業まで、完成品はもちろん、デバイス段階からデザインする。あらゆる物事においてストーリーづくりが、これまで以上に必要になっている。」と述べられている【産④】

○ダイキン工業株式会社

同社Webサイトに掲載されているデザイン誌『AXIS』編集長へのインタビュー記事の中で、「モノからコトのデザインになってきました。私たちはよく"デザインが溶けていく"と言うのですが、デザインの枠自体がなくなってきました。以前はいわゆるモノのデザインみたいなものがあったのですが、だんだんモノのかたちさえなくなって、デザインの主体はシステムや環境になってきています。」「逆に言うとデザイナーの領域は、以前よりもかえって広がっていると思います。もうモノだけではなくてトータルに環境も含めて関わることができる。というかやらざるをえない状況だと思います。大学での教育も、単純に絵を描いていればいいというわけではなくて、川上から川下までどのようにしてトータルで考えていくことができるかが課題になっています。」と述べられている【産⑤】。

○WEB・IT 業界人のためのキャリア情報専門サイト「CAREER HACK」

同サイトに、DeNA 株式会社デザイン戦略室室長の記事が掲載されており、「何を解決するためのサービスか、ここを理解した上でのデザインが求めら

れていく」、「目的を画像や絵など目に見える形に落とし込んでいくことがデザイナーにおける役割のひとつ。同時に、問題を洗い出し、解決策を出して、
どういうアプローチをするか？ここを考えてからカタチにしないではいけません。そうすると必然的に『領域を限定しない』ということになる。」と述べられている【産⑥】。

以上の様に、政府や企業等の人材需要の動向の中で、大学に対して、デザイン領域を横断する能力を持ち、社会変化に柔軟に対応し将来の姿・仕組みを構想できる「高度デザイン人材」を育成することが強く求められており、社会的な人材需要は十分にあると判断できる。

新しい芸術工学部芸術工学科に関するアンケート実施状況

調査対象：芸術工学部に在籍する2、3、4年次生

調査時期：平成31年1月16日～2月8日

調査方法：調査対象者に、構想中の内容を記載したチラシと質問項目を記載したアンケート用紙を配布し、その場で回答したものを回収

1. アンケート対象者数及び回答者数

○アンケート対象者数（1年生を除く）

学科名	在籍者数			
	2年生	3年生	4年生	計
環境設計学科	39	39	47	125
工業設計学科	49	49	60	158
画像設計学科	38	42	52	132
音響設計学科	38	40	45	123
芸術情報設計学科	40	44	52	136
合計	204	214	256	674

○アンケート回答者数

学科名	回答者数					回答率 (%)
	2年生	3年生	4年生	未回答	計	
環境設計学科	27	19	25	0	71	56.8
工業設計学科	34	39	38	0	111	70.3
画像設計学科	26	32	15	2	75	56.8
音響設計学科	22	46	22	5	95	77.2
芸術情報設計学科	18	38	32	0	88	64.7
合計	127	174	132	7	440	65.3

2. アンケート実施内容及び結果 ※構想中の内容を明示（資料2）の上、実施
【質問】 改組後の新しい芸術工学部を魅力的に感じるか。

【回答】

選択肢	回答数	割合(%)
とても感じる	55	12.5
やや感じる	209	47.5
あまり感じない	123	28.0
全く感じない	37	8.4
未回答	16	3.6
合計	440	100

有効な回答のあった学生（440名）のうち、6割の学生（264名）から、改組後の新しい芸術工学部に魅力を感じるとの回答結果が得られた。

【質問】 改組後の新しい学科では5コース制をとるが、各コースを魅力的に感じるか。

【回答】

※上段が回答数、下段が割合（%）

コース名	とても感じる	やや感じる	あまり感じない	全く感じない	未回答	計
	環境設計コース	75 17.0	227 51.6	112 25.5	23 5.2	
インダストリアルデザインコース	100 22.7	212 48.2	97 22.0	28 6.4	3 0.7	440 100
未来構想デザインコース	80 18.2	140 31.8	155 35.2	62 14.1	3 0.7	440 100
メディアデザインコース	124 28.2	208 47.3	82 18.6	23 5.2	3 0.7	440 100
音響設計コース	99 22.5	215 48.9	93 21.1	27 6.1	6 1.4	440 100

有効な回答のあった学生（440名）のうち、半数以上の学生が、いずれのコースも魅力的に感じているとの回答結果が得られた。なお、最も割合の低い結果（50%）となった未来構想デザインコースは、新しい概念で構想している従来なかったコースであり、従来の学科からある程度イメージできる他のコースと比べ、コースのイメージが学生に対してうまく伝わらなかったことが一因と思われる。今後の入試広報等においては、よりコースの魅力が伝わる様な工夫・対応を取る。

【質問】改組後は次の様なカリキュラム上の特色を持たせる予定であるが、魅力的に感じるか。

【回答】 ※上段が回答数、下段が割合 (%)

カリキュラム上の特色	とても感じる	やや感じる	あまり感じない	全く感じない	未回答	計
多種多様な科目群から、コースを超えて興味に合った科目を履修可能	215	168	37	6	14	440
	48.8	38.2	8.4	1.4	3.2	100
1～2年次にデザインの基礎(理論と実技など)を体系的に学ぶ	202	174	37	14	13	440
	45.9	39.5	8.4	3.2	3.0	100
プロジェクト型授業で実践的にデザインスキルを身につける	195	170	46	15	14	440
	44.3	38.6	10.5	3.4	3.2	100
プロジェクト型授業や卒業研究で、関連分野の複数教員から指導が受けられる	203	178	40	6	13	440
	46.1	40.4	9.1	1.4	3.0	100
希望学生は、国際プログラムを履修可能	142	180	94	11	13	440
	32.3	40.9	21.3	2.5	3.0	100

有効な回答のあった学生(440名)のうち、7割以上の学生が、カリキュラム上の特色を魅力的に感じているとの回答結果が得られた。

【質問】改組後の芸術工学を受験するとしたら、どのコースを希望するか。

【回答】集計パターン1：改組後の新しい芸術工学部を魅力的に「とても感じる」「やや感じる」と回答した学生(264名)のみ

コース名	第一希望		第二希望		計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
環境設計コース	43	16.3	33	12.5	76	14.4
インダストリアルデザインコース	70	26.5	69	26.1	139	26.3
未来構想デザインコース	34	12.9	90	34.1	124	23.5
メディアデザインコース	84	31.8	59	22.4	143	27.1
音響設計コース	33	12.5	9	3.4	42	7.9
未回答	—	—	4	1.5	4	0.8
計	264	100	264	100	528	100

【回答】集計パターン2：アンケートに回答のあった全学生（440名）

コース名	第一希望		第二希望		計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
環境設計コース	57	13.0	51	11.6	108	12.3
インダストリアルデザインコース	107	24.3	105	23.9	212	24.1
未来構想デザインコース	41	9.3	132	30.0	173	19.7
メディアデザインコース	139	31.6	92	20.9	231	26.2
音響設計コース	77	17.5	26	5.9	103	11.7
未回答	19	4.3	34	7.7	53	6.0
合計	440	100	440	100	880	100

【参考】第一希望、第二希望の内訳

学科名等	環境設計		インダストリアルデザイン		未来構想デザイン		メディアデザイン		音響設計		未回答	
	第一	第二	第一	第二	第一	第二	第一	第二	第一	第二	第一	第二
環境設計学科	44	13	11	26	3	18	8	9	1	1	4	4
工業設計学科	3	21	76	18	18	36	6	25	3	5	5	6
画像設計学科	5	2	5	22	6	34	56	11	0	1	3	5
音響設計学科	5	11	6	17	4	13	6	31	69	10	5	13
芸術情報設計学科	0	4	9	22	10	31	63	16	4	9	2	6
合計	57	51	107	105	41	132	139	92	77	26	19	34

有効な回答のあった学生（440名）のうち、改組後の新しい芸術工学部を魅力的に「とても感じる」「やや感じる」と回答した学生（264名）のコースの希望状況として、コース間で若干の差があるものの、各コースで想定する履修人数を上回る希望があることが伺えた。

なお、今回は芸術工学部に在籍する学生を対象にアンケート調査を実施しているため、第一希望では、現在所属している学科により近いコースを希望する傾向が見られ、その一方で第二希望では、従来なかった未来構想デザインコースを希望する傾向が強く見られた。このことは、同コースが対象とするデザインの領域への潜在的なニーズを示すものと考えられる。

【質問】総合入試とその教育の仕組みに魅力を感じるか。

【回答】

選択肢	回答数	割合(%)
とても感じる	115	26.1
やや感じる	151	34.3
あまり感じない	115	26.1
全く感じない	43	9.8
未回答	16	3.7
合計	440	100

有効な回答のあった学生（440名）のうち、6割以上の学生が、総合入試に魅力を感じるという回答結果が得られた。

2020年4月、
九州大学芸術工学部が
生まれ変わります。
【構想中】



デザインで未来をつくる

九州大学芸術工学部は、日本初のデザイン教育の拠点として1968年に誕生して以来（当時は九州芸術工科大学）、デザインの分野をリードし続ける教育研究機関として発展してきました。昨今、グローバル化、少子高齢化、地球環境や経済活動の持続可能性などの社会問題が深刻化し、人類がこれまでに経験したことのない課題が生じています。こうした時代の変化に伴い、デザインの対象もモノからコトへ、さらにはビジョンへと拡大し、デザイナーの役割も大きく変貌しています。

芸術工学部は、このような社会変化に対応するため、学部改組を断行し、領域を横断しながら国際感覚を身につけ、未来の姿や仕組みを構想できる「高度デザイン人材」の育成に取り組むことにしました。現在の5学科体制は芸術工学科1学科の5コース体制へと変わり、環境設計コース、インダストリアルデザインコース、未来構想デザインコース、メディアデザインコース、音響設計コースが誕生します。

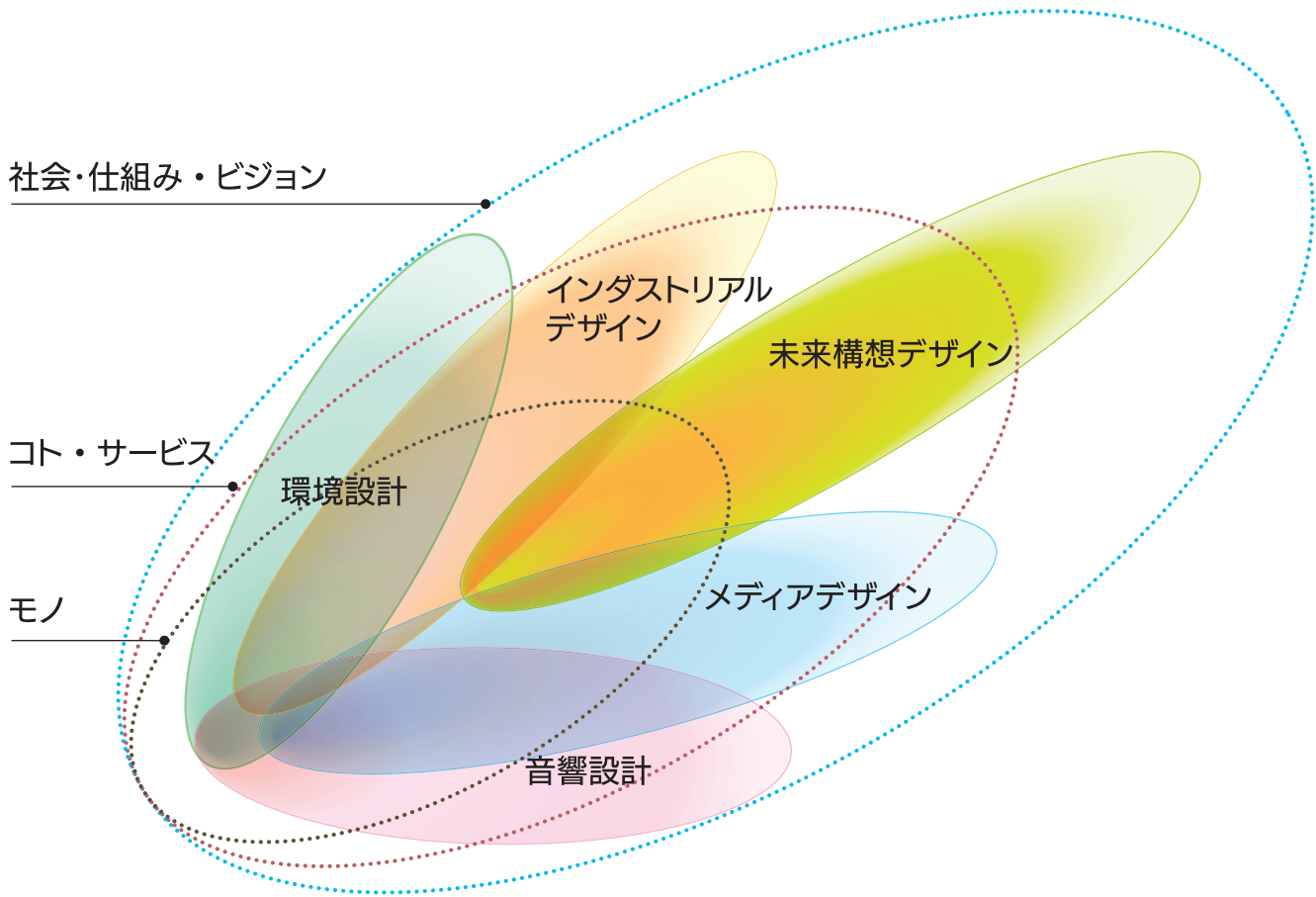
デザインの本質は、新しい価値を生み出すことです。デザインは、モノをつくるだけでなく、モノの形を通して、それを使う人間の行動や考え方にも大きな影響を及ぼします。デザインについて考えることは、未来の人間や社会のあり方を問うことであり、新しいデザインを考案し社会に実装することは、新しい価値の創出へと結びつきます。

デザインで未来をつくる気概にあふれた、創造力の豊かなあなたの入学をお待ちしています。

2019年1月
芸術工学部長 谷 正和

九州大学芸術工学部で新しいデザイン教育が始まります

【構想中】



新しい芸術工学部の特徴

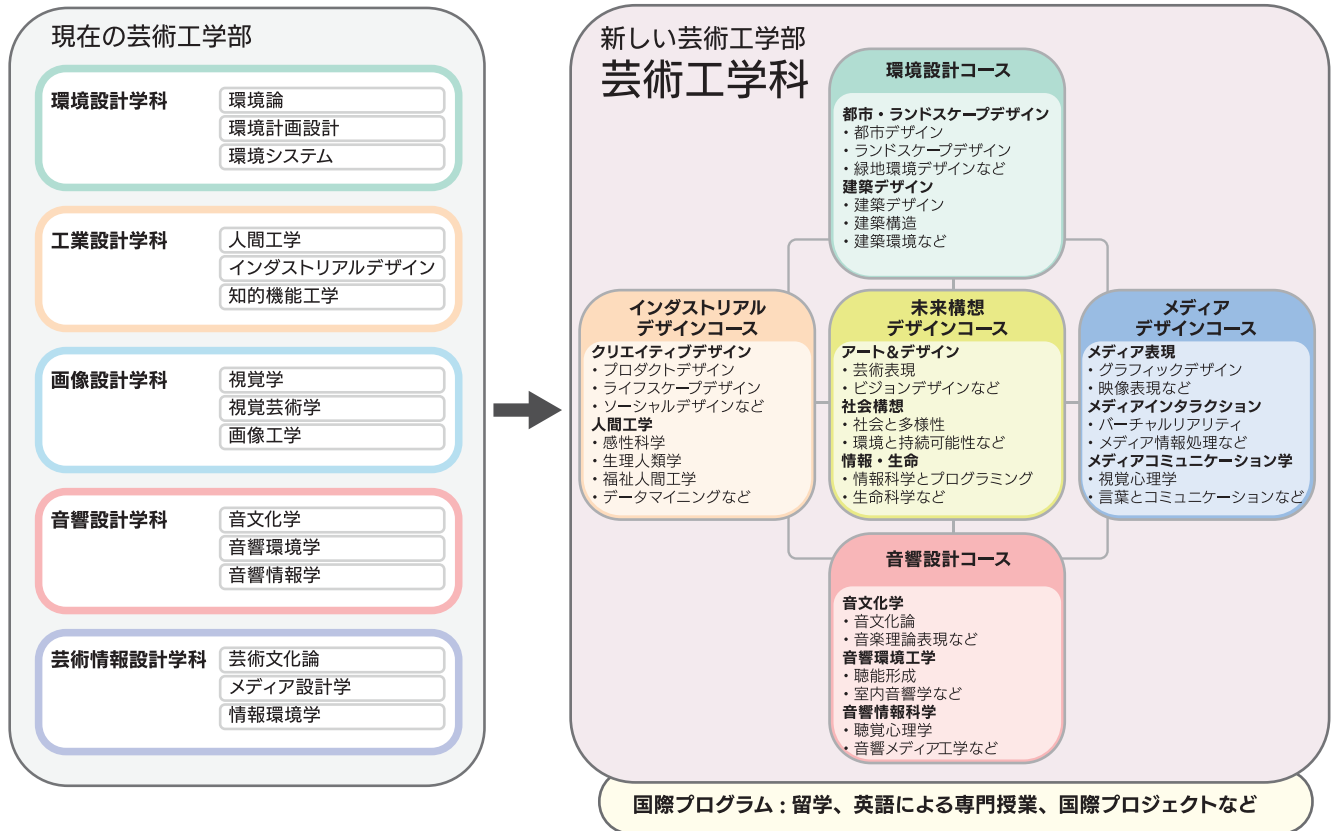
- ① 新たな社会課題に対応できる柔軟で多様な教育プログラム（1学科5コース制）を導入します。
- ② 50年間培ってきた伝統あるデザイン教育（文理融合+実践重視の教育）をさらに深化させます。
- ③ イノベーションを生み出すために必要な真の知識やスキルを教授します。
- ④ すべての人たちにとって住みやすい社会をつくるためのデザインを多角的に考え、実践します。
- ⑤ 世界のデザイン動向を注視しながら、国際的に活躍できる人材の教育に力を入れます。

新しいカリキュラムの特色

- ① 多種多様な科目群から、コースを超えてあなたの興味に合った科目を履修することができます。
- ② 1～2年次にデザインの基礎（理論と実技など）を体系的に学びます。
- ③ プロジェクト型の授業で実践的にデザインスキルを身につけます。
- ④ コースを横断したプロジェクト型の授業や卒業研究では、関連分野の複数の教員から指導を受けることができます。
- ⑤ 希望する学生は、国際プログラムを履修することができます。

国際プログラム（コースに所属したまま履修）

2年次に、英語による講義や演習を通して留学で必要なスキルを身につけます。3年次に、世界最先端のデザイン教育を行っている欧米やアジアの大学に留学し、帰国後に留学の成果発表を行います。国際プログラム履修者には、学士号に加えて国際プログラムの修了証が授与されます。



各コースの特徴

新しい芸術工学部芸術工学科は、次の5コースから構成されます。

コース名	コース概要	卒業後の進路
環境設計コース	エコロジー、持続可能性、地域再生といった課題に応えるため、人間をとりまく環境について多角的に学び、芸術的センスあふれる「建築」「都市」「地域」「緑地」「ランドスケープ」などよりよい環境をデザインできる総合的な設計家を育成する。	建築家、造園家、都市プランナー、環境コンサルタント [資格]一級建築士の受験資格
インダストリアルデザインコース	社会とのつながりを踏まえ、人間の特性を理解し、生活者の立場からの新しい俯瞰的視点を備え、安全・安心で魅力的な「製品」「生活環境」「サービス」「社会システム」を創造する広義のデザイナー・エンジニア・研究者を育成する。	インダストリアルデザイナー（プロダクト、パブリック、インテリア、ブランド、サービス、ビジネスなどの領域）、クリエイター（エンジニア、プランナー、リサーチャーなど）、人間工学専門家
未来構想デザインコース	現代と未来の社会における複合的な課題と可能性に向き合うため、人々や社会が持つ本質的な課題や期待を捉え、そこで必要となる「コト」「サービス」「ビジョン」「社会の在り方」を総合的にデザインできる発想力や創造力を持った人材を育成する。	デザイナー（エクスペリエンス、ビジョンなど）、デザイン・ディレクター、データサイエンティスト（社会データや生命情報など）、コンサルタント、行政職員、アートマネージャー、クリエイター、起業家
メディアデザインコース	科学的・論理的な思考能力と芸術的感性に基づく表現能力とを併せ持ち、新しいメディアテクノロジーを応用しつつ「メディア」と「コミュニケーション」に関する創造的なデザインに挑戦できるデザイナーを育成する。	デザイナー／エンジニア（メディア関連、インタラクションデザイン関連）、クリエイター（メディアアート、ゲーム、映像、広告など）
音響設計コース	新しい「音文化」の価値創造、人間に適した「音環境」の創出や、「音響情報」の先進的な技術革新を進めるため、人間や社会についての広い視野を有し、音に対する芸術的感性と音響設計の専門的知識を兼ね備えた、総合的な設計能力を持つ人材を育成する。	音響機器・建築・情報通信関係の研究開発職、放送局等のサウンドエンジニア、サウンドデザイナー

(構想中のため、内容が今後変更になる場合もあります。)

入学者選抜

新しい芸術工学部芸術工学科では、2020年4月入学者を対象として、下記の要領で総合入試とコース別入試を行います。総合入試による入学者は、1年次に芸術工学部共通の科目などを履修し、2年次に所属コースが決まります。コース別入試では、出願時にコースを選択します。

入学定員	選抜方法	センター試験	選抜予定時期
芸術工学部 芸術工学科 187人	① 総合入試 20人	一般入試 (前期日程)	要 2月下旬
	② コース別入試 167人	AO入試	要 1次：11月下旬～12月中旬 2次：1月下旬～2月上旬
		一般入試 (前期日程)	要 2月下旬

①総合入試

センター試験を受験後、出願時に芸術工学部芸術工学科の総合入試を選択し、一般入試（前期日程）を受験します。2年次に5コース（環境設計コース、インダストリアルデザインコース、未来構想デザインコース、メディアデザインコース、音響設計コース）のいずれかに所属することになります。

②コース別入試

センター試験を受験後、出願時に芸術工学部芸術工学科の5つのコース（環境設計コース、インダストリアルデザインコース、未来構想デザインコース、メディアデザインコース、音響設計コース）の中から1コースを選択し、AO入試もしくは一般入試（前期日程）を受験します。AO入試はコースごとに内容が異なり、実技スキル、発想力、意欲、適性などをもとに評価します。

※入学者選抜の詳細については、2019年4月以降に公表予定。

（構想中のため、内容が今後変更になる場合もあります。）

お問い合わせ

九州大学芸術工学部事務部総務課

〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1

Tel: 092-553-4442

Email: gkjimubu@design.kyushu-u.ac.jp

社会的な人材需要の動向等を踏まえた客観的な根拠

○政府の政策と方向性の資料

	官①
タイトル	経済産業省 第4次産業革命クリエイティブ研究会 報告書
URL	http://www.meti.go.jp/report/whitepaper/data/20170314002.html
資料名	第4次産業革命におけるデザイン等のクリエイティブの重要性及び施策検討に係る調査研究報告書
キーワード	デザイン・クリエイティブの定義、クリエイティブの発揮に必要なスキル・人材像、教育機関での育成
抜粋	<p>【p. i】(2) デザイン・クリエイティブの定義と本調査での射程</p> <p>「デザイン」や「クリエイティブ」の定義については、時代や場面によって流動的であり諸論ある。今回は、デザインは行為であり、クリエイティブは能力であると捉え、以下の内容を調査の前提とした本調査では、一般に説明されるデザインの定義を以下のとおり3階層に分類した。</p> <p>1) <u>狭義のデザイン</u>：意匠（製品やパッケージの装飾）、ユーザーインターフェースなど主に表層的な姿を対象とする。従来から主に（日本語としての）デザインと認知されている領域である。</p> <p>2) <u>広義のデザイン</u>：ユーザー体験（UX=User eXperience）を含む製品・サービス全体を対象とする。製品やサービスの提供者側だけでなく、ユーザーまで含めた価値創造プロセス全体が領域である。</p> <p>3) <u>経営のデザイン</u>：製品やサービスの提供を通じた価値創造をするために必要となるビジネスモデル、エコシステム、会社組織、マネジメントなどを対象とする。企業におけるコーポレート業務も対従業員サービスとしてこの階層に含まれる。</p> <p>【p. ii】(4) 調査結果2：クリエイティブの発揮に必要なスキル・人材像の検討</p> <p>自社の製品・サービスについて、実際に「広義のデザイン」の視点で検討する場合、高度デザイン人材が必要となる。本調査では、企業に必要な高度デザイン人材像とその人材を育成する方法について検討した。</p> <p>アンケートからは9割以上の企業が差異化価値を生み出す源泉としての高度デザイン人材の必要性を認識しており、この人材に求めるスキルは、ユーザーの持つ潜在的な課題を発見する能力や、コミュニケーションスキルが多く挙げられた。こうした人材は、現状でも企業内に存在している。「高度デザイン人材」や「クリエイティブ人材」という名称・肩書きで呼ばれているわけではなく、必ずしもデザイン部門にいるわけでもない。採用時においてどの程度重視しているかについては、約半数の回答企業で特に高度デザイン人材を意識して採用しておらず、多くの場合において現状では高度デザイン人材は採用後にOJTを中心に育成されていることが見えてくる。</p> <p>高度デザイン人材の能力については先天的なものや後天的なものがあるものの、後者の要素が強く、大学・企業等で意図的に育成できることも明らかとなった。また、クリエイ</p>

	<p>タイプは個々の人材に帰属するだけでなく、相互の「関係性」から組織的に発揮される面もあり、それを発揮するための「場」づくりも必要であるとの発見も得ることができた。</p> <p>そこで、企業で活躍できる高度デザイン人材やその人材が活躍してクリエイティブを發揮する「場」をどのように育成・醸成することが出来るのかを調査した。この点について 企業・高等教育機関など有識者へのヒアリングと、実際の企業における育成施策について アンケートを行い、以下のような方法で人材育成を行うべきことが分かった。</p> <p>【p. ii】（教育機関での育成：就職するまで）</p> <p>高度デザイン人材の能力は専門性よりも横断的な基礎力に紐付いており、高校生までの基礎的な学習が有効である。また、大学生・大学院生では、企業のリアルなニーズのもと でクリエイティブの重要性を認識する取組みも必要となる。具体的には、芸術系学生・社会科学系・理工学系など多様な学問領域の学生が、企業や各種団体が行う実際の開発プロジェクト、インターンシップ、製品・サービス開発のワークショップを一緒に行い、実際の取組みを通じてクリエイティブの重要性を認識することが重要である。こうした取組みによって、表面的なスキルセット（手法）を頭で理解するだけでなく、高度デザイン人材に必要なマインドセットを獲得することが出来ると考える。高度デザイン人材へのマインドセット（考え方）を獲得した大学生・大学院生が、クリエイティブファームや一般企業に就職し、それぞれの立場でプロジェクト活動を通じてクリエイティブを發揮していく。</p>
--	---

	官②
タイトル	経済産業省「産業競争力とデザインを考える研究会」報告書（平成 30 年 5 月 23 日）
URL	http://www.meti.go.jp/report/whitepaper/data/20180523001.html
資料名	産業競争力とデザインを考える研究会報告書『「デザイン経営」宣言』＋報告書別冊『「デザイン経営」の先行事例』
キーワード	※各企業のデザイン経営に対する取り組みと考え方がまとめられている。 発明とイノベーションをつなぐデザイン、高度デザイン人材の育成、デザイン経営、ブランド力、イノベーション力、ウォーターフォール型からアジャイル型、
抜粋	<p>産業競争力とデザインを考える研究会報告書『「デザイン経営」宣言』より</p> <p>（P12）企業・大学等において、事業課題を創造的に解決できる人材（高度デザイン人材）の育成を推進する。企業においては、ビジネス系・テクノロジー系人材がデザイン思考を、デザイン系人材がビジネス・テクノロジーの基礎を身につけるための研修などを実施するとともに、専門領域の異なる人材同士が創造的に課題を解決するプロジェクトやワークショップなどを導入する。</p> <p>報告書別冊『「デザイン経営」の先行事例』より（P2-10）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術者・マーケター・デザイナーが共創しながら新領域のイノベーションにチャレンジ。（パナソニック株式会社） ・イノベーションを起こすという観点で、製品ごとの担当制をやめ、多様なバックグラウンドのメンバーでチームを組むようにした（株式会社イトーキ） ・製品開発にデザイナーが企画段階から携わり、エンジニアと協働することで、エンドユーザーの視点を取り入れることに成功している（ソニー株式会社）

	<ul style="list-style-type: none"> ・かつては製品を開発する際には機能を考えるところから始めていたものを、まずは製品のデザインを提案するスタンスに変わった。(TOTO 株式会社) ・デザイナーは顧客インサイト等のより潜在的な課題の発見・掘り起こしと、それらの課題をどう解決するのかをデザインすることが求められている。(NEC) ・大学でデザイン+工学的教育といったハイブリッド教育を受けている人を探している(株式会社 日立製作所)
--	---

	官③
タイトル	内閣府「Society 5.0」
URL	http://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html
資料名	第5期科学技術基本計画
キーワード	超スマート社会(Society5.0), 分野横断的な連携, イノベーション, 社会実装,
抜粋	<p>(p.1) はじめに 人々に豊かさをもたらす「超スマート社会」を未来の姿として提起し、新しい価値やサービス、ビジネスが次々と生まれる仕組み作りを強化する。国際協調の中にも戦略性を持って科学技術イノベーションを活用し、国内外の課題の解決を図る。</p> <p>(p.13) 「超スマート社会」における競争力向上と基盤技術の強化</p> <p>①競争力向上に必要な取組 新しい価値やサービスを生み出す事業の創出や、新しい事業モデルを構築できる人材、データ解析やプログラミング等の基本的知識を持ちつつビッグデータや AI 等の基盤技術を新しい課題の発見・解決に活用できる人材などの強化を図る。</p> <p>(p.47) 科学技術イノベーションと社会の関係深化 研究者等と社会の多様なステークホルダーとをつなぐ役割を担う人材である科学コミュニケーター等が活躍し、双方向の対話・協働においても能動的な役割を担うことが期待される。</p>

	官④
タイトル	新時代を見据えた国立大学改革 (文部科学省高等教育局)
URL	http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2015/10/01/1362382_2.pdf
資料名	新時代を見据えた国立大学改革 (平成 27 年 9 月 18 日、日本学術会議幹事会における文部科学省説明資料、PDF) 文部科学省高等教育局
キーワード	震災の経験を活かした防災対策、地球温暖化等の環境問題への対応、高齢化と人口減少の克服、活力ある地方の創生、能動的学習、変化する社会へ対応

抜粋	<p>(p. 1) <u>国立大学に求められている社会的役割</u></p> <p>我が国は、世界規模で急激に変化する社会の中で、いくつかの大きな課題に直面している。世界における日本の競争力強化、産業の生産性向上、我が国発の科学技術イノベーションの創出、グローバル化を担う人材の育成、震災の経験を活かした防災対策、地球温暖化等の環境問題への対応、今後ますます進行する高齢化と人口減少の克服、活力ある地方の創生、そして、こうした現代社会に飛び立っていく若者の育成。</p> <p>(p. 2) <u>国立大学に求められている社会的役割</u></p> <p>各大学において、学生に身に付けさせるべき資質・能力を明確にし、それに基づく学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）や教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）が適切に設定されてきたか、能動的学習（アクティブ・ラーニング）、科目番号制（ナンバリング）の導入や教育課程の体系化等を通じて全学的な教学マネジメントを確立するとともに、学修成果の把握、厳格な成績評価に取り組むなど、特色ある教育研究を行う体制がとられてきたか、という観点から、現在行っている教育内容・方法やその基盤となる組織のあり方等を点検し、変化する社会の中で学生が生涯を通じて活躍することができる力を養うことができる教育を目指していく必要がある。</p>
----	--

	官⑤
タイトル	理工系人材育成に関する産学官円卓会議
URL	http://www.meti.go.jp/policy/innovation_corp/entaku/index.html
資料名	（平成 29 年 5 月 22 日、文部科学省高等教育局専門教育課、経済産業省産業技術環境局大学連携推進室）先端クリエイティブ人材の育成に向けた 産学連携による戦略的な枠組み構築について（平成 29 年 5 月 22 日、新経済連盟）
キーワード	多様な分野の科目を学べる学科、社会人向けプログラムの開発・提供、数理・データサイエンスに係る教育強化拠点

抜粋

理工系人材育成に関する産学官円卓会議 人材需給ワーキンググループ取りまとめ

(p. 7) ■大学等への講座、指導方法等に関する要望

技術系職種において、「多様な分野の科目を学べる学科」に対するニーズが高く、また「企業等との共同研究、より実践的で実社会に貢献できる研究」、「大学に入ってから専門を決められる仕組み」、「自分の専門以外の専門をサブコースとして学べる仕組み」に対するニーズが高い。

(p. 23) ■大学等における社会人の学び直しの促進

大学において、企業や社会人のニーズに応じて特別なプログラムの開発・提供ではなく、通常の学生向けプログラムを社会人にも提供する形が多い。キャリアアップだけでなくキャリアチェンジの観点も踏まえると、成長分野や産業界が人材を必要とする分野について、業界団体・企業と大学高専高等専門学校においてテーマ・期間・教育内容・教育方法を検討し、協働して社会人向けプログラムの開発・提供を推進していくことが求められる。

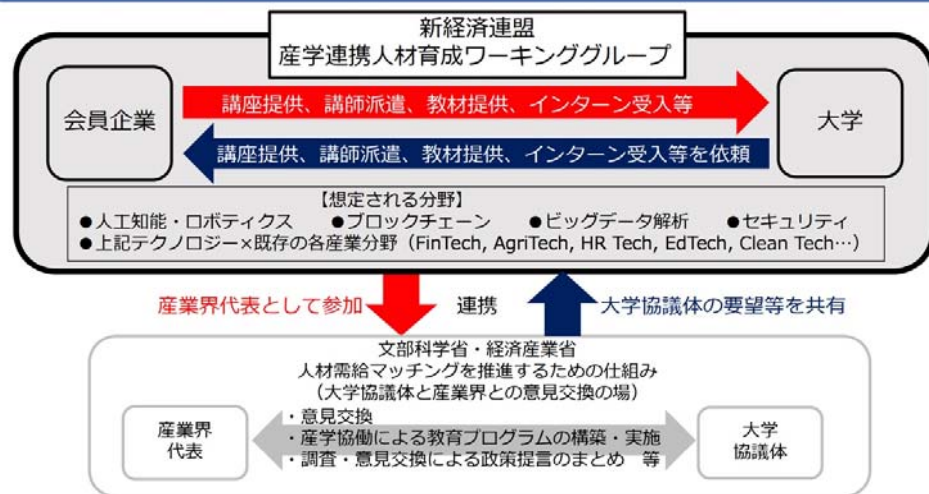
(p. 24) ■未来の産業創造・社会変革に対応した人材育成

第四次産業革命や「超スマート社会」(Society5.0)といった産業創造・社会変革に対応した人材育成に向けては、その中心を担う大学における工学系教育への期待が高まっている。このため、今後の工学系教育における学部・大学院の教育体制・教育課程の在り方、産学連携教育の在り方等について検討を行い、かかる人材育成の実現に向けた取組を進めることが期待されている。また、大学の数理・データサイエンスに係る教育強化拠点を活用して、全学的な数理・データサイエンス教育を実施するための標準カリキュラム・教材の作成を実施し、全国の大学へ展開・普及させることが重要である。これらにより、我が国の産業活動を活性化させるために必要な数理・データサイエンスの基礎的素養を持ち課題解決や価値創出につなげられる人材育成が期待される。

(p. 3) 先端クリエイティブ人材の育成に向けた 産学連携による戦略的な枠組み構築について

■新経済連盟からの提案

新経済連盟主導で、賛同する会員企業と大学のニーズを戦略的、組織的にマッチング。本取組と政府の取組と連携。



○産業界のニーズに関する資料

	産①
タイトル	株式会社デンソー「2017年スペキュラティブデザインリードの求人情報」
URL	http://www.denso-recruit.jp ※ただし2017年度採用情報のため、現在は不掲載
資料名	株式会社デンソーホームページ 採用情報について
キーワード	スペキュラティブデザイン、デザイナー・エンジニア・シナリオライターなど多様な才能を集結、クリエイティブ・技術・生活文化を横断、クリエイティブ技法、工学的技術を駆使、デザインの業務内容が拡大、従来のデザインワークに収まらない広範な知識・スキルを統合、将来に対する問題提起、価値創造を通じた事業開発、経営企画への貢献を期待
抜粋	<p>「30年先～の未来技術、生活文化を想像し、未来に生じる価値観や価値の源泉となる物事を見極めるためのスペキュラティブデザインをはじめとした、クリエイティブプロジェクトにおいて以下2つ以上の業務に従事します」</p> <p>『未来の感動を現在に具現化し、験す』をミッションとした仕事」</p> <p>「デザイナー・エンジニア・シナリオライターなど多様な才能を集結させ、クリエイティブ・技術・生活文化を横断し、クリエイティブ技法、工学的技術を駆使してプロトタイプやデザインフィクション作品を制作します。国内外のクリエイターやイノベーター、技術者との協業を通じて常に最新・最先端であることを目指します」</p> <p>「デザインの業務内容が拡大し、従来のデザインワークに収まらない広範な知識・スキルを統合し、デザイン特有の発想力や想像力を駆使して将来に対する問題提起、価値創造を通じた事業開発、経営企画への貢献を期待されるようになってきています」</p>

	産②
タイトル	日立製作所「デザインとR&Dの融合が引き起こすイノベーションへ」
URL	http://www.hitachihyoron.com/jp/100th/innovators/chapter_08/ http://www.hitachihyoron.com/jp/100th/innovators/pdf/chapter_08.pdf
資料名	日立グループ技術情報誌 日立評論創立100周年記念号「日立デザインのめざす顧客協創の未来 Chapter8」(2018年5月15日)
キーワード	デザインとR&Dの融合、社会イノベーション、デザイナーと研究者が融合した部門、デザイン思考がますます重要になってきている
抜粋	<p>「新たなソリューションを協創する組織として『社会イノベーション協創統括本部』を新設」</p> <p>「社会イノベーション協創センターは、R&D体制の組織再編において、顧客協創をミッションとするデザイナーと研究者が融合した部門」</p> <p>「人間起点でアジャイル(すばやい)・探索的な研究アプローチへのシフトが必須であり、顧客や市場との対話を通じて最善解を探すデザイン思考がますます重要になってきている」</p>

	産③
タイトル	パナソニック株式会社「デザインセンターを京都に一本化」
URL	https://kaden.watch.impress.co.jp/docs/news/1119130.html
資料名	家電 watch : 2018 年 04 月 25 日
キーワード	つながる価値をいかにデザインするのか、いまのデザインは、感性価値や体験が伴わなくては未完成、感性を扱うデザイン部門が果たす役割は大きくなっている、社内の他部門からもデザインエンジニアやインサイトリサーチャーを獲得、建築学、機械工学、情報学、経営学、心理学といった学部を超えて、デザインの観点から連携
抜粋	<p>「家電単品としてのデザインを磨き上げるだけでなく、つながる価値をいかにデザインするのか、体験までをどう描くのかといった点で、デザインに課せられた意義は大きい」</p> <p>「いまのデザインは、感性価値や体験が伴わなくては未完成である。便利な道具から、豊かな体験、憧れの暮らしへとシフトするなかで、感性を扱うデザイン部門が果たす役割は大きくなっている」</p> <p>「デザインシンキングを活用した開発に着手」</p> <p>「スポーツアパレルブランドから CMF スペシャリストを採用したり、社内の他部門からもデザインエンジニアやインサイトリサーチャーを獲得。また、英ロンドンのトップデザインコンサルティング会社のひとつであるシーモアパウエルから、デザインストラジストの池田武央氏を迎え、『FLUX』と呼ぶ専門家集団を設置」</p> <p>「京都大学との協力では、建築学、機械工学、情報学、経営学、心理学といった学部を超えて、デザインの観点から連携。京都大学が持つデザインの知見を、商品開発やビジョンの構築に生かす」</p>

	産④
タイトル	株式会社ソニー「デザインで競争力強化」
URL	https://www.nikkan.co.jp/articles/view/00448643?isReadConfirmed=true ソニークリエイティブセンター長 長谷川豊氏インタビュー
資料名	日刊工業新聞:2017 年 10 月 31 日
キーワード	既存事業から新規事業までデザインする、ストーリーづくりがこれまで以上に必要
抜粋	「商品のデザインが中心だったが、対象を事業創出や研究開発、ブランディングまで広げた。今では既存事業から新規事業まで、完成品はもちろん、デバイス段階からデザインする。あらゆる物事においてストーリーづくりが、これまで以上に必要になっている」

	産⑤
タイトル	ダイキン工業株式会社「デザインはもっと社会の幅広い領域で挑戦できる」
URL	http://www.daikin.co.jp/design/2017/11/entry-24.html 『AXIS』編集統括 石橋勝利氏インタビュー
資料名	ダイキン工業株式会社 ホームページ (2018 年 8 月 20 日閲覧)
キーワード	デザインの枠自体がなくなっている、デザインの主体はシステムや環境になってきている、デザイナーの領域は広がっている、製品や空間、建築それぞれではなく、街や都市

	までもトータルでデザインしていく
抜粋	<p>「デザインの枠自体がなくなってきています。以前はいわゆるモノのデザインみたいなものがあつたのですが、だんだんモノのかたちさえなくなって、デザインの主体はシステムや環境になってきています」</p> <p>「デザイナーの領域は、以前よりもかえって広がっていると思います。もうモノだけではなくてトータルに環境も含めて関わることができる。というかやらざるをえない状況だと思っています。大学での教育も、単純に絵を描いていけばいいというわけではなくて、川上から川下までどのようにしてトータルで考えていくことができるかが課題になっています」</p> <p>「ダイキン工業の“見えない空気をデザインする”というスローガンにも、製品や空間、建築それぞれではなく、街や都市までもトータルでデザインしていくという大きなコンセプトが含まれているのではないのでしょうか」</p>

	産⑥
タイトル	DeNA 株式会社「領域を超えて戦えるデザイナーとは」
URL	https://www.nikkan.co.jp/articles/view/00460225?isReadConfirmed=true
資料名	CAREER HACK:2016年5月27日 DeNA デザイン戦略室 室長 上田龍門氏インタビュー
キーワード	デザインという言葉の意味はサービスをスケールさせるための手段、デザイン領域を限定しない
抜粋	<p>「デザインという言葉の意味はとても抽象的ですが、DeNA という組織においてはサービスをスケールさせていくための手段です。そのために、デザイナーが企画から携わって、ターゲットにアプローチするためにはどんなデザインが有効なのか、ユーザーに積ませたい経験まで設計して、きちんとプロダクトをデザインしていく必要があります」</p> <p>「そうすると必然的に『領域を限定しない』ということになる」</p> <p>「デザイナーたちが領域に関わらず活躍しているから」</p>

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	久保 千春 <平成26年10月>		医学博士		九州大学学長 (平26.10～令和2.9)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教員の氏名等												
(芸術工学部芸術工学科)												
調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授 (学部長)	タニ マサス 谷 正和 <令和2年4月>		Doctor of Philosophy (7月)		物質文化論 グローバル化と伝統的社会 共通課題PBL演習A 共通課題PBL演習B プラットフォーム演習A プラットフォーム演習B プラットフォーム演習C プラットフォーム演習D コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB	2後④ 3後③ 2前① 3前① 2後③ 3後③ 2後③ 3後③ 2・3前②・後③ 2・3前②・後③	1 1 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
2	専	教授	イトウ ヒロユキ 伊藤 裕之 <令和2年4月>		博士 (文学) ※		メディアデザイン概論Ⅲ※ 視覚心理学 知覚心理学※ 主観評価法※ メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ メディアサイエンス演習Ⅰ※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2前① 2前② 3前①～② 3前① 3後④ 2後④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 2 0.8 0.5 2 2 1 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
3	専	教授	イハラ ヒサユキ 伊原 久裕 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		メディアデザイン概論Ⅰ※ メディア表現基礎※ タイポグラフィックデザイン グラフィックデザイン 広告クリエイティブデザイン※ 国際メディアデザインAⅠ 国際メディアデザインAⅡ 国際メディアデザインAⅢ 国際メディアデザインAⅣ 国際メディアデザインBⅠ 国際メディアデザインBⅡ 国際メディアデザインBⅢ 国際メディアデザインBⅣ インターンシップ(学部)Ⅰ インターンシップ(学部)Ⅱ メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ コミュニケーションデザイン演習Ⅰ コミュニケーションデザイン演習Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後③ 2前① 2前② 2後④ 3後③ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 3・4通 3・4通 3前① 3後④ 2前④ 3前① 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 1 1 1 0.3 1 1 1 1 1 2 2 2 2 1 1 2 2 2 2 4 4 4 4	1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
4	専	教授	イライ ナオキ 大井 尚行 <令和2年4月>		工学博士		環境情報論Ⅰ 環境情報論Ⅱ 国際環境デザインAⅠ 国際環境デザインAⅡ 国際環境デザインAⅢ 国際環境デザインAⅣ 国際環境デザインBⅠ 国際環境デザインBⅡ 国際環境デザインBⅢ 国際環境デザインBⅣ インターンシップ(学部)Ⅰ インターンシップ(学部)Ⅱ 環境設計プロジェクトA 環境設計プロジェクトE 環境総合プロジェクトA 環境総合プロジェクトB コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	3後③ 3後④ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 3・4通 3・4通 2前① 3前① 4前① 4前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 1 1 2 2 4 4 4 4	1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
5	専	教授	オモト アキラ 尾本 章 <令和2年4月>		博士 (工学)		音響理論演習Ⅱ 騒音環境学※ 非線形理論※ 室内音響学 音響実験Ⅰ 音響実験Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2後③ 3前① 3前② 3後④ 3前① 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 0.4 0.4 2 2 3 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
6	専	教授	カネヨ ヒロキ 包清 博之 <令和2年4月>		博士(農学)		緑地環境設計論 環境設計プロジェクトC 環境設計プロジェクトF コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB	2後④ 2後③ 3前② 2・3前②・後③ 2・3前②・後③	2 2 2 4 4	1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
7	専	教授	カハラキ トキヒコ 鐘木 時彦 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		音響信号処理 音声情報学※ 音響メディア工学 音響メディア工学演習 楽器音響学※ 国際音響デザインAⅠ 国際音響デザインAⅡ 国際音響デザインAⅢ 国際音響デザインAⅣ 国際音響デザインBⅠ 国際音響デザインBⅡ 国際音響デザインBⅢ 国際音響デザインBⅣ インターンシップ(学部)Ⅰ インターンシップ(学部)Ⅱ 音響実験Ⅰ 音響実験Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2後④ 3前② 3後③ 3後③ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 3・4通 3・4通 3前① 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 0.7 2 2 0.4 1 1 1 1 1 2 2 2 2 1 1 2 3 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
8	専	教授	カネ デウ 金 大雄 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		メディアデザイン概論Ⅰ※ メディア表現基礎※ 映像表現 メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ コンテンツデザイン演習Ⅰ コンテンツデザイン演習Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後③ 2前① 2前① 3前① 3後④ 2後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 1.3 2 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
9	専	教授	キヨス マサヒコ 清須美 匡洋 <令和2年4月>		芸術学修士		ライフスケープデザイン概論※ ライフスケープデザイン実践論※ ライフスケープデザイン論・演習Ⅰ ライフスケープデザイン論・演習Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB	2前② 2後③ 2後③ 2後④ 2前②・後③ 2前②・後③	0.3 0.3 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平17.4)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
15	専	教授	トコウ キョウ 都甲 康至 <令和2年4月>		芸術工学士		サービスデザイン概論※ サービスデザイン実践論※ ビジネスデザイン論・演習Ⅰ※ ビジネスデザイン論・演習Ⅱ※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB	2前② 2後④ 2前② 2後③ 2前②・後③ 2前②・後③	0.4 0.3 0.5 0.5 4 4	1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平18.4)	5日
16	専	教授	ヒガチ シノブ 樋口 重和 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		人間科学とデザイン インダストリアルデザイン基礎Ⅱ※ 人間工学概論※ 感性科学 行動生理学 人間工学先端セミナー 人間工学演習Ⅰ 人間工学演習Ⅱ 人間工学プロジェクト演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 1後④ 2前① 2前② 2後④ 3後③ 2前①～② 3前①～② 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 0.1 0.4 1 1 1 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平21.4)	5日
17	専	教授	ヒライ キズキ 平井 康之 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		インダストリアルデザイン基礎Ⅰ※ プロダクトデザイン概論※ プロダクトデザイン実践論※ イノベーションデザイン論・演習Ⅰ※ イノベーションデザイン論・演習Ⅱ※ クリエイティブデザイン演習 プロダクトデザイン実践論・演習Ⅰ※ プロダクトデザイン実践論・演習Ⅱ※ ビジネスデザイン論・演習Ⅰ※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後③ 2前① 2前② 3前① 3前② 3後③～④ 2前① 2前② 2前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.4 0.3 0.3 1 1 2 1 1 0.5 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
18	専	教授	マサキ カフミ 前田 享史 <令和2年4月>		博士 (医学) 博士 (芸術工学)		インダストリアルデザイン基礎Ⅱ※ 人間工学概論※ 環境人間工学 環境生理学 生理人類学 人間工学先端セミナー 国際インダストリアルデザインAⅠ 国際インダストリアルデザインAⅡ 国際インダストリアルデザインAⅢ 国際インダストリアルデザインAⅣ 国際インダストリアルデザインBⅠ 国際インダストリアルデザインBⅡ 国際インダストリアルデザインBⅢ 国際インダストリアルデザインBⅣ インターンシップ(学部)Ⅰ インターンシップ(学部)Ⅱ 人間工学演習Ⅰ 人間工学演習Ⅱ 人間工学プロジェクト演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後④ 2前① 2後④ 2後③ 3前② 3後③ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 3・4通 3・4通 2前①～② 3前①～② 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 0.7 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 4 4 4 4 4 4 4	1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平27.4)	5日
19	専	教授	ムネキ サトシ 村木 里志 <令和2年4月>		博士 (学術)		身体運動科学実習Ⅱ インダストリアルデザイン基礎Ⅱ※ 人間工学概論※ 福祉人間工学 人間工学先端セミナー リサーチセラシー※ 人間工学演習Ⅰ 人間工学演習Ⅱ 人間工学プロジェクト演習 フィールド調査論・演習※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前①～② 1後④ 2前① 2前② 3後③ 3後③ 2前①～② 3前①～② 3後③～④ 2後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 0.1 0.3 1 1 0.5 1 4 4 4 2.9 4 4 4 4	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
20	専	教授	ヤコウ マサト 矢向 正人 <令和2年4月>		博士(学術)		音文化論 比較音楽理論 音楽学※ 音楽理論表現演習 応用音楽表現演習Ⅰ 応用音楽表現演習Ⅱ 音響実験Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB	2前① 2前② 3前① 2前①～② 2後③ 2後④ 3後③～④ 2・3前②・後③ 2・3前②・後③	2 2 1.9 0.7 0.3 0.3 3 4 4	1 1 1 2 1 1 2 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
21	専	准教授	アサヒロ カズオ 朝廣 和夫 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		環境設計基礎Ⅰ※ 空間情報分析実習Ⅰ 空間情報分析実習Ⅱ 環境保全論 緑地環境設計論 ランドスケープデザイン論 緑地環境実習 環境設計プロジェクトC 環境設計プロジェクトF 環境総合プロジェクトA 環境総合プロジェクトB コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後③ 2後③ 2後④ 2後③ 2後④ 3前① 2前① 2後③ 3前② 4前① 4前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.5 1 1 1 2 2 2 2 2 2 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
22	専	准教授	イケガキ ミチコ 池田 美奈子 <令和2年4月>		修士 (美術)		デザイン史 未来構想デザイン概論※ 視覚芸術基礎 コンセプト論 芸術表現論 デザイン編集論・演習 アート・デザイン・ライティング演習 共通課題PBL演習A 共通課題PBL演習B プラットフォーム演習 A プラットフォーム演習 B プラットフォーム演習 C プラットフォーム演習 D コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2後③～④ 1後③ 2前① 2後③ 2後③ 2後④ 2前① 3前① 2後③ 2後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 0.3 1 1 1 1 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
23	専	准教授	イシイ タツロウ 石井 達郎 <令和2年4月>		修士 (芸術工学) ※		デザイン思考※ メディアデザイン概論Ⅰ※ メディア表現基礎※ アニメーション表現 メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ コンテンツデザイン演習Ⅰ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1後③ 2前① 2前② 3前① 3後④ 2後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 0.3 1.3 2 2 2 2 4 4 4 4	4 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
24	専	准教授	イノベ ヒロシ 伊藤 浩史 <令和2年4月>		博士 (理学)		未来構想デザイン概論※ プログラミング基礎 プログラミング設計 シミュレーション数理 シミュレーション演習 先端情報生命科学Ⅰ 先端情報生命科学Ⅱ 非線形理論※ 共通課題PBL演習A 共通課題PBL演習B プラットフォーム演習 A プラットフォーム演習 B プラットフォーム演習 C プラットフォーム演習 D コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後③ 2前② 2後③ 3前① 3前① 2後③ 2後④ 3前② 2前① 3前① 2後③ 3後③ 2後③ 3後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 1 1 1 1 1 1 0.4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平23.10)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
25	専	准教授	イノウエ コウヘイ 井上 光平 <令和2年4月>		博士 (工学)		メディアデザイン概論Ⅱ※ メディアプログラミング※ コンテンツ工学 メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ コンテンツインタラクション演習※ クリエイティブ発想演習 クリエイティブプロトタイプング演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後④ 2前① 2前② 3前① 3後④ 3前① 3後③ 3後④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 0.8 2 2 2 0.8 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
26	専	准教授	イノウエ トモキ 井上 朝雄 <令和2年4月>		博士 (工学) ※		図形科学 空間表現実習Ⅱ 環境設計基礎Ⅱ 空間デザイン実習 環境構法論 構法設計論 建築生産 環境設計プロジェクトB 環境総合プロジェクトA 環境総合プロジェクトB コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前①～② ・後③～④ 1後③～④ 1後④ 2前① 2後④ 3前① 3後③ 2前② 4前① 4前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1.5 2 1 2 2 2 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.12)	5日
27	専	准教授	ウエダ リョウコ 上岡 玲子 <令和2年4月>		博士 (工学)		メディアデザイン概論Ⅱ※ インタラクションデザイン バーチャルリアリティ メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ 実世界インタラクション演習※ クリエイティブ発想演習 クリエイティブプロトタイプング演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後④ 2後③ 3前① 3前① 3後④ 3前② 3後③ 3後④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 2 2 2 2 1 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平24.4)	5日
28	専	准教授	ウエダ カズオ 上田 和夫 <令和2年4月>		博士 (文学) ※		聴覚生理学※ 聴覚心理学※ 知覚心理学※ 主観評価法※ 聴覚認知論 音響実験Ⅰ 音響実験Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2後③ 2前② 3前①～② 3前①～② 3前① 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.8 1.1 0.8 1.1 2 2 3 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
29	専	准教授	ウヰノ テツヤ 鵜飼 哲矢 <令和2年4月>		修士 (工学)		建築空間設計論 環境設計プロジェクトE 環境設計プロジェクトH 環境総合プロジェクトA 環境総合プロジェクトB コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	3前② 3前① 3後④ 4前① 4前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 2 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平21.8)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
30	専	准教授	カノマ タケシ 牛尾 剛聡 <令和2年4月>		博士 (工学) ※		サイバー空間デザイン 科学技術とデザイン メディアデザイン概論Ⅱ※ メディアプログラミング※ ウェブサービスデザイン フィジカルコンピューティングとIoT メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ コンテンツインタラクション演習※ クリエイティブ発想演習 クリエイティブプロトタイピング演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前①～② 2前② 1後④ 2前① 2・3前② 3前① 3前① 3後④ 3前① 3後③ 3後④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 1 0.3 0.5 2 1 2 2 0.5 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
31	専	准教授	オノマ ヒサ 大島 久雄 <令和2年4月>		文学修士 ※		専門英語 メディアデザイン概論Ⅲ※ 演劇文化論 メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ 比較演劇・メディア文化演習※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前①～② ・後③～④ 2前① 2後④ 3前① 3後④ 3前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 0.3 2 2 2 0.8 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
32	専	准教授	オノタ ヨシ 尾方 義人 <令和2年4月>		博士 (工学)		デザイン思考※ デザインと観察 デザイン論Ⅰ デザイン論Ⅱ 未来構想デザイン概論※ デザインスケッチ 未来デザイン方法論 デザイン要素論・演習 デザイン設計論・演習 デザイン実装論・演習 共通課題PBL演習A 共通課題PBL演習B プラットフォーム演習 A プラットフォーム演習 B プラットフォーム演習 C プラットフォーム演習 D コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前①・②・後③・④ 2前①～② 3後③ 3後④ 1後③ 2前② 2前① 2後③ 3前① 3前② 2前① 3前① 4前① 3前① 2前① 2後③ 2後③ 2後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.5 2 1 1 0.3 1 1 1 1 1 1 4 4 4 4 4 4 4 4 4	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平20.4)	5日
33	専	准教授	オノ 直樹 小野 直樹 <令和2年4月>		博士 (工学)		メディアデザイン概論Ⅱ※ コンピュータビジョン メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ コンテンツインタラクション演習※ クリエイティブ発想演習 クリエイティブプロトタイピング演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後④ 3後③ 3前① 3後④ 3前① 3後③ 3後④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 2 2 2 0.8 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
34	専	准教授	カトキ ユキ 加藤 悠希 <令和2年4月>		博士 (工学)		環境設計基礎Ⅰ※ 西洋建築史 日本建築史 歴史環境実習 環境設計プロジェクトA 環境設計プロジェクトD 環境総合プロジェクトA 環境総合プロジェクトB コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後③ 3前① 3後③ 3後④ 2前① 2後④ 4前① 4前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.5 1 2 1 2 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平28.8)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
35	専	准教授	ヲイト トフミ 齋藤 俊文 <令和2年4月>		修士 (数学)		インダストリアルデザイン基礎Ⅰ※ ライフスケープデザイン概論※ ライフスケープデザイン実践論※ ライフスケープデザイン実践論・演習Ⅰ ライフスケープデザイン実践論・演習Ⅱ クリエイティブデザイン演習 広告クリエイティブデザイン※ ライフスケープデザイン論・演習Ⅰ ライフスケープデザイン論・演習Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後③ 2前② 2後③ 3前① 3前② 3後③～④ 3後③ 2後③ 2後④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.4 0.3 0.3 2 2 2 0.5 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平18.4)	5日
36	専	准教授	サノマ トシオ 鯨島 俊成 <令和2年4月>		博士 (工学)		音響理論演習Ⅰ 応用音響理論 非線形理論※ 楽器音響学※ 音響実験Ⅰ 音響実験Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2後④ 3前② 3後③ 3前① 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 2 1.2 1.6 2 3 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
37	専	准教授	シヨウ カスヒロ 城 一裕 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		デザイン思考※ 音楽・音響論 基礎造形Ⅱ 基礎造形Ⅳ 音文化論 音文化論演習 応用音楽表現演習Ⅰ 応用音楽表現演習Ⅱ 音響生成演習 音響実験Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前①・②・後③・④ 2後③～④ 2前② 2後④ 2前① 2後④ 2後③ 2後④ 3前② 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.5 2 1 1 2 2 0.3 0.3 2 3 4 4 4 4	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平28.3)	5日
38	専	准教授	スギモト ヨシカ 杉本 美貴 <令和2年4月>		博士 (学術)		デザイン・ケーススタディⅠ デザイン・ケーススタディⅡ インダストリアルデザイン基礎Ⅰ※ プロダクトデザイン概論※ プロダクトデザイン実践論※ イノベーションデザイン論・演習Ⅰ※ イノベーションデザイン論・演習Ⅱ※ クリエイティブデザイン演習 プロダクトデザイン実践論・演習Ⅰ※ プロダクトデザイン実践論・演習Ⅱ※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前② 3後③ 1後③ 2前① 2前② 3前① 3前② 3後③～④ 2前① 2前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 1 0.4 0.3 0.3 1 1 2 1 1 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平24.4)	5日
39	専	准教授	スガノ ヨシツグ 須長 正治 <令和2年4月>		博士 (工学)		メディアデザイン概論Ⅲ※ 色彩学 メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ メディアサイエンス演習Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2前② 3前① 3後④ 3前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 2 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
40	専	准教授	モト タケル 妹尾 武治 <令和2年4月>		博士 (心理学) ※		メディアデザイン概論Ⅲ※ 心理学的思考法 メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ メディアサイエンス演習Ⅰ※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 3後③ 3前① 3後④ 2後④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 2 2 2 1 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平24.12)	5日
41	専	准教授	ゾウベ ハルコ 曾我部 春香 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		デザイン思考※ 空間表現実習Ⅱ インダストリアルデザイン基礎Ⅰ※ ライフスケープデザイン実践論※ ライフスケープデザイン実践論・演習Ⅰ ライフスケープデザイン実践論・演習Ⅱ クリエイティブデザイン演習 ライフスケープデザイン概論※ ライフスケープデザイン論・演習Ⅰ ライフスケープデザイン論・演習Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1後③～④ 1後③ 2後③ 3前① 3前② 3後③～④ 2前② 2後③ 2後④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.5 2 0.4 0.3 2 2 2 0.3 2 2 4 4 4	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平21.4)	5日
42	専	准教授	タカガ マサユキ 高田 正幸 <令和2年4月>		博士 (工学) ※		騒音環境学※ 聴能形成Ⅰ 聴能形成Ⅱ 音響実験Ⅰ 音響実験Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	3前① 1後③～④ 2前①～② 3前① 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.8 0.5 0.5 2 3 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
43	専	准教授	タケノコ オサキ 竹之内 和樹 <令和2年4月>		工学博士 ※		図形科学 メディアデザイン概論Ⅱ※ メカニクスデザイン メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ 実世界インタラクション演習※ クリエイティブ発想演習 クリエイティブプロトタイプ演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前①～② ・後③～④ 1後④ 2前① 3前① 3後④ 3前② 3後③ 3後④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1.5 0.3 2 2 2 1 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
44	専	准教授	タムラ リョウイチ 田村 良一 <令和2年4月>		博士 (工学)		インダストリアルデザイン基礎Ⅰ※ サービスデザイン概論※ サービスデザイン実践論※ ソーシャルデザイン論・演習Ⅰ※ ソーシャルデザイン論・演習Ⅱ※ クリエイティブデザイン演習 リサーチリテラシー※ ビジネスデザイン論・演習Ⅰ※ ビジネスデザイン論・演習Ⅱ※ フィールド調査論・演習※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後③ 2前② 2後④ 3前① 3前② 3後③～④ 3後③ 2前② 2後③ 2後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 0.4 0.4 1.3 1.3 2 0.4 0.5 0.5 1.9 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
45	専	准教授	トモリ ミカ 知足 美加子 <令和2年4月>		博士 (芸術学)		基礎造形Ⅰ 基礎造形Ⅲ メディアデザイン概論Ⅰ※ メディア表現基礎※ 芸術論 メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ 造形表現演習 数理造形と表現演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2後③ 1後③ 2前① 2前① 3前① 3後④ 2前② 3前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 1 0.3 0.8 2 2 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
46	専	准教授	ナカムラ ミユ 中村 美亜 <令和2年4月>		博士 (学術)		未来構想デザイン概論※ 社会と多様性※ 先端芸術表現論 価値と政策 表象文化論 芸術コミュニケーション論 ファシリテーション 共通課題PBL演習A 共通課題PBL演習B プラットフォーム演習 A プラットフォーム演習 B プラットフォーム演習 C プラットフォーム演習 D コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後③ 1後④ 3前② 3後④ 2後④ 3前① 3前① 2前① 3前① 2後③ 3後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 0.5 1 1 1 1 1 4 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平26.4)	5日
47	専	准教授	ハラノ ケン 原 健二 <令和2年4月>		博士 (工学)		メディアデザイン概論Ⅱ※ メディアプログラミング※ メディア情報処理 メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ コンテンツインタラクション演習※ クリエイティブ発想演習 クリエイティブプロトタイプ演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後④ 2前① 2前① 3前① 3後④ 3前① 3後③ 3後④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 0.8 2 2 2 0.8 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平16.1)	5日
48	専	准教授	フジノ トモキ 藤 智亮 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		空間表現実習Ⅰ インダストリアルデザイン基礎Ⅰ※ プロダクトデザイン概論※ プロダクトデザイン実践論※ イノベーションデザイン論・演習Ⅰ※ イノベーションデザイン論・演習Ⅱ※ クリエイティブデザイン演習 リサーチリテラシー※ プロダクトデザイン実践論・演習Ⅰ※ プロダクトデザイン実践論・演習Ⅱ※ フィールド調査論・演習※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前①～② ・後③～④ 1後③ 2前① 2前② 3前① 3後③～④ 3後③ 2前① 2前② 2後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 0.4 0.3 0.3 1 1 2 0.1 1 1 1.9 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
49	専	准教授	ホル マイケル Hall Michael <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		学術英語A・プロダクション 学術英語C・スキルベース 専門英語 未来構想デザイン概論※ Design Pitching Skills 共通課題PBL演習A 共通課題PBL演習B プラットフォーム演習 A プラットフォーム演習 B プラットフォーム演習 C プラットフォーム演習 D コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究 I 卒業研究 II	1前①～② 2前①・②・後③・④ 2前①～② ・後③～④ 1後③ 2後③ 2前① 3前① 2後③ 3後③ 2後③ 3後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 6 2 0.3 1 1 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	2 6 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平18.4)	5日
50	専	准教授	マツグマ ヒロユキ 松隈 浩之 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		デザインリテラシー基礎 メディアデザイン概論 I ※ メディア表現基礎※ ゲームデザイン メディアデザイン総合プロジェクト I メディアデザイン総合プロジェクト II コンテンツデザイン演習 II コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究 I 卒業研究 II	1前① 1後③ 2前① 2後③ 3前① 3後④ 2後④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 0.3 1.3 2 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
51	専	准教授	マクエ アカネ 松前 あかね <令和2年4月>		博士 (知識科学) 法務博士 (専門職)		インダストリアルデザイン基礎 I ※ サービスデザイン概論※ サービスデザイン実践論※ ソーシャルデザイン論・演習 I ※ ソーシャルデザイン論・演習 II ※ クリエーティブデザイン演習 ビジネスデザイン論・演習 I ※ ビジネスデザイン論・演習 II ※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究 I 卒業研究 II	1後③ 2前② 2後④ 3前① 3前② 3後③～④ 2前② 2後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 0.3 0.4 0.8 0.8 2 0.5 0.5 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平29.9)	5日
52	専	准教授	マヤマ オサム 丸山 修 <令和2年4月>		博士 (理学)		未来構想デザイン概論※ 情報科学 I 情報科学 II 情報科学 III 共通課題PBL演習A 共通課題PBL演習B プラットフォーム演習 A プラットフォーム演習 B プラットフォーム演習 C プラットフォーム演習 D コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究 I 卒業研究 II	1後③ 2前① 2後④ 3前① 2前① 3前① 2後③ 3後③ 2後③ 3後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 1 1 1 4 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
53	専	准教授	ヤマナ カツ 山内 勝也 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		デザイン思考※ 騒音環境学※ 音響プログラミング演習※ 収音音響構成 環境音響構成 音響実験 II コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究 I 卒業研究 II	1前①・②・後③・④ 3前① 2前② 2前② 2後④ 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.5 0.8 1.1 2 2 3 4 4 4 4	2 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平27.4)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
54	専	准教授	ヨシカ トモス 吉岡 智和 <令和2年4月>		博士 (工学)		空間表現実習Ⅰ 空間デザイン実習 構造理論Ⅰ 構造理論Ⅱ 構造システム論Ⅰ 構造システム論Ⅱ 環境テクノロジー実習A 環境総合プロジェクトA 環境総合プロジェクトB コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前①～② ・後③～④ 2前① 2前① 2前② 3後③ 3後④ 3前① 4前① 4前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 2 1 1 1 1 1 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
55	専	准教授	ヨシカ ユキス 吉永 幸晴 <令和2年4月>		博士 (工学)		デジタル信号処理 デジタル信号処理演習 電気実験 音響実験Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2後③ 2後④ 3前①～② 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 2 2 3 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
56	専	准教授	ヨシタ リコ 米村 典子 <令和2年4月>		文学修士 ※		芸術学入門	1前①～② ・後③～④	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
57	専	准教授	レイジ ジェラド バスティアン Remijn Gerard Bastiaan <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		聴覚生理学※ 聴覚心理学※ 知覚心理学※ 主観評価法※ 音響実験Ⅰ 音響実験Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2後③ 2前② 3前①～② 3前① 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.9 0.9 0.3 0.4 2 3 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平22.1)	5日
58	専	講師	イマカ トモコ 今坂 智子 <令和2年4月>		博士 (工学)		基礎化学結合論 環境総合プロジェクトA 環境総合プロジェクトB コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前①～② ・後③～④ 4前① 4前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1.5 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 講師 (平15.10)	5日
59	専	講師	ツチノ ジュン 土屋 潤 <令和2年4月>		博士 (工学)		環境材料論Ⅰ 環境材料論Ⅱ 環境総合プロジェクトA 環境総合プロジェクトB コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2前② 4前① 4前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 1 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 講師 (平30.11)	5日
60	専	助教	アキ ナツシカ 秋田 直繁 <令和2年4月>		修士 (芸術工学)		インダストリアルデザイン基礎Ⅰ※ ライフスケープデザイン概論※ ライフスケープデザイン実践論※ ライフスケープデザイン実践論・演習Ⅰ ライフスケープデザイン実践論・演習Ⅱ クリエイティブデザイン演習 ライフスケープデザイン論・演習Ⅰ ライフスケープデザイン論・演習Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後③ 2前② 2後③ 3前① 3前② 3後③～④ 2後③ 2後④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.4 0.3 0.3 2 2 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平25.4)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
61	専	助教	アヲリ マサノ 麻生 典 <令和2年4月>		博士 (法学)		メディアデザイン概論Ⅲ※ 知的財産法 メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ 知的財産マネジメント演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 3前② 3前① 3後④ 3後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 2 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平25.4)	5日
62	専	助教	イムラ トシユキ 稲村 徳州 <令和2年4月>		Master (Design Engineering) (修士)		デザイン思考※ 未来構想デザイン概論※ デザイン材料論・演習 バイオアート&デザイン論・演習 Design Pitching Skills Start-ups and Global Disruptors※ Intellectual Property Rights : Global Perspective※ Global Design Innovations※ 共通課題PBL演習A 共通課題PBL演習B プラットフォーム演習 A プラットフォーム演習 B プラットフォーム演習 C プラットフォーム演習 D コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1後③ 2後④ 3後④ 2後③ 2前② 2後④ 2前② 2前① 3前① 2後③ 3後③ 2後③ 3後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 0.3 1 1 1 0.6 1 0.5 1 1 4 4 4 4 4 4 4 4 4	4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平28.6)	5日
63	専	助教	イシト マサキ 岩元 真明 <令和2年4月>		修士 (工学)		近代建築史 環境設計プロジェクトA 環境設計プロジェクトB 環境総合プロジェクトA 環境総合プロジェクトB コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	3前② 2前① 2前② 4前① 4前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 2 2 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平28.4)	5日
64	専	助教	オハラ コウスケ 大草 孝介 <令和2年4月>		博士 (工学)		数理統計学 人間工学概論※ データ解析 データマイニングⅠ データマイニングⅡ 人間工学先端セミナー 人間工学演習Ⅰ 人間工学演習Ⅱ 人間工学プロジェクト演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前①～② ・後③～④ 2前① 2後③ 3前① 3前② 3後③ 2前①～② 3前①～② 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1.5 0.1 1 1 1 1 1 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平26.4)	5日
65	専	助教	カハラ カズヒコ 河原 一彦 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		電気工学 電子工学 音響機器論 聴能形成Ⅰ 聴能形成Ⅱ 音響実験Ⅰ 音響実験Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前①～② 2後③～④ 2後④ 1後③～④ 2前①～② 3前① 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 2 2 0.5 0.5 2 3 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平15.10)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
66	専	助教	カサト ヨウイチ 川本 陽一 <令和2年4月>		博士 (工学)		環境調整システム論 設備計画論 環境テクノロジー実習B 環境設計プロジェクトB 環境総合プロジェクトA 環境総合プロジェクトB コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 3後③ 3前② 2前② 4前① 4前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 2 1 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平24.4)	5日
67	専	助教	サツマ トモヒロ 迫坪 知広 <令和2年4月>		修士 (芸術工学)		インダストリアルデザイン基礎Ⅰ※ プロダクトデザイン概論※ プロダクトデザイン実践論※ イノベーションデザイン論・演習Ⅰ※ イノベーションデザイン論・演習Ⅱ※ クエーティブデザイン演習 プロダクトデザイン実践論・演習Ⅰ※ プロダクトデザイン実践論・演習Ⅱ※ ビジネスデザイン論・演習Ⅱ※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後③ 2前① 2前② 3前① 3前② 3後③～④ 2前① 2前② 2後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.4 0.3 0.3 1 1 2 1 1 0.5 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平28.8)	5日
68	専	助教	トウ(キリキ) キヨコ 藤(北崎) 紀里子 <令和2年4月>		修士 (芸術工学)		メディアデザイン概論Ⅰ※ メディア表現基礎※ 広告クリエイティブデザイン※ 情報デザイン メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ コミュニケーションデザイン演習Ⅰ コミュニケーションデザイン演習Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後③ 2前① 3後③ 2後③ 3前① 3後④ 2後④ 3前① 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 1 0.3 2 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平15.10)	5日
69	専	助教	ナガウ ユウイチロウ 長津 結一郎 <令和2年4月>		博士 (学術)		身体表現演習Ⅰ 身体表現演習Ⅱ 未来構想デザイン概論※ 社会と多様性※ 応用音楽表現演習Ⅰ 応用音楽表現演習Ⅱ アーツマネジメント論 質的社会調査法 音楽理論表現演習 共通課題PBL演習A 共通課題PBL演習B プラットフォーム演習 A プラットフォーム演習 B プラットフォーム演習 C プラットフォーム演習 D コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2前② 1後③ 1後④ 2後③ 2後④ 3後③ 2後③ 2前①～② 2前① 3前① 2後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 1 0.3 0.5 0.3 0.3 1 1 0.7 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平28.4)	5日
70	専	助教	ニシタ(利) ヒロコ 西田(利) 絃子 <令和2年4月>		博士 (音楽学)		比較音楽理論 西洋音楽史 音楽学※ 音楽理論表現演習 応用音楽表現演習Ⅰ 応用音楽表現演習Ⅱ 音楽実験Ⅰ 音楽実験Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前② 2後③ 3前① 2前①～② 2後③ 2後④ 3前① 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 2 0.1 0.7 0.3 0.3 2 3 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平23.4)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
71	専	助教	ヒヲノ ナホ 平松 千尋 <令和2年4月>		博士 (生命科学)		未来構想デザイン概論※ 生命科学入門Ⅰ 生命科学入門Ⅱ 生命科学実習 知覚心理学※ 聴覚生理学※ 共通課題PDL演習A 共通課題PDL演習B プラットフォーム演習A プラットフォーム演習B プラットフォーム演習C プラットフォーム演習D コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後③ 2前② 3前① 3後③ 2前② 2前① 2前① 3前① 2後③ 3後③ 2後③ 3後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 1 1 1 1 0.1 1 0.3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平25.9)	5日
72	専	助教	フクシマ アキ 福島 綾子 <令和2年4月>		博士 (工学)		環境文化財論 歴史環境実習 環境総合プロジェクトA 環境総合プロジェクトB コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	3前② 3後④ 4前① 4前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 1 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平18.2)	5日
73	専	助教	フユノ ミハル 冬野 美晴 <令和2年4月>		博士 (文学)		メディアデザイン概論Ⅲ※ 言葉とコミュニケーション※ メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ 比較演劇・メディア文化演習※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2後③ 3前① 3後④ 3前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 1.1 2 2 0.8 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平25.9)	5日
74	専	助教	モトムラ ユキ 元村 祐貴 <令和2年4月>		博士 (感性学)		インダストリアルデザイン基礎Ⅱ※ 人間工学概論※ 生体情報処理論 人間工学先端セミナー 人間工学演習Ⅰ 人間工学演習Ⅱ 人間工学プロジェクト演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後④ 2前① 3前① 3後③ 2前①～② 3前①～② 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 0.3 1 1 1 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平29.4)	5日
75	専	助教	モリモト ユキ 森本 有紀 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		基幹教育セミナー メディアデザイン概論Ⅰ※ メディア表現基礎※ 数理造形 メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ 造形表現演習 数理造形と表現演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前② 1後③ 2前① 3前① 3前① 3後④ 2前② 3前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 0.3 0.8 2 2 2 2 2 4 4 4 4	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平28.8)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
76	専	助教	ヨシムリ リイ 吉村 理一 <令和2年4月>		修士 (文学)		学術英語A・リセプション 学術英語B・インテグレート 専門英語 メディアデザイン概論Ⅲ※ 言葉とコミュニケーション※ メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ 比較演劇・メディア文化演習※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1前①～② 1後③～④ 2前①～② ・後③～④ 2前① 2後③ 3前① 3後④ 3前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 4 2 0.3 0.9 2 2 0.5 4 4 4 4	2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平30.6)	5日
77	専	助教	ロウ ピン ヤップ Loh Ping Yeap <令和2年4月>		博士 (工学)		インダストリアルデザイン基礎Ⅱ※ 人間工学概論※ 生活機能支援科学 人間工学先端セミナー 人間工学演習Ⅰ 人間工学演習Ⅱ 人間工学プロジェクト演習 フィールド調査論・演習※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後④ 2前① 3後③ 3後③ 2前①～② 3前①～② 3後③～④ 2後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 0.3 1 1 4 4 4 2.9 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平29.9)	5日
78	専	助教	ロウ ワイ リオン Loh Wei Leong <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		学術英語B・インテグレート 専門英語 未来構想デザイン概論※ クリエイティブシンキング 教育における多様性 Design Pitching Skills Start-ups and Global Disruptors※ Intellectual Property Rights : Global Perspective※ Global Design Innovations※ 共通課題PBL演習A 共通課題PBL演習B プラットフォーム演習 A プラットフォーム演習 B プラットフォーム演習 C プラットフォーム演習 D コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後③～④ 2前①～② ・後③～④ 1後③ 2前① 3後④ 2後③ 2前② 2後④ 2前② 2前① 3前① 2後③ 3後③ 2後③ 3後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 2 0.3 0.5 1 1 0.4 0.5 0.4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平28.4)	5日
79	専	助教	ワカミヤ コウヘイ 若宮 幸平 <令和2年4月>		博士 (工学)		情報理論 音声情報学※ 音響プログラミング演習※ 電気実験 音響実験Ⅰ 音響実験Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	3前①～② 2後④ 2前② 3前①～② 3前① 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 1.3 0.9 2 2 3 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平15.10)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
80	兼任	教授	青木 晋佐 <令和2年4月>		博士 (農学)		農業と微生物	1後④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 (平6.1)	5日
81	兼任	教授	秋吉 収 <令和2年4月>		博士 (文学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1前①～② 1後③～④	4 4	2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 (平17.10)	5日
82	兼任	教授	阿部 吉雄 <令和2年4月>		哲学博士		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1前①～② 1後③～④	4 4	2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 (平3.4)	5日
83	兼任	教授	阿部 芳久 <令和2年4月>		博士 (農学)		生命の科学B フィールドに学ぶA	1前①・②・後③・④ 1後③	2 1	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 (平19.4)	5日
84	兼任	教授	新井 文用 <令和2年4月>		博士 (歯学)		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 (平26.4)	5日
85	兼任	教授	荒谷 邦雄 <令和2年4月>		博士 (理学)		生物多様性と人間文化B	2前②	1	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 (平12.10)	5日
86	兼任	教授	有村 秀孝 <令和2年4月>		博士 (工学)		コンピュータプログラミング入門	2後③	1	1	九州大学 医学研究院 教授 (平16.4)	5日
87	兼任	教授	安中 雅彦 <令和2年4月>		博士 (理学)		環境問題と自然科学	2後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 教授 (平15.4)	5日
88	兼任	教授	五十君 麻里子 <令和2年4月>		博士 (法学)		法史学入門 【隔年】 ローマ法史	2前①～② 2前①～②	2 2	1 1	九州大学 法学研究院 教授 (平14.4)	5日
89	兼任	教授	池上 浩 <令和2年4月>		博士 (工学)		数学演習Ⅱ	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 (平23.9)	5日
90	兼任	教授	出水 薫 <令和2年4月>		博士 (法学)		現代史Ⅳ 【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 (平11.12)	5日
91	兼任	教授	井上 滋樹 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		共創発想法	2後③	2	1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平29.4)	5日
92	兼任	教授	井上 卓見 <令和2年4月>		博士 (工学)		力学演習	1後③～④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 (平20.4)	5日
93	兼任	教授	射場 厚 <令和2年4月>		理学博士		細胞生物学	1前①～②・後③～④	1.5	1	九州大学 理学研究院 教授 (昭63.12)	5日
94	兼任	教授	岩田 健治 <令和2年4月>		博士 (経済学)		EU論基礎—制度と経済—	2前①～②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 (平11.4)	5日
95	兼任	教授	Weng Lin <令和2年4月>		理学博士		微分積分学・同演習Ⅲ	1後④・2前①～②	3	2	九州大学 数理学研究院 教授 (平14.4)	5日
96	兼任	教授	内田 交謙 <令和2年4月>		博士 (経済学)		金融と経済	2後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 (平20.4)	5日
97	兼任	教授	江口 厚仁 <令和2年4月>		法学修士		現代社会Ⅲ 【隔年】 法文化学入門 【隔年】	2後③～④ 2前①～②	2 2	1 1	九州大学 法学研究院 教授 (平2.4)	5日
98	兼任	教授	江口 巧 <令和2年4月>		文学修士		学術英語A・リサーチ 学術英語A・プロダクション 学術英語B・インテグレート ことばの科学	1前①～② 1前①～② 1後③～④ 1前①	1 1 4 1	1 2 2 1	九州大学 言語文化研究院 教授 (平2.4)	5日
99	兼任	教授	大津 隆広 <令和2年4月>		文学修士		学術英語B・インテグレート	1後③～④	2	1	九州大学 言語文化研究院 教授 (平5.4)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
100	兼任	教授	大坪 稔 <令和2年4月>		博士(経済学)		現代企業分析	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 (平25.9)	5日
101	兼任	教授	大橋 浩 <令和2年4月>		博士(文学)		基幹教育セミナー 学術英語A・リセプション 学術英語A・プロダクション 学術英語B・インテグレート 学術英語A B・再履修 コミュニケーション入門	1前② 1前①～② 1前①～② 1後③～④ 1・2後③～④・2前①～② 1前①	1 1 1 4 2 1	1 1 1 2 2 1	九州大学 基幹教育院 教授 (平26.4)	5日
102	兼任	教授	岡村 耕二 <令和2年4月>		博士(工学)		企業から見たイノベーションイノベーション演習	1前②・後④ 1前①～②	2 1	2 1	九州大学 情報基盤研究開発センター 教授 (平10.3)	5日
103	兼任	教授	小黑 康正 <令和2年4月>		博士(文学)		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 (平12.5)	5日
104	兼任	教授	遠城 明雄 <令和2年4月>		博士(文学)		地理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 (平8.10)	5日
105	兼任	教授	恩田 健 <令和2年4月>		博士(理学)		基礎化学	1前①～②・後③～④	1.5	1	九州大学 理学研究院 教授 (平29.4)	5日
106	兼任	教授	郭 俊海 <令和2年4月>		Ph.D (シカゴ大学)		日本語Ⅶ	2前①	1	1	九州大学 留学生センター 教授 (平18.4)	5日
107	兼任	教授	角田 佳充 <令和2年4月>		博士(理学)		基礎生化学	2前①～②	1.5	1	九州大学 農学研究院 教授 (平13.11)	5日
108	兼任	教授	鍋木 政彦 <令和2年4月>		博士(法学)		文化と社会の理論	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 (平12.10)	5日
109	兼任	教授	上平 正道 <令和2年4月>		工学博士		分子生物学	2前①～②	1.5	1	九州大学 工学研究院 教授 (平17.4)	5日
110	兼任	教授	神谷 典徳 <令和2年4月>		博士(工学)		分子生物学	2前①～②	1.5	1	九州大学 工学研究院 教授 (平14.10)	5日
111	兼任	教授	川畑 俊一郎 <令和2年4月>		理学博士		生命の科学A	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 (昭61.10)	5日
112	兼任	教授	川村 隆一 <令和2年4月>		理学博士		最先端地球科学	2前②・後③	1	1	九州大学 理学研究院 教授 (平24.4)	5日
113	兼任	教授	菅 浩伸 <令和2年4月>		博士(学術)		地理学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 (平26.4)	5日
114	兼任	教授	畑本 信哉 <令和2年4月>		博士(工学)		力学演習	1後③～④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 (平8.4)	5日
115	兼任	教授	木村 敬伸 <令和2年4月>		博士(教育学)		基幹教育セミナー 課題協学科目 現代教育学入門 教育基礎学入門 教育学特論	1前② 1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 2前①～②・後③～④	2 2.5 1 1 2	2 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 (平28.9)	5日
116	兼任	教授	木村 康之 <令和2年4月>		博士(工学)		物理学の進展	2前①～②	1.5	1	九州大学 理学研究院 教授 (平16.4)	5日
117	兼任	教授	久場 隆広 <令和2年4月>		博士(工学)		環境調和型社会の構築	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 (平8.4)	5日
118	兼任	教授	熊野 直樹 <令和2年4月>		法学博士		現代史Ⅲ 【兩年】	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 (平6.4)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
119	兼任	教授	久米 篤 <令和2年4月>		博士(理学)		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 (平20.4)	5日
120	兼任	教授	倉爪 亮 <令和2年4月>		博士(工学)		数学演習Ⅱ	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究所 教授 (平14.4)	5日
121	兼任	教授	桑原 義博 <令和2年4月>		博士(理学)		地球と宇宙の科学 最先端地球科学 地球の進化と環境	1前①・②・後③・④ 2前②・後③ 2後③～④	3 1 2	3 1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 (平7.10)	5日
122	兼任	教授	小出 洋 <令和2年4月>		博士(工学)		ハイパーセキュリティ演習	1前①～②	1	1	九州大学 情報基盤研究開発センター 教授 (平29.4)	5日
123	兼任	教授	古閑 一憲 <令和2年4月>		博士(理学)		数学演習Ⅱ	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究所 教授 (平11.4)	5日
124	兼任	教授	木實 新一 <令和2年4月>		博士(工学)		基幹教育センター 情報科学	1前② 1前①～②・後③～④	1 4.5	1 3	九州大学 基幹教育院 教授 (平29.4)	5日
125	兼任	教授	齊藤 篤司 <令和2年4月>		体育学修士		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習Ⅰ 健康・スポーツ科学講義Ⅱ	1前①～② 1後③～④ 2前①～②	1 2 2	1 2 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 (昭62.4)	5日
126	兼任	教授	坂井 猛 <令和2年4月>		博士(工学)		伊都ヶ丘バスの科学するⅠ(軌跡編) 伊都ヶ丘バスの科学するⅡ(現在編) 伊都ヶ丘バスの科学するⅢ(展望編)	1前① 1前② 1後③	1 1 1	1 1 1	九州大学 伊都ヶ丘計画室 教授 (平5.4)	5日
127	兼任	教授	佐藤 喜一 <令和2年4月>		博士(教育情報学)		社会統計学A 社会統計学B	3後③ 3後④	1 1	1 1	九州大学 7D ミッションセンター 教授 (平29.1)	5日
128	兼任	教授	渡 祥之 <令和2年4月>		博士(農学)		農のための最適環境制御	1前①	1	1	九州大学 農学研究院 教授 (平22.4)	5日
129	兼任	教授	篠崎 彰彦 <令和2年4月>		博士(経済学)		技術と産業・企業 【隔年】	3前①～②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 (平11.4)	5日
130	兼任	教授	杉山 佳生 <令和2年4月>		博士(体育科学)		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習Ⅱ 身体運動科学実習Ⅲ 身体運動科学実習Ⅳ	1前①～② 2前①～② 2後③～④・3前①～② 2後③～④・3前①～②	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 (平15.4)	5日
131	兼任	教授	角 俊雄 <令和2年4月>		博士(理学)		基幹教育センター 課題協同学科目 社会と数理科学 微積分学	1前② 1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1後③～④	1 2.5 1 1.5	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 (平15.10)	5日
132	兼任	教授	副島 雄児 <令和2年4月>		理学博士		基幹教育センター	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 教授 (昭62.12)	5日
133	兼任	教授	高須 啓志 <令和2年4月>		農学博士		生態系の科学	2前①～②	1.5	1	九州大学 農学研究院 教授 (平13.6)	5日
134	兼任	教授	瀧上 隆智 <令和2年4月>		博士(理学)		基幹教育センター 課題協同学科目 基礎化学 基礎化学熱力学	1前② 1後③～④ 1前①～②・後③～④ 1後③～④	1 2.5 1.5 1.5	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 (平6.10)	5日
135	兼任	教授	竹川 薫 <令和2年4月>		農学博士		生命の科学B 遺伝子組換え生物の利用と制御	1前①・②・後③・④ 2後③～④	1 2	1 1	九州大学 農学研究院 教授 (平20.4)	5日
136	兼任	教授	田中 俊也 <令和2年4月>		博士(哲学)		学術英語A・ブローカ症	1前①～②	1	1	九州大学 言語文化研究院 教授 (平3.4)	5日
137	兼任	教授	田中 真理 <令和2年4月>		博士(教育心理学)		基幹教育センター リフレクティブ支援入門 ユビキタス教育研究 7ヶ年制リフレクティブ支援入門 7ヶ年制リフレクティブ支援入門 7ヶ年制リフレクティブ基礎 7ヶ年制リフレクティブ実践研究	1前② 1前① 1後③ 1前② 1後④ 1後③～④ 2前①～②	1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 (平26.4)	5日
138	兼任	教授	田畑 義之 <令和2年4月>		文学修士		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1前①～② 1後③～④	4 4	2 2	九州大学 情報基盤研究開発センター 教授 (昭63.4)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
139	兼任	教授	田村 茂彦 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター 生命の科学A プレゼンテーション基礎 トリック基礎	1前② 1前①・②・後③・④ 2前①～② 2前①～②	2 1 1 1	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 (平8.2)	5日
140	兼任	教授	陳 光斉 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 教授 (平12.4)	5日
141	兼任	教授	堤 祐司 <令和2年4月>		博士 (農学)		基礎生物有機化学	2前①～②	1.5	1	九州大学 農学研究院 教授 (平14.3)	5日
142	兼任	教授	中里見 敬 <令和2年4月>		博士 (文学)		中国語実践Ⅱ 入門中国語Ⅰ 入門中国語Ⅱ	2前①～② 2前①～② 2後③～④	2 2 2	2 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 (平11.10)	5日
143	兼任	教授	水島 広紀 <令和2年4月>		博士 (文学)		韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ 韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ 現代史Ⅰ	1後③ 1後④ 2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 韓国研究センター 教授 (平28.4)	5日
144	兼任	教授	奈良岡 浩 <令和2年4月>		博士 (理学)		身の回りの化学 地球科学	1前①・②・後③・④ 1前①・後③	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 (平20.2)	5日
145	兼任	教授	新納 宏昭 <令和2年4月>		博士 (医学)		臨床倫理	3後③～④	1	1	九州大学 医学研究院 教授 (平20.3)	5日
146	兼任	教授	西岡 宣明 <令和2年4月>		博士 (文学)		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 (平11.4)	5日
147	兼任	教授	西山 猛 <令和2年4月>		博士 (文学)		入門中国語Ⅰ	2前①～②	2	1	九州大学 言語文化研究院 教授 (平7.4)	5日
148	兼任	教授	野口 高明 <令和2年4月>		理学博士		基幹教育センター 課題協学科目 地球と宇宙の科学	1前② 1後③～④ 1前①・②・後③・④	2 2.5 4	2 1 4	九州大学 基幹教育院 教授 (平26.4)	5日
149	兼任	教授	野瀬 健 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター 課題協学科目 無機物質化学	1前② 1後③～④ 1前①～②・後③～④	1 2.5 1.5	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 (平9.10)	5日
150	兼任	教授	野々村 淑子 <令和2年4月>		博士 (教育学)		現代教育学入門 教育基礎学入門 女性学・男性学Ⅰ 女性学・男性学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前① 1前②	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 (平9.10)	5日
151	兼任	教授	演瀬 健司 <令和2年4月>		博士 (薬学)		機器分析学	2後④	2	1	九州大学 薬学研究院 教授 (平20.4)	5日
152	兼任	教授	演本 貴一 <令和2年4月>		科学技術博士		基幹物理学ⅠB	1後③～④	1.5	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 (平17.4)	5日
153	兼任	教授	原 隆 <令和2年4月>		理学博士		数学演習ⅠA 数理統計学	1前①～② 2前①～②・後③～④	1 3	1 2	九州大学 数理学研究院 教授 (平16.4)	5日
154	兼任	教授	原田 恒司 <令和2年4月>		理学博士		基幹教育センター 身の回りの物理学A 基幹物理学ⅠB	1前② 1前①・②・後③・④ 1後③～④	1 2 1.5	1 2 1	九州大学 基幹教育院 教授 (平3.10)	5日
155	兼任	教授	肥後 裕輝 <令和2年4月>		博士 (社会学)		Contemporary American Society: A Sociological Introduction	1後④	1	1	九州大学 留学生センター 教授 (平26.8)	5日
156	兼任	教授	廣島 文生 <令和2年4月>		博士 (理学)		微分積分学・同演習Ⅰ 微分積分学・同演習Ⅱ 微分積分学・同演習Ⅲ	1前①～② 1後③・後③～④ 1後④・2前①～②	1.5 1.5 1.5	1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 (平17.4)	5日
157	兼任	教授	Fenwick Mark Dalton <令和2年4月>		哲学博士		The Law and Politics of International Society	1後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 (平11.4)	5日
158	兼任	教授	福田 千鶴 <令和2年4月>		博士 (文学)		基幹教育センター 歴史学入門	1前② 1前①～②・後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 (平26.4)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
159	兼任	教授	フク元 圭太 <令和2年4月>		博士(文学)		ドイツ語ブラテイクI ドイツ語ブラテイクII 入門ドイツ語I 入門ドイツ語II	1後③～④ 2前①～② 2前①～② 2後③～④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 (平1.4)	5日
160	兼任	教授	フジ 美男 <令和2年4月>		博士(経済学)		経済史入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 (平11.4)	5日
161	兼任	教授	フジタ 剛彦 <令和2年4月>		博士(工学)		グリーンナストリー	2後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 教授 (平23.4)	5日
162	兼任	教授	フシキ 勝彦 <令和2年4月>		博士(理学)		事業創造デザイン特論I 事業創造デザイン特論II	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学 学術研究・産学官連携本部 教授 (平6.8)	5日
163	兼任	教授	フク 謙治 <令和2年4月>		理学博士		基幹教育向け- 基礎化学結合論 サイバーケミストリー基礎論	1前② 1前①～②・後③～④ 1前①	2 1.5 1	2 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 (平4.4)	5日
164	兼任	教授	フク 茂樹 <令和2年4月>		理学博士		食科学の新展開	1前①	1	1	九州大学 農学研究院 教授 (平17.4)	5日
165	兼任	教授	フジ 賀貴 <令和2年4月>		博士(工学)		世界建築史	2前①	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 (平15.10)	5日
166	兼任	教授	フジ 俊彦 <令和2年4月>		博士(数理学)		微分積分学・同演習I 微分積分学・同演習II	1前①～② 1後③・後③～④	3 3	2 2	九州大学 数理学研究院 教授 (平16.4)	5日
167	兼任	教授	フジ 卓 <令和2年4月>		理学博士		線形代数学・同演習A 線形代数学・同演習B	1前①～② 1後③～④	1.5 1.5	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 (平9.4)	5日
168	兼任	教授	フシキ 典子 <令和2年4月>		博士(比較社会文化)		社会参加のための日本語教育I 社会参加のための日本語教育II	1前① 1後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 (平17.4)	5日
169	兼任	教授	フシキ 常彦 <令和2年4月>		修士(文学)		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 (平17.4)	5日
170	兼任	教授	フシキ 洋一郎 <令和2年4月>		理学博士		基幹教育向け-	1前②	2	2	九州大学 基幹教育院 教授 (平25.1)	5日
171	兼任	教授	フシキ 一平 <令和2年4月>		博士(社会学)		社会学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 (昭63.4)	5日
172	兼任	教授	フシキ 孝司 <令和2年4月>		哲学博士		先史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 (平6.4)	5日
173	兼任	教授	フシキ 敬久 <令和2年4月>		農学博士		バイテクノロジー-詳論【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 農学研究院 教授 (昭61.4)	5日
174	兼任	教授	フシキ 正浩 <令和2年4月>		博士(教育学)		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 (平15.4)	5日
175	兼任	教授	フシキ 誠一 <令和2年4月>		博士(医学)		国際保健と医療	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 教授 (平30.4)	5日
176	兼任	教授	フシキ 英剛 <令和2年4月>		博士(医学)		臨床イノベーション	2後③	1	1	九州大学 医学研究院 教授 (平16.3)	5日
177	兼任	教授	フシキ ジョウ <令和2年4月>		博士(社会科学)		地理学入門 生物多様性と人間文化A	1前①～②・後③～④ 2前①	4 1	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 (平12.4)	5日
178	兼任	教授	フシキ ひろみ <令和2年4月>		文学修士		スペイン語I スペイン語II スペイン語III	1前①～② 1後③～④ 2前①～②	2 2 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 (平6.4)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
179	兼任	教授	カサキ トモ 葉 聡明 <令和2年4月>		博士 (経営学)		現代経済事情	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 (平29.4)	5日
180	兼任	教授	ヨシダ タケシ 吉田 敏 <令和2年4月>		博士 (農学)		先進的植物生産システム概論Ⅰ 先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 生物環境利用推進センター 教授 (昭61.4)	5日
181	兼任	教授	ロウレイヌ ヨハン Lauwereyns Johan <令和2年4月>		博士 (心理学)		基幹教育向け- Brain and Mind	1前② 2後③	1 1	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 (平22.1)	5日
182	兼任	教授	カキタ ヒロユキ 割石 博之 <令和2年4月>		Ph.D (アメリカ)		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 基幹教育院 教授 (平5.4)	5日
183	兼任	准教授	アームストロング マシュー Armstrong Matthew アイザック Isaac <令和2年4月>		修士 (TESOL学)		学術英語A・リセプション 学術英語C・スピーキング	1前①～② 2前①・②・後③・④	1 4	1 4	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平28.4)	5日
184	兼任	准教授	ササキ ノブヒロ 相澤 伸広 <令和2年4月>		博士 (地域研究)		グローバル社会を生きるⅠ グローバル社会を生きるⅡ	1前①～② 1前①～②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 (平26.4)	5日
185	兼任	准教授	アノノ ヒロコ 青野 純子 <令和2年4月>		博士 (美術史)		基幹教育向け- 課題協学科目 芸術学入門	1前② 1後③～④ 1前①～②・後③～④	2 2.5 2	2 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平25.9)	5日
186	兼任	准教授	アベ タカヲ 阿部 拓郎 <令和2年4月>		博士 (理学)		数学演習ⅠB	1後③～④	1	1	九州大学 マシュー・イングリッシュ研究所 准教授 (平28.3)	5日
187	兼任	准教授	アリの ナツキ 有馬 祐介 <令和2年4月>		博士 (工学)		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 先端物質化学研究所 准教授 (平30.11)	5日
188	兼任	准教授	アレックス ジョナサン Aleles Jonathan <令和2年4月>		Master of Education		学術英語B・イングリッシュ 学術英語C・スピーキング	1後③～④ 2前①・②・後③・④	4 4	2 4	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平22.4)	5日
189	兼任	准教授	イノソベ ヒロユキ 李 相穆 <令和2年4月>		博士 (国際文化)		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ 韓国語Ⅲ 入門韓国語Ⅰ 韓国語表現・読解演習Ⅱ	1前①～② 1後③～④ 2前①～② 2前①～② 2後③～④	2 2 1 2 2	1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平22.4)	5日
190	兼任	准教授	イノノ シノブ 飯嶋 秀治 <令和2年4月>		博士 (人間環境学)		少人数向け-	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 (平19.4)	5日
191	兼任	准教授	イノノ シノブ 飯嶋 裕治 <令和2年4月>		博士 (学術)		基幹教育向け- 課題協学科目 技術と倫理 研究と倫理	1前② 1後③～④ 2後④ 2後③	1 2.5 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平25.10)	5日
192	兼任	准教授	イノノ シノブ 五十嵐 伸吾 <令和2年4月>		修士 (経営学)		イテア・ラズⅠ アントレプレナーシップ 入門 アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎 アントレプレナーシップ・戦略論基礎	1前② 1前①・後③ 2後④ 2前②	2 4 1 1	1 2 1 1	九州大学 学術研究・産官学連携本部 准教授 (平17.3)	5日
193	兼任	准教授	イノノ ヒロコ 生田 博子 <令和2年4月>		博士 (文化人類学)		少人数向け-	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 留学生センター 准教授 (平28.4)	5日
194	兼任	准教授	イノノ シノブ 石井(ディジロラモ) 祐子 <令和2年4月>		博士 (文学)		基幹教育向け- 課題協学科目 芸術学入門 芸術学概論	1前② 1後③～④ 1前①～②・後③～④ 3後③～④	2 2.5 4 1	2 1 2 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平25.10)	5日
195	兼任	准教授	イノノ シノブ 石井 祐次 <令和2年4月>		博士 (薬学)		社会と健康	3前①～②	2	1	九州大学 薬学研究院 准教授 (平20.4)	5日
196	兼任	准教授	イノノ シノブ 石橋 純一郎 <令和2年4月>		理学博士		身の回りの化学 水の科学	1前①・②・後③・④ 1後③	1 2	1 1	九州大学 理学研究院 准教授 (平10.11)	5日
197	兼任	准教授	イノノ シノブ 伊藤 幸司 <令和2年4月>		博士 (文学)		東アジアと日本 -その歴史と現在- 【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 (平26.4)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
198	兼任	准教授	伊藤 崇達 <令和2年4月>		博士(心理学)		心理学入門 教育心理学特論(教員・学校心理学)	1前①～②・後③～④ 2後③～④	2 2	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 (平30.10)	5日
199	兼任	准教授	稲垣(江端) 紫緒 <令和2年4月>		博士(学術)		データマイニングと情報可視化	2後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 (平27.4)	5日
200	兼任	准教授	岩見 真吾 <令和2年4月>		博士(理学)		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 (平23.11)	5日
201	兼任	准教授	上野 高敏 <令和2年4月>		農学博士		生態系の構造と機能Ⅰ【隔年】 生態系の構造と機能Ⅱ【隔年】	2後③ 2後④	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 (平8.11)	5日
202	兼任	准教授	内田 竜也 <令和2年4月>		博士(理学)		基礎教育向け 課題協学科目 有機物質化学	1前② 1後③～④ 1前①～②・後③～④	1 2.5 1.5	1 1 1	九州大学 基礎教育院 准教授 (平16.4)	5日
203	兼任	准教授	宇都宮 聡 <令和2年4月>		博士(理学)		現代化学	2前①～②	1.5	1	九州大学 理学研究院 准教授 (平19.4)	5日
204	兼任	准教授	Wroblewski Gregory John <令和2年4月>		博士(医学)		学術英語C・テーマ・ス	2前①・②・後③・④	4	4	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平31.4)	5日
205	兼任	准教授	江口 潔 <令和2年4月>		博士(教育学)		教育学特論	2前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 (平30.4)	5日
206	兼任	准教授	大神 智春 <令和2年4月>		博士(芸術工学)		「留学」考	1後③～④	1	1	九州大学 留学生センター 准教授 (平16.11)	5日
207	兼任	准教授	大賀 哲 <令和2年4月>		Ph. D. in Ideology and Discourse Analysis (イギリス)		東アジアの政治と社会	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 (平20.2)	5日
208	兼任	准教授	大河内 豊 <令和2年4月>		博士(理学)		物理学概論A 物理学概論A演習	1前①～② 1前①～②	1.5 1	1 1	九州大学 基礎教育院 准教授 (平25.7)	5日
209	兼任	准教授	大津 幸男 <令和2年4月>		博士(理学)		微分積分学・同演習A 微分積分学・同演習B 微分積分学・同演習Ⅲ 線形代数	1前①～② 1後③～④ 1後④・2前①～② 1前①～②	1.5 1.5 1.5 1.5	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 (平13.4)	5日
210	兼任	准教授	岡本 剛 <令和2年4月>		博士(工学)		基礎教育向け 課題協学科目 脳情報科学入門	1前② 1後③～④ 3前①	1 2.5 1	1 1 1	九州大学 基礎教育院 准教授 (平18.2)	5日
211	兼任	准教授	岡安 崇史 <令和2年4月>		博士(農学)		少人数向け	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 (平14.1)	5日
212	兼任	准教授	沖部(ピヒラー) 奈 緒子 <令和2年4月>		Doctor of Philosophy in Environmental Microbiology (イギリス)		基礎生物学概要	1前①～②・後③～④	1.5	1	九州大学 工学研究院 准教授 (平23.1)	5日
213	兼任	准教授	Odwyer Shaun Richard <令和2年4月>		Doctor of Philosophy (オーストラリア)		学術英語A・ブロード・クォン	1前①～②	1	1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平28.4)	5日
214	兼任	准教授	鬼丸 武士 <令和2年4月>		博士(地域研究)		政治学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 (平26.4)	5日
215	兼任	准教授	小野 容照 <令和2年4月>		博士(文学)		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 (平29.10)	5日
216	兼任	准教授	貝沼 茂三郎 <令和2年4月>		博士(医学)		漢方医薬学	3前①～②	1	1	九州大学 医学研究院 准教授 (平19.4)	5日
217	兼任	准教授	梶原 健佑 <令和2年4月>		修士(法学)		基礎教育向け 課題協学科目 日本国憲法	1前② 1後③～④ 3前①～②・後③～④	2 2.5 8	2 1 4	九州大学 基礎教育院 准教授 (平26.4)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
218	兼任	准教授	カネヤマ コジ 金山 浩司 <令和2年4月>		博士(学術)		基幹教育センター 科学の歴史A 科学の歴史B	1前② 2前① 2前②	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平30.1)	5日
219	兼任	准教授	カネコ アキラ 金子 晃介 <令和2年4月>		博士(情報科学)		サイバーセキュリティ基礎論 セキュリティエンジニアリング演習(チーム構築編) セキュリティエンジニアリング演習(ハードウェア設計編) セキュリティエンジニアリング演習(IoTセキュリティ編)	1前① 1前①～② 1前①～② 1後③～④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 サイバーセキュリティセンター 准教授 (平26.4)	5日
220	兼任	准教授	カネコ シウヘイ 金子 周平 <令和2年4月>		博士(心理学)		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 (平28.4)	5日
221	兼任	准教授	ウラベ ユキフミ 岸本 裕歩 <令和2年4月>		博士(医学)		基幹教育センター 健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習Ⅰ	1前② 1前①～② 1後③～④	2 3 2	2 3 2	九州大学 基幹教育院 准教授 (平29.4)	5日
222	兼任	准教授	キタノ ツグ 北澤 満 <令和2年4月>		博士(経済学)		経済学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 准教授 (平17.4)	5日
223	兼任	准教授	キタノ ツグ 木附 晃実 <令和2年4月>		Doctor of Philosophy (Applied Economics) (7/17卒)		基幹教育センター	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平30.10)	5日
224	兼任	准教授	キタノ ヒロコ 木下 博子 <令和2年4月>		博士(地域研究)		少人数センター	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 留学生センター 准教授 (平29.5)	5日
225	兼任	准教授	キタノ ヒロキ 木村 拓也 <令和2年4月>		博士(教育学)		教育テスト論	1後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 (平24.10)	5日
226	兼任	准教授	カネ タクジ 金 政浩 <令和2年4月>		博士(工学)		基幹物理学ⅠA	1前①～②	1.5	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 (平24.4)	5日
227	兼任	准教授	キタノ ツグ 楠見 淳子 <令和2年4月>		博士(理学)		生命の科学B	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 (平22.10)	5日
228	兼任	准教授	クニミ ヒロシ 久米 弘 <令和2年4月>		教育学修士		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 (平9.4)	5日
229	兼任	准教授	ウツタカ ケンタ 倉方 健作 <令和2年4月>		博士(文学)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ	1前①～② 1後③～④ 2前①～②	4 4 1	2 2 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平27.4)	5日
230	兼任	准教授	カシヤマ トシユキ 栗山 暢 <令和2年4月>		修士(文学)		ドイツ語Ⅲ ドイツ語アフラティムⅠ	2前①～② 1後③～④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平6.4)	5日
231	兼任	准教授	コノエ タケオ 小島 健太郎 <令和2年4月>		博士(理学)		基幹教育センター 身の回りの物理学A 物理学概論B	1前② 1前①・②・後③・④ 1後③～④	1 2 1.5	1 2 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平20.6)	5日
232	兼任	准教授	コシノ ヒロフミ 小瀬 卓夫 <令和2年4月>		修士(経済学)		基幹教育センター 課題協学科目 社会連携活動論:ポランティア 社会連携活動論:インターンシップ 人と人をつなぐ技法 ポランティア活動Ⅰ ポランティア活動Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ	1前② 1後③～④ 1前② 1前① 1後③ 2通 2通 2通 2通	1 2.5 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平17.4)	5日
233	兼任	准教授	イマノ ヒロユキ 今野 拓也 <令和2年4月>		数理学博士		微分積分学・同演習Ⅰ 微分積分学・同演習Ⅱ	1前①～② 1後③・後③～④	1.5 1.5	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 (平7.7)	5日
234	兼任	准教授	カシノ ヒロユキ 藤原 和幸 <令和2年4月>		博士(農学)		作物生産とフロンティア研究	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 (平1.6)	5日
235	兼任	准教授	カシノ ヒロユキ 斎藤 新悟 <令和2年4月>		博士(数学)		基幹教育センター 課題協学科目 社会と数理科学 微分積分学 体験してわかる自然科学	1前② 1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1後③～④ 1後③・④	1 2.5 1 1.5 2	1 1 1 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 (平25.4)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
236	兼任	准教授	斉藤 信浩 <令和2年4月>		博士(文学)		日本語Ⅱ 日本語Ⅴ 日本語Ⅵ	1前② 2前① 2前②	1 1 1	1 1 1	九州大学 留学生センター 准教授 (平23.4)	5日
237	兼任	准教授	酒井 彩 <令和2年4月>		博士(人文科学)		日本語Ⅲ 日本語Ⅳ	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 留学生センター 准教授 (平28.8)	5日
238	兼任	准教授	坂口 英継 <令和2年4月>		理学博士		基幹物理学Ⅱ	2前①～②	1.5	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 (昭63.5)	5日
239	兼任	准教授	佐藤 典子 <令和2年4月>		博士(文学)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ	1前①～② 1後③～④ 2前①～②	2 2 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平23.10)	5日
240	兼任	准教授	佐藤 正則 <令和2年4月>		博士(学術)		ロシア語Ⅰ ロシア語Ⅱ ロシア語Ⅲ ロシア語フォーラム 入門ロシア語Ⅰ 入門ロシア語Ⅱ 外国語プレゼンテーション	1前①～② 1後③～④ 2前①～② 1後③～④ 2前①～② 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	4 4 2 1 2 2 1	2 2 1 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平14.4)	5日
241	兼任	准教授	島添 隆雄 <令和2年4月>		薬学博士		チーム医療演習 医療における倫理	3後③～④ 2前①～②	1 2	1 1	九州大学 薬学研究院 准教授 (平7.4)	5日
242	兼任	准教授	島田 敬士 <令和2年4月>		博士(工学)		サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 准教授 (平19.4)	5日
243	兼任	准教授	志水 俊広 <令和2年4月>		第二言語(英語) 修士		学術英語A・リセプション	1前①～②	1	1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平11.4)	5日
244	兼任	准教授	下條 恵子 <令和2年4月>		博士(文学)		学術英語A・プロダクション 学術英語B・インテグレート	1前①～② 1後③～④	1 2	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平25.4)	5日
245	兼任	准教授	杉山 あかし <令和2年4月>		社会学修士		社会学入門 現代社会Ⅰ	1前①～②・後③～④ 2前①～②	4 2	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 (平4.4)	5日
246	兼任	准教授	鈴木 陸子 <令和2年4月>		博士(教育開発学)		学術英語B・インテグレート	1後③～④	2	1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平22.4)	5日
247	兼任	准教授	Sur Chowdhury Vishwajit <令和2年4月>		博士(学術)		基幹教育セミナー	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平22.4)	5日
248	兼任	准教授	施 光恒 <令和2年4月>		博士(法学)		政治学入門 平和と安全の構築学	1前①～②・後③～④ 2後④	2 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 (平15.10)	5日
249	兼任	准教授	瀬口 典子 <令和2年4月>		博士(人類学)		フィールドに学ぶB	1後④	1	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 (平24.7)	5日
250	兼任	准教授	Sevilla Anton Luis <令和2年4月>		博士(学術)		基幹教育セミナー 課題協学科目 現代教育学入門 教育基礎学入門 社会と倫理	1前② 1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 2後④	1 2.5 1 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平27.3)	5日
251	兼任	准教授	高橋 昭彦 <令和2年4月>		工学博士		電気電子工学入門	2前①～②	2	1	九州大学 医学研究院 准教授 (平7.4)	5日
252	兼任	准教授	高橋 達郎 <令和2年4月>		博士(理学)		細胞生物学	1前①～②・後③～④	1.5	1	九州大学 理学研究院 准教授 (平28.10)	5日
253	兼任	准教授	武田 利勝 <令和2年4月>		博士(文学)		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1前①～② 1後③～④	4 4	2 2	九州大学 人文科学研究院 准教授 (平26.4)	5日
254	兼任	准教授	竹田 雄一郎 <令和2年4月>		博士(理学)		線形代数 数学演習ⅠB	1前①～② 1後③～④	1.5 1	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 (平14.4)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
255	兼任	准教授	武田 友加 <令和2年4月>		博士 (経済学)		基幹教育センター 課題協学科目 経済学入門	1前② 1後③～④ 1前①～②・後③～④	1 2.5 4	1 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 (平26.4)	5日
256	兼任	准教授	田尻 義了 <令和2年4月>		博士 (比較社会文化)		アジア埋蔵文化財学A アジア埋蔵文化財学B	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 (平25.5)	5日
257	兼任	准教授	篠 卓司 <令和2年4月>		博士 (理学)		集団生物学	1後③～④	1.5	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 (平22.4)	5日
258	兼任	准教授	辰巳 隆一 <令和2年4月>		博士 (農学)		食肉加工の理論と実践	1後③～④	2	1	九州大学 農学研究院 准教授 (平13.10)	5日
259	兼任	准教授	立脇 洋介 <令和2年4月>		博士 (心理学)		基幹教育センター	1前②	1	1	九州大学 7-Missionセンター 准教授 (平29.4)	5日
260	兼任	准教授	田中 晶国 <令和2年4月>		博士 (法学)		日本国憲法	3前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 (平28.4)	5日
261	兼任	准教授	辻田 博一郎 <令和2年4月>		博士 (比較社会文化)		先史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 (平15.10)	5日
262	兼任	准教授	辻野 裕紀 <令和2年4月>		博士 (文学)		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ 韓国語Ⅲ 韓国語フォーラム 入門韓国語Ⅱ 韓国語表現・読解演習Ⅰ	1前①～② 1後③～④ 2前①～② 1後③～④ 1後③～④ 2後③～④ 2前①～②	4 4 1 1 2 2	2 2 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平24.4)	5日
263	兼任	准教授	中山 裕文 <令和2年4月>		博士 (工学)		自然災害と防災	2後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 (平12.3)	5日
264	兼任	准教授	新居 俊作 <令和2年4月>		理学博士		社会と数理科学	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 数理文化研究院 准教授 (平14.10)	5日
265	兼任	准教授	納富 昭弘 <令和2年4月>		博士 (工学)		原子核物理学	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 准教授 (平23.3)	5日
266	兼任	准教授	Haswell Christopher Gareth <令和2年4月>		博士 (英語学・言語学) (イギリス)		学術英語C・テーマ・ス	2前①・②・後③・④	2	2	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平27.4)	5日
267	兼任	准教授	速見 二郎 <令和2年4月>		Doctor of Philosophy		政治学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 (平22.10)	5日
268	兼任	准教授	畑塾 晃平 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター 課題協学科目 情報科学 プログラミング演習	1前② 1後③～④ 1前①～②・後③～④ 1前①～②・後③～④	1 2.5 3 1	1 1 2 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平22.4)	5日
269	兼任	准教授	早川 敏之 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター 生命の科学A 7thミッド・フロンティアⅠ 7thミッド・フロンティアⅡ	1前② 1前①・②・後③・④ 1前① 1前②	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平25.7)	5日
270	兼任	准教授	原田 昌佳 <令和2年4月>		博士 (農学)		糸島の水と土と緑Ⅰ 糸島の水と土と緑Ⅱ	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 (平17.12)	5日
271	兼任	准教授	樋上 和弘 <令和2年4月>		博士 (理学)		微分積分学・同演習Ⅰ 微分積分学・同演習Ⅱ 線形代数学・同演習A 線形代数学・同演習B 数学演習ⅠA	1前①～② 1後③・後③～④ 1前①～② 1後③～④ 1前①～②	1.5 1.5 3 3 1	1 1 2 2 1	九州大学 数理文化研究院 准教授 (平23.4)	5日
272	兼任	准教授	平井 康丸 <令和2年4月>		博士 (農学)		持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 (平18.3)	5日
273	兼任	准教授	平山 賢太郎 <令和2年4月>		学士 (法学)		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 (平30.10)	5日
274	兼任	准教授	廣瀬 慧 <令和2年4月>		博士 (機能数理 学)		機械学習と人工知能	2後③	1	1	九州大学 マテリアル・イノベーション研究所 准教授 (平28.4)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
275	兼任	准教授	藤岡 健太郎 <令和2年4月>		博士 (比較社会文化)		大学とは何かⅡ 九州大学の歴史Ⅱ	1前② 1後④	1 1	1 1	九州大学 大学文書館 准教授 (平21.4)	5日
276	兼任	准教授	Brezina Jan <令和2年4月>		博士 (数学)		基幹教育セミナー	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平30.10)	5日
277	兼任	准教授	Painter Andrew <令和2年4月>		博士 (人類学) (7月修)		学術英語A・プロダクション 学術英語B・ウィテブレイト	1前①～② 1後③～④	1 2	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平25.4)	5日
278	兼任	准教授	横 靖幸 <令和2年4月>		博士 (理学)		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 (平29.8)	5日
279	兼任	准教授	益尾(手島) 知佐子 <令和2年4月>		博士 (学術)		現代社会Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 (平20.10)	5日
280	兼任	准教授	増本 賢治 <令和2年4月>		博士 (医学)		身体運動科学実習Ⅰ 身体運動科学実習Ⅱ 身体運動科学実習Ⅲ 身体運動科学実習Ⅳ 健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③～④ 2前①～② 2後③～④・3前①～② 2後③～④・3前①～② 1後③	2 1 1 1 1	2 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 (平27.4)	5日
281	兼任	准教授	松下 智子 <令和2年4月>		博士 (心理学)		基幹教育セミナー 心理学・精神医学からみたキャリアスタディ	1前② 1後④	1 1	1 1	九州大学 キャリアスタディ・健康支援センター 准教授 (平23.10)	5日
282	兼任	准教授	松島 綾美 <令和2年4月>		博士 (理学)		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 (平17.2)	5日
283	兼任	准教授	光藤 宏行 <令和2年4月>		博士 (人間環境学)		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 (平19.4)	5日
284	兼任	准教授	宮脇 仁 <令和2年4月>		博士 (理学)		分子の科学	1後③～④	2	1	九州大学 先端物質化学研究所 准教授 (平20.2)	5日
285	兼任	准教授	村山 美乃 <令和2年4月>		博士 (工学)		無機物質化学	1前①～②・後③～④	1.5	1	九州大学 理学研究院 准教授 (平27.3)	5日
286	兼任	准教授	安武 大輔 <令和2年4月>		博士 (農学)		農のための植物-環境系輸送現象論	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 (平27.4)	5日
287	兼任	准教授	安田 草人 <令和2年4月>		博士 (地域研究)		基幹教育セミナー 社会調査法ⅡA 【隔年】 社会調査法ⅡB 【隔年】	1前② 2後③ 2後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平25.4)	5日
288	兼任	准教授	安水 和央 <令和2年4月>		博士 (心理学)		基幹教育セミナー 社会調査法ⅠA 社会調査法ⅠB	1前② 2前① 2前②	1 1 1	1 1 1	九州大学 アドミッションセンター 准教授 (平28.3)	5日
289	兼任	准教授	山田 琢磨 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育セミナー 課題協学科目 物理学概論B演習 自然科学総合実験(基礎) 自然科学総合実験(発展)	1前② 1後③～④ 1後③～④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 2.5 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平25.5)	5日
290	兼任	准教授	山田 政寛 <令和2年4月>		博士 (学術)		基幹教育セミナー 現代教育学入門 教育基礎学入門	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平25.1)	5日
291	兼任	准教授	山田 祐樹 <令和2年4月>		博士 (心理学)		心理学入門 認知心理学	1前①～②・後③～④ 2後④	4 1	2 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平25.10)	5日
292	兼任	准教授	山本 紀子 <令和2年4月>		博士 (医学)		健康疫学・内科学から見たキャリアスタディ	1後③	1	1	九州大学 キャリアスタディ・健康支援センター 准教授 (平25.4)	5日
293	兼任	准教授	横田 晋務 <令和2年4月>		博士 (教育学)		基幹教育セミナー 課題協学科目	1前② 1後③～④	1 2.5	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平29.2)	5日
294	兼任	准教授	横森 大輔 <令和2年4月>		博士 (人間・環境学)		学術英語A・プロダクション	1前①～②	1	1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平26.4)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
295	兼任	准教授	シバキ アサヒ 吉武 剛 <令和2年4月>		博士 (工学)		基幹物理学 I A	1前①～②	1.5	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 (平8.4)	5日
296	兼任	准教授	イノリ ノリ 李 麗君 <令和2年4月>		博士 (比較社会文化)		中国語 I 中国語 II 中国語 III 中国語実践 I 中国語実践 II 中国語表現・読解演習 II	1前①～② 1後③～④ 2前①～② 1後③～④ 2前①～② 2後③～④	4 4 2 3 2 2	2 2 2 3 2 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平22.4)	5日
297	兼任	准教授	レイカー スティーヴン Laker Stephen <令和2年4月>		博士 (言語学) (英語)		学術英語 B・インテグレート	1後③～④	2	1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平26.4)	5日
298	兼任	講師	ウチノ イナヒコ 内田 若希 <令和2年4月>		博士 (心理学)		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習 I 身体運動科学実習 II	1前①～② 1後③～④ 2前①～②	2 4 1	2 4 1	九州大学 人間環境学研究院 講師 (平24.10)	5日
299	兼任	講師	キナガワ マコト 菊川 誠 <令和2年4月>		Master of Medical Education		インフォメーション	3前①～②	1	1	九州大学 医学研究院 講師 (平22.12)	5日
300	兼任	講師	キタノ ケン 楠見 健介 <令和2年4月>		博士 (理学)		生命の科学 A	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 講師 (平10.7)	5日
301	兼任	講師	コバヤシ ヒロキ 小林 亮介 <令和2年4月>		博士 (文学)		現代史 II	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 (平29.4)	5日
302	兼任	講師	タカヤナギ (ハナタ) シゲミ 高柳 (花村) 茂美 <令和2年4月>		文学修士		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習 I	1前①～② 1後③～④	1 3	1 3	九州大学 キャンパスライフ・健康支援センター 講師 (平1.4)	5日
303	兼任	講師	テラノ リサ 寺野 梨香 <令和2年4月>		博士 (国際関係学)		アントレナージュ・マーケティング基礎	2後③	1	1	九州大学 ポータル・ファン・アントレナージュ・センター 講師 (平30.4)	5日
304	兼任	講師	チガハシ シンタロウ 長沼 祥太郎 <令和2年4月>		博士 (総合学術)		基幹教育セミナー	1前②	1	1	九州大学 教育改革推進本部 講師 (平31.1)	5日
305	兼任	講師	ナカノ ノブヒコ 中野 伸彦 <令和2年4月>		博士 (理学)		地球科学	1前①・後③	1	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 (平19.1)	5日
306	兼任	講師	パウエルズ ルーベン Pauwels Ruben グリエッラ アンデリス Gabriella Andries <令和2年4月>		修士 (日本学科)		学術英語 B・インテグレート 学術英語 C・スプレッド	1後③～④ 2前①・②・後③・④	2 2	1 2	九州大学 言語文化研究院 講師 (平27.10)	5日
307	兼任	講師	フォルマシオン アントニオ ジョゼフ Formacion Antonio Jr Prudente <令和2年4月>		修士 (法学)		Law in Everyday Life A Law in Everyday Life B	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 法学研究院 講師 (平22.1)	5日
308	兼任	講師	フジノ ヨシキヨ 藤岡 悠一郎 <令和2年4月>		博士 (地域研究)		地理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 (平29.4)	5日
309	兼任	講師	フジノ トモ子 藤田 智子 <令和2年4月>		博士 (社会学)		男女共同参画	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 (平29.10)	5日
310	兼任	講師	フジノ フミ 松津 文香 <令和2年4月>		博士 (心理学)		基幹教育セミナー	1前②	1	1	九州大学 キャンパスライフ・健康支援センター 講師 (平28.4)	5日
311	兼任	講師	ボストン ジェレミー スコット Boston Jeremy Scott <令和2年4月>		Doctor of Education		学術英語 B・インテグレート	1後③～④	2	1	九州大学 言語文化研究院 講師 (平28.4)	5日
312	兼任	講師	マサヒコ 丸山 マサ美 <令和2年4月>		博士 (医学)		医療倫理学 I 医療倫理学 II バイオエシックス入門	1後③ 1後④ 1前②	1 1 2	1 1 2	九州大学 医学研究院 講師 (平9.4)	5日
313	兼任	講師	ヤマダ ヒロミ 山田 裕美 <令和2年4月>		修士 (経営学)		アントレナージュ・組織論基礎	2前①	1	1	九州大学 ポータル・ファン・アントレナージュ・センター 講師 (平30.4)	5日
314	兼任	助教	アラガキ マサヒコ 荒牧 正俊 <令和2年4月>		博士 (工学)		基幹物理学 I B 演習	1後③～④	1	1	九州大学 工学研究院 助教 (昭60.4)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
315	兼任	助教	有賀 智子 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター 自然科学総合実験(基礎) 自然科学総合実験(発展)	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	1 2 2	1 2 2	九州大学 基幹教育院 助教 (平29.4)	5日
316	兼任	助教	伊藤 薫 <令和2年4月>		博士 (人間・環境 学)		学術英語A・CALL 学術英語B・CALL	1前①～② 1後③～④	2 2	2 2	九州大学 言語文化研究院 助教 (平31.4)	5日
317	兼任	助教	伊藤 太一 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター 自然科学総合実験(基礎) 自然科学総合実験(発展)	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	1 3 3	1 3 3	九州大学 基幹教育院 助教 (平27.9)	5日
318	兼任	助教	今井 洋輔 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 助教 (平26.4)	5日
319	兼任	助教	今福 泰浩 <令和2年4月>		博士 (理学)		基礎生物学概要	1前①～②・後③～④	1.5	1	九州大学 理学研究院 助教 (平10.9)	5日
320	兼任	助教	Wolanski Bartosz Piotr <令和2年4月>		博士 (比較社会文 化)		基幹教育センター	1前②	2	2	九州大学 基幹教育院 助教 (平29.11)	5日
321	兼任	助教	大塚 知昇 <令和2年4月>		博士 (文学)		学術英語B・文化レポート	1後③～④	2	1	九州大学 言語文化研究院 助教 (平31.4)	5日
322	兼任	助教	大西 純平 <令和2年4月>		博士 (科学)		自然科学総合実験(基礎) 自然科学総合実験(発展)	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 助教 (平25.9)	5日
323	兼任	助教	木島 孝之 <令和2年4月>		博士 (工学)		日本建築史	2前②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 (平10.4)	5日
324	兼任	助教	佐合 紀親 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター 自然科学総合実験(基礎) 自然科学総合実験(発展)	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	1 2 2	1 2 2	九州大学 基幹教育院 助教 (平24.4)	5日
325	兼任	助教	佐々木 真 <令和2年4月>		博士 (理学)		少人数センター	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 応用力学研究所 助教 (平22.1)	5日
326	兼任	助教	猿渡(井島) 悦子 <令和2年4月>		博士 (水産学)		基幹教育センター 自然科学総合実験(基礎) 自然科学総合実験(発展)	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	1 3 3	1 3 3	九州大学 基幹教育院 助教 (平24.4)	5日
327	兼任	助教	末原 大幹 <令和2年4月>		博士 (理学)		自然科学総合実験(基礎) 自然科学総合実験(発展)	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 助教 (平25.10)	5日
328	兼任	助教	巢山 慶太郎 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 助教 (平25.4)	5日
329	兼任	助教	田尾 周一郎 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 助教 (平18.5)	5日
330	兼任	助教	田中 充 <令和2年4月>		博士 (農学)		自然科学総合実験(基礎)	1前①・後③	1	1	九州大学 農学研究院 助教 (平23.9)	5日
331	兼任	助教	谷口 雄太 <令和2年4月>		博士 (情報科学)		グローバルシミュレーション演習	1前①～②・後③～④	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 (平29.10)	5日
332	兼任	助教	鳥原 亮 <令和2年4月>		修士 (言語学)		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ スペイン語Ⅲ スペイン語フォーラム	1前①～② 1後③～④ 2前①～② 1後③～④	2 2 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 (平29.10)	5日
333	兼任	助教	鳥谷 充伸 <令和2年4月>		博士 (理学)		微分積分学・同演習Ⅲ	1後④・2前①～②	3	2	九州大学 数理学研究院 助教 (平28.5)	5日
334	兼任	助教	土屋 智行 <令和2年4月>		博士 (人間・環境 学)		学術英語B・文化レポート	1後③～④	2	1	九州大学 言語文化研究院 助教 (平27.4)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
335	兼任	助教	トモハラ ケイスケ 友原 啓介 <令和2年4月>		博士 (薬学)		基幹教育センター	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 助教 (平29.10)	5日
336	兼任	助教	ナカノ ケンイチロウ 中里 健一郎 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター 自然科学総合実験(基礎) 自然科学総合実験(発展)	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	1 2 2	1 2 2	九州大学 基幹教育院 助教 (平27.10)	5日
337	兼任	助教	ナガノ タカヒロ 長澤 貴宏 <令和2年4月>		博士 (農学)		自然科学総合実験(発展)	1前②・後④	1	1	九州大学 農学研究院 助教 (平27.12)	5日
338	兼任	助教	ナカノ コシタ 中野 豊 <令和2年4月>		農学博士		命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 助教 (平4.4)	5日
339	兼任	助教	ナガハワ ケンイチ 並川 健一 <令和2年4月>		博士 (理学)		微分積分学 数学演習Ⅱ	1後③～④ 2前①～②	1.5 1	1 1	九州大学 数理学研究院 助教 (平30.9)	5日
340	兼任	助教	ナガヤ川 マサユキ 長谷川 益己 <令和2年4月>		博士 (農学)		自然科学総合実験(基礎)	1前①・後③	1	1	九州大学 農学研究院 助教 (平15.10)	5日
341	兼任	助教	ハヤシ ユキキ 林 裕樹 <令和2年4月>		博士 (工学)		基幹教育センター	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 助教 (平29.4)	5日
342	兼任	助教	ホシガワ タカヒロ 細川 貴弘 <令和2年4月>		博士 (理学)		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 助教 (平26.9)	5日
343	兼任	助教	マツノ ユウタ 松岡 悠太 <令和2年4月>		博士 (創薬科学)		自然科学総合実験(基礎) 自然科学総合実験(発展)	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 薬学研究院 助教 (平28.6)	5日
344	兼任	助教	マツノ 圭 松林 圭 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター 自然科学総合実験(基礎) 自然科学総合実験(発展)	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	1 3 3	1 3 3	九州大学 基幹教育院 助教 (平27.10)	5日
345	兼任	助教	モリガワ リウジ 森川 龍哉 <令和2年4月>		博士 (工学)		基幹物理学ⅠA演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 (平7.4)	5日
346	兼任	助教	ヨコタ ジョウゴ 横田 慎吾 <令和2年4月>		博士 (農学)		自然科学総合実験(発展)	1前②・後④	1	1	九州大学 農学研究院 助教 (平22.10)	5日
347	兼任	助教	リュウ ヒロシ 劉 轟 <令和2年4月>		博士 (人間・環境 学)		中国語実践Ⅰ 中国語オラル・リスニング演習Ⅰ 中国語オラル・リスニング演習Ⅱ	1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 2 2	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 (平28.4)	5日

教員の氏名等

(芸術工学部芸術工学科)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
3	専	教授	イハラ ヒサス 伊原 久裕 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		メディアデザイン概論Ⅰ※	1後③	0.3	1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
8	専	教授	キム テウケン 金 大雄 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		メディアデザイン概論Ⅰ※	1後③	0.3	1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
10	専	教授	コガトオル 古賀 徹 <令和2年4月>		博士 (文学) ※		未来構想デザイン概論※	1後③	0.3	1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
11	専	教授	コトノリ(カサリ) カヨ 近藤(笠利) 加代子 <令和2年4月>		博士 (工学) ※		未来構想デザイン概論※	1後③	0.3	1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
14	専	教授	ツルノ レイジ 鶴野 玲治 <令和2年4月>		博士 (工学)		メディアデザイン概論Ⅱ※	1後④	0.3	1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
16	専	教授	ヒガチ シゲカズ 樋口 重和 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		インダストリアルデザイン基礎Ⅱ※	1後④	0.1	1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平21.4)	5日
17	専	教授	ヒライ ヤスキ 平井 康之 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		インダストリアルデザイン基礎Ⅰ※	1後③	0.4	1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
18	専	教授	マエダ カサミ 前田 享史 <令和2年4月>		博士 (医学) 博士 (芸術工学)		インダストリアルデザイン基礎Ⅱ※	1後④	0.3	1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平27.4)	5日
19	専	教授	ムラキ リツシ 村木 里志 <令和2年4月>		博士 (学術)		インダストリアルデザイン基礎Ⅱ※	1後④	0.1	1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
21	専	准教授	アサヒロ カズオ 朝廣 和夫 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		環境設計基礎Ⅰ※	1後③	0.5	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
22	専	准教授	イケガミ ミコ 池田 美奈子 <令和2年4月>		修士 (美術)		未来構想デザイン概論※	1後③	0.3	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
23	専	准教授	イシイ タツロウ 石井 達郎 <令和2年4月>		修士 (芸術工学) ※		デザイン思考※ メディアデザイン概論Ⅰ※	1前①・②・後③・④ 1後③	1 0.3	4 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
24	専	准教授	イトウ ヒロシ 伊藤 浩史 <令和2年4月>		博士 (理学)		未来構想デザイン概論※	1後③	0.3	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平23.10)	5日
25	専	准教授	イノエ コウヘイ 井上 光平 <令和2年4月>		博士 (工学)		メディアデザイン概論Ⅱ※	1後④	0.3	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
26	専	准教授	イノウエ トモオ 井上 朝雄 <令和2年4月>		博士 (工学) ※		図形科学 空間表現実習Ⅱ 環境設計基礎Ⅱ	1前①～② ・後③～④ 1後③～④ 1後④	1.5 2 1	1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.12)	5日
27	専	准教授	ウエカキ リョウコ 上岡 玲子 <令和2年4月>		博士 (工学)		メディアデザイン概論Ⅱ※	1後④	0.3	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平24.4)	5日
30	専	准教授	ウシヤマ ケイジ 牛尼 剛聡 <令和2年4月>		博士 (工学) ※		メディアデザイン概論Ⅱ※	1後④	0.3	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
32	専	准教授	オノタ ヨシト 尾方 義人 <令和2年4月>		博士 (工学)		デザイン思考※ 未来構想デザイン概論※	1前①・②・後③・④ 1後③	0.5 0.3	2 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平20.4)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
33	専	准教授	オノ ナキ 小野 直樹 <令和2年4月>		博士 (工学)		メディアデザイン概論Ⅱ※	1後④	0.3	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
34	専	准教授	カク コキ 加藤 悠希 <令和2年4月>		博士 (工学)		環境設計基礎Ⅰ※	1後③	0.5	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平28.8)	5日
35	専	准教授	サイト トシム 齋藤 俊文 <令和2年4月>		修士 (数学)		インダストリアルデザイン基礎Ⅰ※	1後③	0.4	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平18.4)	5日
37	専	准教授	シヨウ カズヒロ 城 一裕 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		デザイン思考※	1前①・②・後③・④	0.5	2	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平28.3)	5日
38	専	准教授	サキモト ミチカ 杉本 美貴 <令和2年4月>		博士 (学術)		デザイン・ケーススタディⅠ インダストリアルデザイン基礎Ⅰ※	1前② 1後③	1 0.4	1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平24.4)	5日
41	専	准教授	サカベ ヒロカ 曾我部 春香 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		デザイン思考※ インダストリアルデザイン基礎Ⅰ※	1前①・②・後③・④ 1後③	0.5 0.4	2 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平21.4)	5日
42	専	准教授	タカダ マサキ 高田 正幸 <令和2年4月>		博士 (工学) ※		聴能形成Ⅰ	1後③～④	0.5	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
43	専	准教授	タケノチ カズキ 竹之内 和樹 <令和2年4月>		工学博士 ※		図形科学 メディアデザイン概論Ⅱ※	1 前①～② ・後③～④ 1後④	1.5 0.3	1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
44	専	准教授	タムラ リョウイチ 田村 良一 <令和2年4月>		博士 (工学)		インダストリアルデザイン基礎Ⅰ※	1後③	0.3	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
45	専	准教授	トモタリ ミカ 知足 美加子 <令和2年4月>		博士 (芸術学)		メディアデザイン概論Ⅰ※	1後③	0.3	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
46	専	准教授	ナカムラ ミナ 中村 美亜 <令和2年4月>		博士 (学術)		未来構想デザイン概論※ 社会と多様性※	1後③ 1後④	0.3 0.5	1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平26.4)	5日
47	専	准教授	ハラ ケンジ 原 健二 <令和2年4月>		博士 (工学)		メディアデザイン概論Ⅱ※	1後④	0.3	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平16.1)	5日
48	専	准教授	フジ トモキ 藤 智亮 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		空間表現実習Ⅰ インダストリアルデザイン基礎Ⅰ※	1前①～② ・後③～④ 1後③	2 0.4	1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
49	専	准教授	ホール マイケル Hall Michael <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		学術英語A・プロダクション 学術英語C・スキルベース 未来構想デザイン概論※	1前①～② 2前①・②・後③・④ 1後③	2 6 0.3	2 6 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平18.4)	5日
50	専	准教授	マクガマ ヒロユキ 松隈 浩之 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		デザインリテラシー基礎 メディアデザイン概論Ⅰ※	1前① 1後③	1 0.3	1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
51	専	准教授	マツマエ アサネ 松前 あかね <令和2年4月>		博士 (知識科学) 法務博士 (専門職)		インダストリアルデザイン基礎Ⅰ※	1後③	0.3	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平29.9)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
52	専	准教授	マクヤマ 科丸 丸山 修 <令和2年4月>		博士 (理学)		未来構想デザイン概論※	1後③	0.3	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
53	専	准教授	ヤマウチ カツヤ 山内 勝也 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		デザイン思考※	1前①・②・後③・④	0.5	2	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平27.4)	5日
54	専	准教授	ヨシカミ トモカズ 吉岡 智和 <令和2年4月>		博士 (工学)		空間表現実習 I	1前①～② ・後③～④	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
56	専	准教授	ヨネムラ リコ 米村 典子 <令和2年4月>		文学修士 ※		芸術学入門	1前①～② ・後③～④	2	1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
58	専	講師	イマハナ トモコ 今坂 智子 <令和2年4月>		博士 (工学)		基礎化学結合論	1前①～② ・後③～④	1.5	1	九州大学 芸術工学研究院 講師 (平15.10)	5日
60	専	助教	アキタ ナホタケ 秋田 直繁 <令和2年4月>		修士 (芸術工学)		インダストリアルデザイン基礎 I ※	1後③	0.4	1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平25.4)	5日
62	専	助教	イヘムラ トクシユウ 稲村 徳州 <令和2年4月>		Master (Design Engineering) (特'リス)		デザイン思考※ 未来構想デザイン概論※	1前①・②・後③・④ 1後③	1 0.3	4 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平28.6)	5日
65	専	助教	カハラ カズヒコ 河原 一彦 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		聴能形成 I	1後③～④	0.5	1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平15.10)	5日
67	専	助教	チツボタ トモヒロ 追琢 知広 <令和2年4月>		修士 (芸術工学)		インダストリアルデザイン基礎 I ※	1後③	0.4	1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平28.8)	5日
68	専	助教	トウ(キナギ)キ キリコ 藤(北崎) 紀里子 <令和2年4月>		修士 (芸術工学)		メディアデザイン概論 I ※	1後③	0.3	1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平15.10)	5日
69	専	助教	ナガツ ユウイチロウ 長津 結一郎 <令和2年4月>		博士 (学術)		未来構想デザイン概論※ 社会と多様性※	1後③ 1後④	0.3 0.5	1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平28.4)	5日
71	専	助教	ヒラマツ チヒロ 平松 千尋 <令和2年4月>		博士 (生命科学)		未来構想デザイン概論※	1後③	0.3	1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平25.9)	5日
74	専	助教	モリムラ ユキ 元村 祐貴 <令和2年4月>		博士 (感性学)		インダストリアルデザイン基礎 II ※	1後④	0.3	1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平29.4)	5日
75	専	助教	モリモト ユキ 森本 有紀 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		基幹教育セミナー メディアデザイン概論 I ※	1前② 1後③	2 0.3	2 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平28.8)	5日
76	専	助教	ヨシムラ リイ 吉村 理一 <令和2年4月>		修士 (文学)		学術英語 A・リセプション 学術英語 B・インテグレイト	1前①～② 1後③～④	2 4	2 2	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平30.6)	5日
77	専	助教	ロー ピン ヤップ Loh Ping Yeap <令和2年4月>		博士 (工学)		インダストリアルデザイン基礎 II ※	1後④	0.3	1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平29.9)	5日
78	専	助教	ロウ ウイ リオン Loh Wei Leong <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		学術英語 B・インテグレイト 未来構想デザイン概論※	1後③～④ 1後③	2 0.3	1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平28.4)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する 相当たり平均日数
80	兼担	教授	アヲキ 晋佐 <令和2年4月>		博士(農学)		農業と微生物	1後④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 (平6.1)	5日
81	兼担	教授	アキヨシ 秋吉 <令和2年4月>		博士(文学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1前①～② 1後③～④	4 4	2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 (平17.10)	5日
82	兼担	教授	アベ 吉雄 <令和2年4月>		哲学博士		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1前①～② 1後③～④	4 4	2 2	九州大学 言語文化研究院 教授 (平3.4)	5日
83	兼担	教授	アベ 芳久 <令和2年4月>		博士(農学)		生命の科学B フィールドに学ぶA	1前①・②・後③・④ 1後③	2 1	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 (平19.4)	5日
84	兼担	教授	アライ 文用 <令和2年4月>		博士(歯学)		生命の科学A	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 医学研究院 教授 (平26.4)	5日
85	兼担	教授	アライ 邦雄 <令和2年4月>		博士(理学)		生物多様性と人間文化B	2前②	1	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 (平12.10)	5日
86	兼担	教授	アライ 秀孝 <令和2年4月>		博士(工学)		コンピュータプログラミング入門	2後③	1	1	九州大学 医学研究院 教授 (平16.4)	5日
87	兼担	教授	アノチ 雅彦 <令和2年4月>		博士(理学)		環境問題と自然科学	2後③～④	2	1	九州大学 理学研究院 教授 (平15.4)	5日
88	兼担	教授	イノ 麻里子 <令和2年4月>		博士(法学)		法史学入門 【隔年】 ローマ法史	2前①～② 2前①～②	2 2	1 1	九州大学 法学研究院 教授 (平14.4)	5日
89	兼担	教授	イノ 浩 <令和2年4月>		博士(工学)		数学演習Ⅱ	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 教授 (平23.9)	5日
90	兼担	教授	イノ 薫 <令和2年4月>		博士(法学)		現代史Ⅳ 【隔年】	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 (平11.12)	5日
91	兼担	教授	イノ 滋樹 <令和2年4月>		博士(芸術工学)		共創発想法	2後③	2	1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平29.4)	5日
92	兼担	教授	イノ 卓見 <令和2年4月>		博士(工学)		力学演習	1後③～④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 (平20.4)	5日
93	兼担	教授	イノ 厚 <令和2年4月>		理学博士		細胞生物学	1前①～②・後③～④	1.5	1	九州大学 理学研究院 教授 (昭63.12)	5日
94	兼担	教授	イノ 健治 <令和2年4月>		博士(経済学)		EU論基礎一制度と経済一	2前①～②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 (平11.4)	5日
95	兼担	教授	ウエン Lin <令和2年4月>		理学博士		微分積分学・同演習Ⅲ	1後④・2前①～②	3	2	九州大学 数理学研究院 教授 (平14.4)	5日
96	兼担	教授	ウチノ 文謙 <令和2年4月>		博士(経済学)		金融と経済	2後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 (平20.4)	5日
97	兼担	教授	エノキ 厚仁 <令和2年4月>		法学修士		現代社会Ⅲ 【隔年】 法文化学入門 【隔年】	2後③～④ 2前①～②	2 2	1 1	九州大学 法学研究院 教授 (平2.4)	5日
98	兼担	教授	エノキ 巧 <令和2年4月>		文学修士		学術英語A・リセプション 学術英語A・アロケーション 学術英語B・インテグレート ことばの科学	1前①～② 1前①～② 1後③～④ 1前①	1 1 4 1	1 1 2 1	九州大学 言語文化研究院 教授 (平2.4)	5日
99	兼担	教授	オシ 隆広 <令和2年4月>		文学修士		学術英語B・インテグレート	1後③～④	2	1	九州大学 言語文化研究院 教授 (平5.4)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する 相当たり平均日数
100	兼担	教授	大坪 穂 ＜令和2年4月＞		博士 (経済学)		現代企業分析	1前①～②	1	1	九州大学 経済学研究院 教授 (平25.9)	5日
101	兼担	教授	大橋 浩 ＜令和2年4月＞		博士 (文学)		基幹教育セミナー 学術英語A・リゼーション 学術英語A・プロダクション 学術英語B・インテグレート 学術英語A・B・再履修 コミュニケーション入門	1前② 1前①～② 1前①～② 1後③～④ 1・2後③～④・2前①～② 1前①	1 1 1 4 2 2 1	1 1 1 2 2 1	九州大学 基幹教育院 教授 (平26.4)	5日
102	兼担	教授	岡村 耕二 ＜令和2年4月＞		博士 (工学)		企業から見たイノベーション イノベーション演習	1前②・後④ 1前①～②	2 1	2 1	九州大学 情報基盤研究開発センター 教授 (平10.3)	5日
103	兼担	教授	小黒 康正 ＜令和2年4月＞		博士 (文学)		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 (平12.5)	5日
104	兼担	教授	遠城 明雄 ＜令和2年4月＞		博士 (文学)		地理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 (平8.10)	5日
105	兼担	教授	恩田 健 ＜令和2年4月＞		博士 (理学)		基礎化学	1前①～②・後③～④	1.5	1	九州大学 理学研究院 教授 (平29.4)	5日
106	兼担	教授	郭 俊海 ＜令和2年4月＞		Ph.D (シカゴ大学)		日本語Ⅶ	2前①	1	1	九州大学 留学生センター 教授 (平18.4)	5日
107	兼担	教授	角田 佳充 ＜令和2年4月＞		博士 (理学)		基礎生化学	2前①～②	1.5	1	九州大学 農学研究院 教授 (平13.11)	5日
108	兼担	教授	鍋木 政彦 ＜令和2年4月＞		博士 (法学)		文化と社会の理論	2前①～②	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 (平12.10)	5日
109	兼担	教授	上平 正道 ＜令和2年4月＞		工学博士		分子生物学	2前①～②	1.5	1	九州大学 工学研究院 教授 (平17.4)	5日
110	兼担	教授	神谷 典徳 ＜令和2年4月＞		博士 (工学)		分子生物学	2前①～②	1.5	1	九州大学 工学研究院 教授 (平14.10)	5日
111	兼担	教授	川畑 俊一郎 ＜令和2年4月＞		理学博士		生命の科学A	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 教授 (昭61.10)	5日
112	兼担	教授	川村 隆一 ＜令和2年4月＞		理学博士		最先端地球科学	2前②・後③	1	1	九州大学 理学研究院 教授 (平24.4)	5日
113	兼担	教授	菅 浩伸 ＜令和2年4月＞		博士 (学術)		地理学入門	1前①～②・後③～④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 (平26.4)	5日
114	兼担	教授	榎本 信哉 ＜令和2年4月＞		博士 (工学)		力学演習	1後③～④	1	1	九州大学 工学研究院 教授 (平8.4)	5日
115	兼担	教授	木村 政伸 ＜令和2年4月＞		博士 (教育学)		基幹教育セミナー 課題協学科目 現代教育学入門 教育基礎学入門 教育学特論	1前② 1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前① 2前①～②・後③～④	2 2.5 1 1 1 2	2 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 (平28.9)	5日
116	兼担	教授	木村 康之 ＜令和2年4月＞		博士 (工学)		物理学の進展	2前①～②	1.5	1	九州大学 理学研究院 教授 (平16.4)	5日
117	兼担	教授	久場 隆広 ＜令和2年4月＞		博士 (工学)		環境調和型社会の構築	2前①～②	2	1	九州大学 工学研究院 教授 (平8.4)	5日
118	兼担	教授	熊野 直樹 ＜令和2年4月＞		法学博士		現代史Ⅲ 【隔年】	2前①～②	2	1	九州大学 法学研究院 教授 (平6.4)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する 週当たり平均日数
119	兼担	教授	久米 篤 ＜令和2年4月＞		博士(理学)		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 農学研究院 教授 (平20.4)	5日
120	兼担	教授	倉爪 亮 ＜令和2年4月＞		博士(工学)		数学演習Ⅱ	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究所 教授 (平14.4)	5日
121	兼担	教授	桑原 義博 ＜令和2年4月＞		博士(理学)		地球と宇宙の科学 最先端地球科学 地球の進化と環境	1前①・②・後③・④ 2前②・後③ 2後③～④	3 1 2	3 1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 (平7.10)	5日
122	兼担	教授	小出 洋 ＜令和2年4月＞		博士(工学)		ハイパーテキスト演習	1前①～②	1	1	九州大学 情報基盤研究開発センター 教授 (平29.4)	5日
123	兼担	教授	古閑 一憲 ＜令和2年4月＞		博士(理学)		数学演習Ⅱ	2前①～②	1	1	九州大学 システム情報科学研究所 教授 (平11.4)	5日
124	兼担	教授	木貴 新一 ＜令和2年4月＞		博士(工学)		基幹教育センター 情報科学	1前② 1前①～②・後③～④	1 4.5	1 3	九州大学 基幹教育院 教授 (平29.4)	5日
125	兼担	教授	齊藤 篤司 ＜令和2年4月＞		体育学修士		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習Ⅰ 健康・スポーツ科学講義Ⅱ	1前①～② 1後③～④ 2前①～②	1 2 2	1 2 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 (昭62.4)	5日
126	兼担	教授	坂井 猛 ＜令和2年4月＞		博士(工学)		伊都キャンパスを科学するⅠ(軌跡編) 伊都キャンパスを科学するⅡ(現在編) 伊都キャンパスを科学するⅢ(展望編)	1前① 1前② 1後③	1 1 1	1 1 1	九州大学 キャンパス計画室 教授 (平5.4)	5日
127	兼担	教授	佐藤 喜一 ＜令和2年4月＞		博士(教育情報学)		社会統計学A 社会統計学B	3後③ 3後④	1 1	1 1	九州大学 FDリサーチセンター 教授 (平29.1)	5日
128	兼担	教授	後 祥之 ＜令和2年4月＞		博士(農学)		農のための最適環境制御	1前①	1	1	九州大学 農学研究院 教授 (平22.4)	5日
129	兼担	教授	篠崎 彰彦 ＜令和2年4月＞		博士(経済学)		技術と産業・企業 【隔年】	3前①～②	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 (平11.4)	5日
130	兼担	教授	杉山 佳生 ＜令和2年4月＞		博士(体育科学)		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習Ⅱ 身体運動科学実習Ⅲ 身体運動科学実習Ⅳ	1前①～② 2前①～② 2後③～④・3前①～② 2後③～④・3前①～②	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 (平15.4)	5日
131	兼担	教授	角 俊雄 ＜令和2年4月＞		博士(理学)		基幹教育センター 課題協同学科目 社会と数理科学 微分積分学	1前② 1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1後③～④	1 2.5 1 1.5	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 (平15.10)	5日
132	兼担	教授	副島 雄児 ＜令和2年4月＞		理学博士		基幹教育センター	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 教授 (昭62.12)	5日
133	兼担	教授	高須 啓志 ＜令和2年4月＞		農学博士		生態系の科学	2前①～②	1.5	1	九州大学 農学研究院 教授 (平13.6)	5日
134	兼担	教授	瀧上 隆智 ＜令和2年4月＞		博士(理学)		基幹教育センター 課題協同学科目 基礎化学 基礎化学熱力学	1前② 1後③～④ 1前①～②・後③～④ 1後③～④	1 2.5 1.5 1.5	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 (平6.10)	5日
135	兼担	教授	竹川 薫 ＜令和2年4月＞		農学博士		生命の科学B 遺伝子組換え生物の利用と制御	1前①・②・後③・④ 2後③～④	1 2	1 1	九州大学 農学研究院 教授 (平20.4)	5日
136	兼担	教授	田中 俊也 ＜令和2年4月＞		博士(哲学)		学術英語A・プロダクション	1前①～②	1	1	九州大学 言語文化研究院 教授 (平3.4)	5日
137	兼担	教授	田中 真理 ＜令和2年4月＞		博士(教育心理学)		基幹教育センター ハイブリッド支援入門 エビデンス研究 7つビブリオ入門 7つビブリオ支援入門 7つビブリオ基礎 7つビブリオマネジメント研究	1前② 1前① 1後③ 1前② 1後④ 1後③～④ 2前①～②	1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 (平26.4)	5日
138	兼担	教授	田畑 義之 ＜令和2年4月＞		文学修士		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1前①～② 1後③～④	4 4	2 2	九州大学 情報基盤研究開発センター 教授 (昭63.4)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千 円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数
139	兼担	教授	フリガナ 田村 茂彦 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター 生命の科学 A プレゼンテーション基礎 1)リソ基礎	1前② 1前①・②・後③・④ 2前①～② 2前①～②	2 1 1 1	2 1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 (平8.2)	5日
140	兼担	教授	フリガナ 陳 光斉 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 教授 (平12.4)	5日
141	兼担	教授	フリガナ 堤 祐司 <令和2年4月>		博士 (農学)		基礎生物有機化学	2前①～②	1.5	1	九州大学 農学研究院 教授 (平14.3)	5日
142	兼担	教授	フリガナ 中里見 敬 <令和2年4月>		博士 (文学)		中国語実践Ⅱ 入門中国語Ⅰ 入門中国語Ⅱ	2前①～② 2前①～② 2後③～④	2 2 2	2 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 (平11.10)	5日
143	兼担	教授	フリガナ 水島 広紀 <令和2年4月>		博士 (文学)		韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ 韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ 現代史Ⅰ	1後③ 1後④ 2前①～②	1 1 2	1 1 1	九州大学 韓国研究センター 教授 (平28.4)	5日
144	兼担	教授	フリガナ 奈良岡 浩 <令和2年4月>		博士 (理学)		身の回りの化学 地球科学	1前①・②・後③・④ 1前①・後③	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 教授 (平20.2)	5日
145	兼担	教授	フリガナ 新納 宏昭 <令和2年4月>		博士 (医学)		臨床倫理	3後③～④	1	1	九州大学 医学研究院 教授 (平20.3)	5日
146	兼担	教授	フリガナ 西岡 宣明 <令和2年4月>		博士 (文学)		文学・言語学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 教授 (平11.4)	5日
147	兼担	教授	フリガナ 西山 猛 <令和2年4月>		博士 (文学)		入門中国語Ⅰ	2前①～②	2	1	九州大学 言語文化研究院 教授 (平7.4)	5日
148	兼担	教授	フリガナ 野口 高明 <令和2年4月>		理学博士		基幹教育センター 課題協学科目 地球と宇宙の科学	1前② 1後③～④ 1前①・②・後③・④	2 2.5 4	2 1 4	九州大学 基幹教育院 教授 (平26.4)	5日
149	兼担	教授	フリガナ 野瀬 健 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター 課題協学科目 無機物質化学	1前② 1後③～④ 1前①～②・後③～④	1 2.5 1.5	1 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 (平9.10)	5日
150	兼担	教授	フリガナ 野々村 淑子 <令和2年4月>		博士 (教育学)		現代教育学入門 教育基礎学入門 女性学・男性学Ⅰ 女性学・男性学Ⅱ	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 1前① 1前②	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 (平9.10)	5日
151	兼担	教授	フリガナ 濱瀬 健司 <令和2年4月>		博士 (薬学)		機器分析学	2後④	2	1	九州大学 薬学研究院 教授 (平20.4)	5日
152	兼担	教授	フリガナ 濱本 貴一 <令和2年4月>		科学技術博士		基幹物理学ⅠB	1後③～④	1.5	1	九州大学 総合理工学研究院 教授 (平17.4)	5日
153	兼担	教授	フリガナ 原 隆 <令和2年4月>		理学博士		数学演習ⅠA 数理統計学	1前①～② 2前①～②・後③～④	1 3	1 2	九州大学 数理学研究院 教授 (平16.4)	5日
154	兼担	教授	フリガナ 原田 恒司 <令和2年4月>		理学博士		基幹教育センター 身の回りの物理学A 基幹物理学ⅠB	1前② 1前①・②・後③・④ 1後③～④	1 2 1.5	1 2 1	九州大学 基幹教育院 教授 (平3.10)	5日
155	兼担	教授	フリガナ 肥後 裕輝 <令和2年4月>		博士 (社会学)		Contemporary American Society: A Sociological Introduction	1後④	1	1	九州大学 留学生センター 教授 (平26.8)	5日
156	兼担	教授	フリガナ 廣島 文生 <令和2年4月>		博士 (理学)		微分積分学・同演習Ⅰ 微分積分学・同演習Ⅱ 微分積分学・同演習Ⅲ	1前①～② 1後③・後③～④ 1後④・2前①～②	1.5 1.5 1.5	1 1 1	九州大学 数理学研究院 教授 (平17.4)	5日
157	兼担	教授	フリガナ Fenwick Mark Dalton <令和2年4月>		哲学博士		The Law and Politics of International Society	1後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 教授 (平11.4)	5日
158	兼担	教授	フリガナ 福田 千鶴 <令和2年4月>		博士 (文学)		基幹教育センター 歴史学入門	1前② 1前①～②・後③～④	1 2	1 1	九州大学 基幹教育院 教授 (平26.4)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千 円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数
159	兼担	教授	フク元 圭太 <令和2年4月>		博士 (文学)		ド'イ語ア'ラケイムⅠ ド'イ語ア'ラケイムⅡ 入門ド'イ語Ⅰ 入門ド'イ語Ⅱ	1後③~④ 2前①~② 2前①~② 2後③~④	1 1 2 2	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 (平1.4)	5日
160	兼担	教授	フジ 美男 <令和2年4月>		博士 (経済学)		経済史入門	1前①~②・後③~④	2	1	九州大学 経済学研究院 教授 (平11.4)	5日
161	兼担	教授	フジタキ 剛彦 <令和2年4月>		博士 (工学)		グリーンケミストリー	2後③~④	2	1	九州大学 工学研究院 教授 (平23.4)	5日
162	兼担	教授	フカガ 勝彦 <令和2年4月>		博士 (理学)		事業創造ア'イテリイⅠ 事業創造ア'イテリイⅡ	2前① 2前②	1 1	1 1	九州大学 学術研究・産学官連携本部 教授 (平6.8)	5日
163	兼担	教授	フクノ 謙治 <令和2年4月>		理学博士		基幹教育セミナー 基礎化学結合論 ア'イノベチヤイ基礎論	1前② 1前①~②・後③~④ 1前①	2 1.5 1	2 1 1	九州大学 基幹教育院 教授 (平4.4)	5日
164	兼担	教授	フキ 茂樹 <令和2年4月>		理学博士		食科学の新展開	1前①	1	1	九州大学 農学研究院 教授 (平17.4)	5日
165	兼担	教授	フジ 賀貴 <令和2年4月>		博士 (工学)		世界建築史	2前①	2	1	九州大学 人間環境学研究院 教授 (平15.10)	5日
166	兼担	教授	フジタ 俊彦 <令和2年4月>		博士 (数理学)		微分積分学・同演習Ⅰ 微分積分学・同演習Ⅱ	1前①~② 1後③・後③~④	3 3	2 2	九州大学 数理学研究院 教授 (平16.4)	5日
167	兼担	教授	フシ 卓 <令和2年4月>		理学博士		線形代数学・同演習A 線形代数学・同演習B	1前①~② 1後③~④	1.5 1.5	1 1	九州大学 数理学研究院 教授 (平9.4)	5日
168	兼担	教授	フシノ 典子 <令和2年4月>		博士 (比較社会文化)		社会参加のための日本語教育Ⅰ 社会参加のための日本語教育Ⅱ	1前① 1後④	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 (平17.4)	5日
169	兼担	教授	フシノ 常彦 <令和2年4月>		修士 (文学)		文学・言語学入門	1前①~②・後③~④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 (平17.4)	5日
170	兼担	教授	フシノ 洋一郎 <令和2年4月>		理学博士		基幹教育セミナー	1前②	2	2	九州大学 基幹教育院 教授 (平25.1)	5日
171	兼担	教授	フシノ 一平 <令和2年4月>		博士 (社会学)		社会学入門	1前①~②・後③~④	4	2	九州大学 比較社会文化研究院 教授 (昭63.4)	5日
172	兼担	教授	フシノ 孝司 <令和2年4月>		哲学博士		先史学入門	1前①~②・後③~④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 (平6.4)	5日
173	兼担	教授	フシノ 敬久 <令和2年4月>		農学博士		バ'イノベチヤイ-詳論 【隔年】	2後③~④	2	1	九州大学 農学研究院 教授 (昭61.4)	5日
174	兼担	教授	フシノ 正浩 <令和2年4月>		博士 (教育学)		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 教授 (平15.4)	5日
175	兼担	教授	フシノ 誠一 <令和2年4月>		博士 (医学)		国際保健と医療	2後③~④	2	1	九州大学 医学研究院 教授 (平30.4)	5日
176	兼担	教授	フシノ 英剛 <令和2年4月>		博士 (医学)		臨床イノベチヤイ	2後③	1	1	九州大学 医学研究院 教授 (平16.3)	5日
177	兼担	教授	フシノ ジュン <令和2年4月>		博士 (社会科学)		地理学入門 生物多様性と人間文化A	1前①~②・後③~④ 2前①	4 1	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 教授 (平12.4)	5日
178	兼担	教授	フシノ ひろみ <令和2年4月>		文学修士		ス'イノ語Ⅰ ス'イノ語Ⅱ ス'イノ語Ⅲ	1前①~② 1後③~④ 2前①~②	2 2 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 教授 (平6.4)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千 円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する 相当たり平均日 数
199	兼担	准教授	フリガナ 氏名 稲垣(江端) 崇緒 <令和2年4月>		博士 (学術)		『アーカイブ』と情報可視化	2後④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 (平27.4)	5日
200	兼担	准教授	フリガナ 氏名 岩見 真吾 <令和2年4月>		博士 (理学)		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 (平23.11)	5日
201	兼担	准教授	フリガナ 氏名 上野 高敏 <令和2年4月>		農学博士		生態系の構造と機能Ⅰ 【隔年】 生態系の構造と機能Ⅱ 【隔年】	2後③ 2後④	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 (平8.11)	5日
202	兼担	准教授	フリガナ 氏名 内田 竜也 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育セミ ンナー 課題協学科目 有機物質化学	1前② 1後③～④ 1前①～②・後③～④	1 2.5 1.5	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平16.4)	5日
203	兼担	准教授	フリガナ 氏名 宇都宮 聡 <令和2年4月>		博士 (理学)		現代化学	2前①～②	1.5	1	九州大学 理学研究院 准教授 (平19.4)	5日
204	兼担	准教授	フリガナ 氏名 Wroblewski Gregory John <令和2年4月>		博士 (医学)		学術英語C・テーマベース	2前①・②・後③・④	4	4	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平31.4)	5日
205	兼担	准教授	フリガナ 氏名 江口 潔 <令和2年4月>		博士 (教育学)		教育学特論	2前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 (平30.4)	5日
206	兼担	准教授	フリガナ 氏名 大神 智春 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		「留学」考	1後③～④	1	1	九州大学 留学生センター 准教授 (平16.11)	5日
207	兼担	准教授	フリガナ 氏名 大賀 哲 <令和2年4月>		Ph.D. in Ideology and Discourse Analysis (イギリス)		東アジアの政治と社会	2後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 (平20.2)	5日
208	兼担	准教授	フリガナ 氏名 大河内 豊 <令和2年4月>		博士 (理学)		物理学概論A 物理学概論A演習	1前①～② 1前①～②	1.5 1	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平25.7)	5日
209	兼担	准教授	フリガナ 氏名 大津 幸男 <令和2年4月>		博士 (理学)		微分積分学・同演習A 微分積分学・同演習B 微分積分学・同演習Ⅲ 線形代数	1前①～② 1後③～④ 1後④・2前①～② 1前①～②	1.5 1.5 1.5 1.5	1 1 1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 (平13.4)	5日
210	兼担	准教授	フリガナ 氏名 岡本 剛 <令和2年4月>		博士 (工学)		基幹教育セミ ンナー 課題協学科目 脳情報科学入門	1前② 1後③～④ 3前①	1 2.5 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平18.2)	5日
211	兼担	准教授	フリガナ 氏名 岡安 崇史 <令和2年4月>		博士 (農学)		少人数セミナー	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 (平14.1)	5日
212	兼担	准教授	フリガナ 氏名 沖部(ビヒラー) 奈 緒子 <令和2年4月>		Doctor of Philosophy in Environmental Microbiology (イギリス)		基礎生物学概要	1前①～②・後③～④	1.5	1	九州大学 工学研究院 准教授 (平23.1)	5日
213	兼担	准教授	フリガナ 氏名 Odwyer Shaun Richard <令和2年4月>		Doctor of Philosophy (オーストラリア)		学術英語A・アロケーション	1前①～②	1	1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平28.4)	5日
214	兼担	准教授	フリガナ 氏名 鬼丸 武士 <令和2年4月>		博士 (地域研究)		政治学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 (平26.4)	5日
215	兼担	准教授	フリガナ 氏名 小野 容照 <令和2年4月>		博士 (文学)		歴史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 (平29.10)	5日
216	兼担	准教授	フリガナ 氏名 貝沼 茂三郎 <令和2年4月>		博士 (医学)		漢方医薬学	3前①～②	1	1	九州大学 医学研究院 准教授 (平19.4)	5日
217	兼担	准教授	フリガナ 氏名 梶原 健佑 <令和2年4月>		修士 (法学)		基幹教育セミ ンナー 課題協学科目 日本国憲法	1前② 1後③～④ 3前①～②・後③～④	2 2.5 6	2 1 3	九州大学 基幹教育院 准教授 (平26.4)	5日
218	兼担	准教授	フリガナ 氏名 金山 浩司 <令和2年4月>		博士 (学術)		基幹教育セミ ンナー 科学の歴史A 科学の歴史B	1前② 2前① 2前②	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平30.1)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する 週当たり平均日数
219	兼担	准教授	金子 晃介 <令和2年4月>		博士 (情報科学)		インターネット基礎論 インターネット演習 (ネットワーク構築編) インターネット演習 (ネットワーク設計編) インターネット演習 (IoTネットワーク編)	1前① 1前①～② 1前①～② 1後③～④	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 インターネットセンター 准教授 (平26.4)	5日
220	兼担	准教授	金子 周平 <令和2年4月>		博士 (心理学)		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 (平28.4)	5日
221	兼担	准教授	岸本 裕歩 <令和2年4月>		博士 (医学)		基幹教育セミナー 健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習Ⅰ	1前② 1前①～② 1後③～④	2 3 2	2 3 2	九州大学 基幹教育院 准教授 (平29.4)	5日
222	兼担	准教授	北澤 満 <令和2年4月>		博士 (経済学)		経済史入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 経済学研究院 准教授 (平17.4)	5日
223	兼担	准教授	木附 晃実 <令和2年4月>		Doctor of Philosophy (Applied Economics) (経済学)		基幹教育セミナー	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平30.10)	5日
224	兼担	准教授	木下 博子 <令和2年4月>		博士 (地域研究)		少人数セミナー	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 留学生センター 准教授 (平29.5)	5日
225	兼担	准教授	木村 拓也 <令和2年4月>		博士 (教育学)		教育テスト論	1後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 (平24.10)	5日
226	兼担	准教授	金 政浩 <令和2年4月>		博士 (工学)		基幹物理学ⅠA	1前①～②	1.5	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 (平24.4)	5日
227	兼担	准教授	楠見 淳子 <令和2年4月>		博士 (理学)		生命の科学B	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 (平22.10)	5日
228	兼担	准教授	久米 弘 <令和2年4月>		教育学修士		現代教育学入門 教育基礎学入門	1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1	1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 (平9.4)	5日
229	兼担	准教授	倉方 健作 <令和2年4月>		博士 (文学)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ	1前①～② 1後③～④ 2前①～②	4 4 1	2 2 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平27.4)	5日
230	兼担	准教授	栗山 暢 <令和2年4月>		修士 (文学)		ドイツ語Ⅲ ドイツ語ラテイクⅠ	2前①～② 1後③～④	1 1	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平6.4)	5日
231	兼担	准教授	小島 健太郎 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育セミナー 身の回りの物理学A 物理学概論B	1前② 1前①・②・後③・④ 1後③～④	1 2 1.5	1 2 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平20.6)	5日
232	兼担	准教授	小湊 卓夫 <令和2年4月>		修士 (経済学)		基幹教育セミナー 課題協学科目 社会連携活動論:ボランテア 社会連携活動論:インターシップ 人と人をつなぐ技法 ボランティア活動Ⅰ ボランティア活動Ⅱ インターシップⅠ インターシップⅡ	1前② 1後③～④ 1前② 1前① 1後③ 2通 2通 2通 2通	1 2.5 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平17.4)	5日
233	兼担	准教授	今野 拓也 <令和2年4月>		数理学博士		微分積分学・同演習Ⅰ 微分積分学・同演習Ⅱ	1前①～② 1後③・後③～④	1.5 1.5	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 (平7.7)	5日
234	兼担	准教授	齋藤 和幸 <令和2年4月>		博士 (農学)		作物生産とフロンティア研究	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 (平1.6)	5日
235	兼担	准教授	斎藤 新悟 <令和2年4月>		博士 (数学)		基幹教育セミナー 課題協学科目 社会と数理学 微分積分学 体験してわかる自然科学	1前② 1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1後③～④ 1後③・④	1 2.5 1 1.5 2	1 1 1 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 (平25.4)	5日
236	兼担	准教授	斎藤 信浩 <令和2年4月>		博士 (文学)		日本語Ⅱ 日本語Ⅴ 日本語Ⅵ	1前② 2前① 2前②	1 1 1	1 1 1	九州大学 留学生センター 准教授 (平23.4)	5日
237	兼担	准教授	酒井 彩 <令和2年4月>		博士 (人文学)		日本語Ⅲ 日本語Ⅳ	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 留学生センター 准教授 (平28.8)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する 相当たり平均日数
238	兼任	准教授	坂口 英継 <令和2年4月>		理学博士		基幹物理学Ⅱ	2前①～②	1.5	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 (昭63.5)	5日
239	兼任	准教授	佐藤 典子 <令和2年4月>		博士 (文学)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ	1前①～② 1後③～④ 2前①～②	2 2 1	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平23.10)	5日
240	兼任	准教授	佐藤 正則 <令和2年4月>		博士 (学術)		ロシア語Ⅰ ロシア語Ⅱ ロシア語Ⅲ ロシア語Ⅳ 入門ロシア語Ⅰ 入門ロシア語Ⅱ 外国語プレゼンテーション	1前①～② 1後③～④ 2前①～② 1後③～④ 2前①～② 2後③～④ 1後③～④	4 4 2 1 2 2 1	2 2 2 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平14.4)	5日
241	兼任	准教授	島添 隆雄 <令和2年4月>		薬学博士		薬医療演習 医療における倫理	3後③～④ 2前①～②	1 2	1 1	九州大学 薬学研究院 准教授 (平7.4)	5日
242	兼任	准教授	島田 敬士 <令和2年4月>		博士 (工学)		システム工学基礎論	1前①	1	1	九州大学 システム情報科学研究所 准教授 (平19.4)	5日
243	兼任	准教授	志水 俊広 <令和2年4月>		第二言語 (英語) 修士		学術英語A・プレゼンテーション	1前①～②	1	1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平11.4)	5日
244	兼任	准教授	下條 恵子 <令和2年4月>		博士 (文学)		学術英語A・プレゼンテーション 学術英語B・インテグレート	1前①～② 1後③～④	1 2	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平25.4)	5日
245	兼任	准教授	杉山 あかし <令和2年4月>		社会学修士		社会学入門 現代社会Ⅰ	1前①～②・後③～④ 2前①～②	4 2	2 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 (平4.4)	5日
246	兼任	准教授	鈴木 隆子 <令和2年4月>		博士 (教育開発学)		学術英語B・インテグレート	1後③～④	2	1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平22.4)	5日
247	兼任	准教授	Sur Chowdhury Wiswajit <令和2年4月>		博士 (学術)		基幹教育セミナー	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平22.4)	5日
248	兼任	准教授	施 光恒 <令和2年4月>		博士 (法学)		政治学入門 平和と安全の構築学	1前①～②・後③～④ 2後④	2 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 (平15.10)	5日
249	兼任	准教授	瀬口 典子 <令和2年4月>		博士 (人類学)		フィールドに学ぶB	1後④	1	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 (平24.7)	5日
250	兼任	准教授	Sevilla Anton Luis <令和2年4月>		博士 (学術)		基幹教育セミナー 課題協同学科目 現代教育学入門 教育基礎学入門 社会と倫理	1前② 1後③～④ 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④ 2後④	1 2.5 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平27.3)	5日
251	兼任	准教授	高橋 昭彦 <令和2年4月>		工学博士		電気電子工学入門	2前①～②	2	1	九州大学 医学研究院 准教授 (平7.4)	5日
252	兼任	准教授	高橋 達郎 <令和2年4月>		博士 (理学)		細胞生物学	1前①～②・後③～④	1.5	1	九州大学 理学研究院 准教授 (平28.10)	5日
253	兼任	准教授	武田 利勝 <令和2年4月>		博士 (文学)		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1前①～② 1後③～④	4 4	2 2	九州大学 人文科学研究院 准教授 (平26.4)	5日
254	兼任	准教授	竹田 雄一郎 <令和2年4月>		博士 (理学)		線形代数 数学演習ⅠB	1前①～② 1後③～④	1.5 1	1 1	九州大学 数理学研究院 准教授 (平14.4)	5日
255	兼任	准教授	武田 友加 <令和2年4月>		博士 (経済学)		基幹教育セミナー 課題協同学科目 経済学入門	1前② 1後③～④ 1前①～②・後③～④	1 2.5 4	1 1 2	九州大学 基幹教育院 准教授 (平26.4)	5日
256	兼任	准教授	田尻 義了 <令和2年4月>		博士 (比較社会文化)		アジア埋蔵文化財学A アジア埋蔵文化財学B	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 (平25.5)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する 相当たり平均日数
257	兼担	准教授	新館 卓司 <令和2年4月>		博士(理学)		集団生物学	1後③～④	1.5	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 (平22.4)	5日
258	兼担	准教授	辰巳 隆一 <令和2年4月>		博士(農学)		食肉加工の理論と実践	1後③～④	2	1	九州大学 農学研究院 准教授 (平13.10)	5日
259	兼担	准教授	立脇 洋介 <令和2年4月>		博士(心理学)		基幹教育センター	1前②	1	1	九州大学 アドミッションセンター 准教授 (平29.4)	5日
260	兼担	准教授	田中 晶国 <令和2年4月>		博士(法学)		日本国憲法	3前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 (平28.4)	5日
261	兼担	准教授	辻田 淳一郎 <令和2年4月>		博士(比較社会文化)		先史学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人文科学研究院 准教授 (平15.10)	5日
262	兼担	准教授	辻野 裕紀 <令和2年4月>		博士(文学)		韓国語Ⅰ 韓国語Ⅱ 韓国語Ⅲ 韓国語フォーラム 入門韓国語Ⅱ 韓国語表現・読解演習Ⅰ	1前①～② 1後③～④ 2前①～② 1後③～④ 2後③～④ 2前①～②	4 4 1 1 2 2	2 2 1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平24.4)	5日
263	兼担	准教授	中山 裕文 <令和2年4月>		博士(工学)		自然災害と防災	2後③～④	2	1	九州大学 工学研究院 准教授 (平12.3)	5日
264	兼担	准教授	新居 俊作 <令和2年4月>		理学博士		社会と数理解科学	1前①・②・後③・④	2	2	九州大学 数理学研究院 准教授 (平14.10)	5日
265	兼担	准教授	納富 昭弘 <令和2年4月>		博士(工学)		原子核物理学	2後③～④	2	1	九州大学 医学研究院 准教授 (平23.3)	5日
266	兼担	准教授	Haswell Christopher Garth <令和2年4月>		博士(英語学・言語学) (イギリス)		学術英語C・テーマベース	2前①・②・後③・④	2	2	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平27.4)	5日
267	兼担	准教授	蓮見 二郎 <令和2年4月>		Doctor of Philosophy		政治学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 (平22.10)	5日
268	兼担	准教授	畑整 晃平 <令和2年4月>		博士(理学)		基幹教育センター 課題協学科目 情報科学 プログラミング演習	1前② 1後③～④ 1前①～②・後③～④ 1前①～②・後③～④	1 2.5 3 1	1 1 2 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平22.4)	5日
269	兼担	准教授	早川 敏之 <令和2年4月>		博士(理学)		基幹教育センター 生命の科学A 7377 ミック・フロンティアⅠ 7378 ミック・フロンティアⅡ	1前② 1前①・②・後③・④ 1前① 1前②	1 1 1 1	1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平25.7)	5日
270	兼担	准教授	原田 昌佳 <令和2年4月>		博士(農学)		糸島の水と土と緑Ⅰ 糸島の水と土と緑Ⅱ	1前① 1前②	1 1	1 1	九州大学 農学研究院 准教授 (平17.12)	5日
271	兼担	准教授	樋上 和弘 <令和2年4月>		博士(理学)		微分積分学・同演習Ⅰ 微分積分学・同演習Ⅱ 線形代数学・同演習A 線形代数学・同演習B 数学演習ⅠA	1前①～② 1後③・後④ 1前①～② 1後③～④ 1前①～②	1.5 1.5 3 3 1	1 1 2 2 1	九州大学 数理学研究院 准教授 (平23.4)	5日
272	兼担	准教授	平井 康丸 <令和2年4月>		博士(農学)		持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 (平18.3)	5日
273	兼担	准教授	平山 賢太郎 <令和2年4月>		学士(法学)		法学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 法学研究院 准教授 (平30.10)	5日
274	兼担	准教授	廣瀬 慧 <令和2年4月>		博士(機能数理学)		機械学習と人工知能	2後③	1	1	九州大学 マテリアル・イノベーション研究所 准教授 (平28.4)	5日
275	兼担	准教授	藤岡 健太郎 <令和2年4月>		博士(比較社会文化)		大学とは何かⅡ 九州大学の歴史Ⅱ	1前② 1後④	1 1	1 1	九州大学 大学図書館 准教授 (平21.4)	5日
276	兼担	准教授	Brezina Jan <令和2年4月>		博士(数理学)		基幹教育センター	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平30.10)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する 週当たり平均日数
277	兼担	准教授	ペインター アンドリュー Painter Andrew <令和2年4月>		博士 (人文学) (7月3日)		学術英語A・プロダクション 学術英語B・インテグレート	1前①～② 1後③～④	1 2	1 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平25.4)	5日
278	兼担	准教授	横 靖幸 <令和2年4月>		博士 (理学)		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 (平29.8)	5日
279	兼担	准教授	益尾(手島) 知佐子 <令和2年4月>		博士 (学術)		現代社会Ⅱ	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 准教授 (平20.10)	5日
280	兼担	准教授	増本 賢治 <令和2年4月>		博士 (医学)		身体運動科学実習Ⅰ 身体運動科学実習Ⅱ 身体運動科学実習Ⅲ 身体運動科学実習Ⅳ 健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③～④ 2前①～② 2後③～④・3前①～② 2後③～④・3前①～② 1後③	2 1 1 1 1	2 1 1 1 1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 (平27.4)	5日
281	兼担	准教授	松下 智子 <令和2年4月>		博士 (心理学)		基幹教育センター 心理学・精神医学からみたキャンパスライフ	1前② 1後④	1 1	1 1	九州大学 キャンパスライフ・健康支援センター 准教授 (平23.10)	5日
282	兼担	准教授	松島 綾美 <令和2年4月>		博士 (理学)		身の回りの化学	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 准教授 (平17.2)	5日
283	兼担	准教授	光藤 宏行 <令和2年4月>		博士 (人間環境学)		心理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 人間環境学研究院 准教授 (平19.4)	5日
284	兼担	准教授	宮脇 仁 <令和2年4月>		博士 (理学)		分子の科学	1後③～④	2	1	九州大学 先導物質化学研究所 准教授 (平20.2)	5日
285	兼担	准教授	村山 美乃 <令和2年4月>		博士 (工学)		無機物質化学	1前①～②・後③～④	1.5	1	九州大学 理学研究院 准教授 (平27.3)	5日
286	兼担	准教授	安武 大輔 <令和2年4月>		博士 (農学)		農のための植物-環境系輸送現象論	1後③	1	1	九州大学 農学研究院 准教授 (平27.4)	5日
287	兼担	准教授	安田 章人 <令和2年4月>		博士 (地域研究)		基幹教育センター 社会調査法ⅡA 【隔年】 社会調査法ⅡB 【隔年】	1前② 2後③ 2後④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平25.4)	5日
288	兼担	准教授	安永 和央 <令和2年4月>		博士 (心理学)		基幹教育センター 社会調査法ⅠA 社会調査法ⅠB	1前② 2前① 2前②	1 1 1	1 1 1	九州大学 アドミッションセンター 准教授 (平28.3)	5日
289	兼担	准教授	山田 琢磨 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター 課題協学科目 物理学概論B演習 自然科学総合実験(基礎) 自然科学総合実験(発展)	1前② 1後③～④ 1後③～④ 1前①・後③ 1前②・後④	1 2.5 1 1 1	1 1 1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平25.5)	5日
290	兼担	准教授	山田 政寛 <令和2年4月>		博士 (学術)		基幹教育センター 現代教育学入門 教育基礎学入門	1前② 1前①・②・後③・④ 1前①・②・後③・④	1 1 1	1 1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平25.1)	5日
291	兼担	准教授	山田 祐樹 <令和2年4月>		博士 (心理学)		心理学入門 認知心理学	1前①～②・後③～④ 2後④	4 1	2 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平25.10)	5日
292	兼担	准教授	山本 紀子 <令和2年4月>		博士 (医学)		健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③	1	1	九州大学 キャンパスライフ・健康支援センター 准教授 (平25.4)	5日
293	兼担	准教授	横田 晋務 <令和2年4月>		博士 (教育学)		基幹教育センター 課題協学科目	1前② 1後③～④	1 2.5	1 1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平29.2)	5日
294	兼担	准教授	横森 大輔 <令和2年4月>		博士 (人間・環境学)		学術英語A・プロダクション	1前①～②	1	1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平26.4)	5日
295	兼担	准教授	吉武 剛 <令和2年4月>		博士 (工学)		基幹物理学ⅠA	1前①～②	1.5	1	九州大学 総合理工学研究院 准教授 (平8.4)	5日
296	兼担	准教授	李 麗君 <令和2年4月>		博士 (比較社会文化)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 中国語実践Ⅰ 中国語実践Ⅱ 中国語表現・読解演習Ⅱ	1前①～② 1後③～④ 2前①～② 1後③～④ 2前①～② 2後③～④	4 4 2 3 2 2	2 2 2 3 2 1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平22.4)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千 円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数
297	兼担	准教授	レイカー スティーブン Laker Stephen <令和2年4月>		博士 (言語学) (英語)		学術英語B・インテグレート	1後③～④	2	1	九州大学 言語文化研究院 准教授 (平26.4)	5日
298	兼担	講師	ウチノ 若希 内田 若希 <令和2年4月>		博士 (心理学)		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習 I 身体運動科学実習 II	1前①～② 1後③～④ 2前①～②	2 4 1	2 4 1	九州大学 人間環境学研究院 講師 (平24.10)	5日
299	兼担	講師	キクハシ アツシ 菊川 誠 <令和2年4月>		Master of Medical Education		インフォーマット・コンセプト	3前①～②	1	1	九州大学 医学研究院 講師 (平22.12)	5日
300	兼担	講師	フスミ ケンタロウ 楠見 健介 <令和2年4月>		博士 (理学)		生命の科学A	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 講師 (平10.7)	5日
301	兼担	講師	コバヤシ ユウスケ 小林 亮介 <令和2年4月>		博士 (文学)		現代史II	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 (平29.4)	5日
302	兼担	講師	タカヤナギ (花村) シゲミ 高柳 (花村) 茂美 <令和2年4月>		文学修士		健康・スポーツ科学演習 身体運動科学実習 I	1前①～② 1後③～④	1 3	1 3	九州大学 キャンパス・健康支援センター 講師 (平1.4)	5日
303	兼担	講師	テラノ リン 寺野 梨香 <令和2年4月>		博士 (国際バリエーション学)		アントラ・レナシップ・マーケティング基礎	2後③	1	1	九州大学 ロバート・フリン/アントラ・レナシップ・ センター 講師 (平30.4)	5日
304	兼担	講師	オサキ シンタロウ 長沼 祥太郎 <令和2年4月>		博士 (総合学術)		基幹教育セミナー	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 講師 (平31.1)	5日
305	兼担	講師	ナカノ アツシ 中野 伸彦 <令和2年4月>		博士 (理学)		地球科学	1前①・後③	1	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 (平19.1)	5日
306	兼担	講師	パウエルズ ルーベン Pauwels Ruben ガブリエラ アンドリース Gabriella Andries <令和2年4月>		修士 (日本学科)		学術英語B・インテグレート 学術英語C・スピーチ	1後③～④ 2前①・②・後③・④	2 2	1 2	九州大学 言語文化研究院 講師 (平27.10)	5日
307	兼担	講師	ホルヘ・アントニオ・フアン Formacion Antonio Jr Prudente <令和2年4月>		修士 (法学)		Law in Everyday Life A Law in Everyday Life B	1後③ 1後④	1 1	1 1	九州大学 法学研究院 講師 (平22.1)	5日
308	兼担	講師	フジノ 悠一郎 藤岡 悠一郎 <令和2年4月>		博士 (地域研究)		地理学入門	1前①～②・後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 (平29.4)	5日
309	兼担	講師	フジタ トモ子 藤田 智子 <令和2年4月>		博士 (社会学)		男女共同参画	2後③～④	2	1	九州大学 比較社会文化研究院 講師 (平29.10)	5日
310	兼担	講師	フジタ フミ 船津 文香 <令和2年4月>		博士 (心理学)		基幹教育セミナー	1前②	1	1	九州大学 キャンパス・健康支援センター 講師 (平28.4)	5日
311	兼担	講師	ボストン ジェレミー スコット Boston Jeremy Scott <令和2年4月>		Doctor of Education		学術英語B・インテグレート	1後③～④	2	1	九州大学 言語文化研究院 講師 (平28.4)	5日
312	兼担	講師	マサミ 丸山 マサ美 <令和2年4月>		博士 (医学)		医療倫理学 I 医療倫理学 II バイオエシックス入門	1後③ 1後④ 1前②	1 1 2	1 1 2	九州大学 医学研究院 講師 (平9.4)	5日
313	兼担	講師	ヤマダ ユタカ 山田 裕美 <令和2年4月>		修士 (経営学)		アントラ・レナシップ・組織論基礎	2前①	1	1	九州大学 ロバート・フリン/アントラ・レナシップ・ センター 講師 (平30.4)	5日
314	兼担	助教	フジカ 正俊 荒牧 正俊 <令和2年4月>		博士 (工学)		基幹物理学 I B 演習	1後③～④	1	1	九州大学 工学研究院 助教 (昭60.4)	5日
315	兼担	助教	アリの 智子 有賀 智子 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育セミナー 自然科学総合実験 (基礎) 自然科学総合実験 (発展)	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	1 2 2	1 2 2	九州大学 基幹教育院 助教 (平29.4)	5日
316	兼担	助教	イノエ 薫 伊藤 薫 <令和2年4月>		博士 (人間・環境学)		学術英語A・C.A.L.L. 学術英語B・C.A.L.L.	1前①～② 1後③～④	2 2	2 2	九州大学 言語文化研究院 助教 (平31.4)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千 円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数
317	兼担	助教	伊藤 太一 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター 自然科学総合実験(基礎) 自然科学総合実験(発展)	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	1 3 3	1 3 3	九州大学 基幹教育院 助教 (平27.9)	5日
318	兼担	助教	今井 洋輔 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 助教 (平26.4)	5日
319	兼担	助教	今福 泰浩 <令和2年4月>		博士 (理学)		基礎生物学概要	1前①～②・後③～④	1.5	1	九州大学 理学研究院 助教 (平10.9)	5日
320	兼担	助教	Wolanski Bartosz Piotr <令和2年4月>		博士 (比較社会文 化)		基幹教育センター	1前②	2	2	九州大学 基幹教育院 助教 (平29.11)	5日
321	兼担	助教	大塚 知昇 <令和2年4月>		博士 (文学)		学術英語B・インテグレート	1後③～④	2	1	九州大学 言語文化研究院 助教 (平31.4)	5日
322	兼担	助教	大西 敏平 <令和2年4月>		博士 (科学)		自然科学総合実験(基礎) 自然科学総合実験(発展)	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 助教 (平25.9)	5日
323	兼担	助教	木島 孝之 <令和2年4月>		博士 (工学)		日本建築史	2前②	2	1	九州大学 人間環境学研究院 助教 (平10.4)	5日
324	兼担	助教	佐々木 紀親 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター 自然科学総合実験(基礎) 自然科学総合実験(発展)	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	1 2 2	1 2 2	九州大学 基幹教育院 助教 (平24.4)	5日
325	兼担	助教	佐々木 真 <令和2年4月>		博士 (理学)		少人数センター	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 応用力学研究所 助教 (平22.1)	5日
326	兼担	助教	猿渡(井島) 悦子 <令和2年4月>		博士 (水産学)		基幹教育センター 自然科学総合実験(基礎) 自然科学総合実験(発展)	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	1 3 3	1 3 3	九州大学 基幹教育院 助教 (平24.4)	5日
327	兼担	助教	末原 大幹 <令和2年4月>		博士 (理学)		自然科学総合実験(基礎) 自然科学総合実験(発展)	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 理学研究院 助教 (平25.10)	5日
328	兼担	助教	黒山 慶太郎 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 助教 (平25.4)	5日
329	兼担	助教	田尾 周一郎 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 助教 (平18.5)	5日
330	兼担	助教	田中 充 <令和2年4月>		博士 (農学)		自然科学総合実験(基礎)	1前①・後③	1	1	九州大学 農学研究院 助教 (平23.9)	5日
331	兼担	助教	谷口 雄太 <令和2年4月>		博士 (情報科学)		プログラミング演習	1前①～②・後③～④	1	1	九州大学 システム情報科学研究院 助教 (平29.10)	5日
332	兼担	助教	萬原 亮 <令和2年4月>		修士 (言語学)		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ スペイン語Ⅲ スペイン語フォーラム	1前①～② 1後③～④ 2前①～② 1後③～④	2 2 1 1	1 1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 (平29.10)	5日
333	兼担	助教	萬谷 充伸 <令和2年4月>		博士 (理学)		微分積分学・同演習Ⅲ	1後④・2前①～②	3	2	九州大学 数理学研究院 助教 (平28.5)	5日
334	兼担	助教	土屋 晋行 <令和2年4月>		博士 (人間・環境 学)		学術英語B・インテグレート	1後③～④	2	1	九州大学 言語文化研究院 助教 (平27.4)	5日
335	兼担	助教	友原 啓介 <令和2年4月>		博士 (薬学)		基幹教育センター	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 助教 (平29.10)	5日
336	兼担	助教	中里 健一郎 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育センター 自然科学総合実験(基礎) 自然科学総合実験(発展)	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	1 2 2	1 2 2	九州大学 基幹教育院 助教 (平27.10)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千 円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する 相当たり平均日 数
337	兼担	助教	ナガハシ 貴宏 <令和2年4月>		博士 (農学)		自然科学総合実験(発展)	1前②・後④	1	1	九州大学 農学研究院 助教 (平27.12)	5日
338	兼担	助教	ナカノ 豊 <令和2年4月>		農学博士		命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②	2	1	九州大学 農学研究院 助教 (平4.4)	5日
339	兼担	助教	ナガハシ 健一 <令和2年4月>		博士 (理学)		微分積分学 数学演習Ⅱ	1後③～④ 2前①～②	1.5 1	1 1	九州大学 数理学研究院 助教 (平30.9)	5日
340	兼担	助教	ナガタニ 益己 <令和2年4月>		博士 (農学)		自然科学総合実験(基礎)	1前①・後③	1	1	九州大学 農学研究院 助教 (平15.10)	5日
341	兼担	助教	ハヤシ 裕樹 <令和2年4月>		博士 (工学)		基幹教育セミナー	1前②	1	1	九州大学 基幹教育院 助教 (平29.4)	5日
342	兼担	助教	オグシ 貴弘 <令和2年4月>		博士 (理学)		生命の科学B	1前①・②・後③・④	1	1	九州大学 理学研究院 助教 (平26.9)	5日
343	兼担	助教	マツモト 悠太 <令和2年4月>		博士 (創薬科学)		自然科学総合実験(基礎) 自然科学総合実験(発展)	1前①・後③ 1前②・後④	1 1	1 1	九州大学 薬学研究院 助教 (平28.6)	5日
344	兼担	助教	マツノ 圭 <令和2年4月>		博士 (理学)		基幹教育セミナー 自然科学総合実験(基礎) 自然科学総合実験(発展)	1前② 1前①・後③ 1前②・後④	1 3 3	1 3 3	九州大学 基幹教育院 助教 (平27.10)	5日
345	兼担	助教	モリカワ 龍哉 <令和2年4月>		博士 (工学)		基幹物理学ⅠA演習	1前①～②	1	1	九州大学 工学研究院 助教 (平7.4)	5日
346	兼担	助教	ヨコタ 慎吾 <令和2年4月>		博士 (農学)		自然科学総合実験(発展)	1前②・後④	1	1	九州大学 農学研究院 助教 (平22.10)	5日
347	兼担	助教	イシノ 麟 <令和2年4月>		博士 (人間・環境 学)		中国語実践Ⅰ 中国語オーディオ・リスニング演習Ⅰ 中国語オーディオ・リスニング演習Ⅱ	1後③～④ 2前①～② 2後③～④	1 2 2	1 1 1	九州大学 言語文化研究院 助教 (平28.4)	5日

教 員 の 氏 名 等

(芸術工学部芸術工学科)

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
1	専	教授 (学部長)	カニ マサズ 谷 正和 <令和2年4月>		Doctor of Philosophy (7月)		物質文化論 グローバル化と伝統的社会 共通課題PBL演習A 共通課題PBL演習B プラットフォーム演習 A プラットフォーム演習 B プラットフォーム演習 C プラットフォーム演習 D コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB	2後④ 3後③ 2前① 3前① 2後③ 3後③ 2後③ 3後③ 2・3前②・後③ 2・3前②・後③	1 1 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
2	専	教授	イトウ ヒロキ 伊藤 裕之 <令和2年4月>		博士 (文学) ※		メディアデザイン概論Ⅲ※ 視覚心理学 知覚心理学※ 主観評価法※ メディアデザイン総合プロジェクト I メディアデザイン総合プロジェクト II メディアサイエンス演習 I ※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究 I 卒業研究 II	2前① 2前① 2前② 3前①～② 3前① 3後④ 2後④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 2 0.8 0.5 2 2 1 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
3	専	教授	イハラ ヒサシ 伊原 久裕 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		メディア表現基礎※ タイポグラフィックデザイン グラフィックデザイン 広告クリエイティブデザイン※ 国際メディアデザインA I 国際メディアデザインA II 国際メディアデザインA III 国際メディアデザインA IV 国際メディアデザインB I 国際メディアデザインB II 国際メディアデザインB III 国際メディアデザインB IV インターンシップ (学部) I インターンシップ (学部) II メディアデザイン総合プロジェクト I メディアデザイン総合プロジェクト II コミュニケーションデザイン演習 I コミュニケーションデザイン演習 II コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究 I 卒業研究 II	2前① 2前② 2後④ 3後③ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 3・4通 3・4通 3前① 3後④ 2前④ 3前① 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 1 1 0.3 1 1 1 1 2 2 2 2 1 1 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
4	専	教授	オオイ ヒロキ 大井 尚行 <令和2年4月>		工学博士		環境情報論 I 環境情報論 II 国際環境デザインA I 国際環境デザインA II 国際環境デザインA III 国際環境デザインA IV 国際環境デザインB I 国際環境デザインB II 国際環境デザインB III 国際環境デザインB IV インターンシップ (学部) I インターンシップ (学部) II 環境設計プロジェクトA 環境設計プロジェクトE 環境総合プロジェクトA 環境総合プロジェクトB コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究 I 卒業研究 II	3後③ 3後④ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 3・4通 3・4通 2前① 3前① 4前① 4前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 1 1 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
5	専	教授	オノ アキラ 尾本 章 <令和2年4月>		博士 (工学)		音響理論演習Ⅱ 騒音環境学※ 非線形理論※ 室内音響学 音響実験Ⅰ 音響実験Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2後③ 3前① 3前② 3後④ 3前① 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 0.4 0.4 2 2 3 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
6	専	教授	カネコ ヒロユキ 包清 博之 <令和2年4月>		博士(農学)		緑地環境設計論 環境設計プロジェクトC 環境設計プロジェクトF コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB	2後④ 2後③ 3前② 2・3前②・後③ 2・3前②・後③	2 2 2 4 4	1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
7	専	教授	カガネ アキラ 鏡木 時彦 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		音響信号処理 音声情報学※ 音響メディア工学 音響メディア工学演習 楽器音響学※ 国際音響デザインAⅠ 国際音響デザインAⅡ 国際音響デザインAⅢ 国際音響デザインAⅣ 国際音響デザインBⅠ 国際音響デザインBⅡ 国際音響デザインBⅢ 国際音響デザインBⅣ インターンシップ(学部)Ⅰ インターンシップ(学部)Ⅱ 音響実験Ⅰ 音響実験Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2後④ 3前② 3後③ 3後③ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 3・4通 3・4通 3前① 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 0.7 2 2 0.4 1 1 1 1 2 2 2 2 1 1 2 3 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
8	専	教授	カネ デウ 金 大雄 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		メディア表現基礎※ 映像表現 メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ コンテンツデザイン演習Ⅰ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2前① 3前① 3後④ 2後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1.3 2 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
9	専	教授	キヌミ マサヒロ 清須美 匡洋 <令和2年4月>		芸術学修士		ライフスケープデザイン概論※ ライフスケープデザイン実践論※ ライフスケープデザイン論・演習Ⅰ ライフスケープデザイン論・演習Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB	2前② 2後③ 2後③ 2後④ 2前②・後③ 2前②・後③	0.3 0.3 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平17.4)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
15	専	教授	トウリ イサシ 都甲 康至 <令和2年4月>		芸術工学士		サービスデザイン概論※ サービスデザイン実践論※ ビジネスデザイン論・演習Ⅰ※ ビジネスデザイン論・演習Ⅱ※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB	2前② 2後④ 2前② 2後③ 2前②・後③ 2前②・後③	0.4 0.3 0.5 0.5 4 4	1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平18.4)	5日
16	専	教授	ヒガチ シノブ 樋口 重和 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		人間科学とデザイン 人間工学概論※ 感性科学 行動生理学 人間工学先端セミナー 人間工学演習Ⅰ 人間工学演習Ⅱ 人間工学プロジェクト演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2前① 2前② 2後④ 3後③ 2前①～② 3前①～② 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 0.4 1 1 1 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平21.4)	5日
17	専	教授	ヒライ ナスミ 平井 康之 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		プロダクトデザイン概論※ プロダクトデザイン実践論※ イノベーションデザイン論・演習Ⅰ※ イノベーションデザイン論・演習Ⅱ※ クリエイティブデザイン演習 プロダクトデザイン実践論・演習Ⅰ※ プロダクトデザイン実践論・演習Ⅱ※ ビジネスデザイン論・演習Ⅰ※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2前② 3前① 3前② 3後③～④ 2前① 2前② 2前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 0.3 1 1 1 1 0.5 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
18	専	教授	マエダ タカシ 前田 享史 <令和2年4月>		博士 (医学) 博士 (芸術工学)		人間工学概論※ 環境人間工学 環境生理学 生理人類学 人間工学先端セミナー 国際インダストリアルデザインAⅠ 国際インダストリアルデザインAⅡ 国際インダストリアルデザインAⅢ 国際インダストリアルデザインAⅣ 国際インダストリアルデザインBⅠ 国際インダストリアルデザインBⅡ 国際インダストリアルデザインBⅢ 国際インダストリアルデザインBⅣ インターシッパ(学部)Ⅰ インターシッパ(学部)Ⅱ 人間工学演習Ⅰ 人間工学演習Ⅱ 人間工学プロジェクト演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2後④ 2後③ 3前② 3後③ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 3前① 3前② 3後③ 3後④ 3・4通 3・4通 2前①～② 3前①～② 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 1 1 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平27.4)	5日
19	専	教授	ムサシ リシ 村木 里志 <令和2年4月>		博士 (学術)		身体運動科学実習Ⅱ 人間工学概論※ 福祉人間工学 人間工学先端セミナー リサーチリテラシー※ 人間工学演習Ⅰ 人間工学演習Ⅱ 人間工学プロジェクト演習 フィールド調査論・演習※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前①～② 2前① 2前② 3後③ 3後③ 2前①～② 3前①～② 3後③～④ 2後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 0.3 1 1 1 0.5 4 4 4 2.9 4 4 4 4	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
20	専	教授	ヤコリ マサト 矢向 正人 <令和2年4月>		博士(学術)		音文化論 比較音楽理論 音楽学※ 音楽理論表現演習 応用音楽表現演習 I 応用音楽表現演習 II 音響実験 II コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB	2前① 2前② 3前① 2前①～② 2後③ 2後④ 3後③～④ 2・3前②・後③ 2・3前②・後③	2 2 1.9 0.7 0.3 0.3 3 4 4	1 1 1 2 1 1 2 1 1	九州大学 芸術工学研究院 教授 (平15.10)	5日
21	専	准教授	アサヒロ カズオ 朝廣 和夫 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		空間情報分析実習 I 空間情報分析実習 II 環境保全論 緑地環境設計論 ランドスケープデザイン論 緑地環境実習 環境設計プロジェクトC 環境設計プロジェクトF 環境総合プロジェクトA 環境総合プロジェクトB コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究 I 卒業研究 II	2後③ 2後④ 2後③ 2後④ 3前① 2前① 2後③ 3前② 4前① 4前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 1 2 2 2 1 2 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
22	専	准教授	イケガミ ミチコ 池田 美奈子 <令和2年4月>		修士 (美術)		デザイン史 視覚芸術基礎 コンセプト論 芸術表現論 デザイン編集論・演習 アート・デザイン・ライティング演習 共通課題PBL演習A 共通課題PBL演習B プラットフォーム演習 A プラットフォーム演習 B プラットフォーム演習 C プラットフォーム演習 D コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究 I 卒業研究 II	2後③～④ 2前① 2後③ 2後③ 2後③ 2後④ 2前① 3前① 2後③ 3後③ 2後③ 3後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 1 1 1 1 1 4 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
23	専	准教授	イシイ タツロウ 石井 達郎 <令和2年4月>		修士 (芸術工学) ※		メディア表現基礎※ アニメーション表現 メディアデザイン総合プロジェクト I メディアデザイン総合プロジェクト II コンテンツデザイン演習 I コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究 I 卒業研究 II	2前① 2前② 3前① 3後④ 2後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1.3 2 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
24	専	准教授	イノヒロシ 伊藤 浩史 <令和2年4月>		博士 (理学)		プログラミング基礎 プログラミング設計 シミュレーション数理 シミュレーション演習 先端情報生命科学 I 先端情報生命科学 II 非線形理論※ 共通課題PBL演習A 共通課題PBL演習B プラットフォーム演習 A プラットフォーム演習 B プラットフォーム演習 C プラットフォーム演習 D コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究 I 卒業研究 II	2前② 2後③ 3前① 3前① 2後③ 2後④ 3前② 2前① 3前① 2後③ 3後③ 2後③ 3後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 1 1 1 1 1 0.4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平23.10)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
25	専	准教授	イノエ コウヘイ 井上 光平 <令和2年4月>		博士 (工学)		メディアプログラミング※ コンテンツ工学 メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ コンテンツインタラクティブ演習※ クリエイティブ発想演習 クリエイティブプロトタイプ演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2前② 3前① 3後④ 3前① 3後③ 3後④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.8 2 2 2 0.8 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
26	専	准教授	イノウエ トモ 井上 朝雄 <令和2年4月>		博士 (工学) ※		空間デザイン実習 環境構法論 構法設計論 建築生産 環境設計プロジェクトB 環境総合プロジェクトA 環境総合プロジェクトB コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2後④ 3前① 3後③ 2前② 4前① 4前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 2 2 2 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.12)	5日
27	専	准教授	ウエカ ヒロコ 上岡 玲子 <令和2年4月>		博士 (工学)		インタラクティブデザイン バーチャルリアリティ メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ 実世界インタラクティブ演習※ クリエイティブ発想演習 クリエイティブプロトタイプ演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2後③ 3前① 3前① 3後④ 3前② 3後③ 3後④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 2 2 2 1 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平24.4)	5日
28	専	准教授	ウエダ カズオ 上田 和夫 <令和2年4月>		博士 (文学) ※		聴覚生理学※ 聴覚心理学※ 知覚心理学※ 主観評価法※ 聴覚認知論 音響実験Ⅰ 音響実験Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2後③ 2前② 3前①～② 3前①～② 3前① 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.8 1.1 0.8 1.1 2 2 3 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
29	専	准教授	ウカイ テツヤ 鶴岡 哲矢 <令和2年4月>		修士 (工学)		建築空間設計論 環境設計プロジェクトE 環境設計プロジェクトH 環境総合プロジェクトA 環境総合プロジェクトB コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	3前② 3前① 3後④ 4前① 4前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 2 2 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平21.8)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
35	専	准教授	サイト トフミ 齋藤 俊文 <令和2年4月>		修士 (数学)		ライフスケープデザイン概論※ ライフスケープデザイン実践論※ ライフスケープデザイン実践論・演習 I ライフスケープデザイン実践論・演習 II クリエイティブデザイン演習 広告クリエイティブデザイン※ ライフスケープデザイン論・演習 I ライフスケープデザイン論・演習 II コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究 I 卒業研究 II	2前② 2後③ 3前① 3前② 3後③～④ 3後③ 2後③ 2後④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 0.3 2 2 2 0.5 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平18.4)	5日
36	専	准教授	サジマ トシヤ 鯨島 俊哉 <令和2年4月>		博士 (工学)		音響理論演習 I 応用音響理論 非線形理論※ 楽器音響学※ 音響実験 I 音響実験 II コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究 I 卒業研究 II	2前① 2後④ 3前② 3後③ 3前① 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 2 1.2 1.6 2 3 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
37	専	准教授	ジョウ カズヒロ 城 一裕 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		音楽・音響論 基礎造形 II 基礎造形 IV 音文化論 音文化論演習 応用音楽表現演習 I 応用音楽表現演習 II 音響生成演習 音響実験 II コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究 I 卒業研究 II	2後③～④ 2前② 2後④ 2前① 2後④ 2後③ 2後④ 3前② 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 1 1 2 2 0.3 0.3 2 3 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平28.3)	5日
38	専	准教授	サキモト ミツカ 杉本 美貴 <令和2年4月>		博士 (学術)		デザイン・ケーススタディ II プロダクトデザイン概論※ プロダクトデザイン実践論※ イノベーションデザイン論・演習 I ※ イノベーションデザイン論・演習 II ※ クリエイティブデザイン演習 プロダクトデザイン実践論・演習 I ※ プロダクトデザイン実践論・演習 II ※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究 I 卒業研究 II	3後③ 2前① 2前② 3前① 3前② 3後③～④ 2前① 2前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 0.3 0.3 1 1 2 1 1 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平24.4)	5日
39	専	准教授	サカキ ショウジ 須長 正治 <令和2年4月>		博士 (工学)		メディアデザイン概論 III ※ 色彩学 メディアデザイン総合プロジェクト I メディアデザイン総合プロジェクト II メディアサイエンス演習 II コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究 I 卒業研究 II	2前① 2前② 3前① 3後④ 3前② 3後③～④ 2前① 2前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 2 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
40	専	准教授	セノ タケル 妹尾 武治 <令和2年4月>		博士 (心理学) ※		メディアデザイン概論Ⅲ※ 心理学的思考法 メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ メディアサイエンス演習Ⅰ※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 3後③ 3前① 3後④ 2後④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 2 2 2 1 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平24.12)	5日
41	専	准教授	ゾウベ 春香 曾我部 春香 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		空間表現実習Ⅱ ライフスケープデザイン実践論※ ライフスケープデザイン実践論・演習Ⅰ ライフスケープデザイン実践論・演習Ⅱ クリエイティブデザイン演習 ライフスケープデザイン演習 ライフスケープデザイン概論※ ライフスケープデザイン論・演習Ⅰ ライフスケープデザイン論・演習Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	1後③～④ 2後③ 3前① 3前② 3後③～④ 2前② 2後③ 2後④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 0.3 2 2 2 0.3 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平21.4)	5日
42	専	准教授	タカダ マサキ 高田 正幸 <令和2年4月>		博士 (工学) ※		騒音環境学※ 聴能形成Ⅱ 音響実験Ⅰ 音響実験Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	3前① 2前①～② 3前① 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.8 0.5 2 3 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
43	専	准教授	タケノチ カズキ 竹之内 和樹 <令和2年4月>		工学博士 ※		メカニクスデザイン メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ 実世界インタラクション演習※ クリエイティブ発想演習 クリエイティブプロトタイプング演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 3前① 3後④ 3前② 3後③ 3後④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 2 2 1 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
44	専	准教授	タケノチ リョウイ 田村 良一 <令和2年4月>		博士 (工学)		サービスデザイン概論※ サービスデザイン実践論※ ソーシャルデザイン論・演習Ⅰ※ ソーシャルデザイン論・演習Ⅱ※ クリエイティブデザイン演習 リサーチリテラシー※ ビジネスデザイン論・演習Ⅰ※ ビジネスデザイン論・演習Ⅱ※ フィールド調査論・演習※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前② 2後④ 3前① 3前② 3後③～④ 3後③ 2前② 2後③ 2後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.4 0.4 1.3 1.3 2 0.4 0.5 0.5 1.9 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
45	専	准教授	トモリ 美加子 知足 美加子 <令和2年4月>		博士 (芸術学)		基礎造形Ⅰ 基礎造形Ⅲ メディア表現基礎※ 芸術論 メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ 造形表現演習 数理造形と表現演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2後③ 2前① 2前① 3前① 3後④ 2前② 3前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 1 0.8 2 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
46	専	准教授	カミイ ミ 中村 美亜 <令和2年4月>		博士 (学術)		先端芸術表現論 価値と政策 表象文化論 芸術コミュニケーション論 ファシリテーション 共通課題PBL演習A 共通課題PBL演習B プラットフォーム演習 A プラットフォーム演習 B プラットフォーム演習 C プラットフォーム演習 D コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	3前② 3後④ 2後④ 3前① 3前① 2前① 3前① 2後③ 3後③ 2後③ 3後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 1 1 1 1 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平26.4)	5日
47	専	准教授	ハラ ケンジ 原 健二 <令和2年4月>		博士 (工学)		メディアプログラミング※ メディア情報処理 メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ コンテンツインタラクション演習※ クリエイティブ発想演習 クリエイティブプロトタイプ演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2前① 3前① 3後④ 3前① 3後③ 3後④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.8 2 2 2 0.8 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平16.1)	5日
48	専	准教授	フジ トモキ 藤 智亮 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		プロダクトデザイン概論※ プロダクトデザイン実践論※ イノベーションデザイン論・演習Ⅰ※ イノベーションデザイン論・演習Ⅱ※ クリエイティブデザイン演習 リサーチリテラシー※ プロダクトデザイン実践論・演習Ⅰ※ プロダクトデザイン実践論・演習Ⅱ※ フィールド調査論・演習※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2前② 3前① 3前② 3後③～④ 3後③ 2前① 2前② 2後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 0.3 1 1 2 0.1 1 1 1.9 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
49	専	准教授	ホール マイケル Hall Michael <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		専門英語 Design Pitching Skills 共通課題PBL演習A 共通課題PBL演習B プラットフォーム演習 A プラットフォーム演習 B プラットフォーム演習 C プラットフォーム演習 D コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究 I 卒業研究 II	2前①～② ・後③～④ 2後③ 2前① 3前① 2後③ 3後③ 2後③ 3後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 1 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平18.4)	5日
50	専	准教授	マツグマ ヒロキ 松隈 浩之 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		メディア表現基礎※ ゲームデザイン メディアデザイン総合プロジェクト I メディアデザイン総合プロジェクト II コンテンツデザイン演習 II コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究 I 卒業研究 II	2前① 2後③ 3前① 3後④ 2後④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1.3 2 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
51	専	准教授	マツマエ フカネ 松前 あかね <令和2年4月>		博士 (知識科学) 法務博士 (専門職)		サービスデザイン概論※ サービスデザイン実践論※ ソーシャルデザイン論・演習 I ※ ソーシャルデザイン論・演習 II ※ クリエイティブデザイン演習 ビジネスデザイン論・演習 I ※ ビジネスデザイン論・演習 II ※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究 I 卒業研究 II	2前② 2後④ 3前① 3前② 3後③～④ 2前② 2後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 0.4 0.8 0.8 2 0.5 0.5 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平29.9)	5日
52	専	准教授	マルヤマ オサム 丸山 修 <令和2年4月>		博士 (理学)		情報科学 I 情報科学 II 情報科学 III 共通課題PBL演習 A 共通課題PBL演習 B プラットフォーム演習 A プラットフォーム演習 B プラットフォーム演習 C プラットフォーム演習 D コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究 I 卒業研究 II	2前① 2後④ 3前① 2前① 3前① 2後③ 3後③ 2後③ 3後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 1 1 4 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
53	専	准教授	ヤマウチ カツキ 山内 勝也 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		騒音環境学※ 音響プログラミング演習※ 収音音響構成 環境音響構成 音響実験 II コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究 I 卒業研究 II	3前① 2前② 2前② 2後④ 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.8 1.1 2 2 3 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平27.4)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
54	専	准教授	ヨシカ トモズ 吉岡 智和 <令和2年4月>		博士 (工学)		空間デザイン実習 構造理論Ⅰ 構造理論Ⅱ 構造システム論Ⅰ 構造システム論Ⅱ 環境テクノロジー実習A 環境総合プロジェクトA 環境総合プロジェクトB コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2前① 2前② 3後③ 3後④ 3前① 4前① 4前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 1 1 1 1 1 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
55	専	准教授	ヨシカ ユキス 吉永 幸靖 <令和2年4月>		博士 (工学)		デジタル信号処理 デジタル信号処理演習 電気実験 音響実験Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2後③ 2後④ 3前①～② 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 2 2 3 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平15.10)	5日
57	専	准教授	レイン ジェラート バスタア ン Remijn Gerard Bastiaan <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		聴覚生理学※ 聴覚心理学※ 知覚心理学※ 主観評価法※ 音響実験Ⅰ 音響実験Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2後③ 2前② 3前①～② 3前① 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.9 0.9 0.3 0.4 2 3 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 准教授 (平22.1)	5日
58	専	講師	イワカ トモ 今坂 智子 <令和2年4月>		博士 (工学)		環境総合プロジェクトA 環境総合プロジェクトB コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	4前① 4前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 講師 (平15.10)	5日
59	専	講師	ツチ シュン 土屋 潤 <令和2年4月>		博士 (工学)		環境材料論Ⅰ 環境材料論Ⅱ 環境総合プロジェクトA 環境総合プロジェクトB コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2前② 4前① 4前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 1 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 講師 (平30.11)	5日
60	専	助教	アキ ナシラ 秋田 直繁 <令和2年4月>		修士 (芸術工学)		ライフスケープデザイン概論※ ライフスケープデザイン実践論※ ライフスケープデザイン実践論・演習Ⅰ ライフスケープデザイン実践論・演習Ⅱ クリエイティブデザイン演習 ライフスケープデザイン論・演習Ⅰ ライフスケープデザイン論・演習Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前② 2後③ 3前① 3前② 3後③～④ 2後③ 2後④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 0.3 2 2 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平25.4)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
61	専	助教	アノカ マサキ 麻生 典 <令和2年4月>		博士 (法学)		メディアデザイン概論Ⅲ※ 知的財産法 メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ 知的財産マネジメント演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 3前② 3前① 3後④ 3後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 2 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平25.4)	5日
62	専	助教	イムラ トシユウ 稲村 徳州 <令和2年4月>		Master (Design Engineering) (修士)		デザイン材料論・演習 バイオアート&デザイン論・演習 Design Pitching Skills Start-ups and Global Disruptors※ Intellectual Property Rights : Global Perspective※ Global Design Innovations※ 共通課題PBL演習A 共通課題PBL演習B プラットフォーム演習 A プラットフォーム演習 B プラットフォーム演習 C プラットフォーム演習 D コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2後④ 3後④ 2後③ 2前② 2後④ 2前② 2前① 3前① 2後③ 3後③ 2後③ 3後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 1 1 0.6 1 1 4 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平28.6)	5日
63	専	助教	イシノ マサキ 岩元 真明 <令和2年4月>		修士 (工学)		近代建築史 環境設計プロジェクトA 環境設計プロジェクトB 環境総合プロジェクトA 環境総合プロジェクトB コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	3前② 2前① 2前② 4前① 4前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 2 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平28.4)	5日
64	専	助教	イシノ コウジ 大草 孝介 <令和2年4月>		博士 (工学)		数理統計学 人間工学概論※ データ解析 データマイニングⅠ データマイニングⅡ 人間工学先端セミナー 人間工学演習Ⅰ 人間工学演習Ⅱ 人間工学プロジェクト演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前①～② ・後③～④ 2前① 2後③ 3前① 3前② 3後③ 2前①～② 3前①～② 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1.5 0.1 1 1 1 1 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平26.4)	5日
65	専	助教	イハラ カズヒロ 河原 一彦 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		電気工学 電子工学 音響機器論 聴能形成Ⅱ 音響実験Ⅰ 音響実験Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前①～② 2後③～④ 2後④ 2前①～② 3前① 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 2 2 0.5 2 3 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平15.10)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
66	専	助教	カモト ヨウイチ 川本 陽一 <令和2年4月>		博士 (工学)		環境調整システム論 設備計画論 環境テクノロジー実習B 環境設計プロジェクトB 環境総合プロジェクトA 環境総合プロジェクトB コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 3後③ 3前② 2前② 4前① 4前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 2 1 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平24.4)	5日
67	専	助教	ウツホ トモヒロ 迫野 知広 <令和2年4月>		修士 (芸術工学)		プロダクトデザイン概論※ プロダクトデザイン実践論※ イノベーションデザイン論・演習Ⅰ※ イノベーションデザイン論・演習Ⅱ※ クリエイティブデザイン演習 プロダクトデザイン実践論・演習Ⅰ※ プロダクトデザイン実践論・演習Ⅱ※ ビジネスデザイン論・演習Ⅱ※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2前② 3前① 3前② 3後③～④ 2前① 2前② 2後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 0.3 1 1 2 1 1 0.5 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平28.8)	5日
68	専	助教	トウ(北崎) キコ 藤(北崎) 紀里子 <令和2年4月>		修士 (芸術工学)		メディア表現基礎※ 広告クリエイティブデザイン※ 情報デザイン メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ コミュニケーションデザイン演習Ⅰ コミュニケーションデザイン演習Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 3後③ 2後③ 3前① 3後④ 2後④ 3前① 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 0.3 2 2 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平15.10)	5日
69	専	助教	ナガノ ユウイチロウ 長津 結一郎 <令和2年4月>		博士 (学術)		身体表現演習Ⅰ 身体表現演習Ⅱ 応用音楽表現演習Ⅰ 応用音楽表現演習Ⅱ アーツマネジメント論 質的社会調査法 音楽理論表現演習 共通課題PBL演習A 共通課題PBL演習B プラットフォーム演習 A プラットフォーム演習 B プラットフォーム演習 C プラットフォーム演習 D コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2前② 2後③ 2後④ 3後③ 2後③ 2前①～② 2前① 3前① 2後③ 3後③ 2後③ 3後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 1 0.3 0.3 1 1 0.7 4 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平28.4)	5日
70	専	助教	ニシダ(紺) ヒロコ 西田(紺) 紘子 <令和2年4月>		博士 (音楽学)		比較音楽理論 西洋音楽史 音楽学※ 音楽理論表現演習 応用音楽表現演習Ⅰ 応用音楽表現演習Ⅱ 音響実験Ⅰ 音響実験Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前② 2後③ 3前① 2前①～② 2後③ 2後④ 3前① 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 2 0.1 0.7 0.3 0.3 2 3 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平23.4)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
71	専	助教	ヒラマワ チヒロ 平松 千尋 <令和2年4月>		博士 (生命科学)		生命科学入門Ⅰ 生命科学入門Ⅱ 生命科学実習 知覚心理学※ 聴覚生理学※ 共通課題PBL演習A 共通課題PBL演習B プラットフォーム演習 A プラットフォーム演習 B プラットフォーム演習 C プラットフォーム演習 D コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前② 3前① 3後③ 2前② 2前① 2前① 3前① 2後③ 3後③ 2後③ 3後③ 2後③ 3後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	1 1 1 0.1 0.3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平25.9)	5日
72	専	助教	フクシマ アキ 福島 綾子 <令和2年4月>		博士 (工学)		環境文化財論 歴史環境実習 環境総合プロジェクトA 環境総合プロジェクトB コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	3前② 3後④ 4前① 4前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 1 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平18.2)	5日
73	専	助教	フユノ ミハル 冬野 美晴 <令和2年4月>		博士 (文学)		メディアデザイン概論Ⅲ※ 言葉とコミュニケーション※ メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ 比較演劇・メディア文化演習※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 2後③ 3前① 3後④ 3前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 1.1 2 2 0.8 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平25.9)	5日
74	専	助教	モトムラ コウキ 元村 祐貴 <令和2年4月>		博士 (感性学)		人間工学概論※ 生体情報処理論 人間工学先端セミナー 人間工学演習Ⅰ 人間工学演習Ⅱ 人間工学プロジェクト演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 3前① 3後③ 2前①～② 3前①～② 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 1 1 1 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平29.4)	5日
75	専	助教	モリモト コウキ 森本 有紀 <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		メディア表現基礎※ 数理造形 メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ 造形表現演習 数理造形と表現演習 コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 3前① 3前① 3後④ 2前② 3前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.8 2 2 2 2 2 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平28.8)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
76	専	助教	ヨシムラ リイ 吉村 理一 <令和2年4月>		修士 (文学)		専門英語 メディアデザイン概論Ⅲ※ 言葉とコミュニケーション※ メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ 比較演劇・メディア文化演習※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前①～② ・後③～④ 2前① 2後③ 3前① 3後④ 3前② 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 0.3 0.9 2 2 0.5 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平30.6)	5日
77	専	助教	ロー ピン ヤップ Loh Ping Yeap <令和2年4月>		博士 (工学)		人間工学概論※ 生活機能支援科学 人間工学先端セミナー 人間工学演習Ⅰ 人間工学演習Ⅱ 人間工学プロジェクト演習 フィールド調査論・演習※ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前① 3後③ 3後③ 2前①～② 3前①～② 3後③～④ 2後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	0.3 1 1 4 4 4 2.9 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平29.9)	5日
78	専	助教	ロウ ワイ リオン Loh Wei Leong <令和2年4月>		博士 (芸術工学)		専門英語 クリティカルシンキング 教育における多様性 Design Pitching Skills Start-ups and Global Disruptors※ Intellectual Property Rights : Global Perspective※ Global Design Innovations※ 共通課題PBL演習A 共通課題PBL演習B プラットフォーム演習 A プラットフォーム演習 B プラットフォーム演習 C プラットフォーム演習 D コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2前①～② ・後③～④ 2前① 3後④ 2後③ 2前② 2後④ 2前② 2前① 3前① 2後③ 3後③ 2後③ 3後③ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 0.5 1 1 0.4 0.5 0.4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平28.4)	5日
79	専	助教	ワケ コウヘイ 若宮 幸平 <令和2年4月>		博士 (工学)		情報理論 音声情報学※ 音響プログラミング演習※ 電気実験 音響実験Ⅰ 音響実験Ⅱ コース融合プロジェクトA コース融合プロジェクトB 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	3前①～② 2後④ 2前② 3前①～② 3前① 3後③～④ 2・3・4前②・後③ 2・3・4前②・後③ 4前①～② ・後③～④ 4前①～② ・後③～④	2 1.3 0.9 2 2 3 4 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	九州大学 芸術工学研究院 助教 (平15.10)	5日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千 円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
194	兼担	准教授	石井(アイシ)ロラモ 祐子 <令和2年4月>		博士 (文学)		芸術学概論	3後③～④	1	1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平25.10)	5日
217	兼担	准教授	梶原 健佑 <令和2年4月>		修士 (法学)		日本国憲法	3前①～②・後③～④	2	1	九州大学 基幹教育院 准教授 (平26.4)	5日

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	0人	0人	0人	7人	6人	1人	0人	14人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
准 教 授	博 士	0人	0人	8人	18人	4人	1人	0人	31人	法務博士 (専門職) ※博士(知 識科学)を 有する者が 保有
	修 士	0人	0人	0人	3人	2人	0人	0人	5人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	(1)人	0人	0人	0人	0人	(1)人	
講 師	博 士	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	2人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
助 教	博 士	0人	4人	8人	1人	1人	0人	0人	14人	
	修 士	0人	2人	3人	1人	0人	0人	0人	6人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
合 計	博 士	0人	4人	17人	27人	11人	2人	0人	61人	
	修 士	0人	2人	3人	4人	2人	0人	0人	11人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	(1)人	0人	0人	0人	0人	(1)人	

(注)

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。